Salesforce Spring '21 リリースノート

Salesforce, Spring '21

最新機能 (大部分は標準装備) による Salesforce ROI の最大化



'21

@salesforcedocs

最終更新日: 2021/04/16

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2020 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Spring '21 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
リリースの準備 18
機能が使用可能になる方法と状況 19
サポートされるブラウザ 68
Salesforce 全体 72
Work.com 122
サービス 122
セールス 179
収益 234
Industries 243
Analytics 348
Salesforce Einstein 434
コマース 435
Experience Cloud 449
Salesforce CMS 464
モバイル 471
Sustainability 484
カスタマイズ 486
セキュリティと ID 546
Customer 360 Truth 576
リリース 580
開発 581
Salesforce Anywhere (Quip) 714
Pardot 725
マーケティング 746
リリース更新 746
myTrailhead 750
その他の Salesforce 製品とサービス 754
コンテンツへのスポットライト 754
法的ドキュメント 756

Salesforce Spring '21 リリースノート

初回の購入にほとんどの新機能が付属していることをご存知でしたか?リリースに含まれる最新のイノベーションを探索して Salesforce からの ROI を最大化してください。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '21 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体

Salesforce 製品全体の言語が包括性を反映するように更新されました。Salesforce リリースノートが Salesforce ヘルプに移行され、ユーザ環境がより統一されました。[最近参照したデータ] リストにカスタマイズ可能なアクションが含まれます。画像をアプリケーション内ガイダンスに追加でき、ガイダンスを一時停止して後で参照できます。フローで新しいアンケートアクションを使用し、招待ルールを使用して特定のアンケート参加者を対象にします。実装に先駆けて新しい Salesforce Scheduler トライアル組織を使用し、予定時間枠のデフォルトのタイムゾーンを設定します。Government Cloud と Salesforce モバイルアプリケーションの自然言語検索で日常語を使用して検索します。

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

サービス

よりスマートになった Service Cloud をお楽しみください。新しいスコアカードで Einstein 記事レコメンデーションモデルを利用し、Einstein ボットの標準オブジェクトとカスタムオブジェクトからデータを提供します。Field Service は、2 地点間予測ルーティング、シフトの予定の照合、および派遣作業員が到着したときのアラートにより、スケジュールエクスペリエンスを合理化します。Service 設定アシスタント、Service Cloud 音声、およびナレッジの設定の機能強化と新しい生産性ツールにより、顧客に集中する時間を増やすことができます。

セールス

Salesforce Meetings は、営業チームがミーティングの準備を行い、被招集者とのエンゲージメントを実現するのに役立ちます。High Velocity Sales ユーザは、ビデオ通話で Einstein 会話インサイトを使用して、セールスケイデンスから生じる商談と収益を追跡し、データを失うことなくセールスケイデンスを廃止できます。Salesforce モバイルアプリケーションを使用して、外出先で売上予測を調整します。いつメールが一時的に配信できなくなったかを追跡し、メールテンプレートをテストして共有します。

収益

Salesforce CPQ の改善には、よりスムーズな修正および更新サービスのアップグレード、バックグラウンドの契約修正、および価格ルール設定を正確にする変更が含まれます。Salesforce Billing で、請求有効期限の上書きを使用する場合に請求書品目が作成される方法を設定し、財務情報を顧客の会計および統合業務ソフト (ERP) システムに対応付けます。ライフサイクル管理される納入商品の長期的な価値を強調することもできます。スタンドアロンの注文の有効化と商品作成のロジックが改善されました。また、Advanced Approvals ユーザは、Salesforce にログインせずに承認を管理できます。

Industries

前例のない新しい垂直型ソリューションの波があなたを待ち構えています。ロイヤルティ管理は、パーソナライズされた顧客評価プログラム、顧客報酬プログラム、顧客維持プログラムを実行するのに役立ちます。一括管理を使用すると、数百万ものレコードを処理し、追跡できます。決定テーブルでは、商品を評価して割引を計算する複数のビジネスルールを定義できます。新しいデータ処理エンジンで組織のデータを抽出し、変換して、変換したデータでレコードを作成します。Manufacturing Cloud では、販売計画と取引先販売予測の管理が容易になり、Rebate Management では、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムがサポートされます。一方、Health Cloud では、新しい API と電子健康カルテに対応する新しい FHIR に従ったサポートにより提供者の管理が容易になります。Financial Services Cloud では、ブランチのパフォーマンスを追跡し、外出中にライフイベントやビジネスマイルストーンを取得することができます。Consumer Goods Cloud では、店舗の訪問と配送がよりスマートになり、Public Sector Solutions では、カレンダーサポートが追加され、申込承認の透明性が向上します。緊急時対応管理では、更新されたフローが追加され、緊急時対応環境が改善されます。

Analytics

改善された Lightning Experience レポートビルダーでビジネス上の重要な意思決定を迅速に行ったり、再利用可能なコンポーネントでダッシュボードを作成および管理する時間を節約したり、再設計された Einstein Discovery インターフェースでインサイトをすばやく見つけたりできます。

Salesforce Einstein

Einstein レコメンデーションビルダーが正式リリースされ、作成時にデータがチェックされるようになりました。Einstein 記事レコメンデーションには、データを最大限に活用しておすすめを改善するためのスコアカードが用意されています。Einstein Discovery のストーリーインターフェースにより、より簡単にインサイトを操作できます。

コマース

新しいオムニチャネル在庫サービスを使用すると、B2C Commerce と Salesforce Order Management でリアルタイム在庫状況の機能を使用できるようになります。B2B Commerce では、Commerce データの操作と商品の管理、チェックアウトとインテグレーションの設定を容易にする機能強化が提供されます。Salesforce Order Management では、新しいフローコアアクションと B2C Commerce カスタムデータの拡張サポートが導入されます。

Experience Cloud

Spring '21 では、Community Cloud がまったく新しい名前 (Experience Cloud) で生まれ変わります。この更新の一環で、サイトを作成するために使用するツールが更新され、いくつかの用語とドキュメントが変更されました。Build Your Own (LWR) テンプレートが正式リリースされ、Salesforce CMS コンテンツのサポートが追加されています。また、いくつかの Lightning コンポーネントが機能強化されました。

Salesforce CMS

Salesforce CMS コンテンツがこれまで以上に機能強化されました。コンテンツキーを使用して一貫したコンテンツをリリースし、エクスペリエンスビルダーサイトの新しい Build Your Own (LWR) テンプレートにコンテンツを追加し、他の組織やワークスペースにコンテンツをエクスポートします。

モバイル

iOS 向けモバイルホームやモバイルでの自然言語検索などの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更され、iPad がサポートされるようになりました。

Salesforce Sustainability Cloud

データギャップの穴埋めを使用してカーボンフットプリントレコードデータの問題を解決します。個別のロック制御を使用してエネルギー使用量レコードを個別にロックまたはロック解除します。

カスタマイズ

Salesforce フローを使用して、以前のレコード値にアクセスし、自動化の時間を短縮してメンテナンス費用を削減します。Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein 予測ビルダーに対する機能強化により、自信をもって簡単におすすめと予測を作成します。Lightning アプリケーションビルダーでより柔軟性とパフォーマンスの高い Lightning ページを設定します。

セキュリティと ID

OAuth 2.0 の更新を使用して、Web セッション管理を簡略化します。[私のドメイン] をより簡単に管理し、拡張ドメインを使用して Salesforce URL を標準化します。新しいデータセットは、Event Monitoring Analytics アプリケーションで Salesforce 全体の使用状況を分析するのに役立ちます。また、セキュリティセンターを使用すれば、より実践的にセキュリティデータを表示できます。

一元化された情報源

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

リリース

Ant 移行ツールバージョン 51.0 を使用するには、Java バージョン 11 以降をインストールします。

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Salesforce Anywhere

Quip for Customer 360 の使い慣れたすべての機能が含まれるようになった、拡張された新しい Salesforce Anywhere が導入されました。Salesforce Anywhere Beta 機能の最新の更新を確認してください。

Pardot

Pardotをより迅速に設定し、ファーストパーティ追跡を使用してエンゲージメントデータストリームを維持し、メールのパーソナライズ、到達性、レポート作成に関する拡張機能を使用します。コピーアクションも改良され、簡単にメールのコンテンツやキャンペーンに関連付けられた新しいアセットタイプをコピーできるようになりました。

マーケティング

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

リリース更新

Salesforceでは、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリース更新] ノードで、Spring '21 の更新を見つけます。

myTrailhead

会社の商品名を myTrailhead の [商品] リストに追加し、ユーザが探しているコンテンツを見つけやすいようにします。アプリケーション内 Trailhead 学習を利用して、Salesforce アプリケーションから離れることなく myTrailhead モジュールを受講します。

その他の Salesforce 製品とサービス

コンテンツへのスポットライト

Trailhead モジュール、説明用の動画、新しいリソース (Industries 用のコミュニティユーザライセンス) が追加されました。

法的ドキュメント

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的ドキュメントが更新されました。

リリースノートの使用方法

Salesforceのリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「既知の問題」のサイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み
検索条件でページの左側にあるリリースノートのリストを絞り込みます。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握
Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望
IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースノートの変更
リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて
貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

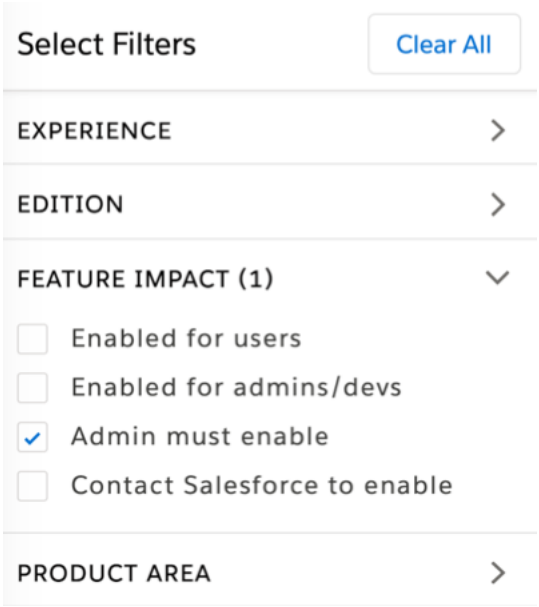
検索条件でページの左側にあるリリースノートのリストを絞り込みます。

ページの左側にある検索項目の横にある検索条件アイコン ( ) をクリックすると、検索条件が表示されます。

エクスペリエンス	Lightning Experience、Salesforce モバイルアプリケーション、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。
エディション	1 つ以上のエディションを選択してリリースノートを絞り込み、そのエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。
機能の影響	有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。たとえば、システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。

製品エリア	組織で使用する製品のリリースノートのみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを絞り込みます。

検索条件を展開すると、使用可能なすべてのオプションが表示されます。検索条件ごとに1つ以上のオプションを選択し、[適用] をクリックして検索条件を適用します。



Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、該当するリリースノートには最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- 新しい Service Cloud 機能は、*両方のデスクトップ環境*で使用可能であるため、リリースノートの [対象] セクションには「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能は、Lightning Experience でのみ使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能が Salesforce モバイルアプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
Salesforce 全体	
Add pictures to in-app guidance (アプリケーション内ガイダンスへの写真の追加)	アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加
セールス	
Insert Google Hangout or Zoom Link (Google ハングアウトまたは Zoom のリンクの挿入)	Inbox を備えた Outlook インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加
Link Campaigns Directly to Accounts (取引先へのキャンペーンの直接リンク)	キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ) (ページ 728)
Use Lightning Email Templates in Email Alerts (メールアラートでの Lightning メールテンプレートの使用)	Salesforce 自動化での Lightning メールテンプレートの使用
Ability to add Lightning Email Templates to Changes Sets and Deploy from Sandbox (Lightning メールテンプレートを変更セットに追加して Sandbox からリリースする機能)	パッケージおよび変更セットを使用した Lightning メールテンプレートの配布
サービス	
Lightning Knowledge - Favorites Should Always Pull Most Current Article Version (Lightning Knowledge - お気に入りで常に最新の記事バージョンを取り込む)	お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定
Analytics	
Notifications and Subscriptions in Embedded Dashboards (組み込みダッシュボードの通知と登録)	組み込みダッシュボードの通知と登録の有効化
Allow Compare Tables to Have More Than Four Groupings (比較テーブルに 4 個以上のグループ化を含める)	エクスプローラの最大 6 個の項目によるデータのグループ化
Ability to Pass Dashboard Filters by URL (URL でダッシュボード検索条件を渡す機能)	検索条件 URL パラメータを使用したダッシュボードの結果の保存
Lightning Report Builder Extremely Slow and Buggy (Lightning レポートビルダーのパフォーマンスが極めて低く、不具合が多い)	複数項目選択によるレポート作成の合理化
カスタマイズ	
Increase field level help text limit from 255 to 510 characters (項目レベルのヘルプテキストの制限を 255 文字から 510 文字に増加)	項目レベルのヘルプテキストの文字数の増加

IdeaExchange	実現したアイデア
セキュリティと ID	
Custom Domains for Sandbox Sites (Sandbox サイト用のカスタムドメイン)	Sandbox でのカスタムドメインのテスト (正式リリース)

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

2021 年 4 月 19 日

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)
このリリース更新は無期限で延期されました。

Summer '21 ～ 2023 年 6 月に廃止される Salesforce for Outlook
Salesforce for Outlook アクションメニュー削除の具体的な日付が追加されました。

サービスが中断された場合のアクセスの復元
Lightning Experience で Microsoft Internet Explorer 11 の延長サポートにオプトインすることによって Salesforce for Outlook サービスを復元するオプションが削除されました。このオプションは使用できなくなりました。ただし、Salesforce Classic にアクセスできるお客様は、Salesforce for Outlook ユーザに Salesforce Classic スイッチャを公開することによって、サービスを復元することが引き続き可能です。

2021 年 4 月 12 日

ワクチン対象資格パッケージを使用したワクチン情報の共有
ワクチン対象資格フォームおよび最新情報パッケージに関するリリースノートが追加されました。

2021 年 4 月 5 日

削除: Exchange Online Inbox ユーザの認証の変更
Microsoft が Exchange Online の基本認証の廃止スケジュールを 2021 年末以降に調整したため、このリリースノートは削除されました。Microsoft のドキュメントで最新情報と廃止に関する発表を確認してください。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange
Lightning Sync の概要セクションが改訂されました。Exchange Online の基本認証の廃止までのタイムラインに関する古い参照情報が削除されました。

エクスペリエンスビルダーサイトの許可される Cookie の設定の定義
この機能が Lightning サイトでのみ使用できることが明記されました。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)
このリリース更新が Apex setter の使用に影響しないことが明確にされました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
FieldServiceMobileSettings オブジェクトの新しい項目に関する情報が追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
IframeWhiteListUrl オブジェクトの `Context` 項目に関する情報が追加されました。

Einstein の自動アクションの正確な制御
予測の信頼性しきい値の拡大された範囲に関するリリースノートが追加されました。

サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトユーザへの割り当て
新しいリリースノートです。

画面フローの利用状況の分析 (更新)
レポートを使用して画面フローの利用状況総計値を調べられる新しいリリース更新が追加されました。

登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新)
Spring '22 へのリリース更新の適用日が変更されました。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)
既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。テスト実行は無効にできます。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)
既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。テスト実行は無効にできます。

強化されたドメインを使用した Salesforce URL の標準化
この機能が使用可能になる日付が 2021 年 4 月 30 日に変更されました。

B2C Commerce のカスタム配送品目データの統合
B2C Commerce の配送品目オブジェクトと Salesforce コアの OrderItem および OrderItemSummary オブジェクトに対するカスタムデータインテグレーションサポートのパッチ追加のリリースノートが追加されました。

2021 年 3 月 22 日

プロファイルの絞り込みによるログインフローへのアクセスの管理
プロファイルの絞り込みが有効になっている場合のログインフローへのアクセスの変更に関するリリースノートが追加されました。

すべてのサードパーティドメインでセキュアな HTTPS 接続が必要
Summer '21 で予定されている [すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定の適用および削除に関するリリースノートが追加されました。

ドメインでの HTTPS の有効化
[Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの HSTS] 設定の有効化に関する情報が追加されました。

お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定
記事の最新バージョンが最近公開された場合にそのバージョンをお気に入りとして表示するためには、ブラウザを更新する必要があることを説明する項目が追加されました。

ビジネスが従う COVID 安全プロトコルを表示するトラストカードの作成 (ページ 670)
LocationTrustMeasure オブジェクトに関する情報が追加されました。

スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce のより容易なインストールおよび使用
スクラッチ組織での B2B Commerce 権限セットライセンスの追加に関するリリースノートが追加されました。

削除: SLDS タッチスタイルによる Experience Cloud サイトのモバイルインターフェースの改善
このリリースノートが削除され、関連する情報が「Known Issue (既知の問題)」に追加されました。

2021 年 3 月 15 日

サブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) を使用した商品の参照、購入、管理

サブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) が導入されました。

Salesforce Edge Network との接続の強化

Salesforce Edge ネットワークへの移行を元に戻せるのは Salesforce カスタマーサポートのみであることが明記されました。また、Salesforce ヘルプの Salesforce Edge ネットワークへの関連トピックリンクが破損していたのが修復されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

`KnowledgeArticleVersion` オブジェクトと `Knowledge_kav` オブジェクトの `Language` 項目に関するクエリ情報が追加されました。

メタデータ API

ExperienceBundle 型の新しい `authenticationType` 項目に関する情報が追加されました。

2 地点間予測ルーティングを使用したよりスマートな移動時間の推定の取得

予測移動 (ベータ) は Winter '22 以降すべての Salesforce 組織で廃止される予定であり、2 地点間予測ルーティングで置き換えられるという記述が削除されました。これは、Google の計画が現時点で不明であり、一部のお客様がこれを使用しているためです。

アンケートの回答の暗号化

Shield Platform Encryption が Salesforce アンケート項目でサポートする暗号化スキームが更新されました。

B2C Commerce のカスタム出荷データの統合

B2C Commerce の出荷オブジェクトと Salesforce コアの OrderDeliveryGroup オブジェクトに対するカスタムデータインテグレーションサポートのパッチ追加のリリースノートが追加されました。

新しい総計値を使用したボットの詳細の確認

ボット総計値レポートを作成する新しい AppExchange パッケージへのリンクが追加されました。

失敗したフローのより容易なデバッグ

失敗したフローインタビューのバッチの保存方法が修正されました。以前は、失敗したフローインタビューのバッチでは、最大 100 件の失敗したフローインタビューが保存されていました。今回のリリースでは、バッチから 1 件の失敗したフローインタビューが保存されるようになりました。

2021 年 3 月 8 日

修正見積および更新見積での関連するサブスクリプション商品のみの表示

CPQ の大規模な修正および更新サービスを使用する場合、Spring '21 で作成された修正見積や更新見積には、エンタイトルメント関連のすべての納入商品ではなく、価格計算に算入された納入商品のみが記載されることを説明するリリースノートが追加されました。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

この更新は再び延期され、Spring '22 で適用されます。セキュリティのベストプラクティスとフローのデフォルトのユーザアクセス権が明記されました。

Einstein OCR を使用した一般的なフォームのテキストの検出

標準フォームに対する Einstein OCR のサポートに関する情報が追加されました。

すべてのユーザのための Tableau CRM

Tableau CRM for iOS および Android のバージョン 12.1 に関する情報が追加されました。

Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドの廃止
コンポーネントライブラリのプレイグラウンドの削除に関する注記が追加されました。

一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定変更
Microsoft が先日、Exchange Online の一部のお客様を対象に基本認証の廃止スケジュールを調整しました。廃止の準備をする際は、Lightning Sync のリリースノートと、このスケジュールに関する Microsoft のお知らせについて言及する廃止記事の最新情報を確認してください。

Financial Services Cloud の新しいメタデータ型
『*Financial Services Cloud 開発者ガイド*』に ParticipantRole メタデータ型が追加されたことを伝える注記が追加されました。

音声の弾力性と緩和された音声プラットフォームの制限によるコンタクトセンターの拡張
テレフォニープロバイダの制限によって音声の拡張に影響が及ぶ可能性があることを明確化する注記が追加されました。

2021 年 3 月 1 日

入力のおすすめとインテントセットの入力のおすすめの複数言語のサポートによるインテントモデルの拡張 (ベータ)
サポートされる言語が更新されました。

匿名ブロックでの指定ログイン情報のコールアウトには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要
匿名 Apex で指定ログイン情報コールアウトを使用する場合の新しいユーザ権限要件に関する情報が追加されました。

セールスケイデンスパフォーマンスに関する詳細の取得
[対象の配置] 項目を示すスクリーンショットが更新されました。

[メールを送信] アクションに関する以前の問題の検出
Flow Builder での [メールを送信] アクションのエラー処理の改善に関するリリースノートが追加されました。

Consumer Goods Cloud のその他の変更
項目履歴管理の追跡および数式項目に関する情報が更新されました。また、適切な関連トピックのリンクが追加されました。

2021 年 2 月 22 日

アンケートの回答の暗号化
アンケートの回答に対する Platform Shield Encryption のサポートに関するリリースノートが追加されました。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)
プロセスビルダーで構築されたプロセスへの影響、更新に向けた組織の準備手順、フローやプロセスの失敗の原因となるエラーを修正する更新の適用方法に関する情報が追加されました。

非外部ハイパーリンクのより予測可能な対象の動作
ハイパーリンクの対象の動作の変更に関する情報が追加されました。

会話のセキュリティの維持: ボットの HIPAA および SOC2 準拠
準拠するチャネルに関する情報が更新されました。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能
iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの 230.000 リリースが 2021 年 3 月まで延期されました。

Lightning Web コンポーネントの UI の変更
編集の強調表示動作が Financial Services Cloud または Health Cloud には適用されないことを明確化する注記が追加されました。

削除: データセットソースが含まれるレシピの実行時間の短縮
Spring '21 リリースから「データセットソースが含まれるレシピの実行時間の短縮」機能強化が削除されたため、このタイトルのリリースノートが削除されました。

フローでのオムニチャネル在庫機能の使用

呼び出し可能なアクション

メタデータ API
オムニチャネル在庫フローのコアアクションに関する情報が追加されました。

フローでの新しい Order Management (注文管理) ルーティング機能の使用

呼び出し可能なアクション

メタデータ API
Salesforce Order Management フローの新しいコアアクションに関する情報が追加されました。

2021 年 2 月 15 日

リード/取引先責任者 ID の表示ラベルの変更
新しいリリースノートが追加され、項目の表示ラベルの変更が明記されました。

Lightning Web コンポーネントの UI の変更
組織でこの変更を確認できるタイミングが明記されました。

Tableau CRM for iOS の最新バージョンの取得
Tableau CRM for iOS のバージョン 12.0 に関する情報が追加されました。

契約の修正および更新に関する権限セット要件の追加
ユーザが契約を修正または更新するには、指定された権限が必要になりました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
「コマース」セクションに AsyncOperationLog オブジェクトに関する情報が追加されました。

Einstein ボットの他の改善
新しいリリースノートでチャットおよびメッセージングチャネルでの転送の動作が明記されました。

FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行
レポートの今後のサポートに関する新しいリリースノートが追加されました。

AppExchange 支払情報の迅速な更新
[セキュリティレビュー] タブに [支払を更新] ボタンが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
従業員オブジェクトの新しい従業員写真 URL 項目に関する情報が追加されました。

Sandbox でのカスタムドメインのテスト (正式リリース)
この機能を現在使用できない組織が明記されました。

2021 年 2 月 8 日

Consumer Goods Cloud の新しいオブジェクト

RetailVisitKPI オブジェクトの新しい項目名が SourceRecord から ContextId に変更されました。

Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更

サポートされているデバイスのリストから iPhone 6 が削除されました。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

モバイル用リアルタイムイベントモニタリングオブジェクトから削除される `Username` 項目に関する情報が追加されました。

ボット言語の更新によるグローバル化の加速

ベータでサポートされる言語からデンマーク語、韓国語、スウェーデン語が削除されました。

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新の適用は Summer '21 から Winter '22 に延期されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

AIApplication、AIApplicationConfig、MLField、および MLPredictionDefinition オブジェクトに関する情報が追加されました。

会話のセキュリティの維持: ボットの HIPAA および SOC2 準拠

ボットの HIPAA および SOC2 準拠に関する情報が追加されました。

新規および変更された Connect REST API リソース

従業員プロファイルリソースに関する情報が追加されました。

新規および変更された Connect in Apex クラス

従業員プロファイルクラスに関する情報が追加されました。

Consumer Goods Cloud のその他の変更

ConsumerGoods オブジェクトのアクセス管理に関する情報と、関連する関連トピックのリンクが追加されました。

セルフサービス権限セットの変更

ゲストユーザのオブジェクト権限の削除に関するリリースノートが追加されました。これにより、ゲストユーザは Field Service Self Service 権限セットから削除される可能性があります。

削除: [最近参照したデータ] リスト

Spring '21 リリースから機能が一時的に削除されたため、「カスタマイズ可能なアクションによる [最近参照したデータ] リストの強化」というタイトルのリリースノートが削除されました。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

iOS 用 Salesforce モバイルアプリケーションのバージョン 230.000 のリリース日が更新されました。詳細は、「iOS 用 Salesforce アプリケーションバージョン 230.000 の遅延」を参照してください。

2021 年 2 月 1 日

コンテンツへのスポットライト

最新のコンテンツの改善に関する情報が追加されました。

顧客へのサービス作業のエンタイトルメントの提供
エンタイトルメントへの [エンタイトルメントあたりの作業指示] および [残りの作業指示] 項目の追加に関する情報が追加されました。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)
このリリース更新の適用は Summer '21 に延期されました。

新規および変更された Connect REST API リソース
会話の一括アップロードに関する情報が追加されました。

メンテナンスの高度な繰り返しを使用した事前計画
機能が利用可能になるタイミングに関する情報が追加され、設定要件が明確になり、例が追加され、例が明確になりました。

SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示
SOAP API 内で名および姓項目を非表示にする新しい設定に関するリリースノートが追加されました。

Data Processing Engine
Sonic の名前がデータパイプラインに変更されました。

非同期での標準プラットフォームイベントの公開
標準プラットフォームイベントの公開動作の変更に関するリリースノートが追加されました。

Lightning Web コンポーネントの UI の変更
数式項目の編集メッセージに関する情報が追加されました。

Einstein 会話インサイトになった Einstein コールコーチング
Einstein コールコーチングの名前変更に関するリリースノートが追加されました。

コマース: Salesforce Order Management
Spring '21 リリースから機能が削除されたため、「履行注文の手動作成」というタイトルのリリースノートが削除されました。

メール通知のデフォルトの No-Reply アドレスのカスタマイズ (ページ 176)
shortdesc で詳細が明記され、使用可能なエディションに Aloha が追加されました。

FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上
パッケージ化された EHR データモデルによる今後の顧客のサポートに関する情報が更新されました。

2021 年 1 月 30 日

プロバイダ API の作成 (ページ 296)
変更の範囲が明記されました。

2021 年 1 月 25 日

メタデータ API
FieldServiceSettings メタデータ型の新しい項目に関する情報が追加されました。

EventLogFile での Lightning コンポーネント要求に関する情報の取得
新しい Aura 要求イベント種別に関する情報が追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

FieldServiceMobileSettings オブジェクトの新しい `IsTimeZoneEnabled` 項目に関する情報が追加されました。

Apple のプライバシーポリシーの変更への準備

[Allow Cross-Website Tracking (サイト越えトラッキングを許可)] 設定は、iOS 14+ を使用するデバイスでのみ使用可能であることが明記されました。

Consumer Goods Cloud

関連トピックのリンクが追加されました。

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

ロイヤルティ管理の新しい変更イベントオブジェクトに関する情報が追加されました。

ロイヤルティ管理

ロイヤルティコンソールがロイヤルティ管理に変更されました。

省略可能な [顧客資産] 項目の柔軟な使用

保険契約資産オブジェクトの [顧客資産] 項目が省略可能になったことを示すメモが追加されました。

メタデータ API

新しいメタデータ型 (AIApplication、AIApplicationConfig、MLDataDefinition、MLPredictionDefinition) に関する情報が追加されました。

ミーティングのダイジェストを使用した生産性の高い会話の準備

この機能はすべてのインスタンスが Spring '21 リリースにアップグレードされた後にすぐに使用できることが明記されました。Sandbox での可用性に関する情報が追加されました。

Meeting Studio を使用したバーチャル行動の強化

この機能はすべてのインスタンスが Spring '21 リリースにアップグレードされた後にすぐに使用できることが明記されました。Sandbox での可用性に関する情報が追加されました。

注文の作成に関する新しい権限

注文の作成に必要な新しい権限に関する情報が追加されました。

最新のテレフォニーインテグレーション API への更新

Service Cloud Voice REST API の変更に関する情報と、古い API が無効化されるタイミングに関する詳細が追加されました。

2021 年 1 月 18 日

新規 Connect in Apex 入力クラス

`allOrNothingTransferId` プロパティに関する情報が `OCITransferReservationInputRepresentation` クラスに追加されました。

新規および変更された Connect REST API リクエストボディ

`allOrNothingTransferId` プロパティに関する情報が OCI Transfer Reservation Input リクエストボディに追加されました。

Pardot オブジェクトの同期でのカスタム項目の同期 (ベータ)

項目レベルの変更の概要を説明するテーブルが「プロスペクトとアクティビティデータセット」に追加されました。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)

Where ステートメントが明記されました。

ライフサイクル管理される各納入商品の長期的な価値の理解

項目を使用できる場所に関する情報が修正されました。Salesforce Billing が付属する Lightning Experience でのみ使用できます。

デフォルトでの Lightning アプリケーションの表示

この機能はまだ公開する準備が整っていません。使用可能になったらお知らせいたします。

Salesforce モバイルアプリケーションでの日常語を使用したレコードの検索 (ベータ)

この機能はまだ公開する準備が整っていません。使用可能になったらお知らせいたします。

モバイルでの自然言語検索を使用したレコードの絞り込み (ベータ)

この機能はまだ公開する準備が整っていません。使用可能になったらお知らせいたします。

払い戻しでの営業チームとパートナーのコラボレーションの強化

製造業 Experience Cloud サイトのホームページのスクリーンショットが更新されました。

保存前の潜在的な重複の把握

重複ルールと一致ルールの設定に関する情報が追加されました。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

このリリース更新の適用は Spring '22 に延期されました。

商品キャンペーンの管理

商品サービスキャンペーンの [商品サービスキャンペーン項目] 関連リストの設定に関する情報が追加されました。

テンプレートのデバッグ

Tableau CRM テンプレートのデバッグログの使用に関する情報が追加されました。

FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上

新規データモデルのオブジェクト数が明記され、新規オブジェクトの数が指定されました。

メール-to-ケース更新の適用を Winter '22 リリースまで延長

このリリース更新の適用は Winter '22 に延期されました。

学習センターの変更に関する注意事項

Tableau CRM 学習センターの視覚的な変更が明記されました。

強化されたドメインを使用した Salesforce URL の標準化

この機能は Spring '21 でローリング方式でリリースされ、2021 年 3 月 31 日までにすべてのユーザが利用できることが明記されました。

財務トランザクション用の新しい ERP 対応付け項目の使用

財務残高スナップショットの新しい Billing 項目に関する情報が追加されました。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

InsurancePolicy オブジェクトで TotalInsuredAmount の項目名が TotalSumInsured に修正されました。

2021 年 1 月 12 日

ロイヤルティ管理

ロイヤルティ管理のリリースノートが追加されました。

2021 年 1 月 11 日

お客様のご要望
当社が配信したアイデアが追加されました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
新しく検索可能になった、Manufacturing Cloud のオブジェクトが追加されました。

Tableau CRM for iOS のテーブルの有効活用
より効率的になった、Tableau CRM for iOS の比較テーブルに関する情報が追加されました。

使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー
使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの使用量サマリーを作成する Salesforce Billing に関する情報が追加されました。

FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上
新規および今後の顧客のサポートに関する情報が更新されました。

パッケージ化された EHR オブジェクトのリストへのリンクが追加されました。

新規顧客の設定ページの可用性に関する情報が削除されました。

削除: 安全かつ簡単なメールアドレスの変更とパスワードのリセット
この変更は Spring '21 リリースから削除されたため、このリリースノートは削除されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
FlowInterview オブジェクトの新しい `InterviewStatus` 項目に関するリリースノートが追加されました。

2021 年 1 月 4 日

インテリジェントフォームリーダー
インテリジェントフォームリーダーの言語サポートに関するメモが追加されました。

メタデータ API
InventorySettings 型の説明が追加されました。

古いチャネルを介して送信されたメッセージの停止
この変更の適用場所に関する情報が追加されました。

Lightning Web コンポーネントの UI の変更
レコード編集時の権限エラーを伴う UI の変更に関する段落が削除されました。代わりにこの変更は既知の問題としてリストされています。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Order Management (注文管理) およびオムニチャネル在庫の新しい ConnectApi クラスに関する情報が追加されました。

Connect REST API
注文管理およびオムニチャネル在庫の新しい Connect REST API リソースに関する情報が追加されました。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント
新しく使用可能になった変更セットコンポーネント (プラットフォームイベント登録者設定) が追加されました。

保険契約コンポーネントへのその他の変更
「理由」セクションの最初の項目の説明で「ハードコード化された表示ラベル」が「静的表示ラベル」に置き換えられました。

2020 年 12 月 18 日

Salesforce Spring '21 リリースノート
公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **Trailblazer Community** — Release Readiness Trailblazers グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ (#Winter20Feedback など) を使用してください。
- フィードバックフォーム: Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックボタンと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの新機能

- リリース概要デッキ (ROD)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- リリースマトリックス。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- Spring '21 プレリリースのサインアップ。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- Spring '21 リリース Web サイト。新しい機能を確認します。
- 「Spring '21 リリースの特長」モジュール。Spring '21 Trailhead バッジを取得します。
- Release in a Box。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- リリースのマイルストン。リリースの重要な日付を確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。
- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- カスタマーサクセスのイベントカレンダー。リリースの概要の Web セミナーに登録したり、Web セミナーの録画にアクセスしたりします。
- Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。
- Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)。メールに登録してリリースの準備を整えます。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '21 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience での Internet Explorer 11 のサポートの終了	✅			
Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Tableau CRM でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

Salesforce 製品全体の言語が包括性を反映するように更新されました。Salesforce リリースノートが Salesforce ヘルプに移行され、ユーザ環境がより統一されました。[最近参照したデータ] リストにカスタマイズ可能なアクションが含まれます。画像をアプリケーション内ガイダンスに追加でき、ガイダンスを一時停止して後で参照できます。フローで新しいアンケートアクションを使用し、招待ルールを使用して特定のアンケート参加者を対象にします。実装に先駆けて新しい Salesforce Scheduler トライアル組織を使用し、予定時間枠のデフォルトのタイムゾーンを設定します。Government Cloud と Salesforce モバイルアプリケーションの自然言語検索で日常語を使用して検索します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
全般的な機能強化				
従来の言語を包括的な用語で置き換え		✅		
Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得			✅	
サブスクリプション管理アプリケーション(ベータ)を使用した商品の参照、購入、管理			✅	
Chrome での安全ではないダウンロードからユーザを保護			✅	
リッチテキストエディタのアップグレード			✅	
レコード所有者の変更時にポータルユーザをすばやく見つける	✅			
保存前の潜在的な重複の把握	✅			
Lightning Web コンポーネントの UI の変更	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
タブ中心のダイアログを使い続ける方法(以前にリリース済みの更新)			✅	
ユーザエンゲージメント				
アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加		✅		
アプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示	✅			
フロート表示プロンプトのより多くの位置の選択		✅		
新規作成ページ、編集ページ、およびコピーページを超えるウォークスルーステップの追加		✅		
共有可能なURLを使用した有効なアプリケーション内ガイダンスへのアクセス		✅		
ドッキングプロンプトでのより詳細なリッチテキスト編集		✅		
iPadでのフロート表示プロンプトの移動	✅			
Salesforce アプリケーション内コンテンツについて		✅		
アプリケーション内への Trailhead 学習環境の取り込み (ベータ)			✅	
Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得		✅		
Salesforce アンケート				
フローで定義された新しいアクションによるアンケートのスケジュールなど	✅			
ルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
顧客ライフサイクルマップでのルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定	✅			
別名を使用したアンケートの送信	✅			
Web ページへのアンケートの埋め込み	✅			
参加者からのショートテキストの回答の入力規則	✅			
参加者へのアンケート完了状況の表示	✅			
アンケートの回答の暗号化	✅			
エンゲージメントチャネルのパフォーマンスの監視およびカスタマーエクスペリエンスの改善	✅			
Salesforce Scheduler				
時間枠のタイムゾーンのプリセット			✅	
予定の確認ページのタイムゾーンの設定			✅	
タイムゾーンを越えて予定をスケジュールする			✅	
リソース ID 別にサービスリソースの絞り込み			✅	
前のページの変更			✅	
Salesforce Scheduler フローの埋め込み			✅	
API を介した予定の変更			✅	
API の更新で迅速化された予定のスケジュール			✅	
その他の改善点			✅	
検索				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に		✅		

サービス

よりスマートになった Service Cloud をお楽しみください。新しいスコアカードで Einstein 記事レコメンデーションモデルを利用し、Einstein ボットの標準オブジェクトとカスタムオブジェクトからデータを提供します。Field Service は、2 地点間予測ルーティング、シフトの予定の照合、および派遣作業員が到着したときのアラートにより、スケジュールエクスペリエンスを合理化します。Service 設定アシスタント、Service Cloud 音声、およびナレッジの設定の機能強化と新しい生産性ツールにより、顧客に集中する時間を増やすことができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein for Service				
Einstein ボット				
エラーハンドラシステムダイアログを使用した顧客との信頼関係の構築	✅			
入力のおすすめとインテントセットの入力のおすすめの複数言語のサポートによるインテントモデルの拡張 (ベータ)	✅			
記事回答を使用した迅速な回答の検索 (パイロット)	✅			
インテントデータの追加によるテンプレートボットの機能強化 (ベータ)	✅			
オブジェクト検索を使用したレコードからの情報の提供 (ベータ)	✅			
ダイアログのコピーを使用した迅速なボットの作成	✅			
ボットトレーニングからインテントセットへの発言のプロモーション	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より少ない発言でのインテントモデルの作成	✅			
ボット言語の更新によるグローバル化の加速	✅			
新しい総計値を使用したボットの詳細の確認	✅			
Einstein ボット向けの Shield Platform Encryption によるセキュリティの向上	✅			
ボットのオプションメニューの動作変更	✅			
会話のセキュリティの維持: ボットの HIPAA および SOC2 準拠	✅			
Einstein ボットの他の改善	✅			
Einstein 記事レコメンデーション				
モデルスコアカードからのインサイトを使用した精度の改善		✅		
7 個の言語での Einstein 記事レコメンデーションの提供 (正式リリース)	✅			
Einstein ケース分類				
Einstein の自動アクションの正確な制御		✅		
Einstein 返信レコメンデーション				
16 言語のいずれかでのチャットエージェントの応答を有効化 (パイロット)				✅
より少ないトランスクリプトから開始して返信を増やす		✅		
Einstein 音声通話ラップアップ				
Einstein 音声ラップアップを使用した通話の容易な完了 (パイロット)				✅
フィールドサービス				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
定義済みのシフトパターンを使用した迅速なシフトの作成		✅		
条件を満たす予定のシフトの指定		✅		
Experience Cloud サイトへのシフト管理の追加		✅		
商品キャンペーンの管理	✅			
顧客へのサービス作業のエンタイトルメントの提供	✅			
顧客の納入商品またはそのサービスを提供した担当者の表示	✅			
消費した商品の価格設定の詳細の表示	✅			
メンテナンスの高度な繰り返しを使用した事前計画	✅			
メンテナンス計画に関する詳細の記録	✅			
契約品目の詳細の取得	✅			
ProductConsumed および ProductRequired に追加された PK Chunking サポート	✅			
セルフサービス権限セットの変更			✅	
Field Service Scheduling				
条件を満たすシフト中に予定をスケジュール		✅		
2地点間予測ルーティングを使用したよりスマートな移動時間の推定の取得		✅		
改善された最適化インサイト (正式リリース) を使用した結果の表示		✅		
Field Service Mobile アプリケーション				
ブリーフケースビルダー (ベータ)			✅	
作業員の到着時間を顧客に通知	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
外出中にサービス予定の状況を更新			✅	
Service 設定アシスタント	✅			
チャネル				
音声				
コンタクトセンターの迅速な稼働開始			✅	
予約された折り返し電話による顧客の時間の節約と不満の解消			✅	
Service Cloud 音声と High Velocity Sales の統合			✅	
通話記録でのコラボレーションによるカスタマーサービスの改善	✅			
エージェントに会話後作業の時間を提供 (パイロット)				✅
音声の弾力性と緩和された音声プラットフォームの制限によるコンタクトセンターの拡張	✅			
コンタクトセンターの更新が利用可能になった場合に表示			✅	
鍵のペアの有効期限の表示			✅	
新しい Service Cloud 音声ドキュメントの導入	✅			
最新のテレフォニーインテグレーション API への更新			✅	
Lambda 関数のウォームアップ、音声でのより多くの言語でのリアルタイムの文字起こし		✅		
Messaging				
より多くのメタデータでメッセージテンプレートを強化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
古いチャネルを介して送信されたメッセージの停止			✅	
IsOptedOut の廃止			✅	
ナレッジ				
Service 設定アシスタントを使用したナレッジの設定			✅	
お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定			✅	
メールに記事を挿入するときに添付ファイルを保持			✅	
Lightning Knowledge の画像への代替テキストの追加			✅	
ルーティング				
エージェントに会話を完了する時間を与える (パイロット)				✅
ケース管理				
メール通知のデフォルトの No-Reply アドレスのカスタマイズ			✅	
相互関係レイアウトの割り当てのプロファイルの絞り込みを使用した詮索好きな目からのプロファイルの保護			✅	
エンタイトルメントとの統合による組織の強化			✅	
マクロビルダーでのタブ切り替えを使用したワークフローの機能強化	✅			
メール-to-ケース更新の適用を Winter '22 リリースまで延長		✅		
BCC を Salesforce Experience ユーザに非表示			✅	
その他の変更				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
CTI でのユーザプロファイル情報の覗き見防止	✅			
修正見積および更新見積での関連するサブスクリプション商品のみの表示	✅			

セールス

Salesforce Meetings は、営業チームがミーティングの準備を行い、被招集者とのエンゲージメントを実現するのに役立ちます。High Velocity Sales ユーザは、ビデオ通話で Einstein 会話インサイトを使用して、セールスケイデンスから生じる商談と収益を追跡し、データを失うことなくセールスケイデンスを廃止できます。Salesforce モバイルアプリケーションを使用して、外出先で売上予測を調整します。いつメールが一時的に配信できなくなったかを追跡し、メールテンプレートをテストして共有します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Meetings				
ミーティングのダイジェストを使用した生産性の高い会話の準備			✅	
Meeting Studio を使用したバーチャル行動の強化			✅	
High Velocity Sales				
Einstein 会話インサイト				
Einstein 会話インサイトになった Einstein コールコーチング	✅			
ビデオ通話での会話インサイトの使用			✅	
通話コレクションの作成と共有	✅			
会話インサイトグダッシュボードでのビデオ通話データへのアクセス	✅			
セールスケイデンスを使用した商談の促進と対象エンゲージメントの追跡			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
データを失うことなくセールスケイデンスを廃止			✅	
対象割り当て先を変更できるユーザの指定			✅	
セールスケイデンスパフォーマンスに関する詳細の取得			✅	
Sales Cloud Einstein				
少ないデータで Einstein 商談スコアリングを有効化		✅		
Einstein リードスコアリングリングに除外項目ではなく含まれる項目を保存			✅	
中核的なセールス機能				
コラボレーション売上予測				
外出先での売上予測の調整	✅			
商談				
商談商品の機能強化		✅		
リード				
API を使用してリードを個人取引先と法人取引先に同時に変換			✅	
キャンペーン				
キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)			✅	
リード/取引先責任者 ID の表示ラベルの変更				
注文				
2GP およびロック解除済みパッケージでの注文の保存方式の設定	✅			
中核的なセールス機能のその他の変更				
元のテリトリー管理の廃止		✅		
生産性機能				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メール操作環境				
ソフトバウンスメール処理を使用したメールの確実な配信	✅			
設定変更履歴でのより多くの変更の監視			✅	
スレッドメールでの「後で送信」の使用	✅			
「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加			✅	
メールテンプレート				
パッケージおよび変更セットを使用した Lightning メールテンプレートの配布		✅		
Salesforce 自動化での Lightning メールテンプレートの使用		✅		
メールテンプレートビルダーでのコンポーネント複製による時間の節約	✅			
メール管理の最適化	✅			
Einstein 活動キャプチャ				
Einstein 活動キャプチャ設定へのプロファイルの追加		✅		
取引先責任者および行動の同期での項目の対応付けのカスタマイズ		✅		
内部行動の同期				✅
Salesforce Inbox				
Salesforce Inbox モバイル	✅			
カレンダー				
API からの共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーの作成		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Dialer				
Lightning Dialer から Sales Dialer への名称変更	✅			
Google とのインテグレーション				
Gmail™ インテグレーション				
従来のバージョンの Gmail 用 Inbox Chrome 拡張機能を 2021 年 3 月 31 日に廃止			✅	
Gmail インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化			✅	
Gmail インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング			✅	
Inbox を備えた Gmail インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加			✅	
Inbox を備えた Gmail インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示			✅	
Lightning Sync for Google				
Google アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認			✅	
Microsoft® とのインテグレーション				
Outlook® インテグレーション				
古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了			✅	
従来のバージョンの Inbox Outlook アドインを 2021 年 3 月 31 日に廃止			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Outlook インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化			✅	
Outlook インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング			✅	
Inbox を備えた Outlook インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加			✅	
Inbox を備えた Outlook インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示			✅	
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				
Microsoft アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認			✅	
一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定変更			✅	
Salesforce for Outlook				
Summer '21 ～ 2023 年 6 月に廃止される Salesforce for Outlook			✅	
サービスが中断された場合のアクセスの復元			✅	
バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索			✅	

収益

Salesforce CPQ の改善には、よりスムーズな修正および更新サービスのアップグレード、バックグラウンドの契約修正、および価格ルール設定を正確にする変更が含まれます。Salesforce Billing で、請求有効期限の上書きを使用する場合に請求書品目が作成される方法を設定し、財務情報を顧客の会計および統合業務ソフト (ERP) システムに対応付けます。ライフサイクル管理される納入商品の長期的な価値を強調することもできます。スタンドアロンの注文の有効化と商品作成のロジックが改善されました。また、Advanced Approvals ユーザは、Salesforce にログインせずに承認を管理できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
		Salesforce CPQ		
大規模な修正および更新サービスへのスムーズな切り替え		✅		
契約の修正中に作業を続行			✅	
価格ルールページレイアウトに追加されたコンフィグレータ評価イベント項目			✅	
大量の注文を短時間で契約	✅			
注文の作成に関する新しい権限	✅			
契約の修正および更新に関する権限セット要件の追加			✅	
		Salesforce Billing		
請求有効期限の上書きの使用時の部分期間の作成	✅			
財務トランザクション用の新しい ERP 対応付け項目の使用	✅			
ライフサイクル管理される各納入商品の長期的な価値の理解			✅	
スタンドアロンの注文の有効化のロジックの更新	✅			
スタンドアロンの注文商品の作成ロジックの更新	✅			
使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー	✅			
Advanced Approvals	✅			

Industries

前例のない新しい垂直型ソリューションの波があなたを待ち構えています。ロイヤルティ管理は、パーソナライズされた顧客評価プログラム、顧客報酬プログラム、顧客維持プログラムを実行するのに役立ちます。一括管理を使用すると、数百万ものレコードを処理し、追跡できます。決定テーブルでは、商品を評価して割引を計算する複数のビジネスルールを定義できます。新しいデータ処理エンジンで組織のデータを抽出し、変換して、変換したデータでレコードを作成します。Manufacturing Cloud では、販売計画と取引先販売予測の管理が容易になり、Rebate Management では、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムがサポー

トされます。一方、Health Cloud では、新しい API と電子健康カルテに対応する新しい FHIR に従ったサポートにより提供者の管理が容易になります。Financial Services Cloud では、ブランチのパフォーマンスを追跡し、外出中にライフイベントやビジネスマイルストーンを取得することができます。Consumer Goods Cloud では、店舗の訪問と配送がよりスマートになり、Public Sector Solutions では、カレンダーサポートが追加され、申込承認の透明性が向上します。緊急時対応管理では、更新されたフローが追加され、緊急時対応環境が改善されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ロイヤルティ管理				
ロイヤルティプログラムを使用した独自のロイヤルティエクスペリエンスの構築			✅	
プロモーションによるビジネス目標の促進			✅	
ロイヤルティプログラムパートナーを使用したメンバーのエンゲージメントの向上			✅	
経験に基づくバウチャーを使用したメンバーへの報奨の付与	✅			
ロイヤルティの利点を使用した顧客満足度の向上	✅			
ロイヤルティメンバーポータルを使用したメンバーによる活動の追跡			✅	
Analytics for Loyalty				
顧客ロイヤルティを分析してビジネスを成長させる	✅			
Einstein Discovery for Loyalty でメンバーエンゲージメントの向上	✅			
ロイヤルティ管理の新しいオブジェクト		✅		
ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型		✅		
Apex: 新しい項目				
Connect REST API		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ロイヤルティ管理の新しい呼び出し可能なアクション		✅		
一括管理				
大量のレコードを処理するためのジョブの定義		✅		
ジョブのスケジュール		✅		
一括処理ジョブの監視		✅		
一括管理ジョブの共有		✅		
一括管理の新しいオブジェクト		✅		
一括管理の新しい Tooling API オブジェクト		✅		
一括管理の新しいプラットフォームイベント		✅		
一括管理の新しい呼び出し可能なアクション		✅		
一括管理の新しいメタデータ型		✅		
[ワークフローサービスを監視]の新しいオブジェクト		✅		
決定テーブル				
ビジネスルールの定義		✅		
ルールの指定と残りの自動化		✅		
複数の取得元からのレコードの結果の決定		✅		
フローからの決定テーブルの呼び出し		✅		
いつでも可能なビジネスルールの更新		✅		
決定テーブルの共有		✅		
ビジネスルールの安全性の確保		✅		
決定テーブルの新しいオブジェクト		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Apex: 新しい項目				
Connect REST API		✅		
決定テーブルの新しい呼び出し可能なアクション		✅		
決定テーブルの新しいメタデータ型		✅		
Data Processing Engine				
数回のクリックでのデータの変換		✅		
データ変換中の独自の入力の提供		✅		
条件に従った Data Processing Engine の実行		✅		
Data Processing Engine の実行の追跡		✅		
Salesforce Shield の暗号化された項目への結果の書き込み		✅		
テンプレート Data Processing Engine 定義を使用した時間の節約		✅		
他の組織との Data Processing Engine 定義の共有		✅		
Data Processing Engine の使用状況の追跡		✅		
Data Processing Engine の新しいオブジェクト		✅		
Data Processing Engine の新しい Tooling API オブジェクト		✅		
Data Processing Engine の新しい呼び出し可能なアクション		✅		
Data Processing Engine の新しいメタデータ型		✅		
Data Processing Engine の新しいプラットフォームイベント		✅		
[ワークフローサービスを監視]の新しいオブジェクト		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Manufacturing Cloud				
組立製造業向け Customer 360 ガイドの紹介				
Salesforce ソリューションキットを使用したクロスクラウドソリューションの解決			✅	
見積と商談の販売計画への変換			✅	
取引先販売予測での商談スケジュールの考慮			✅	
販売計画リストの整理			✅	
Manufacturing Cloud の新規メタデータ型		✅		
Connect REST API		✅		
払い戻し管理				
払い戻し金額を容易に計算するためのリベートプログラムの定義			✅	
拡張払い戻し処理による新しいインサイトの取得			✅	
払い戻しでの営業チームとパートナーのコラボレーションの強化			✅	
リベートプログラムの分析および Rebate Analytics によるビジネスの促進	✅			
Health Cloud				
プロバイダ API の作成			✅	
相互運用性				
FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上			✅	
FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行			✅	
インテリジェントなドキュメントの自動化				
アクションプランの自動作成			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
変換されたページの参照			✅	
インテリジェントフォームリーダー				
受け取り済みドキュメントの不明確な項目値の解決			✅	
インテリジェントなセールス				
Salesforce カレンダーでの訪問の追跡			✅	
Analytics for Healthcare アプリケーションでの取引先種別の選択				
ワクチン対象資格パッケージを使用したワクチン情報の共有			✅	
Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト		✅		
Financial Services Cloud				
ブランチ管理				
ブランチデータモデルを使用したブランチ階層とメンバーの把握			✅	
ブランチ管理コンソールでのブランチとメンバーの定義			✅	
ブランチセレクタを使用したブランチコンテキストの設定			✅	
自動ブランチ関連付け(ベータ)を使用した取引先とリードの作成の追跡			✅	
Analytics for Retail Banking アプリケーションでのブランチ操作の改善			✅	
Financial Services Cloud の保険				
外出中でのイベントおよびマイルストンの取得			✅	
保険契約オブジェクトおよび請求オブジェクトの PK Chunking			✅	
保険契約コンポーネントの機能強化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Analytics for Insurance				
Actionable Relationship Center (ARC)				
ARC でのレコード参加者の表示			✅	
ARC の関連リストの変更			✅	
インタラクション概要				
インタラクション概要の取得および共有			✅	
準拠データ共有				
参加者グループとのレコードの共有			✅	
所有者以外によるレコードの共有の許可			✅	
法規制に準拠する方法でのインタラクション概要の共有			✅	
インテリジェントフォームリーダー				
対応付けを使用した財務データキャプチャの自動化			✅	
アップロードされたドキュメントからの情報の抽出			✅	
Financial Services Cloud の積み上げ集計				
Data Processing Engine を使用したルックアップによる積み上げ集計			✅	
レコードの積み上げ集計の最適化 (正式リリース)	✅			
最適化されたレコード積み上げ集計トリガの使用	✅			
Financial Services Cloud のその他の変更				
ライフイベントインサイトを使用したクライアントエンゲージメントの促進				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より多くの Financial Services Cloud モバイル用 Lightning コンポーネントを使用して高い生産性を維持	✅			
省略可能な [顧客資産] 項目の柔軟な使用			✅	
新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目		✅		
Financial Services Cloud の新しいメタデータ型		✅		
Consumer Goods Cloud				
Einstein for Consumer Goods の機能強化				
Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用した訪問の適切な ToDo の計画			✅	
予測を使用した訪問レコメンデーションの取得			✅	
Lightning Retail Execution Starter ライセンスによる Einstein for Consumer Goods の使用			✅	
制御された車両ユーザ割り当てを使用した店舗配送の計画の強化			✅	
小売店ページでの訪問および注文の詳細へのアクセス			✅	
訪問の実行の機能強化				
その場で ToDo を作成することによる店舗に対するサービス向上	✅			
ToDo と KPI の順序付けによる TdDo 実行の合理化	✅			
ToDo の割り当てによる情報の整理	✅			
Analytics for Consumer Goods				
Analytics for Consumer Goods を使用した店舗価格コンプライアンスの監視	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Discovery での店舗パフォーマンスの分析と売上の増加	✅			
Consumer Goods Cloud のその他の変更	✅			
Consumer Goods Cloud の新しいオブジェクト		✅		
Consumer Goods Cloud の新規の呼び出し可能なアクション		✅		
Connect REST API		✅		
Public Sector Solutions				
ライセンスまたは許可を申し込むときの規制料金の表示			✅	
Salesforce カレンダーでのスケジュール済み訪問の表示			✅	
検査管理モバイルアプリケーションによる検査エクスペリエンスの改善				
検査 ToDo の効率的な実行			✅	
サイト訪問中の最新情報の入手			✅	
公共セクタサイトの機能強化による苦情の追跡と管理の改善			✅	
Public Sector Solutions の新しいオブジェクト			✅	
緊急時対応管理				
取引先責任者コレクションフローでの日時の取得			✅	
Industries 用のコミュニティユーザライセンスの詳細			✅	

Analytics

改善された Lightning Experience レポートビルダーでビジネス上の重要な意思決定を迅速に行ったり、再利用可能なコンポーネントでダッシュボードを作成および管理する時間を節約したり、再設計された Einstein Discovery インターフェースでインサイトをすばやく見つけたりできます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
複数項目選択によるレポート作成の合理化	✅			
検索条件URLパラメータを使用したダッシュボードの結果の保存	✅			
.xlsx形式でレポートの詳細のメールを受信	✅			
拡張フォルダ共有の有効化 (更新、延期)			✅	
Tableau CRM				
Einstein Analytics から Tableau CRM への名称変更		✅		
データインテグレーションとデータプレップ				
Sync Out を使用した Snowflake の Salesforce データの最新の状態の維持 (正式リリース)	✅			
データプレップ出力ノードを使用した .csv へのデータセットのエクスポート	✅			
Salesforce 出力コネクタを使用した Salesforce への準備した Tableau CRM データのマージ (ベータ)			✅	
追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (ベータ)			✅	
接続されたデータソースのセキュリティ暗号化要件の厳格化	✅			
改善された共有継承の対象範囲の評価による簡素化された行レベルの共有のより多くの候補の識別	✅			
ウィンドウ関数を使用した行全体の計算の実行	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
スマート変換パイロットプログラムによる優位性の確保			✅	
時系列売上予測を使用した将来の予測 (パイロット)			✅	
クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (パイロット)			✅	
ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (パイロット)			✅	
列値の形式の標準化によるデータクリーンアップ	✅			
ディスジョイントスデータソースからの行の追加	✅			
データプレップのその他の機能強化	✅			
優先スケジューリングを使用したレシピとデータフローのスマートな実行	✅			
事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション				
成立率向上をサポートするためのチーム活動の確認	✅			
Einstein Discovery モデリングによる取引先の成立率の向上	✅			
収益売上予測のトップドライバを理解することによる営業活動の絞り込み	✅			
アプリケーションの構築				
再利用可能なコンポーネントを使用したダッシュボードの作成 (正式リリース)	✅			
数値ウィジェットのツールチップへのカスタムテキストと視覚化の追加	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
どこからでも一度に最大100件のレコードの任意にデータに対してアクションを実行可能		✅		
Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (ベータ)			✅	
エクスプローラの最大6個の項目によるデータのグループ化	✅			
SAQL の新機能		✅		
Einstein Discovery				
新しい概念の直感的なインターフェースを使用したより多くのインサイトの検出				✅
データプレップ中のデータセットへの予測の組み込み(正式リリース)				✅
Salesforce組織での外部モデルの実装 (パイロット)				✅
拡張された Einstein データインサイトを使用したレポートデータに関するより適切インサイトの取得				✅
予測のパッケージ化、昇格、配布				✅
ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (正式リリース)		✅		
パフォーマンス通知を使用したモデルの精度の維持				✅
モデルカードによる予測の透過性の向上 (パイロット)				✅
モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (パイロット)				✅
スペルのあいまい一致を使用した予測の改善 (パイロット)				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
テンプレートアプリケーションを使用したモデルのリリースとデータセットのスコアリングの自動化				✅
ライセンスを有効にするときの自動有効化による設定時間の節約				✅
Tableau でのカスタムテーブルの計算を使用した Einstein 予測の取得				✅
バージョン履歴を使用したモデルバージョンの管理				✅
ストーリーバージョンの詳細の迅速な保存				✅
Einstein Discovery ストーリーのパフォーマンスの改善				✅
すべてのユーザのための Tableau CRM				
Analytics Studio にアクセスできる [分析] タブユーザの制御		✅		
アセット表示によるアプリケーションで誰が何を表示できるかの制御 (ベータ)				✅
組み込みダッシュボードの通知と登録の有効化		✅		
各自の方法での登録メールの並び替え	✅			
学習センターの変更に関する注意事項	✅			
Tableau CRM for iOS のテーブルの有効活用	✅			
Tableau CRM for iOS の最新バージョンの取得	✅			
Tableau CRM for Android の最新バージョンの取得	✅			

コマース

新しいオムニチャネル在庫サービスを使用すると、B2C Commerce と Salesforce Order Management でリアルタイム在庫状況の機能を使用できるようになります。B2B Commerce では、Commerce データの操作と商品の管理、チェックアウトとインテグレーションの設定を容易にする機能強化が提供されます。Salesforce Order Management では、新しいフローコアアクションと B2C Commerce カスタムデータの拡張サポートが導入されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
オムニチャネル在庫				
ヘッドレス API を使用した在庫状況の取得および予約の管理	✅			
オムニチャネル在庫コンソールを使用した在庫状況の表示およびロケーションの管理	✅			
B2C Commerce および Salesforce Order Management との統合によるショッピングおよび注文環境の機能強化	✅			
フローでのオムニチャネル在庫機能の使用	✅			
B2B Commerce for Lightning Experience				
Commerce アプリケーション				
ストアへのサンプルデータの追加			✅	
ストアインタラクションデータを使用したインサイトフルなレポートの作成		✅		
ゲスト閲覧による露出度の増加		✅		
サイトマップ増分更新での新商品の選択			✅	
ワークスペースリスト設定の保持	✅			
B2B Commerce データをゲストと共有するための Product2 共有ルールの作成		✅		
B2B Commerce テンプレート				
参照コンポーネントを使用したカスタムコンポーネント開発の促進		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リストの正式リリース	✅			
[リストに追加] ボタンの非表示				
商品ページでのバリエーションの親商品の詳細の表示		✅		
商品ページでのバリエーション属性の表示		✅		
商品のバリエーションと属性				
バリエーションと属性を使用した購入者へのより多くの商品オプションの提供			✅	
商品ワークスペースからの親クラスの表示			✅	
バリエーションと属性を設定するためのガイダンスの取得			✅	
チェックアウトとインテグレーション				
同期インテグレーションを使用した適応性のあるチェックアウトの作成		✅		
インテグレーションタブを使用したインテグレーションの管理			✅	
配送方法コンポーネントの更新		✅		
Salesforce Order Management				
フローでの新しい Order Management (注文管理ル)ーティング機能の使用	✅			
B2C Commerce のカスタム出荷データの統合	✅			
B2C Commerce のカスタム配送品目データの統合	✅			

Experience Cloud

Spring '21 では、Community Cloud がまったく新しい名前 (Experience Cloud) で生まれ変わります。この更新の一環で、サイトを作成するために使用するツールが更新され、いくつかの用語とドキュメントが変更されました。

Build Your Own (LWR) テンプレートが正式リリースされ、Salesforce CMS コンテンツのサポートが追加されています。また、いくつかの Lightning コンポーネントが機能強化されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Community Cloud から Experience Cloud への名称変更	✅			
エクスペリエンスビルダーでの Lightning コンポーネント				
タイルメニューコンポーネントでの影付きの追加または削除		✅		
改良されたコンポーネントを使用したモバイルサイトでの [関連リスト - 1 つ] へのアクセス		✅		
開発者の生産性				
Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)				
Build Your Own (LWR) サイトでデフォルトで有効化されている ExperienceBundle		✅		
カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用した継続性の維持 (パイロット)				✅
コンテンツ配信ネットワークでの単一証明書ドメインの使用 (パイロット)		✅		
カスタム Lightning Web コンポーネントへの Salesforce CMS コンテンツの追加		✅		
Experience Cloud での Lightning Message Service のサポート (ベータ)		✅		
Aura サイトの lightning:navigation でより多くの actionName を持つ generateUrl をサポート		✅		
PageReference を使用した CMS コンテンツページへの移動		✅		
ゲストユーザ				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、および「削除」オブジェクト権限の削除		✅		
ゲストユーザプロファイルからの無効な権限の削除		✅		
セキュリティと共有				
標準外部プロファイルを持つユーザは Experience Cloud サイトにログインできなくなる		✅		
エクスペリエンスビルダーサイトの許可される Cookie の設定の定義		✅		
SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示		✅		
その他の変更				
Lightning Knowledge 検索結果での項目の非表示			✅	
モバイルの Experience Cloud サイトのレコードへの複数ファイルの追加		✅		
制限の適用によるメンバーの処理の円滑化			✅	
顧客が有効になっている個人取引先のマージ			✅	
質問の応答時間に基づくレポートの作成		✅		

Salesforce CMS

Salesforce CMS コンテンツがこれまで以上に機能強化されました。コンテンツキーを使用して一貫したコンテンツをリリースし、エクスペリエンスビルダーサイトの新しい Build Your Own (LWR) テンプレートにコンテンツを追加し、他の組織やワークスペースにコンテンツをエクスポートします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コンテンツキーを使用した一貫性の維持		✅		
インポート用のメディアを参照するためのコンテンツキーの使用		✅		
インポート後のコンテンツの一括公開		✅		
Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツのエクスポート		✅		
Sandboxから本番組織へのCMSコンテンツおよびコンポーネントのリリース		✅		
Google Chrome での混在コンテンツのダウンロードのブロック		✅		
Experience Cloud の Build Your Own (LWR) テンプレートの利用		✅		
カスタム Lightning Web コンポーネントでの Salesforce CMS コンテンツの使用		✅		
Build Your Own (LWR) テンプレートでのリッチコンテンツエディタを使用した CMS 画像の追加		✅		

モバイル

iOS 向けモバイルホームやモバイルでの自然言語検索などの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更され、iPad がサポートされるようになりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイルアプリケーション				
Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能				
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
モバイルホームの操作 (ベータ)			✅	
クイックナビゲーションウィジェットを使用してホーム画面から Salesforce にアクセス	✅			
改善されたスクロール	✅			
Android での活動タイムラインを使用した活動の追跡	✅			
モバイルでのカスタムオブジェクトの動的アクションの使用			✅	
Apple のプライバシーポリシーの変更への準備	✅			
新しい拡張モバイルセキュリティの設定 UI (ベータ)				✅
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護				✅
モバイルでの Lightning ページのパフォーマンスの向上		✅		
新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境の有効化			✅	
App Store および Google Play の更新	✅			
Mobile Publisher				
コミュニティ向け Mobile Publisher を Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更			✅	
Experience Cloud 向け Mobile Publisher の iPad サポート (正式リリース)			✅	
Android での管理公開配信のサポート終了			✅	

Sustainability

データギャップの穴埋めを使用してカーボンフットプリントレコードデータの問題を解決します。個別のロック制御を使用してエネルギー使用量レコードを個別にロックまたはロック解除します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
データギャップの穴埋めを使用したカーボンフットプリントレコードの問題の解決			✅	
個別のロック制御を使用したエネルギー使用量レコードの管理			✅	

カスタマイズ

Salesforceフローを使用して、以前のレコード値にアクセスし、自動化の時間を短縮してメンテナンス費用を削減します。Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein 予測ビルダーに対する機能強化により、自信をもって簡単におすすめと予測を作成します。Lightningアプリケーションビルダーでより柔軟性とパフォーマンスの高い Lightning ページを設定します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce フロー				
Lightning フローから Salesforce フローへの名称変更		✅		
Flow Builder				
フローをトリガしたレコードの前の値の参照		✅		
トリガイベントの後にレコードトリガフローの一部を実行		✅		
[メールを送信]アクションを使用したフローからのリッチテキストメールの送信		✅		
フローでの再アクセス画面コンポーネントの値の制御		✅		
画面フローでのコールアウトエラーの自動回避		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フロー画面コンポーネントのスタイル設定の改善		✅		
画面フロー内で繰り返される Lightning ランタイム警告の回避		✅		
Flow Builder での {!Complex.Syntax} の表示を減らす		✅		
デバッグまたはフローランタイムからのフローの表示ラベルをブラウザタイトルに表示		✅		
ループからの複雑な差し込み項目へのアクセス		✅		
[メールを送信]アクションに関する以前の問題の検出		✅		
フローのデバッグ				
失敗したフローのより容易なデバッグ		✅		
スケジュールトリガフローでの一貫した用語および直接デバッグによるフローの容易なデバッグ		✅		
デバッグログでの正確なフロー情報の確認		✅		
フロー管理				
パッケージのアンインストールなしでパッケージからインストールされたフローバージョンを削除		✅		
フローおよびプロセスの拡張機能				
カスタムプロパティエディタを使用した Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定 (正式リリース)		✅		
Flow Builder のカスタムプロパティエディタからアクセスできる出力値の増加		✅		
フローおよびプロセスのリリース更新				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、適用)			✅	
フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)			✅	
フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、適用)			✅	
プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)			✅	
同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)			✅	
フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (更新)			✅	
画面フローの利用状況の分析 (更新)			✅	
プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)			✅	
Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)			✅	
API バージョン 51.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善		✅		
Einstein ビルダー				
データチェッカーを使用したおすすめの検証 (正式リリース)			✅	
おすすめへのアクセスの簡易化 (正式リリース)			✅	
管理パッケージの予測の構築			✅	
失敗した予測の構築の再試行			✅	
Lightning アプリケーションビルダー				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタム表示ラベルを使用した Lightning ページでのコンポーネントのローカライズされた表示ラベルおよび属性値の定義		✅		
動的アクションの追加サポート			✅	
電話に表示される Lightning ページのパフォーマンスの分析		✅		
デスクトップでの Lightning ページパフォーマンスに関する詳細情報の取得		✅		
アプリケーションビルダーのガイダンスで電話対応の Lightning ページに関するヒントを取得		✅		
動的フォーム対応ページでの項目セクションの折りたたみおよび展開		✅		
グローバリゼーション				
人民元 (オンショア) と人民元 (オフショア) の区別			✅	
より多くのクラウドでの右から左へ記述されるヘブライ語の表示	✅			
アムハラ語を使用するユーザとつながる			✅	
ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)			✅	
外部サービス				
従来の外部サービスバージョンの廃止		✅		
外部サービススキーマへのリスト種別の最上位の名前付き配列定義の追加		✅		
Salesforce Connect				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
スクラッチ組織での複数の Salesforce Connect ライセンスの設定		✅		
指定ログイン情報または外部データソースの特定の項目を編集した後の再認証		✅		
項目				
無効な選択リスト値の制限を使用したパフォーマンスの改善		✅		
項目レベルのヘルプテキストの文字数の増加		✅		
カスタム項目の表示ラベルの HTML の表示の無効化 (更新、適用済み)		✅		
プロファイルと権限				
参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新)			✅	
参照のみプロファイルは新しい Salesforce 組織では使用不可		✅		
インテグレーション権限セットを使用したインテグレーションパートナーとのデータ交換		✅		
共有				
手動共有を使用したレコードの共有	✅			
より多くのロールの作成		✅		
カスタムメタデータ型				
[システムの概要]ページでのカスタムメタデータ型の制限の表示		✅		
静的メソッドを使用したカスタムメタデータ型レコードへのアクセス		✅		
一般設定				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
「すべての参照レコード名の表示」権限の必須化		✅		
参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、廃止)			✅	
非外部ハイパーリンクのより予測可能な対象の動作			✅	

セキュリティと ID

OAuth 2.0 の更新を使用して、Web セッション管理を簡略化します。[私のドメイン] をより簡単に管理し、拡張ドメインを使用して Salesforce URL を標準化します。新しいデータセットは、Event Monitoring Analytics アプリケーションで Salesforce 全体の使用状況を分析するのに役立ちます。また、セキュリティセンターを使用すれば、より実践的にセキュリティデータを表示できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ID とアクセス管理				
ハイブリッドアプリケーションでの Web セッションの直接管理の有効化		✅		
更新トークンフロー中にクライアントの秘密が必要		✅		
新しい Frontdoor.jsp パラメータを使用してハイブリッドモバイルアプリケーションのセッションの中断を減らす		✅		
多要素認証アシスタントからのより多くのガイダンスの入手			✅	
組織の ID サービスのログイン総計値を監視			✅	
ID プロバイダによるユーザの認証状況を認証メソッド参照で監視		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
OpenID Connect でのより大きなアクセストークンと更新トークンの容易な統合		✅		
「ID 確認」から「デバイスの有効化」への変更	✅			
プロファイルの絞り込みによるログインフローへのアクセスの管理			✅	
ドメイン				
簡単な [私のドメイン] の管理		✅		
強化されたドメインを使用した Salesforce URL の標準化			✅	
Salesforce Edge Network との接続の強化			✅	
Sandbox でのカスタムドメインのテスト (正式リリース)			✅	
以前の [私のドメイン] の URL からのリダイレクトの停止		✅		
ドメインでの HTTPS の有効化			✅	
[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)			✅	
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、廃止)		✅		
Salesforce Shield				
Shield Platform Encryption				
ボットの発言データの暗号化			✅	
バックグラウンド暗号化を使用したより多くのデータの迅速な暗号化			✅	
アンケートで送信された情報の暗号化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イベントモニタリング				
Event Monitoring Analytics アプリケーションでの分析できるイベントの増加		✅		
Analytics アプリケーションの設定ウィザードで変更されたデフォルトの回答		✅		
メタデータ API を使用したリアルタイムイベントモニタリングの設定の自動化		✅		
すべての Lightning イベント種別でのユーザの発見		✅		
EventLogFile でのコマースイベントに関する情報の取得		✅		
ID プロバイダの認証要求を追跡する		✅		
EventLogFile での Lightning コンポーネント要求に関する情報の取得		✅		
セキュリティセンター				
総計値データのオンデマンド更新			✅	
セキュリティセンターでの履歴状態チェックの詳細表示			✅	
改善された詳細ページのグラフによる変更の特定			✅	
その他の変更				
すべてのサードパーティドメインでセキュアな HTTPS 接続が必要		✅		
サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトユーザへの割り当て		✅		

Customer 360 Truth

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1 つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Customer 360 Audiences				
Customer 360 Audiences の新機能の確認	✅			
Customer 360 データマネージャ				
Customer 360 Data Manager の新機能の確認	✅			
Customer 360 Identity				
顧客およびパートナー向けの Identity が Customer 360 Identity に名称変更	✅			
Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、延期)			✅	
Customer 360 プライバシーセンター				
可搬性ログを使用したデータ主体アクセス要求の履行の監視		✅		
Customer 360 プライバシーセンターの動作の変更: 60 日以上が経過した可搬性ファイルを自動的に削除		✅		
複数のレコード間の同意データの同期		✅		

リリース

Ant 移行ツールバージョン 51.0 を使用するには、Java バージョン 11 以降をインストールします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント		✅		
Ant 移行ツールで Java バージョン 11 が必須		✅		

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
lightning-map 基本コンポーネントでのマーカーのカスタマイズおよび地図動作の制御		✅		
DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新		✅		
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止			✅	
自動出力にアクセスする FlowBuilder のカスタムプロパティエディタの作成		✅		
Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドの廃止		✅		
リリース更新				
暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、適用済み)			✅	
動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、適用済み)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)			✅	
Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)			✅	
Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)			✅	
Lightning Web コンポーネントアクションの作成 (パイロット)			✅	
Einstein Vision および Language				
Einstein Vision および Einstein Language の HIPAA 準拠		✅		
Einstein Vision				
Einstein OCR を使用したより多くのテキストの検出		✅		
Vision API のトレーニング状況の応答内の新規項目		✅		
Einstein OCR を使用した一般的なフォームのテキストの検出		✅		
Einstein Language				
Einstein Intent でのより多くの言語のサポートが正式リリース		✅		
より少ないデータでの Einstein Intent モデルの作成		✅		
Language API のトレーニング状況の応答内の新規項目		✅		
Salesforce Functions (ベータ)		✅		
Visualforce				
Visualforce Remoting API の安全なコール (更新)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)		✅		
Apex				
Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (ベータ)		✅		
BatchApexErrorEvent トリガを使用した ISV アプリケーションの監視		✅		
呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタの作成 (正式リリース)		✅		
管理パッケージの無料のプラットフォームキャッシュ (正式リリース)		✅		
コールアウトを実行する呼び出し可能な Apex メソッドのフラグ設定		✅		
パフォーマンスの改善のために最適化されたクエリカーソル		✅		
新しい LeadConvert メソッドを使用したリードから個人取引先と法人取引先への同時変換			✅	
匿名ブロックでの指定ログイン情報のコールアウトには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要		✅		
API				
Platform API の従来のバージョンの予定されている廃止の事前通知			✅	
パッケージ化				
Salesforce リリースの移行中にパッケージの特定のリリースを対象設定				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (正式リリース)		✅		
新しいAPI項目を使用したパッケージ操作の監視				✅
登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新)				✅
パッケージバージョン作成テストでのパッケージ化されていないメタデータの指定 (正式リリース)				✅
スクラッチ組織				
機能が追加されたスクラッチ組織の作成		✅		
スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce のより容易なインストールおよび使用		✅		
Sandbox				
Data Mask を使用したデータセキュリティの調整		✅		
ローカルプロジェクトと Sandbox 間の変更の追跡 (正式リリース)		✅		
プラットフォーム開発ツール				
Customer 360 Platform アプリケーションの簡単な開発		✅		
Lightning Design System				
ダブルダッシュの BEM 表記の廃止		✅		
Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新		✅		
AppExchange パートナー				
AppExchange の App Analytics を使用した Apex カスタムコードの分析				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
再設計された AppExchange セキュリティレビューを使用したソリューションの迅速な申請および進行状況の追跡	✅			
AppExchange 支払情報の迅速な更新	✅			
変更データキャプチャ				
追加項目による変更イベントメッセージの強化 (正式リリース)		✅		
追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信		✅		
プラットフォームイベント				
プラットフォームイベントトリガのユーザとバッチサイズの設定		✅		
非同期での標準プラットフォームイベントの公開		✅		

Salesforce Anywhere (Quip)

Quip for Customer 360 の使い慣れたすべての機能が含まれるようになった、拡張された新しい Salesforce Anywhere が導入されました。Salesforce Anywhere Beta 機能の最新の更新を確認してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Anywhere 機能を使用できるようになるタイミング	✅			
Quip for Customer 360 から Salesforce Anywhere Advanced への名称変更	✅			
Salesforce Anywhere 設定を使用した迅速な稼働	✅			
大規模な会社のカスタムテンプレートの共有 (テンプレートライブラリ)	✅			
任意の場所からの文書の作成 (Salesforce での文書の作成)	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
テンプレート化された Salesforce データメンションを使用したテンプレートの動的化	✅			
文書範囲を使用したテンプレートのセクションの定義	✅			
文書範囲の更新、セクションのロック、Salesforce フローを使用した PDF への文書のエクスポート	✅			
Quip スライドの廃止	✅			
iOS での Salesforce データメンションの追加、[すべてのファイル] ビューからの文書のリンク済み Salesforce レコードの確認、その他の機能強化	✅			
Lightning Experience でのより簡単なアラートへのアクセス (ベータ)	✅			
アラートの迅速な登録 (ベータ)	✅			
Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ)				
リリースされたベータ機能の確認	✅			

Pardot

Pardot をより迅速に設定し、ファーストパーティ追跡を使用してエンゲージメントデータストリームを維持し、メールのパーソナライズ、到達性、レポート作成に関する拡張機能を使用します。コピーアクションも改良され、簡単にメールのコンテンツやキャンペーンに関連付けられた新しいアセットタイプをコピーできるようになりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
キャンペーンとアセット				
関連情報を含むキャンペーンの迅速なコピー	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)			✅	
キャンペーンのビジネスユニット別整理				
Webex Web セミナーの保護			✅	
メールマーケティング				
2 クリック登録解除によるメールマーケティング維持の向上	✅			
カスタムレポートを使用したメールコンテンツパフォーマンスの分析	✅			
メールコンテンツレコードのコピーによる時間の節約	✅			
Pardot メールの完了アクションのリンクの指定	✅			
Pardot メールへの代替返信先と代替メール送信者の追加	✅			
メール送信設定の定義時のメール可能なプロスペクト数の表示	✅			
分析とレポート				
Pardot オブジェクトの同期でのカスタム項目の同期 (ベータ)			✅	
リード ID による属性の信頼	✅			
データセットからのアーカイブされたプロスペクトの除外			✅	
Analytics の設定に追加された Einstein 行動スコアリング				
ファーストパーティ追跡を使用したプロスペクトのアクティビティデータの保護 (正式リリース)			✅	
新しい Salesforce マーケティング設定アプリケーションからの Pardot 設定アシスタントへのアクセス		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Pardot の [会社] 項目によって [Pardot アカウントの設定] の [ビジネスユニット名] が決定			✅	
さまざまなビジネスユニットのリードまたは取引先責任者とのプロスペクトの安全な同期		✅		
Pardot API V5 の正式リリース		✅		
Pardot API: 新規および変更された項目		✅		
Pardot ユーザ認証の廃止			✅	

myTrailhead

会社の商品名を myTrailhead の [商品] リストに追加し、ユーザが探しているコンテンツを見つけやすいようにします。アプリケーション内 Trailhead 学習を利用して、Salesforce アプリケーションから離れることなく myTrailhead モジュールを受講します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
myTrailhead の商品検索条件のカスタマイズ		✅		
アプリケーション内 Trailhead 学習を使用した作業の流れの中での学習 (ベータ)			✅	

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience での Internet Explorer 11 のサポートの終了
IE11 の延長サポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。IE11 ユーザには Salesforce 組織で永続バナーが表示され、サポートされていないブラウザを使用していることが示されます。IE11 を使用しているお客様は、Lightning Experience へのアクセスはブロックされませんが、機能の正しい動作は保証されません。新機能はサポートされていますが、最新のブラウザでのみ使用できます。

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス
Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス
Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

Tableau CRM でサポートされるブラウザ
Tableau CRM (旧称 Einstein Analytics) でサポートされるブラウザには、Lightning Experience でサポートされるブラウザが含まれますが、Tableau CRM は Apple® Safari® ではサポートされません。

Lightning Experience での Internet Explorer 11 のサポートの終了

IE11 の延長サポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。IE11 ユーザには Salesforce 組織で永続バナーが表示され、サポートされていないブラウザを使用していることが示されます。IE11 を使用しているお客様は、Lightning Experience へのアクセスはブロックされませんが、機能の正しい動作は保証されません。新機能はサポートされていますが、最新のブラウザでのみ使用できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic または Lightning Experience のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを組み込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。
- iPad の Safari で Lightning Experience にアクセスできます。詳細は、「iPad Safari の Lightning Experience の考慮事項」を参照してください。
- Lightning Experience では、シークレットモードや他のプライベートブラウズモードはサポートされていません。

デスクトップとラップトップ

Salesforce では、次のブラウザをサポートしています。ブラウザが最新になっていることを確認してください。他のブラウザ、またはサポートされるブラウザの古いバージョンでは、すべての機能のサポートは保証されません。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、2020 年 12 月 31 日にサポートされなくなります。

- IE11 を使用していると、サポートされていないブラウザであることを示す永続バナーが Salesforce 組織に表示されます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

重要: Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
エクスペリエンスビルダーサイト	未サポート	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
設定に関する特別な考慮事項?	未サポート	未サポート	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

タブレット

iPadOS (iOS 13.x) 以降で Apple Safari を使用してください。iPad Safari の Lightning Experience では、縦方向と方向の切り替えはサポートされていません。Safari ブラウザの幅全体が表示されるように、横方向を使用します。方向が切り替わらないようにするには、iPad の回転ロックを有効にします。

Android ベースのタブレットの Salesforce モバイルアプリケーションのみがサポートされています。

	Apple® Safari®	Google Chrome™	他のブラウザ	Salesforce モバイルアプリケーション
iPadOS	サポート	未サポート	未サポート	サポート
Android	なし	未サポート	未サポート	サポート

メモ: Salesforce では、Microsoft Surface や Microsoft Surface Pro デバイスなどのタッチ対応ラップトップは、タブレットではなくラップトップとして扱います。これらのデバイスでは、Salesforce モバイルアプリケーションにアクセスできません。ユーザは、有効になっているフルサイト環境 (Lightning Experience または Salesforce Classic) にリダイレクトされます。これらの種類のデバイスでは、標準のキーボードとマウスによる入力のみがサポートされています。

スマートフォン

最適な操作性を得るには、Salesforce モバイルアプリケーションを使用してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。

重要: Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	IE 11 のみ	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
Salesforce Classic コンソール	IE 11 のみ	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	未サポート
設定に関する特別な考慮事項?	あり	未サポート	なし	なし	あり	なし

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
制限事項?	あり	あり	あり	なし	なし	あり

メモ: ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Tableau CRM でサポートされるブラウザ

Tableau CRM (旧称 Einstein Analytics) でサポートされるブラウザには、Lightning Experience でサポートされるブラウザが含まれますが、Tableau CRM は Apple® Safari® ではサポートされません。

Salesforce 全体

Salesforce 製品全体の言語が包括性を反映するように更新されました。Salesforce リリースノートが Salesforce ヘルプに移行され、ユーザ環境がより統一されました。[最近参照したデータ] リストにカスタマイズ可能なアクションが含まれます。画像をアプリケーション内ガイダンスに追加でき、ガイダンスを一時停止して後で参照できます。フローで新しいアンケートアクションを使用し、招待ルールを使用して特定のアンケート参加者を対象にします。実装に先駆けて新しい Salesforce Scheduler トライアル組織を使用し、予定時間枠のデフォルトのタイムゾーンを設定します。Government Cloud と Salesforce モバイルアプリケーションの自然言語検索で日常語を使用して検索します。

このセクションの内容:

全般的な機能強化
包括性をより正確に反映するように、一部の製品言語が更新されました。ユーザ環境を改善するため、リリースノートが Salesforce ヘルプに移行されました。

ユーザエンゲージメント
画像、フロート表示プロンプトのより多くの位置、ドッキングプロンプトのリッチテキスト編集を使用して、アプリケーション内ガイダンスをより魅力的なものにします。ユーザはアプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示できるようになりました。また、アプリケーション内 Trailhead 学習 (ベータ) を使用してトレーニングプログラムを強化します。システム管理者やトレーニングマネージャは、新しい学習パネルをカスタマイズできるようになりました。

Salesforce アンケート
フローでアクションを使用してアンケートでより多くのことを行います。アンケートをスケジュールしたり、リマインダーを送信したり、アンケートに再度招待できる参加者を特定したりします。アンケート招待ルールを使用してアンケートを特定の参加者グループに送信することで、焦点を絞ったデータを収集し、アクション可能なインサイトを得ます。Salesforce 組織で定義されている組織の共有メールアドレスを使用してアンケートを送信します。アンケート内の短いテキストの質問に参加者がどのように回答したかを検証します。進行状況バーを挿入して、参加者にアンケートの進行状況を示します。

Salesforce Scheduler

Salesforce Scheduler フローと API で新しいサービスリソースの検索条件を使用して予定をスケジュールするときに、サービスリソースとサービステリトリーをより迅速に取得します。Salesforce Scheduler フローの新しい [タイムゾーンのデフォルトの値] 属性を使用して、サービスリソース、サービステリトリー、顧客、またはブラウザのタイムゾーンに応じて予定の時間枠ページのタイムゾーンを設定できます。また、Service Appointments API に PATCH 要求を実行することで、API を介してサービス予定を変更できます。

検索

検索により、Salesforce 組織内で関連情報を探しているユーザにインテリジェンスを提供し、効率を高めます。ユーザは必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接 ToDo を実行できます。

全般的な機能強化

包括性をより正確に反映するように、一部の製品言語が更新されました。ユーザ環境を改善するため、リリースノートが Salesforce ヘルプに移行されました。

このセクションの内容:

従来の言語を包括的な用語で置き換え

製品内の言語を洗練し、包括性をより正確に反映する取り組みの一環として、Salesforce は包括的ではないと思われる用語を置き換えています。コード内で用語を変更すると、現在の実装が壊れる可能性があるため、API および古い API ドキュメントは含まれません。廃止される製品のドキュメントで使用されている従来の用語も変更されません。

Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得

主な Salesforce リリースノートは Salesforce ヘルプに移動し、ヘルプや他のテクニカルコンテンツ、および Commerce Cloud、Marketing Cloud、Customer 360 のリリースノートと調和しています。

サブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) を使用した商品の参照、購入、管理

新しいサブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) を使用して、製品とライセンスを追加し、契約を管理し、組織内で取引先サポートを直接利用します。

Chrome での安全ではないダウンロードからユーザを保護

Chrome ブラウザへの最近の更新は多くの Salesforce 機能に影響します。Google は、Chrome での混在コンテンツのダウンロードをブロックすることにより、安全ではないダウンロードからユーザを保護しようとしています。混在コンテンツのダウンロードの例として、HTTPS ページに HTTP サイトへのリンクが配置されている場合があります。

リッチテキストエディタのアップグレード

CKEditor を使用するリッチテキストエディタが CKEditor バージョン 4.14.0 にアップグレードされました。

レコード所有者の変更時にポータルユーザをすばやく見つける

ポータルユーザにレコードの所有権を付与するときに、所有者の変更ウィンドウでカスタマーポータルユーザとパートナーユーザを絞り込むことができるようになったため、探しているユーザを効率的に見つけることができます。

保存前の潜在的な重複の把握

動的フォーム対応のページでは、Salesforce は、作業が重複している可能性があるかどうかを確認し、保存前にユーザに警告を表示します。以前は、重複は保存の後にのみ確認されていました。

Lightning Web コンポーネントの UI の変更

使いやすさとパフォーマンスを強化するために、一部のコンポーネントが Aura コンポーネントから Lightning Web コンポーネント (LWC) に切り替わりました。機能は削除されていませんが、UI にいくつかの小さな違いがあります。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

従来の言語を包括的な用語で置き換え

製品内の言語を洗練し、包括性をより正確に反映する取り組みの一環として、Salesforce は包括的ではないと思われる用語を置き換えています。コード内で用語を変更すると、現在の実装が壊れる可能性があるため、API および古い API ドキュメントは含まれません。廃止される製品のドキュメントで使用されている従来の用語も変更されません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Winter '21 で開始。

理由: 平等は、Salesforce の最も重要な価値です。Salesforce は当社のコンテンツおよび製品で使用されている言語の包括性を高めるため、更新を継続し、その更新内容をリリースノートでお知らせします。

方法: 変更されている用語についての詳細は、「How We're Bringing Inclusive Language to Our Products (Salesforce 製品への包括言語の取り込み)」を参照してください。

Salesforce ヘルプのリリースノートで新機能と優れたユーザエクスペリエンスの情報を取得

主な Salesforce リリースノートは Salesforce ヘルプに移動し、ヘルプや他のテクニカルコンテンツ、および Commerce Cloud、Marketing Cloud、Customer 360 のリリースノートと調和しています。

対象: タブレットやモバイルでは一部の機能がまだ使用できないため、Salesforce ヘルプのリリースノートの最適な環境はデスクトップになります。

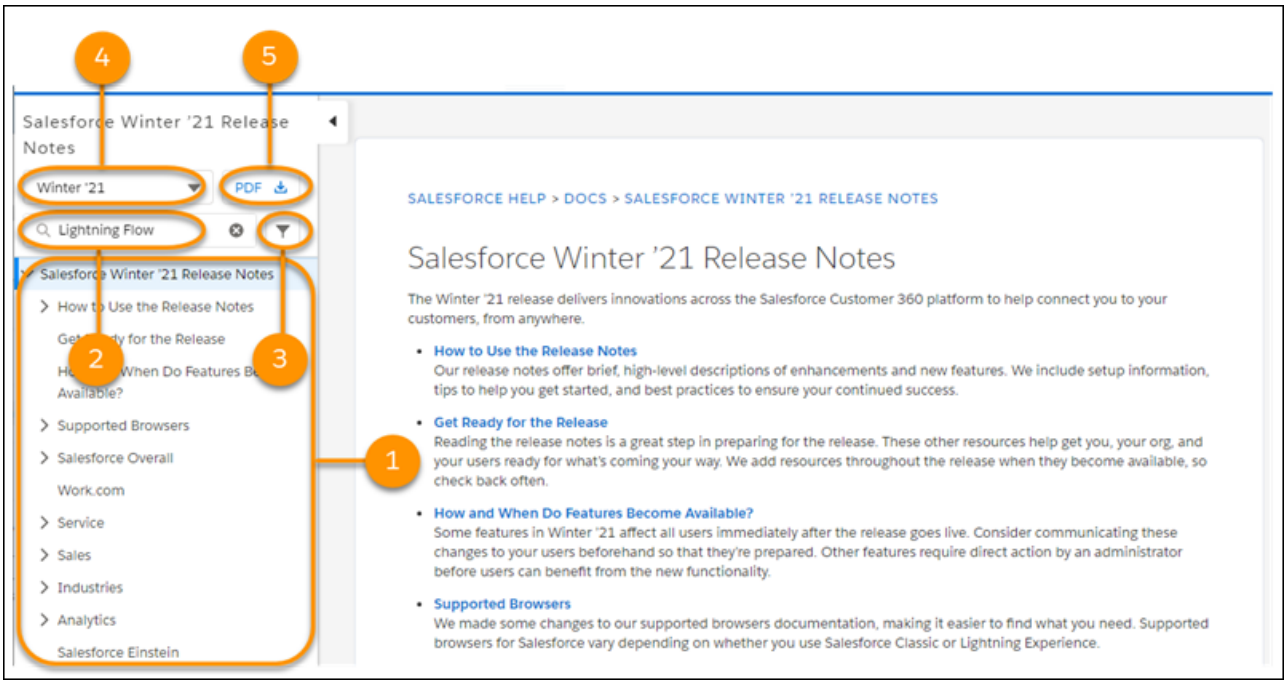
時期: Spring '16 ～ Winter '21 リリースのリリースノートは、Salesforce ヘルプから HTML 形式で入手できます。以前のリリースのリリースノートは、PDF 形式で入手できます。元の Salesforce リリースノートポータルは、2021 年 7 月に廃止されます。

理由: 簡単に言うと、Salesforce ヘルプにリリースノートがあれば、お客様に最適な環境を提供することができます。バージョンの切り替えや簡単な PDF のダウンロードなど、これまで愛用してきた機能を引き続き利用できることに加え、検索、絞り込み、ケースの登録、フィードバックオプションなどが改善されています。わかりやすく使いやすいインターフェースですべて見つけることができます。

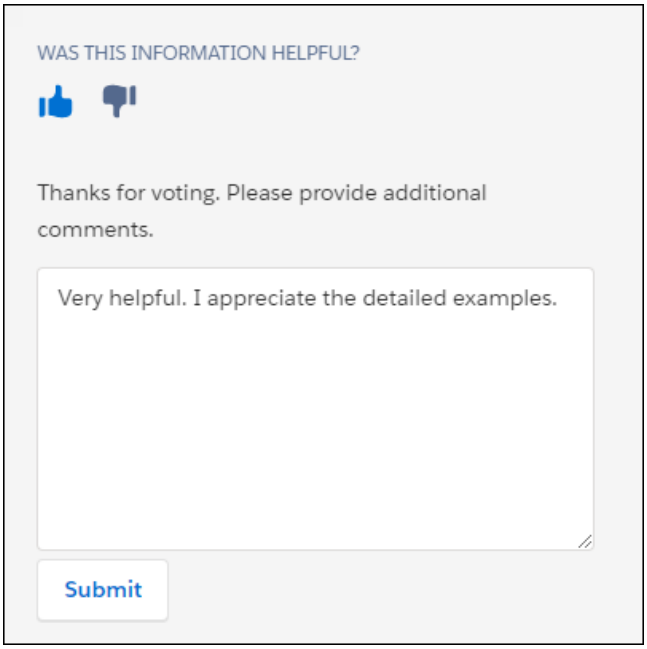
方法: help.salesforce.com に移動し、現在の Salesforce リリースの [リリースノート] タイルをクリックします。目的の機能のトピックを見つけるには、目次 (1) を移動するか、検索語 (2) を入力して結果のリストを取得します。必要に応じてこれらの結果を絞り込みます (3)。

または、まず絞り込み (3) を行ってから目的のトピックを検索します。検索条件アイコンをクリックするだけです。検索条件には、Experience: Salesforce Classic、Lightning Experience、モバイルなどがあります。Salesforce のエディション、製品エリア、機能の影響 (ユーザに対する有効化やシステム管理者に対する有効化など) の検索条件もあります。検索条件を単独で使用すると、リリースノートの目次が展開され、一致するトピックが強調表示されます。絞り込まれたコンテンツを検索すると、選択した検索条件が適用された検索結果のリストが生成されます。

別のリリースのリリースノートを確認するには、リリース (4) を選択します。表示しているバージョンのリリースノートを PDF でダウンロードするには、[PDF] (5) をクリックします。



フィードバックがあれば、お寄せください。全体のエクスペリエンスについて、「Release Readiness Trailblazers」グループに投稿するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。リリースノートトピックには、ヘルプトピックと同じオプション ([高評価] または [低評価]) があります。[コメント] 項目の詳細を記載できます。



サブスクリプション管理アプリケーション(ベータ)を使用した商品の参照、購入、管理

新しいサブスクリプション管理アプリケーション(ベータ)を使用して、製品とライセンスを追加し、契約を管理し、組織内で取引先サポートを直接利用します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: サブスクリプション管理アプリケーションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

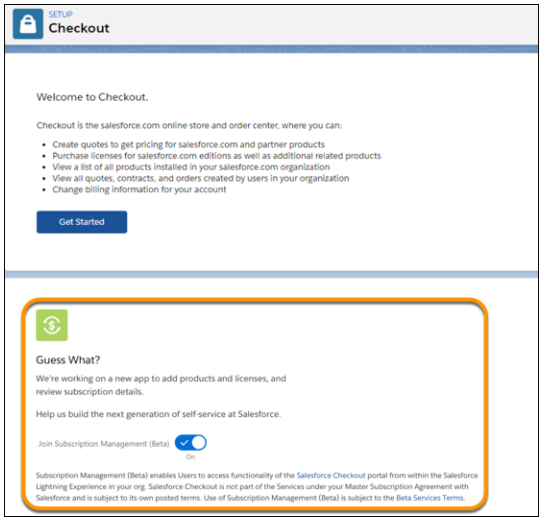
対象ユーザ: 「請求情報の管理」権限を持つシステム管理者は、サブスクリプション管理アプリケーション(ベータ)を有効にできます。

理由: サブスクリプション管理アプリケーション(ベータ)を使用すると、次の操作を実行できます。

- 既存のサブスクリプションにシートやライセンスを追加する。
- 自分のアカウントに使用できるすべてのアドオンのカタログを参照する。
- 現在と過去の契約や所持している商品を表示する。
- サポートケースを登録する。
- 商品に関する追加情報を営業に問い合わせる。

- Salesforce Checkout に移動して請求書を確認し、支払う。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*登録を管理*」と入力し、[登録を管理] を選択します。[チェックアウト] ページでサブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) を有効にします。そして、ページを更新します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 新しいサブスクリプション管理アプリケーション (ベータ) の紹介

Chrome での安全ではないダウンロードからユーザを保護

Chrome ブラウザへの最近の更新は多くの Salesforce 機能に影響します。Google は、Chrome での混在コンテンツのダウンロードをブロックすることにより、安全ではないダウンロードからユーザを保護しようとしています。混在コンテンツのダウンロードの例として、HTTPS ページに HTTP サイトへのリンクが配置されている場合があります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: Google の段階的なロールアウト計画は、ブラウザの警告から始まり、混在コンテンツのダウンロードのブロックへと進みます。Google の取り組みは 2020 年 9 月に開始され、今後のいくつかの Chrome リリースを介して継続されます。

Salesforce 内で影響を受ける機能についての詳細は、ナレッジ記事「Google が Google Chrome での安全ではないダウンロードからユーザを保護」を参照してください。

リッチテキストエディタのアップグレード

CKEditor を使用するリッチテキストエディタが CKEditor バージョン 4.14.0 にアップグレードされました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: CKEditor バージョン 4.14.0 では、セキュリティの脆弱性がいくつか修正されます。

Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションでは、CKEditor は以下により使用されています。

- メールコンポーザ
- Lightning Knowledge

Salesforce Classic では、CKEditor は以下により使用されています。

- Chatter パブリッシャー
- カスタム項目
- メール
- Flow Builder
- グループ
- アイデアのテーマ
- ナレッジ記事

関連トピック:

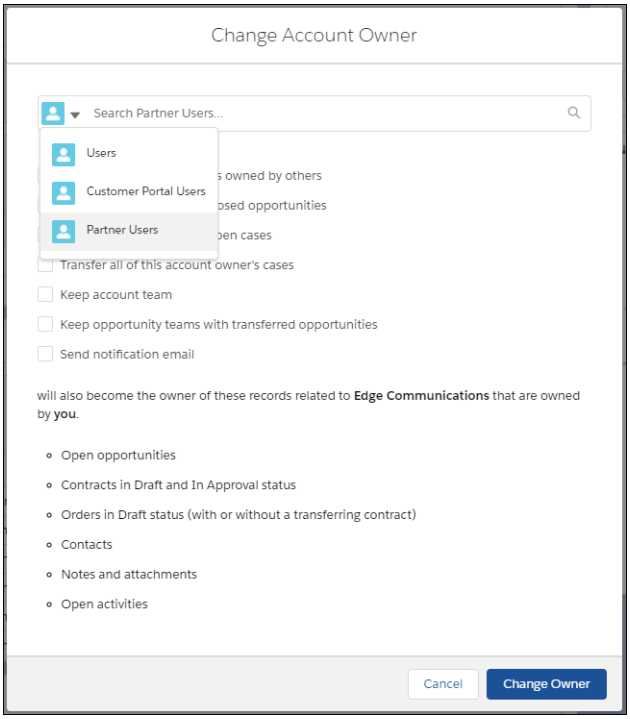
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

レコード所有者の変更時にポータルユーザをすばやく見つける

ポータルユーザにレコードの所有権を付与するときに、所有者の変更ウィンドウでカスタマーポータルユーザとパートナーユーザを絞り込むことができるようになったため、探しているユーザを効率的に見つけることができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: 所有者を変更するときにユーザ種別を選択して、検索結果を調整します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: レコードの所有者の変更 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保存前の潜在的な重複の把握

動的フォーム対応のページでは、Salesforce は、作業が重複している可能性があるかどうかを確認し、保存前にユーザに警告を表示します。以前は、重複は保存の後にのみ確認されていました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: 重複を把握するには、オブジェクトの重複ルールと一致ルールを設定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 重複管理のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Web コンポーネントの UI の変更

使いやすさとパフォーマンスを強化するために、一部のコンポーネントが Aura コンポーネントから Lightning Web コンポーネント (LWC) に切り替わりました。機能は削除されていませんが、UI にいくつかの小さな違いがあります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

メモ: Financial Services Cloud または Health Cloud はレコードの編集にカスタムコンポーネントを使用するため、この変更は適用されません。

時期: 変更は Spring '21 リリース以降にローリング方式で組織に適用されます。

方法: ユーザが取引先、リード、取引先責任者、商談を作成、編集、またはコピーすると、編集された項目が強調表示されるようになりました。編集された項目には、変更を戻すための [元に戻す] ボタンも表示されます。エラーがページの上部ではなくフッターに表示されるようになりました。ユーザがエラーメッセージ内のリンクをクリックすると、エラーメッセージが自動的に非表示になります。以前は、強調表示、[元に戻す]、およびフッターエラーはカスタムオブジェクトでのみ使用できました。

レコードの作成およびコピーに関する成功トースト通知で関連レコードへのリンクが提供されるようになりました。以前は、関連リストからレコードを作成した場合のみ、リンクが含まれていました。成功トーストでは、レコード名を使用できない場合、代わりにレコード ID が提供されます。

インライン編集または標準編集を使用してレコードを編集しているときに数式項目に [この項目は保存時に計算されます] というメッセージが表示されるようになりました。以前は、このメッセージはインライン編集中にのみ表示されました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

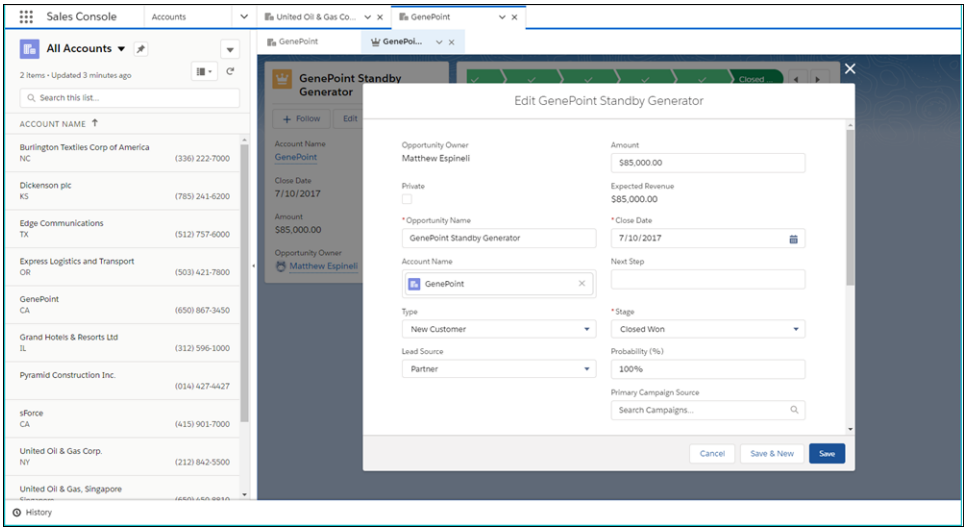
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: この更新はすぐに有効化できます。有効化しない場合、この更新は Winter '22 で自動的に有効化されます。

理由: Winter '20 リリース以前は、Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブまたはサブタブでトリガされたすべてのダイアログがアプリケーション全体のフォーカスを獲得していました。この更新では、ダイアログが、そのダイアログをトリガしたタブのフォーカスのみを必要とするようになるため、アプリケーションの他の部分とのインタラクションが邪魔されることがなくなります。

方法: このリリース更新を有効化するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力してから、[リリース更新] を選択します。[タブ中心のダイアログを使い続ける方法] で [有効化] をクリックします。

更新後、ダイアログがトリガされても、そのダイアログを作成したタブに制限されます。



関連トピック:

- リリース更新

ユーザエンゲージメント

画像、フロート表示プロンプトのより多くの位置、ドッキングプロンプトのリッチテキスト編集を使用して、アプリケーション内ガイダンスをより魅力的なものにします。ユーザはアプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示できるようになりました。また、アプリケーション内 Trailhead 学習 (ベータ) を使用してトレーニングプログラムを強化します。システム管理者やトレーニングマネージャは、新しい学習パネルをカスタマイズできるようになりました。

このセクションの内容:

- アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加
- アプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示
- フロート表示プロンプトのより多くの位置の選択

アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加

.jpg、.jpeg、.png、または .gif ファイルを追加して、アプリケーション内ガイダンスをより魅力的なものにします。アニメーション .gif を使用すると、プロンプト内でガイダンスがさらに明確になります。

アプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示

ユーザはすべてのアプリケーション内ガイダンスで一時停止オプションを使用できるようになりました。一時停止を使用すると、ユーザは、スケジュールされた次の表示を待つことなく、選択した期間、アプリケーション内ガイダンスを一時的に無視できます。

フロート表示プロンプトのより多くの位置の選択

3個の新しい中央行レイアウトオプションを使用して、フロート表示プロンプトを中央に配置するか、参照しているコンポーネントの近くに配置します。合計 9 個の範囲を使用して、ユーザの注意を画面の特定の領域に向けます。

新規作成ページ、編集ページ、およびコピーページを超えるウォークスルーステップの追加

ウォークスルーで、レコードの作成、編集、コピーのプロセス全体を記述できるようになりました。以前は、ウォークスルーステップをダイアログに追加すると、その後のステップをダイアログ以外のページに追加できませんでした。ユーザがダイアログとのやり取りを終了した後、ステップを追加できるようになりました。

共有可能な URL を使用した有効なアプリケーション内ガイダンスへのアクセス

アプリケーション内ガイダンスが有効であれば、ユーザはアプリケーション内ガイダンスにいつでもアクセスできるようになりました。以前は、ユーザに URL を送信するか、ヘルプメニューのカスタムセクションに URL を追加するか、アクションボタンを作成することで、アプリケーション内ガイダンスのリンクをユーザと共有した場合、スケジュール、プロファイル、権限ルールの影響を受けました。

ドッキングプロンプトでのより詳細なリッチテキスト編集

ドッキングプロンプトの本文テキストで創造性を発揮します。ドッキングプロンプトの本文テキストに下線やリンクを追加したり、本文テキストから書式設定を削除したりできるようになりました。

iPad でのフロート表示プロンプトの移動

フロート表示プロンプトの配置に注意を払っても、強調している機能が見えなくなってしまうことがあります。iPad Safari の Lightning Experience でフロート表示プロンプトを再配置できるようになりました。

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。

アプリケーション内への Trailhead 学習環境の取り込み (ベータ)

アプリケーション内 Trailhead 学習を使用し、ユーザが作業している場所から学習環境に容易にアクセスできるようにすることでトレーニングプログラムを強化します。システム管理者または指定されたトレーニング講師は、公開モジュールまたは myTrailhead モジュールを選択して、学習パネルをカスタマイズします。モジュールの表示場所を選択し、モジュールを特定のユーザまたは公開グループに割り当てて、ユーザのコンテキストに学習を一致させます。Trailblazer が作業の流れの中でモジュールを読み、テストを受けて、バッジを獲得できるようにします。

Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得

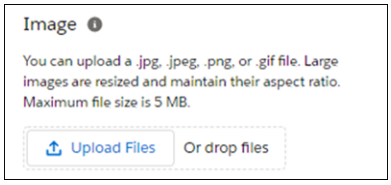
Salesforce の最初の実装または最新の実装を開始しているかにかかわらず、ガイダンスセンターでは、新しい Salesforce 組織のシステム管理者に、その経験レベルとビジネス目標に一致するパーソナライズされた設定リソースが提供されます。ロールアウトの計画、セールスとサービスの基本機能の設定、データの管理と保護、成功のためのユーザの設定などについて学習します。

アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加

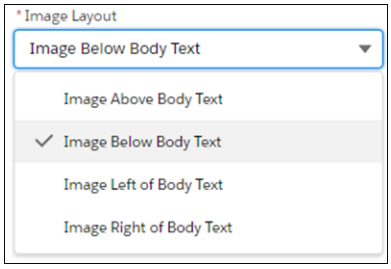
.jpg、.jpeg、.png、または .gif ファイルを追加して、アプリケーション内ガイダンスをより魅力的なものにします。アニメーション.gif を使用すると、プロンプト内でガイダンスがさらに明確になります。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

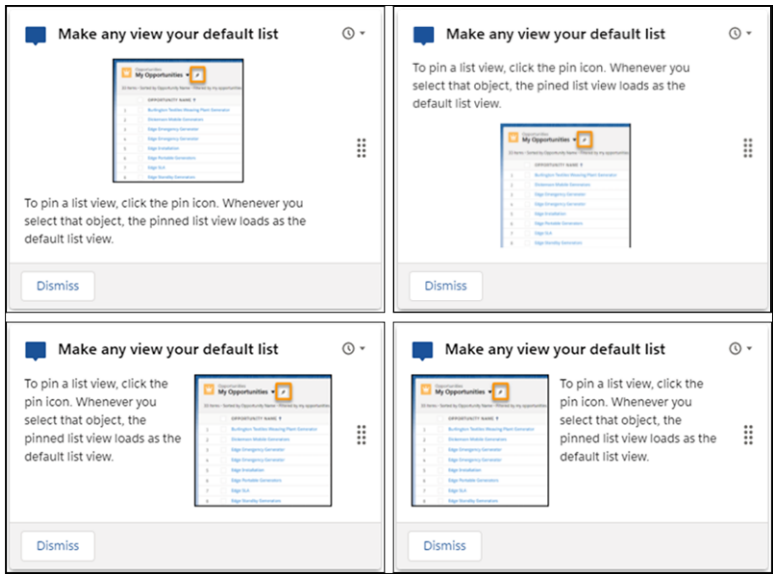
方法:アプリケーション内ガイダンスビルダーで画像をプロンプトに追加します。Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーション内ガイダンス」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。プロンプトを作成するときに [ファイルをアップロード] をクリックするか、ファイルを [またはファイルをドロップ] 領域にドラッグします。



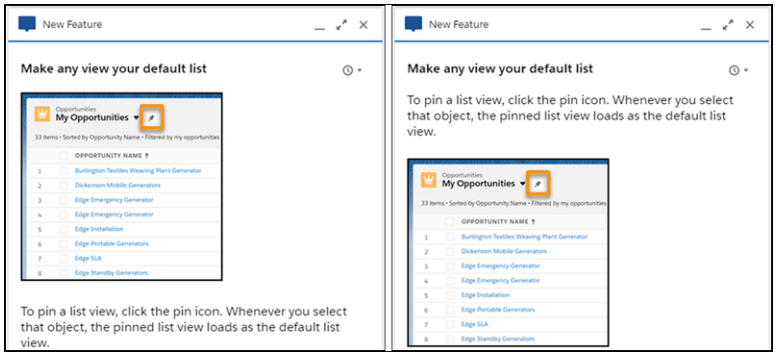
[画像レイアウト] で、プロンプトのテキストを基準とする画像の相対的な場所を選択します。



画像は、示されている場所のいずれかに表示されます。フロート表示プロンプトの場合、本文テキストの上、下、右、または左を選択します。



ドッキングプロンプトの場合、本文テキストの上または下を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での応答画面の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのウォークスルーの定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Add pictures to in-app guidance (アプリケーション内ガイダンスへの写真の追加)

アプリケーション内ガイダンスを一時停止して後で表示

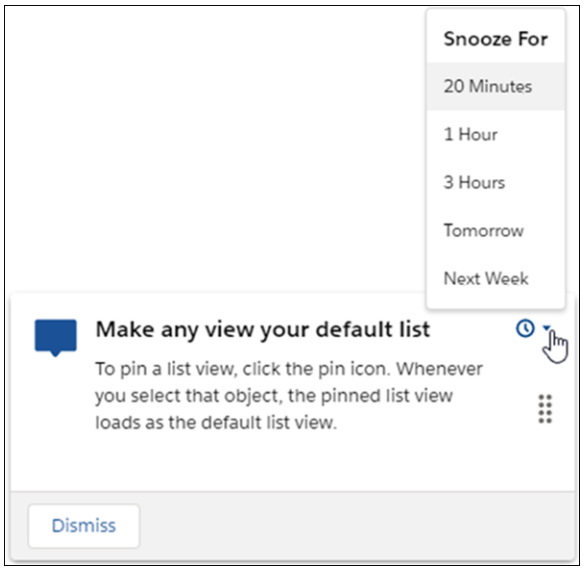
ユーザはすべてのアプリケーション内ガイダンスで一時停止オプションを使用できるようになりました。一時停止を使用すると、ユーザは、スケジュールされた次の表示を待つことなく、選択した期間、アプリケーション内ガイダンスを一時的に無視できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 一時停止アイコンはフロート表示プロンプトの [X] を置き換え、ドッキングプロンプトの本文に含まれるため、ユーザがアプリケーション内ガイダンスを閉じることはありません。

方法: アプリケーション内ガイダンスを一時停止するには、一時停止アイコンをクリックし、[20 分]、[1 時間]、[3 時間]、[明日]、または [来週] を選択します。

メモ: [アプリケーション内ガイダンス間の遅延] 設定は引き続き適用されます。一時停止を使用すると、次のスケジュール時間で一時停止時間が期限切れになった後、ユーザがページに移動すると、アプリケーション内ガイダンスを表示できます。



関連トピック:

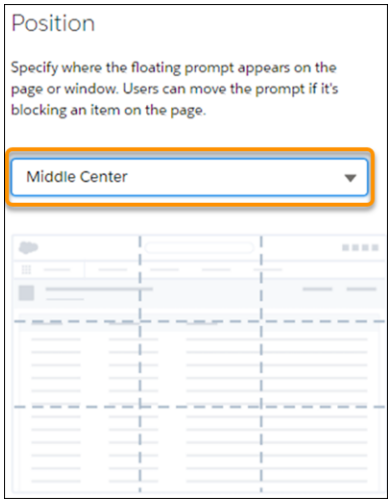
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フロート表示プロンプトのより多くの位置の選択

3 個の新しい中央行レイアウトオプションを使用して、フロート表示プロンプトを中央に配置するか、参照しているコンポーネントの近くに配置します。合計 9 個の範囲を使用して、ユーザの注意を画面の特定の領域に向けます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: アプリケーション内ガイダンスビルダーでフロート表示プロンプトを作成するときに、[位置] ドロップダウンメニューを使用して、9 個の異なるプロンプト位置から選択します。



関連トピック:

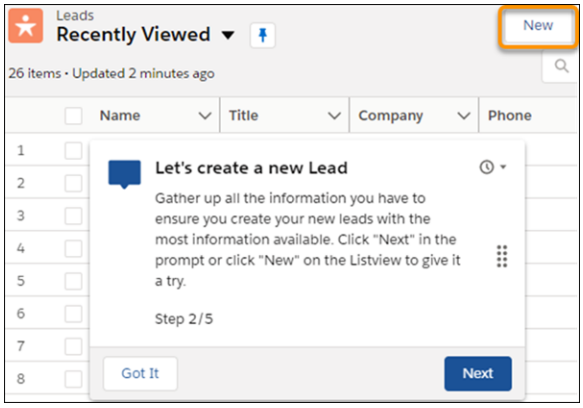
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での応答画面の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新規作成ページ、編集ページ、およびコピーページを超えるウォークスルーステップの追加

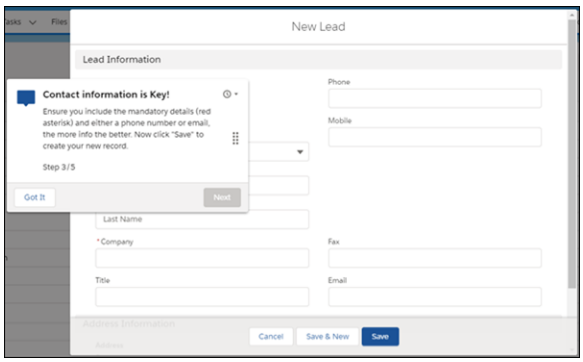
ウォークスルーで、レコードの作成、編集、コピーのプロセス全体を記述できるようになりました。以前は、ウォークスルーステップをダイアログに追加すると、その後のステップをダイアログ以外のページに追加できませんでした。ユーザがダイアログとのやり取りを終了した後、ステップを追加できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

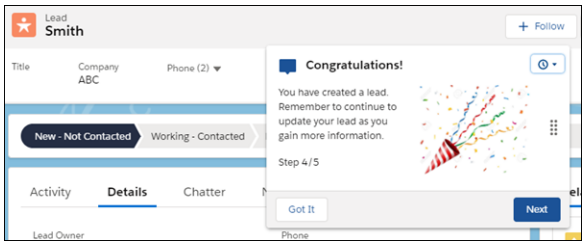
理由: 新規ダイアログを使用するステップと新規ダイアログを超えるステップを含め、ToDo の完了方法についてユーザを教育するウォークスルーを追加します。たとえば、新規リードの作成手順をユーザに示します。リードレコードページから、[新規] ボタンをクリックして [新規リード] ダイアログを開くようにユーザに指示します。



新規リードを作成するまでユーザをガイドします。

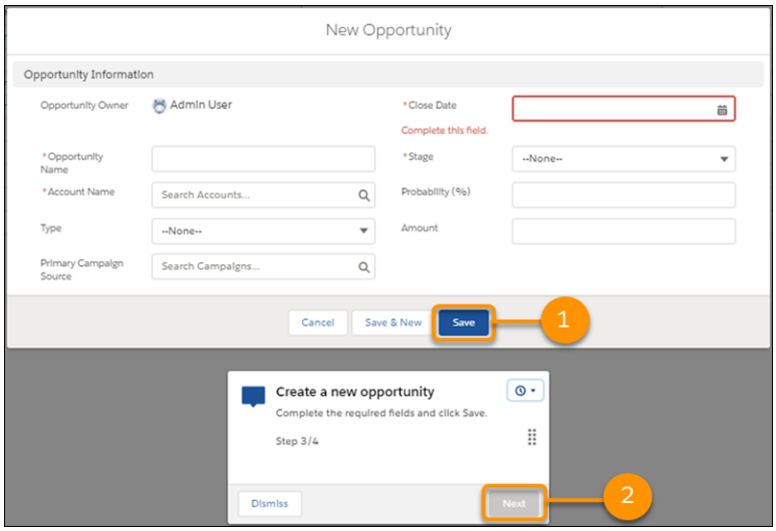


ユーザが新規リードの情報を保存したら、ウォークスルーはダイアログ以外のページ (新規リードのレコードページ) に移動します。



方法: 他のページと同様に、レコードの新規作成ページ、編集ページ、またはコピーページ種別にウォークスルーステップを追加します。1つ以上のステップをページに含めます。ユーザがページのアクション (1) を完了したら、ウォークスルーは次のステップに進みます。

メモ: ユーザがページのアクション (1) を完了した後、次のステップが自動的に表示されると、ウォークスルーステップの [次へ] ボタンは無効化 (2) されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのウォークスルーの定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

共有可能な URL を使用した有効なアプリケーション内ガイダンスへのアクセス

アプリケーション内ガイダンスが有効であれば、ユーザはアプリケーション内ガイダンスにいつでもアクセスできるようになりました。以前は、ユーザに URL を送信するか、ヘルプメニューのカスタムセクションに URL を追加するか、アクションボタンを作成することで、アプリケーション内ガイダンスのリンクをユーザと共有した場合、スケジュール、プロファイル、権限ルールの影響を受けました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: アプリケーション内ガイダンスビルダー内の [設定] から、または [アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページの行レベルのアクションメニューから共有可能な URL にアクセスします。

メモ: [アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページからアクセスする [設定] 内の [カスタムアプリケーション内ガイダンス] を選択解除している場合、カスタムアプリケーション内ガイダンスへのアクセスは引き続きブロックされます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ヘルプメニューのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: アプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

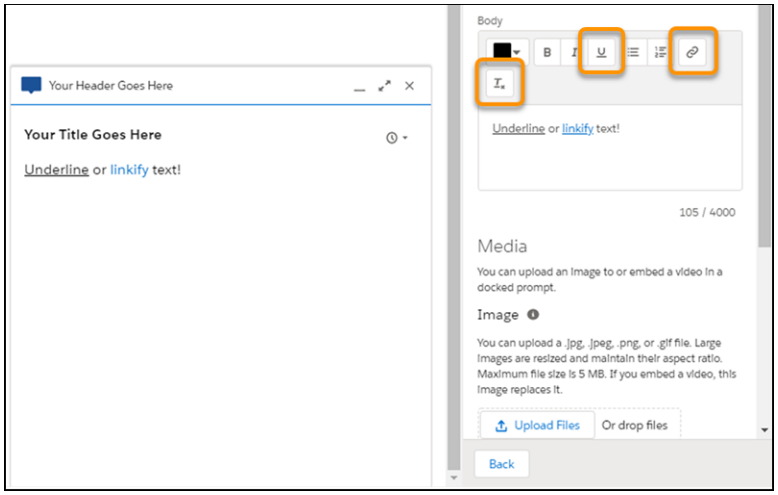
ドッキングプロンプトでのより詳細なリッチテキスト編集

ドッキングプロンプトの本文テキストで創造性を発揮します。ドッキングプロンプトの本文テキストに下線やリンクを追加したり、本文テキストから書式設定を削除したりできるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 下線を追加してテキストを強調します。アクションボタンに加えて本文テキストにリンクを追加して、さらに多くの情報やリソースにユーザを転送します。貼り付けたコンテンツから書式設定を削除したり、適用された書式設定を削除したりします。

方法: アプリケーション内ガイダンスビルダーを使用して、ドッキングプロンプトを作成します。[本文] 項目で対象のテキストを強調表示して、リッチテキスト編集ツールバーから [下線]、[リンク]、または [削除] 書式設定をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での応答画面の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

iPad でのフロート表示プロンプトの移動

フロート表示プロンプトの配置に注意を払っても、強調している機能が見えなくなってしまうことがあります。 iPad Safari の Lightning Experience **でフロート表示プロンプトを再配置できるようになりました。**

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: アプリケーション内ガイダンスに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforceのシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。

対象: 使用可能なアプリケーション内コンテンツは、機能によって異なります。

理由: 独自のプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、情報が重複しないようにします。

Salesforce は次のプロンプトを追加しました。

- 見積を操作しているときにシステム管理者に Salesforce CPQ を紹介するドッキングプロンプト。
- 見積を操作しているときにシステム管理者に Salesforce CPQ を紹介するドッキングプロンプト。システム管理者にのみ表示されます。
- 多要素認証アシスタントについてシステム管理者に知らせ、実装パスを完了する前に終了した場合にステージのガイドを提供するフロート表示プロンプト。
- リリース準備状況に関する資料を強調表示するフロート表示プロンプト。システム管理者にのみ表示されます。
- 一連の機能(Chatter、ホーム、レポート、リストビュー、商談など)とそれらのカスタマイズ方法を強調表示するプロンプト。ガイダンスセンター内でもリストされます。新しい Salesforce 組織を持つシステム管理者にのみ表示されます。
- アプリケーション内学習のガイダンスセンターを使用するようにシステム管理者に促す機能ポップオーバー。システム管理者にのみ表示されます。
- Einstein 商談スコアリングについてのフィードバックをシステム管理者とエンドユーザに求める機能ポップオーバー。
- コールインサイトの設定ページから Einstein 会話インサイトのカスタムインサイトを設定するようにシステム管理者に促す機能ポップオーバー。
- Pardot と Salesforce の使用を開始するためのリソースを提供する歓迎メッセージ。

[アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページから、Salesforce によって作成されたアプリケーション内コンテンツを無効にできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での Salesforce アプリケーション内コンテンツ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーション内への Trailhead 学習環境の取り込み (ベータ)

アプリケーション内 Trailhead 学習を使用し、ユーザが作業している場所から学習環境に容易にアクセスできるようにすることでトレーニングプログラムを強化します。システム管理者または指定されたトレーニング講師は、公開モジュールまたは myTrailhead モジュールを選択して、学習パネルをカスタマイズします。モジュールの表示場所を選択し、モジュールを特定のユーザまたは公開グループに割り当てて、ユーザのコンテキストに学習を一致させます。Trailblazer が作業の流れの中でモジュールを読み、テストを受けて、バッジを獲得できるようにします。

メモ: アプリケーション内Trailhead学習はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

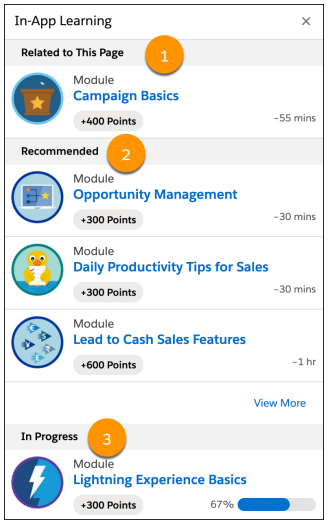
対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

対象ユーザ: すべてのユーザには、グローバルヘッダーにある新しいアイコンとパネルが表示されます。「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習の目的を通じてユーザに学習を割り当てることができます。トレーニング担当者やセールスリードなどに学習を管理する権限を付与するには、「Manage Learning (学習の管理)」ユーザ権限を使用します。

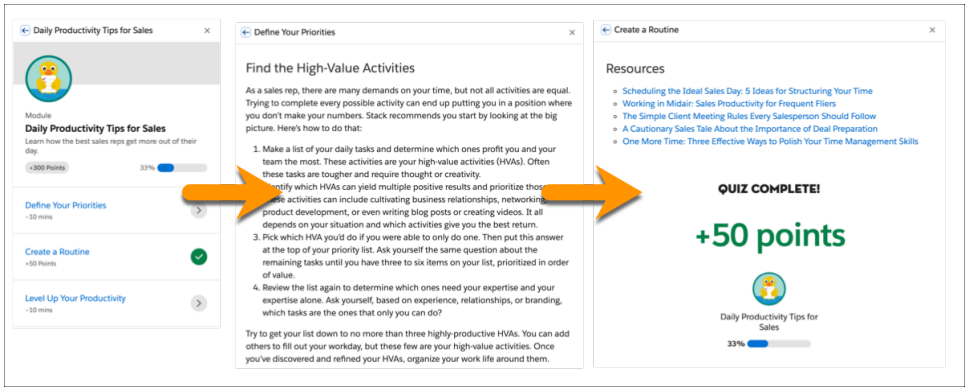
理由: アプリケーションから離れることなく、必要なスキルを必要なときに学習します。以前は、ユーザはヘルプメニューから新しいタブでモジュールを開くか、Trailhead Webサイトに移動してコンテンツを検索していました。グローバルヘッダーにある新しいTrailheadアイコンをクリックするだけでパネルが開くようになりました。ユーザはワークスペース内でTrailheadの楽しい学習機会を体験することができます。



アプリケーション内学習パネルには最大3個のセクションがあります。モジュールが特定のオブジェクトに関連付けられている場合、そのモジュールはオブジェクトのホームページとレコードページの両方で[このページに関連] (1) の下に表示されます。他のグローバルに割り当てられたモジュールは[おすすめ] (2) の下に表示されます。Trailblazer.meプロファイルの一部となっているSalesforce関連のアカウントをユーザが持っている場合、ユーザが開始したモジュールは[処理中] (3) の下に表示されます。また、アプリケーション内で獲得したすべてのバッジがプロファイルに含まれます。

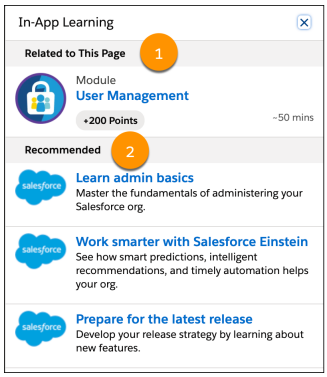


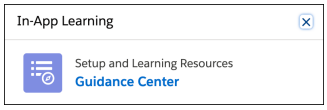
学習を開始するには、モジュールをクリックして、単元名をクリックします。Trailhead Web サイトのモジュールと同様にテストを受けます。



システム管理者のみがこれらの項目をデフォルトで表示できます。これらは、アプリケーション内学習のカスタマイズ後も残ります。

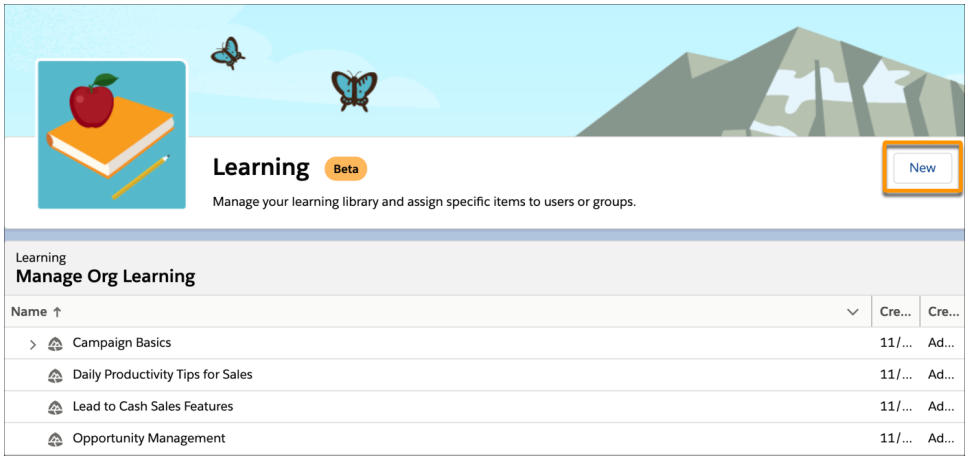
- アプリケーション内学習の可能性を感じてもらうため、セールス、サービス、および設定アプリケーションのいくつかのページでこのパネルの [このページに関連] セクション (1) にモジュールを入力しています。
- [おすすめ] (2) では、リリース準備状況、Salesforce Einstein、および Lightning Experience に関する 3 つのモジュール学習リストを選定しました。
- 新しい組織のシステム管理者は、ガイダンスセンターで組織の設定に役立つパーソナライズされたおすすめへのリンクを参照できます。[関連トピック] で関連するリリースノートを参照して詳細を確認してください。





パネルには、エンドユーザ向けのSalesforce推奨モジュールは含まれていません。システム管理者または指定されたトレーニング講師は、Trailhead モジュールを選択して特定の利用者および場所に割り当てることで、パネルをカスタマイズします。

方法:グローバルヘッダーでアプリケーション内学習のアイコンをクリックします。パネルの下部にある[ユーザに学習を割り当て]をクリックして、[学習]を開きます。[学習]にはアプリケーションランチャーからアクセスすることもできます。次に、[新規] をクリックして、学習項目を作成するためのフォームを開きます。



まず、モジュールを選択します。myTrailhead がある場合は、究極のカスタムトレーニング環境用の独自のモジュールを追加します。次に、[設定]でアプリケーションとオブジェクトまたはページを選択して、モジュールを表示する場所を選択します。また、[すべて]を選択して、モジュールを組織全体、アプリケーション全体に表示するか、すべてのアプリケーションで同じオブジェクトに表示することもできます。次に、モジュール

をすべてのユーザ、特定のユーザ、または公開ユーザグループに表示します。パネルに表示しない学習項目を作成する場合は、学習項目を誰にも割り当てないでください。

関連トピック:

- Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得
- myTrailhead
- *Salesforce* ヘルプ: アプリケーション内 Trailhead 学習 (ベータ) のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience ヘルプメニューのカスタムヘルプの定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- アプリケーション内 Trailhead 学習を使用した作業の流れの中での学習 (ベータ)

Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得

Salesforce の最初の実装または最新の実装を開始しているかにかかわらず、ガイダンスセンターでは、新しい Salesforce 組織のシステム管理者に、その経験レベルとビジネス目標に一致するパーソナライズされた設定リソースが提供されます。ロールアウトの計画、セールスとサービスの基本機能の設定、データの管理と保護、成功のためのユーザの設定などについて学習します。

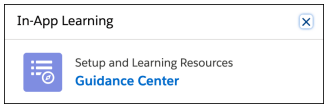
対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Spring '21 のリリース以降に作成された組織の「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者には、アプリケーション内 Trailhead 学習でガイダンスセンターへのリンクが表示されます。

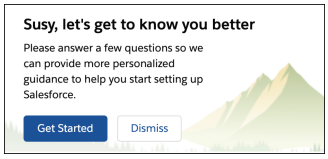
方法: グローバルヘッダーでアプリケーション内 Trailhead 学習 (ベータ) のアイコンをクリックすることで、時間や場所を問わず正式リリースされたガイダンスセンターに容易にアクセスし、設定アシスタンスを取得できます。学習パネルはすべてのユーザが使用できますが、ガイダンスセンターへのリンクはシステム管理者のみに表示されます。

メモ: アプリケーション内 Trailhead 学習はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

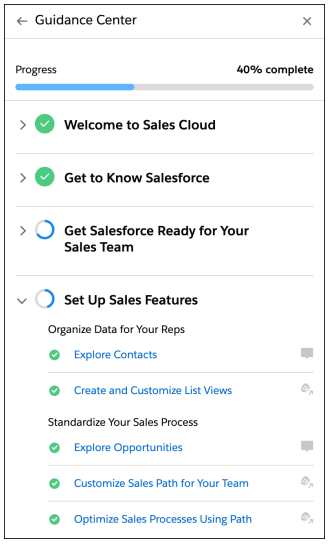




ガイダンスセンターを初めて開くときに、いくつかの質問に回答し、セールスおよびサービスアプリケーションの経験レベルとビジネス目標に合わせてガイダンスをパーソナライズします。回答を送信した後、組織を設定するときに、調整された一連の Trailhead モジュール、動画、プロンプト、および他のリソースを確認します。



ガイダンスセンターのおすすめはグループ化されています。リンクを順番にクリックすることをお勧めしますが、自由に探索しても構いません。タイトルの横にあるアイコンではリソースの種別を認識できます。リソースをクリックすると、リソースは完了としてマークされるため、進行状況を追跡することができます。



関連トピック:

- アプリケーション内への Trailhead 学習環境の取り込み (ベータ)
- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce の設定中にパーソナライズされたガイダンスを取得 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce アンケート

フローでアクションを使用してアンケートでより多くのことを行います。アンケートをスケジュールしたり、リマインダーを送信したり、アンケートに再度招待できる参加者を特定したりします。アンケート招待ルールを使用してアンケートを特定の参加者グループに送信することで、焦点を絞ったデータを収集し、アクション可能なインサイトを得ます。Salesforce組織で定義されている組織の共有メールアドレスを使用してアンケートを送信します。アンケート内の短いテキストの質問に参加者がどのように回答したかを検証します。進行状況バーを挿入して、参加者にアンケートの進行状況を示します。

このセクションの内容:

フローで定義された新しいアクションによるアンケートのスケジュールなど

フローを使用してさまざまな間隔で参加者のフィードバックを収集するアンケートを送信します。特定の参加者を対象にし、アンケートを完了するリマインダーを送信します。また、どの参加者を再度招待するかを確認します。フロービルダーでアクション要素を使用して、アンケートのアクションを追加します。Salesforce 組織のリード、取引先責任者、およびメンバーにアンケートを送信します。招待は、特定の受信者に対して一意で未認証にすることができ、受信者は回答を匿名で記録できます。

ルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定

ルールベースのアンケートを送信して、参加者からより焦点を絞ったデータを収集します。SurveySubject サポート対象オブジェクトのレコードが作成または更新されたときに、アンケートを送信するルールを作成します。より多くのインサイトを得るには、顧客エンゲージメントコンテキストを設定して、対象となるグループに関する情報を収集します。

顧客ライフサイクルマップでのルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定

顧客ライフサイクルマップから特定の参加者にルールベースのアンケートを送信することで、アクション可能なインサイトを得ることができます。SurveySubject サポート対象オブジェクトのレコードが作成または更新されたときに、アンケートを送信するルールを作成します。より多くのインサイトを得るには、顧客エンゲージメントコンテキストを設定して、対象となるグループに関する情報を収集します。

別名を使用したアンケートの送信

Salesforce 組織で定義された組織の共有メールアドレスから参加者にアンケートを送信します。別名を使用してアンケートを送信すると、送信者は匿名のままアンケートから公平な回答を受け取ることが容易になります。

Web ページへのアンケートの埋め込み

意思決定に影響する可能性がある Web サイト訪問者からのフィードバックを収集するために、Web ページにアンケートを埋め込むことができるようになりました。

参加者からのショートテキストの回答の入力規則

参加者がアンケートのショートテキストの質問に回答できる方法を示す入力規則を追加します。たとえば、参加者はカスタム入力規則の数式 (回答を特定の文字に制限するなど) に基づいて、数値を入力したり回答を追加したりできます。デフォルトでは、入力規則は適用されません。

参加者へのアンケート完了状況の表示

進行状況バーでは、アンケート完了までの進行状況を参加者に示します。デフォルトでは、作成した各アンケートで進行状況バーが有効になっています。

アンケートの回答の暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、参加者の回答とアンケートで収集された情報の保護を強化します。システム管理者などの Salesforce ユーザから寄せられた回答を暗号化します。Shield Platform Encryption を使用すると、規制による義務に準拠するためにも役立ちます。

エンゲージメントチャネルのパフォーマンスの監視およびカスタマーエクスペリエンスの改善

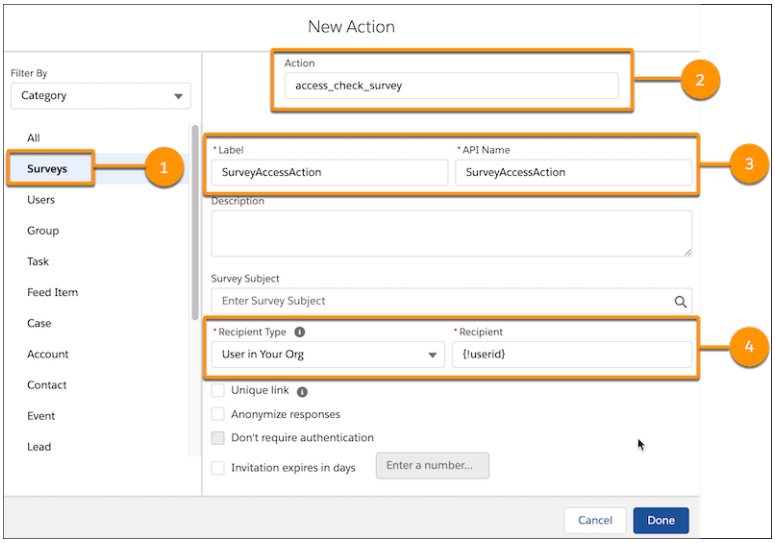
顧客ライフサイクルフェーズ全体でエンゲージメントチャネルのパフォーマンスを追跡します。拡張Customer Lifecycle Map ダッシュボードを使用して、チャネル別にネットプロモータースコア (NPS) と顧客満足度 (CSAT) に基づいて顧客エンゲージメントを分析します。

フローで定義された新しいアクションによるアンケートのスケジュールなど

フローを使用してさまざまな間隔で参加者のフィードバックを収集するアンケートを送信します。特定の参加者を対象にし、アンケートを完了するリマインダーを送信します。また、どの参加者を再度招待するかを確認します。フロービルダーでアクション要素を使用して、アンケートのアクションを追加します。Salesforce組織のリード、取引先責任者、およびメンバーにアンケートを送信します。招待は、特定の受信者に対して一意で未認証にすることができ、受信者は回答を匿名で記録できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をフローにドラッグします。カテゴリとして [アンケート] (1) を選択します。[アクション] (2) リストで、組織で使用可能な有効なアンケートのリストから選択します。アンケートへの招待で送信されるアクション (3) の表示ラベルと受信者 (4) を定義します。



関連トピック:

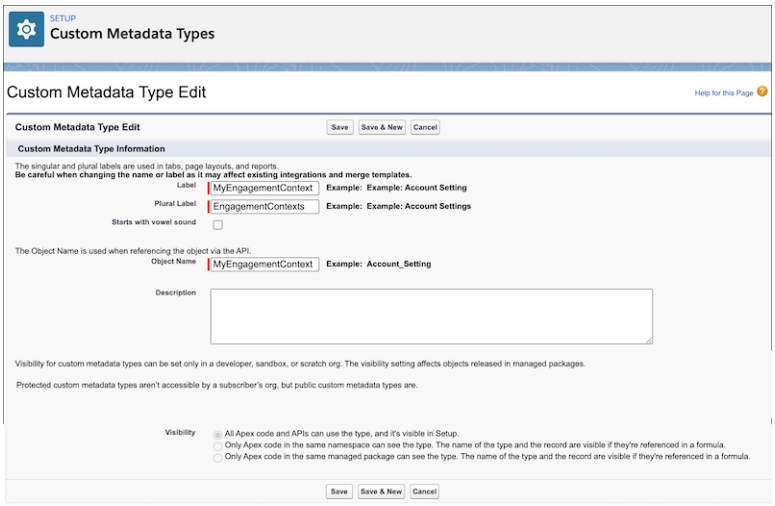
リリースノート: フローで定義された新しいアクションによるアンケートのスケジュールなど

ルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定

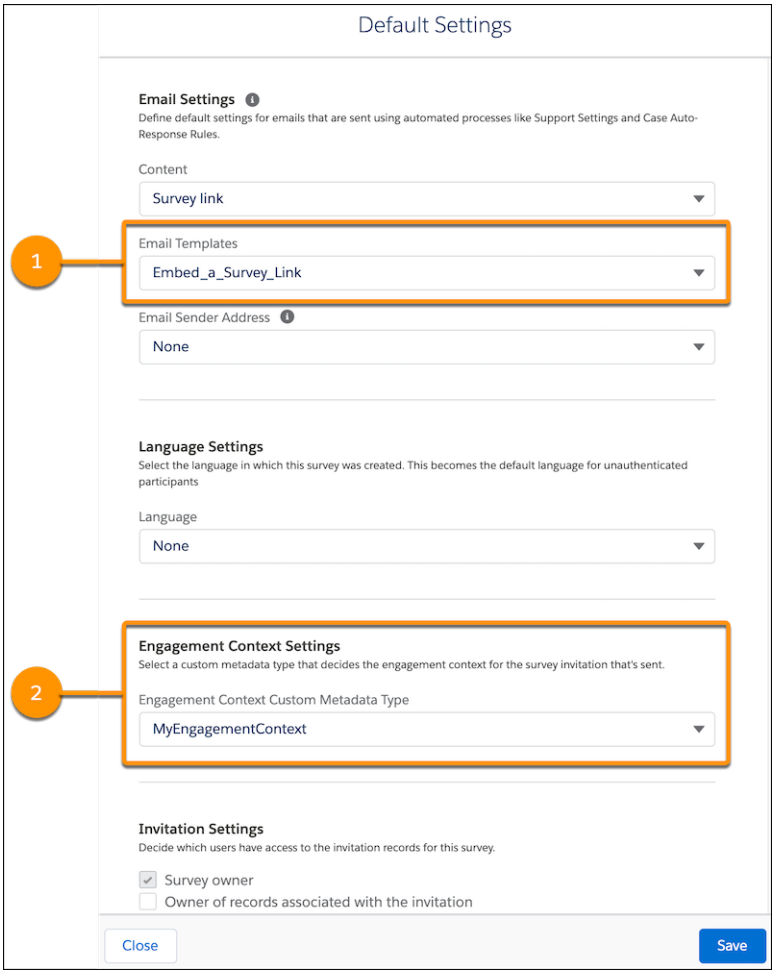
ルールベースのアンケートを送信して、参加者からより焦点を絞ったデータを収集します。SurveySubject サポート対象オブジェクトのレコードが作成または更新されたときに、アンケートを送信するルールを作成します。より多くのインサイトを得るには、顧客エンゲージメントコンテキストを設定して、対象となるグループに関する情報を収集します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

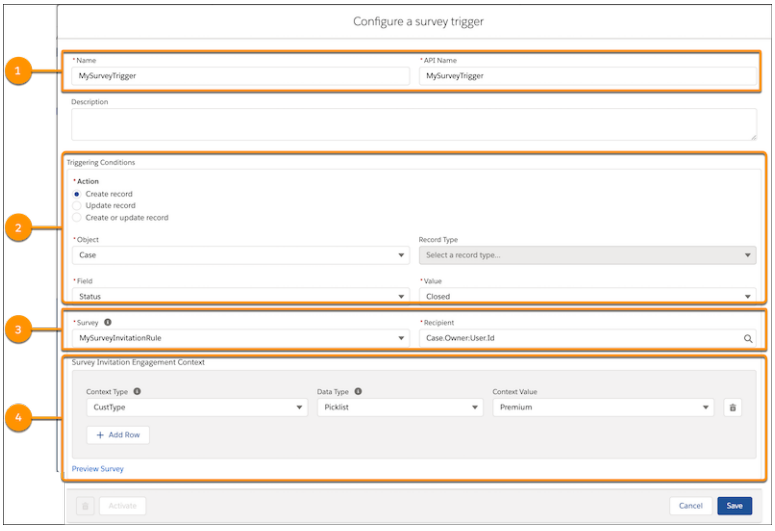
方法: エンゲージメントコンテキストを収集するには、カスタムメタデータタイプを作成し、エンゲージメントコンテキストに必要なパラメータを定義します。



アンケートの [デフォルト設定] で、メールテンプレート (1) を選択し、エンゲージメントコンテキスト設定 (2) を有効にし、保存してから、アンケートビルダーでアンケートを有効にします。



[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アンケートへの招待ルール*」と入力し、[アンケートへの招待ルール] を選択します。[新規ルール]をクリックします。アンケートルールの名前を指定します (1)。SurveySubject サポート対象オブジェクトに対して作成 (2) または更新されるレコードのタイプを定義します。参加者に送信されるアンケートを選択します (3)。特定の参加者からフィードバックを収集するには、アンケートエンゲージメントパラメータを定義します (4)。ルールが有効なことを確認します。

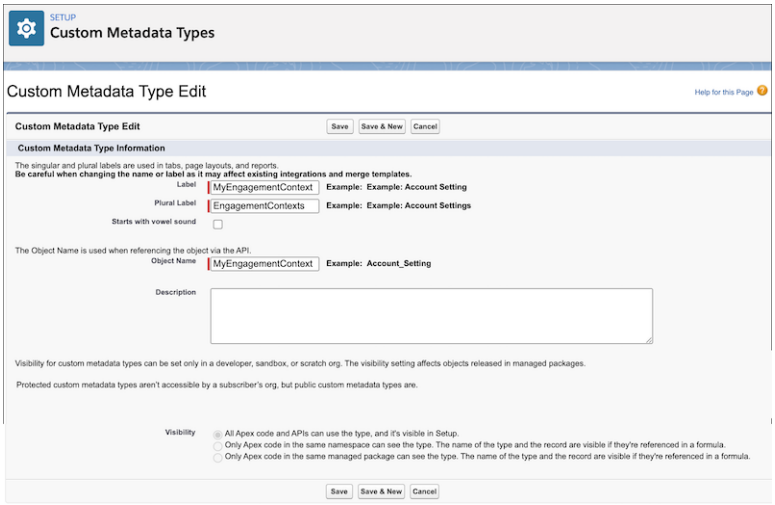


顧客ライフサイクルマップでのルールを使用した特定のアンケート参加者の対象設定

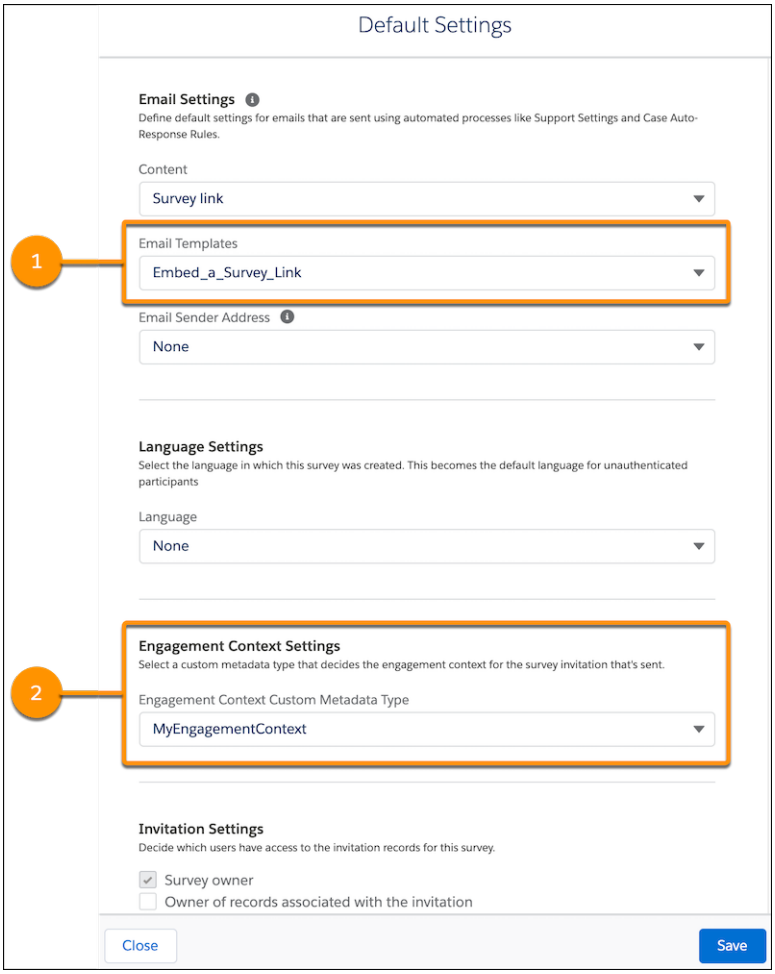
顧客ライフサイクルマップから特定の参加者にルールベースのアンケートを送信することで、アクション可能なインサイトを得ることができます。SurveySubject サポート対象オブジェクトのレコードが作成または更新されたときに、アンケートを送信するルールを作成します。より多くのインサイトを得るには、顧客エンゲージメントコンテキストを設定して、対象となるグループに関する情報を収集します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

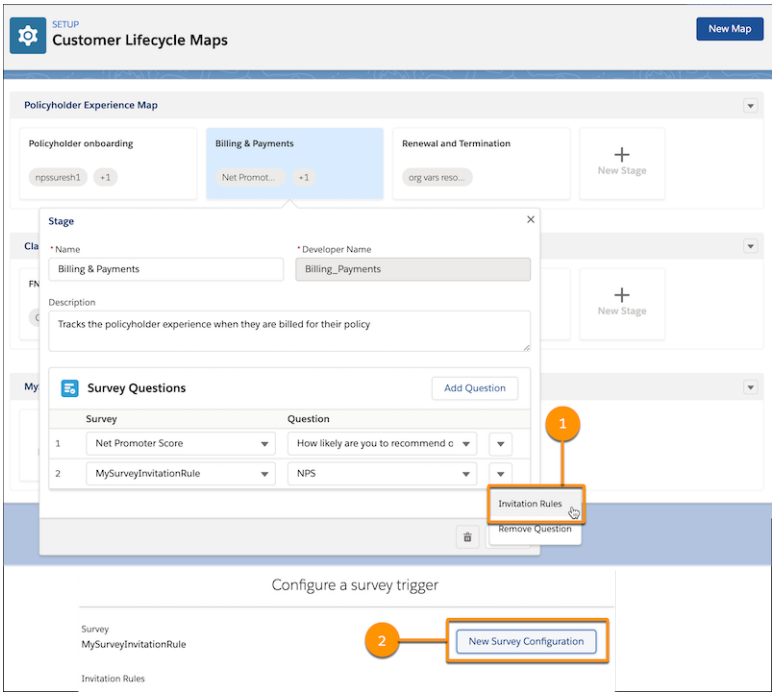
方法: エンゲージメントコンテキストを収集するには、カスタムメタデータタイプを作成し、エンゲージメントコンテキストに必要なパラメータを定義します。



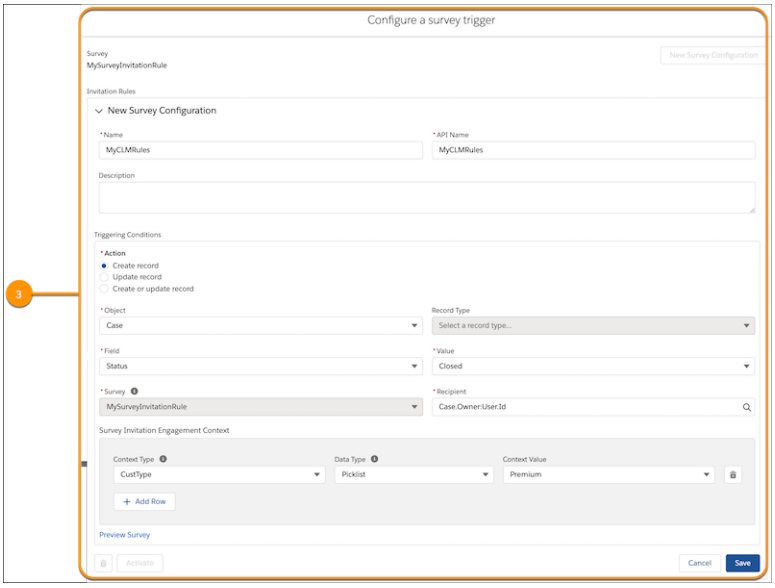
アンケートの [デフォルト設定] で、メールテンプレート (1) を選択し、エンゲージメントコンテキスト設定 (2) を有効にし、保存してから、アンケートを有効にします。



[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*顧客ライフサイクルマップ*」と入力し、設定ページを開きます。既存のマップのフェーズをクリックするか、マップを作成します。メールテンプレートとエンゲージメントコンテキストが設定されているマップフェーズの質問で、[招待ルール] (1) を選択します。[新しいアンケート設定] (2) をクリックするか、既存の設定を編集します。



次に、招待の条件を定義します (3)。ルールが有効なことを確認します。

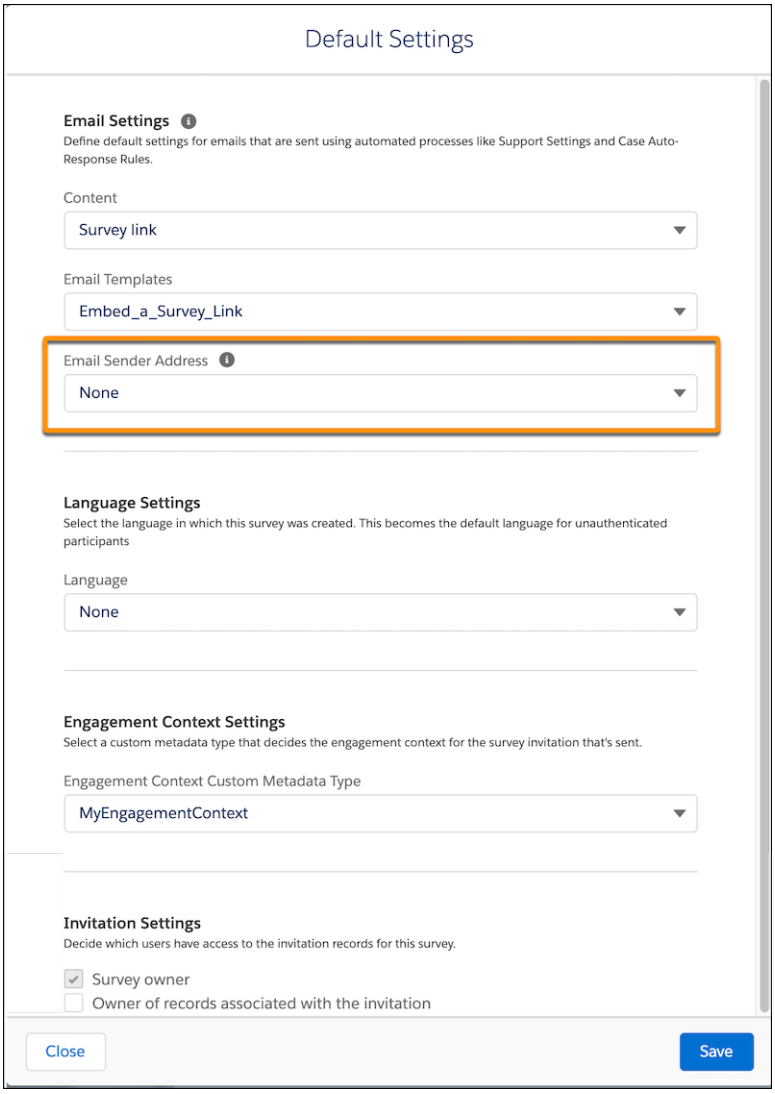


別名を使用したアンケートの送信

Salesforce組織で定義された組織の共有メールアドレスから参加者にアンケートを送信します。別名を使用してアンケートを送信すると、送信者は匿名のままアンケートから公平な回答を受け取ることが容易になります。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートの [デフォルト設定] の [送信者のメールアドレス] で、組織で定義された組織の共有メールアドレスを選択します。



Web ページへのアンケートの埋め込み

意思決定に影響する可能性があるWeb**サイト訪問者からのフィードバックを収集するために、**Web**ページにアンケートを埋め込むことができるようになりました。**

対象:この変更は、Salesforce**アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**

対象ユーザ:アンケートを埋め込むには、Salesforce Feedback Management**ライセンスで使用できる「**Salesforce**アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。**

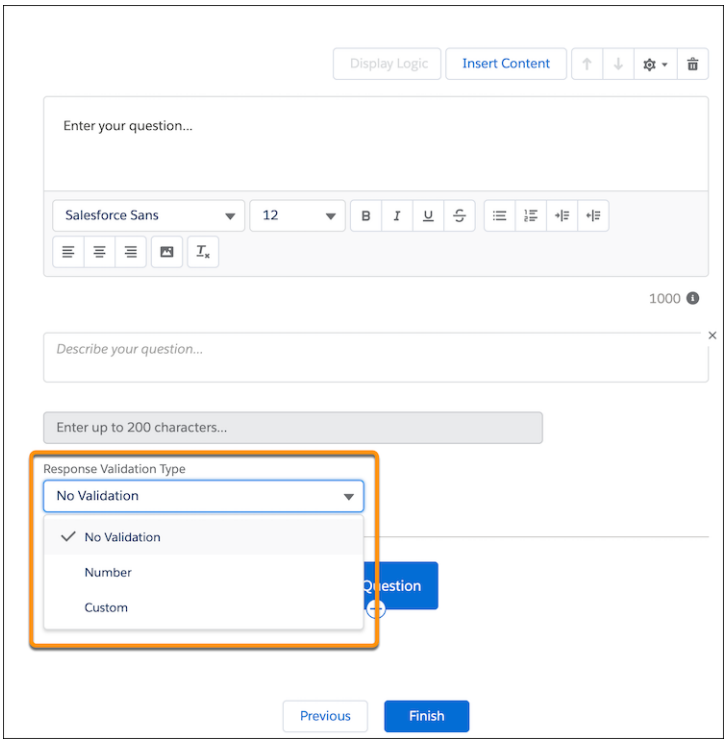
方法: Web**ページの** HTML **コードで、**iframe**タグを追加し、未認証のアンケートへの招待リンクを埋め込みます。**`<iframe src="embed_the_survey_invitation_url"></iframe>` **形式で** iframe **タグを追加します。**

参加者からのショートテキストの回答の入力規則

参加者がアンケートのショートテキストの質問に回答できる方法を示す入力規則を追加します。たとえば、参加者はカスタム入力規則の数式(回答を特定の文字に制限するなど)に基づいて、数値を入力したり回答を追加したりできます。デフォルトでは、入力規則は適用されません。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ショートテキストの質問をアンケートに追加します。[回答の入力規則種別] リストから、参加者の回答に適用する入力規則を選択します。

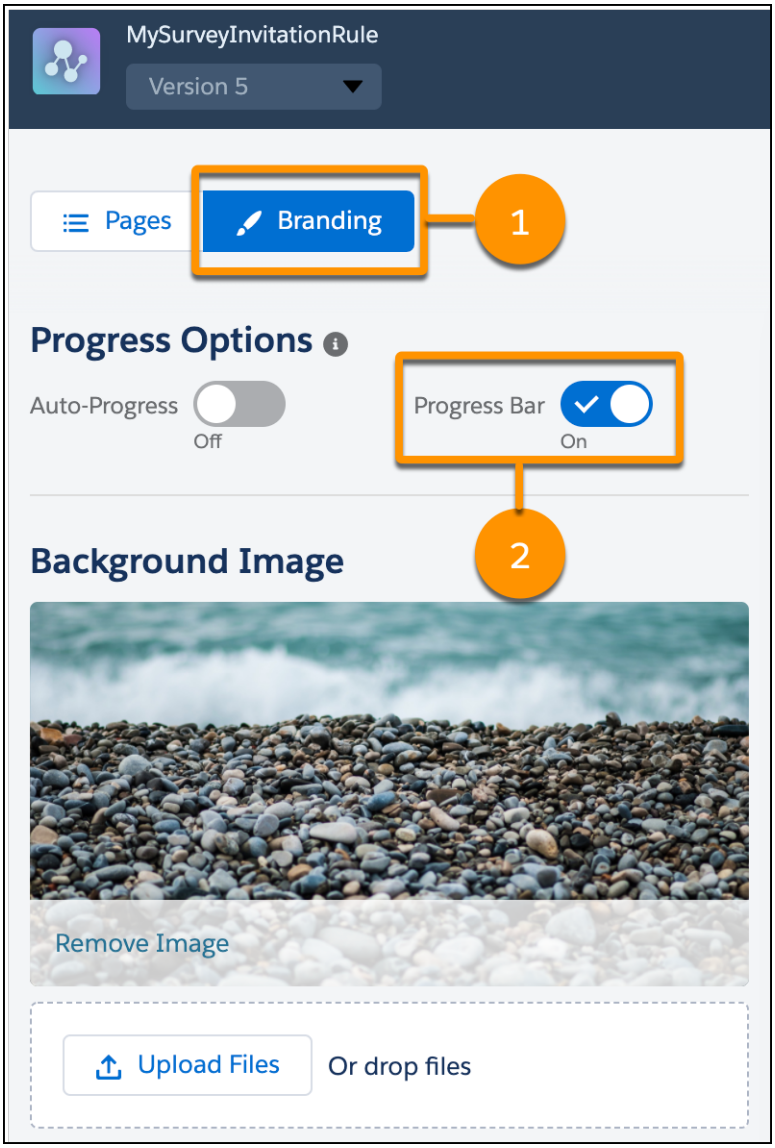


参加者へのアンケート完了状況の表示

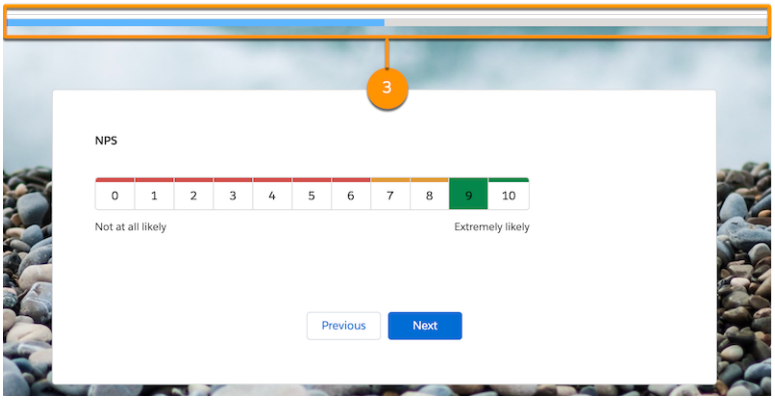
進行状況バーでは、アンケート完了までの進行状況を参加者に示します。デフォルトでは、作成した各アンケートで進行状況バーが有効になっています。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートで [ブランド] (1) をクリックし、[進行状況バー] (2) を有効化または無効化します。



アンケートを実行すると、進行状況バー (3) が上部に表示されます。



アンケートの回答の暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、参加者の回答とアンケートで収集された情報の保護を強化します。システム管理者などの Salesforce ユーザから寄せられた回答を暗号化します。Shield Platform Encryption を使用すると、規制による義務に準拠するためにも役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Salesforce Shield および Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入し、Salesforce アンケートを有効にしたお客様が使用できます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに *「暗号化ポリシー」* と入力し、[項目を暗号化] を選択します。[編集] をクリックして、項目を選択します。アンケートの質問への回答オブジェクトの項目では、確率的暗号化スキームがサポートされます。

関連トピック:

- アンケートで送信された情報の暗号化

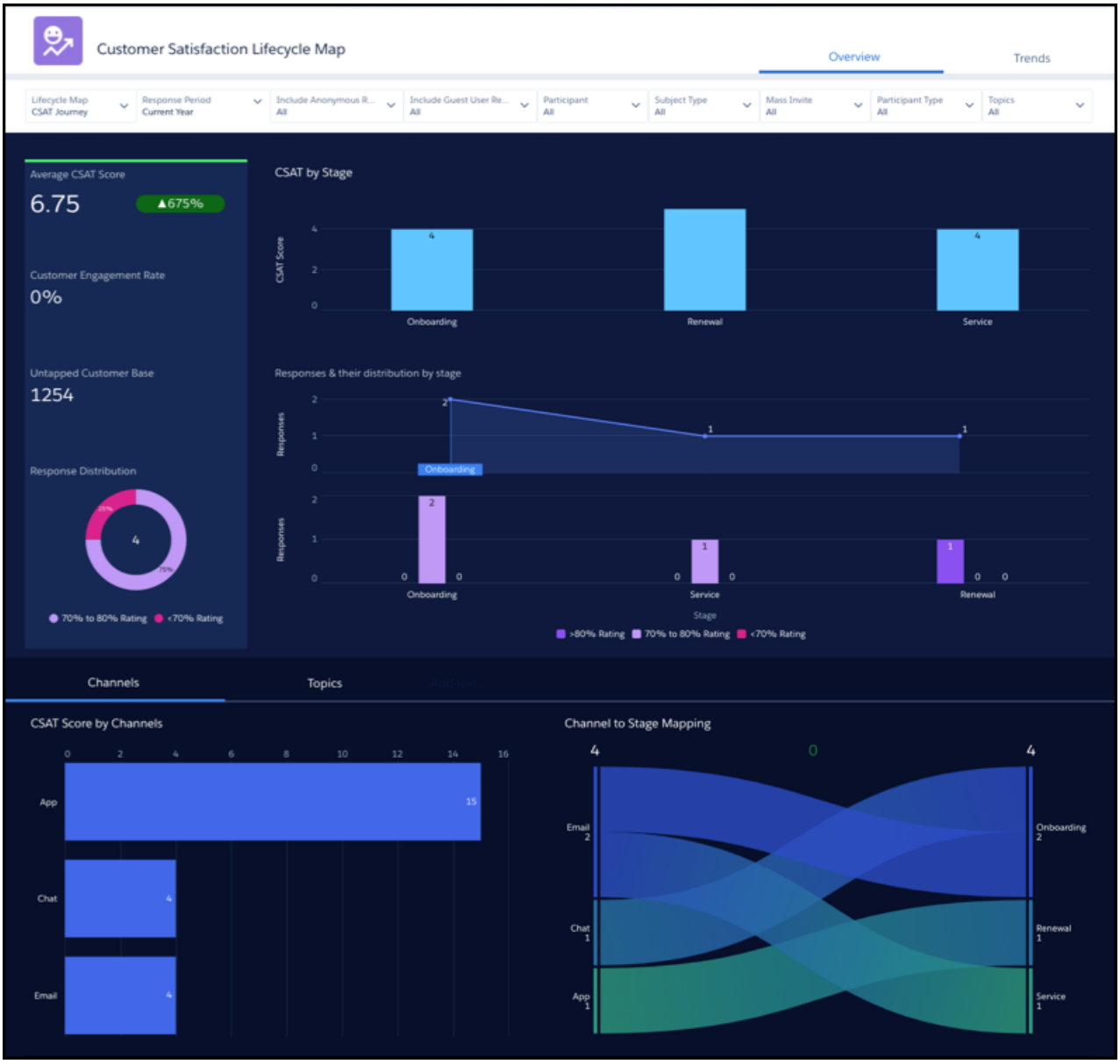
エンゲージメントチャネルのパフォーマンスの監視およびカスタマーエクスペリエンスの改善

顧客ライフサイクルフェーズ全体でエンゲージメントチャネルのパフォーマンスを追跡します。拡張Customer Lifecycle Map ダッシュボードを使用して、チャネル別にネットプロモータースコア (NPS) と顧客満足度 (CSAT) に基づいて顧客エンゲージメントを分析します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Customer Lifecycle Map ダッシュボードを使用するには、Salesforce Feedback Management ライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[すべての項目] をクリックし、[アプリケーション] タブを選択して、自分のアプリケーションを選択します。[ダッシュボード] タブをクリックし、Customer Lifecycle Map ダッシュボードを開いて、エンゲージメントチャネル (メール、チャット、Web サイトなど) のパフォーマンスを監視します。



Salesforce Scheduler

Salesforce Scheduler フローと API で新しいサービスリソースの検索条件を使用して予定をスケジュールするときに、サービスリソースとサービステリトリーをより迅速に取得します。Salesforce Scheduler フローの新しい [タイムゾーンのデフォルトの値] 属性を使用して、サービスリソース、サービステリトリー、顧客、またはブラウザのタイムゾーンに応じて予定の時間枠ページのタイムゾーンを設定できます。また、Service Appointments API に PATCH 要求を実行することで、API を介してサービス予定を変更できます。

このセクションの内容:

予定の時間枠のタイムゾーンのプリセット

Salesforce Scheduler フローの新しい [タイムゾーンのデフォルト値] 属性を使用して、予定の時間枠のタイムゾーンを管理します。属性にタイムゾーンを入力して、タイムゾーンのデフォルト値として設定するか、フロー変数を使用して、選択したサービスリソース、サービステリトリー、顧客、またはブラウザのタイムゾーンに応じてタイムゾーンを動的に設定します。

予定の確認ページのタイムゾーンの設定

デフォルトでは、予定の時間枠ページで選択されたタイムゾーンで、スケジュールされている予定時刻が表示されるようになりました。以前は、スケジューラのタイムゾーンで予約時刻が表示されていました。デフォルトの動作を上書きし、[タイムゾーン] 属性を使用して確認ページに別のタイムゾーンを設定できるようになりました。

外部ユーザがタイムゾーンを越えて予定をスケジュールできるようにする

認証済み外部ユーザとゲストユーザは、希望するタイムゾーンで予定の時間枠を表示および選択できるようになりました。[タイムゾーン選択リストを表示] 属性を [True] に設定すると、Salesforce でサポートされるすべてのタイムゾーンのリストが予定の時間枠ページに表示されます。

サービスリソースの絞り込みによるスケジュールの合理化

Salesforce Scheduler フローにサービスリソースの検索条件を適用して、予定をより迅速に、最も適したサービスリソースでスケジュールします。関連するフローページで新しい [リソース ID 別に絞り込み] 属性を使用して、サービスリソース ID のリストを指定します。Salesforce Scheduler は、予定のサービスリソースまたはサービステリトリースロットを取得するときに、指定されたリソースのリストのみを検索します。

前のページの変更

予定のスケジュール中にユーザがページに戻って変更を加えると、それらの変更がフローに反映されるようになりました。前のページで適切な値を選択しなかった場合、ユーザはスケジュール処理をキャンセルして最初からやり直す必要がなくなりました。

他のフローへの Salesforce Scheduler フローの埋め込み

Salesforce Scheduler フロー種別でサブフローがサポートされるようになりました。Salesforce Scheduler フロー種別である別のフロー内から Salesforce Scheduler フローをコールできます。たとえば、ユーザに予定を作成するのか、変更するのかを尋ね、関連フローを起動する、単純な Salesforce Scheduler フローを作成して取引先ページに追加することができます。

Service Appointments API への PATCH 要求による予定の変更

Service Appointments API に PATCH 要求を実行して、API を介してサービス予定を変更できるようになりました。1 回の要求で予定の複数の要素を変更し、時間と労力を節約できます。たとえば、サービスリソースを追加または削除したり、サービステリトリー、予定の時間、予定のトピックを変更したりできます。

Salesforce Scheduler API の更新で迅速化された予定のスケジュール

Get Appointment Candidates API と Available Territory Slots API に、新しい filterByResources 項目が追加され、要求内でサービスリソース ID のリストを指定できるようになりました。Salesforce Scheduler は、予定のサービスリソースまたはサービステリトリースロットを取得するときに、指定されたリソースのリストのみを検索するため、応答時間が短縮されます。また、Get Appointment Candidates API と Available Territory Slots API は、開始時刻から最大 31 日の時間枠を返すようになりました。

Salesforce Scheduler のその他の変更点

その他の小さくても重要な Salesforce Scheduler の変更について説明します。

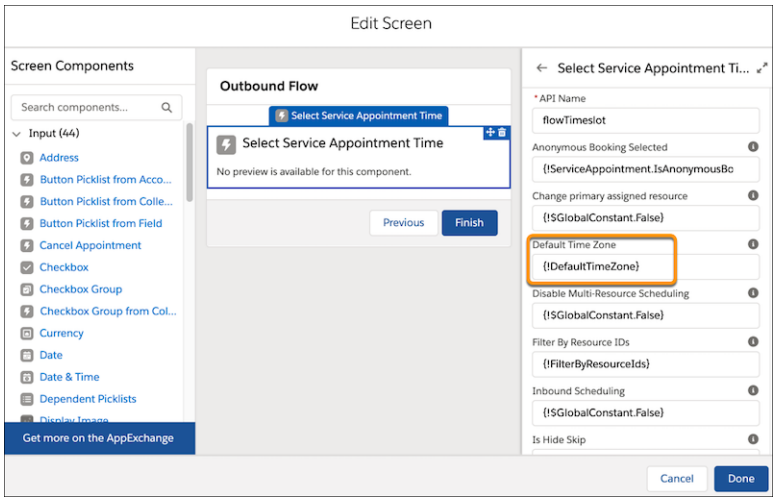
予定の時間枠のタイムゾーンのプリセット

Salesforce Scheduler フローの新しい [タイムゾーンのデフォルト値] 属性を使用して、予定の時間枠のタイムゾーンを管理します。属性にタイムゾーンを入力して、タイムゾーンのデフォルト値として設定するか、フロー変数を使用して、選択したサービスリソース、サービステリトリー、顧客、またはブラウザのタイムゾーンに応じてタイムゾーンを動的に設定します。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [タイムゾーンのデフォルト値] 属性は、予定フローの [サービス予定時間を選択]、[サービスリソースとサービス予定時間を選択]、および [サービスリソースを選択] ページで使用できます。[サービス予定をレビュー] または [受信または送信サービス予定をレビュー] ページで、既存の [タイムゾーン] 属性を使用してのタイムゾーンのデフォルト値を設定します。

- 時間枠ページのタイムゾーンのデフォルト値を設定するには、対応するフロー画面コンポーネントの [タイムゾーンのデフォルト値] 属性にタイムゾーンを入力します。
- すべての時間枠ページに同じタイムゾーンのデフォルト値をすばやく設定するには、提供された DefaultTimeZone フロー変数を使用して属性の値を設定します。
- タイムゾーンを動的に設定するには、属性の値を設定するカスタムロジックを適用します。
- [タイムゾーンのデフォルト値] 属性の値を指定しない場合、時間枠はユーザ (予定スケジューラ) のタイムゾーンで表示されます。

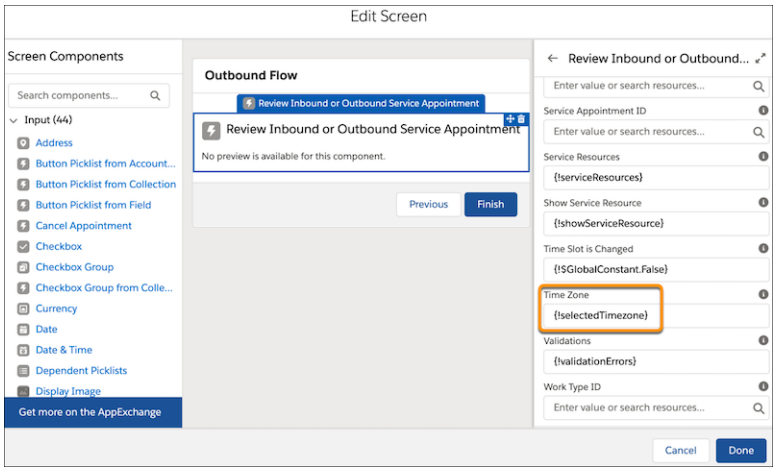


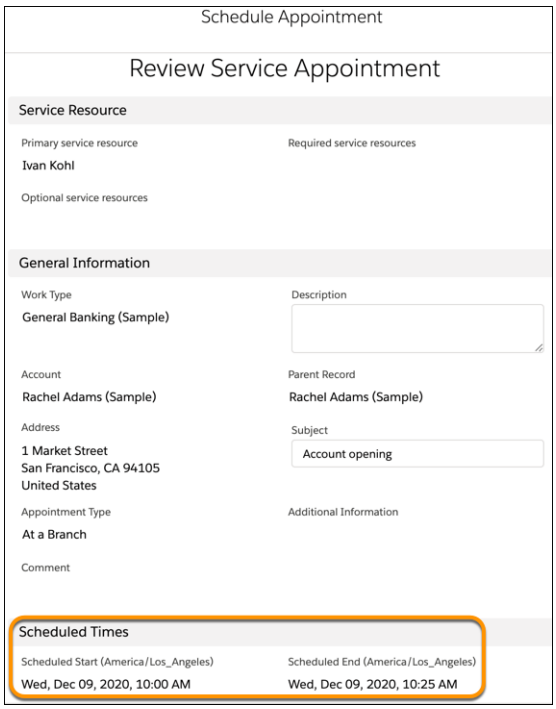
予定の確認ページのタイムゾーンの設定

デフォルトでは、予定の時間枠ページで選択されたタイムゾーンで、スケジュールされている予定時刻が表示されるようになりました。以前は、スケジューラのタイムゾーンで予約時刻が表示されていました。デフォルトの動作を上書きし、[タイムゾーン] 属性を使用して確認ページに別のタイムゾーンを設定できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 確認ページのタイムゾーンを設定するには、対応するフロー画面コンポーネントの [タイムゾーン] 属性で、デフォルト値を特定のタイムゾーンに置き換えます。以前の動作を保持するには、デフォルト値を削除します。



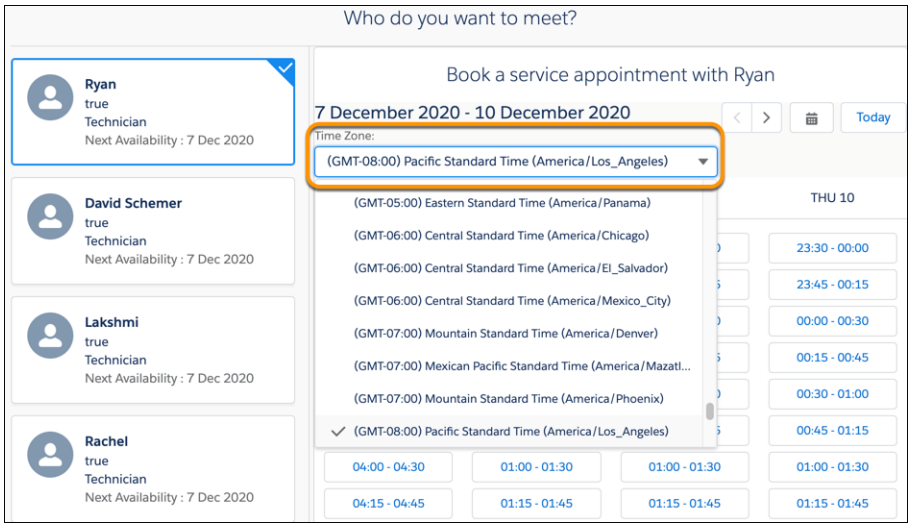


外部ユーザがタイムゾーンを越えて予定をスケジュールできるようにする

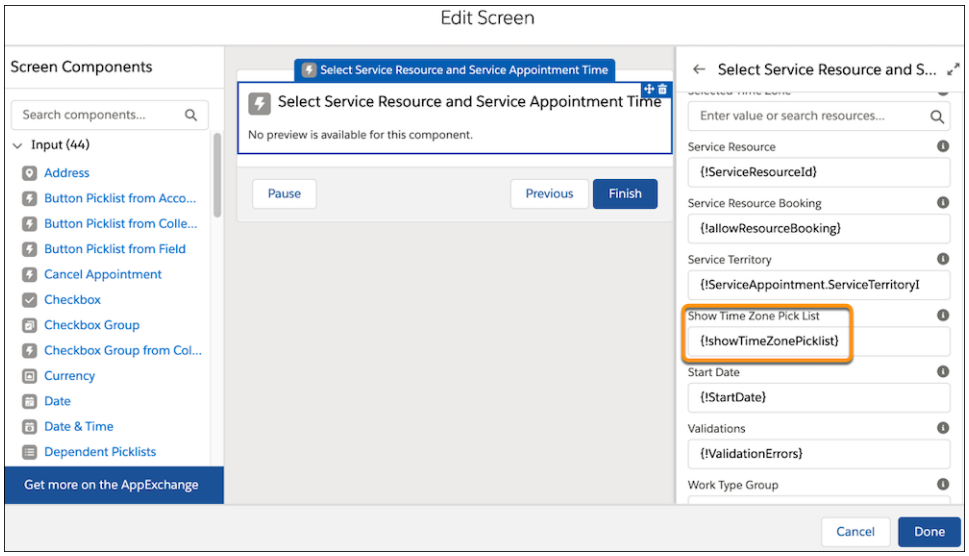
認証済み外部ユーザとゲストユーザは、希望するタイムゾーンで予定の時間枠を表示および選択できるようになりました。[タイムゾーン選択リストを表示] 属性を [True] に設定すると、Salesforce でサポートされるすべてのタイムゾーンのリストが予定の時間枠ページに表示されます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

理由: 以前は、[タイムゾーン] **ドロップダウンリストは送信フローでのみ使用可能でした。**



方法: 関連するフロー画面コンポーネントの [タイムゾーン選択リストを表示] **属性に、**`「{!$GlobalConstant.True}」` **と入力します。または、**showTimeZonePicklist **フロー変数を使用して、属性の値を設定します。**



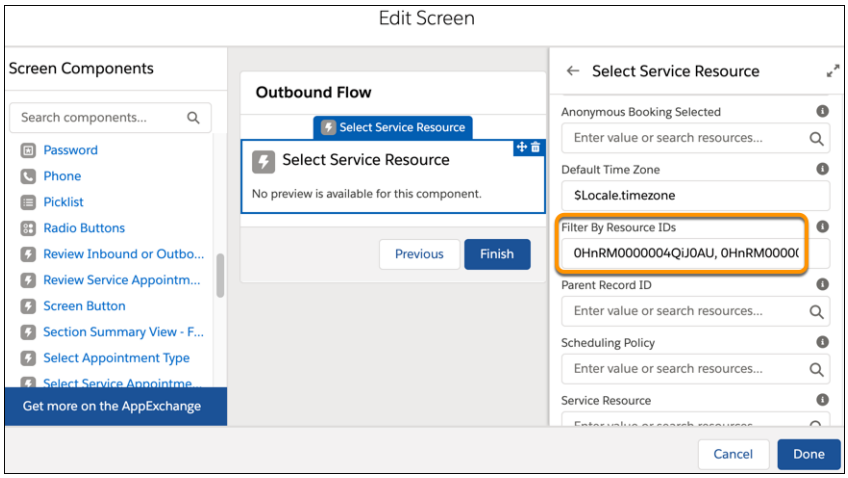
サービスリソースの絞り込みによるスケジュールの合理化

Salesforce Scheduler フローにサービスリソースの検索条件を適用して、予定をより迅速に、最も適したサービスリソースでスケジュールします。関連するフローページで新しい[リソース ID 別に絞り込み]属性を使用して、サービスリソース ID のリストを指定します。Salesforce Scheduler は、予定のサービスリソースまたはサービステリトリースロットを取得するときに、指定されたリソースのリストのみを検索します。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [リソース ID 別に絞り込み] 属性は、送信フローの [サービスリソースを選択] ページと、受信フローおよびゲストフローの [サービスリソースとサービス予定時間の選択] ページで使用できます。

関連するフロー画面コンポーネントの [リソース ID 別に絞り込み] 属性に、サービスリソース ID のカンマ区切りリストを入力します。影響を受けるページには、指定したサービスリソースのリストと選択したサービステリトリーおよび作業種別グループに含まれているサービスリソースのみが表示されます。また、リソースはカンマ区切りのリストで指定した順序で表示されます。

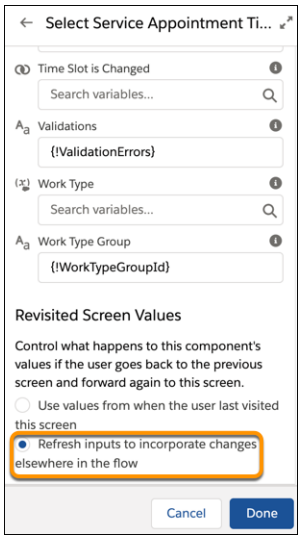


前のページの変更

予定のスケジュール中にユーザがページに戻って変更を加えると、それらの変更がフローに反映されるようになりました。前のページで適切な値を選択しなかった場合、ユーザはスケジュール処理をキャンセルして最初からやり直す必要がなくなりました。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:既存のフローでこの機能を有効にするには、関連するフロー画面コンポーネントのプロパティペインで、[詳細] を展開します。[再アクセス画面の値] で、[入力を更新してフローの他の場所での変更を組み込む] を選択します。このオプションは、新しい Salesforce Scheduler フローで事前に選択されています。

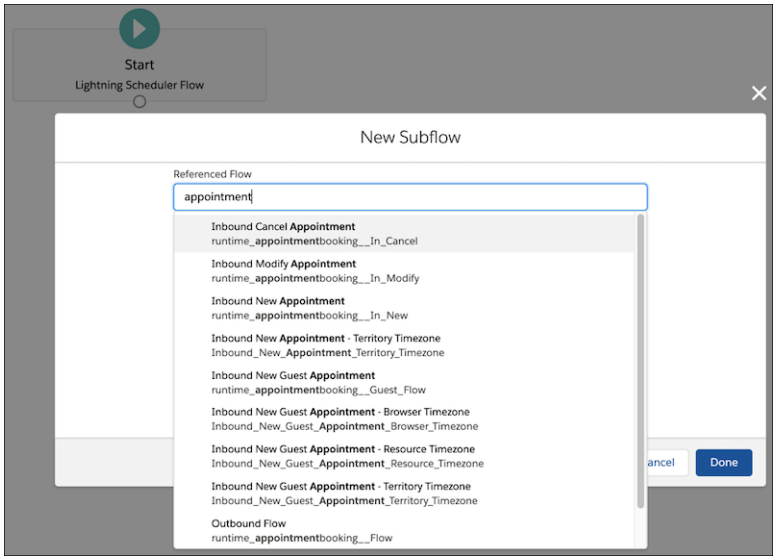


他のフローへの Salesforce Scheduler フローの埋め込み

Salesforce Scheduler フロー種別でサブフローがサポートされるようになりました。Salesforce Scheduler フロー種別である別のフロー内から Salesforce Scheduler フローをコールできます。たとえば、ユーザに予定を作成するのか、変更するのかを尋ね、関連フローを起動する、単純な Salesforce Scheduler フローを作成して取引先ページに追加することができます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Salesforce Scheduler フローを作成します。Flow Builder で、サブフロー要素をキャンバスにドラッグします。[参照されるフロー] 項目で、Salesforce Scheduler サービス予定フローを検索して選択します。



Service Appointments API への PATCH 要求による予定の変更

Service Appointments API に PATCH 要求を実行して、API を介してサービス予定を変更できるようになりました。1 回の要求で予定の複数の要素を変更し、時間と労力を節約できます。たとえば、サービスリソースを追加または削除したり、サービステリトリー、予定の時間、予定のトピックを変更したりできます。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Scheduler ユーザと (Experience Cloud サイトの) Salesforce Scheduler セルフサービスインターフェースの認証済みユーザは、Service Appointments API に対して PATCH 要求を実行できます。

関連トピック:

Salesforce リリースノート: Connect REST API

Salesforce Scheduler API の更新で迅速化された予定のスケジュール

Get Appointment Candidates API と Available Territory Slots API に、新しい filterByResources 項目が追加され、要求内でサービスリソース ID のリストを指定できるようになりました。Salesforce Scheduler は、予定のサービスリソースまたはサービステリトリースロットを取得するときに、指定されたリソースのリストのみを検索するため、応答時間が短縮されます。また、Get Appointment Candidates API と Available Territory Slots API は、開始時刻から最大 31 日の時間枠を返すようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce リリースノート: Connect REST API

Salesforce リリースノート: REST API

Salesforce Scheduler のその他の変更点

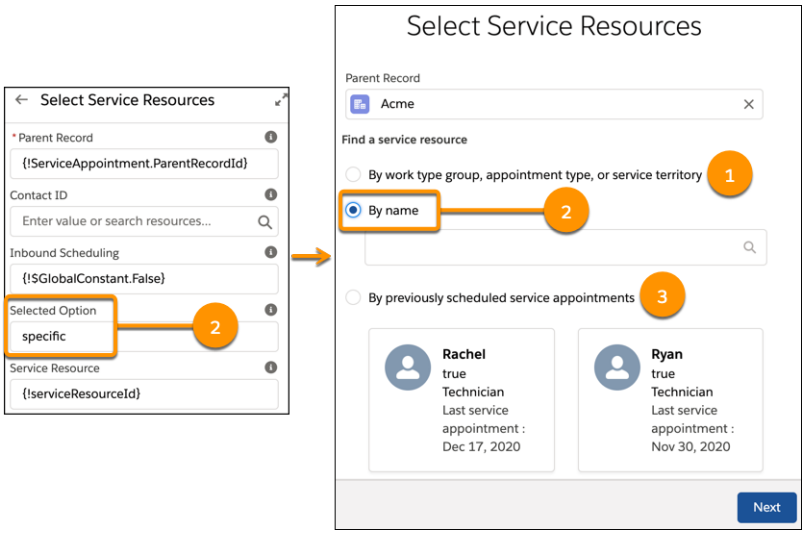
その他の小さくても重要な Salesforce Scheduler の変更について説明します。

対象: これらの変更は、Salesforce Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 予定のスケジュールが改善され、使いやすくなりました。

外出先でタイムゾーンを越えて予定をスケジュールする
予定の時間枠ページの [タイムゾーン] ドロップダウンリストをモバイルデバイスで使用できるようになりました。

予定をスケジュールするときのクリックを省略する
関連するフロー画面コンポーネントの[選択されたオプション]属性を使用して、[サービスリソースを選択] ページでオプションを事前に選択します。属性で、ページで事前に選択するオプションに応じて、`「findResource」` (1)、`「specific」` (2)、または `「previousServiceResource」` (3) と入力します。または、selectedTriageOption 変数を使用して、属性の値を設定します。デフォルトでは、最初のオプションが選択されています。

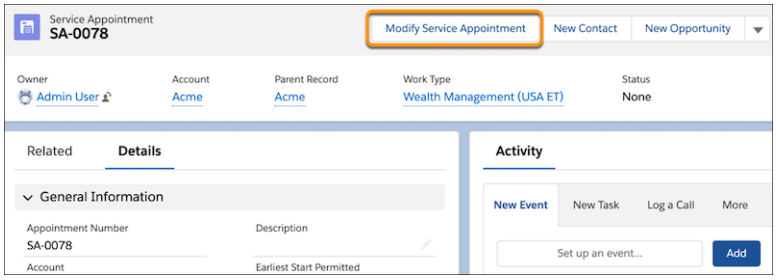


カスタムエラーメッセージで予定エラーをすばやく特定してトラブルシューティングする

Salesforce Scheduler フローで、入力規則とトリガがサポートされるようになりました。サービス予定オブジェクトに入力規則を作成するときに、検証に固有のエラーメッセージを追加できます。予定の作成または更新中にさまざまなエラーに対して表示される *「問題が発生しました」* というメッセージが、これらのエラーメッセージに置き換えられます。

サービス予定を簡単に変更する

[サービス予定を変更] クイックアクションが、サービス予定レコードページで標準で使用できるようになりました。このアクションによって、提供されている標準の [発信 変更予定] フローテンプレートが起動されます。カスタムフローを使用して予定を変更する場合は、[サービス予定を変更] クイックアクションを編集して、カスタムフローにリンクします。



ユーザがすでにキャンセル済みの予定を変更またはキャンセルできないようにして混乱を避ける

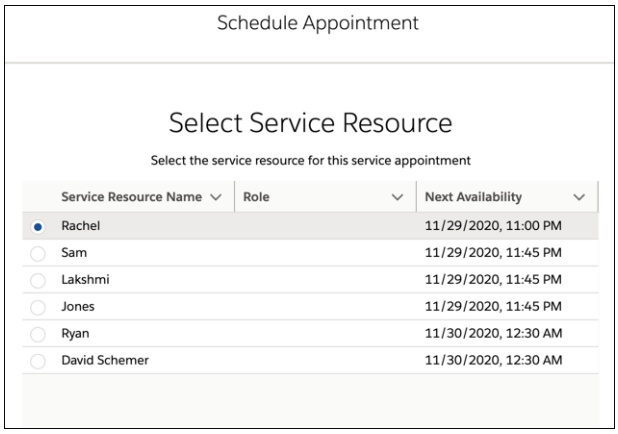
ユーザがすでにキャンセル済みのサービス予定を変更またはキャンセルしようとすると、その操作はできないことを示すエラーメッセージが表示されます。

拡張された時間枠ページでモバイルデバイスのユーザエクスペリエンスを向上させる

拡張された時間枠ページが各種モバイルデバイスでサポートされるようになりました。異なる表示サイズと方向に自動的に適応します。

直近で対応可能なサービスリソースを選択する

フローのサービスリソースのページで、サービスリソースが対応可能な直近の日時順に表示されるようになりました。最も早い日時に対応可能なサービスリソースがリストの一番上に表示されます。日付は、[タイムゾーンのデフォルト値] 属性で設定されたタイムゾーンで表示されます。

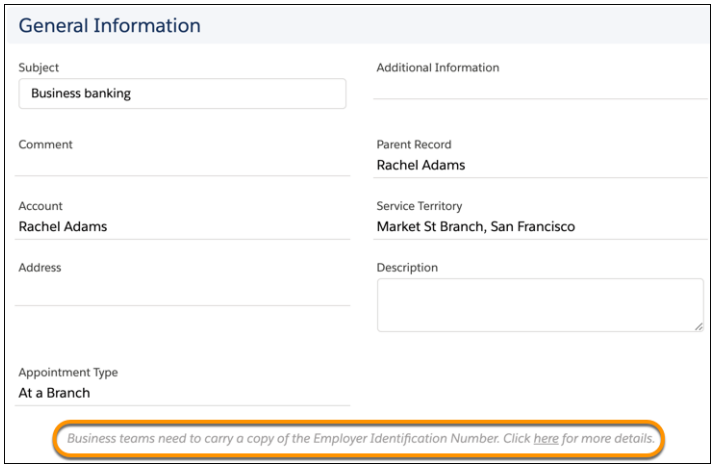


31 日前に予定をスケジュールする

サービスリソースのページに、現在の日付から 31 日後までのリソースの対応可能状況が表示されるようになりました。これまでは 28 日でした。

コンポーネントの表示条件を使用して予定フロー画面をより動的にする

Salesforce Scheduler フローコンポーネントに、コンポーネントの表示条件が適用されるようになりました。予定のスケジュール中にユーザが選択したオプションに基づいて、コンポーネントを表示または非表示にするルールを定義できます。たとえば、予定の確認ページで、ユーザに雇用主番号のコピーを携帯するように通知するメッセージを含む表示テキストコンポーネントを追加します。次に、ユーザが予定をスケジュールするときに、[Business Banking (業務用銀行)] 作業種別グループを選択した場合にのみコンポーネントを表示するルールを作成します。



検索

検索により、Salesforce組織内で関連情報を探しているユーザにインテリジェンスを提供し、効率を高めます。ユーザは必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接 ToDo を実行できます。

このセクションの内容:

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
組織で検索できるオブジェクトや項目が増えました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

組織で検索できるオブジェクトや項目が増えました。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

次のオブジェクトを検索できるようになりました。

オブジェクト	製品エリア	対象
アレルギー不耐性	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
非同期操作ログ	Commerce Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
認可申込資産	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
認可申込場所	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
認可ロケーションアクセススケジュール	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
銀行家	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
利点	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
給付金種別	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
支店ユニット	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
支店ユニットビジネスメンバー	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition

オブジェクト	製品エリア	対象
支店ユニット顧客	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
支店ユニット関連レコード	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
ビジネス規制許可種別連動関係	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
ケア観察	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
ケア観測コンポーネント	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
ケア実施者	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床アラート	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診診断	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診施設	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診施設	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診理由	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床受診サービス要請	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床サービス要請	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
臨床サービス要請の詳細	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition
顧客資産	Financial Services Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition
診断の概要	Health Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Professional Edition、および Developer Edition

オブジェクト	製品エリア	対象
ゲストバイヤープロファイル	**コマース** (B2B)	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ヘルスケア施設	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
健康状態	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
調査評価インジケータ	Public Sector Solutions	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
検査種別	Public Sector Solutions	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
インタラクション	Financial Services Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
インタラクション概要	Financial Services Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Unlimited Edition
ロケーショングループ	Commerce Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティメンバー通貨	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティプログラム	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティプログラム通貨	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティプログラムメンバープロモーション	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティ階層	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティ階層給付金	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ロイヤルティ階層グループ	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
薬剤	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
薬剤要請	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition

オブジェクト	製品エリア	対象
薬剤ステートメント	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
メンバー給付金	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
ネットワーク参照オブジェクト	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
注文概要	Commerce Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
患者の反応	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
患者免疫付与	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
患者医療処置	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
患者医療処置の詳細	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
患者薬剤投与	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
個人試験	Public Sector Solutions	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
個人の言語	Health Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Developer Edition
ポリゴン	Public Sector Solutions	[**設定**] **で使用可能**。Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
事前申込書の参照	Public Sector Solutions	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
プログラム払い戻し種別検索条件	Manufacturing Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
プログラム払い戻し種別支払	Manufacturing Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
プログラム払い戻し種別支払ソース	Manufacturing Cloud	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition
プロモーション市場区分	**ロイヤルティ管理**	Lightning Experience **の** Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition

オブジェクト	製品エリア	対象
周知の告発情報	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
払い戻しメンバー商品集計	Manufacturing Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制認可種別商品	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制局	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制コード	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制コード評価インジケータ	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制コード違反	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制トランザクション料金	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
規制トランザクション料金項目	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
出荷	Commerce Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
トレーニングコース参加者	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
トレーニングコース	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
ビデオ通話	Sales Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
ビデオ通話参加者	Sales Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
ビデオ通話記録	Sales Cloud	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition
違反是正措置	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
違反種別	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

オブジェクト	製品エリア	対象
違反種別評価インジケータ	Public Sector Solutions	Lightning Experience の Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
バウチャー	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition
バウチャー定義	ロイヤルティ管理	Lightning Experience の Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のオブジェクト別の検索可能項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic のオブジェクトで検索可能な項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

最新の更新については、Work.com リリースノートを参照してください: 『Work.com Release Notes』

サービス

よりスマートになった Service Cloud をお楽しみください。新しいスコアカードで Einstein 記事レコメンデーションモデルを利用し、Einstein ボットの標準オブジェクトとカスタムオブジェクトからデータを提供します。Field Service は、2 地点間予測ルーティング、シフトの予定の照合、および派遣作業員が到着したときのアラートにより、スケジュールエクスペリエンスを合理化します。Service 設定アシスタント、Service Cloud 音声、およびナレッジの設定の機能強化と新しい生産性ツールにより、顧客に集中する時間を増やすことができます。

このセクションの内容:

Einstein for Service

エラーハンドラシステムダイアログと Salesforce レコードからデータを表示する機能を使用して、Einstein ボットへの信頼を深めます。Einstein 記事レコメンデーションのスコアカードを使用して、予測モデルでデータの改善が可能な場所を識別します。より少ない完了したチャットトランスクリプトに基づいて Einstein がおすすめのチャット返信を提供できるようにします。ボット入力およびその他の Einstein for Service 機能での複数言語のサポートにより、対応するユーザの範囲を広げます。

フィールドサービス

メンテナンスの高度な繰り返し (正式リリース) を使用してよりスマートに作業し、毎日、毎週、毎月、または毎年の定期的なスケジュールに基づいて納入商品ごとにメンテナンス作業ルールを作成します。シフトパターンを使用して定期的なスケジュールを定義し、マネージャが通常のシフトをすばやく作成して割り当てることができるようにします。スケジュール条件をシフトに追加して、適切な種別の予定を適切なリソースに一致させます。

Service 設定アシスタント

Service Cloud の使用を開始する最も速い方法に含まれる機能数が増えたため、顧客への集中により多くの時間を費やすことができます。新しい更新ツールを使用して、チャットおよびメッセージングチャネル、オムニチャネル、ナレッジ、ケースマージ、ケース状況の自動化などの最新機能をワンクリックで設定します。新しいウォークスルーは、システム管理者がクイックテキストとマクロについて学習するのに役立ちます。

チャネル

[音声の設定] にかかる時間が短縮され、自動で行われる作業も増えたため、コンタクトセンターをすばやく稼働できます。保留のまま待機するのではなく折り返しを要求するオプションを顧客に提供できます。Voice が High-Velocity Sales と統合されたため、営業担当はより多くの顧客にリーチできます。新しいメタデータオプションを使用してメッセージテンプレートを特定のチャネルにリンクします。

ナレッジ

Service 設定アシスタントを使用して、最初のナレッジの設定をすばやく簡単に行います。スクリーンリーダー用に画像にテキストキャプションを追加します。添付ファイルが含まれる記事をメールに追加するときに、以前に添付されたファイルを保持します。お気に入りの記事が更新されたときに、その最新バージョンを確認します。

ルーティング

会話後作業 (パイロット) を使用すると、会話が終了した後にエージェントに作業を完了するための時間を与えることができます。

ケース管理

特定のケース関連の通知に対して組織のデフォルトの送信元アドレスを選択し、事前作成済みエンタイトルメントをカスタマイズして複雑なエンタイトルメントプロセスをスキップし、ユーザが相互関係レイアウトの割り当てを使用して所有しないプロファイルを表示することを制限します。タブの切り替えにより、Lightning アプリケーションビルダーとの切り替えを行うことなくタブ全体のマクロを作成できます。また、Winter '21 のメール-to-ケースリリース更新の適用日が延長されたため、システム管理者は組織を準備するためにより多くの時間を費やすことができます。

Service Cloud のその他の変更

CTI ユーザのプロファイルの絞り込みを使用して、組織をよりセキュアにします。CPQ の大規模な修正および更新サービスを使用する場合、見積に CPQ が管理する納入商品のみが記載されるようになりました。

Einstein for Service

エラーハンドラシステムダイアログと Salesforce レコードからデータを表示する機能を使用して、Einstein ボットへの信頼を深めます。Einstein 記事レコメンデーションのスコアカードを使用して、予測モデルでデータの改善が可能な場所を識別します。より少ない完了したチャットトランスクリプトに基づいて Einstein がおすすめのチャット返信を提供できるようにします。ボット入力およびその他の Einstein for Service 機能での複数言語のサポートにより、対応するユーザの範囲を広げます。

このセクションの内容:

Einstein ボット
組み込みのエラー処理を使用して信頼関係を構築します。オブジェクト検索を使用して標準またはカスタムオブジェクトからデータを提供するためにボットを作成します。記事回答により、情報がナレッジ記事から顧客にすばやく提供されます。すべてのボットのインテントモデルに対する更新により、自然言語処理の使用をすぐに開始できます。

Einstein 記事レコメンデーション
記事レコメンデーションでは、モデルスコアカードが提供され、7 個の言語がサポートされます。

Einstein ケース分類
予測の自動化をより詳細に制御できるように、予測の信頼性の設定を拡大しました。

Einstein 返信レコメンデーション
より少ないチャットトランスクリプトで使用を開始し、英語以外のいずれかの言語での返信をエージェントに提案します (パイロット)。

Einstein 音声ラップアップ
Einstein 音声通話ラップアップ (パイロット) を使用してエージェントがすばやく容易に通話の詳細を取得できるようにします。

関連トピック:

Salesforce Einstein

Einstein ボット

組み込みのエラー処理を使用して信頼関係を構築します。オブジェクト検索を使用して標準またはカスタムオブジェクトからデータを提供するためにボットを作成します。記事回答により、情報がナレッジ記事から顧客にすばやく提供されます。すべてのボットのインテントモデルに対する更新により、自然言語処理の使用をすぐに開始できます。

このセクションの内容:

エラーハンドラシステムダイアログを使用した顧客との信頼関係の構築
ボットがエラーハンドラシステムダイアログを使用する場合にエラーを意識せずに会話を進めるのが簡単になりました。この組み込みシステムダイアログにはわかりやすいメッセージが含まれていてエージェントへの転送を試みるため、顧客は毎回ボットの対応に満足できるようになります。このダイアログはボットの言語や独自のカスタムエラーパスに合わせてカスタマイズできます。

入力のおすすめとインテントセットの入力のおすすめの複数言語のサポートによるインテントモデルの拡張 (ベータ)

入力のおすすめを使用して、新しい言語のボットのインテントモデルを強化します。顧客の単語および言語でボットをトレーニングすることで、カスタマーエクスペリエンスが改善され、強力なインテントのおすすめが提供されます。入力のおすすめは、新しいインテントの多数の発言を構築したり、高価値の発言を推奨して既存のインテントを強化したりするのに適しています。インテントセット内で入力のおすすめを使用して発言を生成し、ボット間で共有できるようになりました。

記事回答を使用した迅速な回答の検索 (パイロット)

顧客が質問をしたときに、記事回答ではインテントに照合できなかった場合、ナレッジ記事から推奨の回答を提供します。記事回答は会社の話し方や分野、ナレッジのカテゴリに合わせて調整できます。行動記録を使用した組み込みのフィードバック取得により、顧客から記事のフィードバックをリアルタイムで収集します。

インテントデータの追加によるテンプレートボットの機能強化 (ベータ)

インテントデータを含めることでテンプレートボットがさらにスマートになります。ボットをバックグラウンドでモデルを作成できるようになったため、顧客の入力をすぐに処理できます。さらに、新しいバックグラウンドのガイドによって各コンポーネントの詳細ビューが得られるため、優れたボット環境を整えることができます。

オブジェクト検索を使用したレコードからの情報の提供 (ベータ)

オブジェクト検索を有効化することで、ボットは Salesforce 内のオブジェクトを読み取り、可能な限り顧客に満足してもらうことができます。ロジックは検索の定義に役立ち、システム管理者は差し込み項目の構文を使用して会話の中で最大 3 つのレコードを提供できます。オブジェクト検索を使用すれば、ボットはデータを直接顧客に提供できます。つまり、直近 3 回の注文を表示したり、カスタムオブジェクトで今後の予定を更新したり、フィードバックレコードを作成したりできます。

ダイアログのコピーを使用した迅速なボットの作成

ダイアログとダイアログステップをコピーすることで、システム管理者はボットを迅速に設定できます。ボットがある場合、ダイアログとダイアログステップをコピーすることで、新規利用者向けに類似のダイアログを作成できます。

ボットトレーニングからインテントセットへの発言のプロモーション

1 回のクリックでボットをトレーニングし、新しい発言をインテントセットに共有できます。顧客のテキスト入力を直接インテントセットに統合し、インテントデータを移植可能にします。[ボットのトレーニング] の発言を数回のクリックで任意のボットダイアログインテントまたはインテントセットに再分類できるようになりました。本番組織と Sandbox のボット間、または複数のボット間で顧客の入力データを簡単に共有できます。

より少ない発言でのインテントモデルの作成

短時間で堅牢なインテントモデルを作成します。データは成功するモデルを作成するためのキーであり、データセットが不完全であったり不均等であったりするとボットのパフォーマンスが低下する場合があります。インテントごとに 20 個の発言があれば Einstein の使用を開始できます。ボットはインテントあたり 50 個以上の発言があり、ボットの各インテント間で均等に分散されていればインテントを識別できます。バックグラウンドの機能強化により、ボットでは発言のおすすめが 150 個から 50 個に減少し、データセットの不均衡を自動的に処理できるようになりました。

ボット言語の更新によるグローバル化の加速

Einstein ボットでは、言語のサポートが更新され、さらにグローバルな利用者にリーチできるようになりました。ブラジルポルトガル語、オランダ語、ロシア語が正式に利用できるようになりました。

新しい総計値を使用したボットの詳細の確認

新しい時間ベースの総計値によって標準レポートが拡張されます。ボットのパフォーマンスデータは常に変動しているため、日常的に使用するソリューションで信じられない量のボットレポートやダッシュボードを作成することになる場合があります。

Einstein ボット向けの Shield Platform Encryption によるセキュリティの向上

Shield Platform Encryption を使用して MlIntentUtteranceSuggestion オブジェクトの [発言] 項目を暗号化できるようになりました。この項目にはインテントモデルに追加する顧客の提案が含まれ、システム管理者がボットの [概要] ページで [Einstein ボットの会話データを保存する] を選択している場合はデータが含まれます。この項目では、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化のみサポートされます。

ボットのオプションメニューの動作変更

転送オプションを提供するために、システム管理者はボットのオプションメニューに [エージェントに転送] ダイアログを追加できるようになりました。以前は、ボットのオプションメニューが有効化されたにもかかわらずダイアログが割り当てられなかった場合に、エージェントに転送するためのオプションがメニューに表示されていました。このオプションはカスタム転送動作には従わず、カスタマーエクスペリエンスの不整合が発生していました。この直接転送は Spring '21 で使用できなくなりました。

会話のセキュリティの維持: ボットの HIPAA および SOC2 準拠

顧客との信頼を高めるために、Einstein ボットはチャットチャネルで HIPAA および SOC2 に準拠するようになりました。ヘルスケア業界のお客様はチャット上で安全な会話を行うことができます。また、ボットは、SOC2 で規定されているデータの機密性とプライバシーに関する基準を超えるようになりました。ボットインフラストラクチャは、会話データのセキュリティ、可用性、処理の整合性に関する最高の基準を満たすようになりました。

Einstein ボットの他の改善

Einstein ボットの最新の更新情報を確認します。

エラーハンドラシステムダイアログを使用した顧客との信頼関係の構築

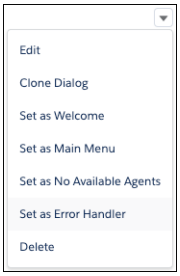
ボットがエラーハンドラシステムダイアログを使用する場合にエラーを意識せずに会話を進めるのが簡単になりました。この組み込みシステムダイアログにはわかりやすいメッセージが含まれていてエージェントへの転送を試みるため、顧客は毎回ボットの対応に満足できるようになります。このダイアログはボットの言語や独自のカスタムエラーパスに合わせてカスタマイズできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: エラーハンドラシステムダイアログはデフォルトですべての新しいボットで使用できます。既存のボットでは、ダイアログの横にあるドロップダウンをクリックして [エラーハンドラとして設定] を選択すればダイ

アログをエラーハンドラとして割り当てることができます。エラーハンドラとして割り当てることができるダイアログは一度に 1 つのみです。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: システムボットのダイアログについて

入力のおすすめとインテントセットの入力のおすすめの複数言語のサポートによるインテントモデルの拡張 (ベータ)

入力のおすすめを使用して、新しい言語のボットのインテントモデルを強化します。顧客の単語および言語でボットをトレーニングすることで、カスタマーエクスペリエンスが改善され、強力なインテントのおすすめが提供されます。入力のおすすめは、新しいインテントの多数の発言を構築したり、高価値の発言を推奨して既存のインテントを強化したりするのに適しています。インテントセット内で入力のおすすめを使用して発言を生成し、ボット間で共有できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: Einstein ボットのメインページで入力のおすすめを有効にできます。入力のおすすめを起動するには、新しいインテントから [おすすめを取得] をクリックするか、発言の横にある [類似項目を検索] をクリックします。システム管理者は、発言の横にある [類似項目を検索] をクリックしてインテントセット内で入力のおすすめを起動できます。

- 入力のおすすめを有効にするには、プロファイルにチャットトランスクリプトオブジェクトに対する [すべて表示] アクセス権が必要です。
- 入力のおすすめで高品質のおすすめを提供するには、言語あたり少なくとも 10,000 のチャットトランスクリプトレコードが必要です。
- 入力のおすすめは、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語をサポートしています。

メモ: このベータ機能の使用には、「Agreements and Terms」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 入力のおすすめを使用した発言の生成 (ベータ)

記事回答を使用した迅速な回答の検索 (パイロット)

顧客が質問をしたときに、記事回答ではインテントに照合できなかった場合、ナレッジ記事から推奨の回答を提供します。記事回答は会社の話し方や分野、ナレッジのカテゴリに合わせて調整できます。行動記録を使用した組み込みのフィードバック取得により、顧客から記事のフィードバックをリアルタイムで収集します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: このパイロットについての詳細は、Salesforce 担当者にお問い合わせください。

メモ: この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

インテントデータの追加によるテンプレートボットの機能強化 (ベータ)

インテントデータを含めることでテンプレートボットがさらにスマートになります。ボットをバックグラウンドでモデルを作成できるようになったため、顧客の入力をすぐに処理できます。さらに、新しいバックグラウンドのガイドによって各コンポーネントの詳細ビューが得られるため、優れたボット環境を整えることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: 新規のボットユーザは、ボットのメインページで [新規ボットを作成] をクリックしてガイド付き設定を起動します。すでにボットを作成してあるユーザは、ボットのメインページで [新規] をクリックします。インテントデータは新規作成されたボットでのみ含まれています。

メモ: このベータ機能の使用には、「Agreements and Terms」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: テンプレートボットについて

Salesforce ヘルプ: テンプレートからの Einstein ボットの作成 (ベータ)

オブジェクト検索を使用したレコードからの情報の提供 (ベータ)

オブジェクト検索を有効化することで、ボットはSalesforce内のオブジェクトを読み取り、可能な限り顧客に満足してもらうことができます。ロジックは検索の定義に役立ち、システム管理者は差し込み項目の構文を使用して会話の中で最大3つのレコードを提供できます。オブジェクト検索を使用すれば、ボットはデータを直接顧客に提供できます。つまり、直近3回の注文を表示したり、カスタムオブジェクトで今後の予定を更新したり、フィードバックレコードを作成したりできます。

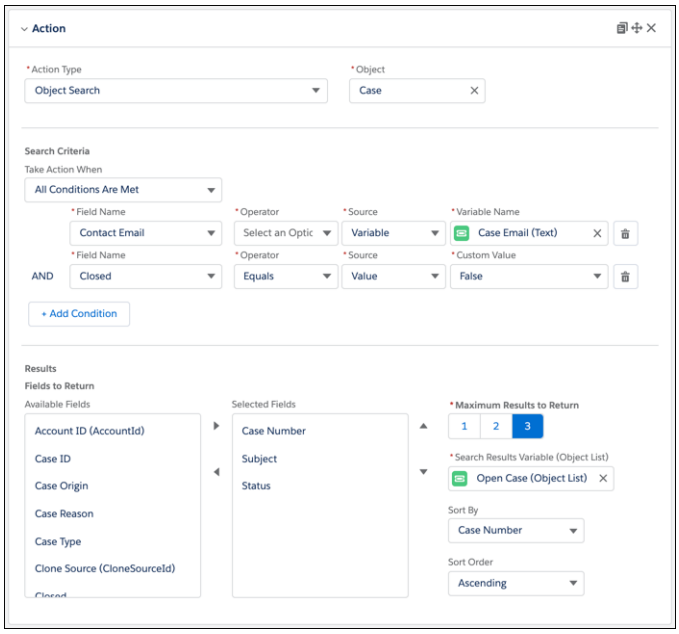
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法:

メモ: このベータ機能の使用には、「Agreements and Terms」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

[アクション] ダイアログステップを追加し、[アクション種別] として [オブジェクト検索] を選択します。



メモ: オブジェクト検索では次の標準オブジェクトがサポートされます:取引先、ケース、取引先責任者、ナレッジ、リード、商談、注文、ToDo。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ダイアログでのオブジェクト検索の導入 (ベータ)

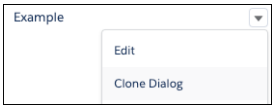
ダイアログのコピーを使用した迅速なボットの作成

ダイアログとダイアログステップをコピーすることで、システム管理者はボットを迅速に設定できます。ボットがある場合、ダイアログとダイアログステップをコピーすることで、新規利用者向けに類似のダイアログを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: ダイアログドロップダウンから [コピー] を選択してダイアログをコピーできます。ダイアログステップの アイコンをクリックし、特定のダイアログステップをコピーします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ボットのコピー

Salesforce ヘルプ: ダイアログまたはダイアログステップのコピー

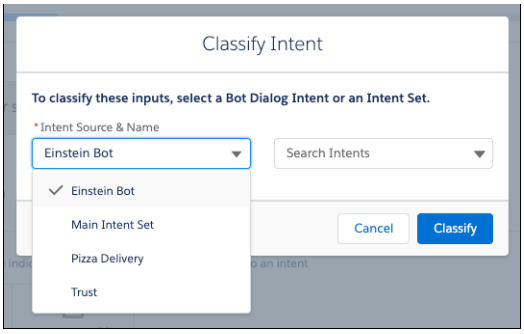
ボットトレーニングからインテントセットへの発言のプロモーション

1 回のクリックでボットをトレーニングし、新しい発言をインテントセットに共有できます。顧客のテキスト入力を直接インテントセットに統合し、インテントデータを移植可能にします。[ボットのトレーニング]の発言を数回のクリックで任意のボットダイアログインテントまたはインテントセットに再分類できるようになりました。本番組織と Sandbox のボット間、または複数のボット間で顧客の入力データを簡単に共有できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: [モデル管理] ページから [ボットのトレーニング] タブにアクセスします。インテントセットにプロモーションするには、任意の発言で [再分類] をクリックします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ボットのトレーニングを使用したインテントの一致品質の改善

より少ない発言でのインテントモデルの作成

短時間で堅牢なインテントモデルを作成します。データは成功するモデルを作成するためのキーであり、データセットが不完全であったり不均等であったりするとボットのパフォーマンスが低下する場合があります。インテントごとに 20 個の発言があれば Einstein の使用を開始できます。ボットはインテントあたり 50 個以上の発言があり、ボットの各インテント間で均等に分散されていればインテントを識別できます。バックグラウンドの機能強化により、ボットでは発言のおすすめが150個から50個に減少し、データセットの不均衡を自動的に処理できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

ボット言語の更新によるグローバル化の加速

Einstein ボットでは、言語のサポートが更新され、さらにグローバルな利用者にリーチできるようになりました。ブラジルポルトガル語、オランダ語、ロシア語が正式に利用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: ボットの言語の設定が必要です。新規ボットの設定フローで、新しいボットの言語を選択できます。ボットの [概要] ページの [ボット情報] セクションを編集して、以前に作成したボットに言語を割り当てることができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 特定の言語のボットの作成

新しい総計値を使用したボットの詳細の確認

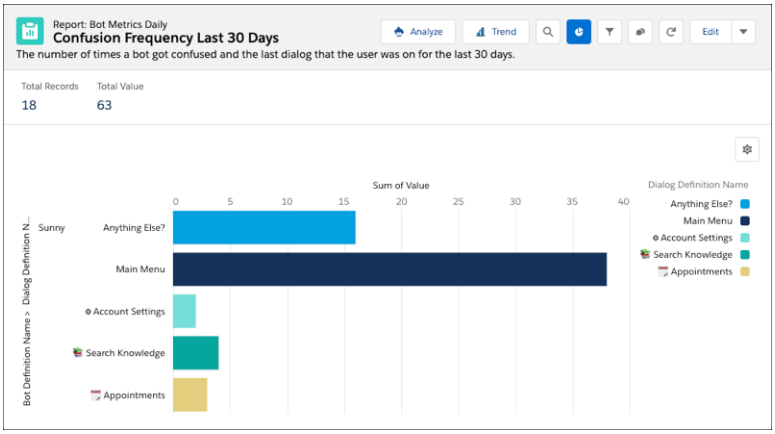
新しい時間ベースの総計値によって標準レポートが拡張されます。ボットのパフォーマンスデータは常に変動しているため、日常的に使用するソリューションで信じられない量のボットレポートやダッシュボードを作成することになる場合があります。

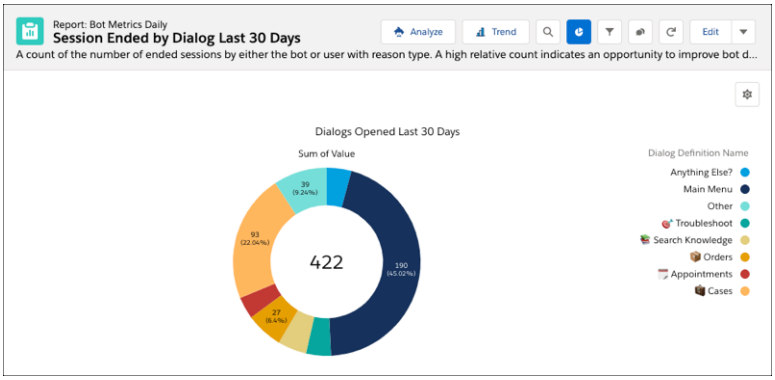
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャット

または Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: Salesforce Labs による新しい AppExchange パッケージをダウンロードすると、カスタムレポートタイプとよく使用されるボット総計値レポートをインストールできます。日付範囲を指定してすべてのボットまたは特定のボットについてのレポートを作成し、主要な関係者とインサイトを共有するのに数分しかかかりません。顧客が最もよく使用するダイアログを特定し、例外、ボットの困惑、転送を確認することによって改善すべき領域を指摘できます。





次のレポートがあります。

- All Bot Sessions Last 30 Days (過去 30 日間のすべてのボットセッション)
- All Bot Sessions Today (今日のすべてのボットセッション)
- Confusion Frequency Last 30 Days (過去 30 日間の困惑頻度)
- Confusion Frequency Today (今日の困惑頻度)
- Dialog Frequency Last 30 Days (過去 30 日間のダイアログ頻度)
- Dialog Frequency Today (今日のダイアログ頻度)
- Dialogs with Exceptions Last 30 Days (過去 30 日間の例外が発生したダイアログ)
- Dialogs with Exceptions Today (今日の例外が発生したダイアログ)
- Session Ended by Dialog Last 30 Days (過去 30 日間のセッションを終了したダイアログ)
- Session Ended by Dialog Today (今日のセッションを終了したダイアログ)

Einstein Bot Metrics パッケージは、すべてのお客様が無料で使用できます。こちらから入手できます。

また、会話定義セッションオブジェクト、会話定義ダイアログ評価指標(日次)オブジェクト、会話定義ダイアログ評価指標(時間)オブジェクトを使用して標準レポートを作成することもできます。標準レポートを作成するには、最初にオブジェクトを使用してレポートタイプを作成する必要があります。レポートタイプについての詳細は、「カスタムレポートタイプの作成」を参照してください。ボットのパフォーマンスダッシュボードの総計値は使用できなくなりました。

Tableau CRM と Einstein ボットを使用している場合、アプリケーションランチャーで Analytics Studio アプリケーションにアクセスすることで Chatbot Analytics v2 ダッシュボードを表示できます。元のダッシュボードはボットビルダーの [パフォーマンス] タブで使用できなくなりました。

Einstein ボット向けの Shield Platform Encryption によるセキュリティの向上

Shield Platform Encryption を使用して MlIntentUtteranceSuggestion オブジェクトの [発言] 項目を暗号化できるようになりました。この項目にはインテントモデルに追加する顧客の提案が含まれ、システム管理者がボットの [概要] ページで [Einstein ボットの会話データを保存する] を選択している場合はデータが含まれます。この項目では、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化のみサポートされます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: 「Trailhead: Set Up and Manage Shield Platform Encryption (Trailhead: Shield Platform Encryption の設定と管理)」の手順に従って Shield Platform Encryption を設定できます。有効化したら、[設定] の [クイック検索] ボックスに「暗号化ポリシー」と入力し、[項目を暗号化] をクリックしてから [編集] をクリックして [発言] 項目をオンにします。

「Shield Platform Encryption のしくみ」で Shield Platform Encryption の詳細を確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: チャネルへのボットのリリース

ボットのオプションメニューの動作変更

転送オプションを提供するために、システム管理者はボットのオプションメニューに [エージェントに転送] ダイアログを追加できるようになりました。以前は、ボットのオプションメニューが有効化されたにもかかわらずダイアログが割り当てられなかった場合に、エージェントに転送するためのオプションがメニューに表示されていました。このオプションはカスタム転送動作には従わず、カスタマーエクスペリエンスの不整合が発生していました。この直接転送は Spring '21 で使用できなくなりました。

会話のセキュリティの維持: ボットの HIPAA および SOC2 準拠

顧客との信頼を高めるために、Einstein ボットはチャットチャネルで HIPAA および SOC2 に準拠するようになりました。ヘルスケア業界のお客様はチャット上で安全な会話を行うことができます。また、ボットは、SOC2 で規定されているデータの機密性とプライバシーに関する基準を超えるようになりました。ボットインフラストラクチャは、会話データのセキュリティ、可用性、処理の整合性に関する最高の基準を満たすようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。この機能には、「アプリケーションのカスタマイズ」または「メタデータの編集」または「ボットを管理」権限が必要です。

方法: Einstein ボットのチャット (アプリケーション内および Web) が HIPAA 準拠になりました。ベータおよびパイロット機能は HIPAA 準拠ではありません。SOC 2 コンプライアンスはすべてのチャネルで利用できます。

コンプライアンスについての詳細は、Salesforce Trust サイトまたは Einstein Platform コンプライアンスサイトを参照してください。

Einstein ボットの他の改善

Einstein ボットの最新の更新情報を確認します。

- チャットチャネルでの Einstein ボットのタイムアウト動作が更新されました。エンドユーザーがエージェントへの転送を要求すると、ボットは最大 30 分の時間制限まで転送を試みます。時間制限の終了時に対応可能なエージェントがいない場合、転送は閉じられます。
- メッセージングチャネルでの Einstein ボットの転送動作が更新されました。以前は、ボットはエージェントに転送する前に [エージェントに転送しています] というメッセージを送信していました。このメッセージは削除され、システム管理者はエラーハンドラシステムダイアログを設定して転送を管理できます。エラーハンドラについての詳細は、「システムボットのダイアログについて」を参照してください

Einstein 記事レコメンデーション

記事レコメンデーションでは、モデルスコアカードが提供され、7 個の言語がサポートされます。

このセクションの内容:

モデルスコアカードからのインサイトを使用した精度の改善

エージェントがケースをクローズするのに役立つ記事を推奨するには、Einstein に学習元となる多数の充実したケースとナレッジデータが必要です。ユーザが予測モデルのデータと有効性を理解できるように、Einstein はモデルスコアカードを生成します。データの調整やおすすめの改善ができる場所を一目で確認できます。

7 個の言語での Einstein 記事レコメンデーションの提供 (正式リリース)

国境を越えてビジネスを展開している場合は、Einstein が記事を顧客の問い合わせに一致する言語で推奨できるようにします。記事レコメンデーションは、英語に加えてオランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語で使用できるようになりました。

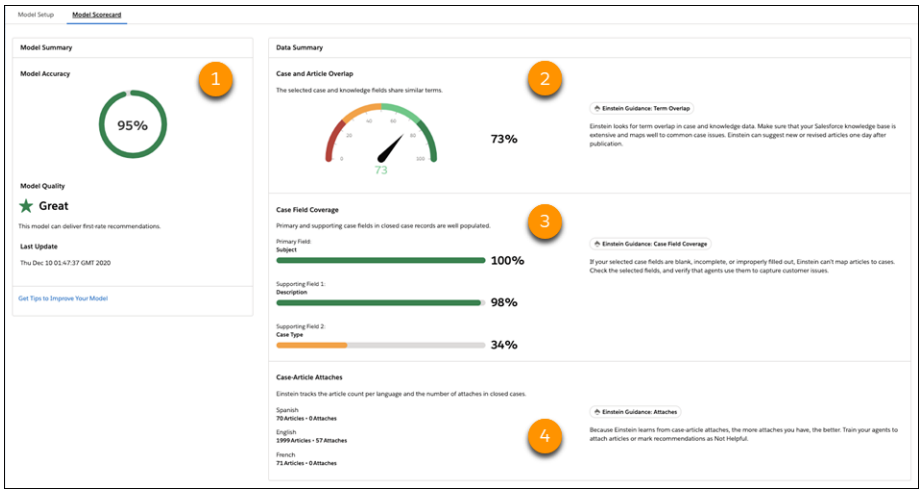
モデルスコアカードからのインサイトを使用した精度の改善

エージェントがケースをクローズするのに役立つ記事を推奨するには、Einsteinに学習元となる多数の充実したケースとナレッジデータが必要です。ユーザが予測モデルのデータと有効性を理解できるように、Einsteinはモデルスコアカードを生成します。データの調整やおすすめの改善ができる場所を一目で確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Einstein がモデルを再トレーニングするか、ユーザがモデルを再構築すると、スコアカードが更新されます。

[設定]から、[Einstein記事レコメンデーション]の下の[モデルスコアカード]タブを開きます。左側のスコアカードには、モデルの精度と品質 (1) が表示されます。右側では、ケースと記事の間に用語の重複がどの程度あるか (2)、選択したケース項目がどの程度適切に入力されているか (3)、言語ごとのケース記事の添付の数 (4) など、データの詳細を確認できます。この結果は、正確なおすすめに寄与しているデータの場所や、改善できる場所を理解するのに役立ちます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Learn About Model and Data Quality (モデルおよびデータ品質の詳細) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

7 個の言語での Einstein 記事レコメンデーションの提供 (正式リリース)

国境を越えてビジネスを展開している場合は、Einsteinが記事を顧客の問い合わせに一致する言語で推奨できるようにします。記事レコメンデーションは、英語に加えてオランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Einstein 記事レコメンデーションの使用を開始したばかりの場合、サポートされている 7 個の言語のうちいずれかのナレッジ記事が 3 個以上必要です。[設定] で、Einstein で使用する言語を選択します。すでに Einstein 記事レコメンデーションを使用しているか、複数言語パイロットに参加している場合、言語は事前選択されます。[設定] では、選択内容を変更してモデルを再作成できます。

おすすめの記事を提供するために、Einstein は自然言語処理 (NLP) を使用します。Einstein はケースの言語を検出し、ナレッジ記事バージョンの [言語] 項目を確認します。複数言語のおすすめがどのように機能するかを次に示します。

- ケースの言語がサポートされている場合*、Einstein はその言語の関連記事を推奨します。
- ケースの言語がサポートされていない場合*、Einstein は組織のナレッジのマスタ言語の関連記事を推奨します。
- ケースの言語とナレッジのマスタ言語がサポートされておらず*、英語が選択された言語である場合、Einstein は関連する英語の記事を推奨します。

*サポート言語は次のとおりです。

- Einstein 記事レコメンデーションをサポートする次の言語のいずれか: オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語
- [ナレッジの設定] で [有効] に設定されている

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 記事レコメンデーションの準備 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein ケース分類

予測の自動化をより詳細に制御できるように、予測の信頼性の設定を拡大しました。

このセクションの内容:

Einstein の自動アクションの正確な制御
信頼性しきい値の 0 ～ 100% の範囲を使用して項目値を選択または保存するように Einstein に指示します。以前はこの範囲は 50 ～ 100% でした。モデルの項目ごとに、Einstein で項目値を自動的に保存する際の基準となるしきい値と、Einstein で最適な値を選択する際の基準となる低いしきい値を設定します。予測がどちらのしきい値も満たさない場合、Einstein は上位の項目値をエージェントに表示します。

Einstein の自動アクションの正確な制御

信頼性しきい値の 0 ～ 100% の範囲を使用して項目値を選択または保存するように Einstein に指示します。以前はこの範囲は 50 ～ 100% でした。モデルの項目ごとに、Einstein で項目値を自動的に保存する際の基準となるしきい値と、Einstein で最適な値を選択する際の基準となる低いしきい値を設定します。予測がどちらのしきい値も満たさない場合、Einstein は上位の項目値をエージェントに表示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

Einstein 返信レコメンデーション

より少ないチャットトランスクリプトで使用を開始し、英語以外のいずれかの言語での返信をエージェントに提案します (パイロット)。

このセクションの内容:

16 言語のいずれかでのチャットエージェントの応答を有効化 (パイロット)
チャットエージェントとメッセージングエージェントに、ビジネスの場所を反映している推奨応答を提供します。英語以外のサポートされるいずれかの言語で最大 10,000 件の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einstein はその言語でおすすめの返信を提供できます。サポートされる言語はアラビア語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ロシア語です。

より少ないトランスクリプトから開始して返信を増やす
組織に 1,000 件以上の使用可能な英語の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einstein 返信レコメンデーションの使用を開始します。以前は、Einstein でモデルを作成してエージェントに返信を提案できるようにするには、10,000 件以上のトランスクリプトが必要でした。Einstein は返信テンプレートの最初のリストを作成し、その後、リストの 1 回限りの更新を実行できます。

16 言語のいずれかでのチャットエージェントの応答を有効化 (パイロット)

チャットエージェントとメッセージングエージェントに、ビジネスの場所を反映している推奨応答を提供します。英語以外のサポートされるいずれかの言語で最大10,000件の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einstein はその言語でおすすめの返信を提供できます。サポートされる言語はアラビア語、中国語 (簡体字)、中国語(繁体字)、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ロシア語です。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: おすすめの返信は、過去のチャットトランスクリプトに基づいており、Einstein により生成されてユーザにより承認されたリストから取得されます。この単一言語パイロットは、複数言語での返信レコメンデーションへの第一歩です。英語以外のサポートされる言語でおすすめの返信を提供するには、Einsteinに対象言語でのほとんどのチャットでの10,000件の完了したチャットが必要です。一部のチャットが別の言語であっても問題ありません。完了したチャットが不足している場合や、チャットが短すぎる場合は、予測モデルを作成するときにメッセージが表示されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 返信レコメンデーションの準備 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より少ないトランスクリプトから開始して返信を増やす

組織に 1,000 件以上の使用可能な英語の完了したチャットトランスクリプトがある場合、Einstein 返信レコメンデーションの使用を開始します。以前は、Einstein でモデルを作成してエージェントに返信を提案できるようにするには、10,000 件以上のトランスクリプトが必要でした。Einstein は返信テンプレートの最初のリストを作成し、その後、リストの 1 回限りの更新を実行できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 一般的な返信のリストを生成するには、Einstein には 4 つ以上のチャットターンが含まれる 1,000 件の英語の完了したチャットトランスクリプトが必要です。Einstein が学習できるチャットトランスクリプトを調べるには、「Einstein 返信レコメンデーションの準備」を参照してください。

使用可能なトランスクリプトが十分ある場合、[設定] で Einstein 返信レコメンデーションを有効にします。次に、予測モデルを作成して最初の返信テンプレートからクイックテキストとして返信を公開します。10,000 件の完了したチャットトランスクリプトから学習する場合、Einstein はモデルを再構築して返信テンプレートリストを更新します。より多くの応答をエージェントがすばやく利用できるように、テンプレートを確認して新しい返信を公開します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 返信レコメンデーションの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein が推奨する返信の公開 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 音声ラップアップ

Einstein 音声通話ラップアップ (パイロット) を使用してエージェントがすばやく容易に通話の詳細を取得できるようにします。

このセクションの内容:

- Einstein 音声ラップアップを使用した通話の容易な完了 (パイロット)
  Einstein 音声ラップアップは顧客の会話が発生するたびにその会話を分析し、過去の Service Cloud 音声通話に基づいて項目の更新を提案します。サポートエージェントが通話を転送するか完了すると、Einstein はサポートエージェントが項目値をすばやく更新できるようにサポートします。

Einstein 音声ラップアップを使用した通話の容易な完了 (パイロット)

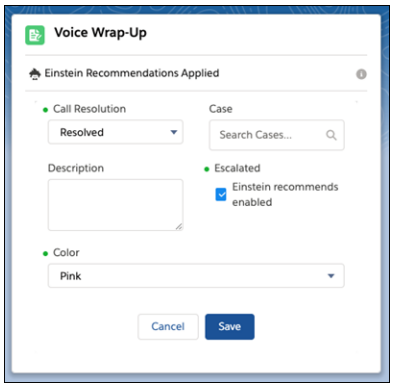
Einstein 音声ラップアップは顧客の会話が発生するたびにその会話を分析し、過去の Service Cloud 音声通話に基づいて項目の更新を提案します。サポートエージェントが通話を転送するか完了すると、Einstein はサポートエージェントが項目値をすばやく更新できるようにサポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用され、Service Cloud 音声を必要とします。

理由: Einstein ケース分類や Einstein ケースラップアップ (パイロット) と同様に、Einstein 音声通話ラップアップでは、項目値の更新が提案されます。ただし、ケース分類とケースラップアップでは、ケースレコードの項目の

更新が推奨されます。対照的に、Einstein 音声通話ラップアップでは、完了した通話から学習され、音声通話項目の更新が提案されます。

方法:おすすめは Einstein 項目のおすすめコンポーネントに表示されます。このコンポーネントは、Lightning サービスコンソールの音声通話レイアウトまたは任意の Lightning アプリケーションに追加できます。エージェントは [Einstein のおすすめを取得] をクリックして予測を表示し、推奨更新を確認して保存できます。緑のドットは、予測を含む項目を示します。



このパイロットにサインアップするには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Einstein 音声通話ラップアップを設定する場合、Einstein のおすすめの対象となる音声通話項目を選択します。

フィールドサービス

メンテナンスの高度な繰り返し(正式リリース)を使用してよりスマートに作業し、毎日、毎週、毎月、または毎年の定期的なスケジュールに基づいて納入商品ごとにメンテナンス作業ルールを作成します。シフトパターンを使用して定期的なスケジュールを定義し、マネージャが通常のシフトをすばやく作成して割り当てることができるようにします。スケジュール条件をシフトに追加して、適切な種別の予定を適切なリソースに一致させます。

このセクションの内容:

定義済みのシフトパターンを使用した迅速なシフトの作成

定期的なシフトのパターンを 1 回のクイックアクションで作成することで、時間を節約します。シフトマネージャはパターン(1 週間分の所定の勤務時間など)を選択して、サービスリソースまたはサービステリトリーのシフトを一括で作成できます。繰り返されるパターンを設定するか、日付範囲を指定します。

条件を満たす予定のシフトの指定

フィールドサービス作業員のシフトのスケジュール設定を細かく調整します。たとえば、緊急予定に対してのみオンコールシフトを指定することができます。条件に一致する予定のみをスケジュールするようにサービス予定項目の値に基づいて検索条件を作成し、シフトに追加します。

Experience Cloud サイトへのシフト管理の追加

Experience Cloud サイトでシフトを管理できるようにします。シフトを Experience Cloud サイトまたはポータルに追加して、ユーザがシフトを表示および管理できるようにします。

商品キャンペーンの管理

目的が商品リコールか、手動のファームウェアアップグレードか、安全監査やコンプライアンス監査かにかかわらず、商品キャンペーンの追跡、透明性、およびリーチを改善し、コストを削減できます。

顧客へのサービス作業のエンタイトルメントの提供

顧客が作業指示の完全なエンタイトルメントを確実に取得できるようにすれば、エンタイトルメントでカバーされない無料の作業指示を提供することはありません。合意された作業指示の数を[エンタイトルメント当たりの作業指示]項目で追跡します。また、まだ残っている作業指示の数を[残りの作業指示]項目で追跡します。

顧客の納入商品またはそのサービスを提供した担当者の表示

サービスマネージャは、納入商品またはサービスを提供した取引先を容易に確認できます。関連リストには、各納入商品の提供者とサービス提供者の詳細が表示されます。

消費した商品の価格設定の詳細の表示

サービスマネージャは、消費した商品の詳細に表示されているリスト価格、小計、割引、および合計金額を使用して価格と割引をより効率的に調整できます。

メンテナンスの高度な繰り返しを使用した事前計画

サービスマネージャは、毎日、毎週、毎月、または毎年の複雑な定期的メンテナンス活動を対象とするメンテナンス作業ルールを作成できるようになりました。メンテナンス計画に適用するルールを設定し、個々の納入商品に対するルールを使用してメンテナンスをより正確に制御します。

メンテナンス計画に関する詳細の記録

メモは、作業者が情報を常に整理するのに役立つリッチテキスト、リスト、および画像を提供します。メモ関連リストをメンテナンス計画で使用できるようになりました。

契約品目の詳細の取得

Service マネージャと作業者は契約品目でロケーション(サービスの実行場所)と[ファイル]関連リストを参照できるようになりました。

ProductConsumed および ProductRequired に追加された PK Chunking サポート

PK Chunking を使用すると、API を使用して ProductConsumed および ProductRequired オブジェクトから大きなデータセットを抽出するときのパフォーマンスと信頼性が向上します。

セルフサービス権限セットの変更

Salesforce は、すべてのオブジェクトでゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限を削除しています。ゲストユーザは[参照]および[作成]オブジェクト権限のみを持つことができます。この変更により、ゲストユーザは Field Service Self Service 権限セットから削除される可能性があります。この場合は、「FSL操作の編集」オブジェクト権限を手動で削除してから、セルフサービス権限を関連するユーザに再割り当てすることができます。

Field Service Scheduling

2地点間予測ルーティングを使用して移動時間をより正確に計算します。一目でわかる最適化インサイトを取得します。関連するサービス予定をシフトと照合する条件を使用してスケジュールを改善します。

Field Service Mobile アプリケーション

ブリーフケースビルダーを使用して、オフラインになる前により多くのデータをユーザやグループと共有します。派遣作業員の到着を追跡し、サービス予定に向けて準備を整えます。クイックアクションを使用して、サービス予定の状況をすばやく更新します。

定義済みのシフトパターンを使用した迅速なシフトの作成

定期的なシフトのパターンを1回のクイックアクションで作成することで、時間を節約します。シフトマネージャはパターン (1 週間分の所定の勤務時間など) を選択して、サービスリソースまたはサービステリトリーのシフトを一括で作成できます。繰り返されるパターンを設定するか、日付範囲を指定します。

対象: シフトパターンは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

方法: まず、期間またはジョブプロファイルを設定するシフトテンプレートを作成します。次に、このテンプレートを参照するシフトパターンを定義します。[パターンから新規作成]アクションを使用して、一連の繰り返されるシフトまたは日付が定義されたシフトを作成します。必要に応じて、サービステリトリー、サービスリソース、またはその両方を割り当てて、スケジュールを簡単に設定できるようにします。

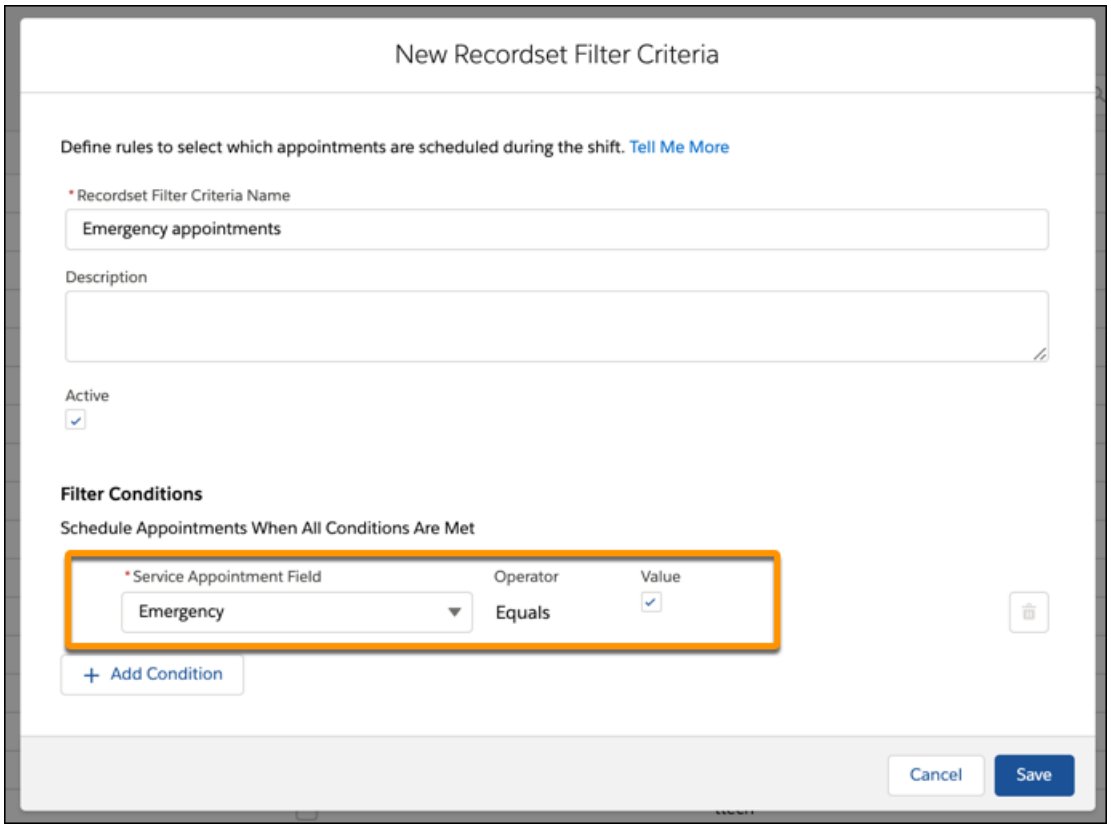
Connect REST API および Connect in Apex では、パターンからのシフトの作成がサポートされています。

条件を満たす予定のシフトの指定

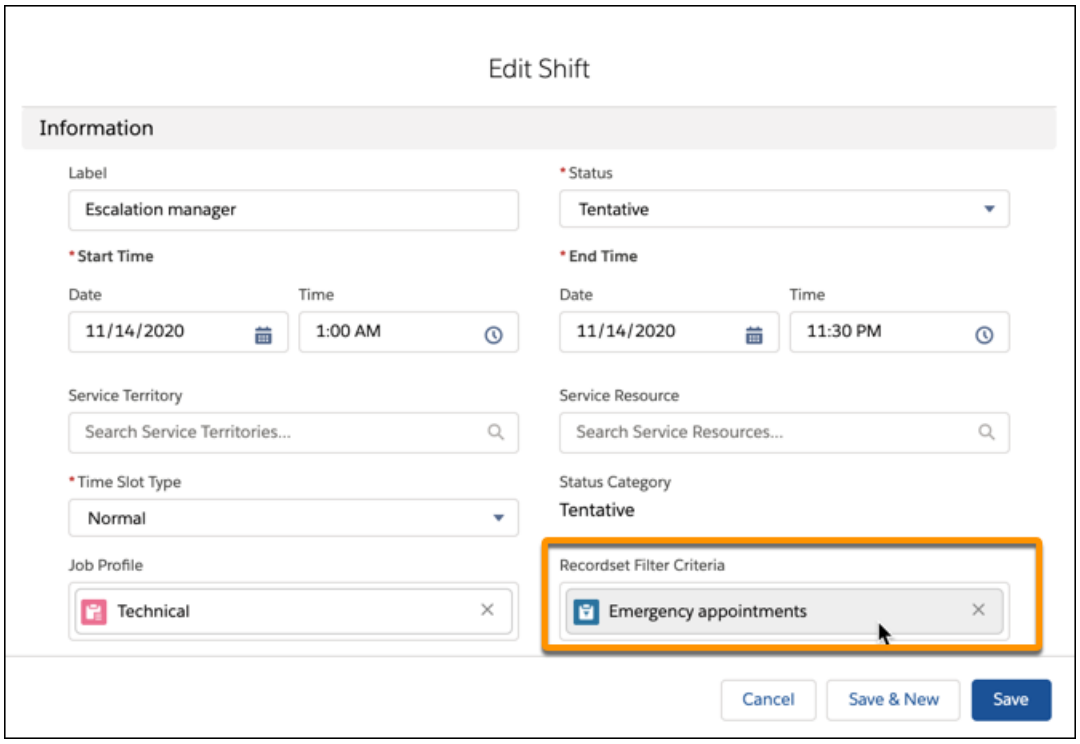
フィールドサービス作業員のシフトのスケジュール設定を細かく調整します。たとえば、緊急予定に対してのみオンコールシフトを指定することができます。条件に一致する予定のみをスケジュールするようにサービス予定項目の値に基づいて検索条件を作成し、シフトに追加します。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: レコードセット検索条件オブジェクトで検索条件を作成します。選択したサービス予定項目の値に一致する検索条件を追加します。たとえば、[緊急]項目を確認する条件を追加して、[Emergency appointments (緊急予定)] 検索条件を作成できます。



これで、オンコールまたは夜間のシフトを作成または編集するときに、[レコードセット検索条件] 項目で [Emergency appointments (緊急予定)] 検索条件を選択できます。スケジュール設定と最適化では、シフト検索条件を使用して緊急予定のみをスケジュールします。



Experience Cloud サイトへのシフト管理の追加

Experience Cloud サイトでシフトを管理できるようにします。シフトを Experience Cloud サイトまたはポータルに追加して、ユーザがシフトを表示および管理できるようにします。

対象: この機能は、Field Service と Experience Cloud を使用する Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

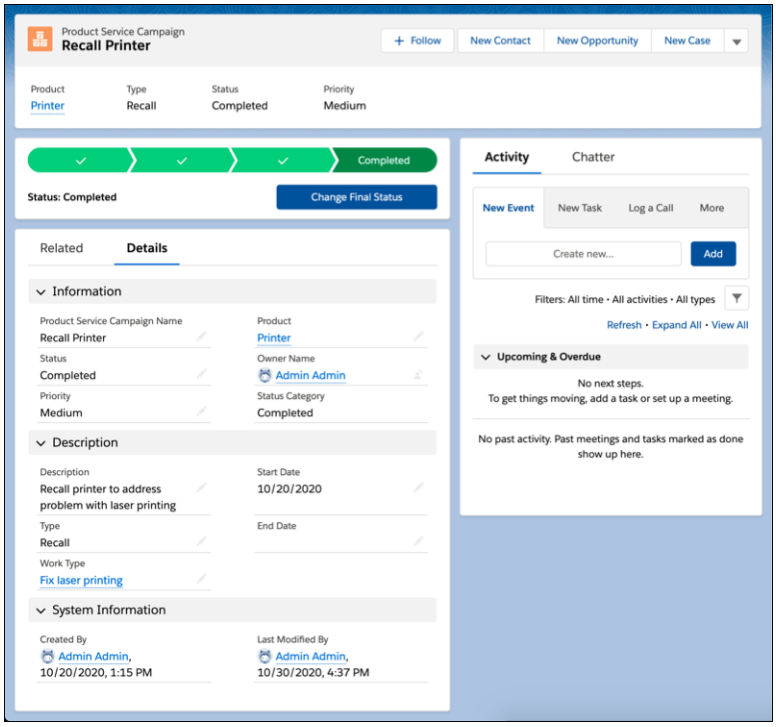
商品キャンペーンの管理

目的が商品リコールか、手動のファームウェアアップグレードか、安全監査やコンプライアンス監査かにかかわらず、商品キャンペーンの追跡、透明性、およびリーチを改善し、コストを削減できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: Salesforce 組織が Spring '21 より前に作成されている場合、[商品サービスキャンペーン項目] 関連リストを商品サービスキャンペーンに追加します。

1 つ以上の商品の商品キャンペーンを作成した後、Salesforce を使用して影響のある納入商品を特定します。次に、作業指示および返品注文を作成してキャンペーンを実行します。作業指示の状況を追跡し、キャンペーンが正常に完了したことを確認します。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 商品キャンペーンの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ページレイアウトへの [ファイル] 関連リストの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Manage Product Campaigns (商品キャンペーンの管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

顧客へのサービス作業のエンタイトルメントの提供

顧客が作業指示の完全なエンタイトルメントを確実に取得できるようにすれば、エンタイトルメントでカバーされない無料の作業指示を提供することはありません。合意された作業指示の数を [エンタイトルメント当たりの作業指示] 項目で追跡します。また、まだ残っている作業指示の数を [残りの作業指示] 項目で追跡します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: Salesforce 組織が Spring '21 より前に作成されている場合、[エンタイトルメントあたりの作業指示] および [残りの作業指示] 項目をエンタイトルメントに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エンタイトルメント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:エンタイトルメントのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:ページレイアウトへの [ファイル] 関連リストの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

顧客の納入商品またはそのサービスを提供した担当者の表示

サービスマネージャは、納入商品またはサービスを提供した取引先を容易に確認できます。関連リストには、各納入商品の提供者とサービス提供者の詳細が表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:取引先 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

消費した商品の価格設定の詳細の表示

サービスマネージャは、消費した商品の詳細に表示されているリスト価格、小計、割引、および合計金額を使用して価格と割引をより効率的に調整できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:在庫消費のガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メンテナンスの高度な繰り返しを使用した事前計画

サービスマネージャは、毎日、毎週、毎月、または毎年の複雑な定期的メンテナンス活動を対象とするメンテナンス作業ルールを作成できるようになりました。メンテナンス計画に適用するルールを設定し、個々の納入商品に対するルールを使用してメンテナンスをより正確に制御します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Spring '21 リリースより前に作成された Salesforce 組織では、CRUD はリリースから 24 時間以内に自動的に有効になります。

理由: メンテナンス計画とその納入商品には、さまざまな間隔で実行されるメンテナンス作業を含めて、複雑な繰り返しパターンが必要になる場合があります。複数のメンテナンス作業が同時に発生したときには、一部を実施するかすべてを実施するかを選択できる必要があります。

メンテナンスの高度な繰り返しを使用すると、次のようなスケジュールを作成できます。

- 納入商品のないメンテナンス計画:たとえば、ビルの清掃サービスの場合、一般的な清掃が平日に毎日実行され、追加の消毒清掃が毎週金曜日に実行されます。
- 同じメンテナンススケジュールを必要とする複数の納入商品を含むメンテナンス計画:たとえば、毎月、毎四半期、および毎年の同じスケジュールメンテナンスが実行される 500 台の HVAC が設備に含まれています。
- ほとんどの納入商品が同じメンテナンススケジュールを必要とするメンテナンス計画:たとえば、ジムのほとんどのトレッドミルは四半期ごとのメンテナンスのみを必要としますが、2つの古いトレッドミルは毎月のメンテナンスを必要とします。
- 異なるメンテナンススケジュールを必要とする複数の納入商品を含むメンテナンス計画:たとえば、ガソリンスタンドでは、ポンプのメンテナンスが毎週および毎月実行され、燃料タンクの検査が毎四半期および毎年実行されます。

メンテナンスの高度な繰り返しを使用すると、異なる優先順位を持つメンテナンス作業を管理することもできます。次に例を示します。

- ビルメンテナンス会社が空調システムのマイナーサービスを 3 か月に 1 回実施し、メジャーサービスを年 1 回実施するとします。年1回のサービスに対して作業指示が生成されるときには、3か月毎のサービスに対する作業指示は不要です。
- プールのメンテナンス会社が毎月プールを清掃し、薬品による消毒作業を 3 か月に 1 回行うとします。この場合、サービスマネージャは、プール清掃の作業指示と並行して消毒の作業指示を継続したいと考えます。

また、納入商品ごとに1つの作業指示品目を生成するオプションを選択することで、推奨メンテナンス日を共有する作業指示品目を 1 つの作業指示に蓄積することができます。

方法: メンテナンス作業ルールを更新する手順は、次のとおりです。

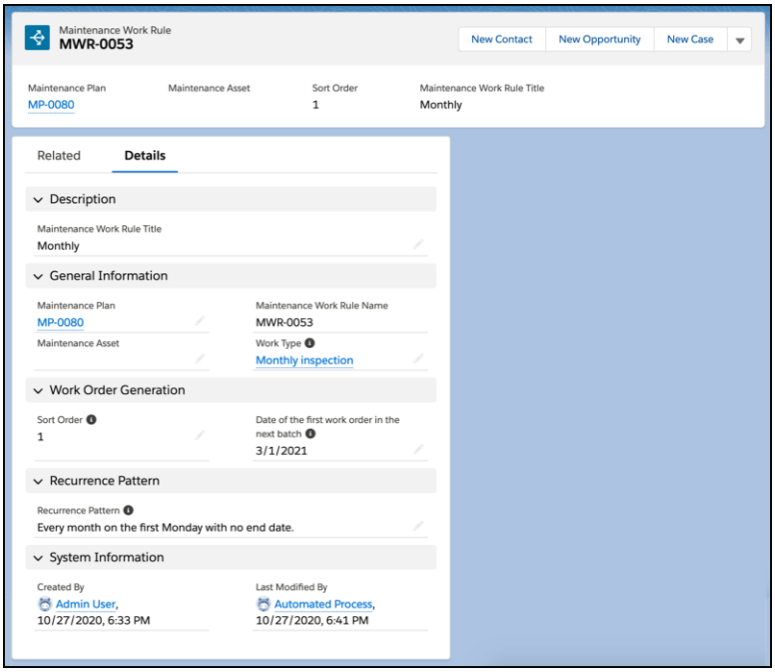
- 権限セットまたはプロファイルで、次の操作を実行します。
  - [メンテナンス作業ルール] タブを有効にします。
  - プロファイルの [メンテナンス作業ルール] の [メンテナンス計画] 項目および [メンテナンスアセット] 項目で項目レベルセキュリティを有効にします。
- [メンテナンス作業ルール] 関連リストをメンテナンス計画およびメンテナンスアセットページレイアウトに追加します。
- メンテナンス作業ルールページレイアウトで、[メンテナンス作業ルールの詳細] セクションの [メンテナンスアセット] プロパティをクリックし、[メンテナンスアセットの項目プロパティ] で [必須] をオフにします。

メンテナンス計画のすべての納入商品のサービス頻度が同じ場合、メンテナンス計画に対するメンテナンス作業ルールを作成できます。ただし、メンテナンス計画の納入商品のサービス頻度が異なる場合は、次の手順を実行します。

- 複数の納入商品がメンテナンス頻度を共有している場合は、メンテナンス計画に対するメンテナンス作業ルールを作成します。

- 次に、メンテナンス頻度が異なる納入商品ごとにメンテナンス作業ルールを作成します。

メンテナンス作業ルールを作成するときに、並び替え順を使用して、複数のルールの優先順位を設定します。作業指示の生成プロセスで、同じ日に複数のルールが重なっている場合は、並び替えの順序値が最も小さいルールの作業指示のみが生成されます。複数のルールで並び替え順の最も低い値が同じである場合は、それぞれルールの作業指示が生成されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:メンテナンス計画の高度な繰り返し(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:権限セットとプロファイルでのタブ設定の表示と編集(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:権限セットとプロファイルでの項目権限の設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メンテナンス計画に関する詳細の記録

メモは、作業者が情報を常に整理するのに役立つリッチテキスト、リスト、および画像を提供します。メモ関連リストをメンテナンス計画で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:メモ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:メンテナンス計画の作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

契約品目の詳細の取得

Service マネージャと作業者は契約品目でロケーション (サービスの実行場所) と [ファイル] 関連リストを参照できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:取引先責任者 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ProductConsumed および ProductRequired に追加された PK Chunking サポート

PK Chunking を使用すると、API を使用して ProductConsumed および ProductRequired オブジェクトから大きなデータセットを抽出するときのパフォーマンスと信頼性が向上します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce Developers: Use PK Chunking to Extract Large Data Sets from Salesforce (PK Chunking を使用した Salesforce からの大量データセットの抽出) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Salesforce Developers: PK Chunking Header (PK Chunking ヘッダー) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セルフサービス権限セットの変更

Salesforce は、すべてのオブジェクトでゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限を削除しています。ゲストユーザは [参照] および [作成] オブジェクト権限のみを持つことができます。この変更により、ゲストユーザは Field Service Self Service 権限セットから削除される可能性があります。この場合は、「FSL 操作の編集」オブジェクト権限を手動で削除してから、セルフサービス権限を関連するユーザに再割り当てすることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の ゲストユーザに適用されます。

方法: 「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限が権限セットまたは権限グループに含まれ、ゲストユーザに割り当てられている場合、ゲストユーザはその権限セットまたは権限セットグループから削除されます。ゲストユーザはこの権限セットと権限セットグループ内の他のすべての権限へのアクセス権も失います。

[設定] の [クイック検索] ボックスに「ユーザ」と入力し、[権限セット] を選択します。[Field Service Self Service 権限] をクリックして、[オブジェクト設定] を選択します。[FSL 操作]、[編集] の順にクリックし、[編集] 権限をオフにします。

「すべて変更」、「すべて表示」、「編集」、または「削除」オブジェクト権限があるために Field Service Self Service 権限セットから削除されたゲストユーザは、他の機能を失うこともあります。更新された権限セットをゲストユーザに割り当てるか、Field Service Self Service 権限セットを関連するユーザに再割り当てすることができます。

関連トピック:

リリースノート:ゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、および「削除」オブジェクト権限の削除 (can be outdated or unavailable during release preview)

Field Service Scheduling

2 地点間予測ルーティングを使用して移動時間をより正確に計算します。一目でわかる最適化インサイトを取得します。関連するサービス予定をシフトと照合する条件を使用してスケジュールを改善します。

このセクションの内容:

条件を満たすシフト中に予定をスケジュール
シフトをサービス予定に一致させる検索条件を使用して、チームのシフトスケジュールを細かく調整します。シフト条件を設定したら、予定をスケジュールするか、最適化を使用してチームと顧客にとって最良のスケジュールを見つけることができます。

2 地点間予測ルーティングを使用したよりスマートな移動時間の推定の取得
移動時間をより正確に計算することで、作業者の運転時間を節約し、生産性を向上します。2 地点間予測ルーティングでは、サービス予定の正確なロケーションが使用され、時刻が考慮されるため、空間ルーティングや番地レベルのルーティングよりも正確になります。2 地点間予測ルーティングにより予測移動 (ベータ) が徐々に置き換えられており、すべてのスケジュール操作および最適化操作で 2 地点間予測ルーティングを使用できます。

改善された最適化インサイト (正式リリース) を使用した結果の表示
グローバル最適化または全日最適化による重要業績評価指標 (KPI) への影響が一目でわかるようになります。正式リリースされた最適化インサイトで最適化前後の総計値が表示され、新しいコンポーネントで状態チェック結果の概要が示されます。精度を高めるため、稼働状況にはシフトが作業者の対応可能状況の参照元として含まれています。

条件を満たすシフト中に予定をスケジュール

シフトをサービス予定に一致させる検索条件を使用して、チームのシフトスケジュールを細かく調整します。シフト条件を設定したら、予定をスケジュールするか、最適化を使用してチームと顧客にとって最良のスケジュールを見つけることができます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

リリースノート: Designate Shifts for Appointments that Meet Your Criteria (条件を満たす予定のシフトの指定)

Salesforce ヘルプ: シフトの対応可能状況のガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

2 地点間予測ルーティングを使用したよりスマートな移動時間の推定の取得

移動時間をより正確に計算することで、作業者の運転時間を節約し、生産性を向上します。2 地点間予測ルーティングでは、サービス予定の正確なロケーションが使用され、時刻が考慮されるため、空間ルーティングや番地レベルのルーティングよりも正確になります。2 地点間予測ルーティングにより予測移動 (ベータ) が徐々に置き換えられており、すべてのスケジュール操作および最適化操作で 2 地点間予測ルーティングを使用できます。

対象: この機能は、Field Service 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 新しい Salesforce 組織は 2 地点間予測ルーティングをデフォルトで取得します。既存の組織は予測移動 (ベータ) とその設定を保持しますが、2 地点間予測ルーティングに切り替えることができます。

組織で何が有効になっているかを確認するには、Field Service Admin アプリケーションで **[Field Service Settings (Field Service 設定)]** > **[Scheduling (スケジュール)]** > **[Routing (ルーティング)]** に移動します。**[Enable Point-to-Point Predictive Routing (2 地点間予測ルーティングを有効化)]** がまだ有効になっていない場合は、有効にできます。

関連トピック:

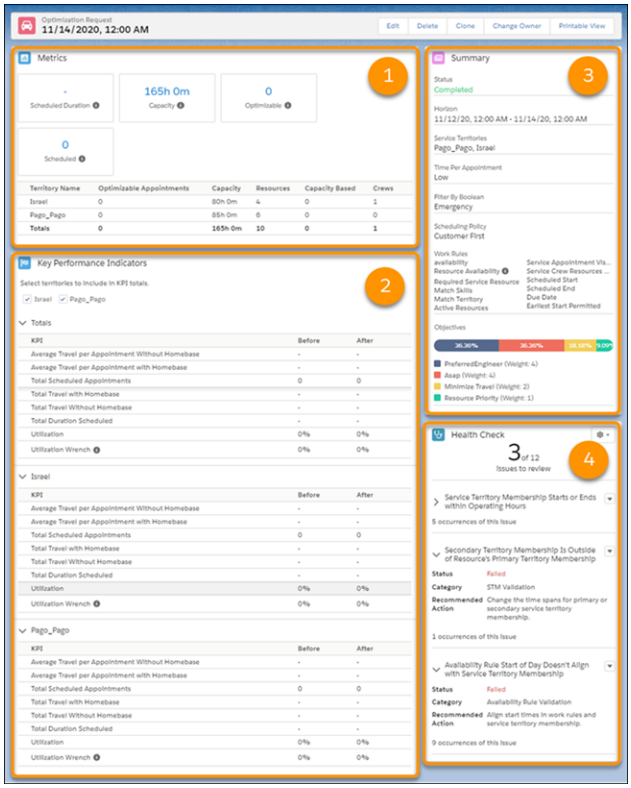
Salesforce ヘルプ: 移動時間の計算のためのルーティングの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

改善された最適化インサイト (正式リリース) を使用した結果の表示

グローバル最適化または全日最適化による重要業績評価指標 (KPI) への影響が一目でわかるようになります。正式リリースされた最適化インサイトで最適化前後の総計値が表示され、新しいコンポーネントで状態チェック結果の概要が示されます。精度を高めるため、稼働状況にはシフトが作業者の対応可能状況の参照元として含まれています。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: **[Field Service 設定]** > **[最適化]** で、**[最適化インサイト]** を有効化します。Lightning アプリケーションビルダーを使用して最適化リクエストページを編集し、4 つのカスタム Lightning コンポーネントを追加します。グローバル最適化または全日最適化が完了すると、コンポーネントに総計値 (1)、テリトリー別の KPI (2)、最適化とスケジュールポリシーの詳細を含むサマリー (3)、新しい状態チェック結果 (4) が表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 最適化インサイトによる最適化の可視化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Field Service Mobile アプリケーション

ブリーフケースビルダーを使用して、オフラインになる前により多くのデータをユーザやグループと共有します。派遣作業員の到着を追跡し、サービス予定に向けて準備を整えます。クイックアクションを使用して、サービス予定の状況をすばやく更新します。

このセクションの内容:

ブリーフケースビルダー (ベータ)

オフラインレコードデータをユーザが使用できるようにするためのより適切な方法を探索します。ブリーフケースビルダーツールを使用すると、レコードを選択してオフラインで派遣作業員と共有することができます。また、柔軟で使いやすく、派遣作業員のニーズに対応するオフラインプラットフォーム環境を作成できます。

作業員の到着時間を顧客に通知

予定アシスタントを使用すれば、顧客は派遣作業員がいつ到着するかを把握できるため、余裕をもって COVID に対する安全を確保するための準備を行ったり、サービス予定を見過ごさないようにできます。設定した予定の有効期限によって作業員のロケーションが顧客に表示されなくなり、名前や写真などの作業員の ID によって作業員と顧客の両方の安全とセキュリティが提供されます。

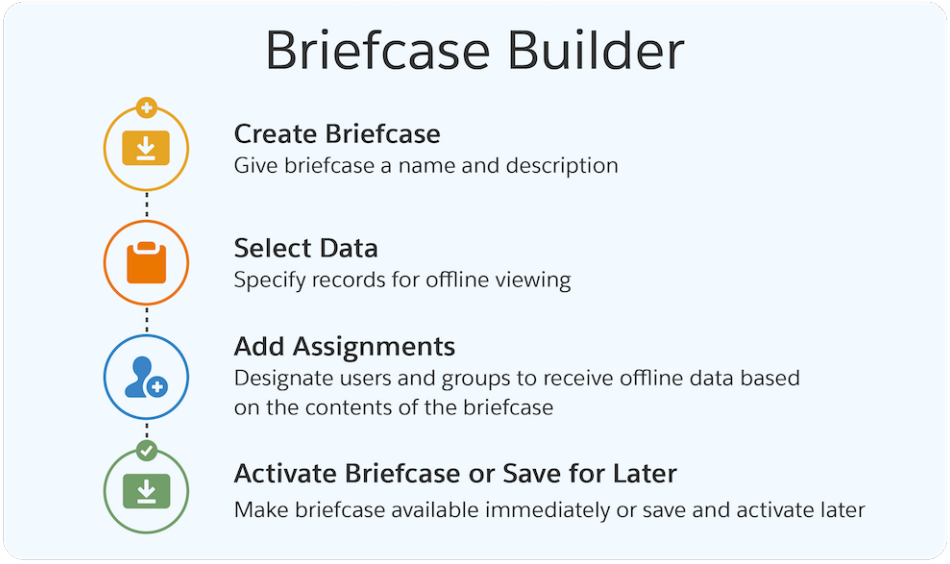
外出中にサービス予定の状況を更新

フローにすばやくアクセスし、クイックアクションメニューを使用してサービス予定の状況を変更することで、タップ数を節約します。

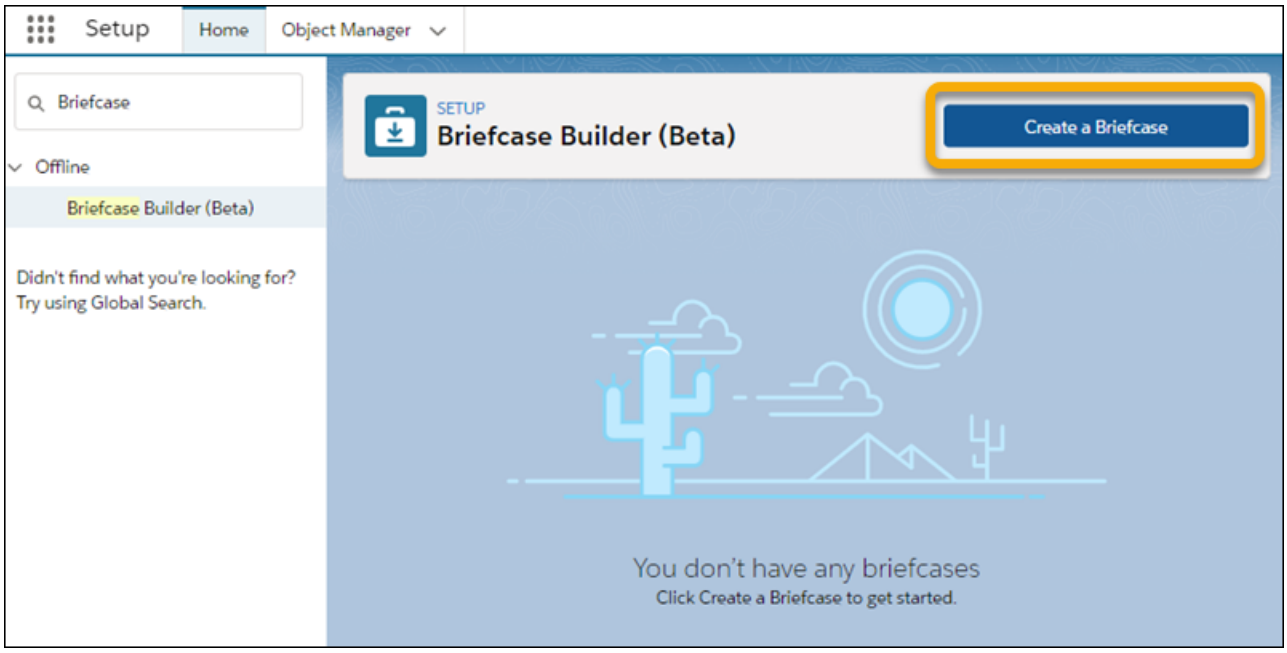
ブリーフケースビルダー (ベータ)

オフラインレコードデータをユーザが使用できるようにするためのより適切な方法を探索します。ブリーフケースビルダーツールを使用すると、レコードを選択してオフラインで派遣作業員と共有することができます。また、柔軟で使いやすく、派遣作業員のニーズに対応するオフラインプラットフォーム環境を作成できます。

対象: ブリーフケースビルダーツールは、Field Services (FS) が有効になっている Lightning Experience デスクトップとすべての Salesforce 組織に適用されます。このツールでは、iOS および Android 用の Salesforce Field Service モバイルアプリケーションがサポートされます。



方法: ブリーフケースを作成し、名前を付けて、オブジェクトを選択して、オフラインでユーザに表示するレコードを絞り込みます。次に、ブリーフケースを表示するユーザまたはグループを割り当てて、ブリーフケースをすぐにまたは後で有効化できます。



メモ: このベータ機能の使用には、「Agreements and Terms」に記載されたベータサービス規約が適用されます。

関連トピック:

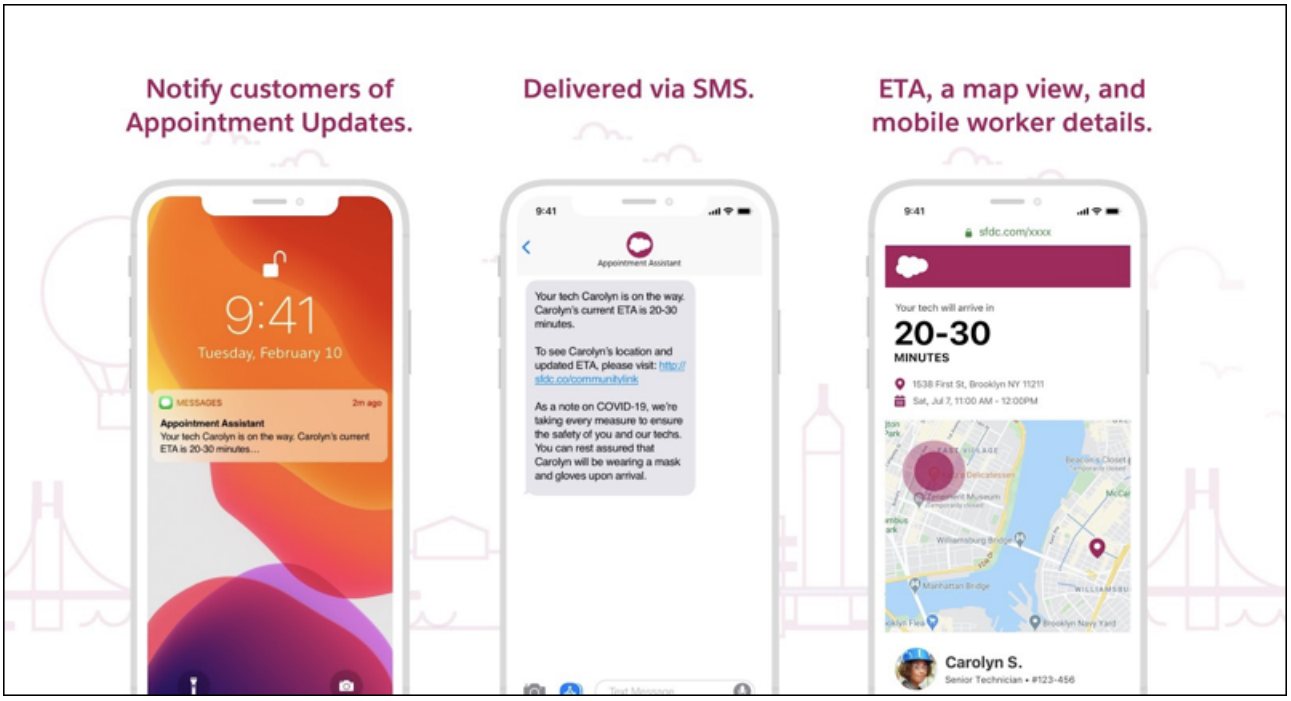
Salesforce ヘルプ: Field Service Mobile アプリケーションのオフラインプライミング

作業員の到着時間を顧客に通知

予定アシスタントを使用すれば、顧客は派遣作業員がいつ到着するかを把握できるため、余裕をもって COVID に対する安全を確保するための準備を行ったり、サービス予定を見過ごさないようにできます。設定した予定の有効期限によって作業員のロケーションが顧客に表示されなくなり、名前や写真などの作業員の ID によって作業員と顧客の両方の安全とセキュリティが提供されます。

対象: この変更は、Field Service for Android/iOS に適用されます。

方法: 設定で、途中および推定時間の到着メッセージをトリガするサービス予定の状況を定義します。派遣作業員がその状況を選択すると、顧客に到着と派遣作業員の詳細が記されたテキストが届きます。メッセージテンプレートを使用してプロセスを簡略化するフローを作成することもできます。



関連トピック:

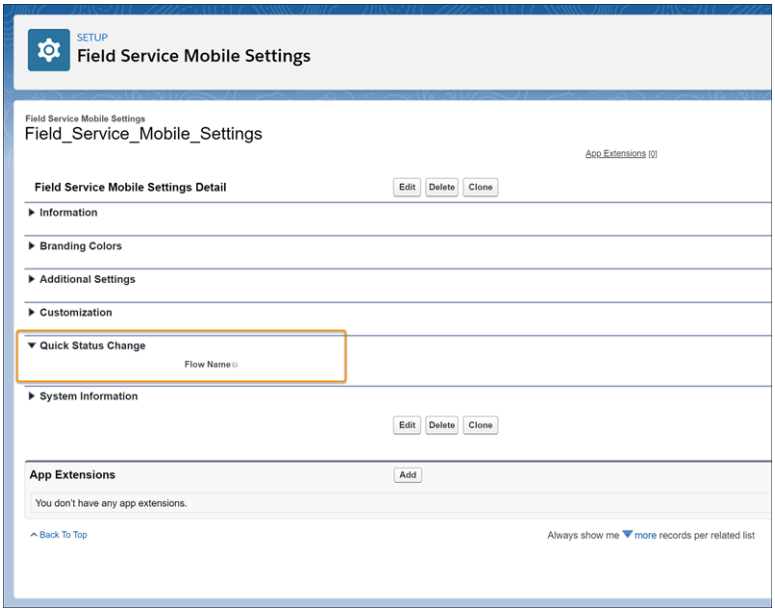
Salesforce ヘルプ: Field Service の予定アシスタント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

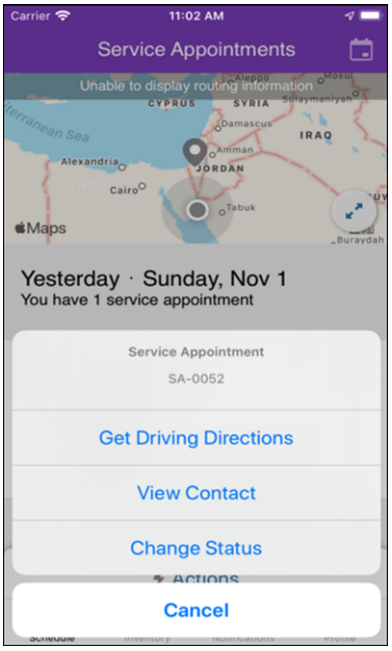
外出中にサービス予定の状況を更新

フローにすばやくアクセスし、クイックアクションメニューを使用してサービス予定の状況を変更することで、タップ数を節約します。

対象: この変更は、Field Service for Android/iOS に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Field Service Mobile`」と入力し、**[Field Service Mobile 設定]** を選択します。必須のモバイル設定プロファイルを編集します。次に、[状況のクイック変更] の下で、[状況のクイック変更] アクションが適用される [Field Service Mobile] 種別の既存のフロー名を入力します。Field Service Mobile アプリケーションで、派遣作業員は予定リストからクイックアクションメニューを開き、[状況の変更] を選択できます。





関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Field Service Mobile 設定の詳細 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

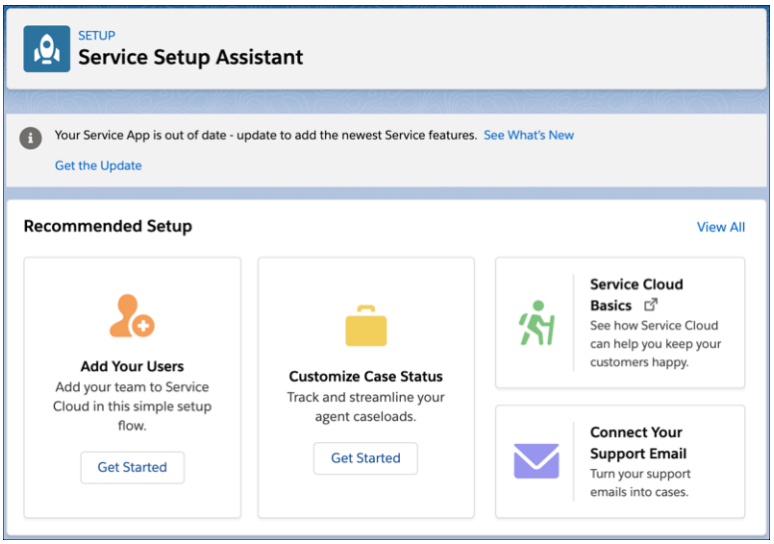
Service 設定アシスタント

Service Cloud の使用を開始する最も速い方法に含まれる機能数が増えたため、顧客への集中により多くの時間を費やすことができます。新しい更新ツールを使用して、チャットおよびメッセージングチャネル、オムニチャネル、ナレッジ、ケースマージ、ケース状況の自動化などの最新機能をワンクリックで設定します。新しいウォークスルーは、システム管理者がクイックテキストとマクロについて学習するのに役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Professional Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Service 設定アシスタントは、設定アプリケーションのある Salesforce 組織が使用できます。新規ユーザは、すべての更新に加えて、Winter '21 に含まれる機能を使用できます。Service 設定アシスタントの既存のユーザは、更新ツールを使用して新機能を追加できます。

方法: Service の使用を開始するには、[設定] メニューから **[Service 設定アシスタント]** をクリックします。



チャネル

[音声の設定] にかかる時間が短縮され、自動で行われる作業も増えたため、コンタクトセンターをすばやく稼働できます。保留のまま待機するのではなく折り返しを要求するオプションを顧客に提供できます。Voice が High-Velocity Sales と統合されたため、営業担当はより多くの顧客にリーチできます。新しいメタデータオプションを使用してメッセージテンプレートを特定のチャネルにリンクします。

このセクションの内容:

音声

Service Cloud 音声設定プロセスのいくつかの主要なステップが自動化されたため、エージェントは、パーソナライズした電話環境を顧客にすぐに提供できます。顧客は保留のまま待機するのではなく折り返しを受信するように選択できます。音声の弾力性によりコンタクトセンターの稼働が円滑になります。High Velocity Sales、通話記録コラボレーションオプション、およびアップデートリマインダーとの統合により、システム管理者とユーザは音声を最大限に活用できます。また、音声コンタクトセンターのカスタマイズに役立つ新しいドキュメントが公開されました。

Messaging

メッセージテンプレートのより優れたメタデータを使用して、エージェントと顧客のやりとりをより効率的にします。

音声

Service Cloud 音声設定プロセスのいくつかの主要なステップが自動化されたため、エージェントは、パーソナライズした電話環境を顧客にすぐに提供できます。顧客は保留のまま待機するのではなく折り返しを受信するように選択できます。音声の弾力性によりコンタクトセンターの稼働が円滑になります。High Velocity Sales、通話記録コラボレーションオプション、およびアップデートリマインダーとの統合により、システム管理者とユーザは音声を最大限に活用できます。また、音声コンタクトセンターのカスタマイズに役立つ新しいドキュメントが公開されました。

このセクションの内容:

コンタクトセンターの迅速な稼働開始

ToDo リストから多くの ToDo を除外します。いくつかの設定手順が自動化されたため、Service Cloud 音声コンタクトセンターをこれまで以上に迅速に設定できるようになりました。

予約された折り返し電話による顧客の時間の節約と不満の解消

誰も列に並んで待ちたくありません。特にカスタマーサポートの列には並びたくありません。顧客の時間を尊重し、かけ直しを要求する選択肢を提供することで顧客の電話の時間を節約します。顧客は保留にされたまま待ち続けることはなく、エージェントは顧客にすぐに電話を返すことができます。

Service Cloud 音声と High Velocity Sales の統合

Service Cloud 音声と High Velocity Sales を組み合わせて、営業担当の生産性を最大化します。営業担当は、セールスケイデンス、私のリスト、および作業キューから取得したクリック-to-ダイヤルレコードを使用できるため、音声ですばやく発信できます。営業担当が通話を終了すると、セールスケイデンスの通話ステップは自動的に完了としてマークされるため、セールスケイデンスは次のステップに進みます。営業担当が通話を完了すると、音声通話レコードごとに ToDo が自動的に作成されるため、営業担当は見込み客を簡単にフォローアップできます。

通話記録でのコラボレーションによるカスタマーサービスの改善

エージェントとスーパーバイザは顧客の通話記録を聞いているときに、言葉数の多いメモを作成するのではなくコメントを記録に直接追加することができます。使い慣れた Chatter のようなコメントツールを使用してコメントの追加、質問、同僚へのメンションを行って、コラボレーションを行います。Service Cloud 音声の通話記録にアノテーションが付加されることで、カスタマーサービスが改善され、エージェントの生産性が向上し、エージェントトレーニングが強化されます。

エージェントに会話後作業の時間を提供 (パイロット)

ほとんどのサービスコールで通話終了後の完了作業が必要になります。たとえば、エージェントがメールの送信、ケースの更新、通話メモの確定を行いたい場合があります。会話後作業 (ACW) は、エージェントの通話後の作業にかかる時間をスーパーバイザが設定および管理するのに役立ちます。また、エージェントはこの作業にかかる時間を大まかに知ることができます。

音声の弾力性と緩和された音声プラットフォームの制限によるコンタクトセンターの拡張

エージェントが一度により多くの顧客をサポートし、通話のバックログを削減できるようにします。音声の弾力性により、通話量が制限を超えた場合、または音声を強化するバックグラウンドサービスが影響を受ける場合に、コンタクトセンターを拡張できます。Service Cloud 音声の同時通話と発言に対するプラットフォーム制限の緩和により、2 倍の顧客をサポートできます。

コンタクトセンターの更新が利用可能になった場合に表示

Salesforce でコンタクトセンターをボタンのクリック操作ですばやく更新します。利用可能な更新がある場合、Salesforce にログインすると通知が表示されます。また、通知はコンタクトセンターの設定ページにも表示されます。この通知には、更新の詳細へのリンクが含まれます。最新バージョンのコンタクトセンターはコンタクトセンターの設定ページまたはコンタクトセンターの詳細ページからインストールできます。

鍵のペアの有効期限の表示

公開 - 非公開鍵のペアの有効期限が近づいたときに通知を受け取り、ユーザが期限までに更新できるようにします。鍵のペアの有効期限が近づいているか、すでに切れている場合、Salesforce にログインすると通知が表示されます。また、通知はコンタクトセンターの設定ページにも表示されます。通知にはコンタクトセンターの設定ページへのリンクが含まれており、そこで鍵のペアをすばやく更新できます。

新しい Service Cloud 音声ドキュメントの導入

システム管理者と開発者向けのすばらしい新しいドキュメントが提供されました。新しい主要概念の概要、サンプルコード、一般的な使用事例や、Service Cloud 音声リソースへのリンクが含まれる便利な学習マップを参照してください。

最新のテレフォニーインテグレーション API への更新

Winter '21 リリースでは、セキュリティ向上のために Create Transcript REST API が変更されました。具体的には、参加者 ID が URI からペイロードに移動されました。古い API は 2021 年 3 月 15 日に動作しなくなります。この変更は、この API を使用するコンタクトセンターの Lambda 関数にも影響します。Winter '21 リリース以前に Service Cloud 音声をインストールしている場合は、コンタクトセンターを必ず最新バージョンに更新してください。

Lambda 関数のウォームアップ、音声でのより多くの言語でのリアルタイムの文字起こし

Lambda 関数のコールドスタートを原因とする Service Cloud 音声での通話の遅延を回避するには、AWS EventBridge を活用して Lambda 関数をウォームアップします。イタリア語、ドイツ語、日本語、韓国語、ポルトガル語 (ブラジル) での会話のリアルタイムの文字起こしを追加すると、エージェントはメモを取る代わりに顧客のサポートに集中できます。

コンタクトセンターの迅速な稼働開始

ToDo リストから多くの ToDo を除外します。いくつかの設定手順が自動化されたため、Service Cloud 音声コンタクトセンターをこれまで以上に迅速に設定できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザ: 「コンタクトセンター管理者」権限セットを持つユーザは、Service Cloud 音声コンタクトセンターを作成して管理できます。

理由: コンタクトセンターを作成するときに次の手順が自動的に実行されるようになりました。

- 問い合わせフローが設定されます。このため、問い合わせフローを Amazon Connect に手動でアップロードして設定する必要はありません。
- シングルサインオン (SSO) 用の接続アプリケーションと権限セットが設定されます。権限セットをコンタクトセンターユーザに割り当てる準備が整っています。
- オムニチャネルへのサインイン用のエージェントのプレゼンス状況が作成され、Service Cloud 音声権限セットに追加されます。

- 通話記録プレーヤーと Chatter フィードコンポーネントは、音声通話レコードページでデフォルトで使用できます。以前は、これらをページに手動で追加していました。

メモ: Salesforce 組織でカスタマイズされた音声通話ページを使用する場合、ページレイアウトへの変更はページに影響しません。組織でデフォルトの音声通話ページを使用する場合、そのページでユーザに通話記録プレーヤーと Chatter フィードコンポーネントが表示されます。

方法: デフォルトの音声通話ページを使用するには、Lightning アプリケーションビルダーに移動して、音声通話レコードページを選択します。ページをカスタマイズして、有効化します。

通話記録を初めて使用する場合は、次の手順を実行します。

- エージェントが通話記録を聞くことができるように Amazon Connect でセキュリティプロファイルを更新します。
- エージェントに「コンタクトセンターエージェント」権限セットと「通話記録を表示」ユーザ権限があることを確認します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Service Cloud 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

予約された折り返し電話による顧客の時間の節約と不満の解消

誰も列に並んで待ちたくありません。特にカスタマーサポートの列には並びたくありません。顧客の時間を尊重し、かけ直しを要求する選択肢を提供することで顧客の電話の時間を節約します。顧客は保留にされたまま待ち続けることはなく、エージェントは顧客にすぐに電話を返すことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: 更新された Sample_SCV_Inbound_Flow_With_Transcription 問い合わせフローは、2021 年 2 月 13 日に Service Cloud Voice Github リポジトリで使用可能になります。この問い合わせフローは、2021 年 2 月 13 日以降に作成されたコンタクトセンターで自動的に使用可能になります。

理由: 通話量が多い場合に、対応可能なサポートエージェントを待機するかどうかを選択できるようにすることで、顧客満足度を向上します。

また、予約された折り返し電話によって、テレフォニーコストが削減され、エージェントの稼働率が向上します。テレフォニーコストは時間(分)単位で請求されるため、保留中の顧客が少ないほど、テレフォニーの使用時間が少なくなります。顧客に折り返しキューにある電話を返すことで通話量が減ると、エージェントは高い生産性を維持できます。通話者が折り返しを選択すると、折り返し要求はキューに追加され、オムニチャネルの[通話制御]タブで対応可能なエージェントに転送されます。エージェントが要求を受け入れると、発信通話が開始されます。

方法: Agent-first キューに追加された折り返しは、Sample_SCV_Inbound_Flow_With_Transcription 問い合わせフローを介して提供されます。

コンタクトセンターが Spring '21 より前に作成された場合、更新された Sample_SCV_Inbound_Flow_With_Transcription を Service Cloud Voice Github リポジトリからダウンロードします。問い合わせフローを Amazon Connect インスタンスにインポートします。会社の実務を反映するように問い合わせフローブロックを設定してから、フローを公開します。

コンタクトセンターがSpring '21以降に作成された場合、問い合わせフローはすでにコンタクトセンターで使用可能です。会社の実務を反映するようにブロックを設定してから、フローを公開します。

関連トピック:

Service Cloud Voice Implementation Guide (Service Cloud 音声実装ガイド): Give Customers the Option to Request a Callback (折り返しを要求するオプションを顧客に提供) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Service Cloud 音声と High Velocity Sales の統合

Service Cloud 音声と High Velocity Sales を組み合わせて、営業担当の生産性を最大化します。営業担当は、セールスケイデンス、私のリスト、および作業キューから取得したクリック-to-ダイヤルレコードを使用できるため、音声ですばやく発信できます。営業担当が通話を終了すると、セールスケイデンスの通話ステップは自動的に完了としてマークされるため、セールスケイデンスは次のステップに進みます。営業担当が通話を完了すると、音声通話レコードごとに ToDo が自動的に作成されるため、営業担当は見込み客を簡単にフォローアップできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザ: ユーザがこの機能を使用するには、Service Cloud 音声と High Velocity Sales の両方のライセンスを持っている必要があります。

方法: 組織で Service Cloud 音声と High Velocity Sales を設定し、通話を含むセールスケイデンスを作成します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Service Cloud 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: High Velocity Sales の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: セールスケイデンスの作成と有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

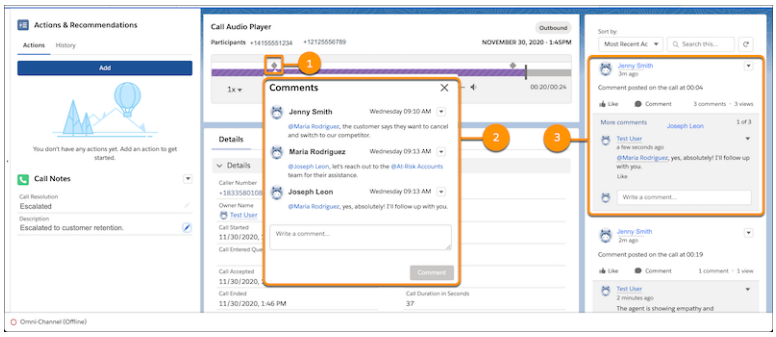
通話記録でのコラボレーションによるカスタマーサービスの改善

エージェントとスーパーバイザは顧客の通話記録を聞いているときに、言葉数の多いメモを作成するのではなくコメントを記録に直接追加することができます。使い慣れたChatterのようなコメントツールを使用してコメントの追加、質問、同僚へのメンションを行って、コラボレーションを行います。Service Cloud 音声の通話記録にアノテーションが付加されることで、カスタマーサービスが改善され、エージェントの生産性が向上し、エージェントトレーニングが強化されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザ: 「通話記録を表示」権限を持つユーザは通話記録を聞いて、通話記録でコラボレーションを行うことができます。

方法:通話記録内の進行状況バーの上の空白をクリックしてコメントを入力します。ひし形のアイコンをクリックしてコメントを開きます(1)。[コメント]をクリックしてスレッドに返信します(2)。また、Chatterフィードコンポーネントで通話記録のコメントの表示、コメントの追加、コメントの編集を行うこともできます(3)。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:通話記録の再生と通話記録でのコラボレーション(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エージェントに会話後作業の時間を提供 (パイロット)

ほとんどのサービスコールで通話終了後の完了作業が必要になります。たとえば、エージェントがメールの送信、ケースの更新、通話メモの確定を行いたい場合があります。会話後作業(ACW)は、エージェントの通話後の作業にかかる時間をスーパーバイザが設定および管理するのに役立ちます。また、エージェントはこの作業にかかる時間を大まかに知ることができます。

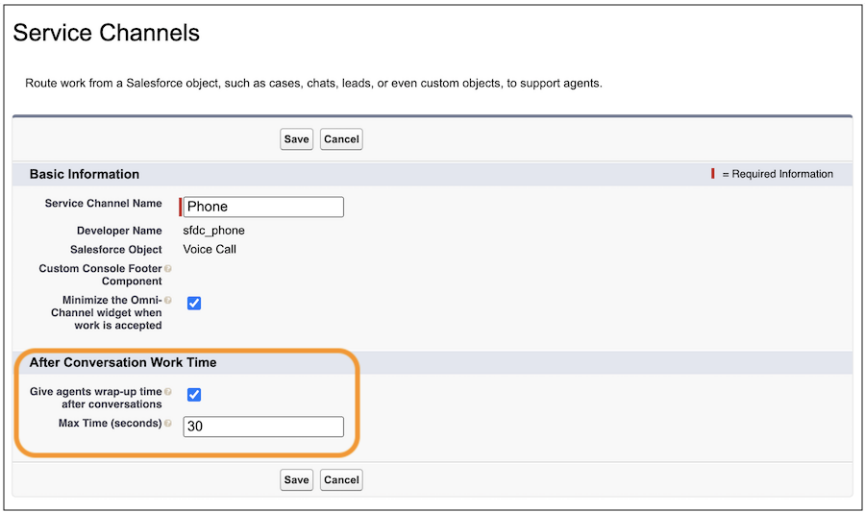
対象:この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

メモ: 会話後作業はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforceにお問い合わせください。

理由:以前は、エージェントはコンソールで通話レコードを開いたままにして会話後作業を実行していました。その後、レコードタブを閉じると、エージェントの業務量が解放されました。会話後の期間が、通話の終了時点で開始されるようになりました。エージェントは通話レコードを閉じてこの期間を早期に終了するか、そのまま放置しておくことができます。この期間の期限が切れると、エージェントは通話レコードを閉じたかどうかに関係なく、次の顧客のサポートが可能であるとみなされます。

方法: 会話後作業パイロットに参加するには、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

会話後作業時間を音声通話に追加するには、音声通話サービスチャネルを作成または編集します。会話の終了後にエージェントにラップアップ時間を提供するためのオプションを選択し、この作業期間の最大秒数を入力します。これで、チャネル内のすべてのエージェントは、次の会話に転送されるまでの会話後作業時間を受け取ります。



パイロットに関する考慮事項

- 会話後作業は、状況ベースの業務量モデルでは機能しません。
- スーパーバイザはエージェントの会話後作業時間をリアルタイムで表示できませんが、会話後作業時間に関するレポートを作成できます。
- エージェントは会話後作業のカウントダウンを表示できません。

音声の弾力性と緩和された音声プラットフォームの制限によるコンタクトセンターの拡張

エージェントが一度により多くの顧客をサポートし、通話のバックログを削減できるようにします。音声の弾力性により、通話量が制限を超えた場合、または音声を強化するバックグラウンドサービスが影響を受ける場合に、コンタクトセンターを拡張できます。Service Cloud 音声の同時通話と発言に対するプラットフォーム制限の緩和により、2 倍の顧客をサポートできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

理由: テレフォニーは、顧客が機密性の高い緊急の懸念事項に対して利用できるミッションクリティカルなサービスです。音声では、最大 2,000 件の同時会話がサポートされ、1 秒あたり最大 400 件の発言が許可されるようになりました。

音声の弾力性により、会話の数が制限を超えた場合、またはバックグラウンドサービスが影響を受ける場合に、テレフォニーシステムが確実に動作し続けます。通話者は引き続きエージェントに接続されますが、通話の文字起こしとオブジェクトリンクは機能しません。

メモ: テレフォニープロバイダの制限が拡張に影響を及ぼす可能性があります。適用される制限については、テレフォニープロバイダのドキュメントを参照してください。

以前は、音声では最大 1,000 件の同時会話と 1 秒あたり 200 件の発言がサポートされていました。以前は、通話が最大数に達すると、その数が減るまで他の通話は接続されませんでした。

方法: すべての音声コンタクトセンターで、音声プラットフォームの制限が緩和され、音声の弾力性が自動的に有効になります。

関連トピック:

Service Cloud Voice Implementation Guide (Service Cloud 音声実装ガイド): Service Cloud Voice Limits and Scaling (Service Cloud 音声の制限と拡張) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Amazon Connect Admin Guide (Amazon Connect 管理者ガイド): Amazon Connect service quotas (Amazon Connect のサービスクォータ)

コンタクトセンターの更新が利用可能になった場合に表示

Salesforce でコンタクトセンターをボタンのクリック操作ですばやく更新します。利用可能な更新がある場合、Salesforce にログインすると通知が表示されます。また、通知はコンタクトセンターの設定ページにも表示されます。この通知には、更新の詳細へのリンクが含まれます。最新バージョンのコンタクトセンターはコンタクトセンターの設定ページまたはコンタクトセンターの詳細ページからインストールできます。

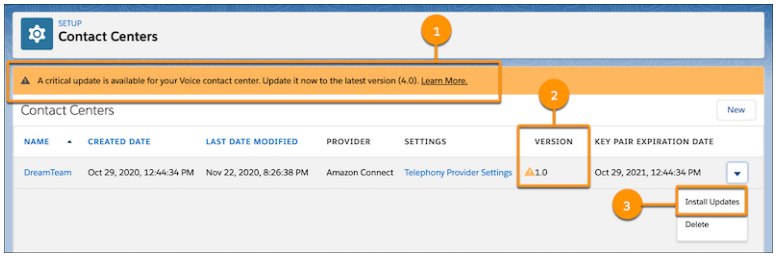
対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

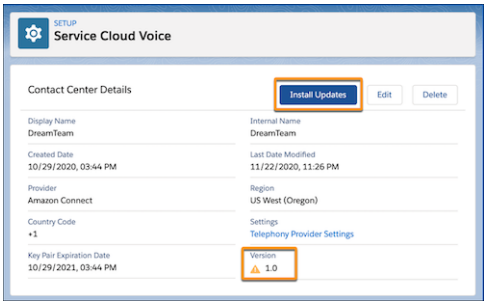
対象ユーザ: コンタクトセンターの設定ページを表示するには、ユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要で、Service Cloud 音声コンタクトセンターを作成および管理するには、「コンタクトセンター管理者」権限セットが必要です。

理由: Salesforce は AWS Lambda 関数の追加、Lambda 関数や AWS Identity and Access Management ロール (IAM ロール) ポリシーの改善、セキュリティの強化、新機能の有効化を行うことがあります。コンタクトセンターを更新すると、最新バージョンがインストールされ、公開 - 非公開鍵のペアも更新されます。以前はシステム管理者が AWS でコンタクトセンターを手動で更新していました。

方法: 更新の内容を確認するには、コンタクトセンターの設定ページで通知内の [詳細はこちら] をクリックします (1)。コンタクトセンターで実行されているバージョンを確認するには、コンタクトセンターの設定ページで [バージョン] 列を確認するか、コンタクトセンターの詳細ページを確認します (2)。コンタクトセンターの最新バージョンをインストールするには、コンタクトセンターの設定ページ (3) またはコンタクトセンターの詳細ページでコンタクトセンターの [更新をインストール] をクリックします。

コンタクトセンターを更新すると、更新により Lambda 関数が上書きされます。カスタマイズした Lambda 関数をコンタクトセンターで使用している場合、コンタクトセンターの更新後にそれらを再設定します。





関連トピック:

- 鍵のペアの有効期限の表示
- *Salesforce* ヘルプ: コンタクトセンターの更新 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *ナレッジ記事*: Service Cloud Voice Contact Center Updates (Service Cloud 音声コンタクトセンターの更新)

鍵のペアの有効期限の表示

公開 - 非公開鍵のペアの有効期限が近づいたときに通知を受け取り、ユーザが期限までに更新できるようにします。鍵のペアの有効期限が近づいているか、すでに切れている場合、Salesforce にログインすると通知が表示されます。また、通知はコンタクトセンターの設定ページにも表示されます。通知にはコンタクトセンターの設定ページへのリンクが含まれており、そこで鍵のペアをすばやく更新できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

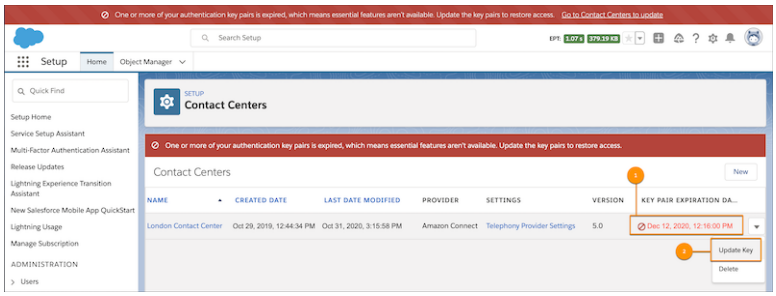
対象ユーザ: 「コンタクトセンター管理者」権限セットを持つユーザは、Service Cloud 音声コンタクトセンターを作成して管理できます。

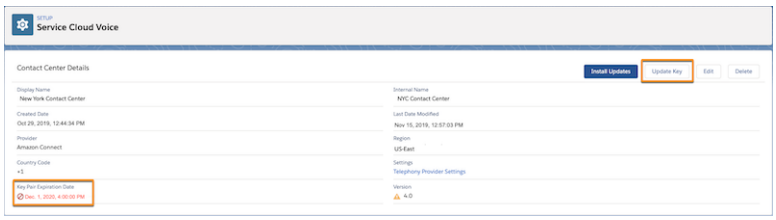
理由: 音声では、公開 - 非公開鍵のペアを使用して、Amazon Web Services と Salesforce 間のテレフォニーサービス要求が認証されます。セキュリティ上の理由でこの鍵のペアの有効期限は 1 年後に切れます。鍵のペアの有効期限が切れると、コンタクトセンターはサービスに接続できず、顧客の電話は応答されなくなります。コンタクトセンターの設定ページで、有効期限が切れる前に鍵のペアを更新します。

最初の通知は、鍵のペアの有効期限の 30 日前に表示されます。通知を消して更新しない場合、別の通知が有効期限の 5 日前に表示され、有効期限が示されます。鍵のペアの有効期限が切れたら、別の通知が表示されます。

方法: コンタクトセンターが Winter '21 より前に作成されている場合、コンタクトセンターを最新バージョンに更新すると、コンタクトセンターの設定ページに [キーを更新] ボタンが表示されます。

コンタクトセンターの設定ページ (1) または詳細ページで、鍵のペアがいつ期限切れになるかを確認します。新しい鍵のペアを生成するには、コンタクトセンターの設定ページ (2) またはコンタクトセンターの詳細ページでコンタクトセンターのアクションメニューの [キーを更新] をクリックします。





関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コンタクトセンターの鍵のペアの更新 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい Service Cloud 音声ドキュメントの導入

システム管理者と開発者向けのすばらしい新しいドキュメントが提供されました。新しい主要概念の概要、サンプルコード、一般的な使用事例や、Service Cloud 音声リソースへのリンクが含まれる便利な学習マップを参照してください。

理由: 次の新しいリソースを確認してください。

Service Cloud 音声学習マップ

Service Cloud 音声コンタクトセンターをロールアウトするために必要なすべてのリソースが見つかります。デモやカスタマーストーリーだけでなく、コンタクトセンターの作成とカスタマイズ、電話での顧客のサポート、最新のコンタクトセンターの維持に関する詳細なドキュメントを確認してください。

Service Cloud Voice Key Concepts (Service Cloud 音声の主要概念) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コンタクトセンター、自動音声応答 (IVR)、問い合わせフローなど、テレフォニーの話題で使用される用語を把握します。

Examples of Common Use Cases (一般的な使用事例)

一般的な使用事例を実装するための詳細なエンドツーエンドの手順を確認します。たとえば、新規または既存のケースを音声通話レコードにリンクし、SMS に切り替える IVR のオプションを顧客に提供する方法を学びます。

Service Cloud Voice GitHub リポジトリ

使用事例の問い合わせフローやリソースなど、Service Cloud 音声を構築するためのサンプルコードにアクセスします。

AWS GitHub リポジトリ

Salesforce による功績ではありませんが、是非ご確認ください。Service Cloud Voice リポジトリと同様に、このリポジトリにはサンプルコードが含まれており、特に Amazon Connect 側で音声の実装をカスタマイズするために使用できます。ボイスメールなどの一般的な使用事例を実装する方法を学びます。

最新のテレフォニーインテグレーション API への更新

Winter '21 リリースでは、セキュリティ向上のために Create Transcript REST API が変更されました。具体的には、参加者 ID が URI からペイロードに移動されました。古い API は 2021 年 3 月 15 日に動作しなくなります。この変更は、この API を使用するコンタクトセンターの Lambda 関数にも影響します。Winter '21 リリース以前に Service Cloud 音声をインストールしている場合は、コンタクトセンターを必ず最新バージョンに更新してください。

対象: この変更は Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Sales Cloud および Service Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

対象ユーザ: Service Cloud Voice Telephony Integration REST API にアクセスするユーザまたはこの API を使用する Lambda 関数にアクセスするユーザは、この新しい API に更新する必要があります。

理由: 無効化日以降、古い Create Transcript REST API をコールすると、「Not found (404)」エラーが発生し、トランスクリプトは作成されません。

時期: 古い API は 2021 年 3 月 15 日に無効化されます。

方法: コンタクトセンターの更新が必要かどうかを確認するには、2021 年 2 月 15 日以降に次の手順を実行してください。

1. Salesforce にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「コンタクトセンター」と入力し、[コンタクトセンター] をクリックします。
3. 更新するコンタクトセンターを選択します。コンタクトセンターを選択した後、適用する更新がある場合は、更新をインストールするためのリンクが含まれるバナーが表示されます。
4. [更新をインストール] をクリックします。確認ウィンドウが開きます。確認ウィンドウで、[更新をインストール] をクリックします。

メモ: この更新により、Salesforce が提供する Lambda 関数が上書きされます。この関数に変更を加えている場合は、変更部分をコピーして、更新後に再適用できるようにしてください。この更新は問い合わせフローには影響しません。

Create Transcript REST API を直接使用するカスタムコードを作成している場合は、そのカスタムコードを更新します。

1. 参加者 ID が含まれない更新済みの構文に準拠するように URI を更新します。
   - 以前の URI: `/telephony/v1/voiceCalls/{voiceCallId}/participants/{participantId}/messages`
   - 新しい URI: `/telephony/v1/voiceCalls/{voiceCallId}/messages`
2. 参加者 ID が含まれる更新済みの構文に準拠するようにペイロードを更新します。

- **以前のペイロードの例**:

```
{
  "messageId": "57904eb6-5352-4c5e-adf6-5f100572cf5d116",
  "startTime": 1573503300,
  "endTime": 1573503320,
  "content": "Hello All",
  "senderType": "VIRTUAL_AGENT"
}
```

- **新しいペイロードの例**:

```
{
  "participantId": "5324881f-1e84-4367-8930-f69a74b30ca6",
  "messageId": "57904eb6-5352-4c5e-adf6-5f100572cf5d116",
  "startTime": 1573503300,
  "endTime": 1573503320,
  "content": "Hello All",
  "senderType": "VIRTUAL_AGENT"
}
```

関連トピック:

Service Cloud Voice Implementation Guide (Service Cloud 音声実装ガイド): Create Transcript REST API

Lambda 関数のウォームアップ、音声でのより多くの言語でのリアルタイムの文字起こし

Lambda 関数のコールドスタートを原因とする Service Cloud 音声での通話の遅延を回避するには、AWS EventBridge を活用して Lambda 関数をウォームアップします。イタリア語、ドイツ語、日本語、韓国語、ポルトガル語(ブラジル)での会話のリアルタイムの文字起こしを追加すると、エージェントはメモを取る代わりに顧客のサポートに集中できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: これらのサービスは、2021 年 2 月 17 日に音声が設定された組織で使用できます。

対象ユーザ: 「コンタクトセンター管理者」権限セットを持つ Salesforce システム管理者は、Service Cloud 音声コンタクトセンターの作成と更新ができます。AWS 管理者は Service Cloud 音声で AWS EventBridge と AWS Transcribe サービスを設定できます。

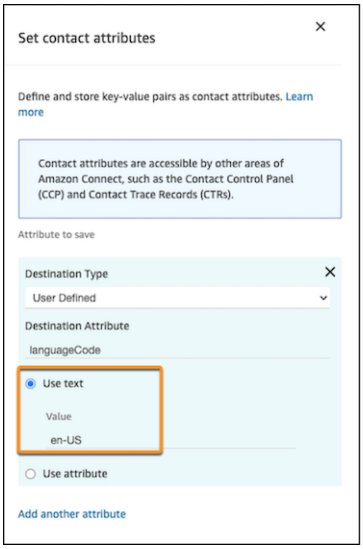
理由: 音声インタラクションで Lambda 関数を使用する場合、迅速な応答時間が非常に重要になります。AWS Lambda では、関数がしばらくの間使用されない場合、関数に割り当てられていたリソースが他の場所に再配布される可能性があります。この再割り当てが原因で、次回関数が実行されるときに遅延が発生する可能性があります。Lambda 関数のコールドスタートを回避するには、Amazon EventBridge を使用して Lambda 関数を定期的にコールします。これにより、Lambda 関数をすばやく実行できます。

音声でのリアルタイムの通話の文字起こしは AWS Transcribe によって提供されます。デフォルトでは、文字起こしは英語(アメリカ)(`languageCode`)に設定されています。指定した言語で通話の文字起こしを生成するには、問い合わせフローで kvsTranscriber Lambda 関数を変更することができます。たとえば、通話者がイタリア語を使用する場合、イタリア語に文字起こしするように Lambda 関数の言語コードを変更することができます。以前はリアルタイムの文字起こしは英語、フランス語、スペイン語でのみ使用できました。

方法: AWS EventBridge を使用して Lambda 関数を定期的にコールするには、Github の AWS Service Cloud Voice リポジトリの手順に従って Lambda 関数を更新します。

リアルタイムの文字起こしをイタリア語、ドイツ語、日本語、韓国語、またはポルトガル語(ブラジル)で表示する手順は、次のとおりです。

1. Salesforce でコンタクトセンターを更新して最新の Lambda 関数を取得します。
2. Amazon Connect で、問い合わせフローの文字起こしブロックの `languageCode` を文字起こし言語に設定します。たとえば、イタリア語に文字起こしするには、「`it-IT`」と入力します。サポートされる言語および言語コードについての詳細は、『AWS Transcribe Developer Guide (AWS Transcribe 開発者ガイド)』の「Streaming Transcription (ストリーミング文字起こし)」を参照してください。



関連トピック:

- コンタクトセンターの更新が利用可能になった場合に表示
- *ナレッジ記事*: Service Cloud Voice Contact Center Updates (Service Cloud 音声コンタクトセンターの更新)
- *Service Cloud Voice Implementation Guide (Service Cloud 音声実装ガイド)*: How to Use Salesforce Lambda Functions (Salesforce Lambda 関数の使用方法)
- *AWS Transcribe Developer Guide (AWS Transcribe 開発者ガイド)*: Streaming Transcription (ストリーミング文字起こし)
- *AWS Service Cloud Voice リポジトリ*: Keeping Lambda Functions Warm (Lambda 関数のウォームアップ状態の維持)

Messaging

メッセージテンプレートのより優れたメタデータを使用して、エージェントと顧客のやりとりをより効率的にします。

このセクションの内容:

より多くのメタデータでメッセージテンプレートを強化
新しいメタデータを使用して、テンプレートをより適切に整理および追跡します。設定内の [新規テンプレート] ウィンドウを離れることなく、テンプレートを 1 つのチャネルとメッセージインテントに制限します。

古いチャネルを介して送信されたメッセージの停止
以前は、チャネルを無効にした場合でも、顧客はエージェントが受信しないメッセージを送信できていました。[設定] でチャネルを無効に設定しようとすると、エラーメッセージが表示されるようになりました。代わりに、使用しなくなったチャネルを削除するチケットを Salesforce で登録してください。

IsOptedOut の廃止
IsOptedOut は 228 で廃止されました。これまでは、エージェントが IsOptedOut 項目を使用してユーザをオプトアウトできていました。MessagingConsentStatus を使用してユーザをオプトアウトし、暗黙的、明示的、および二重同意を区別するようになりました。IsFullyOptedIn を使用して、メッセージングエンドユーザと通信できるかどうかを判断します。

より多くのメタデータでメッセージテンプレートを強化

新しいメタデータを使用して、テンプレートをより適切に整理および追跡します。設定内の [新規テンプレート] ウィンドウを離れることなく、テンプレートを 1 つのチャネルとメッセージインテントに制限します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [新規テンプレート] ウィンドウのチャネルセクションから、テンプレートを適用する 1 つ以上のチャネルを指定します。同じセクションから、Facebook テンプレートのメッセージタグと WhatsApp テンプレートのテンプレートカテゴリを設定できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 自動メッセージ通知のテンプレートの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

古いチャネルを介して送信されたメッセージの停止

以前は、チャネルを無効にした場合でも、顧客はエージェントが受信しないメッセージを送信できていました。[設定] でチャネルを無効に設定しようとすると、エラーメッセージが表示されるようになりました。代わりに、使用しなくなったチャネルを削除するチケットを Salesforce で登録してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:



IsOptedOut の廃止

IsOptedOut は 228 で廃止されました。これまでは、エージェントが IsOptedOut 項目を使用してユーザをオプトアウトできていました。MessagingConsentStatus を使用してユーザをオプトアウトし、暗黙的、明示的、および二重同意を区別するようになりました。IsFullyOptedIn を使用して、メッセージングエンドユーザと通信できるかどうかを判断します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: MessagingEndUser オブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

ナレッジ

Service 設定アシスタントを使用して、最初のナレッジの設定をすばやく簡単に行います。スクリーンリーダー用に画像にテキストキャプションを追加します。添付ファイルが含まれる記事をメールに追加するときに、以前に添付されたファイルを保持します。お気に入りの記事が更新されたときに、その最新バージョンを確認します。

このセクションの内容:

- Service 設定アシスタントを使用したナレッジの設定
- お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定
- メールに記事を挿入するときに添付ファイルを保持
- Lightning Knowledge の画像への代替テキストの追加

Service 設定アシスタントを使用したナレッジの設定

ナレッジは Service 設定アシスタントの一部となったため、ナレッジの初期設定をすばやく簡単に作成できるようになりました。Salesforce 組織に少なくとも 1 つのナレッジライセンスがある場合、ナレッジはデフォルトで Service 設定アシスタントで設定されます。

お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定

記事を最新の状態に保ち、最新バージョンを検索する必要がありません。お気に入りとしてマークした後に記事が更新された場合、記事を選択すると最新バージョンにリダイレクトされるようになりました。以前は、お気に入りは古いバージョンを引き続き参照していました。

メールに記事を挿入するときに添付ファイルを保持

もうメール内の記事が失われたり、上書きされることはありません。記事の挿入機能を使用してメールに記事や関連ファイルを挿入すると、以前追加したファイルはそのまま保持されます。以前は、新しく添付したファイルで元のファイルが置き換えられていました。

Lightning Knowledge の画像への代替テキストの追加

ナレッジ記事にある画像を説明する代替テキストキャプションをスクリーンリーダーに表示できるようになりました。以前は、この機能は Salesforce Classic のナレッジで使用できましました。この機能を Lightning Experience でも使用できるようになりました。

Service 設定アシスタントを使用したナレッジの設定

ナレッジは Service 設定アシスタントの一部となったため、ナレッジの初期設定をすばやく簡単に作成できるようになりました。Salesforce 組織に少なくとも 1 つのナレッジライセンスがある場合、ナレッジはデフォルトで Service 設定アシスタントで設定されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。Salesforce Classic では使用できません。

理由: Service 設定アシスタントを使用して、多数の Salesforce Service 機能を一度に設定できます。Spring '21 リリースで強化された Service 設定アシスタントでは、次のことができるようになりました。

- Lightning Knowledge を有効化する。
- 新しいナレッジマネージャのカスタムプロファイルと権限セットを作成する。
- おーじぇんとおよびスーパーバイザのカスタムプロファイルにナレッジの権限を追加する。
- Lightning Knowledge のデフォルト項目とデフォルトページレイアウトを作成し、エージェント、スーパーバイザ、ナレッジマネージャのプロファイルに割り当てる。

方法: Service 設定アシスタントを使用してユーザを作成すると、ユーザはナレッジ記事を参照することしかできません。ユーザが記事を作成および公開できるようにするには、ユーザにナレッジユーザライセンスを割り当てます。[設定] から [ユーザ] に移動し、ユーザプロファイルを編集してナレッジユーザライセンスを割り当てます。

関連トピック:

Service 設定アシスタント

お気に入りの参照先を記事の最新バージョンに設定

記事を最新の状態に保ち、最新バージョンを検索する必要がありません。お気に入りとしてマークした後に記事が更新された場合、記事を選択すると最新バージョンにリダイレクトされるようになりました。以前は、お気に入りは古いバージョンを引き続き参照していました。

新しいバージョンをドラフトとして作成した場合は、元のお気に入りの公開バージョンが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。Salesforce Classic では使用できません。

方法: 特定のバージョンのナレッジ記事のお気に入りのみを追加できます。お気に入りへのアクセスは権限に基づきます。お気に入りは、ナレッジ記事の次のルールに従うようになりました。

- 最新バージョンが公開された場合、お気に入りはその最新バージョンを参照します。
- 最新バージョンが最近公開された場合にそのバージョンをお気に入りとして表示するためには、ブラウザを更新する必要があります。
- 現在お気に入りが古い公開バージョンを参照しており、最新バージョンがドラフトである場合、お気に入りは引き続き公開バージョンを参照します。
- 公開バージョンが存在しない場合、お気に入りは最新のドラフトバージョンを参照します。公開バージョンとドラフトバージョンが存在しない場合、お気に入りは最新のアーカイブバージョンを参照します。
- お気に入りは、古い公開バージョンと同じ言語の最新バージョンを参照します。たとえば、お気に入りの公開バージョンが英語で、新しいバージョンをスペイン語で公開した場合、お気に入りは引き続き英語バー

ジョンを参照します。新しい英語バージョンを公開した場合、お気に入りはその新しいバージョンを参照します。

関連トピック:

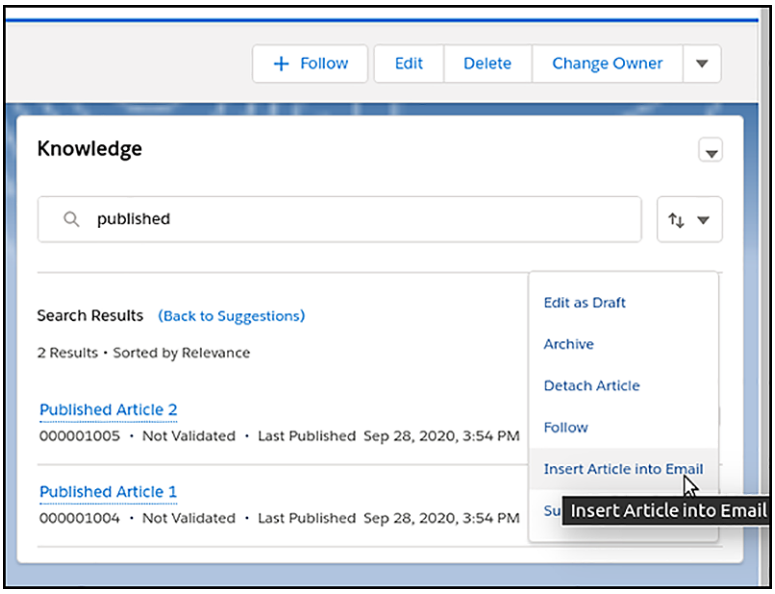
IdeaExchange: Lightning Knowledge - Favorites Should Always Pull Most Current Article Version (Lightning Knowledge - お気に入りで常に最新の記事バージョンを取り込む)

メールに記事を挿入するときに添付ファイルを保持

もうメール内の記事が失われたり、上書きされることはありません。記事の挿入機能を使用してメールに記事や関連ファイルを挿入すると、以前追加したファイルはそのまま保持されます。以前は、新しく添付したファイルで元のファイルが置き換えられていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。Salesforce Classic では使用できません。

方法: ナレッジオブジェクトで、目的の記事を選択し、ドロップダウンメニューから [記事をメールに挿入] を選択します。

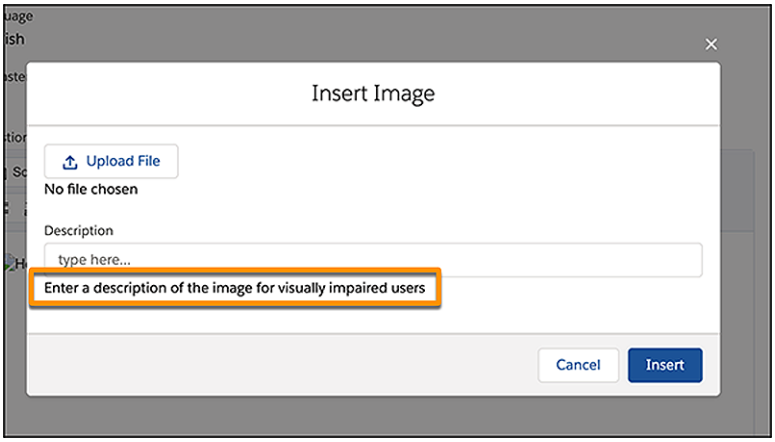


Lightning Knowledge の画像への代替テキストの追加

ナレッジ記事にある画像を説明する代替テキストキャプションをスクリーンリーダーに表示できるようになりました。以前は、この機能は Salesforce Classic のナレッジで使用できましました。この機能を Lightning Experience でも使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

方法: ナレッジ記事に画像を挿入するときに、キャプションを入力するように求められます。



ルーティング

会話後作業(パイロット)を使用すると、会話が終了した後にエージェントに作業を完了するための時間を与えることができます。

このセクションの内容:

エージェントに会話を完了する時間を与える (パイロット)
通常、エージェントは会話の後に、メモを取ったり、メールを送信したり、作業項目を更新したりする時間が必要です。会話後作業 (ACW) を使用して、エージェントが追加作業を受け入れ可能にになるまでにどれだけの時間を与えるかを指定します。ACW パイロットは音声通話チャネルで使用できます。

エージェントに会話を完了する時間を与える (パイロット)

通常、エージェントは会話の後に、メモを取ったり、メールを送信したり、作業項目を更新したりする時間が必要です。会話後作業 (ACW) を使用して、エージェントが追加作業を受け入れ可能にになるまでにどれだけの時間を与えるかを指定します。ACW パイロットは音声通話チャネルで使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は Service Cloud および Sales Cloud で有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

メモ: 会話後作業はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機

能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforceにお問い合わせください。

関連トピック:

エージェントに会話後作業の時間を提供 (パイロット)

ケース管理

特定のケース関連の通知に対して組織のデフォルトの送信元アドレスを選択し、事前作成済みエンタイトルメントをカスタマイズして複雑なエンタイトルメントプロセスをスキップし、ユーザが相互関係レイアウトの割り当てを使用して所有しないプロファイルを表示することを制限します。タブの切り替えにより、Lightningアプリケーションビルダーとの切り替えを行うことなくタブ全体のマクロを作成できます。また、Winter '21 のメール-to-ケースリリース更新の適用日が延長されたため、システム管理者は組織を準備するためにより多くの時間を費やすことができます。

このセクションの内容:

メール通知のデフォルトの No-Reply アドレスのカスタマイズ

Spring '21 更新より前は、[ケース通知をシステムアドレスから送信]が有効になっている場合、特定のメール通知は自動的に noreply@salesforce.com から送信されていました。ケースに関連する特定の通知用のデフォルトの送信元アドレスとして組織で使用するメールアドレスを選択できるようになりました。

相互関係レイアウトの割り当てのプロファイルの絞り込みを使用した詮索好きな目からのプロファイルの保護

システム管理者は、エージェントの権限と例外を割り当てる方法をより詳細に制御できるようになりました。[プロファイルの絞り込み] を有効にすると、ユーザは自分以外の相互関係レイアウトの割り当てを介してプロファイルを表示できなくなります。

エンタイトルメントとの統合による組織の強化

Spring '21 リリースで、エンタイトルメント機能を従来よりも簡単に使用できるようになりました。カスタマイズ可能な事前作成済みエンタイトルメントは Service Cloud ライセンスに付属しているため、エージェントは複雑な設定プロセスをスキップして、機能の能力をすぐに利用できます。

マクロビルダーでのタブ切り替えを使用したワークフローの機能強化

複数のタブを使用する複雑な FlexiPage を強力な生産性ツールに変換します。マクロビルダーの更新により、Lightning アプリケーションビルダーとの切り替えを行うことなくタブ全体のマクロを作成できます。

メール-to-ケース更新の適用を Winter '22 リリースまで延長

Winter '21 のメール-to-ケース更新の新しい適用期限により、システム管理者は Winter '22 リリースまでリリース更新機能を使用して変更を採用できます。

BCC を Salesforce Experience ユーザに非表示

最近のケースのセキュリティ強化により、少なくとも参照権限を持っているか元のメールを送信したユーザ以外は、Experience ユーザの BccAddress 情報が制限されています。この項目はメールフィードに表示されなくなり、メールメッセージコンパクトレイアウトとホームページでは常に空白値が表示されます。

メール通知のデフォルトの No-Reply アドレスのカスタマイズ

Spring '21 更新より前は、[ケース通知をシステムアドレスから送信] が有効になっている場合、特定のメール通知は自動的に noreply@salesforce.com から送信されていました。ケースに関連する特定の通知用のデフォルトの送信元アドレスとして組織で使用するメールアドレスを選択できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Aloha に適用されます。

方法: : [設定] の [組織のアドレス] ページで、組織のデフォルトの No-Reply アドレスを設定して確認します。次に、[リリース更新] の [テスト実行を有効化] をクリックし、既存のケースでメールを受信したときに [ケースコメント]、[ケースのエスカレーション]、[ケース割り当て] で選択したメールアドレスからメール通知が送信されることを確認します。最後に、[サポート設定] 設定ページから [ケース通知をシステムアドレスから送信] を有効にします。

関連トピック:

Set Up a Default No-Reply Address for Case-Related Email Notifications (ケース関連メール通知のデフォルトの No-Reply アドレスの設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

相互関係レイアウトの割り当てのプロファイルの絞り込みを使用した詮索好きな目からのプロファイルの保護

システム管理者は、エージェントの権限と例外を割り当てる方法をより詳細に制御できるようになりました。[プロファイルの絞り込み] を有効にすると、ユーザは自分以外の相互関係レイアウトの割り当てを介してプロファイルを表示できなくなります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: プロファイル詳細表示の制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic での相互関係ログの割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンタイトルメントとの統合による組織の強化

Spring '21 リリースで、エンタイトルメント機能を従来よりも簡単に使用できるようになりました。カスタマイズ可能な事前作成済みエンタイトルメントは Service Cloud ライセンスに付属しているため、エージェントは複雑な設定プロセスをスキップして、機能の能力をすぐに利用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Service Cloud ライセンスがあるすべての新規組織は、事前作成済みエンタイトルメントに自動的にアクセスできます。Spring '21 リリースより前に Service Cloud ライセンスを購入した既存の組織は、Service 設定アシスタ

ントで[Serviceアプリケーションを有効化]を選択することで、事前作成済みエンタイトルメントにアクセスできます。

マクロビルダーでのタブ切り替えを使用したワークフローの機能強化

複数のタブを使用する複雑な FlexiPage を強力な生産性ツールに変換します。マクロビルダーの更新により、Lightning アプリケーションビルダーとの切り替えを行うことなくタブ全体のマクロを作成できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: マクロを作成し、[命令を編集]をクリックしてマクロビルダーに移動します。点線の境界線を持つアコーディオンとタブがクリック可能になりました。クイックアクション (Chatter フィードなど) を含むタブまたはアコーディオンを開き、クイックアクションを 1 つ選択して、命令を追加します。続いて、[保存] をクリックします。

命令パネルでいずれかのクイックアクションをクリックすると、対応するクイックアクションがマクロビルダーで自動的に開きます。

メール-to-ケース更新の適用を Winter '22 リリースまで延長

Winter '21 のメール-to-ケース更新の新しい適用期限により、システム管理者は Winter '22 リリースまでリリース更新機能を使用して変更を採用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Classic に適用されます。

BCC を Salesforce Experience ユーザに非表示

最近のケースのセキュリティ強化により、少なくとも参照権限を持っているか元のメールを送信したユーザ以外は、Experience ユーザの BccAddress 情報が制限されています。この項目はメールフィードに表示されなくなり、メールメッセージコンパクトレイアウトとホームページでは常に空白値が表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Salesforce 内部ユーザは引き続き BCC コンテンツを表示できます。コミュニティユーザの場合、詳細ページの [BCC] 項目には常に空白値が表示されます。コミュニティユーザは、自分が元のメールの送信者である場合にのみ、メールの BCC のコンテンツが表示されます。

Service Cloud のその他の変更

CTI ユーザのプロファイルの絞り込みを使用して、組織をよりセキュアにします。CPQ の大規模な修正および更新サービスを使用する場合、見積に CPQ が管理する納入商品のみが記載されるようになりました。

このセクションの内容:

CTI でのユーザプロファイル情報の覗き見防止
ユーザプロファイルの表示を制限するという Salesforce のセキュリティの実施方法に準拠するため、コールセンター詳細ページにはコールセンターユーザ数のみが表示されます。プロファイルの絞り込みが有効化されている場合、他のユーザのユーザプロファイルを表示できるのは管理者ユーザのみです。他のユーザはユーザ数は表示できますが、プロファイルは表示できません。以前は、コールセンター詳細にユーザのプロファイルがリストされていました。

修正見積および更新見積での関連するサブスクリプション商品のみの表示
大規模な修正および更新サービスを使用する場合、Spring '21 で作成された修正見積や更新見積には、エンタイトルメント関連のすべての納入商品ではなく、価格計算に算入された納入商品のみが記載されます。また、CPQ が管理するこの納入商品検索条件を、Spring '21 より前に作成されたサービス契約に適用できます。その場合は、対象の契約の品目にある新しい [サブスクリプション価格設定] 項目の値を変更します。

CTI でのユーザプロファイル情報の覗き見防止

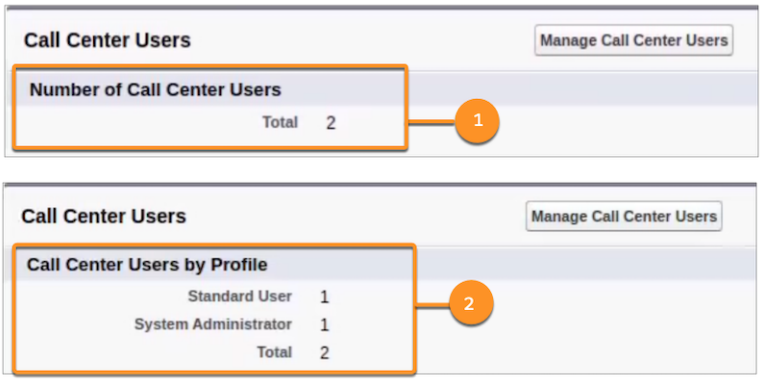
ユーザプロファイルの表示を制限するという Salesforce のセキュリティの実施方法に準拠するため、コールセンター詳細ページにはコールセンターユーザ数のみが表示されます。プロファイルの絞り込みが有効化されている場合、他のユーザのユーザプロファイルを表示できるのは管理者ユーザのみです。他のユーザはユーザ数は表示できますが、プロファイルは表示できません。以前は、コールセンター詳細にユーザのプロファイルがリストされていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: システムにアクセスできるユーザを確認できるユーザを制限して、組織を可能な限り保護します。

方法: プロファイルの絞り込みを有効にするには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「ユーザ」と入力し、[ユーザ管理設定] を選択して [プロファイルの絞り込み] をクリックします。

コールセンターユーザを表示するには、コールセンター詳細ページに移動します。[設定] から [クイック検索] ボックスに「コールセンター」と入力し、[コールセンター]を選択します。コールセンターを選択します。コールセンター詳細ページで、スクロールダウンして[コールセンターユーザ]セクションを表示します。プロファイルの絞り込みが有効になっている場合、標準ユーザにはコールセンターユーザ数(1)が表示され、管理者ユーザには各プロファイルのユーザ数 (2) が表示されます。



修正見積および更新見積での関連するサブスクリプション商品のみの表示

大規模な修正および更新サービスを使用する場合、Spring'21 で作成された修正見積や更新見積には、エンタイトルメント関連のすべての納入商品ではなく、価格計算に算入された納入商品のみが記載されます。また、CPQ が管理するこの納入商品検索条件を、Spring '21 より前に作成されたサービス契約に適用できます。その場合は、対象の契約の品目にある新しい [サブスクリプション価格設定] 項目の値を変更します。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: 使用するサービスに関係なく、CPQ が管理する納入商品検索条件を Spring '21 より前に作成されたサービス契約に適用する場合は、納入商品の契約品目の [サブスクリプション価格設定] 項目を [固定価格] に設定します。[サブスクリプション価格設定] が null または [全体に対する割合] に設定されている場合は、検索条件が適用されず、関連する修正見積や更新見積にエンタイトルメント関連のすべての納入商品が記載されます。

セールス

Salesforce Meetings は、営業チームがミーティングの準備を行い、被招集者とのエンゲージメントを実現するのに役立ちます。High Velocity Sales ユーザは、ビデオ通話で Einstein 会話インサイトを使用して、セールスケイデンスから生じる商談と収益を追跡し、データを失うことなくセールスケイデンスを廃止できます。Salesforce モバイルアプリケーションを使用して、外出先で売上予測を調整します。いつメールが一時的に配信できなくなったかを追跡し、メールテンプレートをテストして共有します。

このセクションの内容:

Salesforce Meetings

ミーティングの準備を行い、かつてない被招集者とのエンゲージメントを実現するのに役立つツールを使用して、営業担当による見込み客や顧客とのインタラクションを強化します。ミーティングのダイジェストでは、ミーティングに参加しているユーザに関する情報をまとめ、関連する活動を表示し、チームメンバーが意見を擦り合わせてミーティングに参加できるよう営業担当が手配できるようにします。Meeting Studio には、バーチャルミーティング中に被招集者のエンゲージメントを維持するためのユニークなカメラとプレゼンテーションビューが備わっています。

High Velocity Sales

営業チームは、ビデオ通話で Einstein 会話インサイトを使用したり、通話コレクションを作成したり、会話インサイトダッシュボードで詳細情報を確認したりできるようになりました。マネージャや営業担当は商談が関連するセールスケイデンスを使用して、セールスケイデンスを無効にし、誰が対象割り当て先を変更できるかをより具体的に指定できます。

Sales Cloud Einstein

Einstein 商談スコアリングでは、十分な商談データがない場合はグローバルモデルが使用されます。Einstein リードスコアリングでは項目がより直感的に保存されます。

中核的なセールス機能

モバイル売上予測の調整、商談商品に関する情報のより柔軟な追跡、リード変換のより多くのオプションを使用できます。パッケージプロバイダは、注文の保存方式を設定するためのより多くのオプションを使用可能で、元のテリトリー管理は廃止される予定です。

生産性機能

メールおよびメールテンプレートの更新により、営業担当の生産性を高めます。営業担当はメールがハードバウンスされた場合だけでなく、ソフトバウンスされた場合にも顧客をフォローアップできます。さらに、メールがスレッド化されたやり取りになっている場合に、メールをスケジュールできます。営業担当は、「対応可能時間を挿入」機能を使用してスケジュールされたミーティングに Zoom ミーティングリンクを自動的に追加できます。メールテンプレートビルダーテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを管理パッケージおよび変更セットに追加します。また、メールアラートなど Salesforce 自動化でこれらを使用します。メールテンプレートビルダーで、最初から始める代わりに既存のコンポーネントを複製します。

Google とのインテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Chrome 拡張機能の従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションで使用できます。営業担当は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。Lightning Sync の機能強化はもう導入されなくなりますが、次世代同期製品である Einstein 活動キャプチャの新機能をご確認ください。

Microsoft® とのインテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Outlook アドインの従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションで使用できます。営業担当は、Inboxを備えたOutlookインテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。Microsoft Office 365 の Lightning Sync ユーザの場合、2021 年に予定されている Microsoft による基本認証の廃止に備えてください。まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、2021 年から 2023 年の間に製品の廃止がユーザに及ぼす影響を確認してください。

Salesforce Meetings

ミーティングの準備を行い、かつてない被招集者とのエンゲージメントを実現するのに役立つツールを使用して、営業担当による見込み客や顧客とのインタラクションを強化します。ミーティングのダイジェストでは、ミーティングに参加しているユーザに関する情報をまとめ、関連する活動を表示し、チームメンバーが意見を擦り合わせてミーティングに参加できるよう営業担当が手配できるようにします。Meeting Studio には、バーチャルミーティング中に被招集者のエンゲージメントを維持するためのユニークなカメラとプレゼンテーションビューが備わっています。

このセクションの内容:

ミーティングのダイジェストを使用した生産性の高い会話の準備

ミーティングを合理的に構成し、議題を適切なものにして、営業チームがしっかり準備すれば、好印象を与えることができます。Salesforce Meetings の機能の 1 つであるミーティングのダイジェストを使用すれば、営業担当はミーティングが開始される前に 1 ページを使用して情報を収集し、共有することができます。ミーティングに参加しているユーザに関する洞察を得て、ミーティング招待の返答や詳細に関するアラームを設定し、関連するレコード活動を確認できます。

Meeting Studio を使用したバーチャル行動の強化

Meeting Studio を使用して他に類を見ないミーティング環境を共有し、バーチャル行動中に見込み客や顧客のエンゲージメントを維持します。営業担当はカメラビューとプレゼンテーションを同じウィンドウで表示できるため、時間を節約し、次に共有するコンテンツを切り替えるときに厄介な切り替えをせずに済みます。営業担当は参加者から得たビジュアルキューに基づいてプレゼンテーションの方法を変更できます。営業担当には、ミーティングのダイジェストからミーティングの会話の方向付けに役立つ重要情報が表示されます。さらに、メモを作成し、次のステップを文書化して、チームとのコラボレーションを行う場も得られます。

ミーティングのダイジェストを使用した生産性の高い会話の準備

ミーティングを合理的に構成し、議題を適切なものにして、営業チームがしっかり準備すれば、好印象を与えることができます。Salesforce Meetings の機能の 1 つであるミーティングのダイジェストを使用すれば、営業担当はミーティングが開始される前に1ページを使用して情報を収集し、共有することができます。ミーティングに参加しているユーザに関する洞察を得て、ミーティング招待の返答や詳細に関するアラームを設定し、関連するレコード活動を確認できます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

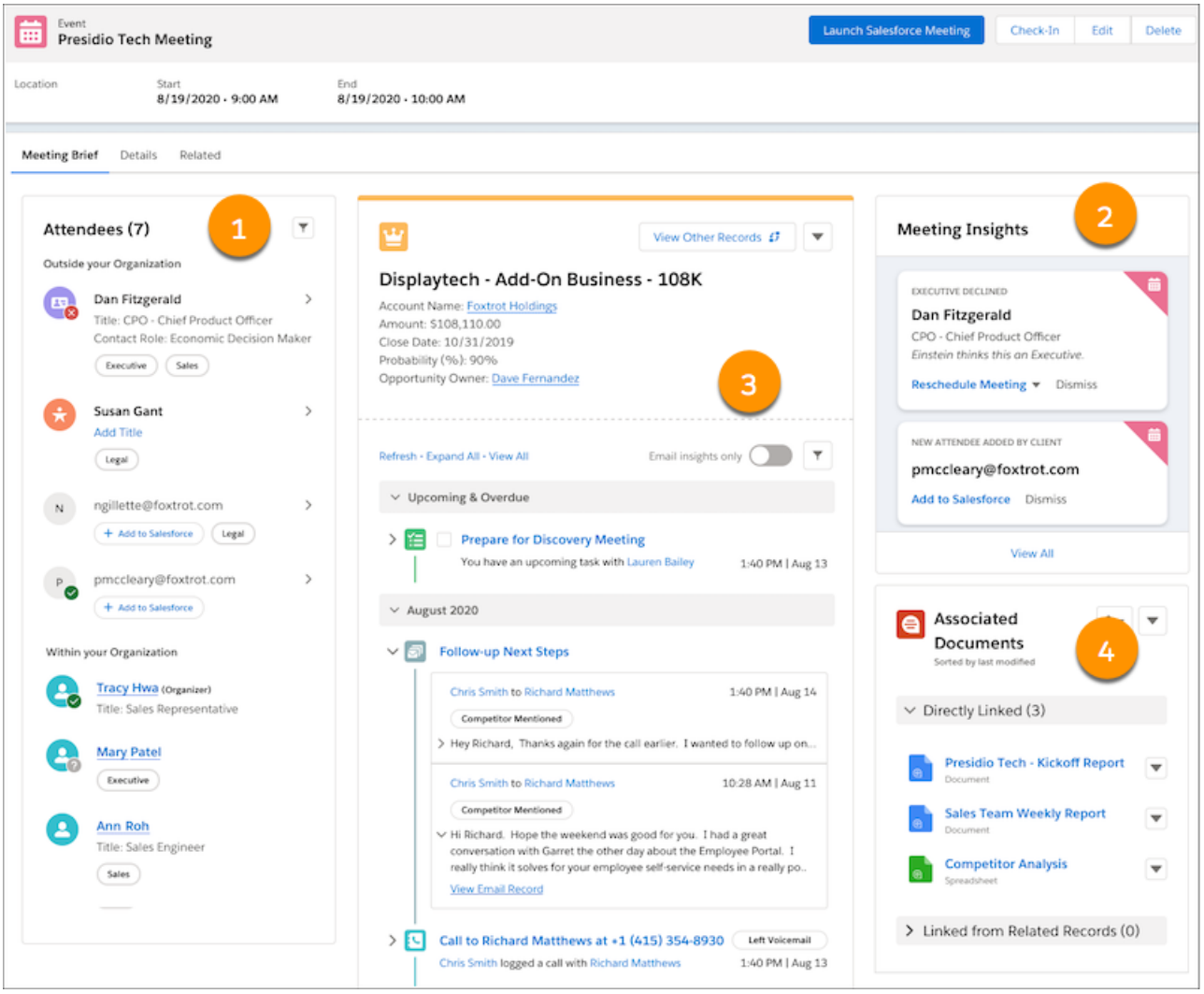
時期: この機能はすべてのインスタンスが Spring '21 リリースにアップグレードされた後、本番ですぐに使用できます。Sandbox でこの機能を表示するには、[本番ライセンスに一致] を実行するか、本番でこの機能が使用可能になった後に更新を要求します。

対象ユーザ: [ミーティングのダイジェスト] タブを表示できるのは Salesforce Meetings 権限セットを割り当てられたユーザのみです。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ミーティング」と入力し、[設定] を選択します。Einstein 活動キャプチャや Lightning Sync などの同期ソリューションを有効にしていることを確認し、指示します。次に、Salesforce Meetings を有効にして Salesforce Meetings 権限セットを [ミーティングのダイジェスト] タブにアクセスするユーザに割り当てます。

> メモ: 行動レコードでカスタムページレイアウトを定義している場合は、Lightning アプリケーションビルダーを使用してミーティングのダイジェストコンポーネントをページレイアウトに追加します。最適な操作性を得るために、コンポーネントをレイアウト内の独自のタブ、またはページ内の広い領域に追加することをお勧めします。

有効にしていると、ユーザが行動レコードを表示するときに [ミーティングのダイジェスト] が表示されます。



営業担当は、誰がミーティングへの招待に返答したかを確認し、その相手に関する情報を収集できます (1)。Einstein活動キャプチャの行動同期が有効になっていると、営業担当はミーティング被招集者の役職や役割に関するビジュアルキューを受信します。Einstein活動キャプチャを使用している場合、返答しなかった被招集者や不足している行動の詳細など、行動に関するアラートも受信します (2)。営業担当は活動タイムラインで関連レコードの活動を確認することもできます (3)。この活動タイムラインには、ミーティングに重要なレコードに関連付けられた活動のみが表示されます。Salesforce Anywhere (Quip) が有効になっている場合、営業担当は関連文書コンポーネントを使用して Quip でメモを作成したり関連文書を確認したりできます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce Meetings (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Quip 関連文書コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Meeting Studio を使用したバーチャル行動の強化

Meeting Studio を使用して他に類を見ないミーティング環境を共有し、バーチャル行動中に見込み客や顧客のエンゲージメントを維持します。営業担当はカメラビューとプレゼンテーションを同じウィンドウで表示できるため、時間を節約し、次に共有するコンテンツを切り替えるときに厄介な切り替えをせずに済みます。営業担当は参加者から得たビジュアルキューに基づいてプレゼンテーションの方法を変更できます。営業担当には、ミーティングのダイジェストからミーティングの会話の方向付けに役立つ重要情報が表示されます。さらに、メモを作成し、次のステップを文書化して、チームとのコラボレーションを行う場も得られます。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience の Sales Cloud に適用されます。

時期: この機能はすべてのインスタンスが Spring '21 リリースにアップグレードされた後、本番ですぐに使用できます。Sandbox でこの機能を表示するには、[本番ライセンスに一致] を実行するか、本番でこの機能が使用可能になった後に更新を要求します。

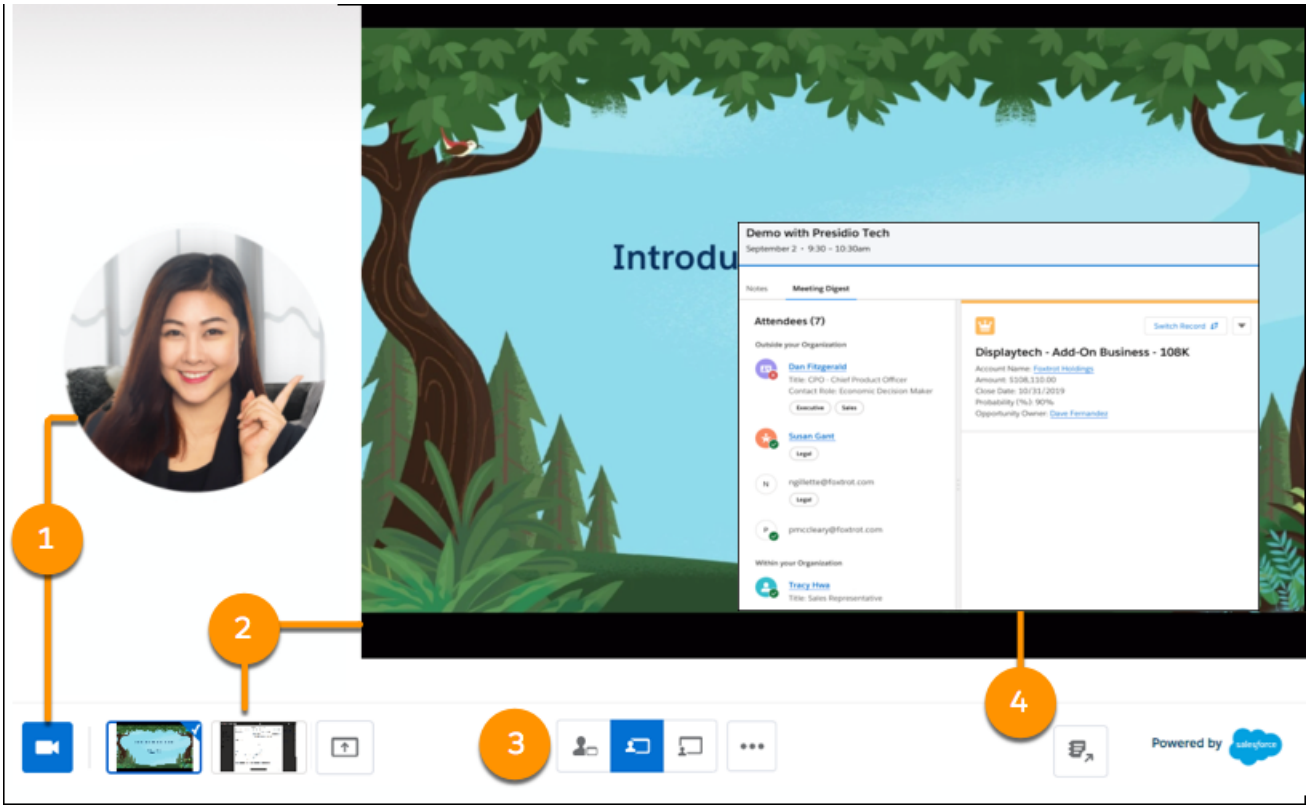
対象ユーザ: Meeting Studio を使用できるのは Salesforce Meetings 権限セットを割り当てられたユーザのみです。

理由: 営業担当は、かつてないほど見込み客や顧客とのバーチャルミーティングを行うようになっています。Meeting Studio は Zoom、Google Meet、Cisco Webex などの Web 会議アプリケーションに代わるものではありません。代わりに、Meeting Studio は既存のビデオ会議アプリケーション内でユニークな環境を提供し、営業担当が簡単にプレゼンテーションを行うことができるようにするものです。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ミーティング」と入力し、[設定] を選択します。Einstein 活動キャプチャや Lightning Sync などの同期ソリューションを有効にしていることを確認し、指示します。次に、Salesforce Meetings を有効にして Salesforce Meetings 権限セットを Meeting Studio にアクセスするユーザに割り当てます。

営業担当は行動レコードの [ミーティングのダイジェスト] タブから直接 Meeting Studio を起動します。Zoom や Google Meet などの関連付けられたミーティングリンクがミーティングに使用できる場合、Meeting Studio およびミーティングは個別のブラウザタブで開きます。

ヒント: 行動レコードがないミーティングでチームに Meeting Studio へのアクセス権を付与するには、Meeting Studio コンポーネントをユーザのホームページに追加します。



ビデオ会議アプリケーションで、営業担当はアプリケーション内でカメラを有効にして共有タブとウィンドウ間を切り替える代わりに、Meeting Studio のタブを共有します。利用者には営業担当のカメラビュー (1) と営業担当がプレゼンしているコンテンツ (2) が表示されます。ミーティング中、営業担当は共有を停止して別のウィンドウやブラウザタブを再共有することなくコンテンツを切り替えられます。利用者の注意を惹くために、営業担当はミーティング中にビューを変更してカメラやコンテンツにフォーカスを当てることができます (3)。営業担当が [ミーティングのダイジェスト] から直接 Meeting Studio を起動した場合、[ミーティングのダイジェスト] からミーティング情報にアクセスすることもできます (4)。プレゼンターのパネルには、ミーティングの前、ミーティング中、ミーティング後に全員で意見を擦り合わせることができるようにメモを作成する場もあります。

関連トピック:

- *Salesforce* ***動画***: Welcome to Meeting Studio (English Only) (Meeting Studio へようこそ (英語のみ)) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce Meetings (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning アプリケーションビルダー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

High Velocity Sales

営業チームは、ビデオ通話で Einstein 会話インサイトを使用したり、通話コレクションを作成したり、会話インサイトダッシュボードで詳細情報を確認したりできるようになりました。マネージャや営業担当は商談が関連するセールスケイデンスを使用して、セールスケイデンスを無効にし、誰が対象割り当て先を変更できるかをより具体的に指定できます。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Sales Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

Einstein 会話インサイト
コールコーチングの名前が新しくなり、ビデオ通話がサポートされるようになりました。ユーザは通話コレクションを使用して音声通話のグループを簡単に作成して共有できます。また、営業マネージャは会話インサイトダッシュボードでビデオ通話データにアクセスできます。

セールスケイデンスを使用した商談の促進と対象エンゲージメントの追跡
営業チームがセールスケイデンスの効率性を利用して商談を促進できるようにします。営業マネージャは、商談育成セールスケイデンスを作成できます。営業マネージャと営業担当は、セールスエンゲージメントコンポーネントを追加すると、商談および対象レコードページで対象のセールスケイデンス状況と最近のエンゲージメントアクティビティを確認できます。

データを失うことなくセールスケイデンスを廃止
営業マネージャは、使用しなくなったセールスケイデンスを廃止できるようになりました。セールスケイデンスを無効化することで、営業マネージャはセールスケイデンスまたはその履歴データを削除することなく、新しい対象が追加されるのを防止します。無効化されたセールスケイデンスの既存の対象は、完了するまで継続します。

対象割り当て先を変更できるユーザの指定
営業チームが見込み客を管理できるようにします。新しい [対象割り当て先を変更できるユーザを制限] 設定では、[対象割り当て先を変更] が有効な場合に対象割り当て先を更新できるチームメンバーを選択できます。営業マネージャは、他のマネージャまたは特定のユーザのみに割り当て先の更新を許可することを選択できます。

セールスケイデンスパフォーマンスに関する詳細の取得
アクションケイデンスステップ月次総計値オブジェクトを使用すると、営業マネージャはセールスケイデンスステップ、メールテンプレート、およびコールスクリプトの月単位の対象エンゲージメント統計を簡単に確認できます。セールスケイデンス対象の配置がレポートで使用できるようになりました。Einstein Analytics High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードにメールリンクのクリックと返信の統計が含まれるようになりました。

Einstein 会話インサイト

コールコーチングの名前が新しくなり、ビデオ通話がサポートされるようになりました。ユーザは通話コレクションを使用して音声通話のグループを簡単に作成して共有できます。また、営業マネージャは会話インサイトダッシュボードでビデオ通話データにアクセスできます。

Einstein 会話インサイトでは通話は記録されません。自分で Sales Dialer やその他のサポートされるパートナーなどの録音システムに接続します。通話が録音される方法について、同意を管理し、地域のプライバシー要件に準拠するのはお客様の責任です。

このセクションの内容:

Einstein 会話インサイトになった Einstein コールコーチング
他の名前のコーチングソリューションも販売に役立つ可能性があります。すばらしいです。

ビデオ通話での会話インサイトの使用
電話ですでに得ているのと同じインサイトとコーチング可能な瞬間をビデオ通話で得ます。会話インサイトユーザは、Zoom が統合された後で動画サポートを得ることができます。

通話コレクションの作成と共有
効果的な最初の通話や価格に関する問い合わせの扱い方などのカテゴリに通話を整理します。通話をよりアクセスおよび確認しやすいものにします。マネージャと営業担当は簡単に役に立つ音声通話のグループを作成してアクセスできます。

会話インサイトグダッシュボードでのビデオ通話データへのアクセス
すべてのビデオ通話のデータを表示したいですか?大丈夫です。営業マネージャは、会話種別で会話インサイトダッシュボードを絞り込めるようになりました。

Einstein 会話インサイトになった Einstein コールコーチング

他の名前のコーチングソリューションも販売に役立つ可能性があります。すばらしいです。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

ビデオ通話での会話インサイトの使用

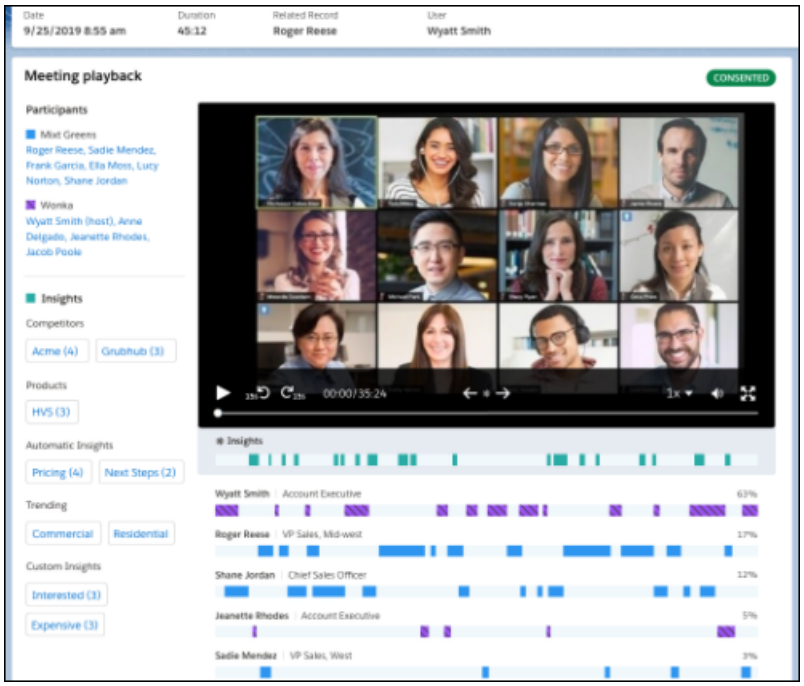
電話ですでに得ているのと同じインサイトとコーチング可能な瞬間をビデオ通話で得ます。会話インサイトユーザは、Zoom が統合された後で動画サポートを得ることができます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

時期: この機能は、Spring '21 リリースで後からリリースされます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein 会話インサイトへのアクセス権を持つ High Velocity Sales ユーザが使用できます。

理由: 便利な会話インサイト機能のいくつかはビデオ通話でも使用できます。記録済みのミーティングには Salesforce で直接アクセスでき、通話で明らかになったインサイトやトレンドを確認できます。競合他社、商品、カスタムキーワード、料金に関するディスカッション、および次のステップのメンションを可視化できます。

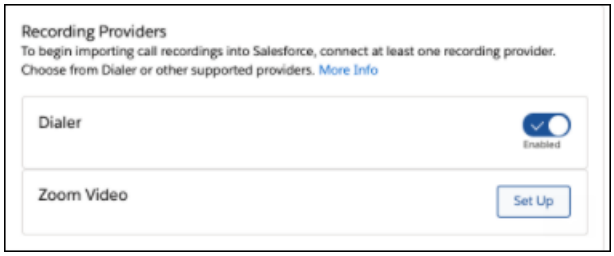


会話インサイトユーザは、ビデオ通話レコードから記録を再生し、通話の詳細を確認できます。異なるメンションをクリックして、通話の特定の領域を強調表示し、その領域に移動します。

マネージャは会話インサイトダッシュボードからビデオ通話データを確認し、通話ハイライトメールで公開されたビデオ通話を視聴することもできます。

レコードの共有、通話コレクション、Chatter アクセス権など、サポートされない音声通話機能もあります。

方法: 動画サポートを利用するには、[設定] の [一般設定] から Zoom 動画を録音プロバイダとして追加します。



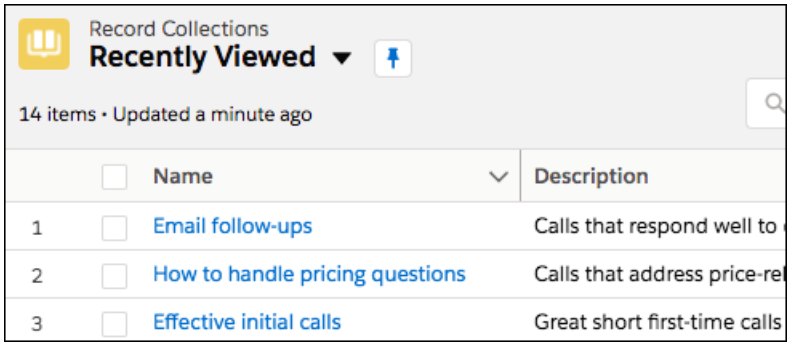
通話コレクションの作成と共有

効果的な最初の通話や価格に関する問い合わせの扱い方などのカテゴリに通話を整理します。通話をよりアクセスおよび確認しやすいものにします。マネージャと営業担当は簡単に役に立つ音声通話のグループを作成してアクセスできます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein **会話インサイトへのアクセス権を持つ** High Velocity Sales **ユーザが使用できます。**

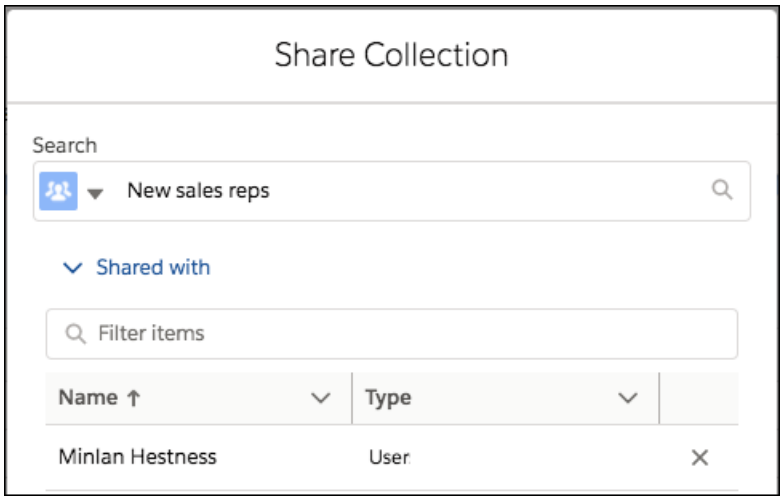
理由: 営業マネージャは通話のコレクションを作成して共有できるようになり、これによってユーザはカテゴリ別に整理された役に立つ多数の通話にアクセスできます。



ユーザは、コレクションが共有されたときに通知を受け取ります。

マネージャまたは営業担当がコレクションを作成できます。コレクションはデフォルトで非公開ですが、営業マネージャはロール階層を通じて営業担当のコレクションにアクセスできます。

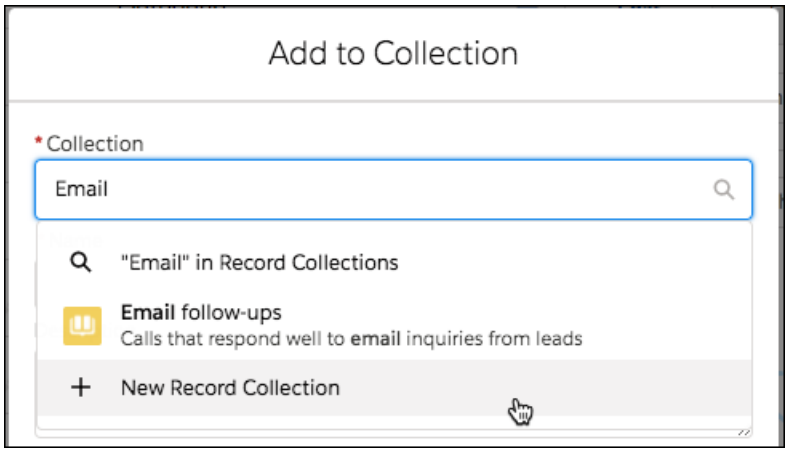
標準ユーザはデフォルトでコレクションを表示するアクセス権を持ちますが、コレクションの項目を表示するにはコレクションを共有する必要があります。コレクションの所有者は個人のユーザまたは公開グループと共有できます。



方法: 会話インサイトダッシュボードメニューから通話コレクションにアクセスします。アプリケーションランチャーでレコードコレクションを検索することも、ナビゲーションメニューにレコードへのリンクを表示することもできます。



営業担当は所有する通話レコードを追加でき、マネージャはアクセス権を持つ通話を追加できます。音声通話をコレクションに追加するには、音声通話レコードから[コレクションに追加]をクリックします。マネージャと営業担当は、[コレクションに追加] モーダルから直接コレクションを作成することもできます。



各通話コレクションは、100 個の項目と 100 人のメンバーに制限されています。

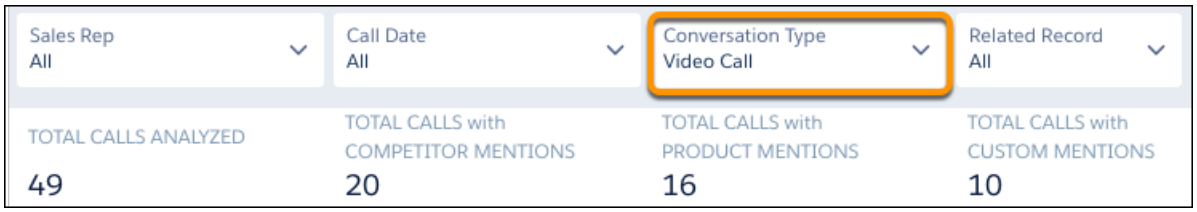
会話インサイトダッシュボードでのビデオ通話データへのアクセス

すべてのビデオ通話のデータを表示したいですか? 大丈夫です。営業マネージャは、会話種別で会話インサイトダッシュボードを絞り込めるようになりました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: この機能は、「コールコーチングユーザ」権限セットを持つ営業マネージャが使用できます。

方法: [概要] ページと [メンション] ページから、営業マネージャは Wave ダッシュボードの会話種別で絞り込めるようになりました。



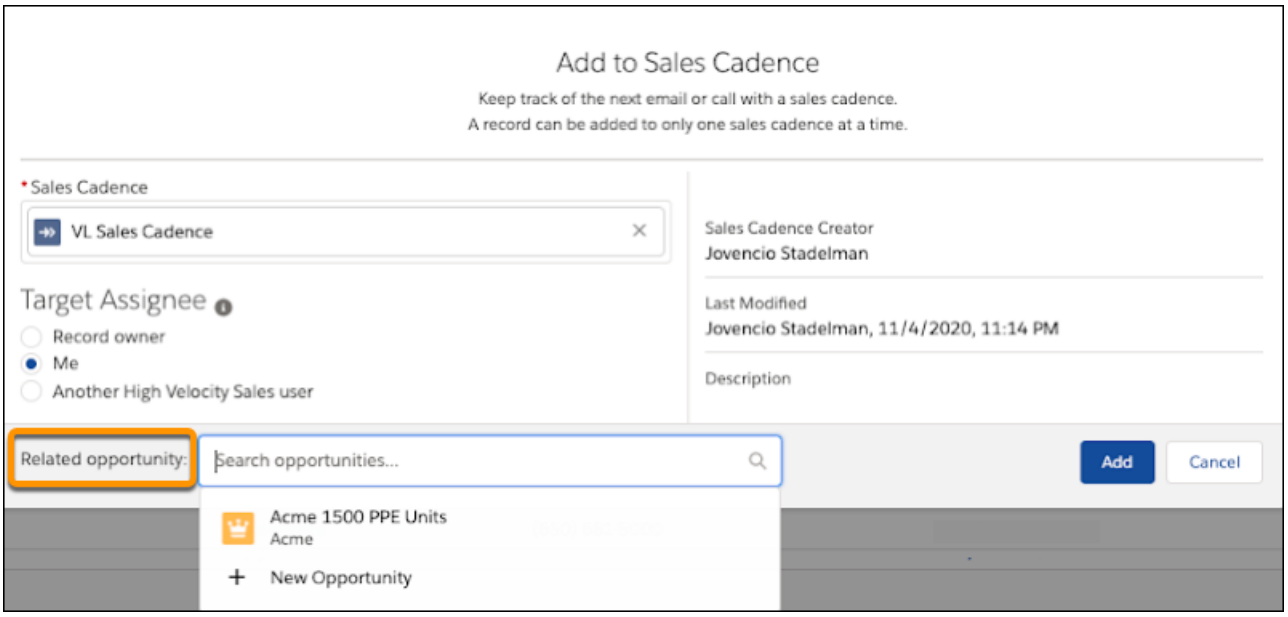
セールスケイデンスを使用した商談の促進と対象エンゲージメントの追跡

営業チームがセールスケイデンスの効率性を利用して商談を促進できるようにします。営業マネージャは、商談育成セールスケイデンスを作成できます。営業マネージャと営業担当は、セールスエンゲージメントコンポーネントを追加すると、商談および対象レコードページで対象のセールスケイデンス状況と最近のエンゲージメントアクティビティを確認できます。

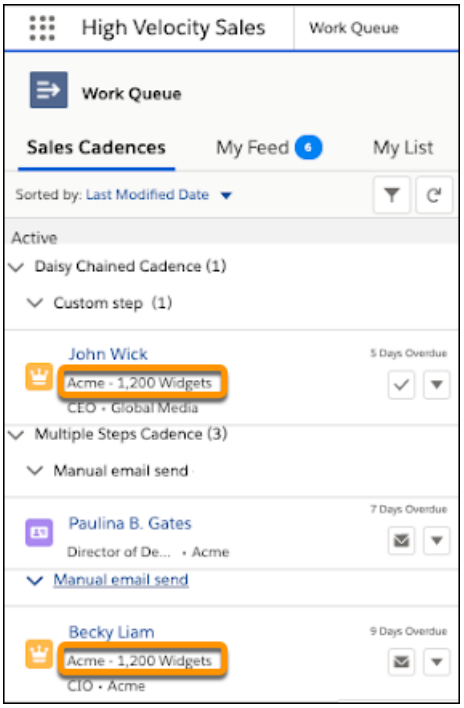
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限を持つユーザが使用できます。

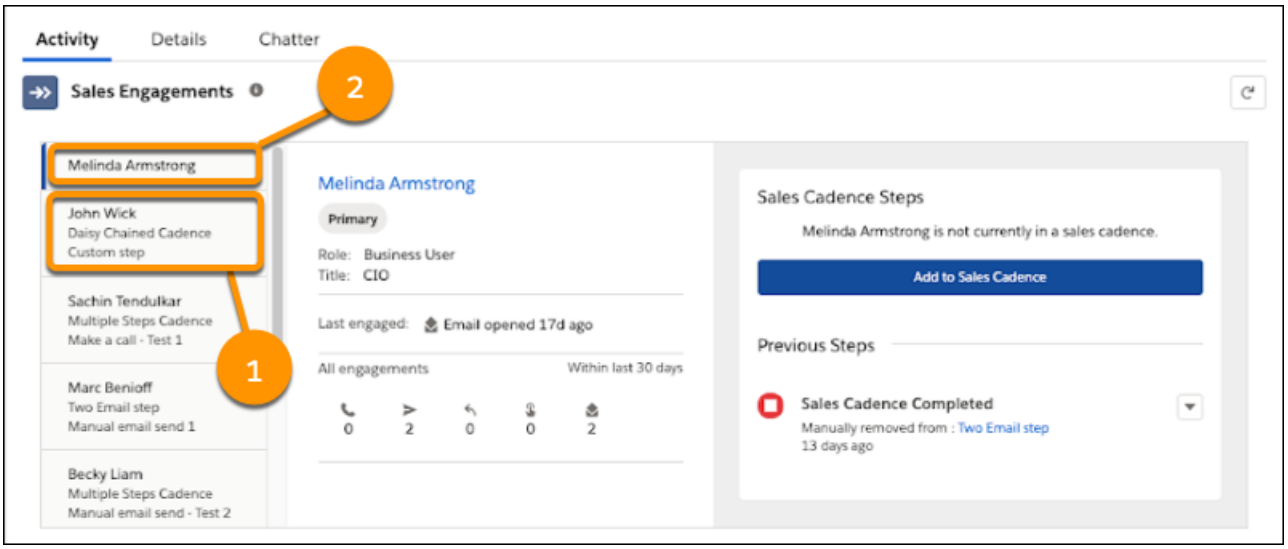
理由: マネージャまたは営業担当がセールスケイデンスに対象を追加するときに、商談を対象に関連付けることができるようになりました。



取引先責任者および個人取引先の対象に関連付けられた商談は、対象と共に作業キューに表示されます。項目をクリックすると、対象と商談の両方が開きます。

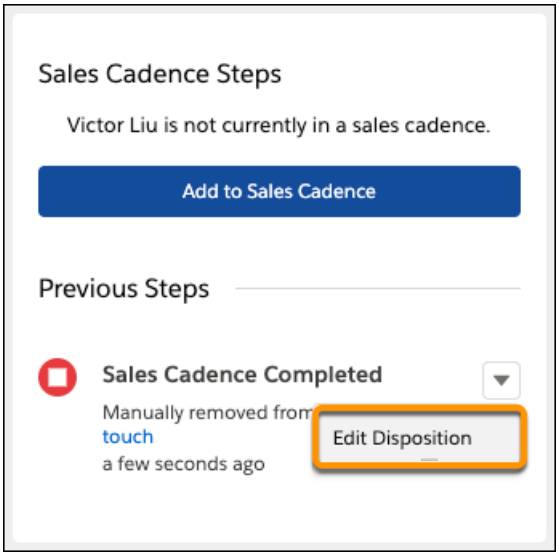


商談では、セールスエンゲージメントコンポーネントに各取引先責任者の役割のエンゲージメントアクティビティが表示されます。エンゲージメント情報は、取引先責任者がセールスケイデンス内にあるか (1)、否か (2) に関わらず表示されます。コンポーネントは、広い方か狭い方に追加できます。

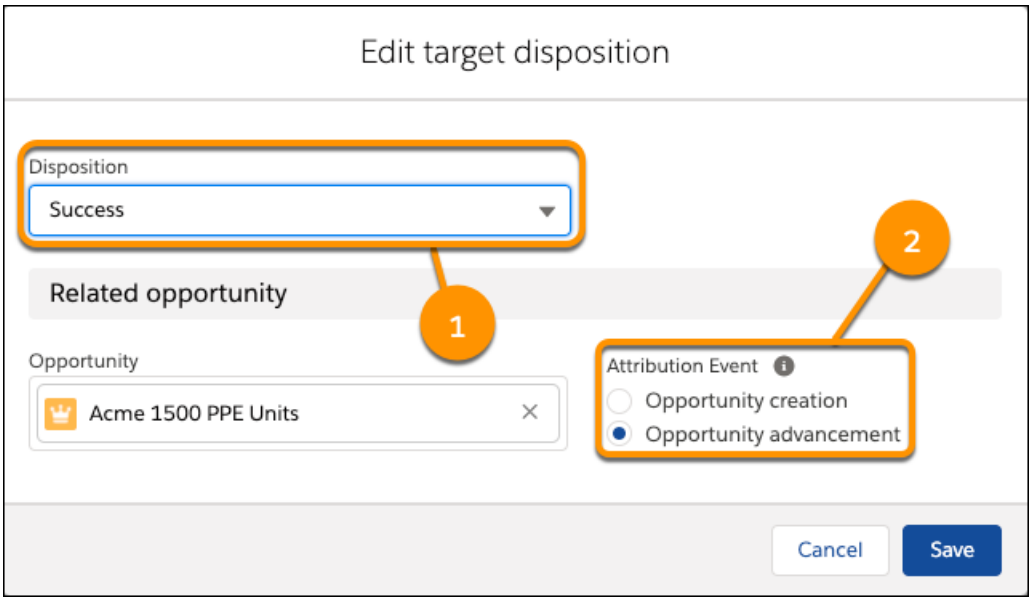


セールスエンゲージメントコンポーネントは、リード、取引先責任者、および個人取引先レコードでも使用できます。このコンポーネントには、対象のセールスケイデンスステップの進行状況が含まれるため、ページレイアウトの既存のセールスケイデンスステップコンポーネントの代わりに使用されます。

マネージャと営業担当は、セールスケイデンスの完了中または完了後に、関連商談と対象の配置を更新できます。



対象の配置 (1) は、対象のセールスケイデンスの結果を示します。配置は、手動で削除するときにユーザが設定するか、終了条件を介して対象が完了または終了したときに自動的に設定できます。関連付けイベント (2) は、商談が作成されたとき、または商談フェーズの進行時に商談をセールスケイデンスに関連付けることを指定します。



方法: [設定] で、[商談をセールスケイデンスに関連付け] を有効にします。



次に、セールスエンゲージメントコンポーネントを商談、リード、取引先責任者、個人取引先ページレイアウトに追加します。

データを失うことなくセールスケイデンスを廃止

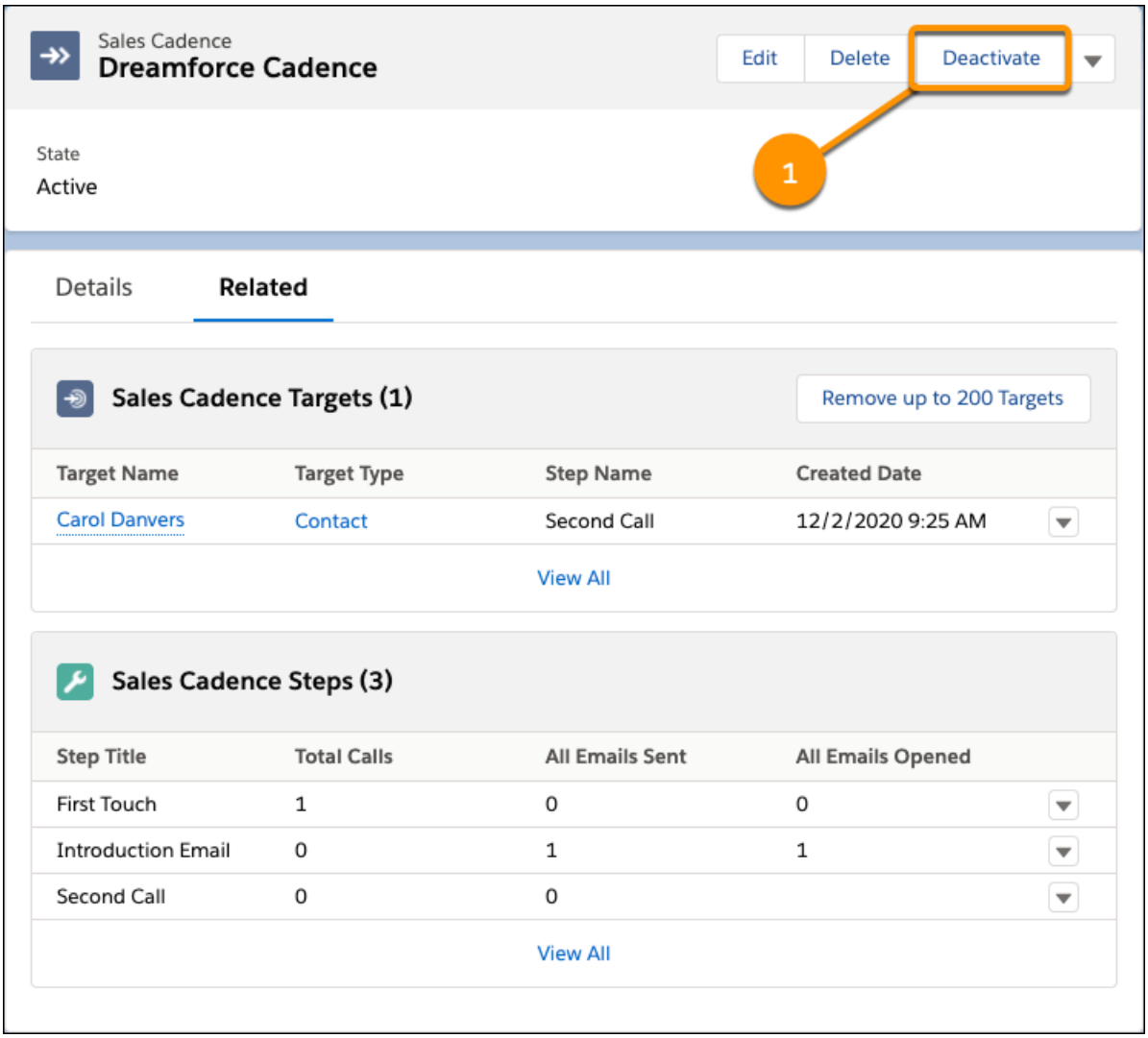
営業マネージャは、使用しなくなったセールスケイデンスを廃止できるようになりました。セールスケイデンスを無効化することで、営業マネージャはセールスケイデンスまたはその履歴データを削除することなく、新しい対象が追加されるのを防止します。無効化されたセールスケイデンスの既存の対象は、完了するまで継続します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限を持つユーザが使用できます。

理由: セールスアウトリーチパターンを更新するには、営業マネージャが古いセールスケイデンスを新しいセールスケイデンスに置き換えます。セールスケイデンスを無効にすると、それ以降の使用が防止され、セールスケイデンスデータが保持され、新しいセールスケイデンスとの混同を回避できます。

方法: 無効化アクションは、セールスケイデンスレコードページにあります。

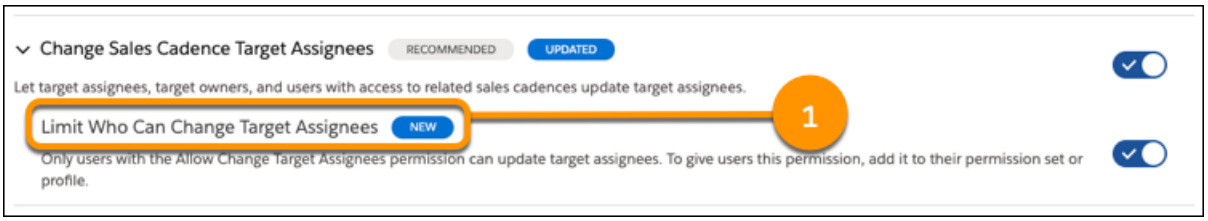


対象割り当て先を変更できるユーザの指定

営業チームが見込み客を管理できるようにします。新しい[対象割り当て先を変更できるユーザを制限]設定では、[対象割り当て先を変更]が有効な場合に対象割り当て先を更新できるチームメンバーを選択できます。営業マネージャは、他のマネージャまたは特定のユーザのみに割り当て先の更新を許可することを選択できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] で [対象割り当て先を変更できるユーザを制限] (1) を有効にして、「セールスケイデンスの対象割り当て先を変更」権限を個々のユーザまたはグループに割り当てます。

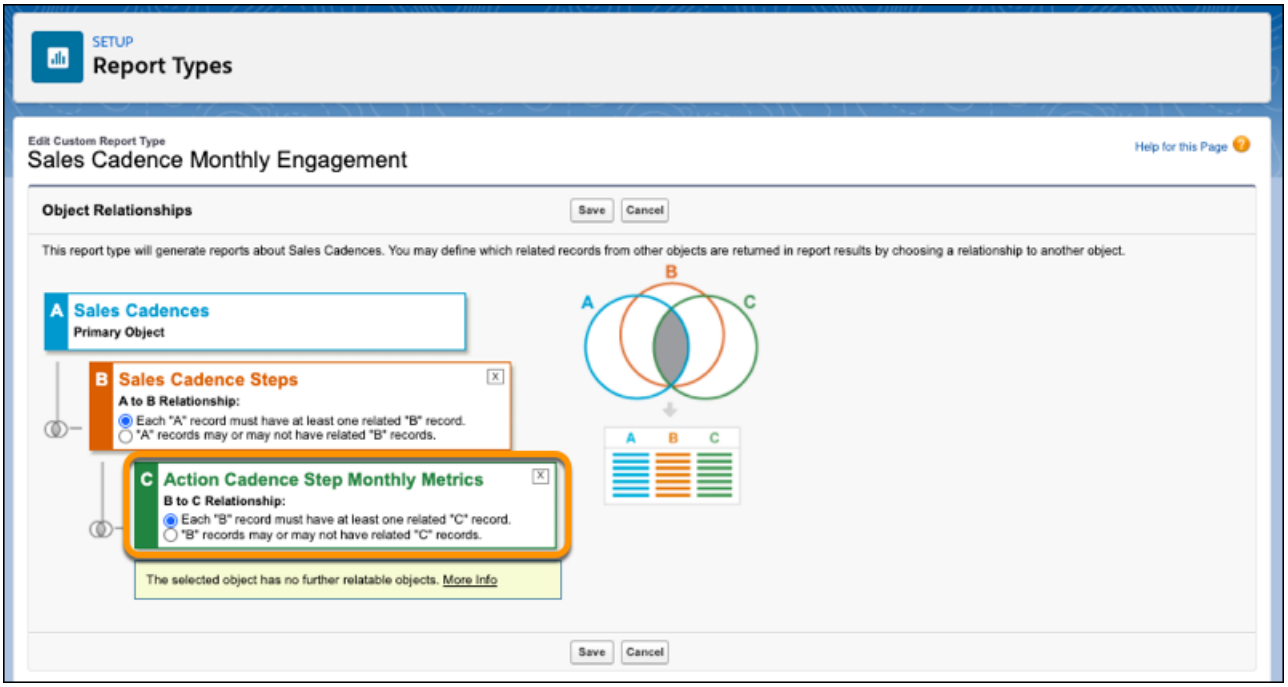


セールスケイデンスパフォーマンスに関する詳細の取得

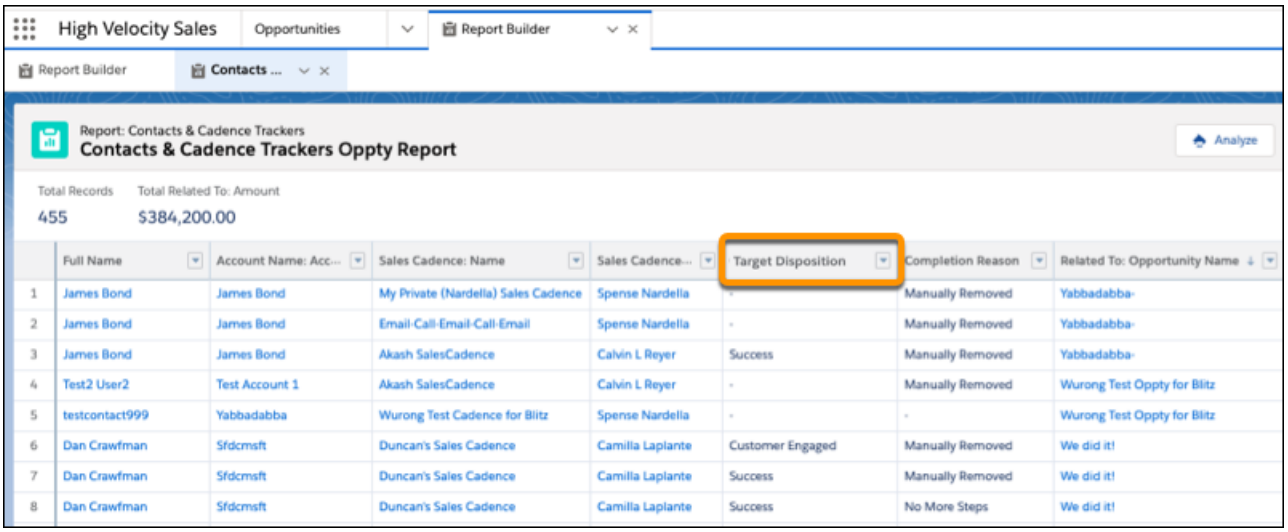
アクションケイデンスステップ月次総計値オブジェクトを使用すると、営業マネージャはセールスケイデンスステップ、メールテンプレート、およびコールスクリプトの月単位の対象エンゲージメント統計を簡単に確認できます。セールスケイデンス対象の配置がレポートで使用できるようになりました。Einstein Analytics High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードにメールリンクのクリックと返信の統計が含まれるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 新しいアクションケイデンスステップ月次総計値オブジェクトはパフォーマンスデータを月別にグループ化するため、マネージャは季節的なパフォーマンストレンドをより簡単に特定できます。メールテンプレート、コールスクリプト、およびセールスケイデンスステップのカスタムレポートタイプはこれらのオブジェクトとの結合をサポートしているため、マネージャはメールの開封、通話、完了したステップなどの月ごとの合計を確認できます。



ケイデンストラッカーのパフォーマンスを確認するときに、マネージャはセールスケイデンス対象の配置情報も確認できます。



参照関係を使用して、商談名、フェーズ、金額などの商談項目を、取引先責任者、リード、および取引先を含むセールスケイデンストラッカーのカスタムレポートタイプに追加できます。

セールスケイデンスレコードの[セールスケイデンスステップ]関連リストに、すべてのセールスケイデンスステップタイプとその完了統計が表示されるようになりました。

Sales Cloud Einstein

Einstein商談スコアリングでは、十分な商談データがない場合はグローバルモデルが使用されます。Einsteinリードスコアリングでは項目がより直感的に保存されます。

このセクションの内容:

少ないデータで Einstein 商談スコアリングを有効化
データセットの量が少ない場合でも、Einstein 商談スコアリングを有効にできるようになりました。Einstein は、匿名の集計データを使用するグローバルスコアリングモデルを利用し、すべてのユーザが商談をスコアリングできるようにします。十分な量の独自のデータがある場合、Einstein はそのデータのみを使用して構築されたスコアリングモデルに切り替えます。

Einstein リードスコアリングリングに除外項目ではなく含まれる項目を保存
以前は、Einstein リードスコアリングにはスコアリングモデルから除外するリード項目のリストが保存されていました。Einstein リードスコアリングを有効にした後で新しいカスタムリード項目を追加する場合は、[設定] のスコアリングモデルで使用されるリストに項目を追加します。

少ないデータで Einstein 商談スコアリングを有効化

データセットの量が少ない場合でも、Einstein 商談スコアリングを有効にできるようになりました。Einstein は、匿名の集計データを使用するグローバルスコアリングモデルを利用し、すべてのユーザが商談をスコアリングできるようにします。十分な量の独自のデータがある場合、Einstein はそのデータのみを使用して構築されたスコアリングモデルに切り替えます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Einstein 商談スコアリングのグローバルモデルは、Spring '21 リリースで後からリリースされます。

理由: Einstein インテリジェンスは、データに基づいています。ただし、小規模な会社や Salesforce または特定の Salesforce オブジェクトを使用するのが初めての会社では、Einstein 商談スコアリングのデータ要件を満たしていない可能性があります。グローバルモデルにより、すべてのユーザが商談スコアリングを利用できます。

方法: グローバルモデルまたは単一顧客モデルを使用する準備ができているかどうかを確認するには、[設定] から [Einstein の準備状況評価] を実行します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Einstein の準備状況評価の実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
Salesforce Einstein

Einstein リードスコアリングリングに除外項目ではなく含まれる項目を保存

以前は、Einstein リードスコアリングにはスコアリングモデルから除外するリード項目のリストが保存されていました。Einstein リードスコアリングを有効にした後で新しいカスタムリード項目を追加する場合は、[設定] のスコアリングモデルで使用されるリストに項目を追加します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Einstein

中核的なセールス機能

モバイル売上予測の調整、商談商品に関する情報のより柔軟な追跡、リード変換のより多くのオプションを使用できます。パッケージプロバイダは、注文の保存方式を設定するためのより多くのオプションを使用可能で、元のテリトリー管理は廃止される予定です。

このセクションの内容:

コラボレーション売上予測
モバイル売上予測で調整がサポートされるようになりました。

商談
営業チームは商談商品レコードの情報をより柔軟に追跡できます。

リード
営業担当は、より柔軟にリードを変換できます。

キャンペーン
取引先ベースのマーケティング活動をサポートする、新しいキャンペーンメンバーとしての取引先(ベータ)をお試しください。

注文
パッケージプロバイダは、2GP およびロック解除済みパッケージでサポートされる注文の保存方式の種別を設定できます。

中核的なセールス機能のその他の変更
元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。

コラボレーション売上予測

モバイル売上予測で調整がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

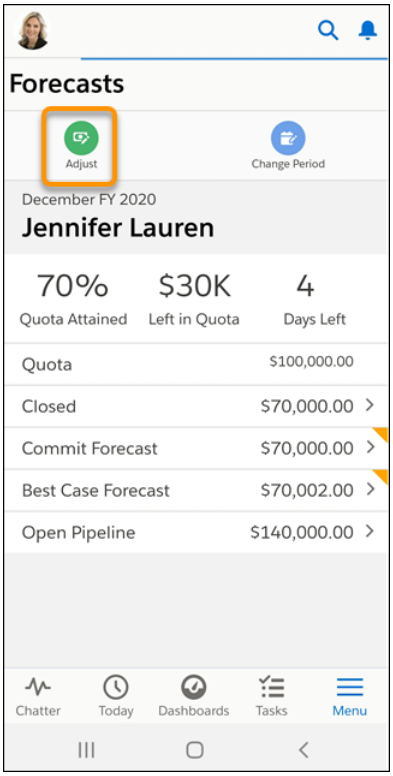
外出先での売上予測の調整
Salesforce モバイルアプリケーションでは売上予測の調整がサポートされるようになりました。モバイルアプリでは、自分の売上予測を調整することはできますが、部下の売上予測を調整することはできません。これまでは、すべてのモバイル売上予測が参照のみでした。

外出先での売上予測の調整

Salesforceモバイルアプリケーションでは売上予測の調整がサポートされるようになりました。モバイルアプリでは、自分の売上予測を調整することはできますが、部下の売上予測を調整することはできません。これまでは、すべてのモバイル売上予測が参照のみでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Developer Edition、および Sales Cloud が付属する Enterprise Edition と Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: [売上予測] タッチスクリーンで、[調整] をタップして開始します。調整する売上予測をタップして [調整] をタップすることもできます。調整を入力し、必要に応じてメモを追加して、変更を保存します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測での売上予測の調整 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測: Salesforce モバイルアプリケーションで使用できない機能とその新機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

商談

営業チームは商談商品レコードの情報をより柔軟に追跡できます。

このセクションの内容:

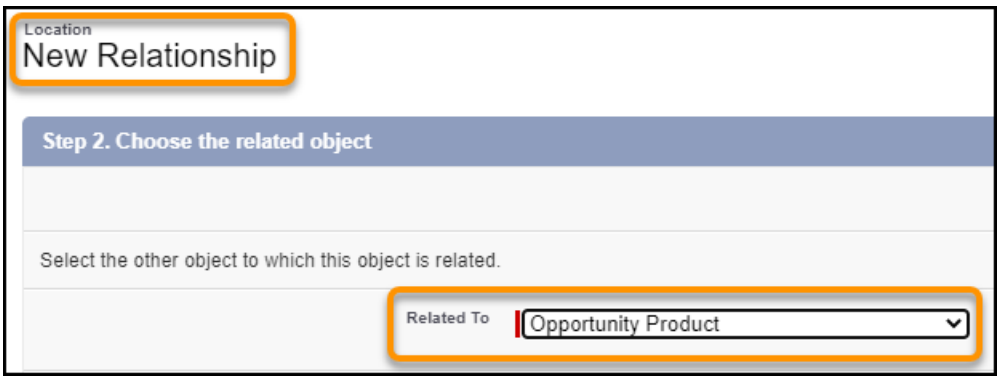
商談商品の機能強化
営業チームは、商談商品のレコードの情報をより柔軟に追跡できます。たとえば、営業担当が商談商品レコードの関連リストで2つの配達先を追跡したいと考えているとします。オブジェクトリレーションとページレイアウトを作成して、それを実現できるようになりました。

商談商品の機能強化

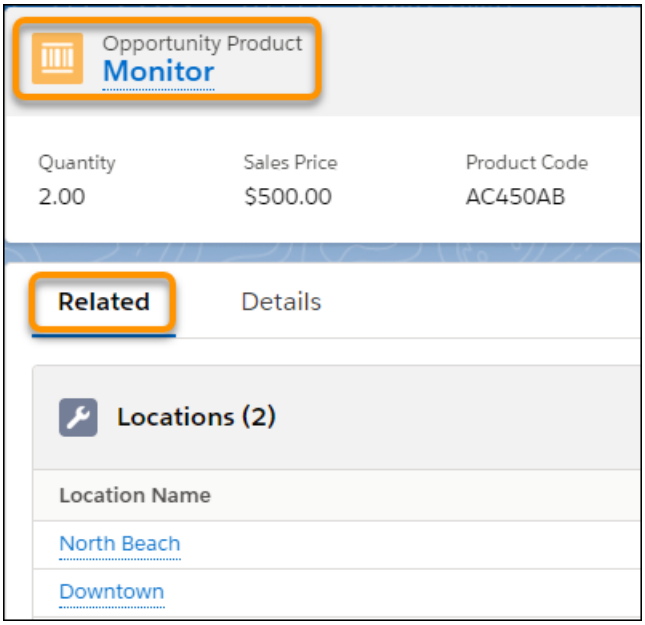
営業チームは、商談商品のレコードの情報をより柔軟に追跡できます。たとえば、営業担当が商談商品レコードの関連リストで2つの配達先を追跡したいと考えているとします。オブジェクトリレーションとページレイアウトを作成して、それを実現できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: オブジェクト管理設定で、標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトと商談商品 (OpportunityLineItem オブジェクト) 間の参照関係を作成します。参照項目と関連リストが表示対象のページレイアウトに追加されていることを確認します。



この例では、[Location (場所)] カスタムオブジェクトに [商談商品] との参照関係があります。



これで、営業担当は Monitor 商品レコードで North Beach と Downtown の配達先を追跡できます。

Enterprise API では、標準オブジェクトとカスタムオブジェクトおよび OpportunityLineItem オブジェクト間の参照関係がサポートされています。

メモ: 以前にこの更新の話題を目にした方もいるでしょう。この機能は Winter '21 で短い間利用できましたが、その能力を発揮できなかったため、この機能は削除されました。さらなる準備を経て、この機能にもう一度スポットライトをあてることができるようになりました!

リード

営業担当は、より柔軟にリードを変換できます。

このセクションの内容:

API を使用してリードを個人取引先と法人取引先に同時に変換
顧客が個人とグループを含めている場合、営業チームは取引開始済みのリードを個人取引先と法人取引先に同時に関連付けることができます。たとえば、銀行は家族の各メンバーの個人取引先を作成し、その家族を法人取引先にまとめることができます。これらのリード変換を有効にするには、APIを使用してカスタムフローを作成します。

API を使用してリードを個人取引先と法人取引先に同時に変換

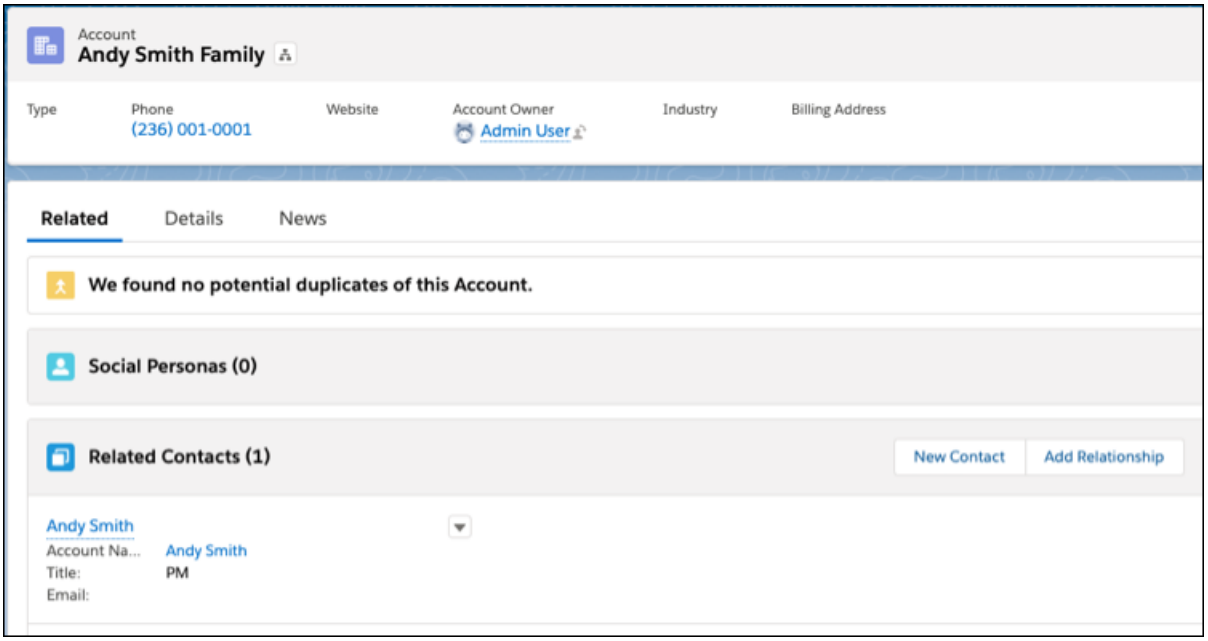
顧客が個人とグループを含めている場合、営業チームは取引開始済みのリードを個人取引先と法人取引先に同時に関連付けることができます。たとえば、銀行は家族の各メンバーの個人取引先を作成し、その家族を法人取引先にまとめることができます。これらのリード変換を有効にするには、API を使用してカスタムフローを作成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: APEX リード変換、個人取引先、および取引先責任者-to-複数取引先を使用する Salesforce 組織の場合、LeadConvert() クラスで新しい引数を使用できます。リードを取引先責任者の代わりに既存の個人取引先に変換するには、新しい relatedPersonAccountId 引数を使用します。リードを取引先責任者の代わりに新規個人取引先に変換するには、relatedPersonAccountRecord 引数を使用します。

LeadConvert クラスには、関連個人取引先を設定および検査するための新しいメソッドが含まれます。LeadConvertResult クラスには、新しいメソッドとプロパティがあります。

法人取引先レコードページで関連個人取引先を表示するには、取引先ページレイアウトに [関連する取引先責任者] 関連リストを追加します。



キャンペーン

取引先ベースのマーケティング活動をサポートする、新しいキャンペーンメンバーとしての取引先(ベータ)をお試しください。

このセクションの内容:

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)
取引先レコードをキャンペーンのメンバーとして追加できるようになりました。キャンペーンメンバーを含むテーブル、関連リスト、レポートで重要な取引先に注目することができます。

リード/取引先責任者 ID の表示ラベルの変更
[リード/取引先責任者 ID]の表示ラベルが[関連レコード ID]になりました。この表示ラベルの変更は、デフォルトで [キャンペーンとキャンペーンメンバー] 標準レポートに表示されます。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)

取引先レコードをキャンペーンのメンバーとして追加できるようになりました。キャンペーンメンバーを含むテーブル、関連リスト、レポートで重要な取引先に注目することができます。

対象: この変更は Salesforce-Pardot コネクタを使用するすべての Salesforce および Pardot エディションに適用されます。

メモ: キャンペーンメンバーとしての取引先はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、ま

たはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。キャンペーンメンバーとしての取引先に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

理由: [Accounts as Campaign Members (キャンペーンメンバーとしての取引先)] 設定を有効にすると、取引先を次の場所で追加または分析できるようになります。

レコード	場所	表示内容
取引先	[キャンペーン] 関連リスト	取引先の取引先責任者に関連付けられているキャンペーンが表示されます。
取引先	[キャンペーン履歴] 関連リスト	取引先をキャンペーンメンバーとして含むキャンペーンが表示されます。リレーションを作成するには[キャンペーンに追加]を使用します。
キャンペーン	[キャンペーンメンバー]関連リスト	キャンペーンメンバーである取引先が表示されます。リレーションを作成するには[アカウントの追加]を使用します。
標準レポート	[Campaigns and Campaign Members (キャンペーンとキャンペーンメンバー)] レポート	メンバー種別が[取引先]の取引先レコードが表示されます。以前は [リード/取引先責任者 ID] という名前だった列の表示ラベルは [関連レコード ID] になりました。
標準レポート	[取引先が関連するキャンペーン]レポート	この新しいレポートタイプでは、キャンペーンと取引先とのリレーションが表示されます。
カスタムレポート	オブジェクト型	主オブジェクトとして [キャンペーン] を選択すると、[取引先] がセカンダリオブジェクトとして表示されるようになりました。

メモ: [リードまたは取引先責任者に連動]を使用する共有設定は変更されていません。ベータ期間中、キャンペーンメンバーとして追加された取引先は共有設定によって評価されず、公開されます。

方法: Salesforce の [設定] で [Accounts as Campaign Members (キャンペーンメンバーとしての取引先)] を有効にします。更新されたレポートと新しいレポートが使用可能になります。取引先レコードでキャンペーンを表示するには、取引先ページレイアウトに [キャンペーン履歴] 関連リストと [キャンペーン] 関連リストを追加します。

リード/取引先責任者 ID の表示ラベルの変更

[リード/取引先責任者 ID] の表示ラベルが [関連レコード ID] になりました。この表示ラベルの変更は、デフォルトで [キャンペーンとキャンペーンメンバー] 標準レポートに表示されます。

対象: この変更はすべての Salesforce エディションに適用されます。

理由: この表示ラベルは、「キャンペーンメンバーとしての取引先」ベータ機能をサポートするように変更されましたが、すべてのユーザに表示されます。この項目で取引先、リード、および取引先責任者の ID をサポートできるようになりました。この項目に取引先 ID を含めるには、Salesforce の [設定] でベータ機能をオプトインしてください。

注文

パッケージプロバイダは、2GP およびロック解除済みパッケージでサポートされる注文の保存方式の種別を設定できます。

このセクションの内容:

2GP およびロック解除済みパッケージでの注文の保存方式の設定
2GP パッケージプロバイダがパッケージでサポートされる注文の保存方式の種別を決定できるようにします。2GP およびロック解除済みパッケージで、注文の新規保存方式を設定できるようになりました。以前は、Winter '21 の「注文の新規保存方式」リリース更新で導入された注文の新規保存方式は、1GP パッケージのみでサポートされていました。

2GP およびロック解除済みパッケージでの注文の保存方式の設定

2GP パッケージプロバイダがパッケージでサポートされる注文の保存方式の種別を決定できるようにします。2GP およびロック解除済みパッケージで、注文の新規保存方式を設定できるようになりました。以前は、Winter '21 の「注文の新規保存方式」リリース更新で導入された注文の新規保存方式は、1GP パッケージのみでサポートされていました。

対象: この変更は、Salesforce Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 以前は、スクラッチ組織でロック解除済みパッケージと 2GP パッケージの注文保存方式のみをテストできました。2GP またはロック解除済みパッケージのスクラッチ組織定義ファイル内の `features` 属性で、注文の保存方式を定義できるようになりました。`features` 内には 3 つのオプションがあります。

- **OrderSaveLogicEnabled**: 注文の新規保存方式のスクラッチ組織サポートを有効にします。この値では、注文の新規保存方式のみがサポートされます。スクラッチ組織で注文の旧保存方式と新規保存方式の両方が必要な場合は、OrderSaveBehaviorBoth を使用します。
- **OrderSaveBehaviorBoth**:注文の新規保存方式と旧保存方式の両方のスクラッチ組織サポートを有効にします。

- **Null**: OrderSaveLogicEnabled または OrderSaveBehaviorBoth を定義ファイルに追加しない場合、パッケージでは注文の旧保存方式のみがサポートされます。

関連トピック:

開発者向けドキュメント: 注文の新規保存方式へのテストと対応 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: Order Save Behavior Update (注文の保存方式の更新) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

中核的なセールス機能のその他の変更

元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。

このセクションの内容:

元のテリトリー管理の廃止
元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。

メモ: カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止されました。元のテリトリー管理のユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできませんが、売上予測マネージャは商談およびテリトリーに付与されたアクセス権を保持します。カスタマイザブル売上予測を使用していた場合、コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

関連トピック:

ナレッジ記事: 元のテリトリー管理モジュールを Summer '21 リリースで廃止

生産性機能

メールおよびメールテンプレートの更新により、営業担当の生産性を高めます。営業担当はメールがハードバウンスされた場合だけでなく、ソフトバウンスされた場合にも顧客をフォローアップできます。さらに、メールがスレッド化されたやり取りになっている場合に、メールをスケジュールできます。営業担当は、「対応可能時間を挿入」機能を使用してスケジュールされたミーティングに Zoom ミーティングリンクを自動的に追加できます。メールテンプレートビルダーテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを管理パッケージおよび変更セットに追加します。また、メールアラートなど Salesforce 自動化でこれらを使用します。メールテンプレートビルダーで、最初から始める代わりに既存のコンポーネントを複製します。

このセクションの内容:

メール操作環境
営業担当はメールがハードバウンスされた場合だけでなくソフトバウンスされた場合も判断できるようになったため、営業担当が送信したメールを顧客が確実に受信するようにできます。営業担当は、メールがスレッド化されたやり取りになっている場合に、メールをスケジュールできるようになりました。さらに、営業担当が Zoom アカウントを接続して「対応可能時間を挿入」を使用してミーティング作成すると、ミーティングが承認されたときに Zoom ミーティングリンクが追加されます。

メールテンプレート
メールテンプレートビルダーを使用して作成されたテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを管理パッケージおよび変更セットと簡単に共有できます。テンプレートをテストして Salesforce 本番組織に移動するか、AppExchange を通じて別のユーザと共有します。メールアラートなどの Salesforce 自動化で、メールテンプレートビルダーを使用して作成されたテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを使用することもできます。さらにメールテンプレートビルダーで、ユーザが類似のコンポーネントを作成するときに既存のコンポーネントを複製して時間を節約することもできます。コンポーネントを複製し、最初から始める代わりにコピーを編集します。

Einstein 活動キャプチャ
プロファイルによってユーザを設定に追加します。取引先責任者および行動の項目の対応付けをカスタマイズします。内部行動を同期することもできます。

Salesforce Inbox
Inbox モバイルアプリケーションに対する最新の改善点を確認してください。

カレンダー
開発者管理者は、API の CalendarView オブジェクトを通じてユーザによる設定時の支援を強化できます。

Dialer
Dialer の名称が変更されました。

メール操作環境

営業担当はメールがハードバウンスされた場合だけでなくソフトバウンスされた場合も判断できるようになったため、営業担当が送信したメールを顧客が確実に受信するようにできます。営業担当は、メールがスレッド化されたやり取りになっている場合に、メールをスケジュールできるようになりました。さらに、営業担当が Zoom アカウントを接続して「対応可能時間を挿入」を使用してミーティング作成すると、ミーティングが承認されたときに Zoom ミーティングリンクが追加されます。

このセクションの内容:

ソフトバウンスメール処理を使用したメールの確実な配信
会社は、メールが配信されなかったときに営業担当が把握できるように不達処理を使用します。メールのソフトバウンス (一時的な配信障害) を追跡できるようになりました。以前は、追跡できるのはハードバウンス (永続的な配信障害) のみでした。

設定変更履歴でのより多くの変更の監視
ユーザや他のシステム管理者が Salesforce 組織に対して行った最近の設定変更を追跡するため、設定変更履歴に新しいイベントが追加されました。

スレッドメールでの「後で送信」の使用
営業担当は、新しいメールを作成したときだけでなく、メールに返信するのに最も最適なタイミングでメールを送信するようにスケジュールできるようになりました。以前は、営業担当がスケジュールできるのは新しいスレッド化されていないメールのみでした。

「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加
営業担当は、Lightning Experience メールの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

ソフトバウンスメール処理を使用したメールの確実な配信

会社は、メールが配信されなかったときに営業担当が把握できるように不達処理を使用します。メールのソフトバウンス (一時的な配信障害) を追跡できるようになりました。以前は、追跡できるのはハードバウンス (永続的な配信障害) のみでした。

対象: この更新は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience およびすべての Salesforce アプリケーションで使用できます。

理由: 活動タイムラインには、メールが不達になったことを示す警告が表示されます。



営業担当は、メールが受信者に届かなかったときに把握できます。ソフトバウンスになったアドレスにもう一度メールを送信すると送信に成功する場合があります。ハードバウンスになったメールアドレスの場合とは異なり、受信者のメールアドレスを確認または更新する必要はありません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メール不達処理の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

設定変更履歴でのより多くの変更の監視

ユーザや他のシステム管理者がSalesforce組織に対して行った最近の設定変更を追跡するため、設定変更履歴に新しいイベントが追加されました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic の設定変更履歴に適用されます。

理由:メールリレーに対する変更を追跡できるようになりました。[メールの配信設定]ページで設定されたメールリレーまたはレコード検索条件に対する変更を追跡します。

方法:監査履歴を表示するには、[設定]から、[クイック検索]ボックスに「設定変更履歴の参照」と入力し、[設定変更履歴の参照] を選択します。

スレッドメールでの「後で送信」の使用

営業担当は、新しいメールを作成したときだけでなく、メールに返信するのに最も最適なタイミングでメールを送信するようにスケジュールできるようになりました。以前は、営業担当がスケジュールできるのは新しいスレッド化されていないメールのみでした。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- High Velocity Sales。Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。
- Salesforce Inbox。Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition では有料オプション、Essentials Edition では無料で使用できます。
- Sales Cloud Einstein。Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: [後で送信] を使用したメールのスケジュール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへのZoomミーティングリンクの追加

営業担当は、Lightning Experience メールの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的にZoomミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的にZoomミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で Salesforce Inbox と拡張メールを有効にしている Lightning Experience 組織に適用されます。

関連トピック:

Inboxを備えたOutlookインテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加

メールテンプレート

メールテンプレートビルダーを使用して作成されたテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを管理パッケージおよび変更セットと簡単に共有できます。テンプレートをテストして Salesforce 本番組織に移動するか、AppExchange を通じて別のユーザと共有します。メールアラートなどの Salesforce 自動化で、メールテンプレートビルダーを使用して作成されたテンプレートなどの Lightning メールテンプレートを使用することもできます。さらにメールテンプレートビルダーで、ユーザが類似のコンポーネントを作成するときに既存のコンポーネントを複製して時間を節約することもできます。コンポーネントを複製し、最初から始める代わりにコピーを編集します。

このセクションの内容:

パッケージおよび変更セットを使用した Lightning メールテンプレートの配布
第一世代パッケージツールを使用して、Lightning メールテンプレートが含まれる管理パッケージを作成します。パッケージにより、制御および更新が可能なメールテンプレートをユーザがダウンロードできるようになります。変更セットにより、Lightning メールテンプレートおよび自動化を Sandbox 環境でテストし、問題のなかった要素を本番環境に移行できます。以前は、これらの機能は Salesforce Classic メールテンプレートでしか使用できませんでした。

Salesforce 自動化での Lightning メールテンプレートの使用
メールアラート、フロー、ワークフロー、プロセスビルダー、承認プロセスなどを含む Salesforce 自動化で、メールテンプレートビルダーのメールテンプレートを含む Lightning メールテンプレートを使用できるようになりました。たとえば、何か発生したことについてユーザにメールを送信するメールアラートを設定し、Lightning メールテンプレートをメールアラートに含めることができます。以前は、メールアラートを設定する場合、Salesforce Classic メールテンプレートのみを使用しました。

メールテンプレートビルダーでのコンポーネント複製による時間の節約
営業担当は完璧なメールテンプレートコンポーネントを作成して複製して再利用できるようになりました。以前は、コンポーネントを再作成していました。

メール管理の最適化
一連のテンプレート選択の名前が変更され、営業担当がメールテンプレートをより容易に見つけられるようになりました。[私のテンプレート] は [私の Lightning メールテンプレート] に、[すべてのテンプレート] は [すべての Lightning テンプレート] になりました。[すべての Classic テンプレート] に変更はありません。

パッケージおよび変更セットを使用した Lightning メールテンプレートの配布

第一世代パッケージツールを使用して、Lightning メールテンプレートが含まれる管理パッケージを作成します。パッケージにより、制御および更新が可能なメールテンプレートをユーザがダウンロードできるようになります。変更セットにより、Lightning メールテンプレートおよび自動化を Sandbox 環境でテストし、問題のなかった要素を本番環境に移行できます。以前は、これらの機能は Salesforce Classic メールテンプレートでしか使用できませんでした。

対象: パッケージに対するこの変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

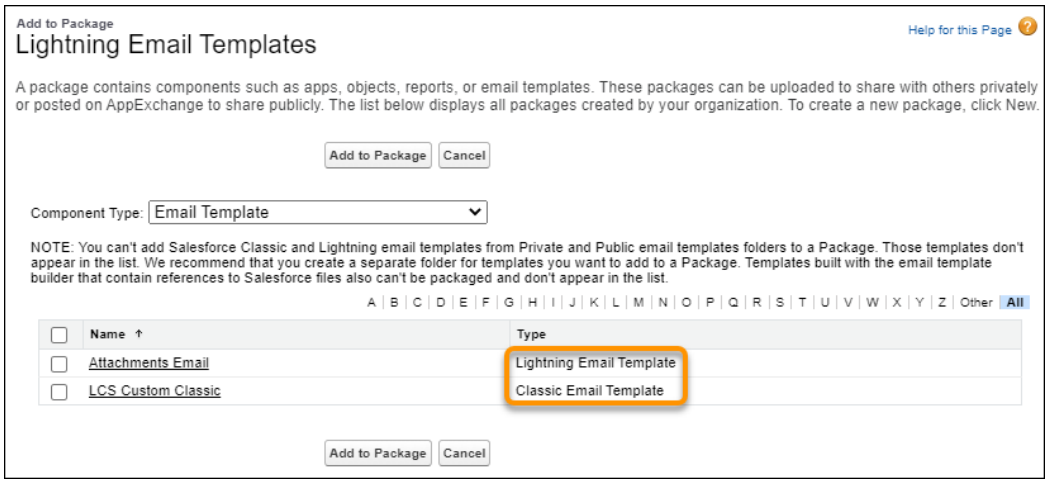
管理パッケージの作成は、Developer Edition でのみサポートされます。

変更セットに対するこの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

理由:パッケージと変更セットを使用する場合はいくつかあります。

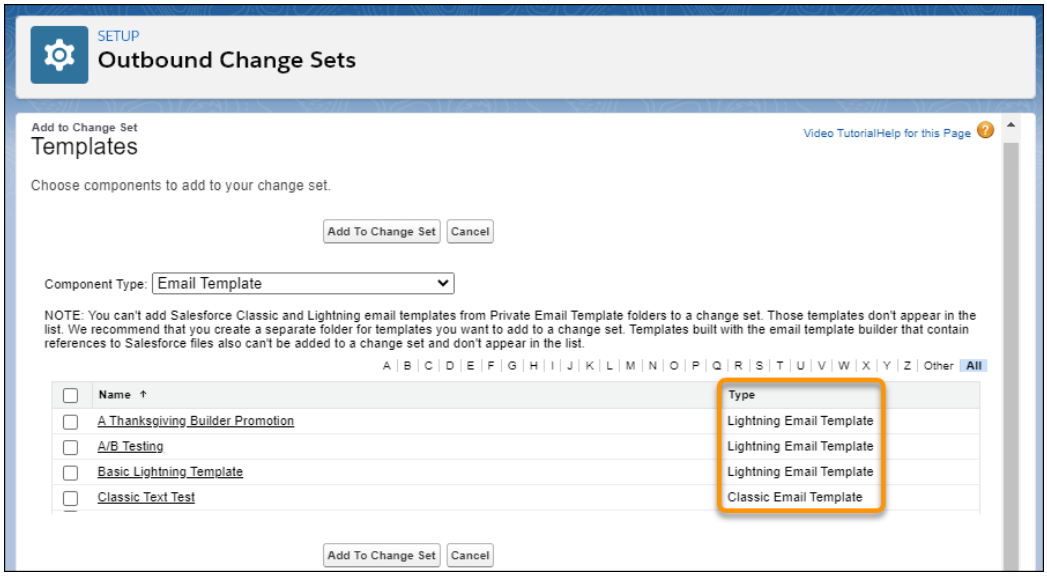
- Lightning **メールテンプレートを管理パッケージに追加し、パッケージを** AppExchange **にアップロードする場合。メールテンプレートは** Salesforce **エコシステム全体で共有できます。**
- Lightning **メールテンプレート、フロー、およびメールアラートなどの自動化を** Sandbox **環境でテストする場合。その後、テストしたファイルを変更セットに追加し、本番環境にリリースします。テンプレートおよび自動化を複製して、時間を節約すると同時にエラーの発生を回避します。**
- **取引先が更新されるたびに** Salesforce**組織がメールを自動的に取引先所有者に送信することを希望する場合。フローによってトリガされるメールアラートで** Lightning **メールテンプレートを使用します。**

方法:管理パッケージを作成するときに、Lightning **および** Classic **メールテンプレートから選択します。**



ヒント: Lightning **メールテンプレートを使用してパッケージを作成する前に、「パッケージでのコンポーネントの動作」で動作について確認してください。実装ガイドで、「管理パッケージで使用可能なコンポーネント」セクション、特に「パッケージに自動的に追加されるコンポーネント」を確認してください。**

変更セットを作成するときに、Lightning **および** Classic **メールテンプレートから選択します。**



ヒント: Lightning メールテンプレートを使用して変更セットを作成する前に、「メールアラートアクション」と「リリースの特殊な動作」で考慮事項を確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:変更セット (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:アプリケーションのパッケージ化および配布 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Ability to add Lightning Email Templates to Changes Sets and Deploy from Sandbox (Lightning メールテンプレートを変更セットに追加して Sandbox からリリースする機能) *(部分的に実現)*

Salesforce 自動化での Lightning メールテンプレートの使用

メールアラート、フロー、ワークフロー、プロセスビルダー、承認プロセスなどを含む Salesforce 自動化で、メールテンプレートビルダーのメールテンプレートを含む Lightning メールテンプレートを使用できるようになりました。たとえば、何か発生したことについてユーザにメールを送信するメールアラートを設定し、Lightning メールテンプレートをメールアラートに含めることができます。以前は、メールアラートを設定する場合、Salesforce Classic メールテンプレートのみを使用しました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning メールテンプレートを使用した自動化を設定する前に、「メールアラートアクション」で動作の詳細を確認します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールアラートアクション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

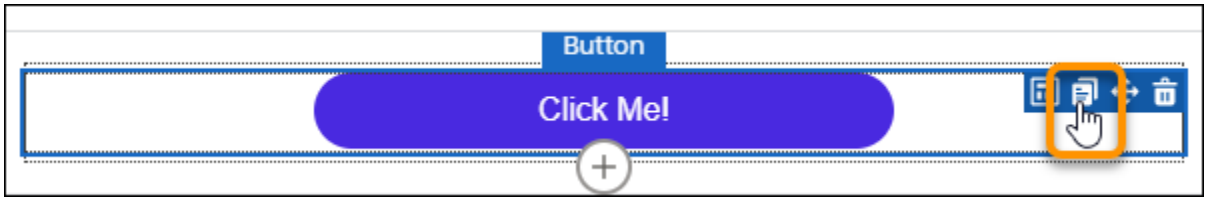
IdeaExchange: Use Lightning Email Templates in Email Alerts (メールアラートでの Lightning メールテンプレートの使用) *(部分的に実現)*

メールテンプレートビルダーでのコンポーネント複製による時間の節約

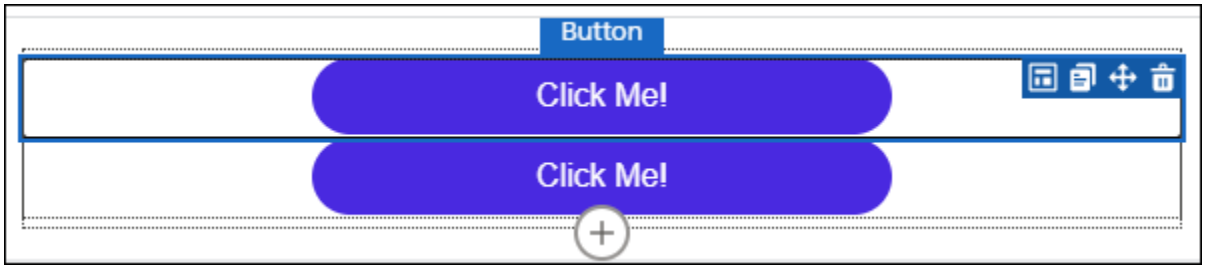
営業担当は完璧なメールテンプレートコンポーネントを作成して複製して再利用できるようになりました。以前は、コンポーネントを再作成していました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、および Pardot Lightning アプリケーションのすべてのエディションの Pardot に適用されます。この機能は、Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

方法: コンポーネントが思いどおりのものであれば、複製ボタンをクリックします。



複製コンポーネントを移動するか、その場に配置したままにします。元のコンポーネントに影響を与えずに変更を加えます。



関連トピック:

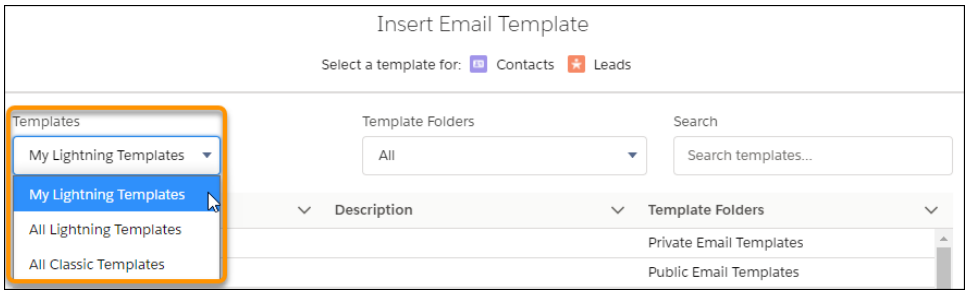
Salesforce ヘルプ: メールテンプレートビルダー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メール管理の最適化

一連のテンプレート選択の名前が変更され、営業担当がメールテンプレートをより容易に見つけられるようになりました。[私のテンプレート] は [私の Lightning メールテンプレート] に、[すべてのテンプレート] は [すべての Lightning テンプレート] になりました。[すべての Classic テンプレート] に変更はありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ユーザが正しいテンプレートを見つけやすくなりました。



方法: 元の名前と新しい名前を確認してください。

元の名称	新しい名称	結果
私のテンプレート	私の Lightning テンプレート	自分で作成したすべての Lightning およびメールテンプレートビルダーのメールテンプレート。
すべてのテンプレート	すべての Lightning テンプレート	アクセス権を持つすべての Lightning およびメールテンプレートビルダーのメールテンプレート。
すべての Classic テンプレート	変更なし	アクセス権を持つすべての Salesforce Classic メールテンプレート。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メール作成時のメールテンプレートの選択 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 活動キャプチャ

プロファイルによってユーザを設定に追加します。取引先責任者および行動の項目の対応付けをカスタマイズします。内部行動を同期することもできます。

このセクションの内容:

Einstein 活動キャプチャ設定へのプロファイルの追加
ユーザ割り当てをより効率的に管理します。ユーザを設定に割り当てるときに、ユーザのプロファイルに基づいてユーザを追加できるようになりました。以前は、追加できるのは個々のユーザのみであり、時間がかかっていました。

取引先責任者および行動の同期での項目の対応付けのカスタマイズ
Microsoft Exchange と Salesforce 間での取引先責任者と行動の同期方法を制御します。2 つのアプリケーション間の項目の対応付けを管理することで、営業チームは重要な情報を最新に保つことができます。

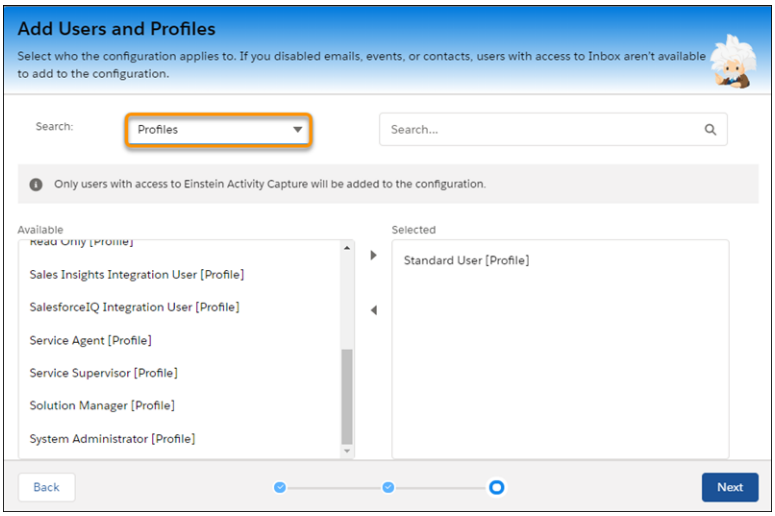
内部行動の同期
すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動を同期することで、Salesforce で会社の重要な行動を追跡します。会社のデフォルトの内部ドメインは、通常どおり Salesforce の除外リストに追加されます。以前は、Salesforce と営業担当の接続済みアカウント間で内部行動が同期されていませんでした。この動作を変更して、内部行動を同期できるようになりました。

Einstein 活動キャプチャ設定へのプロファイルの追加

ユーザ割り当てをより効率的に管理します。ユーザを設定に割り当てるときに、ユーザのプロファイルに基づいてユーザを追加できるようになりました。以前は、追加できるのは個々のユーザのみであり、時間がかかっていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザを Einstein 活動キャプチャ設定に追加するときに、ドロップダウンリストから [プロファイル] を選択します。プロファイル内で Einstein 活動キャプチャへのアクセス権を持つユーザのみが設定に追加されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの設定の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

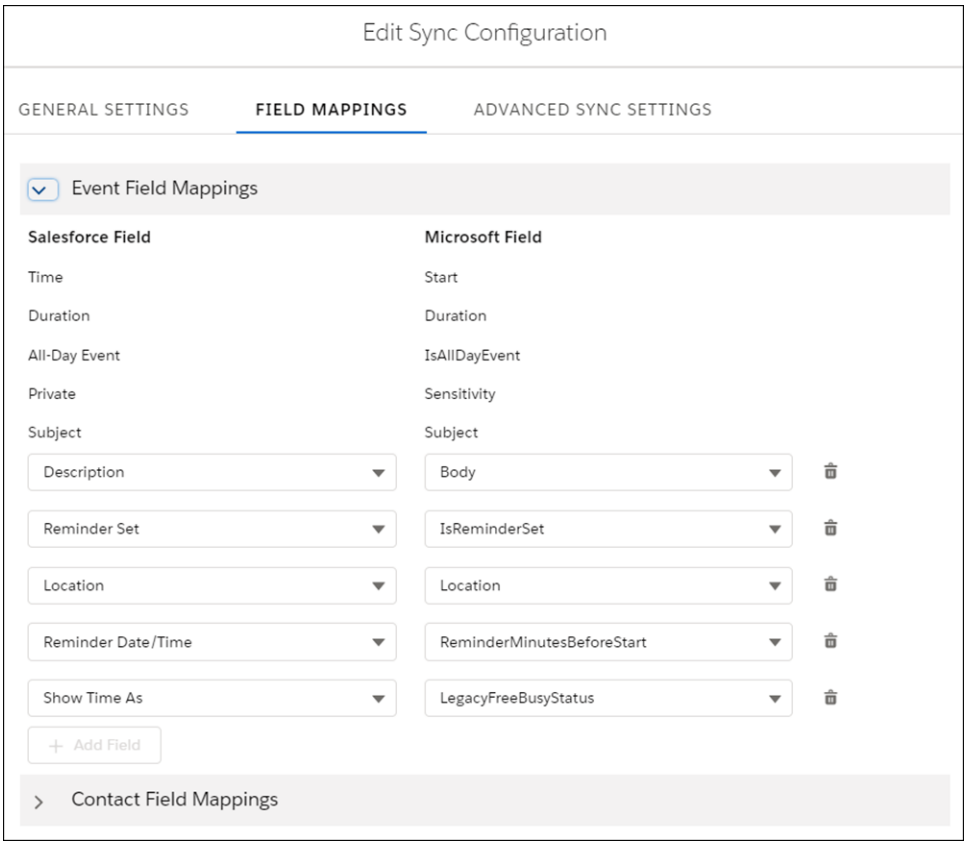
取引先責任者および行動の同期での項目の対応付けのカスタマイズ

Microsoft Exchange と Salesforce 間での取引先責任者と行動の同期方法を制御します。2 つのアプリケーション間の項目の対応付けを管理することで、営業チームは重要な情報を最新に保つことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [Einstein 活動キャプチャ] 設定ページから、既存の設定を選択します。[項目の対応付け] タブをクリックします。このタブから、対応付けを削除または変更できます。

- 同期プロセス中に取引先責任者および行動を照合するために使用する標準項目の対応付けをカスタマイズすることはできません。たとえば、取引先責任者はメールアドレスに基づいて更新されるため、メール項目の対応付けは変更できません。
- カスタム Salesforce 項目は対応付けで使用されません。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 取引先責任者の同期での項目の対応付け (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 行動の同期での項目の対応付け (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

内部行動の同期

すべての被招集者が内部ドメインに含まれる行動を同期することで、Salesforce で会社の重要な行動を追跡します。会社のデフォルトの内部ドメインは、通常どおり Salesforce の除外リストに追加されます。以前は、Salesforce と営業担当の接続済みアカウント間で内部行動が同期されていませんでした。この動作を変更して、内部行動を同期できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 内部行動を同期するには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Considerations for Excluding Data from Einstein Activity Capture (Einstein 活動キャプチャからデータを除外する場合の考慮事項) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Inbox

Inbox モバイルアプリケーションに対する最新の改善点を確認してください。

このセクションの内容:

- Salesforce Inbox モバイル
  Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Salesforce Inbox モバイル

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- Inbox Mobile for iOS
- Inbox Mobile for Android

Inbox デスクトップの最新の機能と機能強化については、Salesforce リリースノートの Outlook インテグレーションセクション、Gmail インテグレーションセクション、メール操作環境セクションを参照してください。

関連トピック:

- Outlook® インテグレーション
- Gmail™ インテグレーション
- メール操作環境
- Outlook® インテグレーション
- Gmail™ インテグレーション
- メール操作環境

カレンダー

開発者管理者は、API の CalendarView オブジェクトを通じてユーザによる設定時の支援を強化できます。

このセクションの内容:

- API からの共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーの作成
  開発者は、標準オブジェクト CalendarView で表される共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーを表示、作成、および配布できます。以前は、APIから作成できるのはオブジェクトカレンダーのみでした。

API からの共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーの作成

開発者は、標準オブジェクト CalendarView で表される共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーを表示、作成、および配布できます。以前は、API から作成できるのはオブジェクトカレンダーのみでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

- 新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス*: CalendarView (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Dialer

Dialer の名称が変更されました。

このセクションの内容:

Lightning Dialer から Sales Dialer への名称変更
Lightning Dialer の名称が変更されました。ご好評いただいている Salesforce テレフォニー機能の名称が Sales Dialer になりました。

Lightning Dialer から Sales Dialer への名称変更

Lightning Dialer の名称が変更されました。ご好評いただいている Salesforce テレフォニー機能の名称が Sales Dialer になりました。

対象: この変更は、Lightning Experience での Sales Dialer に適用されます。Sales Dialer は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます (有料オプション)。

Google とのインテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Chrome 拡張機能の従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションで使用できます。営業担当は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。Lightning Sync の機能強化はもう導入されなくなりますが、次世代同期製品である Einstein 活動キャプチャの新機能をご確認ください。

このセクションの内容:

Gmail™ インテグレーション
メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Chrome 拡張機能の従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションで使用できます。営業担当には、異なる順序で並び替えられた関連ユーザレコードが表示されます。また、営業担当は、Inbox の「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。
Lightning Sync for Google
Lightning Sync の機能強化はこれ以降導入されません。取引先責任者と行動の同期の新機能に興味がある方は、次世代の同期製品である Einstein 活動キャプチャを確認してください。

Gmail™ インテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Chrome 拡張機能の従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションで使用できます。営業担当には、異なる順序で並び替えられた関連ユーザレコードが表示されます。また、営業担当は、Inbox の「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。

このセクションの内容:

従来のバージョンの Gmail 用 Inbox Chrome 拡張機能を 2021 年 3 月 31 日に廃止
従来のバージョンの Inbox Chrome 拡張機能にアクセスできる営業担当は、Gmail インテグレーションで Inbox 機能にアクセスできます。Gmail インテグレーションで、Inbox 機能は Inbox ライセンスによってロック解除されます。営業担当が従来の Inbox を使用している場合、すでにこのライセンスを所有しています。Inbox を備えた Gmail インテグレーションへの移行方法については、このまま読み進んでください。

Gmail インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化
メールアドレスが複数の人レコードに一致する場合、営業担当には最初に一致した標準ユーザが表示され、続いて取引先責任者、リード、さらにコミュニティユーザなどのその他のユーザが表示されるようになりました。最も関連性の高い人レコードがデフォルトで選択されるため、コミュニティまたはパートナーユーザがある場合により合理化された環境が提供されます。たとえば、1 件のメールが取引先責任者とパートナーまたはコミュニティユーザに一致する場合、取引先責任者レコードが選択されます。以前は、ユーザ種別に関係なくすべてのユーザがグループ化され、最初にリストされていました。

Gmail インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング
一貫性を保つため、ユーザが Gmail インテグレーションからのイベントを記録する場合、イベント種別で使用できる選択内容が、クイックアクションメニューを使用してイベントを作成するときに使用できるオプションと一致するようになりました。イベント種別は、イベントオブジェクトのユーザのプロファイルから取得されます。

Inbox を備えた Gmail インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加
営業担当は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

Inbox を備えた Gmail インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示
営業マネージャは、Gmail インテグレーションから送信するメールを通じて営業チームのパフォーマンスをより正確に把握できるようになりました。メール追跡を有効にしていなかったとしても、Inbox を備えた Gmail インテグレーションから送信されたすべてのメールがエンゲージメント履歴に含まれるようになりました。エンゲージメントイベントには、送信されたメールへの返信、オフィス不在返信、メールバウンスが含まれます。以前は、追跡するように設定されたメールのみがエンゲージメント履歴に含まれていました。

従来のバージョンの Gmail 用 Inbox Chrome 拡張機能を 2021 年 3 月 31 日に廃止

従来のバージョンの Inbox Chrome 拡張機能にアクセスできる営業担当は、Gmail インテグレーションで Inbox 機能にアクセスできます。Gmail インテグレーションで、Inbox 機能は Inbox ライセンスによってロック解除されます。営業担当が従来の Inbox を使用している場合、すでにこのライセンスを所有しています。Inbox を備えた Gmail インテグレーションへの移行方法については、このまま読み進んでください。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる従来のバージョンの Salesforce Inbox に適用されます。

時期: 従来のバージョンの Gmail 用 Inbox Chrome 拡張機能は 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。2021 年 3 月 31 日を過ぎると、営業担当は従来の Chrome Inbox 拡張機能を使用して Salesforce に接続できなくなります。営業担当は従来の拡張機能を使用して Gmail 内からメールの記録、Salesforce レコード情報の確認、または「対応可能時間を挿入」などの Inbox の生産性機能の使用を行うことができません。モバイルでの Inbox は引き続きサポートされます。

理由: Inbox 機能は、信頼性の高い Salesforce Platform に基づいて構築されている Gmail インテグレーションに組み込まれています。Inbox 機能は、Inbox ライセンスを持っていてユーザが Inbox を使用するように設定されている場合にロック解除されます。このプラットフォームを使用することでセキュアでカスタマイズ可能なバージョンの Inbox が提供され、これによって今後の機能強化を導入可能になります。

方法: Gmail 内の Salesforce サイドパネルの上部にクラウドアイコンとプラスアイコンが含まれている場合、営業担当はすでに Gmail インテグレーションを実行しています。追加の作業は不要です。



Gmail のサイドパネルの上部に封筒アイコンが含まれている場合、営業担当は従来のバージョンの Inbox Chrome 拡張機能を実行しています。



Gmail インテグレーションに移行するには、簡単な Salesforce 設定プロセスを実行し、営業担当が Chrome Web ストアから入手できる Salesforce アプリケーションを使用していることを確認します。Inbox を備えた Gmail インテグレーションへの移行の案内については、Salesforce ヘルプを参照してください。

重要: 営業担当は、Chrome Web ストアから Salesforce 拡張機能をインストールする前に従来の Inbox 拡張機能を削除または無効化する必要があります。2 つの拡張機能を同時に有効化して実行することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 従来の Salesforce Inbox から Inbox を備えた Outlook または Gmail インテグレーションへの移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Inbox を備えた Gmail インテグレーションの操作のヒント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化

メールアドレスが複数の人レコードに一致する場合、営業担当には最初に一致した標準ユーザが表示され、続いて取引先責任者、リード、さらにコミュニティユーザなどのその他のユーザが表示されるようになりました。最も関連性の高い人レコードがデフォルトで選択されるため、コミュニティまたはパートナーユーザがある場合により合理化された環境が提供されます。たとえば、1 件のメールが取引先責任者とパートナーまたはコミュニティユーザに一致する場合、取引先責任者レコードが選択されます。以前は、ユーザ種別に関係なくすべてのユーザがグループ化され、最初にリストされていました。

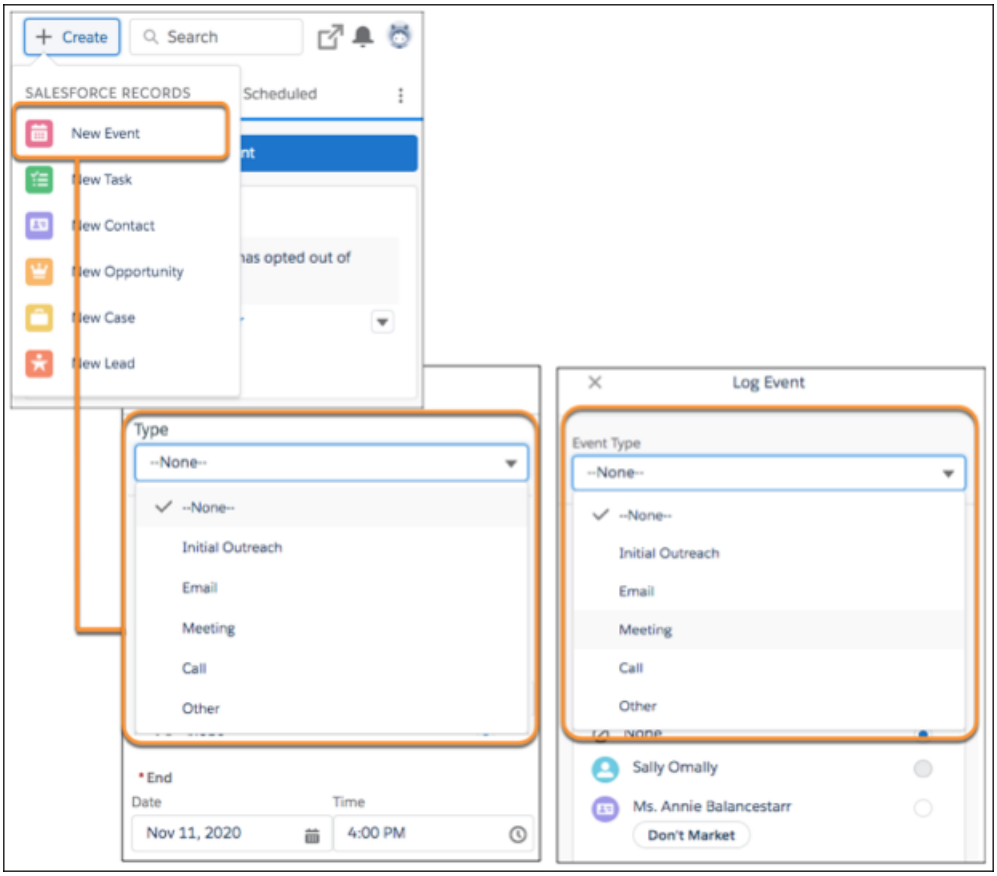
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Gmail インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング

一貫性を保つため、ユーザが Gmail インテグレーションからのイベントを記録する場合、イベント種別で使用できる選択内容が、クイックアクションメニューを使用してイベントを作成するときに使用できるオプションと一致するようになりました。イベント種別は、イベントオブジェクトのユーザのプロファイルから取得されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当が記録するイベントの種別を分類することを選択した場合、分類に使用できるオプションが、イベントを作成する場合と Gmail からイベントを取得する場合で一貫しています。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail から Salesforce へのメールとイベントのログ記録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

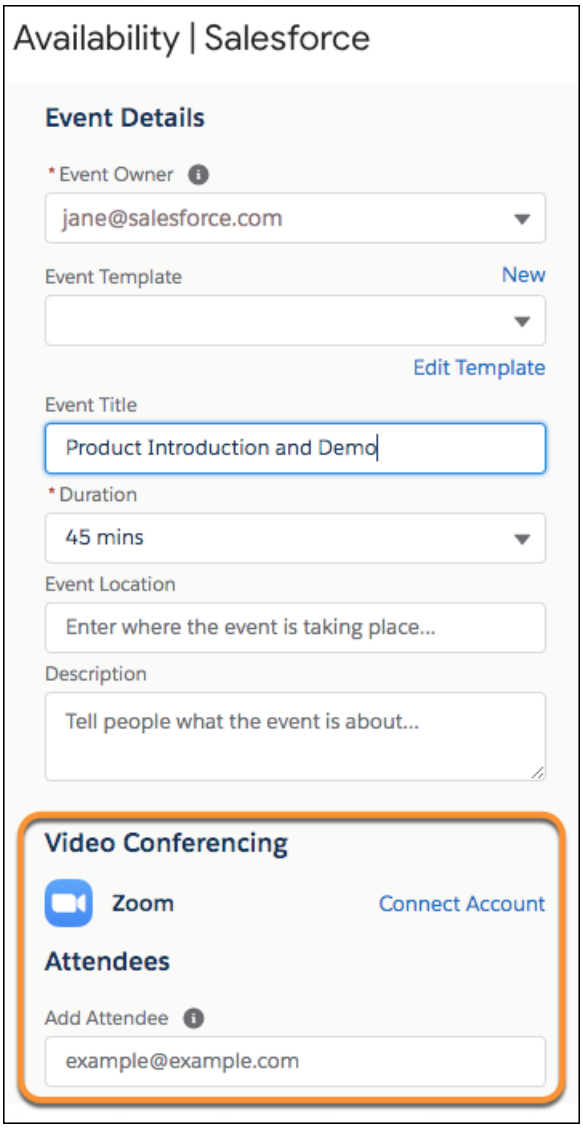
Inbox を備えた Gmail インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加

営業担当は、Inbox を備えた Gmail インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

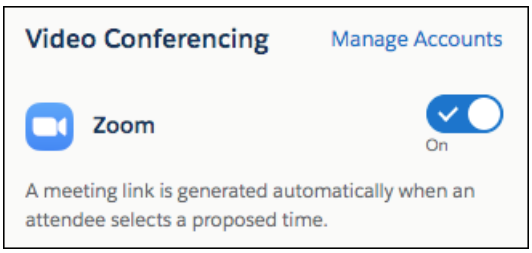
対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

時期: この機能は、Spring '21 リリースで後からリリースされます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「Zoom」* と入力し、**[Zoom Video Setup (Zoom ビデオ設定)]** を選択します。Zoom 設定を完了し、Zoom とのインテグレーションを有効にします。有効になると、[対応可能状況を挿入] 画面に Zoom オプションが含まれます。



営業担当が Gmail インテグレーションの [対応可能時間を挿入] 機能を初めて使用するときに、法人用の Zoom アカウントを接続します。接続すると、被招集者が提案された時間を選択したときに営業担当は自動的に生成されたイベント招待への Zoom ミーティングリンクを選択できます。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Zoom インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ: Inbox を備えた Outlook および Gmail インテグレーションでの [対応可能時間を挿入] を使用した行動のスケジュールに関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Insert Google Hangout or Zoom Link (Google ハングアウトまたは Zoom のリンクの挿入) *(部分的に実現)*

Inbox を備えた Gmail インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示

営業マネージャは、Gmail インテグレーションから送信するメールを通じて営業チームのパフォーマンスをより正確に把握できるようになりました。メール追跡を有効にしていなかったとしても、Inbox を備えた Gmail インテグレーションから送信されたすべてのメールがエンゲージメント履歴に含まれるようになりました。エンゲージメントイベントには、送信されたメールへの返信、オフィス不在返信、メールバウンスが含まれます。以前は、追跡するように設定されたメールのみがエンゲージメント履歴に含まれていました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: インテグレーションでのエンゲージメントおよびアラート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Google

Lightning Sync の機能強化はこれ以降導入されません。取引先責任者と行動の同期の新機能に興味がある方は、次世代の同期製品である Einstein 活動キャプチャを確認してください。

このセクションの内容:

- Google アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認

  Winter '21 より前に Salesforce を購入したお客様は引き続き Lightning Sync を使用できますが、Lightning Sync 製品の拡張機能はこれ以降導入されません。同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャを確認してください。

Google アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認

Winter '21 より前に Salesforce を購入したお客様は引き続き Lightning Sync を使用できますが、Lightning Sync 製品の拡張機能はこれ以降導入されません。同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャを確認してください。

対象: Lightning Sync と Einstein 活動キャプチャは、さまざまなエディションで利用できます。詳細は、リンクされたトピックを参照してください。

理由: 過去に Einstein 活動キャプチャを調べたことがある方は、Google ユーザ向けの Spring '21 の改善に特に高い関心を示されることでしょう。ユーザプロファイル別に Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを割り当てられるようになりました。詳細は、Einstein 活動キャプチャリリースノートを参照してください。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *ナレッジ記事*: Lightning Sync: Winter '21 の新規のお客様はご利用いただけません (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Microsoft® とのインテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Outlook アドインの従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションで使用できます。営業担当は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。Microsoft Office 365 の Lightning Sync ユーザの場合、2021 年に予定されている Microsoft による基本認証の廃止に備えてください。まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、2021 年から 2023 年の間に製品の廃止がユーザに及ぼす影響を確認してください。

このセクションの内容:

Outlook® インテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Outlook アドインの従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションで使用できます。営業担当には、異なる順序で並び替えられた関連ユーザレコードが表示されます。また、営業担当は、Inbox の「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange

Lightning Sync の機能強化はこれ以降導入されません。取引先責任者と行動の同期の新機能に興味がある方は、次世代の同期製品である Einstein 活動キャプチャを確認してください。また、Microsoft Office 365® を使用する既存の Lightning Sync ユーザは、設定を確認し、Microsoft 基本認証の廃止に備える必要があります。Microsoft が先日、Exchange Online の一部のお客様を対象に基本認証の廃止スケジュールを調整しました。

Salesforce for Outlook

まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、Summer '21 に開始して 2023 年 6 月に終了する段階的な廃止スケジュールについて確認してください。Salesforce Classic に対するアクセス権の最近の変更によって Salesforce for Outlook の接続がブロックされたお客様は、サービスを復元する方法をご確認ください。

Outlook® インテグレーション

メール追跡や「対応可能時間を挿入」などの Inbox 機能が含まれる Inbox Outlook アドインの従来のバージョンは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。Inbox 機能は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションで使用できます。営業担当には、異なる順序で並び替えられた関連ユーザレコードが表示されます。また、営業担当は、Inbox の「対応可能時間を挿入」機能を使用して生成されたミーティングに Zoom リンクを追加できます。

このセクションの内容:

古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了
従来のバージョンの Inbox Outlook アドインを 2021 年 3 月 31 日に廃止
Outlook インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化
Outlook インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング
Inbox を備えた Outlook インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加

古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了

Outlook 2013、Outlook 2016、および Outlook 2019 のボリュームライセンスバージョンでの Outlook インテグレーションの実行のサポートは 2021 年 12 月 31 日に終了します。2021 年末以降も Outlook インテグレーションの使用を継続するには、今すぐアップグレードの計画を立ててください。2021 年 12 月以降は、Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降が必要です。

従来のバージョンの Inbox Outlook アドインを 2021 年 3 月 31 日に廃止

従来のバージョンの Inbox Outlook アドインにアクセスできる営業担当は、Outlook インテグレーションの Inbox 機能にアクセスできます。Outlook インテグレーションで、Inbox 機能は Inbox ライセンスによってロック解除されます。営業担当が従来の Inbox を使用している場合、すでにこのライセンスを所有しています。Inbox を備えた Outlook インテグレーションへの移行方法については、このまま読み進んでください。

Outlook インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化

メールアドレスが複数の人レコードに一致する場合、営業担当には最初に一致した標準ユーザが表示され、続いて取引先責任者、リード、さらにコミュニティユーザなどのその他のユーザが表示されるようになりました。最も関連性の高い人レコードがデフォルトで選択されるため、コミュニティまたはパートナーユーザがある場合により合理化された環境が提供されます。たとえば、1 件のメールが取引先責任者とパートナーまたはコミュニティユーザに一致する場合、取引先責任者レコードが選択されます。以前は、ユーザ種別に関係なくすべてのユーザがグループ化され、最初にリストされていました。

Outlook インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング

一貫性を保つため、ユーザが Outlook インテグレーションからのイベントを記録する場合、イベント種別で使用できる選択内容が、クイックアクションメニューを使用してイベントを作成するときに使用できるオプションと一致するようになりました。イベント種別は、イベントオブジェクトのユーザのプロファイルから取得されます。

Inbox を備えた Outlook インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加

営業担当は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

Inbox を備えた Outlook インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示

営業マネージャは、Outlook インテグレーションから送信するメールを通じて営業チームのパフォーマンスをより正確に把握できるようになりました。メール追跡を有効にしていなかったとしても、Inbox を備えた Outlook インテグレーションから送信されたすべてのメールがエンゲージメント履歴に含まれるようになりました。エンゲージメントイベントには、送信されたメールへの返信、オフィス不在返信、メールバウンスが含まれます。以前は、追跡するように設定されたメールのみがエンゲージメント履歴に含まれていました。

古いバージョンの Outlook および Windows での Outlook インテグレーションのサポート終了

Outlook 2013、Outlook 2016、および Outlook 2019 のボリュームライセンスバージョンでの Outlook インテグレーションの実行のサポートは 2021 年 12 月 31 日に終了します。2021 年末以降も Outlook インテグレーションの使用を継続するには、今すぐアップグレードの計画を立ててください。2021 年 12 月以降は、Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降が必要です。

対象: この変更は、すべてのエディションの Outlook インテグレーション (旧称 Lightning for Outlook) に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Outlook 2013、Outlook 2016、またはボリュームライセンスされた Outlook 2019 を含む古い Outlook バージョンで Outlook インテグレーションを実行しているすべてのユーザに適用されます。

理由: 最新の Microsoft のセキュリティおよび製品の更新を利用できるように、常に Outlook および Windows の最新バージョンを実行することをお勧めします。さらに、Outlook インテグレーションは、Microsoft アドインフレームワークに基づいて構築されています。このフレームワークの元のバージョンでは、デスクトップバージョンの Outlook から Salesforce アドインを起動するために Internet Explorer 11 が使用されます。この要件は、Salesforce アドインだけではなく、このフレームに基づいて構築されたすべてのアドインに適用されていました。アドインフレームワークの最新バージョンでは、アドインを起動するために Microsoft Edge を使用します。Edge は最近のバージョンの Windows のネイティブブラウザです。Outlook インテグレーションは引き続き、最新テクノロジを使用するために最新のフレームワークバージョンに基づいて構築されます。

方法: 2021 年 12 月以降も引き続き Outlook インテグレーションを使用できるように、今すぐ Office バージョン 16.0.11629 以降、Windows 10 バージョン 1903 以降へのアップグレードを計画してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook インテグレーションのシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

従来のバージョンの Inbox Outlook アドインを 2021 年 3 月 31 日に廃止

従来のバージョンの Inbox Outlook アドインにアクセスできる営業担当は、Outlook インテグレーションの Inbox 機能にアクセスできます。Outlook インテグレーションで、Inbox 機能は Inbox ライセンスによってロック解除されます。営業担当が従来の Inbox を使用している場合、すでにこのライセンスを所有しています。Inbox を備えた Outlook インテグレーションへの移行方法については、このまま読み進んでください。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる従来のバージョンの Salesforce Inbox に適用されます。

時期: 従来のバージョンの Inbox Outlook アドインは 2021 年 3 月 31 日に廃止されます。2021 年 3 月 31 日を過ぎると、営業担当は従来の Outlook アドインを使用して Salesforce に接続できなくなります。営業担当は従来の拡張機能を使用して Outlook 内からメールの記録、Salesforce レコード情報の確認、または「対応可能時間を挿入」などの Inbox の生産性機能の使用を行うことができません。モバイルでの Inbox は引き続きサポートされます。

理由: Inbox 機能は、信頼性の高い Salesforce Platform に基づいて構築されている Outlook インテグレーションに組み込まれています。Inbox 機能は、Inbox ライセンスを持っていてユーザが Inbox を使用するように設定されている場合にロック解除されます。このプラットフォームを使用することでセキュアでカスタマイズ可能なバージョンの Inbox が提供され、これによって今後の機能強化を導入可能になります。

方法: Outlook 内の Salesforce サイドパネルの上部にクラウドアイコンとプラスアイコンが含まれている場合、営業担当はすでに Outlook インテグレーションを実行しています。追加の作業は不要です。



Outlook のサイドパネルの上部に封筒アイコンが含まれている場合、営業担当は従来のバージョンの Inbox Outlook アドインを実行しています。



Outlook インテグレーションに移行するには、簡単な Salesforce 設定プロセスを実行し、営業担当が AppSource ストアから入手できる Salesforce アプリケーションを使用していることを確認します。Inbox を備えた Outlook インテグレーションへの移行の案内については、Salesforce ヘルプを参照してください。

重要: 営業担当は、AppSource ストアから Salesforce 拡張機能をインストールする前に従来の Inbox 拡張機能を削除または無効化する必要があります。2 つの拡張機能を同時に有効化して実行することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 従来の Salesforce Inbox から Inbox を備えた Outlook または Gmail インテグレーションへの移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Tips for Working in the Outlook Integration with Inbox (Inbox を備えた Outlook インテグレーションの操作のヒント) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook インテグレーションでの改善された人の照合を使用したロギングの簡易化

メールアドレスが複数の人レコードに一致する場合、営業担当には最初に一致した標準ユーザが表示され、続いて取引先責任者、リード、さらにコミュニティユーザなどのその他のユーザが表示されるようになりました。最も関連性の高い人レコードがデフォルトで選択されるため、コミュニティまたはパートナーユーザがある場合により合理化された環境が提供されます。たとえば、1 件のメールが取引先責任者とパートナーまたはコミュニティユーザに一致する場合、取引先責任者レコードが選択されます。以前は、ユーザ種別に関係なくすべてのユーザがグループ化され、最初にリストされていました。

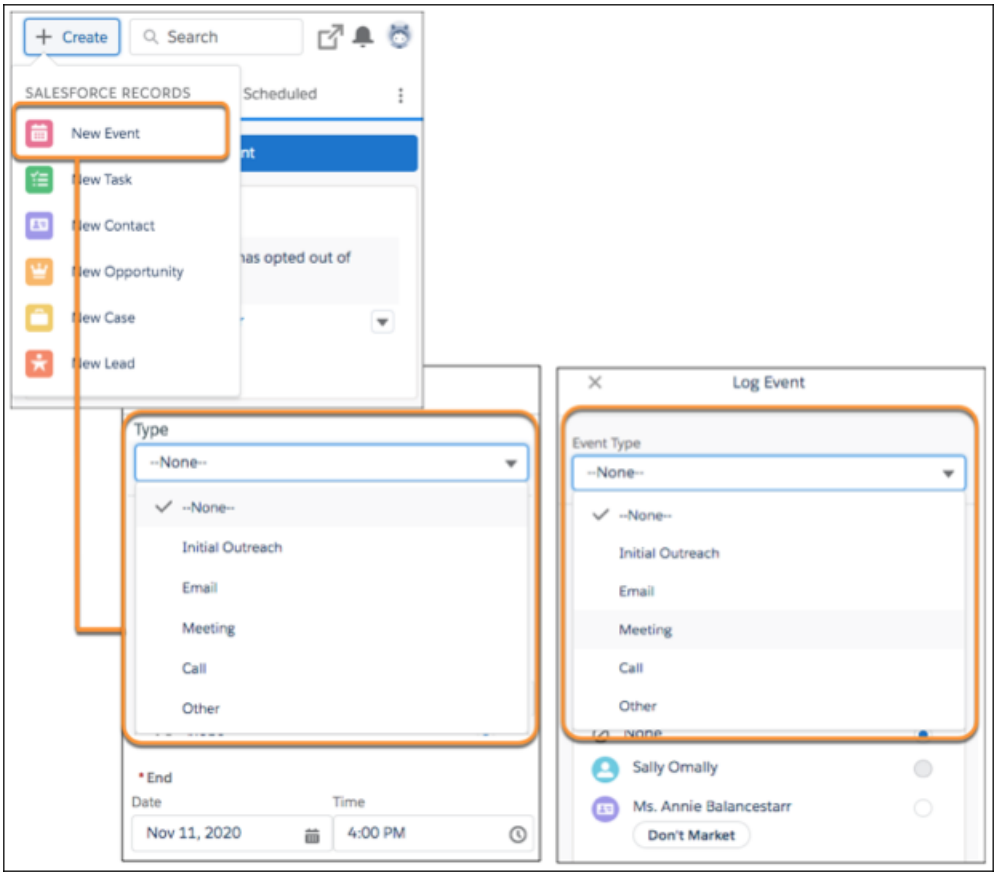
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Outlook インテグレーションからのイベントを記録するときに優先されるイベント種別選択リストのプロファイリング

一貫性を保つため、ユーザが Outlook インテグレーションからのイベントを記録する場合、イベント種別で使用できる選択内容が、クイックアクションメニューを使用してイベントを作成するときに使用できるオプションと一致するようになりました。イベント種別は、イベントオブジェクトのユーザのプロファイルから取得されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当が記録するイベントの種別を分類することを選択した場合、分類に使用できるオプションが、イベントを作成する場合と Outlook からイベントを取得する場合で一貫しています。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail から Salesforce へのメールとイベントのログ記録 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

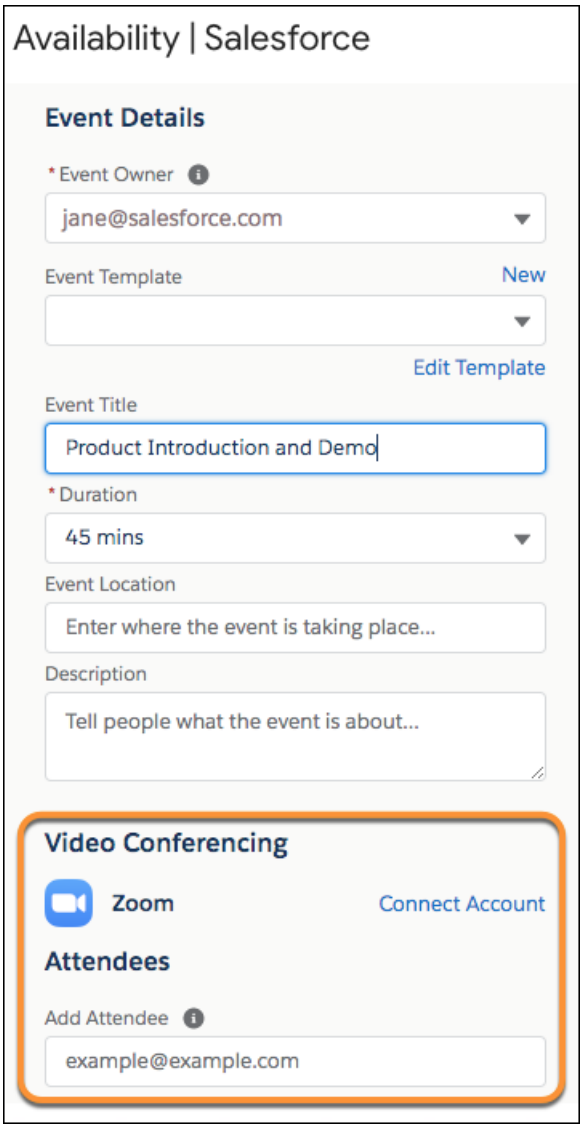
Inbox を備えた Outlook インテグレーションでの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成されたイベントへの Zoom ミーティングリンクの追加

営業担当は、Inbox を備えた Outlook インテグレーションの「対応可能時間を挿入」機能を使用して作成された招待に Zoom アカウントを接続し、自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるようになりました。自動的に Zoom ミーティングリンクを追加できるため、被招集者がイベント時間を選択した後に営業担当が手動でリンクを追加する必要はなくなりました。

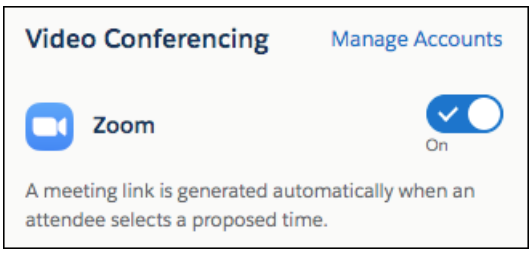
対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

時期: この機能は、Spring '21 リリースで後からリリースされます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Zoom*」と入力し、**[Zoom Video Setup (Zoom ビデオ設定)]** を選択します。Zoom 設定を完了し、Zoom とのインテグレーションを有効にします。有効になると、[対応可能状況を挿入] 画面に Zoom オプションが含まれます。



営業担当が Outlook インテグレーションの [対応可能時間を挿入] 機能を初めて使用するときに、法人用の Zoom アカウントを接続します。接続すると、被招集者が提案された時間を選択したときに営業担当は自動的に生成されたイベント招待への Zoom ミーティングリンクを選択できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Zoom インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Salesforce ヘルプ: Inbox を備えた Outlook および Gmail インテグレーションでの [対応可能時間を挿入] を使用した行動のスケジュールに関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Insert Google Hangout or Zoom Link (Google ハングアウトまたは Zoom のリンクの挿入) *(部分的に実現)*

Inbox を備えた Outlook インテグレーションから送信されたメールのより正確な表示

営業マネージャは、Outlook インテグレーションから送信するメールを通じて営業チームのパフォーマンスをより正確に把握できるようになりました。メール追跡を有効にしていなかったとしても、Inbox を備えた Outlook インテグレーションから送信されたすべてのメールがエンゲージメント履歴に含まれるようになりました。エンゲージメントイベントには、送信されたメールへの返信、オフィス不在返信、メールバウンスが含まれます。以前は、追跡するように設定されたメールのみがエンゲージメント履歴に含まれていました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: インテグレーションでのエンゲージメントおよびアラート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Microsoft® Exchange

Lightning Sync の機能強化はこれ以降導入されません。取引先責任者と行動の同期の新機能に興味がある方は、次世代の同期製品である Einstein 活動キャプチャを確認してください。また、Microsoft Office 365® を使用する既存の Lightning Sync ユーザは、設定を確認し、Microsoft 基本認証の廃止に備える必要があります。Microsoft が先日、Exchange Online の一部のお客様を対象に基本認証の廃止スケジュールを調整しました。

このセクションの内容:

Microsoft アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認

Winter '21 より前に Salesforce を購入したお客様は引き続き Lightning Sync を使用できますが、Lightning Sync 製品の拡張機能はこれ以降導入されません。同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャを確認してください。

一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定変更

Microsoft は 2020 年 10 月以降、Exchange Online (Office 365 の一部として提供) の基本認証をローリング方式で廃止しています。接続方法に Exchange Online とサービスアカウントを使用している場合は、同期の中断を回避するために、廃止スケジュールに関する Microsoft の最新のお知らせを確認してください。そして、IT プロフェッショナルと協力して Lightning Sync の接続方法を更新します。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討します。

Microsoft アプリケーションとの同期に関する最新情報の確認

Winter '21 より前に Salesforce を購入したお客様は引き続き Lightning Sync を使用できますが、Lightning Sync 製品の拡張機能はこれ以降導入されません。同期の最新情報に興味がある方は、Einstein 活動キャプチャを確認してください。

対象: Lightning Sync と Einstein 活動キャプチャは、さまざまなエディションで利用できます。詳細は、リンクされたトピックを参照してください。

理由: 過去に Einstein 活動キャプチャを調べたことがある方は、Microsoft ユーザ向けの Spring '21 の改善に特に高い関心を示されることでしょう。

- ユーザをより効率的に管理する。ユーザプロファイル別に Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを割り当てます。
- 2 つのアプリケーション間で項目を対応付ける方法を管理することで、Microsoft Exchange と Salesforce 間で取引先責任者と行動を同期する方法をより適切に制御する。

詳細は、Einstein 活動キャプチャリリースノートを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの機能(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

ナレッジ記事: Lightning Sync: Winter '21 の新規のお客様はご利用いただけません (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な設定変更

Microsoft は 2020 年 10 月以降、Exchange Online (Office 365 の一部として提供) の基本認証をローリング方式で廃止しています。接続方法に Exchange Online とサービスアカウントを使用している場合は、同期の中断を回避するために、廃止スケジュールに関する Microsoft の最新のお知らせを確認してください。そして、IT プロフェッショナルと協力して Lightning Sync の接続方法を更新します。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この廃止による影響を受けるユーザは次のとおりです。

- サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している、Exchange Online の既存の Lightning Sync ユーザ。
- 2020 年 10 月以降に作成された Microsoft テナントに移行する予定の、Exchange Online の既存の Lightning Sync ユーザ。新しい Microsoft テナントの Exchange Online では基本認証を使用できません。Lightning Sync を使用するには代替の認証サービスが必要です。
- Lightning Sync を初めて使用する Exchange Online ユーザは、製品を設定するための接続方法を選択する必要があります。Lighting Sync は可用性が限られているため、このシナリオの対象になるのは少数のユーザのみです。

次のユーザは影響を受けません。

- サービスアカウントの接続方法を使用して Salesforce に接続している、Exchange 2019®、Exchange 2016®、Exchange 2013® のオンプレミスサーバのユーザ。Microsoft はこれらのサーバについて、基本認証の廃止を発表していません。
- OAuth 2.0 の接続方法を使用して Salesforce に接続している、Office 365 のユーザ。

理由: 各自の Microsoft テナントにある Exchange Online の基本認証が Microsoft によってブロックされると、「対象ユーザ」セクションで説明されているユーザの取引先責任者と行動の同期が停止します。

方法: 同期の中断を回避するには、会社の Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して、廃止による影響の有無と廃止の時期を確認します。続いて、使用可能なソリューションを検討し、最適なものを選択します。「Microsoft Office 365 のユーザが使用できる Lightning Sync サービスアカウントの接続方法」を参照してください。

関連トピック:

外部リンク: Basic Authentication and Exchange Online (基本認証および Exchange Online – 2021 年 2 月の更新プログラム)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 接続方法特有のセキュリティ対策 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for Outlook

まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、Summer '21 に開始して 2023 年 6 月に終了する段階的な廃止スケジュールについて確認してください。Salesforce Classic に対するアクセス権の最近の変更によって Salesforce for Outlook の接続がブロックされたお客様は、サービスを復元する方法をご確認ください。

このセクションの内容:

Summer '21 ～ 2023 年 6 月に廃止される Salesforce for Outlook
Salesforce for Outlook サイドパネルのアクションメニューは、Summer '21 リリース以降は使用できません。Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2023 年 6 月にスケジュールされています。ただし、ご安心ください。次世代製品である Outlook インテグレーションおよび Einstein 活動キャプチャを使用して、引き続き Microsoft Outlook を Salesforce と統合できます。これらの製品は最新の機能を提供するだけでなく、最新バージョンの Outlook との互換性もあります。

サービスが中断された場合のアクセスの復元
Salesforce Classic アクセス権の変更により、Salesforce for Outlook ユーザのサービスが中断する可能性があります。Salesforce for Outlook サービスの中断を避ける方法や 2023 年に製品が完全に廃止されるまで過去のアクセス権を復元する方法を説明します。

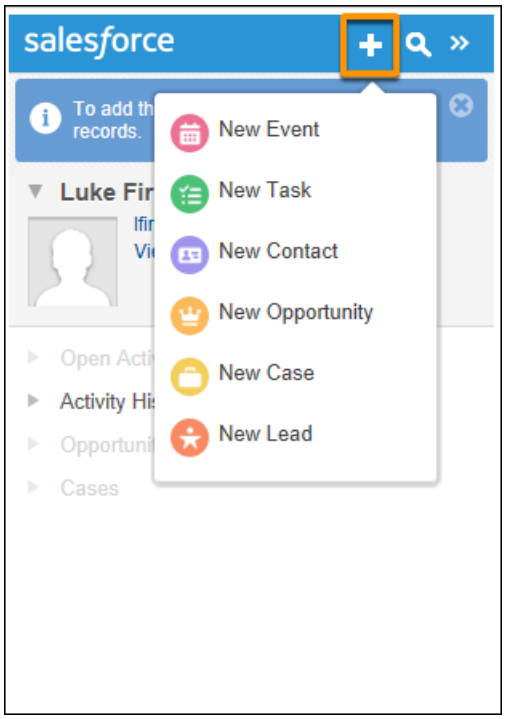
バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索
各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がありますか? Outlook/Teams、Gmail、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

Summer '21 ～ 2023 年 6 月に廃止される Salesforce for Outlook

Salesforce for Outlook サイドパネルのアクションメニューは、Summer '21 リリース以降は使用できません。Salesforce for Outlook の製品全体の廃止は 2023 年 6 月にスケジュールされています。ただし、ご安心ください。次世代製品である Outlook インテグレーションおよび Einstein 活動キャプチャを使用して、引き続き Microsoft Outlook を Salesforce と統合できます。これらの製品は最新の機能を提供するだけでなく、最新バージョンの Outlook との互換性もあります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: Summer '21 にサイドパネルのアクションメニューが廃止されると、新規レコードボタン ( ) はサイドパネルで使用できなくなります。その時点で、担当者は Salesforce for Outlook を使用して Outlook から Salesforce レコードを作成できなくなります。



残りの Salesforce for Outlook 機能は製品全体が廃止される 2023 年 6 月まで使用できます。アクションメニューおよび製品全体の廃止についての詳細は、「Salesforce for Outlook の廃止」を参照してください。

この間、引き続き次世代の Microsoft インテグレーション製品向けの新機能がリリースされます。Spring '21 の新機能については、Outlook インテグレーションおよび Einstein 活動キャプチャのリリースノートを確認してください。準備ができている場合は、すぐにでも移行することをお勧めします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce for Outlook から次世代製品への移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービスが中断された場合のアクセスの復元

Salesforce Classic アクセス権の変更により、Salesforce for Outlook ユーザのサービスが中断する可能性があります。Salesforce for Outlook サービスの中断を避ける方法や 2023 年に製品が完全に廃止されるまで過去のアクセス権を復元する方法を説明します。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 2016 年に Salesforce は IE11 での Lightning Experience のサポートを中止しました。Salesforce for Outlook は IE11 を利用して Microsoft Outlook® から Salesforce データを表示しているため、Salesforce Classic へのアクセスがブロックされると Salesforce for Outlook へのアクセスもブロックされます。

次の 2 つの状況では、既存のユーザの Salesforce for Outlook へのアクセスを意図せずブロックしてしまいます。

- Lightning Experience 移行アシスタントの [お客様の組織の環境を Lightning Experience に限定] 設定をオンにすることによって、Salesforce Classic へのアクセスを完全に無効にした場合。

- ユーザが Salesforce Classic と Lightning Experience を切り替えられるスイッチャに対するユーザのアクセス権を非表示にした場合。

方法: 2023 年の廃止まで Salesforce for Outlook の使用を継続する場合は、少なくとも現時点では Salesforce Classic へのアクセスを完全に無効にすることを避けます。ユーザの Salesforce Classic へのアクセスを減らすには、Salesforce for Outlook を使用しているユーザのみがスイッチャを使用できるようにして、その他のユーザにはスイッチャを非表示にすることをお勧めします。ユーザは Salesforce for Outlook にアクセスするために Salesforce Classic に戻す必要はありませんが、スイッチャが使用可能になっている必要があります。

あるいは、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャへの移行を検討してください。

アクセスを復元する方法などについての詳細は、「Salesforce for Outlook No Longer Connects for Some Customers Working from Lightning Experience (Salesforce for Outlook が一部の Lightning Experience ユーザと接続できなくなる)」を参照してください。

関連トピック:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Salesforce ヘルプ: デスクトップでの Outlook および Gmail インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索

各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がありますか? Outlook/Teams、Gmail、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Trailblazer Community: Salesforce for Outlook リリースノート

収益

Salesforce CPQ の改善には、よりスムーズな修正および更新サービスのアップグレード、バックグラウンドの契約修正、および価格ルール設定を正確にする変更が含まれます。Salesforce Billing で、請求有効期限の上書きを使用する場合に請求書品目が作成される方法を設定し、財務情報を顧客の会計および統合業務ソフト (ERP) システムに対応付けます。ライフサイクル管理される納入商品の長期的な価値を強調することもできます。スタンドアロンの注文の有効化と商品作成のロジックが改善されました。また、Advanced Approvals ユーザは、Salesforce にログインせずに承認を管理できます。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ
大規模な修正および更新サービスに切り替えると、契約の修正中に作業を続行できます。ユーザが価格ルールを正しく設定していることを確認してください。
Salesforce Billing
請求有効期限の上書きを使用する場合、Salesforce Billing により請求書品目が作成される方法を設定します。財務トランザクションおよび金融残高スナップショットの情報を顧客の会計および統合業務ソフト (ERP) システムに対応付けます。新しい項目は、ライフサイクル管理される納入商品の長期的な価値を強調し、スタンドアロンの注文の有効化と注文商品の作成が変更されました。
Advanced Approvals
Advanced Approvals ユーザは、Salesforce にログインせずに承認を管理できます。現在、Advanced Approvals パッケージから承認および却下 API が公開されています。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Spring '21 (Salesforce CPQ および Billing Spring '21 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ

大規模な修正および更新サービスに切り替えると、契約の修正中に作業を続行できます。ユーザが価格ルールを正しく設定していることを確認してください。

メモ: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

大規模な修正および更新サービスへのスムーズな切り替え
どの修正および更新サービスを使用しているかに関係なく、ユーザは修正および更新トランザクションを完了できるようになりました。以前は、契約の項目名が長い場合、従来の修正/更新サービスから Salesforce CPQ の大規模な修正および更新サービスに切り替えることはできませんでした。
契約の修正中に作業を続行
パッケージ設定で新しいオプションを選択すると、契約の修正の進行中にユーザが Salesforce で作業を続行できるようになりました。以前は、ユーザは契約の修正プロセスが完了するまで待つ必要がありました。この新しいオプションは、従来のサービスのオプションを選択解除し、代わりに Salesforce CPQ の大規模な修正および更新サービスを使用する場合に使用できます。
価格ルールページレイアウトに追加されたコンフィグレータ評価イベント項目
デフォルトで、価格ルールページレイアウトでコンフィグレータ評価イベント項目が含まれるようになりました。自動的に追加されるようにしたのは、手間を省き、ユーザが価格ルールの設定時に必須値を選択できるようにするためです。

大量の注文を短時間で契約

営業担当が注文を契約するときに、Salesforce CPQ で以前の 2 倍の品目を含む契約を作成できるようになりました。品目の数は、組織の設定によって異なります。

注文の作成に関する新しい権限

見積または商談から注文を作成するには、ユーザに見積および商談に対する「参照」アクセス権、注文に対する「作成」および「編集」アクセス権、注文商品に対する「削除」アクセス権が必要になりました。

契約の修正および更新に関する権限セット要件の追加

[従来の修正/更新サービスを使用] が選択解除されている場合、Salesforce CPQ 計算機能を認証したユーザには特定の権限が必要です。ない場合、ユーザは契約を修正または更新できません。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Spring '21 (Salesforce CPQ および Billing Spring '21 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

大規模な修正および更新サービスへのスムーズな切り替え

どの修正および更新サービスを使用しているかに関係なく、ユーザは修正および更新トランザクションを完了できるようになりました。以前は、契約の項目名が長い場合、従来の修正/更新サービスから Salesforce CPQ の大規模な修正および更新サービスに切り替えることはできませんでした。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

契約の修正中に作業を続行

パッケージ設定で新しいオプションを選択すると、契約の修正の進行中にユーザが Salesforce で作業を続行できるようになりました。以前は、ユーザは契約の修正プロセスが完了するまで待つ必要がありました。この新しいオプションは、従来のサービスのオプションを選択解除し、代わりに Salesforce CPQ の大規模な修正および更新サービスを使用する場合に使用できます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「インストール済みパッケージ」* と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。[サブスクリプションと更新] タブをクリックします。[従来の修正/更新サービスを使用] が選択されている場合、それを選択解除して、[バックグラウンドで契約を修正] を選択します。

関連トピック:

契約の修正および更新に関する権限セット要件の追加

価格ルールページレイアウトに追加されたコンフィグレータ評価イベント項目

デフォルトで、価格ルールページレイアウトでコンフィグレータ評価イベント項目が含まれるようになりました。自動的に追加されるようにしたのは、手間を省き、ユーザが価格ルールの設定時に必須値を選択できるようにするためです。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Salesforce Shield またはイベントモニタリングおよび Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: [価格ルール] タブから [新規] を選択して新しい価格ルールを作成します。これだけです。コンフィグレータ評価イベント項目は [新しい価格ルール] ダイアログに含まれています。

大量の注文を短時間で契約

営業担当が注文を契約するときに、Salesforce CPQ で以前の 2 倍の品目を含む契約を作成できるようになりました。品目の数は、組織の設定によって異なります。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

注文の作成に関する新しい権限

見積または商談から注文を作成するには、ユーザに見積および商談に対する「参照」アクセス権、注文に対する「作成」および「編集」アクセス権、注文商品に対する「削除」アクセス権が必要になりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ の Salesforce Lightning および Salesforce Classic に適用されます。

契約の修正および更新に関する権限セット要件の追加

[従来の修正/更新サービスを使用] が選択解除されている場合、Salesforce CPQ 計算機能を認証したユーザには特定の権限が必要です。ない場合、ユーザは契約を修正または更新できません。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: パッケージの設定時に、Salesforce CPQ 計算機能を認証したユーザに「Salesforce CPQ 管理者」権限セットを割り当てます。Salesforce CPQ 計算機能を認証したユーザを特定するには、ナレッジ記事「Salesforce CPQ Authorize New Calculation Service best practice (Salesforce CPQ の新しい計算サービスの認証に関するベストプラクティス)」を参照してください。

Salesforce Billing

請求有効期限の上書きを使用する場合、Salesforce Billing により請求書品目が作成される方法を設定します。財務トランザクションおよび金融残高スナップショットの情報を顧客の会計および統合業務ソフト (ERP) システムに対応付けます。新しい項目は、ライフサイクル管理される納入商品の長期的な価値を強調し、スタンドアロンの注文の有効化と注文商品の作成が変更されました。

このセクションの内容:

請求有効期限の上書きの使用時の部分期間の作成
請求有効期限の上書きの使用後、請求書品目の請求期間がどのように反映されるかを制御します。[請求有効期限の上書き] の値によって部分的な請求期間が作成されるときに、Salesforce が請求書品目を作成する方法を制御する請求ルール項目 [BTDO の期間処理] が追加されました。以前は、Salesforce Billing によって部分期間と残りの全期間を対象とする 1 つの請求書品目のみが作成されていました。

財務トランザクション用の新しい ERP 対応付け項目の使用
財務ユーザが財務トランザクションの総勘定元帳 (GL) および財務期間情報の追跡をより詳細に制御できるようにします。これにより、会計決算プロセスで簡単にトランザクションをダウンストリーム ERP システムに対応付けることができます。

ライフサイクル管理される各納入商品の長期的な価値の理解
新しい [ライフサイクル総額] 項目には、初回販売、修正、更新、その他の変更でのライフサイクル管理される納入商品の合計が表示されます。Spring '21 以降、ライフサイクル管理されるすべての納入商品でこの項目が入力されます。その他の納入商品では、これは null になります。項目レベルセキュリティを使用して項目をレイアウトに追加し、レポートで利用します。

スタンドアロンの注文の有効化のロジックの更新
Salesforce Billing によってスタンドアロンの注文とその子のスタンドアロンの注文商品が同時に有効化されるようになりました。以前は、スタンドアロンの注文を有効化したときに、Salesforce Billing ではその注文商品が有効化されませんでした。ユーザは自分で、または自動化によってスタンドアロンの注文商品を有効化する必要がありました。

スタンドアロンの注文商品の作成ロジックの更新
スタンドアロンの注文商品は、作成後に必要な編集量が減りました。スタンドアロンの注文を作成するときに、その子注文商品は商品の課金種別、請求サイクル、および請求種別を継承するようになりました。注文商品が商品消費スケジュールとレートを使用する商品に関連していた場合、その注文商品は注文商品消費スケジュールとレートも継承します。

使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー
Evergreen サブスクリプションを操作する営業担当の使用量価格設定の操作を改善します。営業担当は、有効な Evergreen サブスクリプション注文商品に使用量をいつでもアップロードできるようになりました。使用量の処理日が注文商品の未請求の有効な使用量サマリーのいずれにも該当しない場合、Salesforce Billing で使用量サマリーが作成され、その使用量サマリーに新しい使用量が割り当てられます。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions in Salesforce CPQ and Billing Spring '21 (Salesforce CPQ および Billing Spring '21 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

請求有効期限の上書きの使用時の部分期間の作成

請求有効期限の上書きの使用後、請求書品目の請求期間がどのように反映されるかを制御します。[請求有効期限の上書き] の値によって部分的な請求期間が作成されるときに、Salesforce が請求書品目を作成する方法を制御する請求ルール項目 [BTDO の期間処理] が追加されました。以前は、Salesforce Billing によって部分期間と残りの全期間を対象とする 1 つの請求書品目のみが作成されていました。

対象: この変更は、Salesforce Billing **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

理由: 以前は、注文商品で [請求有効期限の上書き] を設定した場合、Salesforce Billing **では [部分期間処理] 項目の値が無視され、**1 **つの請求書品目のみが生成されていました。また、按分の計算中に注文商品の請求日が無視されていました。たとえば、開始日が** 2020 **年** 5 **月** 20 **日、請求日が** 2020 **年** 7 **月** 28 **日の注文商品があるとします。標準の請求手順では、注文商品に** 3 **つの請求書品目が作成されます。**

請求書品目	開始日	終了日
1	05/20/20	05/27/20
2	05/28/20	06/27/20
3	06/28/20	07/27/20

請求する前に、[請求有効期限の上書き] に 2020 **年** 7 **月** 31 **日の値を追加したとします。**[BTDO **の期間処理] 項目に値がない場合、**Salesforce Billing **では** 1 **つの請求書品目のみ作成されるため、複数の請求期間を反映した請求書品目を作成できません。請求日も無視されるため、請求書品目の全体的な残高の計算に使用される期間は、異なって按分されます。これらの按分の差により、請求日が考慮されることを期待していたユーザには望ましくない残高になる可能性があります。**

請求書品目	開始日	終了日
1	05/20/20	07/31/20

ここで、[BTDO**の期間処理] の値により、**Salesforce**が部分的な期間の請求書品目を管理する方法を制御します。**

分割
部分的な期間と残りの全期間に別々の請求書品目を作成し、請求書品目の残高を計算するときに請求日を含めます。

統合
部分的な期間と残りの全期間を 1 **つの請求書品目に統合し、請求書品目の残高を計算するときに請求日を含めます。**

請求日を除外
部分的な期間と残りの全期間を 1 **つの請求書品目に統合し、請求書品目の残高を計算するときに請求日を無視します。この計算プロセスは、[請求有効期限の上書き] が設定されている注文で部分的な期間処理が無視されていた、以前のバージョンの** Salesforce Billing **と同様に動作します。**

[BTDO **の期間処理] の値が [分割] の場合、請求プロセスで** 4 **つの請求書品目が生成されます。請求日は開始日と異なるため、最初の請求書品目は部分的な期間を表します。請求有効期限の上書きにより、最終的な請求書品目も部分的な期間になります。**

表 1 **: BTDO の期間処理: 分割**

請求書品目	開始日	終了日
1	05/20/20	05/27/20
2	05/28/20	06/27/20

請求書品目	開始日	終了日
3	06/28/20	07/27/20
4	07/28/20	07/31/20

値が [統合] の場合、Salesforce Billing では [分割] と同じ期間が計算されますが、すべての期間が 1 つの請求書品目にラップされます。

表 2 : BTDO の期間処理: 統合

請求書品目	開始日	終了日
1	05/20/20	07/31/20

値が [請求日を除外] の場合、Salesforce Billing では 1 つの請求書品目が生成されますが、按分の計算中に請求日は無視されます。その結果、請求書品目の残高は、請求有効期限の上書き、開始日、および終了日によって異なります。この例では、残高は [統合] を使用した場合と同じになりますが、他の日付の組み合わせによっては異なる残高になる可能性があります。

表 3 : BTDO の期間処理: 請求日を除外

請求書品目	開始日	終了日
1	05/20/20	07/31/20

財務トランザクション用の新しい ERP 対応付け項目の使用

財務ユーザが財務トランザクションの総勘定元帳 (GL) および財務期間情報の追跡をより詳細に制御できるようにします。これにより、会計決算プロセスで簡単にトランザクションをダウンストリーム ERP システムに対応付けることができます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: これらの項目は財務トランザクションに追加されました。これらは、Salesforce Billing パッケージとは無関係の Salesforce 項目です。財務トランザクションの作成中に Salesforce によってこれらの項目に入力されます。各項目では、財務トランザクションが作成されたときの財務トランザクションに関連する会計エンティティの値を参照します。ユーザおよびプロセスはこれらを変更できません。

名前に「元の」が含まれる項目をユーザおよびプロセスが変更することはできませんが、必要に応じて、Billing パッケージ項目を更新できます。

- 元の貸方 GL 勘定名
- 元の貸方 GL 勘定番号
- 元の借方 GL 勘定名
- 元の借方 GL 勘定番号
- 元の財務期間名
- 元の財務期間開始日

- 元の財務期間終了日
- 元の財務期間状況
- 元の GL ルール名
- 元の GL 処理名
- 元の財務帳簿名

次の項目が財務トランザクションおよび財務残高スナップショットに追加されました。Billing パッケージ項目は (Billing パッケージのみ) で示されています。他のすべての項目は Salesforce の一部です。これらの項目を ERP 対応付けで使用して、財務トランザクションを記録するために使用する外部会計システムに関する詳細情報を提供できます。ユーザおよびプロセスは必要に応じてこれらを変更できます。

- GL ルール (Billing パッケージのみ)
- GL 処理 (Billing パッケージのみ)
- 貸方 GL 勘定 (Billing パッケージのみ)
- 借方 GL 勘定 (Billing パッケージのみ)
- 財務帳簿 (Billing パッケージのみ)
- 財務期間 (Billing パッケージのみ)
- 会計システムインテグレーションモード
- 会計システムインテグレーション状況
- 会計システム名
- 会計システムトランザクション番号

メモ: Salesforce Billing は、参照エンティティ種別が請求書、クレジットメモ、デビットメモ、支払、または返金である財務トランザクションの金融残高スナップショットを自動的に作成します。ただし、[財務]項目と[GL]項目の値は、トランザクションからスナップショットに転送されません。トリガまたはプロセスを使用して、財務および GL 情報をトランザクションからその子スナップショットにコピーすることをお勧めします。

関連トピック:

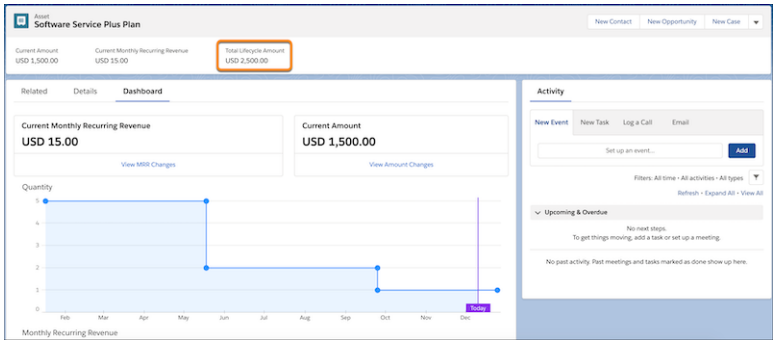
ナレッジ記事: ファイナンスログが組織にプロビジョニングされていることを確認するには (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ライフサイクル管理される各納入商品の長期的な価値の理解

新しい[ライフサイクル総額]項目には、初回販売、修正、更新、その他の変更でのライフサイクル管理される納入商品の合計が表示されます。Spring'21 以降、ライフサイクル管理されるすべての納入商品でこの項目が入力されます。その他の納入商品では、これは null になります。項目レベルセキュリティを使用して項目をレイアウトに追加し、レポートで利用します。

対象: この変更は、Salesforce Billing が付属する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: この項目は、ライフサイクル管理される納入商品に関する詳細を補完し、過去の変更と予測される変更を考慮した納入商品の価値を強調します。



スタンドアロンの注文の有効化のロジックの更新

Salesforce Billing によってスタンドアロンの注文とその子のスタンドアロンの注文商品が同時に有効化されるようになりました。以前は、スタンドアロンの注文を有効化したときに、Salesforce Billing ではその注文商品が有効化されませんでした。ユーザは自分で、または自動化によってスタンドアロンの注文商品を有効化する必要がありました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: スタンドアロンの注文を有効化すると、Salesforce Billing によってその注文の子のスタンドアロンの注文商品がすべて有効化されます。

重要: スタンドアロンの注文商品は、親の見積品目がない注文商品を参照します。親の見積品目を持つ子の注文商品があるスタンドアロンの注文を有効化した場合、これらは Salesforce Billing によって有効化されません。この場合、有効化されるのはスタンドアロンの注文とそのスタンドアロンの注文商品のみです。

スタンドアロンの注文商品の作成ロジックの更新

スタンドアロンの注文商品は、作成後に必要な編集量が減りました。スタンドアロンの注文を作成するときに、その子注文商品は商品の課金種別、請求サイクル、および請求種別を継承するようになりました。注文商品が商品消費スケジュールとレートを使用する商品に関連していた場合、その注文商品は注文商品消費スケジュールとレートも継承します。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー

Evergreen サブスクリプションを操作する営業担当の使用量価格設定の操作を改善します。営業担当は、有効な Evergreen サブスクリプション注文商品に使用量をいつでもアップロードできるようになりました。使用量の処理日が注文商品の未請求の有効な使用量サマリーのいずれにも該当しない場合、Salesforce Billing で使用量サマリーが作成され、その使用量サマリーに新しい使用量が割り当てられます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 以前は、営業担当が消費スケジュールに関連した Evergreen サブスクリプション商品を注文すると、Salesforce CPQ によって 12 件の使用量サマリーが含まれる注文商品が作成されました。最初の使用量サマリーは注文商品の開始日に開始され、各サマリーの長さは消費スケジュールの請求期間になりました。営業担当は、エバーグリーンサブスクリプションが有効な間は、追加の使用量サマリーを手動で作成しました。

方法: 新しい使用量サマリーは、注文商品の以前の使用量サマリーと同じ請求期間に従います。たとえば、注文商品の請求サイクルが月次、請求日が 1 日、請求期間が 2020 年 1 月 1 日～ 2020 年 12 月 31 日の場合、12 個の使用量サマリーが作成されました。各サマリーは月の初日に開始され、月の最終日に終了しました。営業担当が 2021 年 3 月 20 日の使用日で使用量をアップロードすると、Salesforce Billing は 2021 年 3 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの使用量サマリーを作成します。

メモ: 以前にこの更新の話題を目にした方もいるでしょう。この機能は Summer '20 で短い間利用できましたが、その能力を発揮できなかったため、この機能は削除されました。さらなる準備を経て、この機能にもう一度スポットライトをあてることができるようになりました。

Advanced Approvals

Advanced Approvals ユーザは、Salesforce にログインせずに承認を管理できます。現在、Advanced Approvals パッケージから承認および却下 API が公開されています。

対象: この変更は、Salesforce CPQ (Advanced Approvals 付属) の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 以前は、承認マネージャは Salesforce で Advanced Approvals パッケージにアクセスして、営業担当の承認要求を承認または却下していました。承認および却下 API を外部プラットフォームに実装できるようになったため、承認マネージャは承認プロセス中に Salesforce にアクセスする必要がなくなります。

方法: Advanced Approval API は、Salesforce の [Disable API (API を無効化)] 設定がオフになっている限り使用できます。この設定は、デフォルトでオフになっています。アクセスするには、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「*カスタム設定*」と入力して、[カスタム設定] を選択します。

Industries

前例のない新しい垂直型ソリューションの波があなたを待ち構えています。ロイヤルティ管理は、パーソナライズされた顧客評価プログラム、顧客報酬プログラム、顧客維持プログラムを実行するのに役立ちます。一括管理を使用すると、数百万ものレコードを処理し、追跡できます。決定テーブルでは、商品を評価して割引を計算する複数のビジネスルールを定義できます。新しいデータ処理エンジンで組織のデータを抽出し、変換して、変換したデータでレコードを作成します。Manufacturing Cloud では、販売計画と取引先販売予測の管理が容易になり、Rebate Management では、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムがサポートされます。一方、Health Cloud では、新しい API と電子健康カルテに対応する新しい FHIR に従ったサポートにより提供者の管理が容易になります。Financial Services Cloud では、ブランチのパフォーマンスを追跡し、外出中にライフイベントやビジネスマイルストーンを取得することができます。Consumer Goods Cloud では、店舗の訪問と配送がよりスマートになり、Public Sector Solutions では、カレンダーサポートが追加され、申込承認の透明性が向上します。緊急時対応管理では、更新されたフローが追加され、緊急時対応環境が改善されます。

このセクションの内容:

ロイヤルティ管理

Salesforce プラットフォーム上に構築されたエンドツーエンドソリューションであるロイヤルティ管理は、組織が顧客の評価、報酬、維持のために革新的なプログラムを設計および実装するのに役立ちます。パーソナライズしたロイヤルティプログラムを作成し、プログラムパートナーのオンボーディングを行い、プロモーションを実行することで、顧客エンゲージメントを促進し、投資収益率を向上することができます。ロイヤルティ管理の用途は幅広く、あらゆる業種の B2B と B2C のビジネスニーズに対応することができます (正式リリース)。

一括管理

一括管理を使用して、Salesforce 組織の数百万件のレコードを処理します。[ワークフローサービスを監視] (正式リリース) を使用して、一括管理ジョブの状況と健全性を追跡します。

決定テーブル

決定テーブルでは、ビジネスルールを読み取り、ビジネスシナリオの結果を提供します。たとえば、商品割引の複数のビジネスルールを定義し、ルールと対照して商品を評価する決定テーブルを作成して各商品の割引を計算できます。フローで決定テーブルを使用し、スケジュールに従って、または必要に応じて結果を取得します (正式リリース)。

Data Processing Engine

Salesforce 組織の標準オブジェクトとカスタムオブジェクトからデータを抽出し、ビジネス要件に基づいて変換します。次に、変換されたデータでレコードを作成、更新、または更新/挿入します (正式リリース)。

Manufacturing Cloud

新機能と機能強化を使用して販売計画を簡単に管理します。新しい Connect API リソースを使用して、見積と商談を簡単に追跡できる販売計画に直接変換します。売上予測で商談スケジュールを考慮するオプションを使用して、取引先販売予測をより適切に管理します。変更された要件に対応するために既存の販売計画を削除します。

払い戻し管理

払い戻し管理を使用して、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムを実行します。透明性があり相互に利益のあるインセンティブを通じて、長期的なチャネルリレーションを構築します。リベートプログラムを作成し、払い戻しの種別、対象資格ルール、およびしきい値を含む給付構造を指定します。パートナーと協力してコンテキスト内の支払を計算して、期間の終了時にまたは任意のタイミングで支払情報を分析します。払い戻し支払は、選択された頻度で、必要な詳細を使用して処理されます。製造業 Experience Cloud テンプレートを使用して、サイトを作成し、パートナーとのコラボレーションを行います。Einstein Analytics for Rebates を使用して、払い戻しに関するアクション可能なインサイトを取得します (正式リリース)。

Health Cloud

Health Cloud では、患者と提供者のデータを管理するための優れた方法が提供されます。提供者レコードの作成が容易になり、電子健康カルテに対応する新しい FHIR に従ったデータモデルが構築されました。インテリジェントなドキュメント管理がより柔軟になり、使いやすくなりました。また、インテリジェントなセールスでは、外科施設への訪問からより多くのことをユーザが取得するのに役立つカレンダーが追加されました。

Financial Services Cloud

新しいブランチ管理機能を使用してブランチのパフォーマンスと生産性を追跡します。外出中にライフイベントおよびビジネスマイルストンを取得し、保険契約コンポーネントの表示オプションをより詳細に制御します。Actionable Relationship Center (ARC) で一目で確認できる情報が増加し、準拠データ共有参加者と設定可能な関連リストセットが含まれるようになりました。参加者グループと、所有者以外の参加者の共有を使用して準拠データ共有を拡張します。新しいインタラクション概要機能を使用して、法規制に準拠する方法で、顧客またはパートナーとのインタラクションに関する構造化されたメモを作成して関係者と共有します。インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルのデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型プロセスを高速化します。改善されたコードと高パフォーマンスの RBL フレームワークを使用して、レコードの積み上げ集計計算とルックアップによる積み上げ集計 (RBL) 計算を最適化します。

Consumer Goods Cloud

Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用して、営業担当は店舗訪問中に適切な活動を実行できます。営業担当の車両ユーザ割り当てを作成して、店舗配送を合理化します。営業担当が最も効率的な順序で訪問 ToDo を実行できるように、活動の順序を事前定義します。小売店の強化により、営業マネージャが小売店レコードをより迅速に作成できるようにします。さらに、訪問の実行と店舗直送の機能強化により、店舗訪問中の営業担当の効率を高めます。

Public Sector Solutions

Salesforce カレンダーに訪問を追加し、コンプライアンス担当者が訪問をスケジュールするときに検査担当者の対応可能状況をすばやく簡単に確認できるようにします。検査管理モバイルアプリケーションの新機能により、全体的な検査エクスペリエンスが向上します。また、公共セクタポータルの機能強化により、プロセスの効率が向上し、アプリケーション承認プロセス全体の完全な透明性が確保されます。

緊急時対応管理

フローが更新されたため、緊急時対応管理の環境がよりスムーズなものになります。

Industries 用のコミュニティユーザライセンスの詳細

Experience Cloud ユーザと共有できるオブジェクトが詳しく説明された新しいヘルプページを作成しました。この新しいリソースを使用して、持っているライセンスに応じて Experience Cloud サイトの実装計画を立てることができます。

ロイヤルティ管理

Salesforce プラットフォーム上に構築されたエンドツーエンドソリューションであるロイヤルティ管理は、組織が顧客の評価、報酬、維持のために革新的なプログラムを設計および実装するのに役立ちます。パーソナライズしたロイヤルティプログラムを作成し、プログラムパートナーのオンボーディングを行い、プロモーションを実行することで、顧客エンゲージメントを促進し、投資収益率を向上することができます。ロイヤルティ管理の用途は幅広く、あらゆる業種の B2B と B2C のビジネスニーズに対応することができます (正式リリース)。

このセクションの内容:

ロイヤルティプログラムを使用した独自のロイヤルティエクスペリエンスの構築

ロイヤルティビルディングブロックの統合セットから独自のロイヤルティプログラムをカスタマイズしたり、組み立てたりします。ロイヤルティプログラムを作成してから、階層、プログラム通貨、利点、パートナー、バウチャー、プロモーションを追加します。メンバーの活動と行動を追跡します。ロイヤルティのポイントまたはバウチャーを使用して、メンバーに報奨を与えて、メンバーを評価します。

プロモーションによるビジネス目標の促進

価値のあるプロモーションを対象メンバーに提供することで、商品の売上を増加します。魅力的なオファーを使用して、メンバーのエンゲージメントを促進し、投資収益率を向上させます。標準プロモーションを使用して、メンバーに利点をすぐに提供します。累積プロモーションを使用して、メンバーの長期行動(参加頻度や支出など)に基づいてメンバーに報奨を与えます。新規顧客を獲得したり、既存の顧客を引き付けるために、バウチャーやロイヤルティポイントを提供します。

ロイヤルティプログラムパートナーを使用したメンバーのエンゲージメントの向上

ロイヤルティ管理では、業種横断型プログラムパートナーのオンボーディングおよび管理を促進することでメンバーのエンゲージメントを高めることができます。パートナーシップにより、メンバーと関与するためのより多くの機会が提供され、メンバーはポイントを獲得したり、補完商品またはサービスにポイントを交換したりできます。

経験に基づくバウチャーを使用したメンバーへの報奨の付与

経験に基づくバウチャーを使用して、売上貢献度の高い顧客に高く評価されていると実感してもらい、エンゲージメントの維持を図ります。取引またはプロモーションの一環として、または上位階層へのアップグレードのために、メンバーにバウチャーを提供します。バウチャーには、関連付けられた商品またはサービスに基づいて、固定された金額、割引率、または無料の商品やサービスを含めることができます。

ロイヤルティの利点を使用した顧客満足度の向上

ロイヤルティプログラムから特典や特権を提供してメンバーに喜んでいただきます。顧客のエンゲージメントが向上した場合は、ロイヤルプログラムで報奨を付与し、購入意欲を刺激します。経験に基づく利点を Salesforce エコシステム内で設定するか、この利点を他のシステムに転送することで、つながりのあるカスタマーエクスペリエンスを作成します。

ロイヤルティメンバーポータルを使用したメンバーによる活動の追跡

ロイヤルティメンバーポータルを使用してロイヤルティメンバーがプログラムでの自分の進行状況を追跡できるようにすることで、ロイヤルティメンバーのエンゲージメントを維持します。システム管理者は数回クリックするだけでロイヤルティメンバーポータルを設定できます。プログラムメンバーはこのポータルでプロファイルの詳細、最近の取引、ポイント残数、現在の階層を参照できます。

Analytics for Loyalty

ロイヤルティプログラムを分析し、メンバーエンゲージメントの促進、メンバーの満足度の維持、および収益の増加を実現するための戦略を立てます。Einstein Discovery for Loyalty Analytics アプリケーションを使用して、ロイヤルティプログラムのメンバーのエンゲージメントを向上させるために役立つ予測インサイトを取得します。

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクト

新しいロイヤルティ管理オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型を使用します。

Apex: 新しい項目

次のメソッドおよびクラスが新規追加されました。

Connect REST API

Loyalty Management の REST API に新しいコールが含まれます。

ロイヤルティ管理の新しい呼び出し可能なアクション

ロイヤルティ管理の新しい呼び出し可能アクションを使用します。

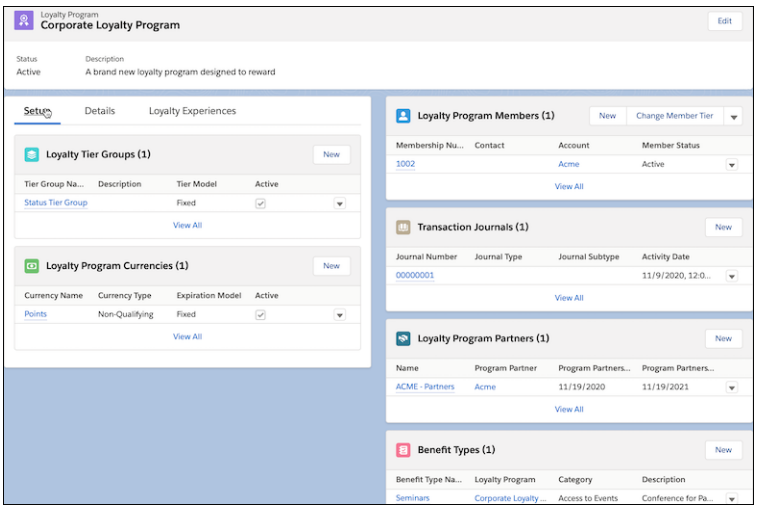
ロイヤルティプログラムを使用した独自のロイヤルティエクスペリエンスの構築

ロイヤルティビルディングブロックの統合セットから独自のロイヤルティプログラムをカスタマイズしたり、組み立てたりします。ロイヤルティプログラムを作成してから、階層、プログラム通貨、利点、パートナー、バウチャー、プロモーションを追加します。メンバーの活動と行動を追跡します。ロイヤルティのポイントまたはバウチャーを使用して、メンバーに報奨を与えて、メンバーを評価します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから [ロイヤルティ管理] を開きます。ロイヤルティプログラムを作成するには、[ロイヤルティプログラム] タブで [新規] をクリックします。





プロモーションによるビジネス目標の促進

価値のあるプロモーションを対象メンバーに提供することで、商品の売上を増加します。魅力的なオファーを使用して、メンバーのエンゲージメントを促進し、投資収益率を向上させます。標準プロモーションを使用して、メンバーに利点をすぐに提供します。累積プロモーションを使用して、メンバーの長期行動 (参加頻度や支出など) に基づいてメンバーに報奨を与えます。新規顧客を獲得したり、既存の顧客を引き付けるために、バウチャーやロイヤルティポイントを提供します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

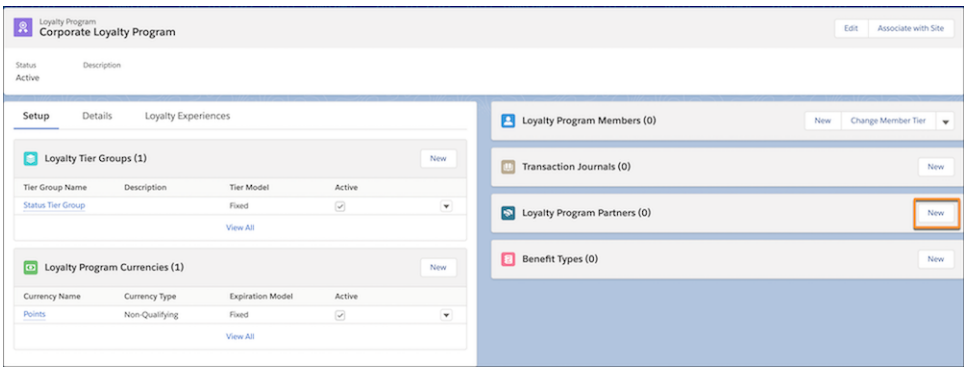
方法: Customer 360 Audiences または Salesforce レポートのデータ区分を使用してキャンペーンメンバーを特定します。ロイヤルティプログラム内でプロモーションを作成し、顧客セグメントに対応付けて、Marketing Cloud で実行します。Marketing Cloud Connect を使用して、必要に応じてロイヤルティプロモーションを Marketing Cloud に送信します。

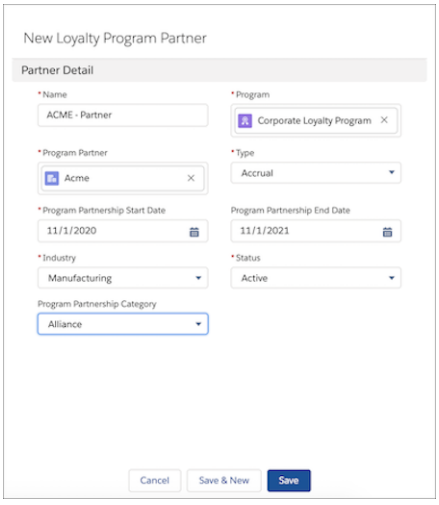
ロイヤルティプログラムパートナーを使用したメンバーのエンゲージメントの向上

ロイヤルティ管理では、業種横断型プログラムパートナーのオンボーディングおよび管理を促進することでメンバーのエンゲージメントを高めることができます。パートナーシップにより、メンバーと関与するためのより多くの機会が提供され、メンバーはポイントを獲得したり、補完商品またはサービスにポイントを交換したりできます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ロイヤルティ管理から、[ロイヤルティプログラム] を選択します。ロイヤルティプログラムパートナーを作成するには、[設定] タブの [ロイヤルティプログラムパートナー] で [新規] をクリックします。



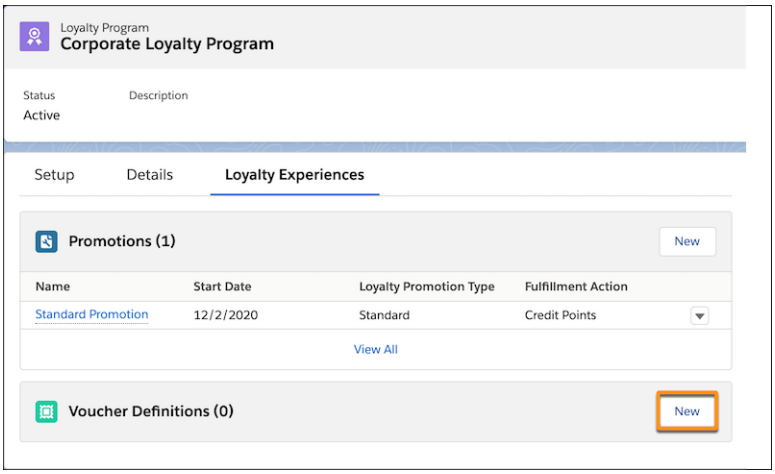


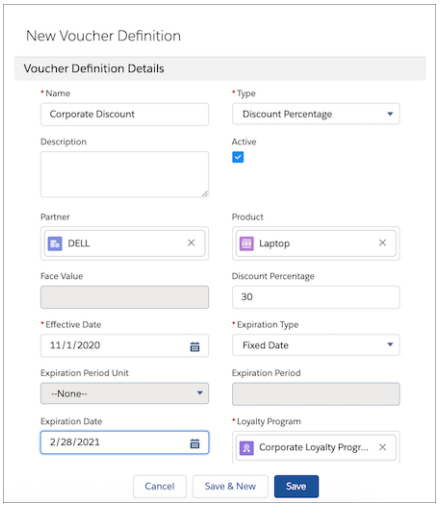
経験に基づくバウチャーを使用したメンバーへの報奨の付与

経験に基づくバウチャーを使用して、売上貢献度の高い顧客に高く評価されていると実感してもらい、エンゲージメントの維持を図ります。取引またはプロモーションの一環として、または上位階層へのアップグレードのために、メンバーにバウチャーを提供します。バウチャーには、関連付けられた商品またはサービスに基づいて、固定された金額、割引率、または無料の商品やサービスを含めることができます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ロイヤルティ管理から、[ロイヤルティプログラム] を選択します。バウチャー定義を作成するには、[ロイヤルティエクスペリエンス] タブの [バウチャー定義] で [新規] をクリックします。



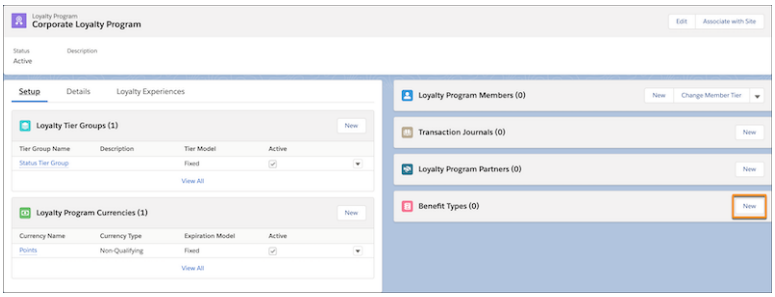


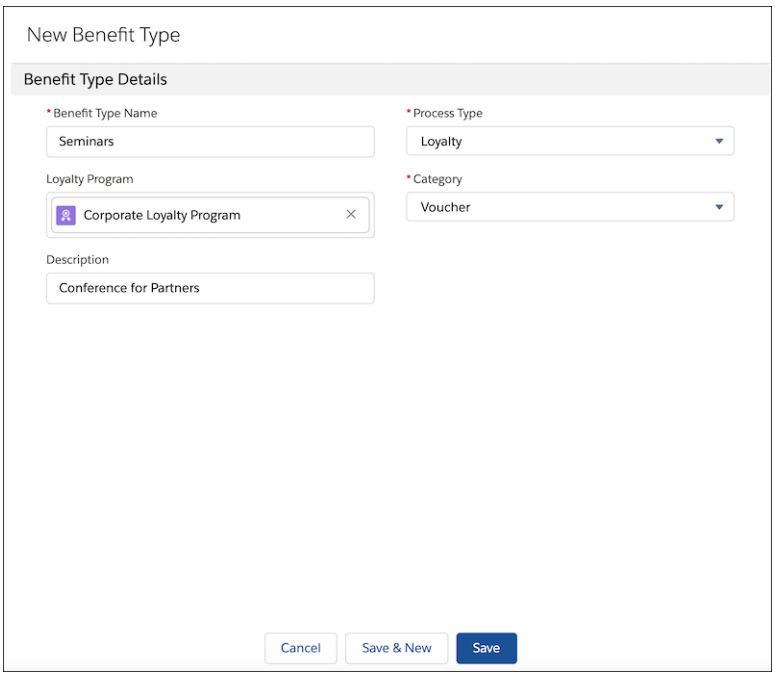
ロイヤルティの利点を使用した顧客満足度の向上

ロイヤルティプログラムから特典や特権を提供してメンバーに喜んでいただきます。顧客のエンゲージメントが向上した場合は、ロイヤルプログラムで報奨を付与し、購入意欲を刺激します。経験に基づく利点を Salesforce エコシステム内で設定するか、この利点を他のシステムに転送することで、つながりのあるカスタマーエクスペリエンスを作成します。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法:ロイヤルティ管理から、[ロイヤルティプログラム]を選択します。利点種別を作成するには、[設定]タブの [利点種別] で [新規] をクリックします。





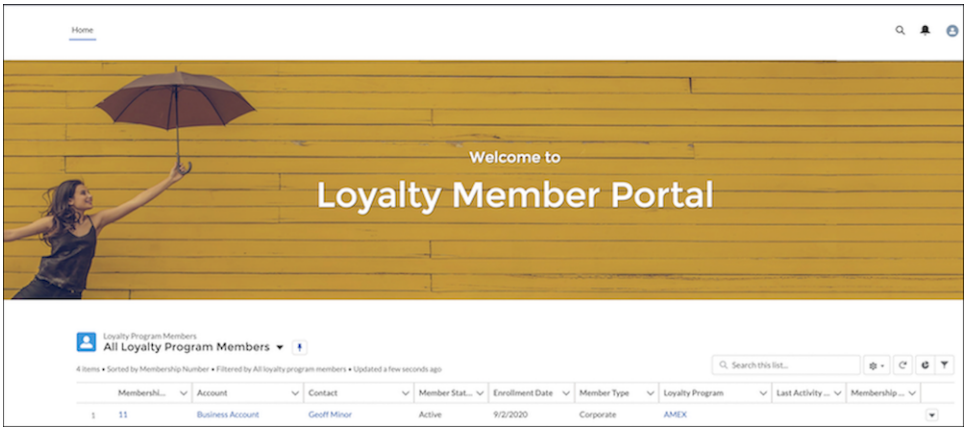
ロイヤルティメンバーポータルを使用したメンバーによる活動の追跡

ロイヤルティメンバーポータルを使用してロイヤルティメンバーがプログラムでの自分の進行状況を追跡できるようにすることで、ロイヤルティメンバーのエンゲージメントを維持します。システム管理者は数回クリックするだけでロイヤルティメンバーポータルを設定できます。プログラムメンバーはこのポータルでプロファイルの詳細、最近の取引、ポイント残数、現在の階層を参照できます。

対象: この機能は、 Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: この機能は、ロイヤルティ管理ライセンスを持つ Experience Cloud **サイトのシステム管理者とユーザが使用できます。**

方法:ロイヤルティメンバーポータルテンプレートを使用して、システム管理者は機能が充実したロイヤルティメンバーポータルを設定し、会社の要件に基づいてポータルをカスタマイズできます。



メモ: Connect API を使用してロイヤルティ管理をサードパーティアプリケーションと統合することで、同様のロイヤルティメンバーポータルを設定できます。

Analytics for Loyalty

ロイヤルティプログラムを分析し、メンバーエンゲージメントの促進、メンバーの満足度の維持、および収益の増加を実現するための戦略を立てます。Einstein Discovery for Loyalty Analytics アプリケーションを使用して、ロイヤルティプログラムのメンバーのエンゲージメントを向上させるために役立つ予測インサイトを取得します。

このセクションの内容:

顧客ロイヤルティを分析してビジネスを成長させる

Analytics for Loyalty アプリケーションのダッシュボードでは、ロイヤルティプログラムについてのインサイトが提供されるため、プログラムマネージャはメンバー増加、顧客維持、プロセス改善のための戦略を立てることができます。また、ロイヤルティプログラムメンバーページにダッシュボードを埋め込んで、メンバーの価値、エンゲージメント、および好みのほか、メンバーに提供されるサポートについてのインサイトをすぐに得ることもできます。

Einstein Discovery for Loyalty でメンバーエンゲージメントの向上

Einstein Discovery for Loyalty Analytics アプリケーションを使用して、メンバーのエンゲージメントスコアを参照し、エンゲージメントに影響している要因を特定し、エンゲージメントを向上させる戦略を立てます。

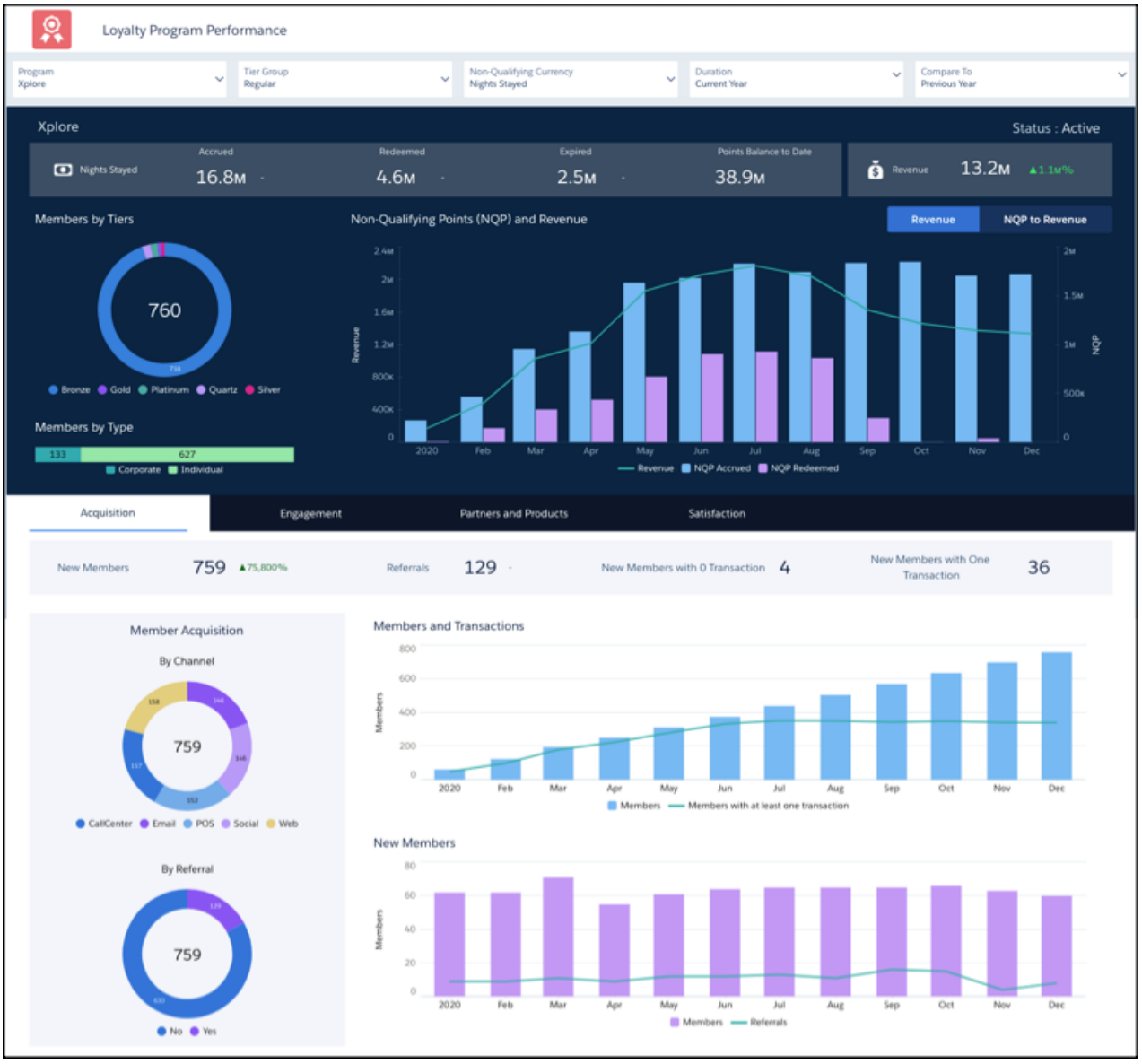
顧客ロイヤルティを分析してビジネスを成長させる

Analytics for Loyalty アプリケーションのダッシュボードでは、ロイヤルティプログラムについてのインサイトが提供されるため、プログラムマネージャはメンバー増加、顧客維持、プロセス改善のための戦略を立てることができます。また、ロイヤルティプログラムメンバーページにダッシュボードを埋め込んで、メンバーの価値、エンゲージメント、および好みのほか、メンバーに提供されるサポートについてのインサイトをすぐに得ることもできます。

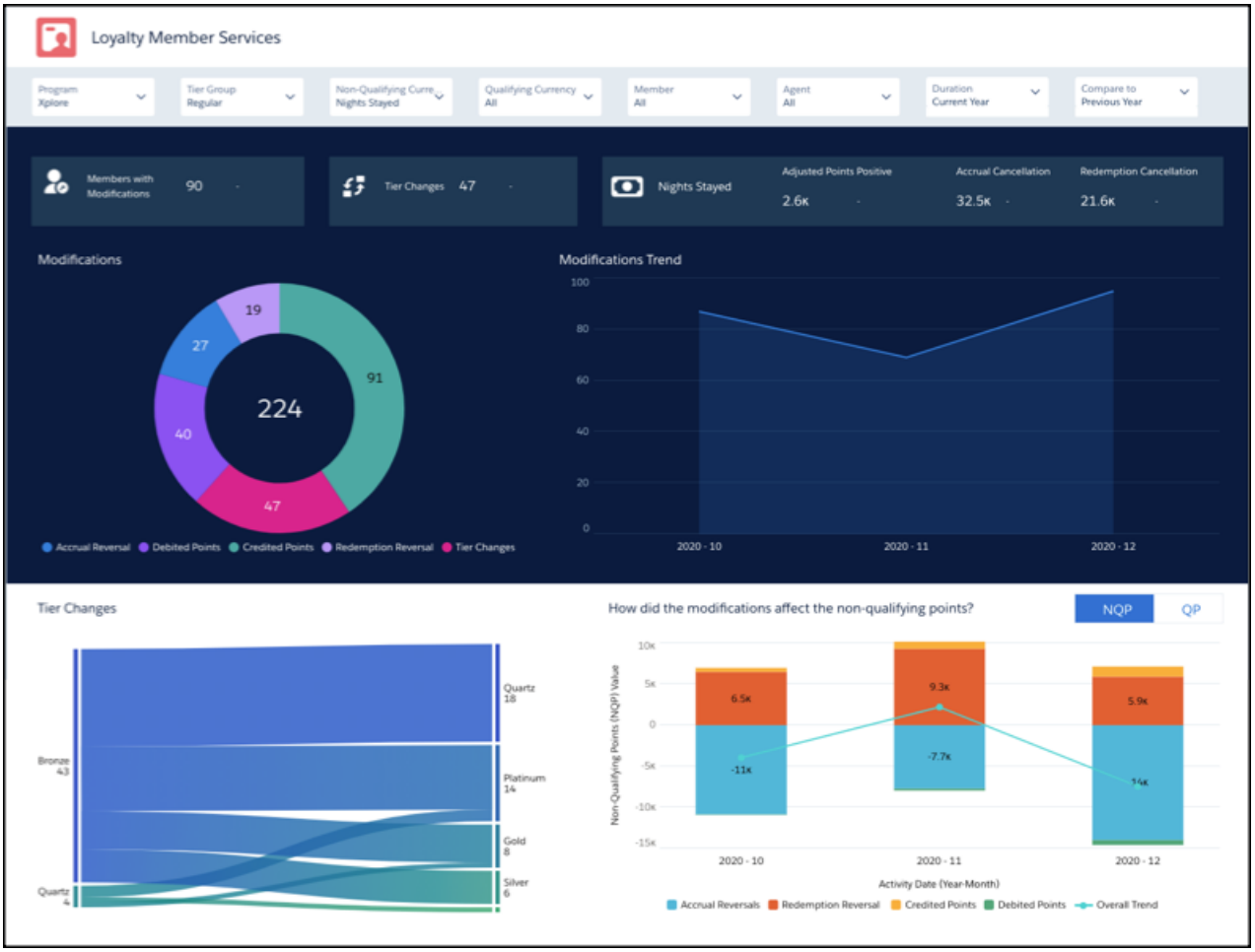
対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Loyalty テンプレートからアプリケーションを作成するには、Loyalty Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

理由: [ロイヤルティプログラムパフォーマンス] ダッシュボードを使用して、メンバーの獲得、エンゲージメント、満足度、パートナー、および商品に基づいてプログラムを分析します。



[ロイヤルティメンバーサービス] ダッシュボードでは、ロイヤルティメンバーに提供するサポートの種別に関するアクション可能なインサイトが提供されます。



方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Analytics for Loyalty]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

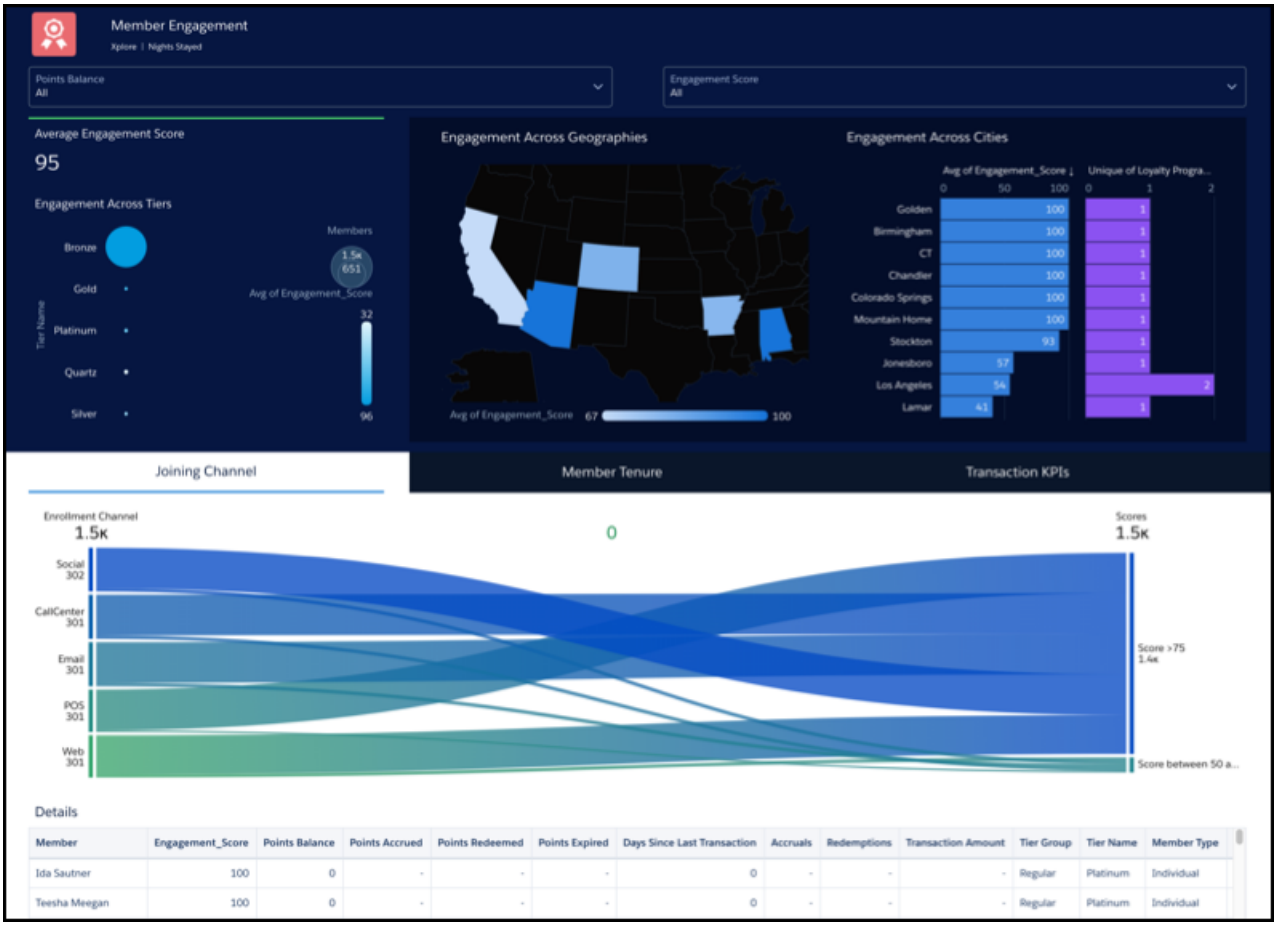
Einstein Discovery for Loyalty でメンバーエンゲージメントの向上

Einstein Discovery for Loyalty Analytics アプリケーションを使用して、メンバーのエンゲージメントスコアを参照し、エンゲージメントに影響している要因を特定し、エンゲージメントを向上させる戦略を立てます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Einstein Discovery for Loyalty Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Loyalty Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

理由: Einstein Discovery for Loyalty Analytics アプリケーションは、デモグラフィック、登録チャネル、取引、メンバーシップ期間などの要素に基づいて、メンバーエンゲージメントを予測します。



方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Einstein Discovery for Loyalty Analytics]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

ロイヤルティ管理の新しいオブジェクト

新しいロイヤルティ管理オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

対象: この変更は、ロイヤルティ管理が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

すべての利点を表示する
: 新しい `Benefit` オブジェクトを使用します。

利点に対して自動的にトリガされるアクションを表示する
: 新しい `BenefitAction` オブジェクトを使用します。

利点の種別を表示する
: 新しい `BenefitType` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムのメンバーによって行われた各取引の情報を表示する
: 新しい `LoyaltyLedger` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティメンバー階層をロイヤルティプログラム通貨に関連付ける
: 新しい `LoyaltyMemberCurrency` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーをロイヤルティ階層に関連付ける
新しい `LoyaltyMemberTier` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティパートナーが提供する商品と商品カテゴリを表示する
新しい `LoyaltyPartnerProduct` オブジェクトを使用します。

組織のロイヤルティプロセスを表示する
新しい `LoyaltyProgram` オブジェクトを使用します。

プログラムの通貨を表示する
新しい `LoyaltyProgramCurrency` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーが利用したプロモーションを表示する
新しい `LoyaltyProgramMbrPromotion` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーの情報を表示する
新しい `LoyaltyProgramMember` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムに関連付けられているパートナーを表示する
新しい `LoyaltyProgramPartner` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムの階層を表示する
新しい `LoyaltyTier` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティの利点を階層に関連付ける
新しい `LoyaltyTierBenefit` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムの階層グループを表示する
新しい `LoyaltyTierGroup` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーに提供される利点を表示する
新しい `MemberBenefit` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムを Experience Cloud サイトに関連付ける
新しい `NetworkReferencedObject` オブジェクトを使用します。

仕訳の作成に使用できる理由を表示する
新しい `JournalReason` オブジェクトを使用します。

取引サブ種別を表示する
新しい `JournalSubType` オブジェクトを使用します。

取引種別を表示する
新しい `JournalType` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムに関連付けられているプロモーションを表示する
新しい `Promotion` オブジェクトを使用します。

プロモーションをロイヤルティパートナーの商品に関連付ける
新しい `PromotionLoyaltyPtnrProdt` オブジェクトを使用します。

プロモーションを市場区分に関連付ける
新しい `PromotionMarketSegment` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムの取引を表示する
新しい `TransactionJournal` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムメンバーに発行されているバウチャーを表示する
新しい `Voucher` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティプログラムに関連付けられているバウチャーを表示する
新しい `VoucherDefinition` オブジェクトを使用します。

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型

ロイヤルティ管理の新しいメタデータ型を使用します。

呼び出し可能アクションを使用する
Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプ項目の actionType に、ロイヤルティプログラムの新しい列挙値が追加されました。

- `adjustPoints` — 指定したプログラムメンバーまたは仕訳取引のロイヤルティポイントを調整します。
- `assignTierBenefits` — 利点アクションに関連付けられた利点に対するメンバーの階層に基づいて、ロイヤルティプログラムメンバーに利点を割り当てます。
- `cancelAccrual` — 特定の獲得取引セットをキャンセルします。
- `creditPoints` — 指定したプログラムメンバーの残数にロイヤルティポイントをクレジット処理します。
- `cancelRedemption` — 特定の受け取り取引セットを取り消します。
- `changeTier` — 指定したプログラムメンバーの階層を変更します。
- `changeTierWhenNoErrors` — すべての入力パラメータが条件を満たした場合にのみ指定したロイヤルティプログラムメンバーの階層を変更します。
- `debitPoints` — 指定したプログラムメンバーの残数からロイヤルティポイントをデビット処理します。
- `executeMemberBenefit` — ロイヤルティプログラムメンバーに割り当てられている利点に関連付けられた利点アクションを処理します。
- `getTier` — 指定したプログラムメンバーの現在の階層を取得します。
- `getPointsBalance` — 指定したプログラムメンバーのロイヤルティポイント残数を取得します。
- `issueVoucher` — メンバーまたは契約のバウチャーを発行します。

Apex: 新しい項目

次のメソッドおよびクラスが新規追加されました。

ConnectApi 名前空間

ConnectApi 名前空間には次の新しいメソッドおよびクラスがあります。

メソッド

この新しいメソッドは、`ConnectApi.LoyaltyConnect` クラスに含まれます。

メンバーの利点を取得する
`getMemberBenefits(memberId)`

この新しいメソッドは、`ConnectApi.LoyaltyVoucherConnect` クラスに含まれます。

メンバーのバウチャーを受け取る
`redeem(programName, membershipNumber, voucherCode)`

出力クラス

次の出力クラスが新規追加されました。

`ConnectApi.MemberBenefitsOutput`
この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `memberBenefits` — メンバーが利用できるすべての利点のリスト。

`ConnectApi.MemberBenefitOutput`
この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `benefitId` — メンバーが利用できる利点の ID。
- `benefitName` — メンバーが利用できる利点の名前。
- `benefitTypeId` — 関連付けられた利点種別レコードの ID。
- `benefitTypeName` — 関連付けられた利点種別の名前。
- `createdRecordId` — 利点の割り当て時に作成されたレコードの ID。
- `createdRecordName` — 利点の割り当て時に作成されたレコードの表示名。
- `isActive` — 利点が有効かどうかを示します。

Connect REST API

Loyalty Management の REST API に新しいコールが含まれます。

ロイヤルティ管理

ロイヤルティの利点を取得する
新規 `/services/data/vXX.X/connect/loyalty/member/***${memberId}***/memberbenefits` リソースに対して GET 要求を実行し、ロイヤルティプログラムメンバーが利用できるロイヤルティの利点のリストを取得します。

バウチャーコードを受け取る
新規 `/services/data/vXX.X/connect/loyalty/programs/***${programName}***/members/***${membershipNumber}***/vouchers/***{voucherCode}***/redeem` リソースに対して POST 要求を実行し、ロイヤルティプログラムメンバーのバウチャーコードを受け取ります。

ロイヤルティ管理の新しい呼び出し可能なアクション

ロイヤルティ管理の新しい呼び出し可能アクションを使用します。

ロイヤルティポイントを調整する
新しい `adjustPoints` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーまたは仕訳取引のロイヤルティポイントを調整します。

メンバー階層の利点を割り当てる
新しい `assignTierBenefits` 標準アクションを使用して、利点アクションに関連付けられた利点に対するメンバーの階層に基づいて、ロイヤルティプログラムメンバーに利点を割り当てます。

獲得取引をキャンセルする
新しい `cancelAccrual` 標準アクションを使用して、特定の獲得取引セットをキャンセルします。

ロイヤルティポイントをクレジット処理する
新しい `creditPoints` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーの残数にロイヤルティポイントをクレジット処理します。

メンバー階層を変更する
新しい `changeTier` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーの階層を変更します。

入力パラメータが条件を満たした場合にメンバー階層を変更する
新しい `changeTierWhenNoErrors` 標準アクションを使用して、すべての入力パラメータが条件を満たした場合にのみ指定したロイヤルティプログラムメンバーの階層を変更します。

ロイヤルティポイントをデビット処理する
新しい `debitPoints` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーの残数からロイヤルティポイントをデビット処理します。

ロイヤルティポイント残数を取得する
新しい `getPointsBalance` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーのロイヤルティポイント残数を取得します。

メンバー階層を取得する
新しい `getTier` 標準アクションを使用して、指定したプログラムメンバーの現在の階層を取得します。

バウチャーを発行する
新しい `issueVoucher` 標準アクションを使用して、メンバーまたは契約のバウチャーを発行します。

メンバーの利点を処理する
新しい `executeMemberBenefit` 標準アクションを使用して、ロイヤルティプログラムメンバーに割り当てられている利点に関連付けられた利点アクションを処理します。

受け取り取引を取り消す
新しい `cancelRedemption` 標準アクションを使用して、特定の受け取り取引セットを取り消します。

一括管理

一括管理を使用して、Salesforce組織の数百万件のレコードを処理します。[ワークフローサービスを監視](正式リリース)を使用して、一括管理ジョブの状況と健全性を追跡します。

このセクションの内容:

大量のレコードを処理するためのジョブの定義
一括管理ジョブを作成して、フローの大量のデータを処理します。一括管理ジョブは、管理可能なバッチでデータを処理します。一括管理ジョブを使用して、複数のオブジェクトにまたがる複雑なビジネスプロセスの実行を自動化します。一括管理ジョブは、スケジュール済みフローを使用してスケジュールされます。

ジョブのスケジュール
スケジュール済みフローを使用して、一括管理ジョブを実行するタイミングや頻度を決定します。組織のライセンスに基づいて、作成したジョブや、Salesforce 組織で使用できるジョブをスケジュールできます。スケジュール済みフローを使用して、複数の一括管理ジョブを同時に実行できます。

一括処理ジョブの監視
一括管理ジョブの実行の状況と健全性を監視します。ジョブが実行されるたびに、[ワークフローサービスを監視]に新しいレコードが作成されます。完全な一括管理ジョブの実行やその一括処理ジョブの各部分を追跡できます。また、一括処理ジョブで処理できなかったレコードのリストを表示することもできます。

一括管理ジョブの共有
一括管理ジョブは、変更セット、管理パッケージ、未管理パッケージを使用して、他の Salesforce 組織と共有できます。変更セットやパッケージを使用して、ジョブを Salesforce の本番組織に移行したり、コラボレータと共有したりします。

一括管理の新しいオブジェクト
新しい一括管理オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

一括管理の新しい Tooling API オブジェクト
Tooling API を使用して、一括管理の設定オブジェクトを操作します。

一括管理の新しいプラットフォームイベント
プラットフォームイベントを使用して、フローの一括管理ジョブの実行が完了したときに登録ユーザに通知します。

一括管理の新しい呼び出し可能なアクション
呼び出し可能なアクションを使用して一括管理ジョブを実行します。

一括管理の新しいメタデータ型
一括管理に新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

[ワークフローサービスを監視] の新しいオブジェクト
[ワークフローサービスを監視] オブジェクトを使用して、一括管理ジョブの状況と進行状況を表示できるようになりました。

大量のレコードを処理するためのジョブの定義

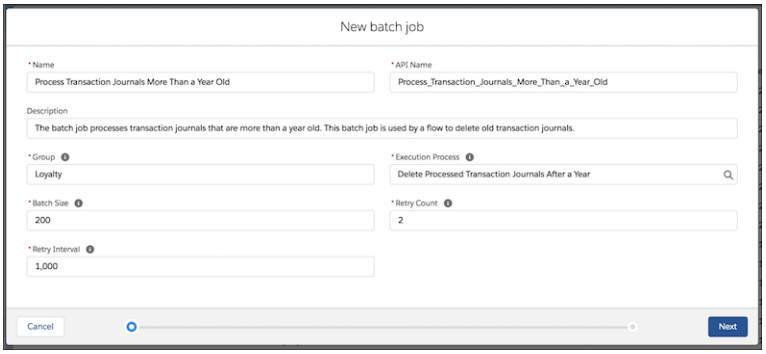
一括管理ジョブを作成して、フローの大量のデータを処理します。一括管理ジョブは、管理可能なバッチでデータを処理します。一括管理ジョブを使用して、複数のオブジェクトにまたがる複雑なビジネスプロセスの実行を自動化します。一括管理ジョブは、スケジュール済みフローを使用してスケジュールされます。

対象: この変更は払い戻し管理およびロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者プロファイルを持つユーザは、一括管理ジョブを作成できます。

理由: フローでは、1 日最大 250,000 件のレコードを処理できます。一括処理ジョブを使用すると、プラットフォームの制限を超えずに管理可能なバッチで 250,000 件を超えるレコードを処理できます。1 つのフローで複数の一括処理ジョブを同時にスケジュールして、同じビジネスプロセスに含まれる複数のオブジェクトのレコードを処理できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*一括管理*」と入力し、[一括管理] を選択します。[新規] をクリックします。一括管理ジョブを定義し、一括管理ジョブで処理するビジネスフローを選択します。[次へ] をクリックします。各レコードを一意に識別するフロー入力変数を選択します。レコードを処理するオブジェクトと検索条件を選択します。[保存] をクリックして、[有効化] をクリックします。



関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide*: Batch Management Metadata API (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide*: Batch Management Metadata API (払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

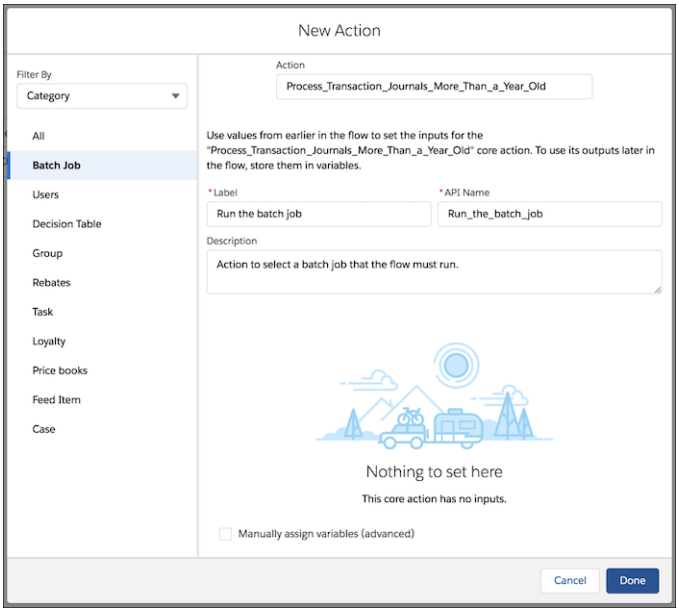
ジョブのスケジュール

スケジュール済みフローを使用して、一括管理ジョブを実行するタイミングや頻度を決定します。組織のライセンスに基づいて、作成したジョブや、Salesforce 組織で使用できるジョブをスケジュールできます。スケジュール済みフローを使用して、複数の一括管理ジョブを同時に実行できます。

対象: この変更は払い戻し管理およびロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 「フローの管理」権限を持つユーザは、フローで一括管理ジョブを実行できます。

方法: スケジュール済みフローで、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[カテゴリ] を [一括処理ジョブ] として選択します。有効な一括処理ジョブを検索して選択します。



関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Batch Management Invocable Actions (**ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理の呼び出し可能なアクション**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Rebate Management Developer Guide: Batch Management Invocable Actions (**払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理の呼び出し可能なアクション**) (**ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ** API) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

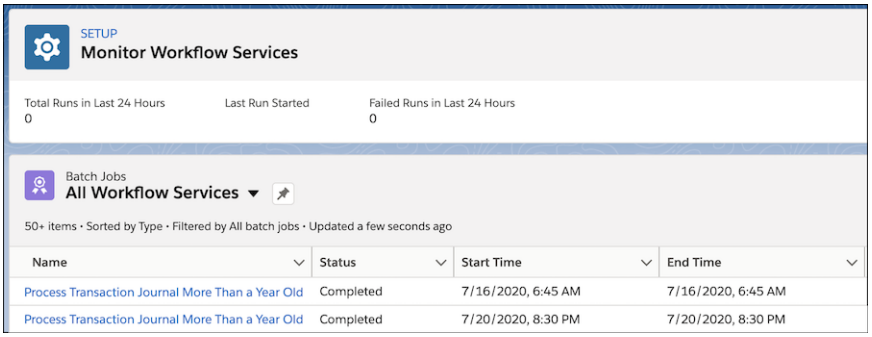
一括処理ジョブの監視

一括管理ジョブの実行の状況と健全性を監視します。ジョブが実行されるたびに、[ワークフローサービスを監視] に新しいレコードが作成されます。完全な一括管理ジョブの実行やその一括処理ジョブの各部分を追跡できます。また、一括処理ジョブで処理できなかったレコードのリストを表示することもできます。

対象: この変更は払い戻し管理およびロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者プロファイルを持つユーザは、[ワークフローサービスを監視] を使用して一括管理ジョブを監視できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*ワークフローサービスを監視*」と入力し、[ワークフローサービスを監視] を選択します。一括管理ジョブの実行の詳細を表示するには、そのレコードをクリックします。



一括管理ジョブの共有

一括管理ジョブは、変更セット、管理パッケージ、未管理パッケージを使用して、他のSalesforce組織と共有できます。変更セットやパッケージを使用して、ジョブをSalesforceの本番組織に移行したり、コラボレータと共有したりします。

対象: この変更は払い戻し管理およびロイヤルティ管理が有効になっているEnterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Editionの Lightning Experience に適用されます。

一括管理の新しいオブジェクト

新しい一括管理オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

特定の業種のライセンスに基づいて、一括管理ジョブ (Salesforce 組織で使用できるジョブを含む) を表示する

新しい `BatchProcessJobDefinitionView` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Batch Management Standard Objects (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理の標準オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: Batch Management Standard Objects (払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理の標準オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括管理の新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、一括管理の設定オブジェクトを操作します。

一括管理ジョブの詳細を表示する

新しい `BatchProcessJobDefinition` オブジェクトを使用します。

一括管理ジョブを表示する

新しい `BatchJobDefinition` オブジェクトを使用します。Data Processing Engine もこのオブジェクトを使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Batch Management Setup Objects (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理の設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: Batch Management Setup Objects (払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理の設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括管理の新しいプラットフォームイベント

プラットフォームイベントを使用して、フローの一括管理ジョブの実行が完了したときに登録ユーザに通知します。

フローの一括管理ジョブの実行が完了したときに通知を受信する

新しい `BatchJobStatusChangedEvent` に登録して、リアルタイムに通知を受信します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: BatchJobStatusChangedEvent Object (ロイヤルティ管理開発者ガイド: BatchJobStatusChangedEvent オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: BatchJobStatusChangedEvent Object (払い戻し管理開発者ガイド: BatchJobStatusChangedEvent オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括管理の新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して一括管理ジョブを実行します。

一括管理ジョブを実行する

新しい `batchJobAction` カスタムアクションを使用して、一括処理ジョブを作成してデータを処理します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Batch Management Invocable Actions (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理の呼び出し可能なアクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: Batch Management Invocable Actions (払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理の呼び出し可能なアクション) (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括管理の新しいメタデータ型

一括管理に新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

データを処理するための一括管理ジョブを定義する
新しい `BatchProcessJobDefinition` メタデータ型を使用します。

フローで一括管理ジョブアクションを使用する
Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプ項目の actionType で新しい `batchJobAction` 列挙値を使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Batch Management Metadata API (ロイヤルティ管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: Batch Management Metadata API (払い戻し管理開発者ガイド: 一括管理メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[ワークフローサービスを監視] の新しいオブジェクト

[ワークフローサービスを監視]オブジェクトを使用して、一括管理ジョブの状況と進行状況を表示できるようになりました。

一括管理ジョブの実行を表示する
新しい `BatchJob` オブジェクトを使用します。

一括管理ジョブの各部分を表示する
新しい `BatchJobPart` オブジェクトを使用します。

一括管理ジョブの実行の各部分で処理されなかったレコードを表示する
新しい `BatchDataPartFailedRecord` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Monitor Workflow Services (ロイヤルティ管理開発者ガイド: ワークフローサービスの監視) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide: Monitor Workflow Services (払い戻し管理開発者ガイド: ワークフローサービスの監視) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

決定テーブル

決定テーブルでは、ビジネスルールを読み取り、ビジネスシナリオの結果を提供します。たとえば、商品割引の複数のビジネスルールを定義し、ルールと対照して商品を評価する決定テーブルを作成して各商品の割引を計算できます。フローで決定テーブルを使用し、スケジュールに従って、または必要に応じて結果を取得します (正式リリース)。

このセクションの内容:

ビジネスルールの定義

ビジネス上の意思決定のガイドとなるビジネスルールを作成します。決定テーブルでビジネスルールを参照するには、ルールを標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、またはカスタムメタデータ型として作成します。

ルールの指定と残りの自動化

ソリューションを迅速に見つけるための意思決定を自動化します。いくつかの簡単な選択を行い、決定テーブルでレコードを処理し、ルールを評価して、結果を提供できるようにします。ルール、入力項目、出力項目が含まれるオブジェクトまたはカスタムメタデータ型を選択します。決定テーブルでは、最大10万件のビジネスルールを読み込んで結果を提供できます。

複数の取得元からのレコードの結果の決定

一連のビジネスルールを組織の複数の領域に適用できます。決定テーブルでデータセットリンクを使用し、評価するオブジェクトレコードを定義します。データセットリンクで、決定テーブルの入力項目を評価するオブジェクト項目に対応付けます。

フローからの決定テーブルの呼び出し

スケジュールに従って、または必要に応じて決定テーブルを呼び出すことができます。決定テーブルを呼び出して、評価する内容の詳細を提供することもできます。または、決定テーブルを呼び出して、関連付けられたデータセットリンクオブジェクトの結果を提供できます。

いつでも可能なビジネスルールの更新

ビジネス上の意思決定を制御するルールは、進化して変化するものです。ビジネスルールを変更または追加した場合、更新されたルールに基づいて結果が提供されるように、関連付けられた決定テーブルを更新します。

決定テーブルの共有

Salesforce の本番組織にリリースする前に決定テーブルをテストして微調整します。変更セット、管理パッケージ、または未管理パッケージを使用して決定テーブルを他の Salesforce 組織と共有できます。

ビジネスルールの安全性の確保

Salesforce Shield の暗号化されたオブジェクトを使用してビジネスルールを保存します。決定テーブルでは、Salesforce Shield の暗号化されたオブジェクトからビジネスルールの入力項目および出力項目を読み取り、結果を提供できます。

決定テーブルの新しいオブジェクト

Tooling API を使用して、決定テーブル設定オブジェクトを操作します。

Apex: 新しい項目

次のメソッドおよびクラスが新規追加されました。

Connect REST API

決定テーブルの REST API の次のコールが機能強化されました。

決定テーブルの新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して決定テーブルを実行または更新します。

決定テーブルの新しいメタデータ型

決定テーブルに新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

ビジネスルールの定義

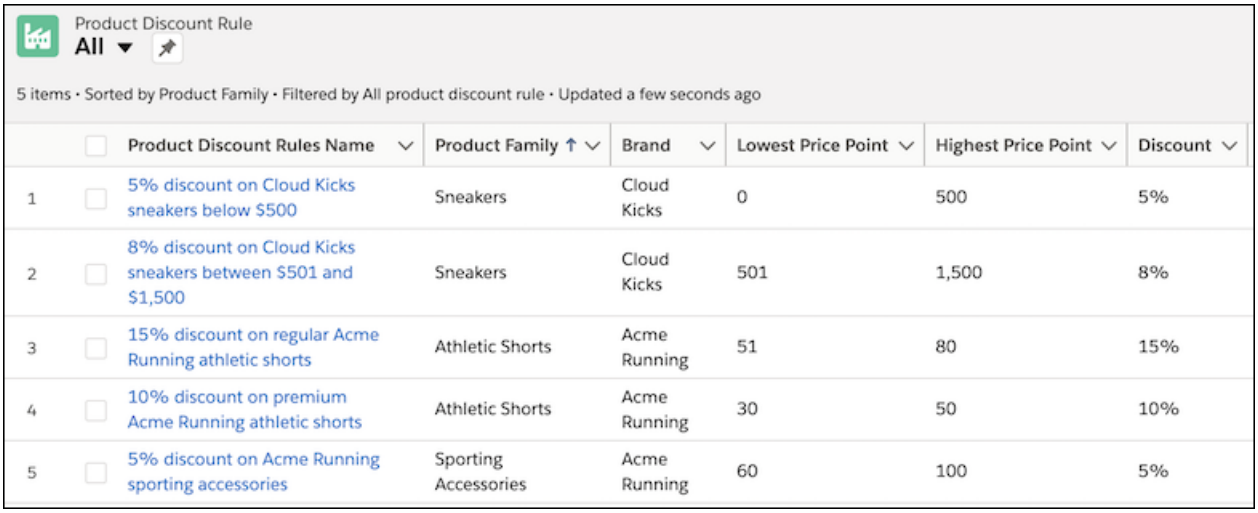
ビジネス上の意思決定のガイドとなるビジネスルールを作成します。決定テーブルでビジネスルールを参照するには、ルールを標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、またはカスタムメタデータ型として作成します。

対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: たとえば、スポーツウェアショップではブランド、価格、商品カテゴリに基づいてさまざまな割引ルールを設定できます。オブジェクトまたはカスタムメタデータ型でルールを追加できます。たとえば、スポーツシューズのブランドの割引を決定するには、決定テーブルでビジネスルールと対照してその商品のレコードを評価し、割引を結果として提供します。

方法: Salesforce 組織でビジネスルールを適用する手順は、次のとおりです。

- ルールを標準オブジェクトに追加します。
- カスタムオブジェクトを作成してそのオブジェクトにルールを追加します。
- カスタムメタデータ型を作成してそのメタデータ型にルールを追加します。



ルールの指定と残りの自動化

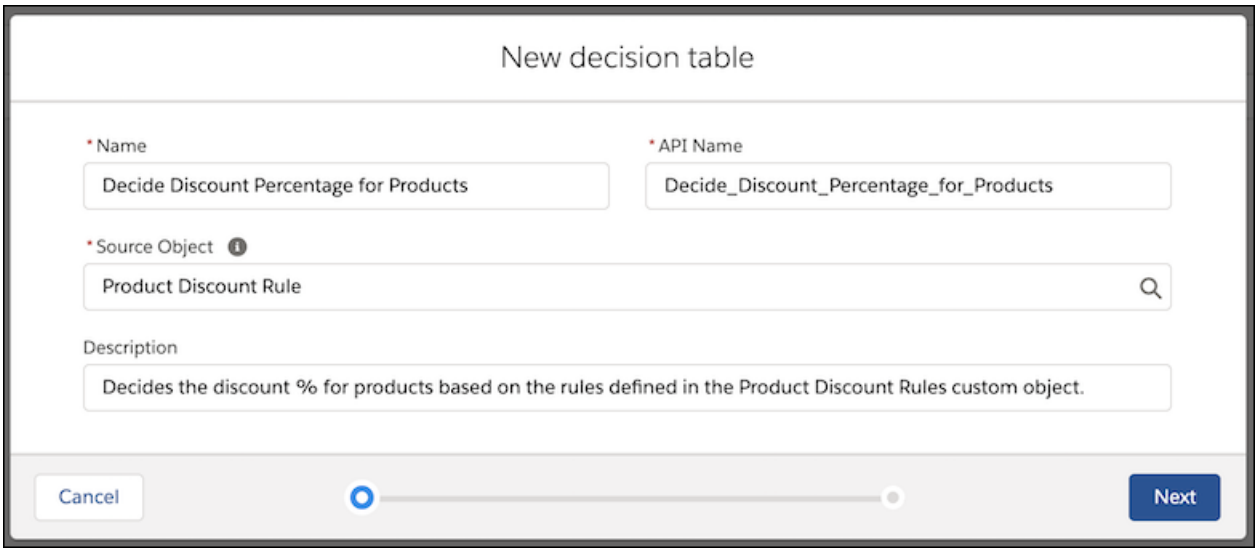
ソリューションを迅速に見つけるための意思決定を自動化します。いくつかの簡単な選択を行い、決定テーブルでレコードを処理し、ルールを評価して、結果を提供できるようにします。ルール、入力項目、出力項目が含まれるオブジェクトまたはカスタムメタデータ型を選択します。決定テーブルでは、最大 10 万件のビジネスルールを読み込んで結果を提供できます。

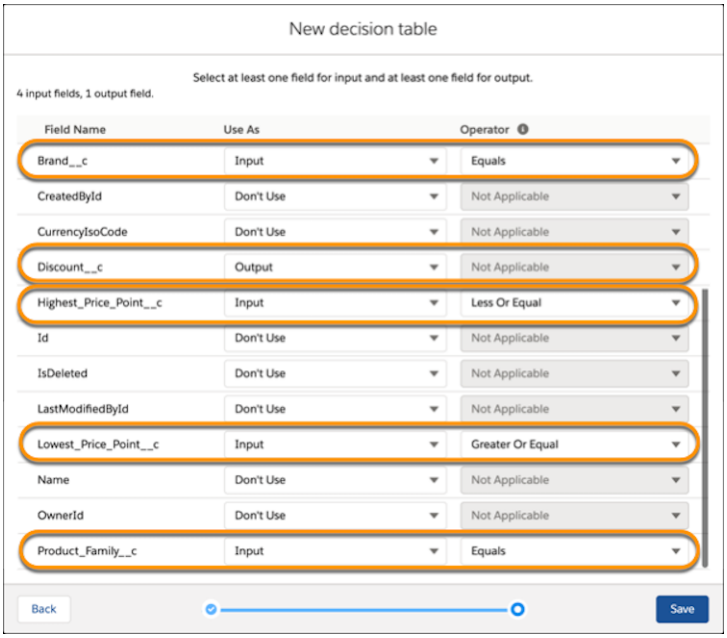
対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 決定テーブルは、システム管理者プロファイルを持つユーザが使用できます。決定テーブルオブジェクトに対する権限を割り当てることで、権限を他のユーザに付与できます。

理由: 組織は日常的なプロセス (商品の割引率や患者のケアプランの選択など) を自動化することに苦労する場合があります。ルールを設定していても、考えられる最善の結果を見つけるのは複雑で時間のかかる作業になる場合があります。決定テーブルにより、この手動タスクが排除され、プロセスが自動化されます。

方法:[設定] から、[クイック検索] ボックスに「決定テーブル」と入力し、[決定テーブル] を選択します。[新規] をクリックします。決定テーブルに名前を付けて、ビジネスルールが含まれる取得元オブジェクトまたはカスタムメタデータ型を選択します。[次へ] をクリックします。1つ以上の入力項目、その演算子、1つの出力項目を選択します。入力項目は、決定テーブルが結果を提供する必要がある対象レコードの項目と比較する必要があるオブジェクトまたはカスタムメタデータ型を表します。出力項目には、ルールが一致したときに決定テーブルで結果として提供する値が含まれます。[保存] をクリックして、[有効化] をクリックします。





関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Decision Table Setup Objects (決定テーブル設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: DecisionTable Metadata API (DecisionTable メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Decision Table Setup Objects (決定テーブル設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: DecisionTable Metadata API (DecisionTable メタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

複数の取得元からのレコードの結果の決定

一連のビジネスルールを組織の複数の領域に適用できます。決定テーブルでデータセットリンクを使用し、評価するオブジェクトレコードを定義します。データセットリンクで、決定テーブルの入力項目を評価するオブジェクト項目に対応付けます。

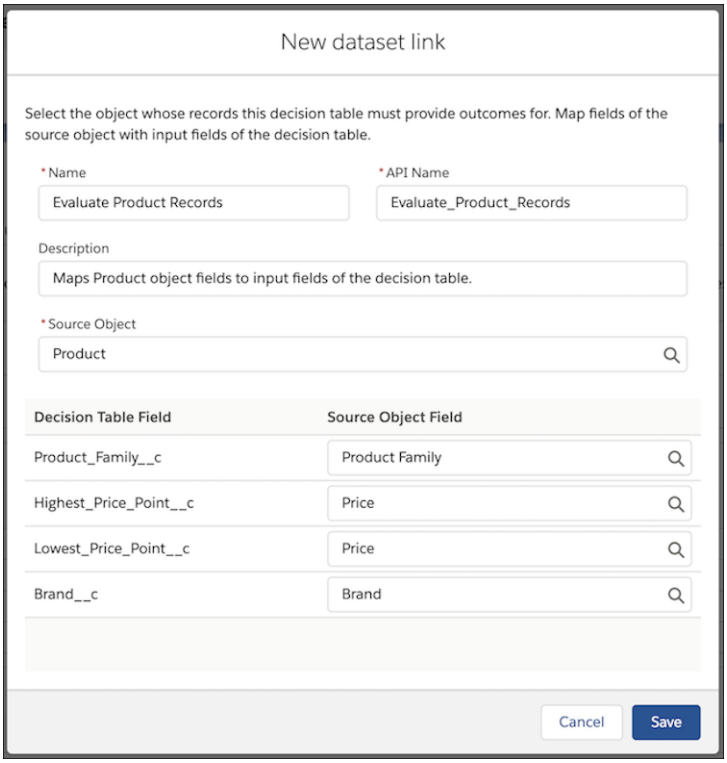
対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 決定テーブルは、システム管理者プロファイルに割り当てられているユーザが使用できます。決定テーブルオブジェクトに対する権限を割り当てることで、権限を他のユーザに付与することもできます。

理由: さまざまなオブジェクトを使用してさまざまな商品品目の商品レコードを保存できます。同じビジネスルールに基づいて異なる商品品目の割引率を決定できます。各商品品目のオブジェクトを決定テーブルのデータセットリンクとして選択します。

方法: データセットリンクを追加する決定テーブルを開きます。[データセットリンク] カードで、[新規] をクリックします。データセットリンクの詳細を入力し、決定テーブルで評価する必要があるレコードが含まれる

オブジェクトを選択します。決定テーブルの入力項目を、データセットリンクで選択した取得元オブジェクトの項目に対応付けます。[保存] をクリックします。



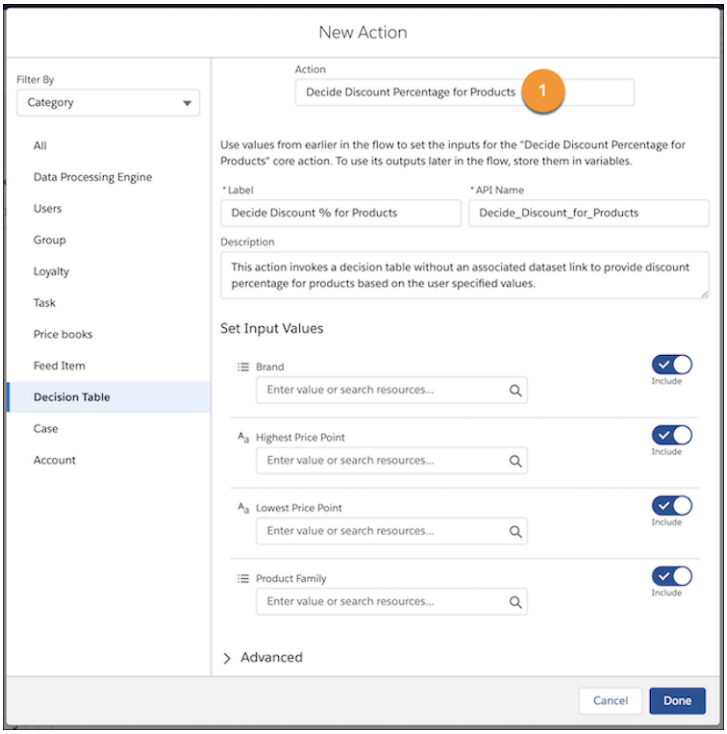
フローからの決定テーブルの呼び出し

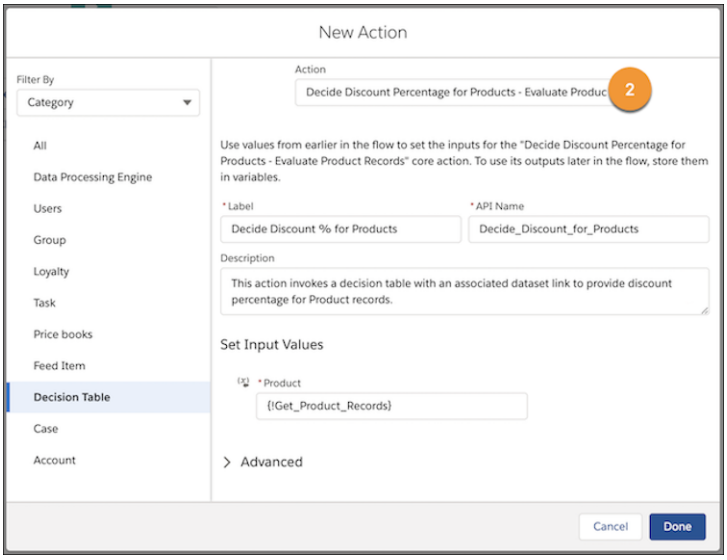
スケジュールに従って、または必要に応じて決定テーブルを呼び出すことができます。決定テーブルを呼び出して、評価する内容の詳細を提供することもできます。または、決定テーブルを呼び出して、関連付けられたデータセットリンクオブジェクトの結果を提供できます。

対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: フローで決定テーブルを実行するには、ユーザに割り当てられたプロファイルまたは権限セットで「決定テーブルを実行」ユーザ権限が有効になっている必要があります。ユーザは、決定テーブルオブジェクトにアクセスできる必要もあります。

方法: フローで、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[カテゴリ] を [決定テーブル] として選択します。呼び出す決定テーブルを検索します。決定テーブルに関連付けられたデータセットリンクがある場合、複数の検索結果が表示されます。決定テーブルを呼び出して独自の入力値を指定するには、「Default (デフォルト)」がサフィックスとして付いた決定テーブル名が含まれる検索結果を選択します (1)。関連付けられたデータセットリンクのレコードの結果を取得するには、関連付けられたデータセットリンクの名前がサフィックスとして付いた検索結果を選択します (2)。





関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Decision Table Execution (決定テーブル実行) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Decision Table Actions (決定テーブルアクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Decision Table Execution (決定テーブル実行) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Decision Table Actions (決定テーブルアクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

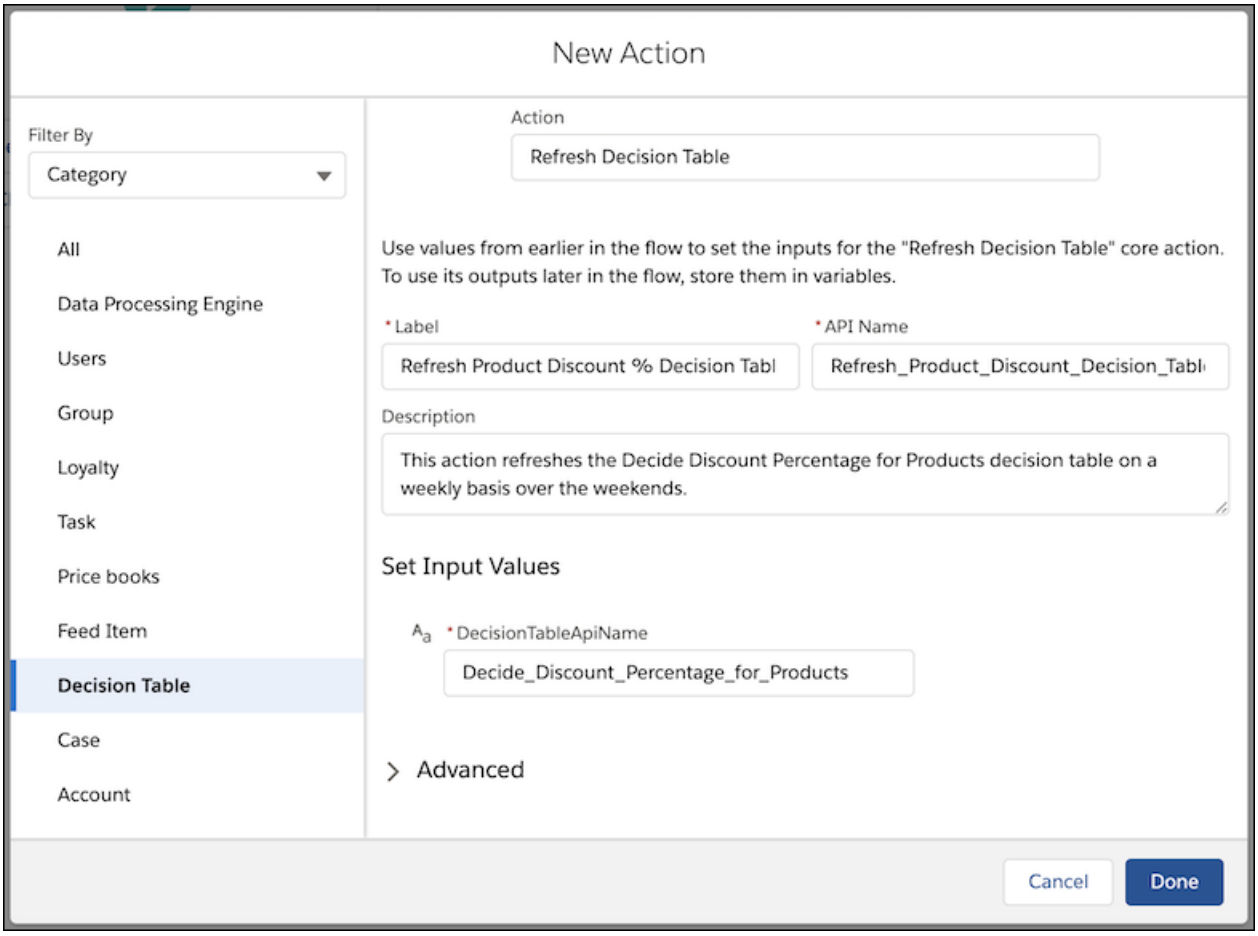
いつでも可能なビジネスルールの更新

ビジネス上の意思決定を制御するルールは、進化して変化するものです。ビジネスルールを変更または追加した場合、更新されたルールに基づいて結果が提供されるように、関連付けられた決定テーブルを更新します。

対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 決定テーブルは、システム管理者プロファイルを持つユーザが使用できます。決定テーブルオブジェクトに対する権限を割り当てることで、権限を他のユーザに付与できます。

方法: 決定テーブルを開き、[更新] をクリックします。特定のスケジュールに基づいて、または必要に応じてフローの [決定テーブルを更新] アクションを使用して決定テーブルを更新することもできます。



関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Decision Table Refresh Action (決定テーブル更新アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Decision Table Refresh Action (決定テーブル更新アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

決定テーブルの共有

Salesforceの本番組織にリリースする前に決定テーブルをテストして微調整します。変更セット、管理パッケージ、または未管理パッケージを使用して決定テーブルを他の Salesforce 組織と共有できます。

対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

ビジネスルールの安全性の確保

Salesforce Shield の暗号化されたオブジェクトを使用してビジネスルールを保存します。決定テーブルでは、Salesforce Shield の暗号化されたオブジェクトからビジネスルールの入力項目および出力項目を読み取り、結果を提供できます。

対象: この変更は、払い戻し管理またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

決定テーブルの新しいオブジェクト

Tooling API を使用して、決定テーブル設定オブジェクトを操作します。

決定テーブルを作成する

新しい `DecisionTable` オブジェクトを使用します。

決定テーブルのデータセットリンクを作成する

新しい `DecisionTableDatasetLink` オブジェクトを使用します。

決定テーブルの入力項目および結果項目を定義する

新しい `DecisionTableParameter` オブジェクトを使用します。

決定テーブルパラメータをデータセットリンクとして選択されたオブジェクトの項目に対応付ける

新しい `DecisionTblDatasetParameter` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Decision Table Setup Objects (決定テーブル設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Decision Table Setup Objects (決定テーブル設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Apex: 新しい項目

次のメソッドおよびクラスが新規追加されました。

ConnectApi 名前空間

ConnectApi 名前空間には次の新しいメソッドおよびクラスがあります。

メソッド

この新しいメソッドは、`ConnectApi.DecisionTable` クラスに含まれます。

決定テーブルを実行する
```
execute(decisionTableId, DecisionTableInput)
```

Input クラス

`ConnectApi.DecisionTableInput`

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `conditions` — 決定テーブルが実行される決定テーブル条件のリスト。
- `datasetLinkName` — 決定テーブルの実行の入力として提供されるデータセットリンクの API 参照名。

`ConnectApi.DecisionTableInputCondition`

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `fieldName` — 決定テーブルの入力として選択される項目名。
- `operator` — 入力項目に使用される演算子。
- `value` — 入力として選択されるデータ型の値。

出力クラス

`ConnectApi.DecisionTableOutcomeItem`

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `values` — 決定テーブル内の結果のリストを使用して設定されるオブジェクト。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): DecisionTable Methods (DecisionTable メソッド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): DecisionTable Methods (DecisionTable メソッド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Connect REST API

決定テーブルの REST API の次のコールが機能強化されました。

決定テーブル

有効な決定テーブルを実行する
新しい Decision Table Input リクエストボディを使用して、新しい `connect/decision-table/${decisionTableId}` リソースに対して POST 要求を実行します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Decision Table APIs (決定テーブル API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Decision Table APIs (決定テーブル API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

決定テーブルの新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して決定テーブルを実行または更新します。

決定テーブルのキャッシュを更新する
新しい `refreshDecisionTable` 標準アクションを使用して決定テーブルのキャッシュを更新します。

決定テーブルを実行する
新しい `decisionTableAction` カスタムアクションを使用して決定テーブル定義を実行します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Decision Table Invocable Actions (決定テーブル呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Decision Table Invocable Actions (決定テーブル呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

決定テーブルの新しいメタデータ型

決定テーブルに新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

レコードを処理するための決定テーブルルールを作成する
新しい `DecisionTable` メタデータ型を使用します。

決定テーブルの対応付けを定義する
新しい `DecisionTableDatasetLink` メタデータ型を使用します。

フローで決定テーブルを操作する
Flow メタデータ型の FlowAction Call サブタイプの actionType 項目に新しい列挙値があります。

- `decisionTableAction` — 決定テーブルアクションを操作します。

- `decisionTableRefreshAction` — 決定テーブル更新アクションを操作します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Decision Table Metadata API (決定テーブルメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Decision Table Metadata API (決定テーブルメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Data Processing Engine

Salesforce組織の標準オブジェクトとカスタムオブジェクトからデータを抽出し、ビジネス要件に基づいて変換します。次に、変換されたデータでレコードを作成、更新、または更新/挿入します (正式リリース)。

このセクションの内容:

数回のクリックでのデータの変換

Salesforce組織のデータは、さまざまなオブジェクトに保存されます。Data Processing Engineを使用して、さまざまなオブジェクトに保存されたデータを収集し、変換します。Data Processing Engine 定義を作成します。次に、データ取得元を選択し、必要な変換を定義して、変換されたデータを使用してレコードを作成するか、更新/挿入するか、更新するかを選択します。

データ変換中の独自の入力の提供

Data Processing Engine 定義を実行して、さまざまなビジネスシナリオの結果を収集できます。入力変数を使用して、検索条件および数式種別ノードで使用される値を指定できます。Data Processing Engine 定義内で、またはフローで定義を実行するときに入力変数の値を定義できます。

条件に従った Data Processing Engine の実行

Data Processing Engine 定義を実行して、スケジュールに従って、または必要に応じて Salesforce 組織でレコードを作成、更新、または更新/挿入します。定義は有効にした後に実行できます。フローを使用して、Data Processing Engine 定義で組織のデータが更新されるタイミングと頻度を定義します。

Data Processing Engine の実行の追跡

追跡レコードを使用して、Data Processing Engine 定義の実行の詳細を取得します。Data Processing Engine 定義が変換されて更新されるたびに、[ワークフローサービスを監視] で追跡レコードが作成されます。

Salesforce Shield の暗号化された項目への結果の書き込み

オブジェクト項目に書き込むデータを安全に保ちます。結果がSalesforce Shieldの暗号化された項目に書き込まれても、項目の暗号化は解除されません。

テンプレート Data Processing Engine 定義を使用した時間の節約

ユーザやコラボレーラはテンプレート定義のコピーを作成し、ビジネス要件に合わせてカスタマイズできます。パートナーや独立系ソフトウェアベンダー(ISV)はテンプレート定義を作成し、顧客と共有できます。テンプレート定義は参照のみです。

他の組織との Data Processing Engine 定義の共有

Sandbox 組織で Data Processing Engine 定義を作成してテストしたら、変更セットまたは管理パッケージまたは未管理パッケージを使用して本番 Salesforce 組織で定義をリリースします。変更セットまたはパッケージを使用して定義をコラボレータと共有すれば、コラボレータは各自の組織で定義をリリースして使用できます。

Data Processing Engine の使用状況の追跡

Salesforce 組織で処理されているデータ量を Data Processing Engine 定義別および Salesforce オブジェクトに書き込まれるデータ別に監視します。組織が Data Processing Engine の制限内に収まるようにします。

Data Processing Engine の新しいオブジェクト

新しい Data Processing Engine オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

Data Processing Engine の新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、Data Processing Engine 設定オブジェクトを操作します。

Data Processing Engine の新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して Data Processing Engine 定義を実行します。

Data Processing Engine の新しいメタデータ型

Data Processing Engine に新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

Data Processing Engine の新しいプラットフォームイベント

プラットフォームイベントを使用して、フローでの Data Processing Engine ジョブの実行が完了したときに登録ユーザに通知します。

[ワークフローサービスを監視] の新しいオブジェクト

[ワークフローサービスを監視] オブジェクトを使用して Data Processing Eninge 定義の状況と進行状況を表示できるようになりました。

数回のクリックでのデータの変換

Salesforce 組織のデータは、さまざまなオブジェクトに保存されます。Data Processing Engine を使用して、さまざまなオブジェクトに保存されたデータを収集し、変換します。Data Processing Engine 定義を作成します。次に、データ取得元を選択し、必要な変換を定義して、変換されたデータを使用してレコードを作成するか、更新/挿入するか、更新するかを選択します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

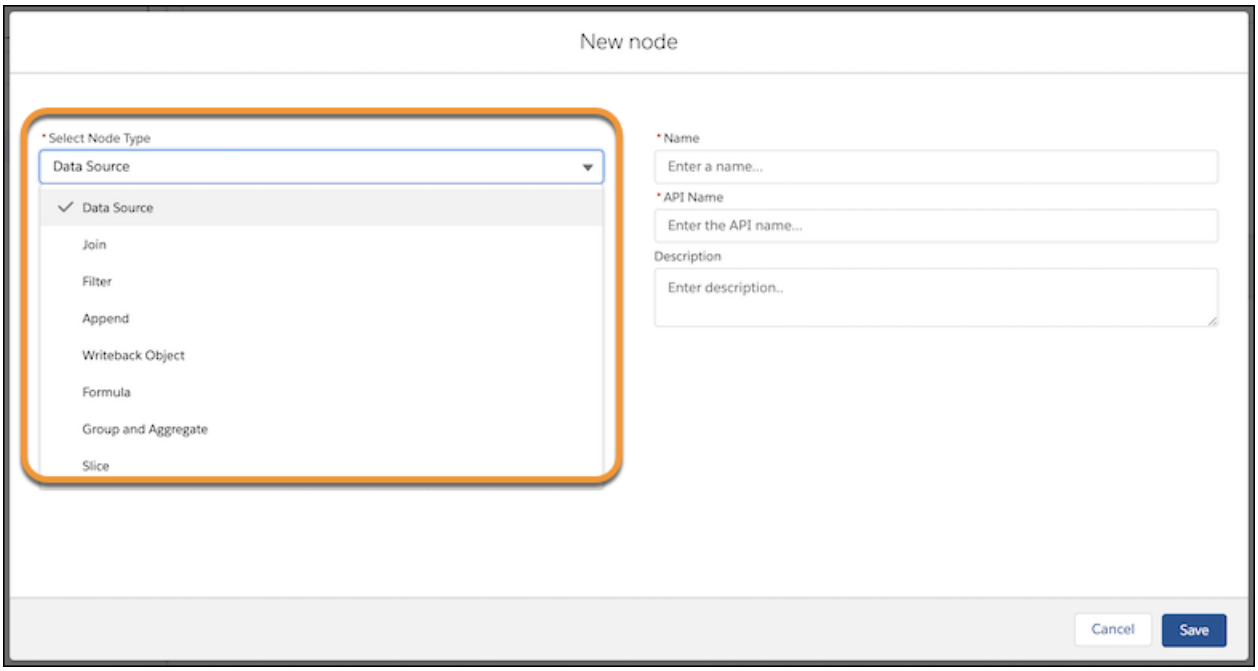
対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、Data Processing Engine 定義を作成できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「`Data Processing Engine`」と入力して、**[Data Processing Engine]** を選択します。**[新規]** をクリックします。Data Processing Engine 定義を設定して有効にします。

データ取得元を選択し、データを変換して、結果を書き込む方法を次に示します。

- データ取得元: データ取得元として使用するオブジェクト、項目、関連オブジェクト項目を選択します。
- 結合: 2 つのノードの結果を結合し、結合種別を決定します。
- 検索条件: ノードのデータを絞り込みます。

- 追加: ノードの結合を作成します。
- 数式: ノードのデータを使用して数式を作成します。
- グループ化と集計: ノードの項目に基づいてデータをグループ化して集計します。
- スライス: 後続のノードでの処理に不要になった項目をドロップします。
- オブジェクトのライトバック:変換済みの結果を書き込むオブジェクト項目と関連オブジェクト項目を選択します。



関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Data Processing Engine Metadata API (データ処理エンジンメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Data Processing Engine Metadata API (データ処理エンジンメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud 開発者ガイド: BatchCalcJobDefinition (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

データ変換中の独自の入力の提供

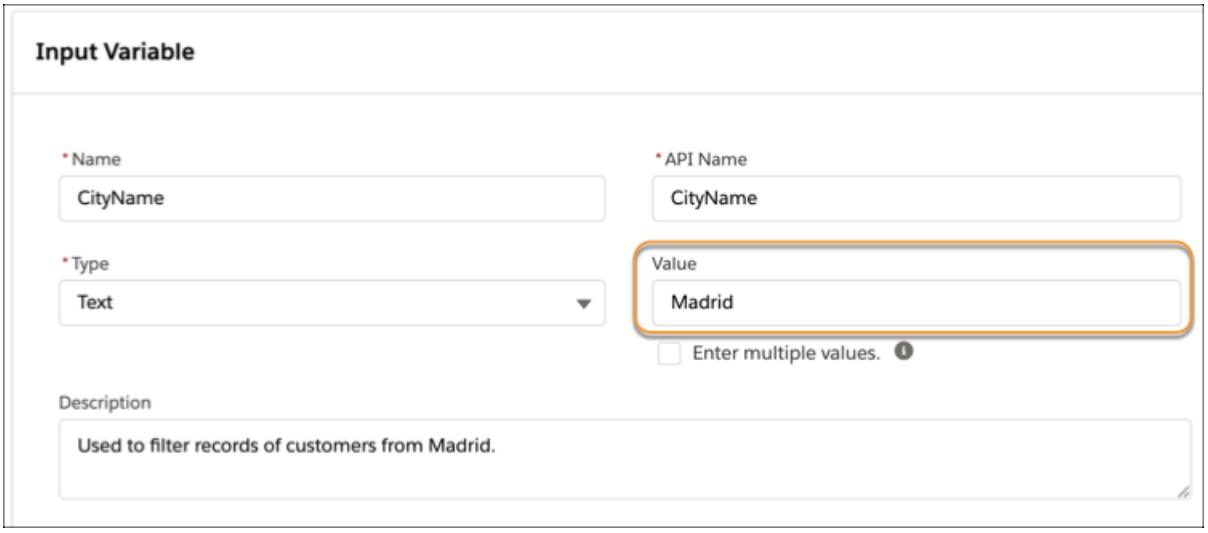
Data Processing Engine 定義を実行して、さまざまなビジネスシナリオの結果を収集できます。入力変数を使用して、検索条件および数式種別ノードで使用される値を指定できます。Data Processing Engine 定義内で、またはフローで定義を実行するときに入力変数の値を定義できます。

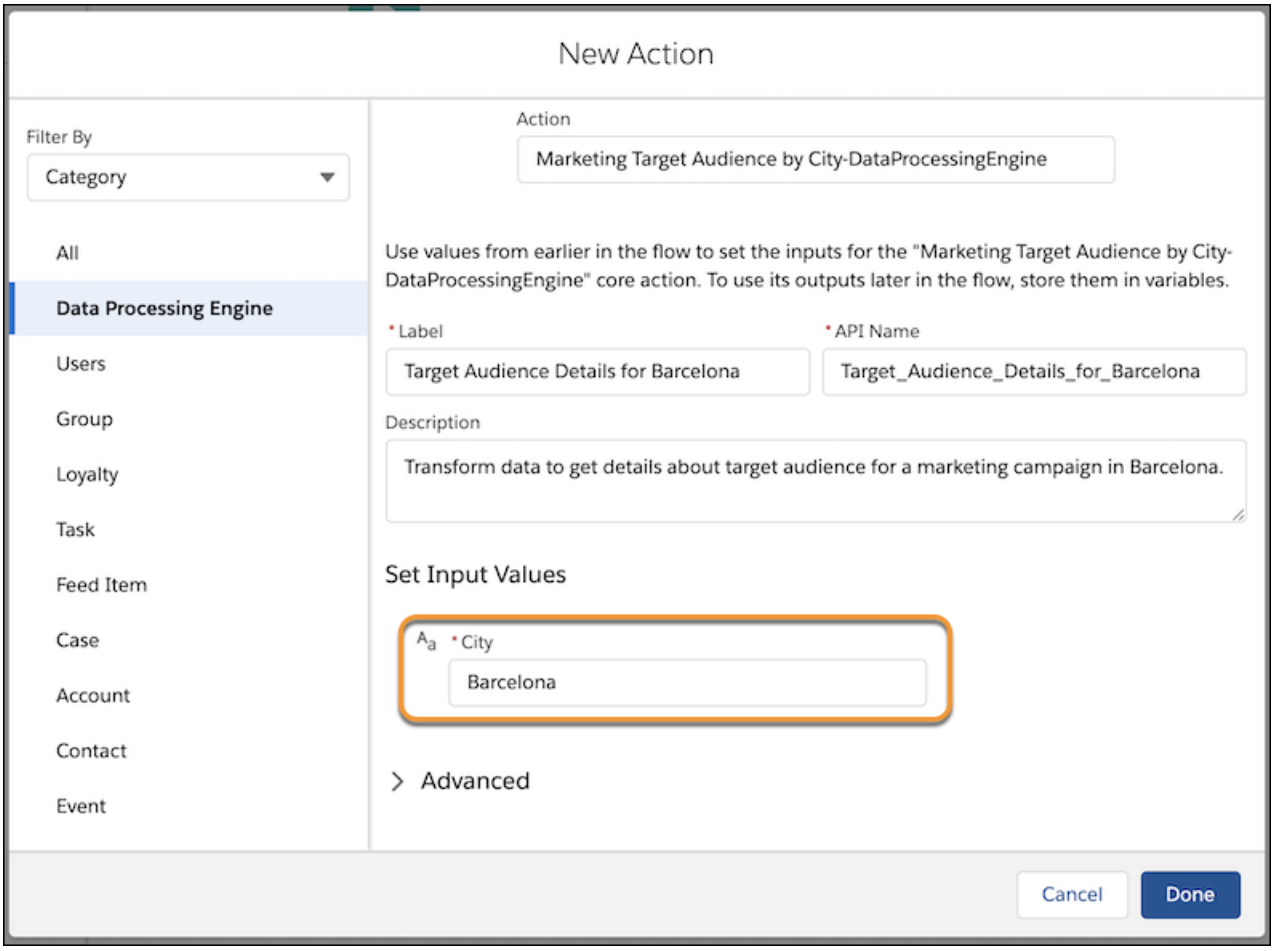
対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ:「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、Data Processing Engine 定義を作成できます。

理由:たとえば、Data Processing Engine 定義を使用して 1 つの市区郡の顧客またはさまざまな市区郡の顧客のデータを変換できます。1 つの市区郡の場合、入力変数を作成して市区郡の名前を定義内の値として指定します。さまざまな市区郡の顧客のデータを変換するには、フローで市区郡の定義を実行するたびに市区郡の名前を指定します。

方法: Data Processing Engine ビルダーの [入力変数] タブで、[新しい入力変数] をクリックします。入力変数の名前を入力し、種別を選択します。入力変数の値を追加することもできます。Text 型の入力変数の場合、値のカンマ区切りリストを入力できます。





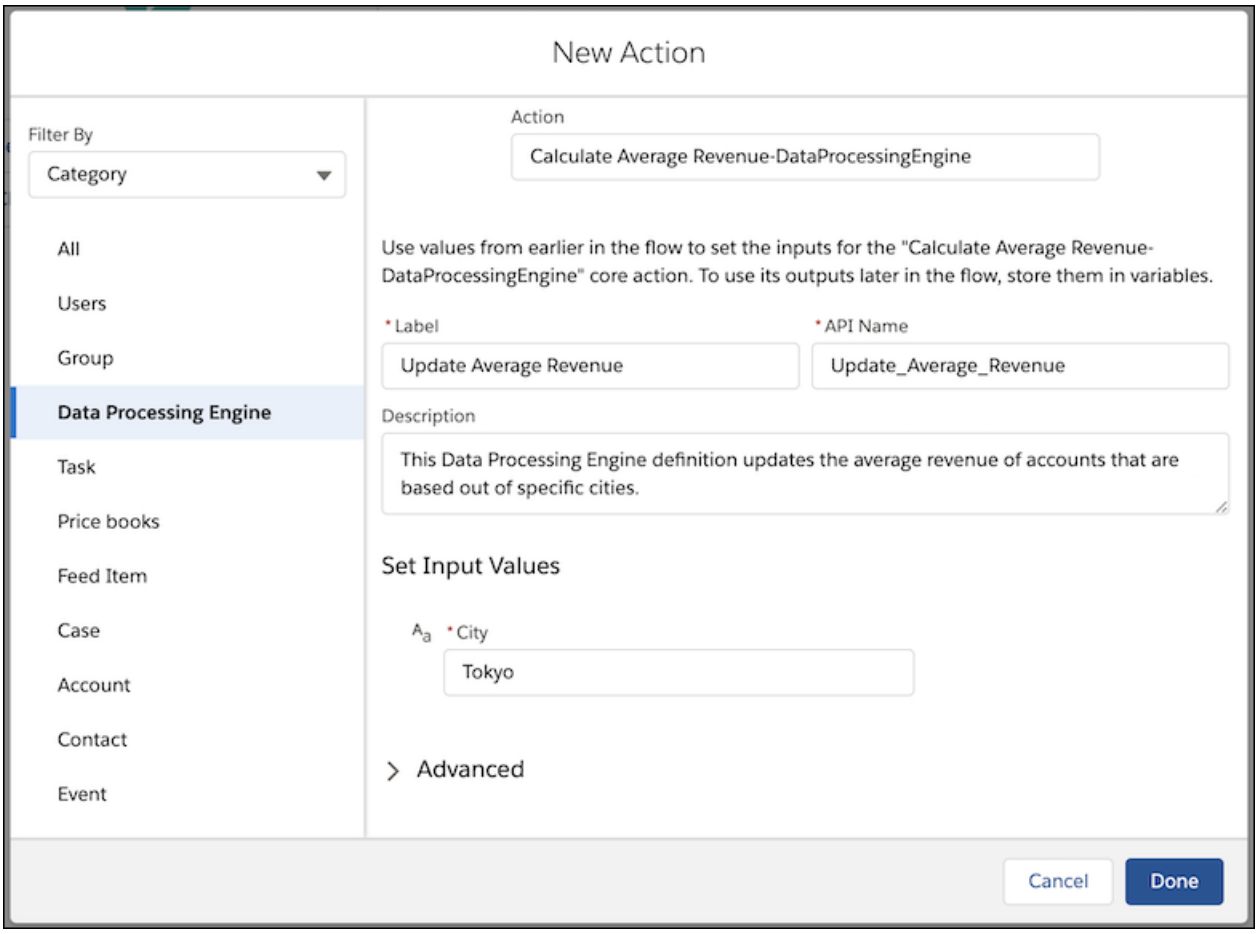
条件に従った Data Processing Engine の実行

Data Processing Engine 定義を実行して、スケジュールに従って、または必要に応じて Salesforce 組織でレコードを作成、更新、または更新/挿入します。定義は有効にした後に実行できます。フローを使用して、Data Processing Engine 定義で組織のデータが更新されるタイミングと頻度を定義します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「フローの管理」権限を持つユーザは、フローで Data Processing Engine 定義を実行できます。

方法: フローで、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[カテゴリ] を **[Data Processing Engine]** として選択します。有効な Data Processing Engine 定義を検索して選択します。



関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide* (*ロイヤルティ管理開発者ガイド*): Data Processing Engine Invocable Actions (データ処理エンジン呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide* (*払い戻し管理開発者ガイド*): Data Processing Engine Invocable Actions (データ処理エンジン呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Financial Services Cloud 開発者ガイド*: データ処理エンジン呼び出し可能アクション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

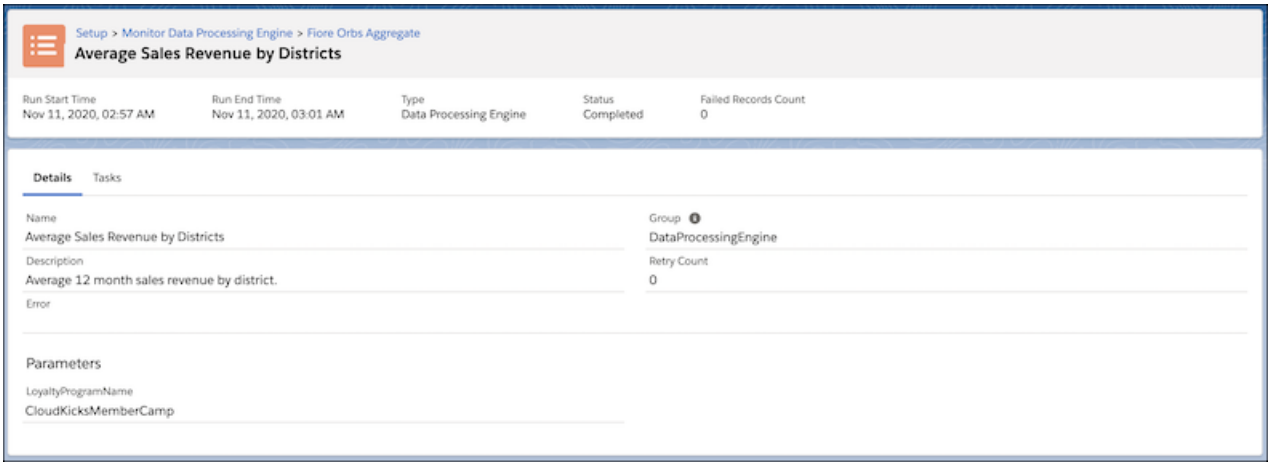
Data Processing Engine の実行の追跡

追跡レコードを使用して、Data Processing Engine 定義の実行の詳細を取得します。Data Processing Engine 定義が変換されて更新されるたびに、[ワークフローサービスを監視] で追跡レコードが作成されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、[ワークフローサービスを監視] にアクセスできます。

方法: [設定] で、[ワークフローサービスを監視] を検索して選択します。Data Processing Engine 定義の実行の詳細を表示するには、対応するレコードを開きます。



Salesforce Shield の暗号化された項目への結果の書き込み

オブジェクト項目に書き込むデータを安全に保ちます。結果が Salesforce Shield の暗号化された項目に書き込まれても、項目の暗号化は解除されません。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

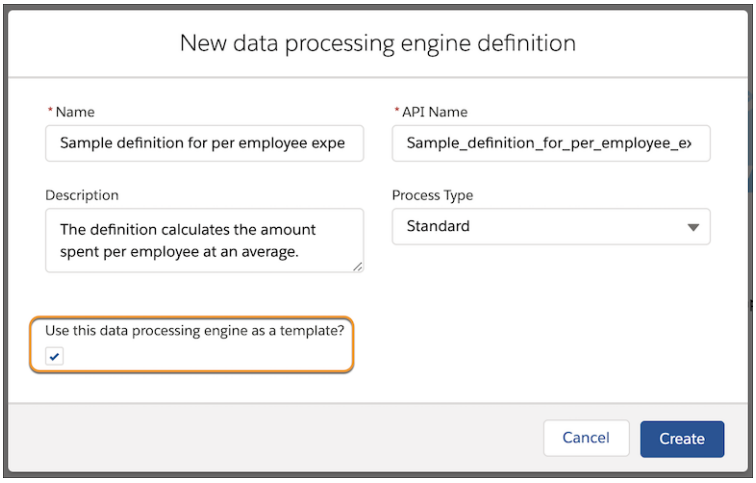
テンプレート Data Processing Engine 定義を使用した時間の節約

ユーザやコラボレーラはテンプレート定義のコピーを作成し、ビジネス要件に合わせてカスタマイズできます。パートナーや独立系ソフトウェアベンダー (ISV) はテンプレート定義を作成し、顧客と共有できます。テンプレート定義は参照のみです。

対象: この変更は、Financial Services Cloud、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Salesforce 組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」および「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、テンプレート Data Processing Engine 定義を作成できます。

方法:新規 Data Processing Engine **定義ウィンドウで、[Data Processing Engine をテンプレートとして使用しますか?] を選択します。**



他の組織との Data Processing Engine 定義の共有

Sandbox **組織で** Data Processing Engine **定義を作成してテストしたら、変更セットまたは管理パッケージまたは未管理パッケージを使用して本番** Salesforce **組織で定義をリリースします。変更セットまたはパッケージを使用して定義をコラボレータと共有すれば、コラボレータは各自の組織で定義をリリースして使用できます。**

対象:この変更は、 Financial Services Cloud**、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている** Enterprise Edition**、** Professional Edition**、** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。** Salesforce **組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。**

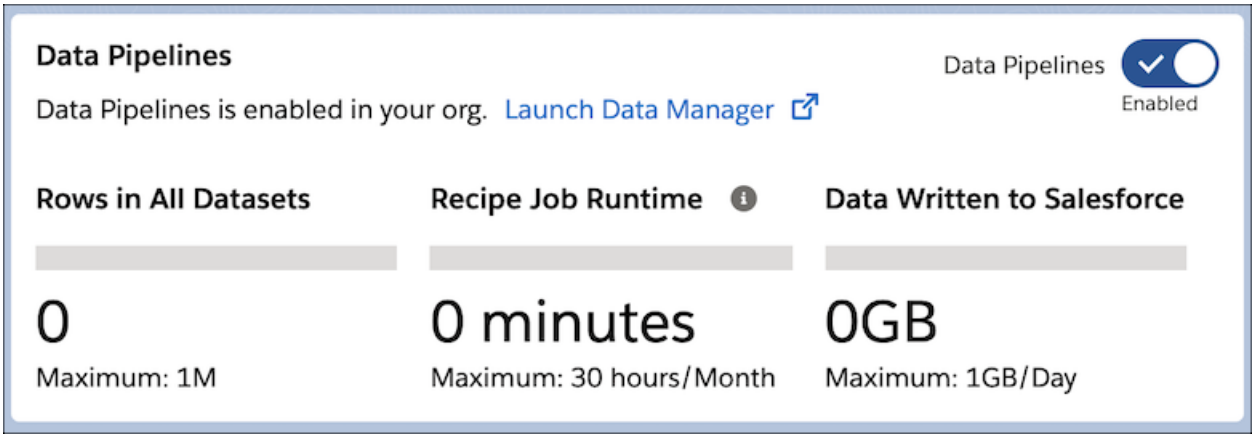
Data Processing Engine の使用状況の追跡

Salesforce **組織で処理されているデータ量を** Data Processing Engine **定義別および** Salesforce **オブジェクトに書き込まれるデータ別に監視します。組織が** Data Processing Engine **の制限内に収まるようにします。**

対象:この変更は、 Financial Services Cloud**、払い戻し管理、またはロイヤルティ管理が有効になっている** Enterprise Edition**、** Professional Edition**、** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。** Salesforce **組織ではデータパイプラインが有効になっている必要があります。**

対象ユーザ:「データパイプライン基本ユーザ」権限セットを持つシステム管理者は Data Processing Engine **の使用状況を参照できます。**

方法:[設定] の [クイック検索] ボックスに「データパイプライン」と入力して、[データパイプライン] を選択します。[開始] をクリックします。その日および組織の使用状況を表示できます。



Data Processing Engine の新しいオブジェクト

新しい Data Processing Engine オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

特定の業種ライセンスに基づいて Salesforce 組織で使用できる定義を含む Data Processing Engine 定義を表示する

新しい `BatchCalcJobDefinitionView` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Data Processing Engine Standard Object (データ処理エンジン標準オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Data Processing Engine Standard Object (データ処理エンジン標準オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Financial Services Cloud 開発者ガイド*: BatchCalcJobDefinitionView (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Data Processing Engine の新しい Tooling API オブジェクト

Tooling API を使用して、Data Processing Engine 設定オブジェクトを操作します。

Data Processing Engine 定義を表示する

新しい `BatchCalcJobDefinition` オブジェクトを使用します。

Data Processing Engine 定義ジョブを表示する

新しい `BatchJobDefinition` オブジェクトを使用します。一括管理でもこのオブジェクトを使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Data Processing Engine Setup Object (データ処理エンジン設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Data Processing Engine Setup Object (データ処理エンジン設定オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud 開発者ガイド: BatchCalcJobDefinition (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Data Processing Engine の新しい呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションを使用して Data Processing Engine 定義を実行します。

Data Processing Engine 定義を実行する

新しい `dataProcessingEngineAction` カスタムアクションを使用して、要件に基づいてデータを変換します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド): Data Processing Engine Invocable Actions (データ処理エンジン呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド): Data Processing Engine Invocable Actions (データ処理エンジン呼び出し可能アクション) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud 開発者ガイド: データ処理エンジン呼び出し可能アクション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Data Processing Engine の新しいメタデータ型

Data Processing Engine に新しいメタデータ型と列挙が追加されました。

Data Processing Engine 定義を使用してデータを変換する

新しい `BatchCalcJobDefinition` メタデータ型を使用します。

フローで新しい Data Processing Engine 定義アクションを使用する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプ項目の actionType で新しい `dataProcessingEngineAction` 列挙値を使用します。

関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide (ロイヤルティ管理開発者ガイド)*: Data Processing Engine Metadata API (データ処理エンジンメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide (払い戻し管理開発者ガイド)*: Data Processing Engine Metadata API (データ処理エンジンメタデータ API) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Financial Services Cloud 開発者ガイド*: BatchCalcJobDefinition (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Data Processing Engine の新しいプラットフォームイベント

プラットフォームイベントを使用して、フローでの Data Processing Engine ジョブの実行が完了したときに登録ユーザに通知します。

フローでの Data Processing Engine 定義の実行が完了したときに通知されます。

新しい `BatchJobStatusChangedEvent` に登録して、リアルタイムに通知を受信します。

関連トピック:

- *Loyalty Management Developer Guide*: BatchJobStatusChangedEvent Object (ロイヤルティ管理開発者ガイド: BatchJobStatusChangedEvent オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Rebate Management Developer Guide*: BatchJobStatusChangedEvent Object (払い戻し管理開発者ガイド: BatchJobStatusChangedEvent オブジェクト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Financial Services Cloud 開発者ガイド*: BatchJobStatusChangedEvent オブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[ワークフローサービスを監視] の新しいオブジェクト

[ワークフローサービスを監視] オブジェクトを使用して Data Processing Eninge 定義の状況と進行状況を表示できるようになりました。

Data Processing Engine 定義の実行を表示する

新しい `BatchJob` オブジェクトを使用します。

Data Processing Engine 定義の部分を表示する

新しい `BatchJobPart` オブジェクトを使用します。

Data Processing Engine 定義の一環で処理されなかったレコードを表示する

新しい `BatchDataPartFailedRecord` オブジェクトを使用します。

関連トピック:

Loyalty Management Developer Guide: Monitor Workflow Services (**ロイヤルティ管理開発者ガイド: ワークフローサービスの監視**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Rebate Management Developer Guide: Monitor Workflow Services (**払い戻し管理開発者ガイド: ワークフローサービスの監視**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Financial Services Cloud ***開発者ガイド***: **ワークフローサービスの監視** (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Manufacturing Cloud

新機能と機能強化を使用して販売計画を簡単に管理します。新しい Connect API リソースを使用して、見積と商談を簡単に追跡できる販売計画に直接変換します。売上予測で商談スケジュールを考慮するオプションを使用して、取引先販売予測をより適切に管理します。変更された要件に対応するために既存の販売計画を削除します。

このセクションの内容:

組立製造業向け Customer 360 ガイドの紹介

マルチクラウドソリューションの機能を活用して、マーケティング、オムニチャネル販売、およびサービスを統合し、コネクテッドエクスペリエンスを提供します。

見積と商談の販売計画への変換

取引先マネージャは、新しい Sales Agreements Connect REST API を使用して、見積または商談を販売計画に直接変換できるようになりました。Connect API を使用すると、見積や商談を販売計画に自動的に変換して、正確さを保つことができます。

取引先販売予測での商談スケジュールの考慮

取引先販売予測の商談スケジュールを使用して、商談数量と収益スケジュールに基づいて販売予測を正確に計算します。

販売計画リストの整理

新しい「販売契約を削除」権限を「製造販売計画」権限セットに追加すると、取引先マネージャは変更された要件に対応するために、有効、承認済み、期限切れ、またはキャンセル済み販売計画を削除できます。以前は、ユーザはドラフト状態の販売計画のみを削除できました。

Manufacturing Cloud **の新規メタデータ型**

次の新規の Manufacturing Cloud メタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

Connect REST API

Manufacturing Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

組立製造業向け Customer 360 ガイドの紹介

マルチクラウドソリューションの機能を活用して、マーケティング、オムニチャネル販売、およびサービスを統合し、コネクテッドエクスペリエンスを提供します。

理由: この Customer 360 ガイドでは、組立製造業向け Salesforce クロスクラウドアーキテクチャを探索します。この Customer 360 ガイドのアセットは、製造業の未来を築き、デジタルトランスフォーメーションを完全に実現するための変更を実装するのに役立ちます。このガイドは、経営陣、ビジネスラインリーダー、アーキテクト、開発者向けのアセットの集大成であり、デジタルトランスフォーメーションとパートナーとのエンゲージメントを推進します。このガイドには、5 つの完全なソリューションキットが含まれています。

このセクションの内容:

Salesforce ソリューションキットを使用したクロスクラウドソリューションの解決
Salesforce ソリューションキットは、複雑なクロスクラウドの使用事例のソリューションを実装するために役立ちます。各ソリューションキットには、特定の商品と設定のおすすめが含まれています。

関連トピック:

個別の製造に関する Customer 360 ガイド

Salesforce ソリューションキットを使用したクロスクラウドソリューションの解決

Salesforce ソリューションキットは、複雑なクロスクラウドの使用事例のソリューションを実装するために役立ちます。各ソリューションキットには、特定の商品と設定のおすすめが含まれています。

このセクションの内容:

Buy Online, Pick Up in Store (BOPIS) の提供
買い物客が Salesforce B2C Commerce ストアフロントを介して、ローカルストアの商品をオンラインで購入できるようにします。

製造再注文の合理化
Manufacturing Cloud で交渉済み販売計画オブジェクトを使用して、再注文エクスペリエンスを強化します。

Pardot と Journey Builder を使用した B2B および B2C マーケティングの取り組み
リードスコアリング、Salesforce インテグレーション、マルチチャネルメッセージング、ジャーニー、トランザクションメッセージングなどの機能を使用して、ビジネスユニット全体で B2B (熟考型購入) および B2C (トランザクション購入) マーケティングイニシアチブを実行します。

商品と価格設定データの同期
CPQ と B2B Commerce の商品および価格設定データの一元化された情報源を確立します。

カートと見積のリンク
B2B Commerce のカートを CPQ に統合し、営業担当が見積と顧客の最終処理を行い注文を完了できるようにします。

カートとキャッシュのリンク
トランザクションの同期、データフローの接続、およびクラウドを越えたトランザクションデータの収集を行うために、B2B Commerce を CPQ の請求および注文情報に接続します。

Buy Online, Pick Up in Store (BOPIS) の提供

買い物客が Salesforce B2C Commerce ストアフロントを介して、ローカルストアの商品をオンラインで購入できるようにします。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「Offer Buy Online, Pick Up in Store (BOPIS) の提供」を参照してください。

製造再注文の合理化

Manufacturing Cloud で交渉済み販売計画オブジェクトを使用して、再注文エクスペリエンスを強化します。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「製造再注文の合理化」を参照してください。

Pardot と Journey Builder を使用した B2B および B2C マーケティングの取り組み

リードスコアリング、Salesforce インテグレーション、マルチチャネルメッセージング、ジャーニー、トランザクションメッセージングなどの機能を使用して、ビジネスユニット全体で B2B (熟考型購入) および B2C (トランザクション購入) マーケティングイニシアチブを実行します。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「Pardot と Journey Builder を使用した B2B および B2C マーケティングの取り組み」を参照してください。

商品と価格設定データの同期

CPQ と B2B Commerce の商品および価格設定データの一元化された情報源を確立します。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「商品と価格設定データの同期」を参照してください。

カートと見積のリンク

B2B Commerce のカートを CPQ に統合し、営業担当が見積と顧客の最終処理を行い注文を完了できるようにします。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「カートと見積のリンク」を参照してください。

カートとキャッシュのリンク

トランザクションの同期、データフローの接続、およびクラウドを越えたトランザクションデータの収集を行うために、B2B Commerce を CPQ の請求および注文情報に接続します。

方法: 完全なソリューションキットを確認するには、Salesforce ヘルプ「カートとキャッシュのリンク」を参照してください。

見積と商談の販売計画への変換

取引先マネージャは、新しい Sales Agreements Connect REST API を使用して、見積または商談を販売計画に直接変換できるようになりました。Connect API を使用すると、見積や商談を販売計画に自動的に変換して、正確さを保つことができます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: ObjectHierarchyRelationship 設定で使用可能な新しい `ConvertToSalesAgreement` 利用状況の種別を使用して、入力オブジェクト (見積または商談) を出力オブジェクト (販売計画) に対応付け、項目の対応付けを定義します。次に、Sales Agreements Connect API を使用して、入力オブジェクトのインスタンスから販売計画を作成します。

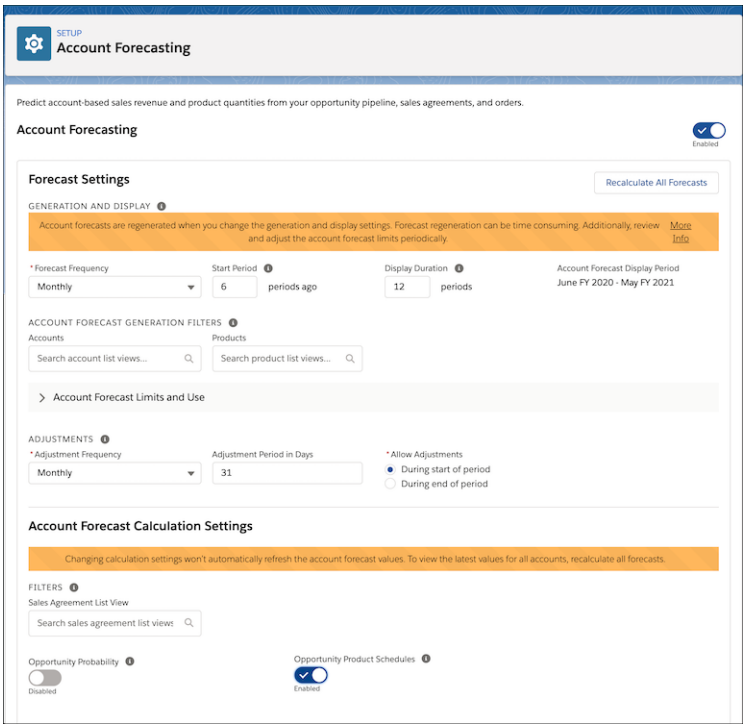
取引先販売予測での商談スケジュールの考慮

取引先販売予測の商談スケジュールを使用して、商談数量と収益スケジュールに基づいて販売予測を正確に計算します。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「製造取引先販売予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「製造」と入力し、[取引先販売予測] を選択します。[取引先販売予測の計算設定] セクションで、[商談商品スケジュール] を有効にします。



販売計画リストの整理

新しい「販売契約を削除」権限を「製造販売計画」権限セットに追加すると、取引先マネージャは変更された要件に対応するために、有効、承認済み、期限切れ、またはキャンセル済み販売計画を削除できます。以前は、ユーザはドラフト状態の販売計画のみを削除できました。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Enterprise Edition Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: 「販売計画を削除」は、プロファイルに割り当てることができる一般ユーザ権限です。

Manufacturing Cloud の新規メタデータ型

次の新規の Manufacturing Cloud メタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

入力オブジェクトと出力オブジェクト間の対応付けを表す。親入出力オブジェクトの子オブジェクトも対応付ける
: 新しい ObjectHierarchyRelationship メタデータ型を使用します。

Connect REST API

Manufacturing Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

Manufacturing Cloud

外部取得元から販売計画を作成する
: 新しい Sales Agreement Input リクエストボディを指定して、`/services/data/vXX.X/connect/manufacturing/sales-agreements` リソースに対して POST 要求を実行します。

払い戻し管理

払い戻し管理を使用して、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムを実行します。透明性があり相互に利益のあるインセンティブを通じて、長期的なチャネルリレーションを構築します。リベートプログラムを作成し、払い戻しの種別、対象資格ルール、およびしきい値を含む給付構造を指定します。パートナーと協力してコンテキスト内の支払を計算して、期間の終了時にまたは任意のタイミングで支払情報を分析します。払い戻し支払は、選択された頻度で、必要な詳細を使用して処理されます。製造業 Experience Cloud テンプレートを使用して、サイトを作成し、パートナーとのコラボレーションを行います。Einstein Analytics for Rebates を使用して、払い戻しに関するアクション可能なインサイトを取得します (正式リリース)。

このセクションの内容:

払い戻し金額を容易に計算するためのリベートプログラムの定義
自動化された支払計算を使用して、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムを設定します。相互に有益な関係を築くために、割引と払い戻しの適切な組み合わせで提供されるインセンティブを最適化します。取引先を対象プログラムのメンバーとして登録することで、Salesforce 取引先をリベートプログラムにシームレスに統合します。

拡張払い戻し処理による新しいインサイトの取得

単位あたりの金額、収益のパーセント、または固定金額 (一括払い) に基づいて支払計算の条件を定義します。商品ベースの資格およびしきい値を含む層を払い戻しに追加します。柔軟かつ拡張可能なバックエンドプロセスを使用して、計算プロセスをカスタマイズします。トランザクションが受信されるたびに支払を獲得して計算します。トランザクションは注文、請求書、請求、またはその他の払い戻しデータ取得元の形式にできます。日付および状況ごとに払い戻し支払を追跡し、監査を実行し、支払を承認します。ジャストインタイム、または期間の終了時の支払を計算します。

払い戻しでの営業チームとパートナーのコラボレーションの強化

営業チームとパートナーに対して、最新のインセンティブプログラムの発生および支払の情報を提供します。製造業 Experience Cloud サイトテンプレートを使用してパートナーとのコラボレーションを行います。インテリジェントで指示的なプログラムと支払パフォーマンスに関するインサイトを使用して、適切なパートナーの行動を促します。パートナーは、[支払] メニューを使用してトランザクションをアップロードしたり、支払を表示したりすることができます。

リベートプログラムの分析および Rebate Analytics によるビジネスの促進

Rebate Analytics ダッシュボードを使用して、プログラムの微調整、ビジネス目標の達成、および商品売上の増加に役立つ、リベートプログラムに関するアクション可能なインサイトを取得します。カスタムインセンティブプログラムの標準分析を取得するようにアプリケーションを設定できます。埋め込みダッシュボードでは、注文のインセンティブ、販売計画商品、および毎日使用する Salesforce ページからのリベートプログラムに関するインサイトをすぐに取得できます。事前設定済みの Einstein Discovery ストーリーを使用して、収益性に影響する要素を特定し、それを改善します。

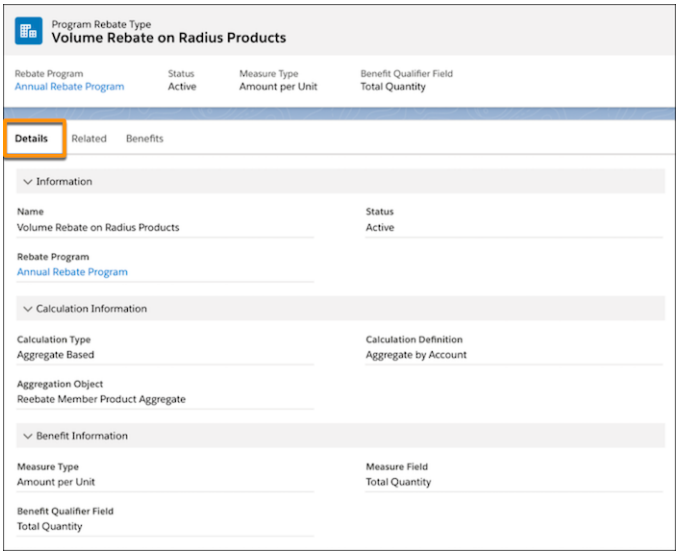
払い戻し金額を容易に計算するためのリベートプログラムの定義

自動化された支払計算を使用して、量ベース、金額ベース、および成長ベースのリベートプログラムを設定します。相互に有益な関係を築くために、割引と払い戻しの適切な組み合わせで提供されるインセンティブを最適化します。取引先を対象プログラムのメンバーとして登録することで、Salesforce 取引先をリベートプログラムにシームレスに統合します。

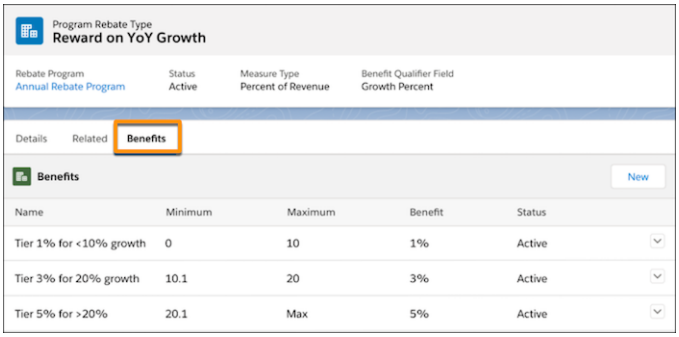
対象: この変更は、払い戻し管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: リベートプログラムを作成し、メンバーをプログラムに追加します。支払期間とリベートプログラム種別を作成します。

リベートプログラムに関連付けられたすべての詳細をプログラムレコードの関連リストに表示します。



各払い戻し種別の給付を払い戻し種別レコードに表示します。

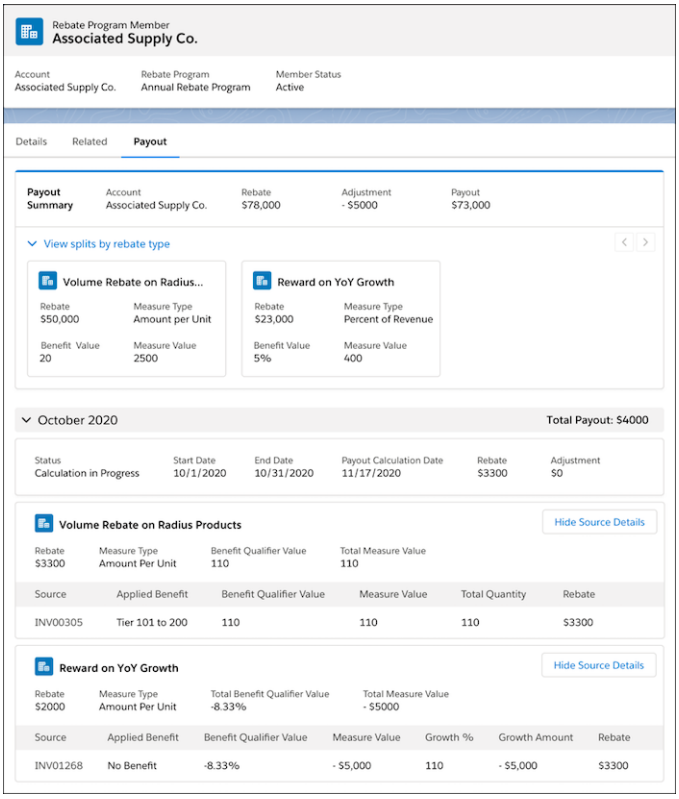


拡張払い戻し処理による新しいインサイトの取得

単位あたりの金額、収益のパーセント、または固定金額(一括払い)に基づいて支払計算の条件を定義します。商品ベースの資格およびしきい値を含む層を払い戻しに追加します。柔軟かつ拡張可能なバックエンドプロセスを使用して、計算プロセスをカスタマイズします。トランザクションが受信されるたびに支払を獲得して計算します。トランザクションは注文、請求書、請求、またはその他の払い戻しデータ取得元の形式にできます。日付および状況ごとに払い戻し支払を追跡し、監査を実行し、支払を承認します。ジャストインタイム、または期間の終了時の支払を計算します。

対象: この変更は、払い戻し管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: リベートプログラムメンバーレコードの [支払] タブで支払の詳細を表示します。

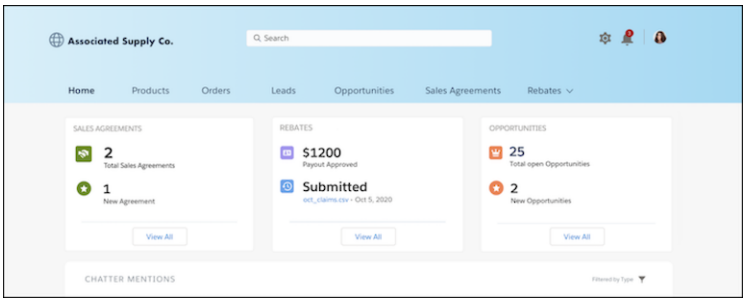


払い戻しでの営業チームとパートナーのコラボレーションの強化

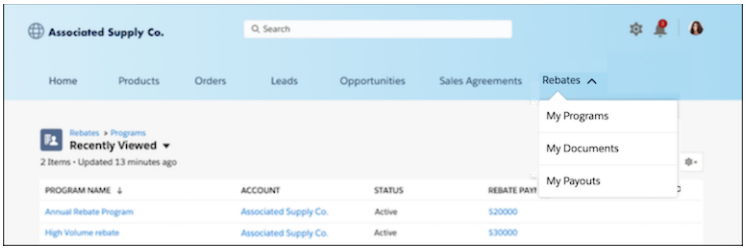
営業チームとパートナーに対して、最新のインセンティブプログラムの発生および支払の情報を提供します。製造業 Experience Cloud サイトテンプレートを使用してパートナーとのコラボレーションを行います。インテリジェントで指示的なプログラムと支払パフォーマンスに関するインサイトを使用して、適切なパートナーの行動を促します。パートナーは、[支払] メニューを使用してトランザクションをアップロードしたり、支払を表示したりすることができます。

対象: この変更は、払い戻し管理が有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 製造業パートナー Experience Cloud サイトで払い戻しオブジェクトを使用します。



パートナーは、払い戻しトランザクションをアップロードしたり、承認された支払を表示したりできます。



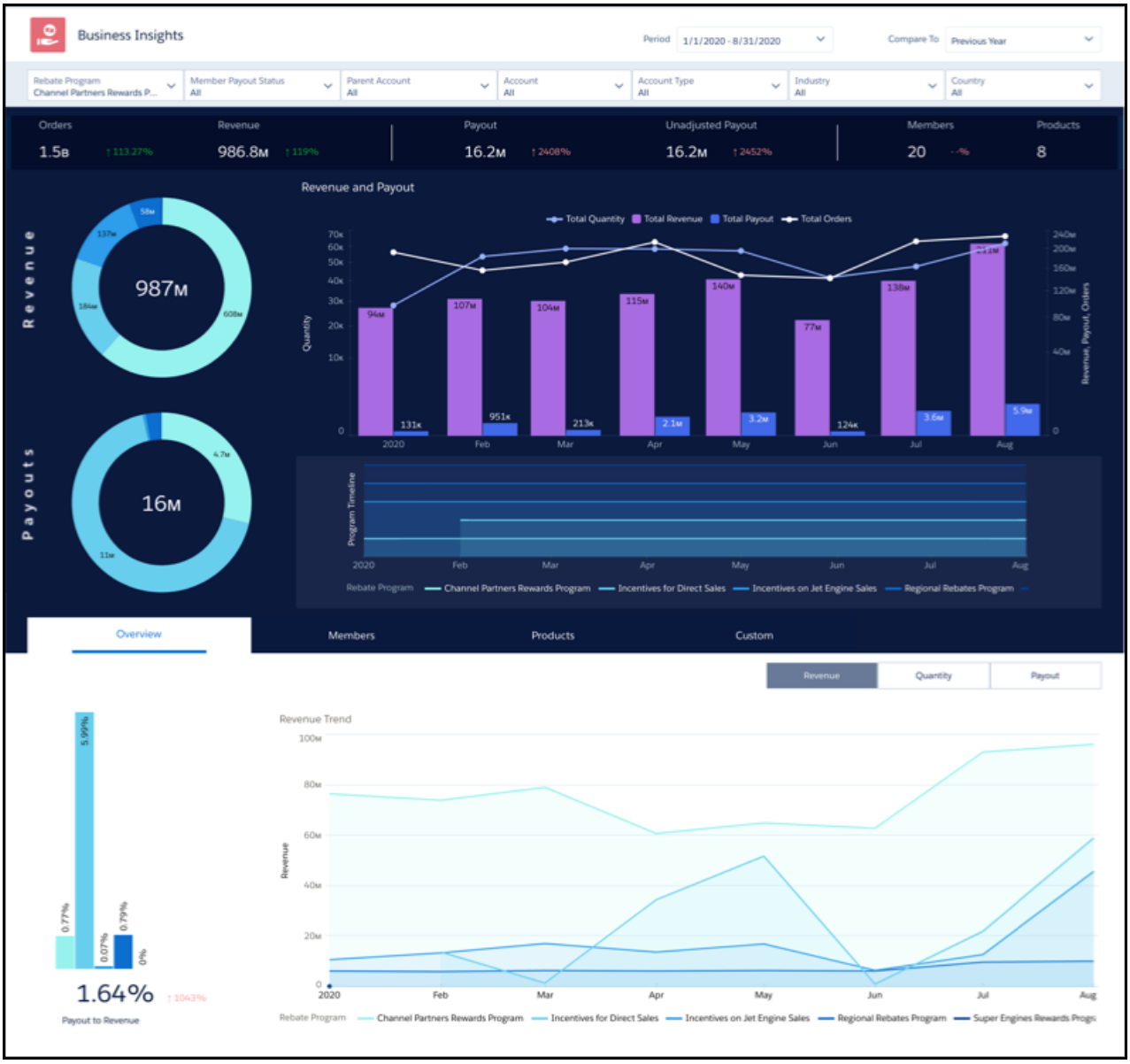
リベートプログラムの分析および Rebate Analytics によるビジネスの促進

Rebate Analytics ダッシュボードを使用して、プログラムの微調整、ビジネス目標の達成、および商品売上の増加に役立つ、リベートプログラムに関するアクション可能なインサイトを取得します。カスタムインセンティブプログラムの標準分析を取得するようにアプリケーションを設定できます。埋め込みダッシュボードでは、注文のインセンティブ、販売計画商品、および毎日使用する Salesforce ページからのリベートプログラムに関するインサイトをすぐに取得できます。事前設定済みの Einstein Discovery ストーリーを使用して、収益性に影響する要素を特定し、それを改善します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の Tableau CRM (旧称 Einstein Analytics) およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Rebate Analytics ダッシュボードを使用するには、Manufacturing Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択します。[Analytics for Manufacturing] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。



Health Cloud

Health Cloud では、患者と提供者のデータを管理するための優れた方法が提供されます。提供者レコードの作成が容易になり、電子健康カルテに対応する新しい FHIR に従ったデータモデルが構築されました。インテリジェントなドキュメント管理がより柔軟になり、使いやすくなりました。また、インテリジェントなセールスでは、外科施設への訪問からより多くのことをユーザが取得するのに役立つカレンダーが追加されました。

このセクションの内容:

- プロバイダ API の作成

  提供者データの入力をサポートする便利なビジネス API が追加され、お客様はネットワーク内のすべての提供者を容易に管理できるようになりました。

相互運用性

Health Cloud には、電子健康カルテ (EHR) のすべてのニーズに対応するまったく新しいデータモデルがあります。この新しい標準オブジェクトセットは、Health Cloud 管理パッケージの一部であった EHR データモデルに取って代わります。このデータモデルは、Fast Healthcare Interoperability Resources (FHIR) R4 標準に従うように構築されています。

インテリジェントなドキュメントの自動化

インテリジェントなドキュメントの自動化にいくつかの機能が追加され、設定しやすく使いやすいものになりました。受け取ったドキュメントをケア要請およびカスタムオブジェクトに対応付けることができ、ユーザは処理済みのドキュメントを一目で確認できます。

インテリジェントフォームリーダー

Amazon Textract を使用するインテリジェントフォームリーダーを使用すると、ドキュメントが手書き形式であっても、適切なドキュメントから適切なデータをすばやく容易に取得できます。すべての必須ドキュメントを 1 か所で管理し、ドキュメントの内容に基づいてフォローアップアクションを定義できます。

インテリジェントなセールス

インテリジェントなセールスでは、ユーザは Salesforce カレンダーを使用して訪問をより容易に追跡できます。

Analytics for Healthcare アプリケーションでの取引先種別の選択

Analytics for Healthcare アプリケーションを作成するときに個人または個別の取引先レコードタイプのどちらかを選択できるようになりました。この更新では、Salesforce 組織で使用している取引先レコードタイプをアプリケーションで正確に反映することができます。

ワクチン対象資格パッケージを使用したワクチン情報の共有

COVID-19 のワクチンについての最新情報を受け取るサインアップフォームを提供します。受信者に、その人の応答に基づいたメールとテキストメッセージを送信します。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

プロバイダ API の作成

提供者データの入力をサポートする便利なビジネス API が追加され、お客様はネットワーク内のすべての提供者を容易に管理できるようになりました。

理由: これにより、提供者レコードとその関連レコードの作成に必要ないくつかのステップが 1 回の API コールになります。

方法: 新しいビジネス API を使用すると、提供者を関連エンティティ (業務時間、専門分野など) と共にプログラムで登録することができます。

関連トピック:

http://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/hc_create_provider_api.htm

相互運用性

Health Cloud には、電子健康カルテ (EHR) のすべてのニーズに対応するまったく新しいデータモデルがあります。この新しい標準オブジェクトセットは、Health Cloud 管理パッケージの一部であった EHR データモデルに取って代わります。このデータモデルは、Fast Healthcare Interoperability Resources (FHIR) R4 標準に従うように構築されています。

このセクションの内容:

FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上
Health Cloud の相互運用性が、FHIR R4 に従った新しいデータモデルによりさらに向上しました。この新しいデータモデルのすべてがコアに構築されており、電子健康カルテ (EHR) のすべてのニーズに対応する 26 個の新しい標準オブジェクトと、いくつかの既存の Health Cloud オブジェクトへの更新が提供されます。

FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行
新しい FHIR R4 に従ったデータモデルで健康カルテを包括的に把握するためのレポートを作成します。

FHIR R4 サポートによる相互運用性の向上

Health Cloud の相互運用性が、FHIR R4 に従った新しいデータモデルによりさらに向上しました。この新しいデータモデルのすべてがコアに構築されており、電子健康カルテ (EHR) のすべてのニーズに対応する 26 個の新しい標準オブジェクトと、いくつかの既存の Health Cloud オブジェクトへの更新が提供されます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: このデータモデルを使用するには、Salesforce 組織で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

理由: HL7 の FHIR R4 で定義された業界標準に従って構築された新しいデータモデルでは、外部 EHR システムとのより高い相互運用性がサポートされます。このデータモデル内の新しいオブジェクトは、Health Cloud 管理パッケージの既存の EHR データモデル内にある対応するカスタムオブジェクトに代わるものです。

方法: 新しいデータモデルを使用するには、[設定] から、[FHIR R4 サポート設定] に移動して [FHIR に従ったデータモデル] 組織設定を有効にします。

メモ:

- Summer '22 リリース以降、新しい顧客はパッケージ化された EHR オブジェクトにレコードを作成できなくなります。このパッケージ化された EHR オブジェクトには、FHIR R4 に従ったデータモデル内にそれに対応する標準オブジェクトがあります。
- Health Cloud での今後のすべての開発は、FHIR R4 に従ったデータモデルに構築されます。EHR データモデルのパッケージ化されたオブジェクトは今後の開発には使用されません。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/hc_clinical_data_model.htm
https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/map_fhir_overview.htm
https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/map_hl7_overview.htm

FHIR R4 に従ったデータモデルでのレポートの実行

新しい FHIR R4 に従ったデータモデルで健康カルテを包括的に把握するためのレポートを作成します。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: このデータモデルを使用するには、Salesforce 組織で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

時期: この変更は Summer '21 リリースで予定されていましたが、2021 年 3 月の第 1 週から利用できます。

インテリジェントなドキュメントの自動化

インテリジェントなドキュメントの自動化にいくつかの機能が追加され、設定しやすく使いやすいものになりました。受け取ったドキュメントをケア要請およびカスタムオブジェクトに対応付けることができ、ユーザは処理済みのドキュメントを一目で確認できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

このセクションの内容:

アクションプランの自動作成
コールセンターエージェントがドキュメントを変換するときに、既成の選択可能なドキュメントチェックリスト項目セットをコールセンターエージェントに提供できるようになりました。これで、エージェントはドキュメントチェックリスト項目セットを自分で探したり、新規作成したりする必要はありません。

変換されたページの参照
患者受け入れプロセスの途中でドキュメントのページが変換された場合、新しいアイコンでユーザを一目で確認できます。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=admin_document_automation.htm

アクションプランの自動作成

コールセンターエージェントがドキュメントを変換するときに、既成の選択可能なドキュメントチェックリスト項目セットをコールセンターエージェントに提供できるようになりました。これで、エージェントはドキュメントチェックリスト項目セットを自分で探したり、新規作成したりする必要はありません。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

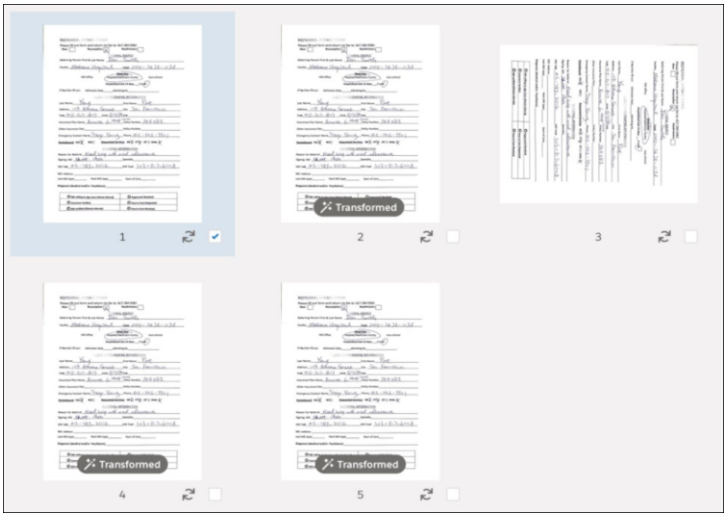
対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

方法: ドキュメント種別に基づいてアクションプランテンプレートを作成し、ドキュメントチェックリスト項目の選択肢をアクションプランテンプレートに追加します。

理由: アクションプランはドキュメントチェックリスト項目のコンテナです。ユーザがドキュメントを受け取ると、ドキュメントチェックリスト項目のリストから項目を選択して添付することができます。次回、ユーザが同様のドキュメントを受け取ると、Salesforceは同じドキュメントチェックリスト項目セットを自動的に作成します。

変換されたページの参照

患者受け入れプロセスの途中でドキュメントのページが変換された場合、新しいアイコンでユーザを一目で確認できます。



対象: この変更は、Health Cloudが有効になっているEnterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

インテリジェントフォームリーダー

Amazon Textractを使用するインテリジェントフォームリーダーを使用すると、ドキュメントが手書き形式であっても、適切なドキュメントから適切なデータをすばやく容易に取得できます。すべての必須ドキュメントを1か所で管理し、ドキュメントの内容に基づいてフォローアップアクションを定義できます。

対象: この変更は、Health Cloudが有効になっているEnterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Health Cloud ライセンスとインテリジェントフォームリーダーアドオンライセンスが必要です。ユーザにはHealth Cloud権限セットライセンスとHealth Cloudプラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

理由: ケースマネージャが患者をプログラムにサインアップしたり、患者を在宅医療サービスに参加させたりするときに、必要なドキュメントやFaxをサードパーティシステムを介して転送すると、操作がばらばらになる可能性があります。このすべての手動手順によって、ミスや遅延が増加する可能性があります。インテリジェントフォームリーダーを使用すると、Fax送信またはアップロードされたドキュメントからデータがHealth Cloudに直接取り込まれるため、ユーザはドキュメントを手動で管理する必要がなくなります。

方法: システム管理者は受け取ったドキュメント種別を Health Cloud データオブジェクトに対応付けます。ユーザがフォームを PDF、PNG、または JPEG ファイルとしてアップロードすると、Health Cloud によりレコードがドキュメントごとに自動的に作成されます。Amazon Textract により画像のデータがこのレコードに取り込まれ、Health Cloud により、システム管理者が対応付けた Salesforce オブジェクトにデータが配信されます。

印刷ドキュメントでは、インテリジェントフォームリーダーは、英語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語のテキストで機能します。手書きドキュメントでは英語のみがサポートされます。

このセクションの内容:

受け取り済みドキュメントの不明確な項目値の解決
実際のフォームは乱雑になっている可能性があります。ドキュメントの項目が複数の値に対応付けられている場合や、複数の項目が同じ値に対応付けられている場合、ユーザは、項目に対応付ける適切な値を選択することで、リアルタイムで項目値を解決できます。たとえば、[名前] 項目が Lead.FirstName に対応付けられており、Lead.FirstName がすでに入力されている場合、ユーザは元の [名] 値を保持するか置き換えるかを選択できます。

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=form_reader.htm

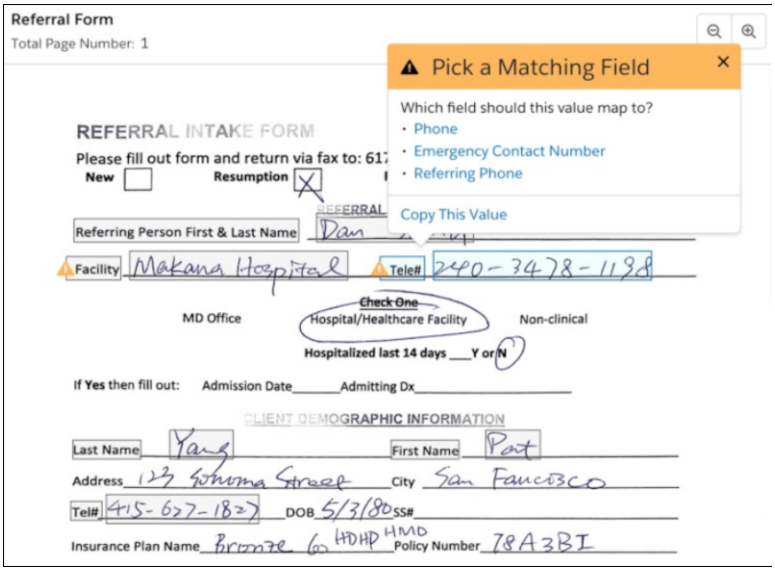
受け取り済みドキュメントの不明確な項目値の解決

実際のフォームは乱雑になっている可能性があります。ドキュメントの項目が複数の値に対応付けられている場合や、複数の項目が同じ値に対応付けられている場合、ユーザは、項目に対応付ける適切な値を選択することで、リアルタイムで項目値を解決できます。たとえば、[名前] 項目が Lead.FirstName に対応付けられており、Lead.FirstName がすでに入力されている場合、ユーザは元の [名] 値を保持するか置き換えるかを選択できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Health Cloud ライセンスとインテリジェントフォームリーダーアドオンライセンスが必要です。

方法: このフォームには、患者用と紹介施設用の 2 つの電話項目があります。コールセンターのエージェントがレコードの適切な項目を選択して、それぞれの番号を保存できるようになりました。



インテリジェントなセールス

インテリジェントなセールスでは、ユーザはSalesforceカレンダーを使用して訪問をより容易に追跡できます。

このセクションの内容:

Salesforce カレンダーでの訪問の追跡
訪問が主訪問者の Salesforce カレンダーに行動として表示されるようになりました。この変更は、訪問をより適切に監視してすべての訪問を把握しておくのに役立つ可能性があります。

Salesforce カレンダーでの訪問の追跡

訪問が主訪問者のSalesforceカレンダーに行動として表示されるようになりました。この変更は、訪問をより適切に監視してすべての訪問を把握しておくのに役立つ可能性があります。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Health Cloud用のインテリジェントなセールスを使用するには、Salesforce組織とユーザにHealth Cloud と Health Cloud アドオンのライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

方法: カレンダーに訪問を表示するには、[設定] から [訪問カレンダー設定] に移動して、[訪問を Salesforce カレンダーに追加] を有効化します。

メモ: この設定の有効化後にスケジュールされた訪問のみがカレンダーに自動的に追加されます。

Analytics for Healthcare アプリケーションでの取引先種別の選択

Analytics for Healthcare アプリケーションを作成するときに個人または個別の取引先レコードタイプのどちらかを選択できるようになりました。この更新では、Salesforce 組織で使用している取引先レコードタイプをアプリケーションで正確に反映することができます。

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: Analytics for Healthcare **テンプレートからアプリケーションを作成するには、**Healthcare Analytics Plus **アドオンライセンスが必要です。**

方法: Tableau CRM Analytics Studio **で、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Healthcare] を探して選択します。ウィザードで、個別を表す取引先レコードタイプを選択できるようになりました。**

既存のアプリケーションがある場合は、アップグレードすることで新しい機能を表示できます。アプリケーションをアップグレードするには、Tableau CRM **ホームページから [新しいバージョンをご利用いただけます] をクリックし、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、行ったカスタマイズは削除されます。**

ワクチン対象資格パッケージを使用したワクチン情報の共有

COVID-19**のワクチンについての最新情報を受け取るサインアップフォームを提供します。受信者に、その人の応答に基づいたメールとテキストメッセージを送信します。**

対象: この変更は、Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: Salesforce **で** Health Cloud **ライセンスがプロビジョニングされているなど、追加の製品、機能、またはユーザライセンスが必要な場合があります。**

関連トピック:

http://help.salesforce.com/articleView?id=vaccine_packages.htm

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud **オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。**

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **に適用されます。**

FHIR R4 に従ったデータモデル

サポートされるビジネスレコードの識別子を指定する
新しい `Identifier` **オブジェクトを使用します。**

個人が話す言語に関する詳細情報を保存する
新しい `PersonLanguage` **オブジェクトを使用します。**

観察、免疫付与、または処置のケア実施者を指定する
新しい `CarePerformer` **オブジェクトを使用します。**

薬への患者の反応に関する情報を保存する
新しい `PatientHealthReaction` **オブジェクトを使用します。**

患者の免疫付与に関する情報を保存する
新しい `PatientImmunization` **オブジェクトを使用します。**

患者の医療処置に関する情報を保存する
新しい `PatientMedicalProcedure` オブジェクトを使用します。

詳細を `PatientMedicalProcedure` レコードに追加する
新しい `PatientMedicalProcedureDetail` オブジェクトを使用します。

患者の処方薬に関する投与量情報を保存する
新しい `PatientMedicationDosage` オブジェクトを使用します。

患者の健康状態に関する情報を保存する
新しい `HealthCondition` オブジェクトを使用します。

患者のアレルギーまたは過敏症に関する情報を保存する
新しい `AllergyIntolerance` オブジェクトを使用します。

薬剤に関する情報を保存する
新しい `Medication` オブジェクトを使用します。

患者が服用しているまたは過去に服用していた薬剤に関する情報を保存する
新しい `MedicationStatement` オブジェクトを使用します。

患者に投薬指示されたまたは処方された薬剤に関する情報を保存する
新しい `MedicationRequest` オブジェクトを使用します。

患者のケア観察に関する情報を保存する
更新された `CareObservation` オブジェクトを使用します。

観察のコンポーネントを `CareObservation` レコードに追加する
新しい `CareObservationComponent` オブジェクトを使用します。

臨床的警告または通知に関する情報を保存する
新しい `ClinicalAlert` オブジェクトを使用します。

患者の外来診療に関する情報を保存する
新しい `ClinicalEncounter` オブジェクトを使用します。

診断情報を `ClinicalEncounter` レコードに追加する
新しい `ClinicalEncounterDiagnosis` オブジェクトを使用します。

外来診療の施設に関する情報を `ClinicalEncounter` レコードに追加する
新しい `ClinicalEncounterFacility` オブジェクトを使用します。

識別子を `ClinicalEncounter` レコードに追加する
新しい `ClinicalEncounterIdentifier` オブジェクトを使用します。

外来診療に関与した提供者に関する情報を `ClinicalEncounter` レコードに追加する
新しい `ClinicalEncounterProvider` オブジェクトを使用します。

外来診療の理由に関する情報を `ClinicalEncounter` レコードに追加する
新しい `ClinicalEncounterReason` オブジェクトを使用します。

`ClinicalServiceRequest` レコードを `ClinicalEncounter` レコードに関連付ける
新しい `ClinicalEncounterSvcRequest` オブジェクトを使用します。

患者のサービス要請に関する情報を保存する
新しい `ClinicalServiceRequest` オブジェクトを使用します。

詳細を `ClinicalServiceRequest` レコードに追加する
新しい `ClinicalServiceRequestDetail` オブジェクトを使用します。

患者の診断レポートに関する情報を保存する
新しい `DiagnosticSummary` オブジェクトを使用します。

ヘルスケア施設に関する情報を保存する
新しい `HealthcareFacility` オブジェクトを使用します。

患者のアカウントがまだ有効かどうかを示す
`Account` オブジェクトで新しい `IsActive` 項目を使用します。

患者のアカウントが有効であった期間を示す
`Account` オブジェクトで新しい `EffectiveDate` および `EndDate` 項目を使用します。

患者の婚姻区分を指定する
`Contact` オブジェクトで新しい `MaritalStatus` 項目を使用します。

患者の性別を指定する
`Contact` オブジェクトで新しい `Gender` 項目を使用します。

患者の死亡日を指定する
`Contact` オブジェクトで新しい `DeceasedDate` 項目を使用します。

患者が多胎児の場合、患者の出生順を指定する
`Contact` オブジェクトで新しい `MultipleBirthSequence` 項目を使用します。

Financial Services Cloud

新しいブランチ管理機能を使用してブランチのパフォーマンスと生産性を追跡します。外出中にライフイベントおよびビジネスマイルストンを取得し、保険契約コンポーネントの表示オプションをより詳細に制御します。Actionable Relationship Center (ARC) で一目で確認できる情報が増加し、準拠データ共有参加者と設定可能な関連リストセットが含まれるようになりました。参加者グループと、所有者以外の参加者の共有を使用して準拠データ共有を拡張します。新しいインタラクション概要機能を使用して、法規制に準拠する方法で、顧客またはパートナーとのインタラクションに関する構造化されたメモを作成して関係者と共有します。インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルのデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型プロセスを高速化します。改善されたコードと高パフォーマンスの RBL フレームワークを使用して、レコードの積み上げ集計計算とルックアップによる積み上げ集計 (RBL) 計算を最適化します。

このセクションの内容:

ブランチ管理

ブランチ管理を使用してブランチのパフォーマンスおよび生産性を追跡します。ブランチ管理コンソールアプリケーション、データモデル、ブランチ関連付けエンジン (ベータ) 機能を使用すると、銀行と管理者は Financial Services Cloud でブランチ、従業員、および顧客セグメントの成果を追跡できます。ブランチ管理は既存の Financial Services Cloud 機能とシームレスに連携します。また、ブランチ管理により、ブランチレベルでの組織のリレーションマーケティングの準備が整います。

Financial Services Cloud の保険

保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになったため、エージェントは外出中にライフイベントまたはビジネスマイルストンを取得できます。

Actionable Relationship Center (ARC)

ARC で有効になっているコンパクトレイアウトを使用して準拠データ共有レコードの参加者と関連リストを表示します。

インタラクション概要

新しいインタラクション概要機能を使用して、法規制に準拠する方法で、顧客またはパートナーとのインタラクションに関する構造化されたメモを作成して関係者と共有します。

準拠データ共有

参加者グループを作成し、レコードを参加者グループと共有します。所有者以外の参加者がレコードを共有でき、準拠データ共有でインタラクション概要が有効になりました。

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーを使用すると、ユーザは、スキャンされてアップロードされたファイルから項目データをコピーできます。まず、一般的なドキュメント種別の対応付けテンプレートを設定します。次に、インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルの重要なデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを高速化します。

Financial Services Cloud の積み上げ集計

レコード積み上げ集計およびレコード積み上げ集計トリガの最適化コードを使用します。新しい高パフォーマンスの RBL フレームワークを使用して、ルックアップによる積み上げ集計 (RBL) 計算をより迅速に実行します。

Financial Services Cloud のその他の変更

Financial Services Cloud のその他の機能強化で、より多くの操作を実行できるようになりました。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

Financial Services Cloud の新しいメタデータ型

新しいメタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

ブランチ管理

ブランチ管理を使用してブランチのパフォーマンスおよび生産性を追跡します。ブランチ管理コンソールアプリケーション、データモデル、ブランチ関連付けエンジン(ベータ)機能を使用すると、銀行と管理者は Financial Services Cloud でブランチ、従業員、および顧客セグメントの成果を追跡できます。ブランチ管理は既存の Financial Services Cloud 機能とシームレスに連携します。また、ブランチ管理により、ブランチレベルでの組織のリレーションマーケティングの準備が整います。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ブランチ階層を設定して、必要に応じてサービステリトリーや取引先階層と同期します。ブランチおよび関連付けられたレコードを、Salesforce Scheduler と Field Service Lightning を強化する主な Service Cloud オブジェクト (サービステリトリー、サービステリトリーメンバー、サービスリソース) にリンクします。

取引先およびリードの自動ブランチ関連付けを有効にするには、ブランチセレクタコンポーネントを Salesforce アプリケーションに追加します。

このセクションの内容:

ブランチデータモデルを使用したブランチ階層とメンバーの把握

ブランチ管理データモデルでは、ブランチユニット、ビジネスメンバー、およびバンカーオブジェクトを使用して、ブランチ階層と個人の割り当てを定義できます。ビジネスメンバーオブジェクトインターフェースを実装するカスタムオブジェクトを作成して、ブランチメンバー種別を作成します。ブランチユニット顧客およびブランチユニット関連レコードオブジェクトを使用して、顧客と他のレコードを特定のブランチに関連付けます。ブランチデータをサービステリトリーとサービスリソースに関連付けて、Service Cloud レコードに一致させます。

ブランチ管理コンソールでのブランチとメンバーの定義

ブランチ管理コンソールを使用すると、システム管理者はブランチ階層と、ブランチおよびブランチメンバーに関するレコードデータを1か所で定義することができます。アプリケーションには、ブランチユニット、バンカー、およびブランチユニットビジネスメンバーの割り当てを表示および編集するためのタブが含まれます。システム管理者は、アプリケーションへのアクセス権をブランチマネージャと他のユーザに付与できます。アクセス権があるユーザは、誰でもブランチ情報を管理できます。

ブランチセレクタを使用したブランチコンテキストの設定

ブランチセレクタは、ユーザが作業しているブランチユニットを選択できるユーティリティバーツールです。ユーザが現在のブランチを選択すると、そのユーザが作成した取引先またはリードレコードがそのブランチに自動的に関連付けられます。ユーザの現在のブランチは、ユーザが別のブランチを選択するまで有効です。ブランチセレクタコンポーネントは任意の Financial Services Cloud アプリケーション (Wealth Management、Retail Banking など) に追加できます。

自動ブランチ関連付け (ベータ) を使用した取引先とリードの作成の追跡

各ブランチでバンカーが作成した取引先とリードを自動的に追跡することで、ブランチのパフォーマンスと生産性に関するインサイトを得ます。取引先、リード、ブランチメンバーに関するブランチ固有のレポートを作成することで、ブランチのパフォーマンスを監視します。

Analytics for Retail Banking アプリケーションでのブランチ操作の改善

操作を改善できるように、さまざまなブランチの従業員のパフォーマンスをより詳細に把握する必要がありますか? スキルがさまざまなブランチにどのように分散しているかを確認できるようにする必要がありますか? Analytics for Retail Banking アプリケーションで新しいブランチ管理ダッシュボードを使用して、さまざまなブランチの従業員の活動を包括的に把握できます。たとえば、さまざまなブランチの従業員の顧客、合計残高、リードの取引開始、商談成立を確認できます。

ブランチデータモデルを使用したブランチ階層とメンバーの把握

ブランチ管理データモデルでは、ブランチユニット、ビジネスメンバー、およびバンカーオブジェクトを使用して、ブランチ階層と個人の割り当てを定義できます。ビジネスメンバーオブジェクトインターフェースを実装するカスタムオブジェクトを作成して、ブランチメンバー種別を作成します。ブランチユニット顧客およびブランチユニット関連レコードオブジェクトを使用して、顧客と他のレコードを特定のブランチに関連付けます。ブランチデータをサービステリトリーとサービスリソースに関連付けて、Service Cloud レコードに一致させます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ブランチ管理データモデルでは、ブランチ構造と、従業員およびパートナーの割り当てを定義できるため、活動とパフォーマンスをブランチ別に追跡できます。

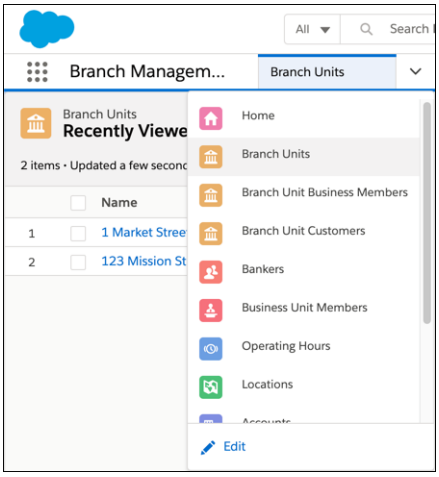
ブランチ管理コンソールでのブランチとメンバーの定義

ブランチ管理コンソールを使用すると、システム管理者はブランチ階層と、ブランチおよびブランチメンバーに関するレコードデータを1か所で定義することができます。アプリケーションには、ブランチユニット、バンカー、およびブランチユニットビジネスメンバーの割り当てを表示および編集するためのタブが含まれます。システム管理者は、アプリケーションへのアクセス権をブランチマネージャと他のユーザに付与できます。アクセス権があるユーザは、誰でもブランチ情報を管理できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、ブランチ管理コンソールアプリケーションを見つけて開きます

ブランチ管理ナビゲーションメニューを開くと、ブランチ、バンカー、ビジネスユニットメンバー、ブランチの顧客を操作するためのオプションが表示されます。

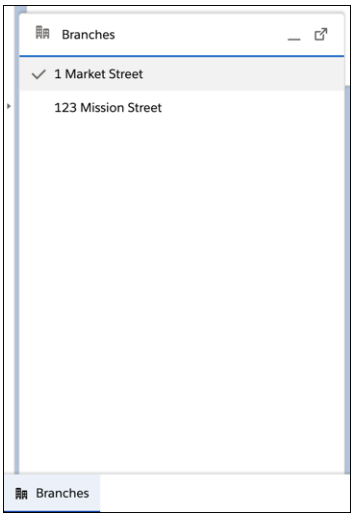


ブランチセレクタを使用したブランチコンテキストの設定

ブランチセレクタは、ユーザが作業しているブランチユニットを選択できるユーティリティバーツールです。ユーザが現在のブランチを選択すると、そのユーザが作成した取引先またはリードレコードがそのブランチに自動的に関連付けられます。ユーザの現在のブランチは、ユーザが別のブランチを選択するまで有効です。ブランチセレクタコンポーネントは任意の Financial Services Cloud アプリケーション (Wealth Management、Retail Banking など) に追加できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ブランチセレクタコンポーネントをアプリケーションに追加して、ブランチマネージャとメンバーが現在作業しているブランチを指定できるようにします。



自動ブランチ関連付け (ベータ) を使用した取引先とリードの作成の追跡

各ブランチでバンカーが作成した取引先とリードを自動的に追跡することで、ブランチのパフォーマンスと生産性に関するインサイトを得ます。取引先、リード、ブランチメンバーに関するブランチ固有のレポートを作成することで、ブランチのパフォーマンスを監視します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 新しい取引先およびリードをブランチに自動的に割り当てます。有効な現在のブランチを持つ有効なバンカーが取引先またはリードレコードを作成または編集するたびに自動割り当てが実行されます。

新しいリードを元のブランチまで追跡し、ブランチの生産性に関するインサイトを得ます。

Analytics for Retail Banking アプリケーションでのブランチ操作の改善

操作を改善できるように、さまざまなブランチの従業員のパフォーマンスをより詳細に把握する必要がありますか? スキルがさまざまなブランチにどのように分散しているかを確認できるようにする必要がありますか? Analytics for Retail Banking アプリケーションで新しいブランチ管理ダッシュボードを使用して、さまざまなブランチの従業員の活動を包括的に把握できます。たとえば、さまざまなブランチの従業員の顧客、合計残高、リードの取引開始、商談成立を確認できます。

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、** Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: Analytics for Retail Banking **アプリケーションは、** Salesforce Financial Services Cloud **ユーザのみを対象としています。** Analytics for Retail **テンプレートからアプリケーションを作成するには、** FSC Analytics Plus **アドオンライセンスも必要です。**

方法: Tableau CRM Analytics Studio **で、[作成]をクリックして[アプリケーション]を選択します。[Analytics for Retail Banking]を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。新しいダッシュボードがテンプレートに含まれています。**

既存のアプリケーションがある場合は、アップグレードすることで新しい機能を表示できます。アプリケーションをアップグレードするには、 Tableau CRM **ホームページから[新しいバージョンをご利用いただけます]をクリックし、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、行ったカスタマイズは削除されます。**

Financial Services Cloud の保険

保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになったため、エージェントは外出中にライフイベントまたはビジネスマイルストンを取得できます。

このセクションの内容:

外出中でのライフイベントおよびビジネスマイルストンの取得

主な請求オブジェクトおよび保険契約オブジェクトに追加された PK Chunking サポート

保険契約コンポーネントの機能強化

Analytics for Insurance

外出中でのライフイベントおよびビジネスマイルストンの取得

ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになりました。場所を問わず、モバイルデバイスで数回タップするだけでイベントまたはマイルストンを取得できます。イベントまたはマイルストンの詳細を表示するには、該当のイベントまたはマイルストンをタップします。

主な請求オブジェクトおよび保険契約オブジェクトに追加された PK Chunking サポート

主キー (PK) Chunking **サポートを** Claim、ClaimParticipant、CustomerProperty、InsurancePolicy、InsurancePolicyAsset、**および** InsurancePolicyParticipant **オブジェクトに追加しました。** PK Chunking **を使用すると、これらのオブジェクトで一括クエリを実行するときのパフォーマンスと信頼性が向上します。**

保険契約コンポーネントの機能強化

保険契約コンポーネントの新しい[保険契約の種類の順序を設定]オプションを使用して、最も一般的なまたは最も頻繁に使用される保険契約の種類をリストの最上部に表示します。表示する情報を反映する保険契約コンポーネントのカスタムタイトルを作成します。

Analytics for Insurance

新しい Analytics for Insurance **ダッシュボードを使用して世帯を分析し、クロスセル商談を明らかにします。改善された設定ウィザードを使用すると、** Analytics for Insurance **アプリケーションのデータをより容易にカスタマイズできます。** Einstein Discovery for Insurance Analytics **テンプレートを使用して、さらに迅速に予測インサイトを得ます。**

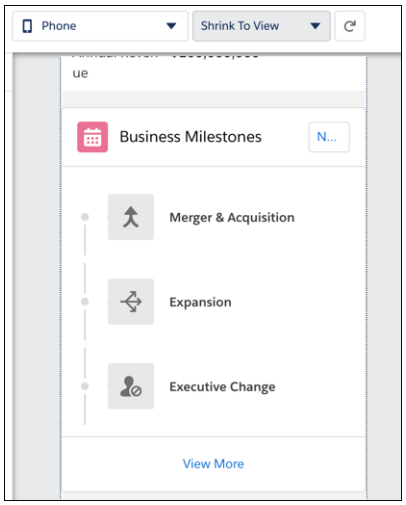
外出中でのライフイベントおよびビジネスマイルストンの取得

ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントがモバイルデバイスでサポートされるようになりました。場所を問わず、モバイルデバイスで数回タップするだけでイベントまたはマイルストンを取得できます。イベントまたはマイルストンの詳細を表示するには、該当のイベントまたはマイルストンをタップします。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: ライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントをモバイルデバイスの取引先または個人取引先ページレイアウトに追加します。



主な請求オブジェクトおよび保険契約オブジェクトに追加された PK Chunking サポート

主キー (PK) Chunking サポートを Claim、ClaimParticipant、CustomerProperty、InsurancePolicy、InsurancePolicyAsset、および InsurancePolicyParticipant オブジェクトに追加しました。PK Chunking を使用すると、これらのオブジェクトで一括クエリを実行するときのパフォーマンスと信頼性が向上します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

保険契約コンポーネントの機能強化

保険契約コンポーネントの新しい[保険契約の種類の順序を設定]オプションを使用して、最も一般的なまたは最も頻繁に使用される保険契約の種類をリストの最上部に表示します。表示する情報を反映する保険契約コンポーネントのカスタムタイトルを作成します。

このセクションの内容:

必要な順序で保険契約の種類を表示
保険契約コンポーネントの保険契約の種類の表示順序をカスタマイズできるようになりました。たとえば、最も一般的なまたは最も頻繁に使用される保険契約の種類をリストの最上部に表示できます。デフォルトでは、保険契約の種類はアルファベット順に表示されます。

保険契約コンポーネントのカスタムタイトルの作成
表示するように選択した情報を最も適切に示しているカスタムタイトルに保険契約コンポーネントのデフォルトタイトルを変更できるようになりました。

保険契約コンポーネントへのその他の変更
保険契約コンポーネントのユーザエクスペリエンスを向上させる、その他の小さくても重要な変更について説明します。

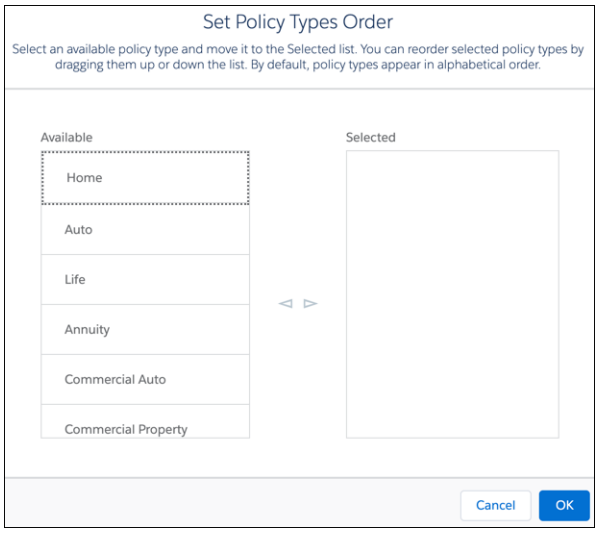
必要な順序で保険契約の種類を表示

保険契約コンポーネントの保険契約の種類の表示順序をカスタマイズできるようになりました。たとえば、最も一般的なまたは最も頻繁に使用される保険契約の種類をリストの最上部に表示できます。デフォルトでは、保険契約の種類はアルファベット順に表示されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法:取引先ページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。プロパティペインの[保険契約の種類の順序を設定] で [選択] をクリックします。保険契約の種類を [選択済み] リストに移動し、リスト内で上下にドラッグして並び替えます。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: 保険契約の種類の順序を設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

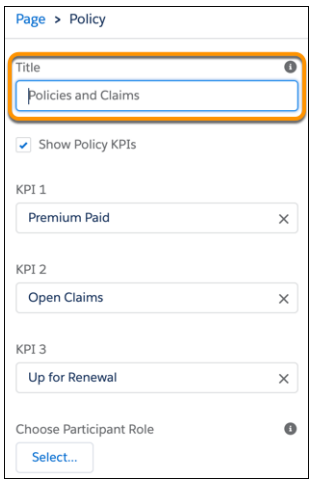
保険契約コンポーネントのカスタムタイトルの作成

表示するように選択した情報を最も適切に示しているカスタムタイトルに保険契約コンポーネントのデフォルトタイトルを変更できるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。プロパティペインの [タイトル] 項目にコンポーネントのタイトルを入力します。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: 保険契約コンポーネントのカスタムタイトルの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保険契約コンポーネントへのその他の変更

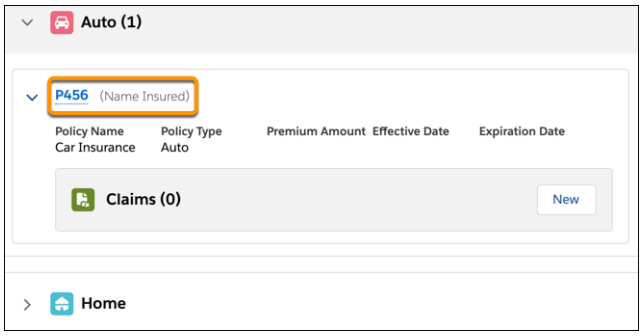
保険契約コンポーネントのユーザエクスペリエンスを向上させる、その他の小さくても重要な変更について説明します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

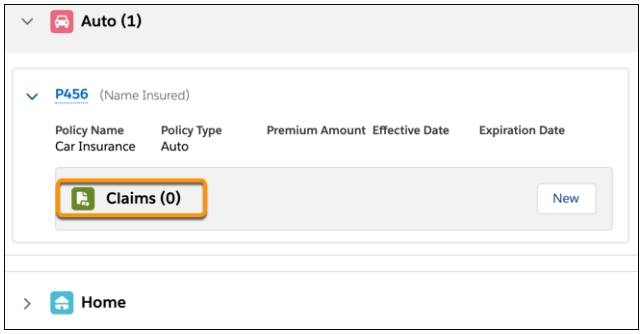
理由: 保険契約コンポーネントをより使いやすくするため、大きな違いをもたらす可能性がある小さな変更をいくつか加えました。

保険契約コンポーネントで静的表示ラベルを使用しない

保険契約コンポーネントで保険契約レコードの [被保険者名] 項目の表示ラベルを使用して、その取引先または世帯が保険契約所有者であることを示すようになりました。以前は、静的表示ラベル ([所有者]) を使用していました。



請求の新しいアイコン
古い請求アイコンが新しい請求アイコンに置き換えられて、請求がより適切に示されます。



契約の各種類の下により多くのポリシーを表示する
保険契約コンポーネントの保険契約の各種類の下に 10 個の保険契約が表示されるようになりました。以前は 5 個表示されました。

最も関連性の高い詳細を表示する
コンポーネントから [証券番号] 項目が削除されたため、ユーザは任意の 1 つの項目を追加できます。関連するページレイアウトで、[保険契約] 関連リストを編集して必要な項目を追加します。

Analytics for Insurance

新しい Analytics for Insurance ダッシュボードを使用して世帯を分析し、クロスセル商談を明らかにします。改善された設定ウィザードを使用すると、Analytics for Insurance アプリケーションのデータをより容易にカスタマイズできます。Einstein Discovery for Insurance Analytics テンプレートを使用して、さらに迅速に予測インサイトを得ます。

このセクションの内容:

世帯の分析およびクロスセル商談の発見

新しい世帯ダッシュボードはエージェントがクライアントリストを効果的に管理し、価値の高い世帯を特定し、収益を増加する商談を発見するのに役立ちます。

リード履歴を含むまたは含まないアプリケーションの作成

強化されたウィザードによりアプリケーションを作成するときの柔軟性が向上します。リード履歴データをダッシュボードに含めるか除外するかを選択できます。

より迅速な予測の設定

拡張された設定ウィザードを使用して、さらに迅速に Einstein Discovery for Insurance Analytics アプリケーションの予測を設定します。データセットの作成、ストーリーの実行、モデルのリリース、およびダッシュボードの作成を 1 回クリックするだけで行うことができます。

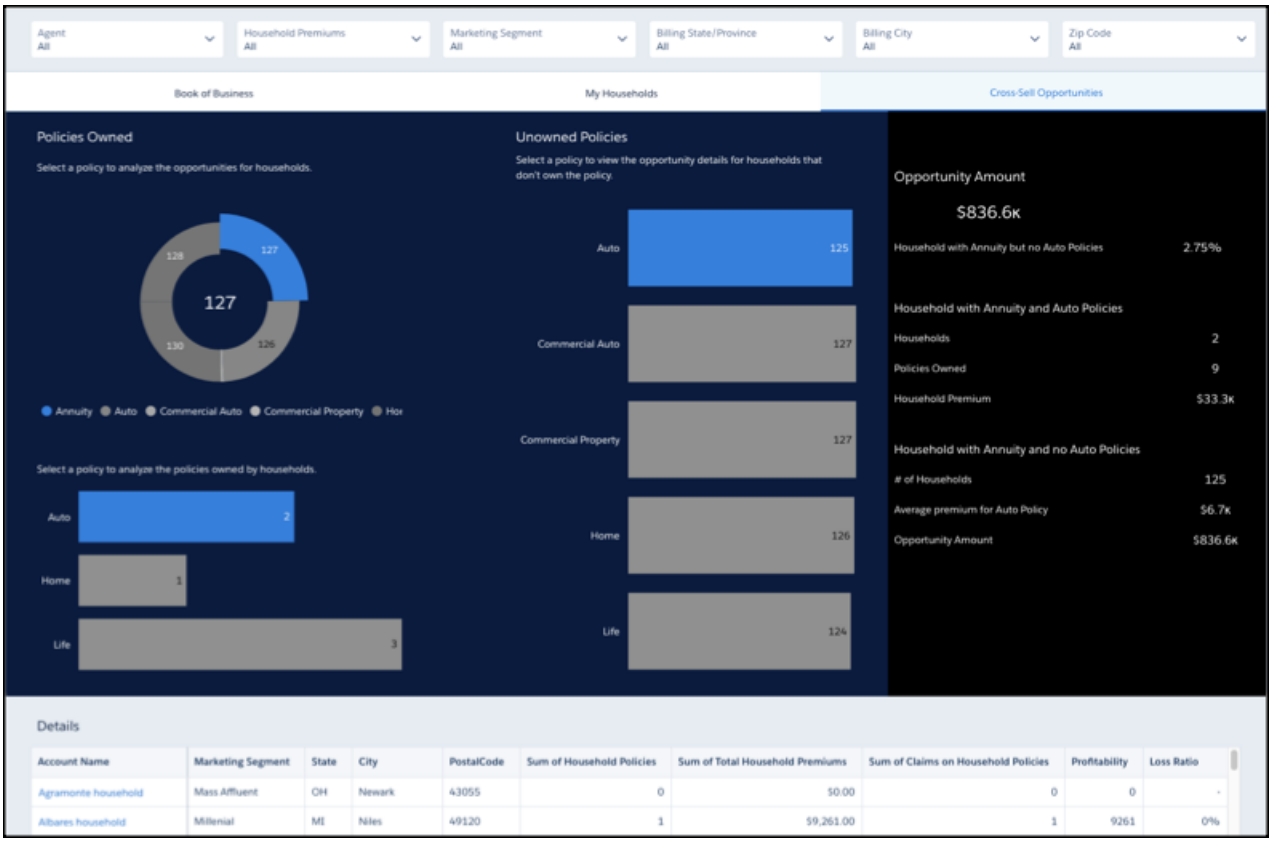
世帯の分析およびクロスセル商談の発見

新しい世帯ダッシュボードはエージェントがクライアントリストを効果的に管理し、価値の高い世帯を特定し、収益を増加する商談を発見するのに役立ちます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud for Insurance が有効になっている Professional Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Insurance テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Analytics for Insurance]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。



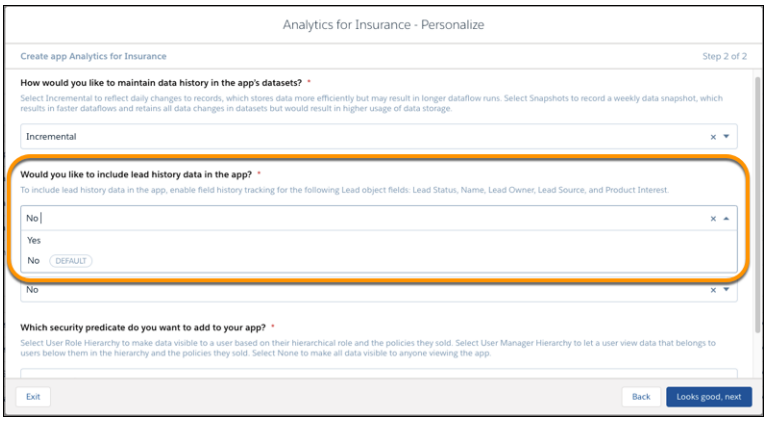
リード履歴を含むまたは含まないアプリケーションの作成

強化されたウィザードによりアプリケーションを作成するときの柔軟性が向上します。リード履歴データをダッシュボードに含めるか除外するかを選択できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud for Insurance が有効になっている Professional Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Insurance テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: 設定ウィザードを使用して、リード履歴データをアプリケーションに含めるか除外します。



より迅速な予測の設定

拡張された設定ウィザードを使用して、さらに迅速に Einstein Discovery for Insurance Analytics アプリケーションの予測を設定します。データセットの作成、ストーリーの実行、モデルのリリース、およびダッシュボードの作成を 1 回クリックするだけで行うことができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud for Insurance が有効になっている Professional Edition、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Einstein Discovery for Insurance Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Einstein Discovery for Insurance Analytics]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Actionable Relationship Center (ARC)

ARC で有効になっているコンパクトレイアウトを使用して準拠データ共有レコードの参加者と関連リストを表示します。

このセクションの内容:

ARC でのレコード参加者の表示
ARC の詳細パネルには、選択したレコードへのアクセス権を持つ参加者と参加者グループのリストが表示されるようになりました。

ARC の関連リストの変更
ARC で有効になっているコンパクトレイアウトを使用して最大 10 個の関連リストを表示します。Financial Services Cloud 連結オブジェクトの後に関連リストがデフォルトで折りたたまれた状態で表示されるようになりました。

ARC でのレコード参加者の表示

ARC の詳細パネルには、選択したレコードへのアクセス権を持つ参加者と参加者グループのリストが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ARC 詳細パネルで、[参加者] タブを選択します。

メモ: レコードの参加者を表示するには、選択したレコードタイプの準拠データ共有を有効にする必要があります。

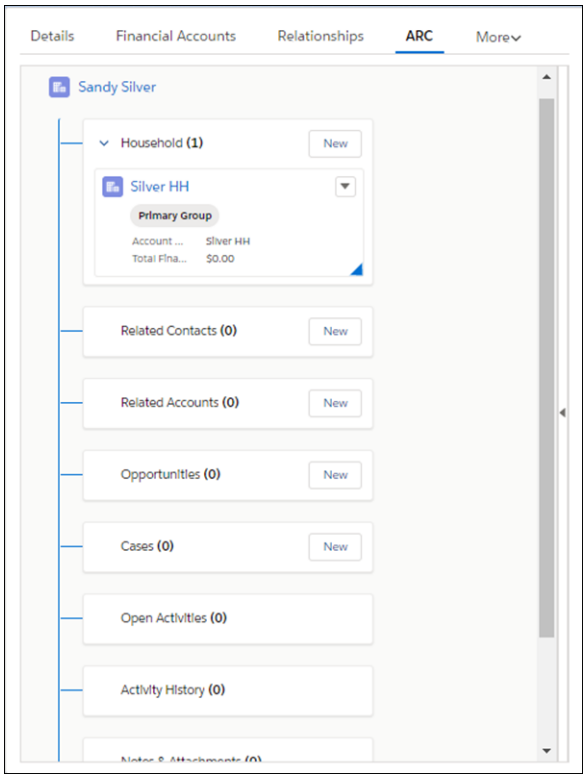
ARC の関連リストの変更

ARC で有効になっているコンパクトレイアウトを使用して最大 10 個の関連リストを表示します。Financial Services Cloud 連結オブジェクトの後に関連リストがデフォルトで折りたたまれた状態で表示されるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーでルートオブジェクトのデフォルトページレイアウトを編集し、関連リストコンテナに関連リストを追加または削除します。

メモ: ARC には、コンパクトレイアウトが有効になっている関連リストのみが表示されます。



インタラクション概要

新しいインタラクション概要機能を使用して、法規制に準拠する方法で、顧客またはパートナーとのインタラクションに関する構造化されたメモを作成して関係者と共有します。

このセクションの内容:

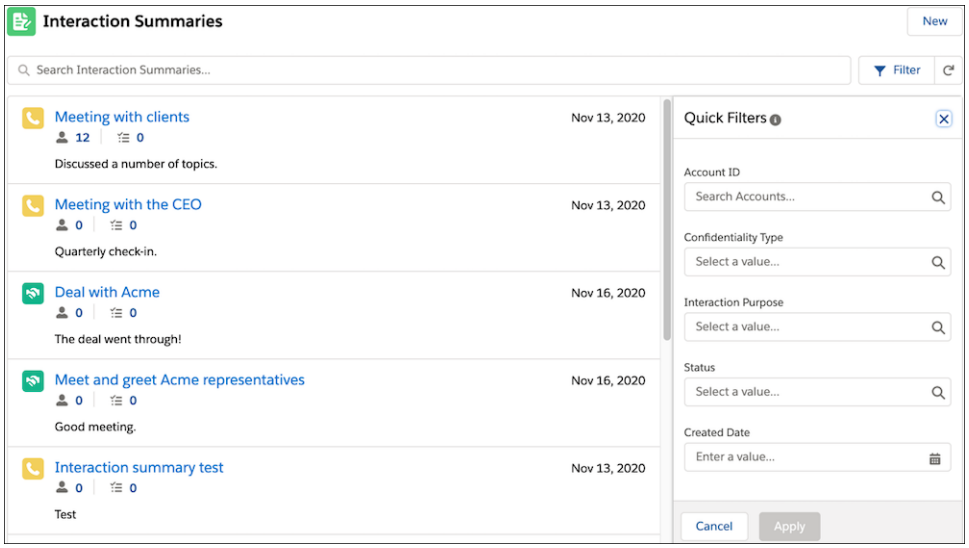
インタラクション概要を使用したミーティングメモの取得および共有
バンカーとファイナンシャルアドバイザーは新しいインタラクション概要データモデルを使用して、顧客との関係を構築し、深めることができます。顧客およびパートナーとのインタラクションのあらゆる側面を管理し、構造化されたメモ取りオプションと、法規制に準拠するロールベースのデータ共有オプションを利用できます。インタラクション概要 Lightning コンポーネントをホームまたは取引先ページに追加すると、インタラクションにリンクするインタラクション概要を作成できます。また、インタラクション被招集者 Lightning コンポーネントをインタラクション概要またはインタラクションページに追加すると、被招集者を容易に表示および追加できます。

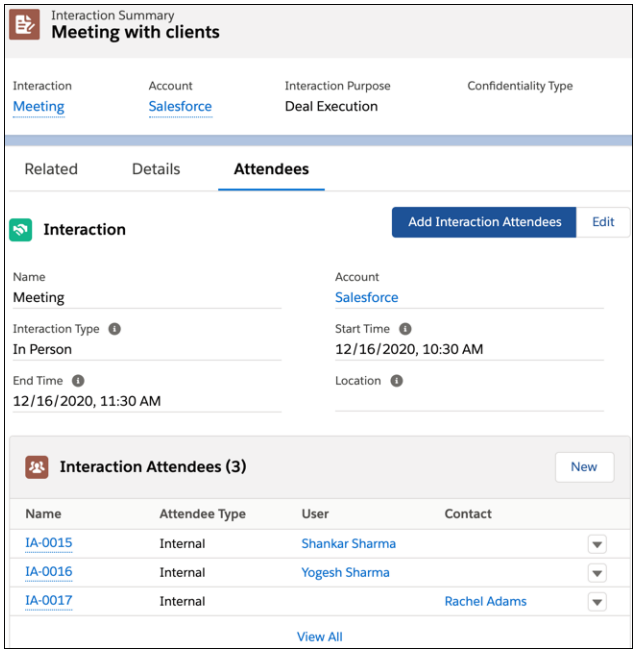
インタラクション概要を使用したミーティングメモの取得および共有

バンカーとファイナンシャルアドバイザーは新しいインタラクション概要データモデルを使用して、顧客との関係を構築し、深めることができます。顧客およびパートナーとのインタラクションのあらゆる側面を管理し、構造化されたメモ取りオプションと、法規制に準拠するロールベースのデータ共有オプションを利用できます。インタラクション概要 Lightning コンポーネントをホームまたは取引先ページに追加すると、インタラクションにリンクするインタラクション概要を作成できます。また、インタラクション被招集者 Lightning コンポーネントをインタラクション概要またはインタラクションページに追加すると、被招集者を容易に表示および追加できます。

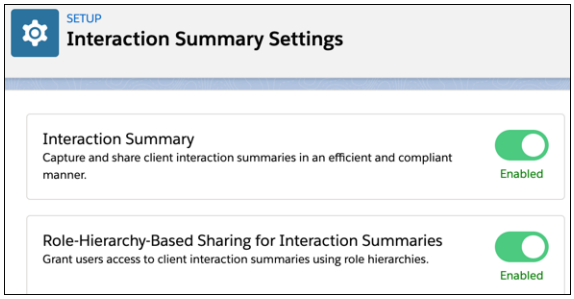
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: インタラクション概要を作成するときに、バンカーとファイナンシャルアドバイザーは詳細なミーティングメモを作成し、メモの機密レベルを指定して、アクション項目または次のステップを追加できます。機密情報を含むメモを、関連する関係者のみと共有してコンプライアンスを維持できます。次のミーティングの前に、インタラクション概要をすばやく検索または絞り込んで、過去のインタラクション概要を探して確認し、ミーティングへの適切な準備を整えることができます。取引先ページでは、インタラクション概要コンポーネントには、その取引先のすべてのインタラクション概要が表示されます。ホームページでは、バンカーがアクセスできる、すべての取引先のインタラクション概要が表示されます。





方法:組織でインタラクション概要を有効化するには、[設定] の [相互関係サマリー設定] ページで、[インタラクション概要] を有効化します。



関連トピック:

法規制に準拠する方法でのインタラクション概要の共有

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: インタラクション概要の取得および共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

準拠データ共有

参加者グループを作成し、レコードを参加者グループと共有します。所有者以外の参加者がレコードを共有でき、準拠データ共有でインタラクション概要が有効になりました。

このセクションの内容:

参加者グループとのレコードの共有
参加者グループは、レコードインタラクション内で同じ役割を果たすユーザを含む、準拠データ共有で使用されるグループです。参加者グループを作成し、参加者と同様にレコードを参加者グループと共有します。

所有者以外によるレコードの共有の許可
準拠データ共有では、レコードへの編集アクセス権を持つ参加者がそのレコードを他の参加者と共有できるようになりました。

法規制に準拠する方法でのインタラクション概要の共有
インタラクション概要では、顧客とのやり取りを取得および管理し、顧客との関係を構築するための別の方法がユーザに提供されます。準拠データ共有を使用すると、重要な非公開情報 (Material Non-Public Information: MNPI) などの機密情報を含むインタラクション概要が、関連する関係者のみと共有されるため、コンプライアンスが維持されます。

参加者グループとのレコードの共有

参加者グループは、レコードインタラクション内で同じ役割を果たすユーザを含む、準拠データ共有で使用されるグループです。参加者グループを作成し、参加者と同様にレコードを参加者グループと共有します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: レコードを補償チームやサポートチームなどのユーザグループと共有します。チームメンバーごとに個別の参加者レコードを作成する必要はありません。グループ内の各ユーザではなく参加者グループをレコード

に割り当てることで、共有テーブル操作が最小化され、パフォーマンスが向上します。参加者グループのメンバーは、個々のユーザ、参加者グループ、またはそれらの組み合わせです。

メモ: 1 つのレコードには、最大で 20 人の参加者を含めることができます。

方法:[設定] で、[準拠データ共有] の下の [参加者グループ] を選択します。参加者グループを作成したら、参加者と同様にレコードを参加者グループと共有します。

所有者以外によるレコードの共有の許可

準拠データ共有では、レコードへの編集アクセス権を持つ参加者がそのレコードを他の参加者と共有できるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: レコードへの編集アクセス権を持つ、所有者以外の参加者は、そのレコードを他の関連するチームメンバーと共有できます。

法規制に準拠する方法でのインタラクション概要の共有

インタラクション概要では、顧客とのやり取りを取得および管理し、顧客との関係を構築するための別の方法がユーザに提供されます。準拠データ共有を使用すると、重要な非公開情報 (Material Non-Public Information: MNPI) などの機密情報を含むインタラクション概要が、関連する関係者のみと共有されるため、コンプライアンスが維持されます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- インタラクション概要を使用したミーティングメモの取得および共有

インテリジェントフォームリーダー

インテリジェントフォームリーダーを使用すると、ユーザは、スキャンされてアップロードされたファイルから項目データをコピーできます。まず、一般的なドキュメント種別の対応付けテンプレートを設定します。次に、インテリジェントフォームリーダーを使用して、アップロードされたファイルの重要なデータを認識し、コピーすることで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを高速化します。

このセクションの内容:

- 対応付けを使用した財務データキャプチャの自動化
  レコード管理を簡素化し、顧客の財務データの取得に関する手動作業とエラーを減らします。OCR 対応付けにより、顧客が送信した情報 (W2 フォーム、納税申告書、他の財務書類など) からのデータ収集が自動化されます。次に、レコードを更新または作成したり、レコードを使用して既存のレコードの正確性を検証したりできます。

アップロードされたドキュメントからの情報の抽出

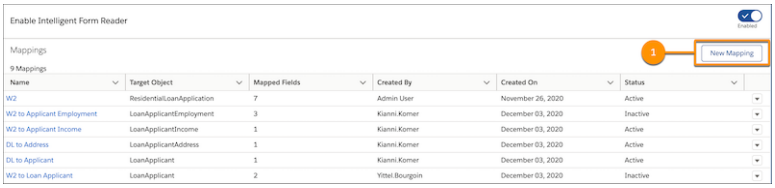
光学式文字認識(OCR)テクノロジを使用して、借主、パートナー、またはローン担当者によりアップロードされたドキュメントから項目を抽出することで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを加速します。ドキュメントチェックリスト項目を使用するSalesforceプロセスでこの新しいインテリジェントフォームリーダー機能を使用できます。

対応付けを使用した財務データキャプチャの自動化

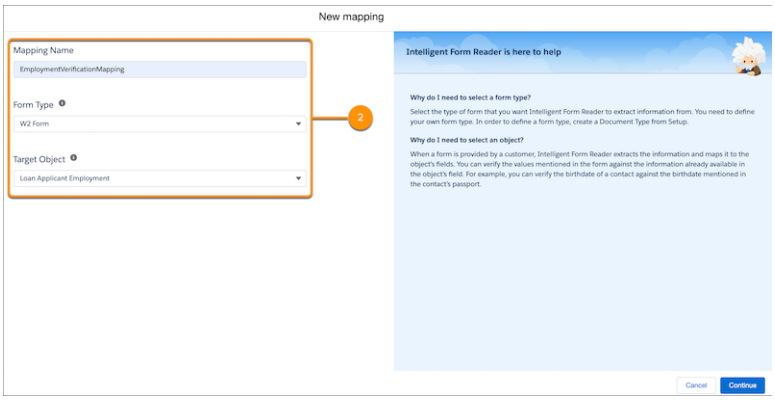
レコード管理を簡素化し、顧客の財務データの取得に関する手動作業とエラーを減らします。OCR対応付けにより、顧客が送信した情報(W2フォーム、納税申告書、他の財務書類など)からのデータ収集が自動化されます。次に、レコードを更新または作成したり、レコードを使用して既存のレコードの正確性を検証したりできます。

対象: この変更は、AWSTextract1000LimitAddOnが有効になっているProfessional Edition、Enterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: ドキュメントがアップロードされたときに取得する必要がある項目を特定します。インテリジェントフォームリーダーを使用して、項目の対応付けを作成します。

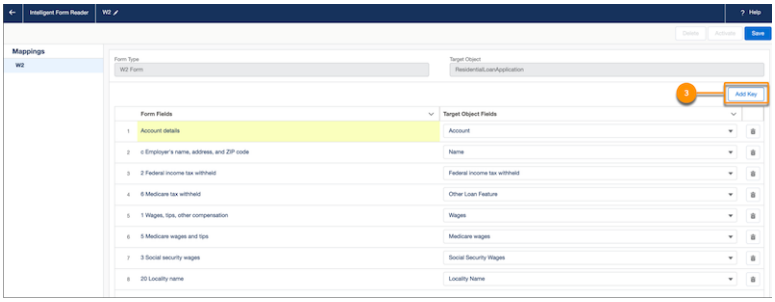


スキャンするフォーム種別と、スキャンしたデータを保存するオブジェクトを定義します。



アップロードされたドキュメントからSalesforceオブジェクト項目に対応付けるキーを追加し、キー名を定義します。

たとえば、借主がアップロードしたW2フォームから雇用の詳細を確認する対応付けを作成できます。フォームリーダーは、指定された領域から情報を抽出して対応付け項目に保存します。



アップロードされたドキュメントからの情報の抽出

光学式文字認識 (OCR) テクノロジを使用して、借主、パートナー、またはローン担当者によりアップロードされたドキュメントから項目を抽出することで、ドキュメント駆動型のビジネスプロセスを加速します。ドキュメントチェックリスト項目を使用する Salesforce プロセスでこの新しいインテリジェントフォームリーダー機能を使用できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 多くの場合、ユーザは重要な情報を入力または確認するときに重要なドキュメントのスキャンを使用します。スキャンされたドキュメントに基づいて項目データを手動で入力する作業には時間がかかることがあります。ドキュメントファイルからデータを自動的に抽出すると、ドキュメント駆動型のデータ取得プロセスの時間が短縮される可能性があります。

方法: 重要な情報の収集または確認に必要なドキュメントファイルをドキュメントチェックリスト項目としてリストします。次に、Salesforce ユーザまたは Experience Cloud ユーザが各ドキュメントのファイルをアップロードします。他の Salesforce ユーザが、アップロードされたファイルを確認し、インテリジェントフォームリーダーの OCR 機能を使用してファイルから項目データを抽出します。

たとえば、ローン申込人が雇用の確認のために最新の W2 フォームのスキャンをアップロードするとします。次に、ローン担当者がアップロードされたファイルを確認します。ローン担当者は、スキャンされたドキュメントの視覚領域をローン申込雇用レコードの項目に対応付ける W2 対応付けテンプレートを選択します。次に、インテリジェントフォームリーダーコンポーネントで視覚領域のテキスト情報が認識およびコピーされて、対応する項目に保存されます。

Financial Services Cloud の積み上げ集計

レコード積み上げ集計およびレコード積み上げ集計トリガの最適化コードを使用します。新しい高パフォーマンスの RBL フレームワークを使用して、ルックアップによる積み上げ集計 (RBL) 計算をより迅速に実行します。

このセクションの内容:

Data Processing Engine を使用したルックアップによる積み上げ集計計算の迅速な実行
新しいルックアップによる積み上げ集計 (RBL) フレームワークに切り替えて、Tableau CRM の優れた処理能力を使用して RBL ルールの計算を高速化します。新しい RBL フレームワークを使用すると、既存の RBL ルールを Data Processing Engine 定義に変換できます。高パフォーマンスの Data Processing Engine 定義により、財務情報を集計するための処理時間が大幅に短縮されます。Data Processing Engine には、RBL ルールを定義または変更するときの高い柔軟性があります。たとえば、複数のデータ取得元を追加したり、結合や追加を定義したり、ルールに数式を追加したりできます。

レコードの積み上げ集計の最適化 (正式リリース)
[レコード積み上げの最適化]組織設定を使用して、レコードの積み上げ集計パフォーマンスを改善します。

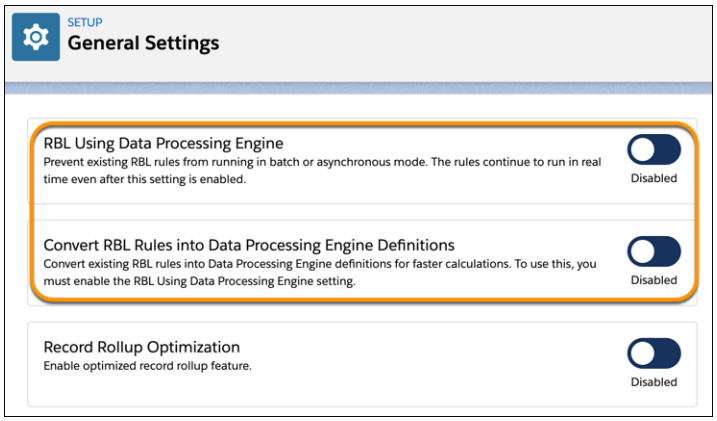
最適化されたレコード積み上げ集計トリガの使用
最適化コードを使用して、より多くのオブジェクトで、Before Insert および Before Update レコード積み上げ集計トリガのパフォーマンスを改善します。

Data Processing Engine を使用したルックアップによる積み上げ集計計算の迅速な実行

新しいルックアップによる積み上げ集計 (RBL) フレームワークに切り替えて、Tableau CRM の優れた処理能力を使用して RBL ルールの計算を高速化します。新しい RBL フレームワークを使用すると、既存の RBL ルールを Data Processing Engine 定義に変換できます。高パフォーマンスの Data Processing Engine 定義により、財務情報を集計するための処理時間が大幅に短縮されます。Data Processing Engine には、RBL ルールを定義または変更するときの高い柔軟性があります。たとえば、複数のデータ取得元を追加したり、結合や追加を定義したり、ルールに数式を追加したりできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 新しい RBL フレームワークを有効にするには、[設定] で、[金融事業] の [一般設定] ページで、**[データ処理エンジンを使用した RBL]** を有効にします。既存の RBL ルールを Data Processing Engine 定義に変換するには、**[RBL ルールを Data Processing Engine 定義に変換]** を有効にします。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: データ処理エンジンを使用したルックアップによる積み上げ集計計算の迅速な実行(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レコードの積み上げ集計の最適化 (正式リリース)

[レコード積み上げの最適化] 組織設定を使用して、レコードの積み上げ集計パフォーマンスを改善します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[金融事業] の [一般設定] で [レコード積み上げの最適化] を有効にします。

関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: レコードの積み上げ集計パフォーマンスの最適化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: オブジェクトの積み上げ集計設定の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

最適化されたレコード積み上げ集計トリガの使用

最適化コードを使用して、より多くのオブジェクトで、Before Insert および Before Update レコード積み上げ集計トリガのパフォーマンスを改善します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [カスタムメタデータ型] で、[標準トリガを使用] の [レコードの管理] をクリックします。オブジェクトを選択し、[有効] を選択して、そのオブジェクトの最適化コードを有効にします。

Financial Services Cloud のその他の変更

Financial Services Cloud のその他の機能強化で、より多くの操作を実行できるようになりました。

このセクションの内容:

ライフイベントインサイトを使用したクライアントエンゲージメントの促進

クライアントエンゲージメントを促進できるように、Analytics for Wealth Management アプリケーションに個人ライフイベントデータが含まれるようになりました。このデータをグループに集約することができます。ライフイベントには誕生日や退職などの行事が含まれている可能性があります。たとえば、定年に近い顧客のマーケティングキャンペーンを作成したり、最近結婚した顧客に挨拶状を送ったりできます。

より多くの Financial Services Cloud モバイル用 Lightning コンポーネントを使用して高い生産性を維持

Salesforce モバイルアプリケーションにより多くの Financial Services Cloud Lightning コンポーネントを追加することで、リモートユーザの生産性を高めます。

省略可能な [顧客資産] 項目の柔軟な使用

保険契約資産オブジェクトの [顧客資産] 項目が省略可能になりました。デフォルトでは、既存のユーザにこの項目へのアクセス権はありません。権限セットまたはプロファイルを使用して項目レベルセキュリティを更新し、ユーザにアクセス権を付与します。

ライフイベントインサイトを使用したクライアントエンゲージメントの促進

クライアントエンゲージメントを促進できるように、Analytics for Wealth Management アプリケーションに個人ライフイベントデータが含まれるようになりました。このデータをグループに集約することができます。ライフイベントには誕生日や退職などの行事が含まれている可能性があります。たとえば、定年に近い顧客のマーケティングキャンペーンを作成したり、最近結婚した顧客に挨拶状を送ったりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Analytics for Wealth Management アプリケーションは、Salesforce Financial Services Cloud ユーザのみを対象としています。Analytics for Wealth Management テンプレートからアプリケーションを作成するには、FSC Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Analytics for Wealth Management]** を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

既存のアプリケーションがある場合は、アップグレードすることで新しい機能を表示できます。アプリケーションをアップグレードするには、Tableau CRM ホームページから [新しいバージョンをご利用いただけます] をクリックし、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、行ったカスタマイズは削除されます。

より多くの Financial Services Cloud モバイル用 Lightning コンポーネントを使用して高い生産性を維持

Salesforce モバイルアプリケーションにより多くの Financial Services Cloud Lightning コンポーネントを追加することで、リモートユーザの生産性を高めます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Salesforce モバイルユーザが外出先からでも生産性を高める機能にアクセスできるようにします。

方法: iOS と Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションで Financial Services Cloud Lightning コンポーネントにアクセスできます。

Lightning アプリケーションビルダーで [電話] フォーム要素のページを有効化して、これらのページをモバイルデバイスで表示します。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、新規または既存のページレイアウトにコンポーネントを追加します。

モバイルに対応する追加の Financial Services Cloud コンポーネントを下表に示します。

表 4: モバイル対応コンポーネント

コンポーネント	説明
金融口座アラート	金融口座ページにアラートメッセージを表示します。
金融口座リスト	取引先ページに金融口座の関連リストを表示します。
金融口座ロールリスト	取引先ページに金融口座ロールの関連リストを表示します。
グループメンバー	グループ対応の取引先ページにグループメンバーの関連リストと積み上げ合計を表示します。
グループメンバー (設定可能)	グループ対応の取引先ページにグループメンバーの関連リストと積み上げ合計を表示します。特定の項目セットに基づいてこれらのメンバーの項目を表示するように設定できます。
リレーショングループリスト	取引先、取引先責任者、または個人が属しているリレーショングループのリストを表示します。

省略可能な [顧客資産] 項目の柔軟な使用

保険契約資産オブジェクトの [顧客資産] 項目が省略可能になりました。デフォルトでは、既存のユーザにこの項目へのアクセス権はありません。権限セットまたはプロファイルを使用して項目レベルセキュリティを更新し、ユーザにアクセス権を付与します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト項目

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

ブランチ管理

ブランチ情報を取得してブランチ階層を定義する
新しい `BranchUnit` オブジェクトを使用します。

各ブランチで作業する可能性があるユーザまたは取引先責任者を記録する
新しい `BranchUnitBusinessMember` オブジェクトを使用します。

ブランチでバンカーロールで作業するユーザを特定する
新しい `Banker` オブジェクトを使用します。

各ブランチに関連付けられる顧客を記録する
新しい `BranchUnitCustomer` オブジェクトを使用します。

インタラクション概要

通常は 1 人以上の営業担当者と 1 人の顧客またはパートナーを含む 2 人以上の個人 (被招集者) 間のインタラクション (電話、対面ミーティング、ビデオ会議) を取得する
新しい `Interaction` オブジェクトを使用します。

インタラクションの被招集者を保存する
新しい `InteractionAttendee` オブジェクトを使用します。

機密情報を含めインタラクションの概要を保存する
新しい `InteractionSummary` オブジェクトを使用します。

インタラクション概要を共有するユーザを表示する
新しい `InteractionSummaryParticipant` オブジェクトを使用します。

保険

請求を保険契約補償範囲に関連付けて、支払や支払準備金を含め請求に関連する財務活動に関する情報を保存する
新しい `ClaimCoverage` オブジェクトを使用します。

請求に対応するために請求者または請求関係者に支払われた金額を表示する
新しい `ClaimPaymentSummary` オブジェクトを使用します。

保険契約と保険契約に関連する資産、補償範囲、および地域内の関係者に対して計算された料金を保存する
新しい `InsurancePolicySurcharge` オブジェクトを使用します。

保険契約の保険料に影響する変更に関連するトランザクション(裏書条項、更新、キャンセルなど)を保存する
新しい `InsurancePolicyTransaction` オブジェクトを使用します。

保険契約の保険募集人の手数料を保存する
新しい `ProducerCommission` オブジェクトを使用します。

ClaimItem の新規項目

関与する個人または財産に基づいて請求項目を分類する
新しい `Category` 項目を使用します。

請求項目が配置されている正確な住所を指定する
新しい `CurrentAddress` 項目を使用します。

請求関係者を請求項目に関連付ける
新しい `ClaimParticipantId` 項目を使用します。

保険契約資産を請求項目に関連付ける
新しい `InsurancePolicyAssetId` 項目を使用します。

ClaimParticipant の新規項目

請求に関連付けられている保険契約関係者を指定する
新しい `InsurancePolicyParticipantId` 項目を使用します。

InsurancePolicy の新規項目

元の保険契約の ID を表示する
新しい `OriginalPolicyId` 項目を使用します。

元の保険契約が有効になった日付を表示する
新しい `OriginalEffectiveDate` 項目を使用します。

元の保険契約の有効期限を表示する
新しい `OriginalExpirationDate` 項目を使用します。

支払期間の保険料計算方法を指定する
新しい `PremiumCalculationMethod` 項目を使用します。

前払いや後払いなど、保険料支払の種別を指定する
新しい `PremiumPaymentType` 項目を使用します。

保険契約で補償が提供される期間を指定する
新しい `PolicyTerm` 項目を使用します。

総保険金額を表示する
新しい `TotalSumInsured` 項目を使用します。

保険料が支払われる最後の日付を表示する
新しい `PaidToDate` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `StandardFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `StandardPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `StandardTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `TermFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `TermPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料、手数料、および税額の合計を表示する
新しい `TotalStandardAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `TermTaxAmount` 項目を使用します。

InsurancePolicyAsset の新規項目

保険対象の顧客の財産を表示する
新しい `AssetName` 項目を使用します。

保険契約のプライマリ関係者を表示する
新しい `PrimaryPolicyParticipantId` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `StandardFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `StandardPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `StandardTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `TermFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `TermPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料、手数料、および税額の合計を表示する
新しい `TotalStandardAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `TermTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料、税額、および手数料の合計を表示する
新しい `TotalTermAmount` 項目を使用します。

InsurancePolicyMemberAsset の新規項目

資産に関連付けられている保険契約を表示する
新しい `InsurancePolicyId` 項目を使用します。

InsurancePolicyCoverage の新規項目

保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `StandardFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `StandardPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `StandardTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `TermFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `TermPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料、手数料、および税額の合計を表示する
新しい `TotalStandardAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `TermTaxAmount` 項目を使用します。

InsurancePolicyParticipant の新規項目

この顧客が保険契約を所有しているか、または単に保険契約の関係者かを指定します。
新しい `IsPolicyholder` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `StandardFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `StandardPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `StandardTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想手数料を表示する
新しい `TermFeeAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料を表示する
新しい `TermPremiumAmount` 項目を使用します。

保険契約期間の保険契約の予想保険料、手数料、および税額の合計を表示する
新しい `TotalStandardAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想税額を表示する
新しい `TermTaxAmount` 項目を使用します。

保険契約の発効日に基づいて按分された、保険契約期間の保険契約の予想保険料、税額、および手数料の合計を表示する
新しい `TotalTermAmount` 項目を使用します。

インテリジェントフォームリーダー

OcrDocumentScanResult オブジェクト
コンテンツのドキュメント ID を OCR ドキュメントのスキャン結果に追加する

- `ContentDocumentId` 項目を使用して、`OcrDocumentScanResult` オブジェクトのコンテンツドキュメント ID を追加します。

オブジェクトで更新されたプロパティ

- `ContentVersionId` 項目の `nillable` および `updateable` プロパティが `false` に変更されました。
- `PageNumber` 項目の `createable` プロパティが `false` に変更されました。
- `OcrService` 項目の `nillable` および `defaultedOnCreate` プロパティが `false` に変更されました。

オブジェクトで廃止された項目

- `OwnerId`
- `DocumentRequestId`

`OcrService` 項目で廃止された値

- `AMAZON_TEXTRACT`

OcrDocumentScanResult オブジェクト
`OcrDocumentScanResult` オブジェクトで OCR スキャンサービスを選択する

- OcrService 選択リストから AMAZON_TEXTRACT 値を選択し、Amazon Textract サービスを使用してドキュメントをスキャンします。

OcrDocumentScanResult オブジェクトにドキュメント要求 ID を追加する

- DocumentRequestId 項目を使用して、ドキュメント要求 ID を追加します。

OcrSampleDocument オブジェクト

オブジェクトで廃止された項目

- NamespacePrefix

OcrTargetObject オブジェクト

TargetObject 選択リストで廃止された値

- LicensingError
- ChannelProgramLevelOwnerSharingRule

OcrTargetObjFieldMapping オブジェクト

TargetField 選択リストで廃止された値

- DeceasedDate
- Division
- Gender
- IdeaThemeId
- SequenceInMultipleBirth

TargetField 選択リストでサポートされる新しい値

- DeclarationExtIdentifier
- EmploymentExtIdentifier
- Email FinancialExtIdentifier
- AddressExtIdentifier
- UrlName
- TitleHolderExtIdentifier
- SourceSystemIdentifier
- UniversalPolicyNumber
- LiabilityExtIdentifier
- AssetExtIdentifier
- ApplicationExtIdentifier
- ReportNumber
- PropertyExtIdentifier
- IncomeExtIdentifier
- ApplicantExtIdentifier

OcrTemplate オブジェクト

オブジェクトで廃止された項目

- NamespacePrefix

オブジェクトで更新されたプロパティ

- `TemplateName` 項目の `nillable` プロパティが `true` に変更されました。
- `DocumentTypeId` 項目の `nillable` プロパティが `true` に変更されました。
- `IsActive` 項目の `createable` プロパティが `false` に変更されました。

OcrTemplateSampleDocument オブジェクト

オブジェクトで更新されたプロパティ

- `OcrSampleDocumentId` 項目の `nillable` プロパティが `false` に変更されました。

Financial Services Cloud の新しいメタデータ型

新しいメタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

準拠データ共有

参加者の名前や関連付けられているデフォルトのアクセスレベルなど、参加者の詳細を取得および編集する ParticipantRole メタデータ型を使用します。この型は API バージョン 50.0 で導入され、*『Financial Services Cloud 開発者ガイド』* に追加されています。

Consumer Goods Cloud

Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用して、営業担当は店舗訪問中に適切な活動を実行できます。営業担当の車両ユーザ割り当てを作成して、店舗配送を合理化します。営業担当が最も効率的な順序で訪問 ToDo を実行できるように、活動の順序を事前定義します。小売店の強化により、営業マネージャが小売店レコードをより迅速に作成できるようにします。さらに、訪問の実行と店舗直送の機能強化により、店舗訪問中の営業担当の効率を高めます。

このセクションの内容:

Einstein for Consumer Goods の機能強化

インテリジェントな ToDo のおすすめを使用して、店舗訪問の効率および生産性を高めます。

制御された車両ユーザ割り当てを使用した店舗配送の計画の強化

営業担当の車両ユーザ割り当てを作成して、店舗配送を合理化します。車両ユーザ割り当てが有効になっている場合、車両またはユーザに関する他の割り当ては有効化できません。割り当てに関連した混乱をなくし、店舗へのよりスムーズで迅速な配送を実現します。また、営業マネージャは車両の商品在庫を追加することもできます。営業担当が在庫を正確に把握していれば、店舗からのアドホック要求に対応しやすくなります。

小売店ページでの訪問および注文の詳細へのアクセス

営業マネージャが店舗のすべての訪問および注文の詳細に簡単にアクセスできるようにします。[訪問] 関連リストと [注文] 関連リストを小売店ページレイアウトに追加すると、営業マネージャは店舗ページで直接店舗のすべての訪問および注文を確認できます。さらに、店舗ページから直接訪問を作成し、注文を行うことができます。

訪問の実行の機能強化

フィールド営業担当者は、店舗により適したサービスを提供するために、その場で訪問にToDoを追加できるようになりました。営業担当が最も効率的な順序で訪問ToDoを実行できるように、活動の順序を事前定義します。

Analytics for Consumer Goods

店舗の価格コンプライアンスを監視し、リテールエグゼキューションを改善します。拡張されたEinstein Discoveryストーリーを使用して、店舗のパフォーマンスに関するインテリジェントなインサイトを得て、店舗の売上を増やします。

Consumer Goods Cloud のその他の変更

その他の小さくても重要なConsumer Goods Cloudの変更について説明します。

Consumer Goods Cloud の新しいオブジェクト

新しいConsumer Goods Cloudオブジェクトと Einstein 訪問ToDoのおすすめオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

Consumer Goods Cloud の新規の呼び出し可能なアクション

Einstein 訪問ToDoのおすすめの新しい呼び出し可能なアクションでさらに多くの作業を実行できます。

Connect REST API

Consumer Goods CloudのREST APIに新しいコールが含まれます。

Einstein for Consumer Goods の機能強化

インテリジェントなToDoのおすすめを使用して、店舗訪問の効率および生産性を高めます。

このセクションの内容:

Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用した訪問の適切な ToDo の計画

営業マネージャはEinstein訪問ToDoのおすすめを使用して、利益を最大化してブランド価値を提供するための適切な一連の訪問ToDoを識別できるようになりました。ToDoのおすすめは、固有のビジネス要件に基づき、要件に対応するように調整されます。

予測を使用した訪問レコメンデーションの取得

営業マネージャがすべてのフィールド担当の訪問を有益なものにできるようにします。収集する訪問総計値を特定し、それらに関するインサイトを構築します。それらのインサイトを訪問レコメンデーション戦略に対応付けることで、最適なおすすめを取得します。

Lightning Retail Execution Starter ライセンスによる Einstein for Consumer Goods の使用

Einstein for Consumer GoodsはLightning Retail Execution Starterライセンスで使用できるようになりました。

Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用した訪問の適切な ToDo の計画

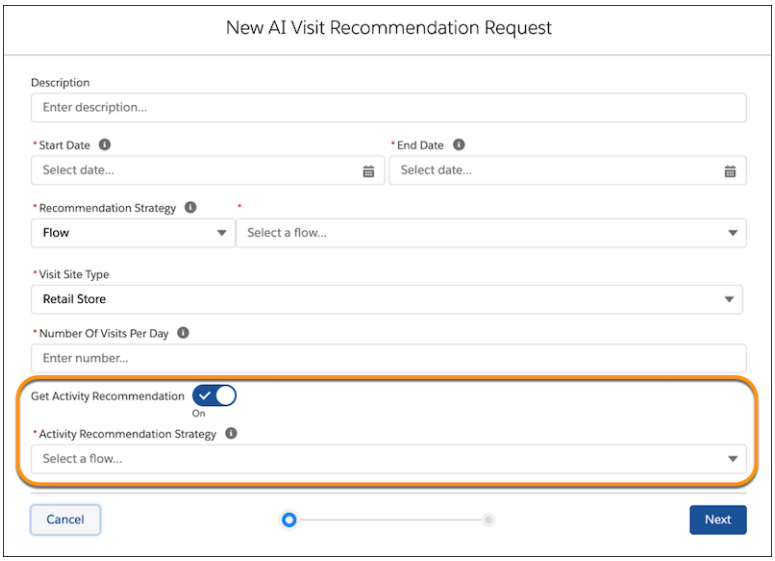
営業マネージャは Einstein 訪問 ToDo のおすすめを使用して、利益を最大化してブランド価値を提供するための適切な一連の訪問 ToDo を識別できるようになりました。ToDo のおすすめは、固有のビジネス要件に基づき、要件に対応するように調整されます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 提供されたサンプルフローを使用して、ToDo のおすすめの生成方法を確認してください。次に、ビジネス要件に基づいてフローを作成します。営業マネージャはこのフローを使用して、既存の訪問 ToDo のおすすめ要求または訪問レコメンデーションを作成できます。



営業マネージャは、訪問レコメンデーション要求の作成時に ToDo のおすすめ要求も作成できるようになりました。



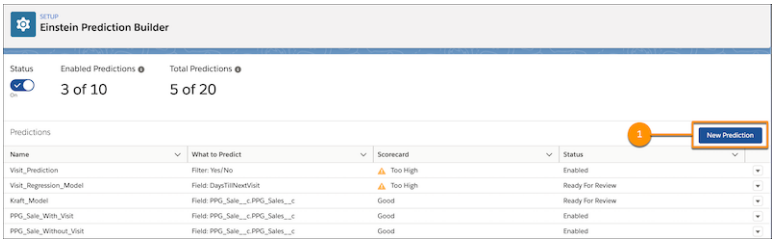
予測を使用した訪問レコメンデーションの取得

営業マネージャがすべてのフィールド担当の訪問を有益なものにできるようにします。収集する訪問総計値を特定し、それらに関するインサイトを構築します。それらのインサイトを訪問レコメンデーション戦略に対応付けることで、最適なおすすめを取得します。

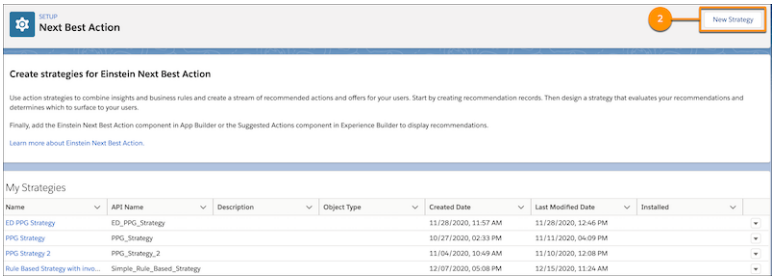
対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに「リテールエグゼキューションプラス」権限セットが必要です。

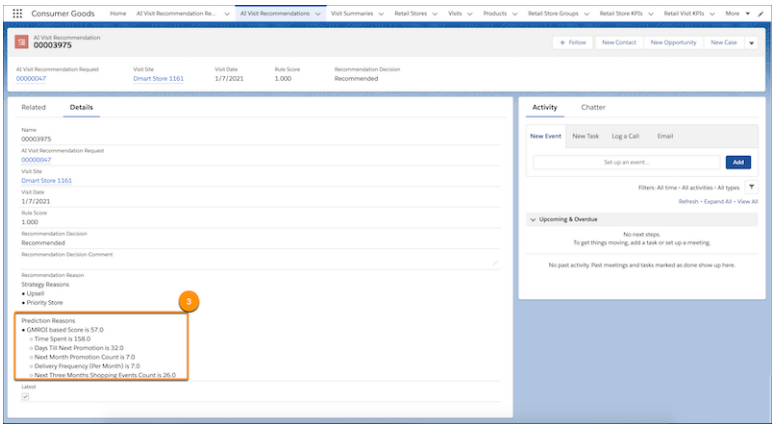
方法: まず、Einstein 予測ビルダーを使用して、予測を作成します。



次に、Next Best Action を使用して、作成した戦略の予測を対応付けます。



次に、訪問レコメンデーション要求を実行し、予測に基づいて提案を表示します。また、おすすめの戦略と予測理由を確認することもできます。



Lightning Retail Execution Starter ライセンスによる Einstein for Consumer Goods の使用

Einstein for Consumer Goods は Lightning Retail Execution Starter ライセンスで使用できるようになりました。

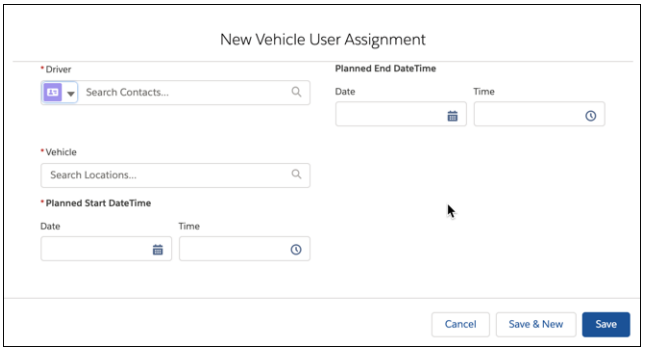
対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

制御された車両ユーザ割り当てを使用した店舗配送の計画の強化

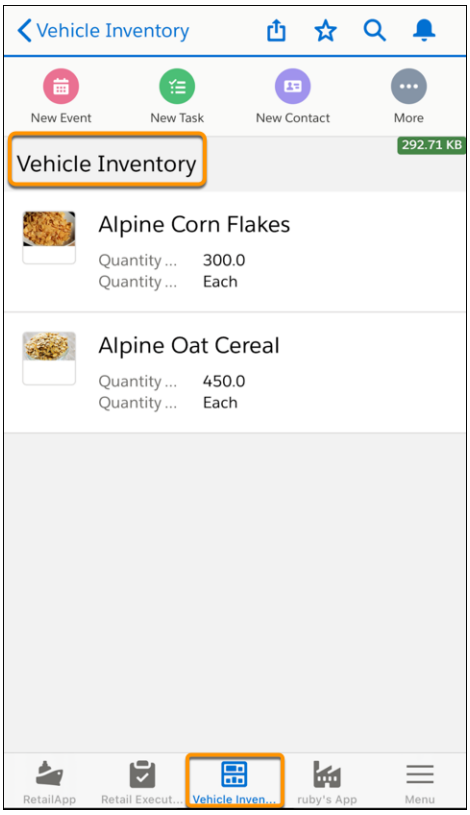
営業担当の車両ユーザ割り当てを作成して、店舗配送を合理化します。車両ユーザ割り当てが有効になっている場合、車両またはユーザに関する他の割り当ては有効化できません。割り当てに関連した混乱をなくし、店舗へのよりスムーズで迅速な配送を実現します。また、営業マネージャは車両の商品在庫を追加することもできます。営業担当が在庫を正確に把握していれば、店舗からのアドホック要求に対応しやすくなります。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 車両ユーザ割り当てを作成するには、[車両ユーザ割り当て] タブを選択し、[新規] をクリックします。



営業担当が車両にある在庫を表示するには、[自動車の在庫] タブを選択します。

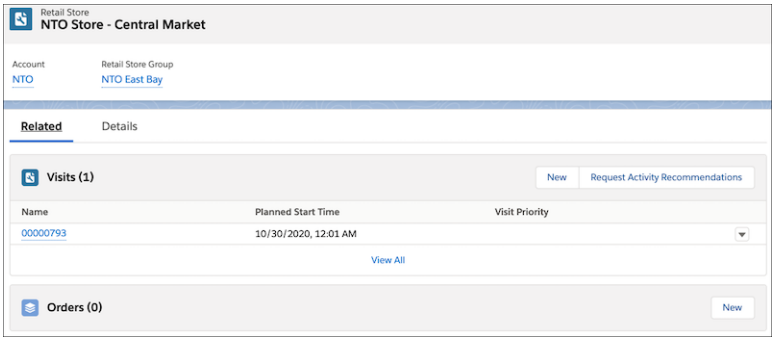


小売店ページでの訪問および注文の詳細へのアクセス

営業マネージャが店舗のすべての訪問および注文の詳細に簡単にアクセスできるようにします。[訪問]関連リストと[注文]関連リストを小売店ページレイアウトに追加すると、営業マネージャは店舗ページで直接店舗のすべての訪問および注文を確認できます。さらに、店舗ページから直接訪問を作成し、注文を行うことができます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [訪問] 関連リストと [注文] 関連リストを小売店ページレイアウトに追加します。



訪問の実行の機能強化

フィールド営業担当者は、店舗により適したサービスを提供するために、その場で訪問に ToDo を追加できるようになりました。営業担当が最も効率的な順序で訪問 ToDo を実行できるように、活動の順序を事前定義します。

このセクションの内容:

その場で ToDo を作成することによる店舗に対するサービス向上
フィールド営業担当者は、店舗により適したサービスを提供する機会を逃さないように、訪問中に ToDo を追加できるようになりました。たとえば、商品が在庫切れの場合、フィールド営業担当者は注文タスクを作成し、すぐにその商品の注文を行うことができます。

ToDo と KPI の順序付けによる TdDo 実行の合理化
営業担当が最も効率的な順序で訪問 ToDo を実行し、訪問中に店舗で過ごす時間を最大限に活用できるようにします。事前定義済みの論理的な訪問活動の順序により、営業担当が次のどの ToDo を実行するかを理解できるように混乱や憶測をなくします。

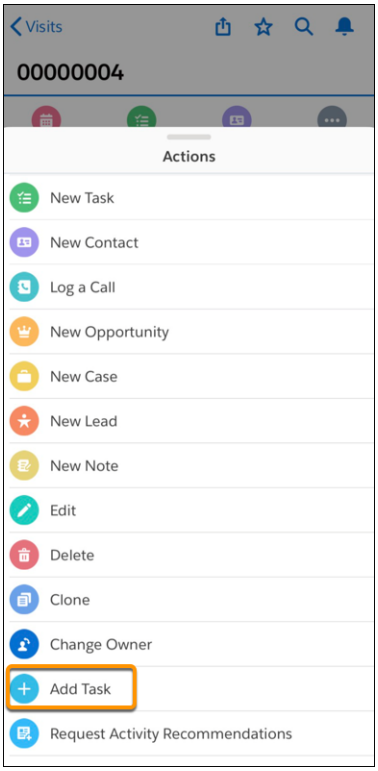
ToDo の割り当てによる情報の整理
販売促進資料の店舗マネージャへの提供や店舗マネージャとのミーティングなど、小さい活動を営業担当に割り当てます。これらの活動を営業担当の ToDo リストに追加して、店舗訪問中に実行できるようにします。

その場で ToDo を作成することによる店舗に対するサービス向上

フィールド営業担当者は、店舗により適したサービスを提供する機会を逃さないように、訪問中に ToDo を追加できるようになりました。たとえば、商品が在庫切れの場合、フィールド営業担当者は注文タスクを作成し、すぐにその商品の注文を行うことができます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 訪問ホームページの右上のメニューで、**[ToDo を追加]** をクリックします。

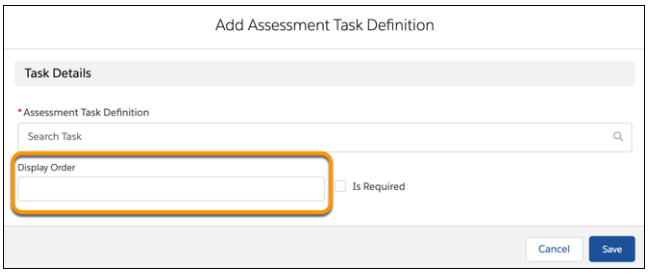


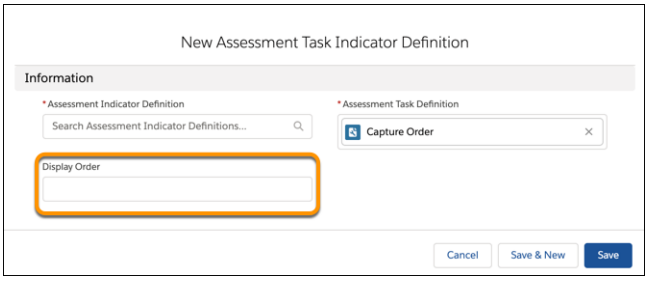
ToDo と KPI の順序付けによる TdDo 実行の合理化

営業担当が最も効率的な順序で訪問 ToDo を実行し、訪問中に店舗で過ごす時間を最大限に活用できるようにします。事前定義済みの論理的な訪問活動の順序により、営業担当が次のどの ToDo を実行するかを理解できるように混乱や憶測をなくします。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: ToDo または調査タスク定義を作成するときに、表示順序を入力します。



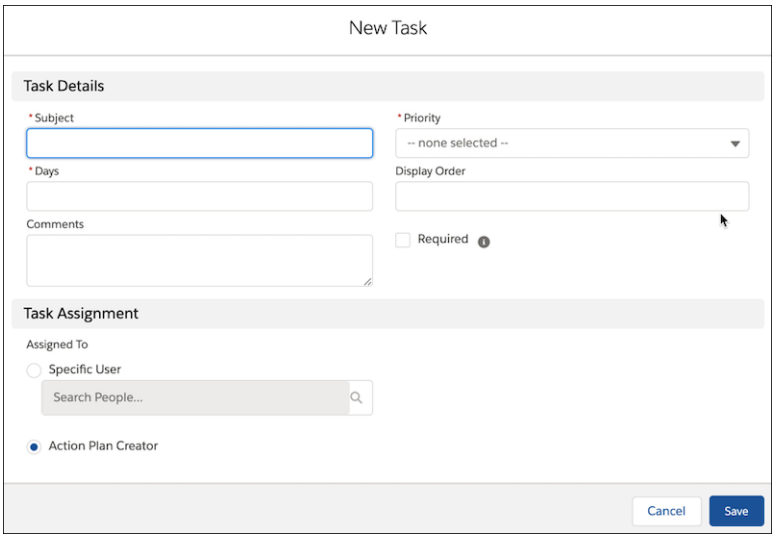


ToDo の割り当てによる情報の整理

販売促進資料の店舗マネージャへの提供や店舗マネージャとのミーティングなど、小さい活動を営業担当に割り当てます。これらの活動を営業担当の ToDo リストに追加して、店舗訪問中に実行できるようにします。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: アクションプランテンプレートを作成するときに [新規] をクリックし、[**ToDo**] をクリックします。



Analytics for Consumer Goods

店舗の価格コンプライアンスを監視し、リテールエグゼキューションを改善します。拡張された Einstein Discovery ストーリーを使用して、店舗のパフォーマンスに関するインテリジェントなインサイトを得て、店舗の売上を増やします。

このセクションの内容:

- Analytics for Consumer Goods を使用した店舗価格コンプライアンスの監視
  Analytics for Consumer Goods アプリケーションにより、店舗の価格コンプライアンスに関するインサイトを得ることができ、リテールエグゼキューションを改善するのに役立ちます。
- Einstein Discovery での店舗パフォーマンスの分析と売上の増加
  拡張された [Maximize Units Sales from Store Order (店舗注文の販売数を最大化)] ストーリーを使用して、店舗グループまたはすべての店舗の平均パフォーマンスと比較した場合の店舗のパフォーマンスを確認します。入力変数は、KPI 値を店舗グループまたはすべての店舗の平均と比較することで計算されるようになりました。

Analytics for Consumer Goods を使用した店舗価格コンプライアンスの監視

Analytics for Consumer Goods アプリケーションにより、店舗の価格コンプライアンスに関するインサイトを得ることができ、リテールエグゼキューションを改善するのに役立ちます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Consumer Goods は Salesforce Consumer Goods Cloud ユーザのみが対象です。Analytics for Consumer Goods テンプレートからアプリケーションを作成する場合は、Analytics for Consumer Goods アドオンライセンスも必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Consumer Goods] テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Einstein Discovery での店舗パフォーマンスの分析と売上の増加

拡張された [Maximize Units Sales from Store Order (店舗注文の販売数を最大化)] ストーリーを使用して、店舗グループまたはすべての店舗の平均パフォーマンスと比較した場合の店舗のパフォーマンスを確認します。入力変数は、KPI 値を店舗グループまたはすべての店舗の平均と比較することで計算されるようになりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Consumer Goods は Salesforce Consumer Goods Cloud ユーザのみが対象です。Analytics for Consumer Goods テンプレートからアプリケーションを作成する場合は、Analytics for Consumer Goods アドオンライセンスも必要です。

方法: Tableau CRM Analytics Studio から、[作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。[Analytics for Consumer Goods] テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Consumer Goods Cloud のその他の変更

その他の小さくても重要な Consumer Goods Cloud の変更について説明します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Developer Edition、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Consumer Goods オブジェクトを使用してできる作業がさらに増えました。

より迅速に小売店を設定する
小売店オブジェクトの新しい [住所] 項目により、営業マネージャは店舗レコードを作成するたびに場所を作成する必要がなくなったため、小売店レコードをより迅速に作成できます。

小売店レコードを簡単に共有する
小売店オブジェクトで取引先オブジェクトから共有ルールを継承するようになりました。そのため、営業担当の取引先レコードへのアクセス権を付与すると、自動的に小売店レコードへのアクセス権も付与されます。

訪問レコメンデーションフローを理解する
訪問レコメンデーション-サンプルフローを使用して、訪問レコメンデーションの生成方法を理解します。

Consumer Goods オブジェクトレコードで可能な操作が増加
Consumer Goods オブジェクトレコードでファイルの添付、メモの追加、Chatter への投稿を実行できるようになりました。また、Consumer Goods の主なオブジェクトで数式項目の作成や項目履歴管理の有効化が可能になりました。

更新された権限セットを使用して Consumer Goods オブジェクトへの管理をより適切に管理する

Winter '21 以降、Lightning Retail Execution Merchandiser、Lightning Retail Execution Starter、Lightning Retail Execution Plus、および Lightning Retail Execution Contractor の権限セットで Consumer Goods オブジェクトのデフォルトのアクセスレベルが更新されます。アクセスレベルは要件に応じて変更できます。

Consumer Goods Cloud の新しいオブジェクト

新しい Consumer Goods Cloud オブジェクトと Einstein 訪問 ToDo のおすすめオブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

運転手に車両を関連付ける

新しい `VehicleUserAssignment` オブジェクトを使用します。

RetailVisitKpi オブジェクトの新しい項目

RetailVisitKPI に関連付けられている参照オブジェクトを特定

`RetailVisitKpi` オブジェクトで新しい `ContextId` 項目を使用します。

小売店オブジェクトの新しい項目

小売店の住所を追加

`RetailStore` オブジェクトで新しい `Address` 項目を使用します。

Einstein 訪問 ToDo のおすすめの新しいオブジェクト

訪問 ToDo のおすすめを生成する要求を作成

新しい `AiVisitTaskRcmdRequest` オブジェクトを使用します。

すべての訪問 ToDo のおすすめを表示

新しい `AiVisitTaskRcmd` オブジェクトを使用します。

Einstein 訪問レコメンデーションの新しいオブジェクト

訪問レコメンデーションフィードで投稿を追跡

新しい `AiVisitRecommendationFeed` オブジェクトを使用します。

訪問レコメンデーションに対する変更の履歴を表示

新しい `AiVisitRecommendationHistory` オブジェクトを使用します。

訪問レコメンデーション要求フィードで投稿を追跡

新しい `AiVisitRecommendRequestFeed` オブジェクトを使用します。

訪問レコメンデーション要求に対する変更の履歴を表示

新しい `AiVisitRecommendRequestHistory` オブジェクトを使用します。

画像フィードで投稿を追跡

新しい `ImageFeed` オブジェクトを使用します。

画像に対する変更の履歴を表示

新しい `ImageHistory` オブジェクトを使用します。

Consumer Goods Cloud の新規の呼び出し可能なアクション

Einstein 訪問 ToDo のおすすめの新しい呼び出し可能なアクションでさらに多くの作業を実行できます。

Einstein 訪問 ToDo のおすすめの新しい呼び出し可能アクション

訪問および ToDo のおすすめ決定を保存する

新しい `saveRecommendationDecision` 標準アクションを使用して、訪問および ToDo のおすすめの決定を保存します。

Connect REST API

Consumer Goods Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

Einstein 訪問レコメンデーション

訪問または ToDo のおすすめの決定を保存する

新しい Recommendation Decision Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/visit/recommendations/recommendation-decisions` リソースに対して POST 要求を実行します。

Public Sector Solutions

Salesforce カレンダーに訪問を追加し、コンプライアンス担当者が訪問をスケジュールするときに検査担当者の対応可能状況をすばやく簡単に確認できるようにします。検査管理モバイルアプリケーションの新機能により、全体的な検査エクスペリエンスが向上します。また、公共セクタポータルの機能強化により、プロセスの効率が向上し、アプリケーション承認プロセス全体の完全な透明性が確保されます。

このセクションの内容:

ライセンスまたは許可を申し込むときの規制料金の表示

賛助者が申し込む前に [申込料金の詳細] ページで料金情報を確認できるようになりました。賛助者が申し込むときに料金をオンラインで支払うことができるように支払ゲートウェイを統合できます。[料金支払履歴] ページには、申込のライセンス、許可、是正措置に関連付けられている規制トランザクション料金が表示されます。コンプライアンス担当者は、取引先レコードページで同じ規制トランザクション料金を表示でき、必要に応じて料金を変更できます。

Salesforce カレンダーでのスケジュール済み訪問の表示

ユーザが作成してフィールド検査担当者に割り当てた訪問がフィールド検査担当者の Salesforce カレンダーに行動として表示されるようになりました。コンプライアンス担当者は、訪問を割り当てるときにフィールド検査担当者の対応可能状況をすばやく確認してスケジュールの競合を回避できます。

検査管理モバイルアプリケーションによる検査エクスペリエンスの改善

フィールド検査担当者は検査管理モバイルアプリケーションを使用して、サイト訪問を実行しているときの生産性を強化し、代理指定人の取引先に関する情報を常に把握することができます。

公共セクタサイトの機能強化による苦情の追跡と管理の改善

公共セクタ代理指定人は、苦情にタイトルを追加して簡単に検索できるようになりました。検査担当者は、苦情が却下された理由を説明するコメントを追加して、代理指定人により明確な情報を提供できます。また、ポータルにアクセスする代理指定人は、リストまたは Kanban ビューで苦情を表示できるようになりました。

Public Sector Solutions の新しいオブジェクト

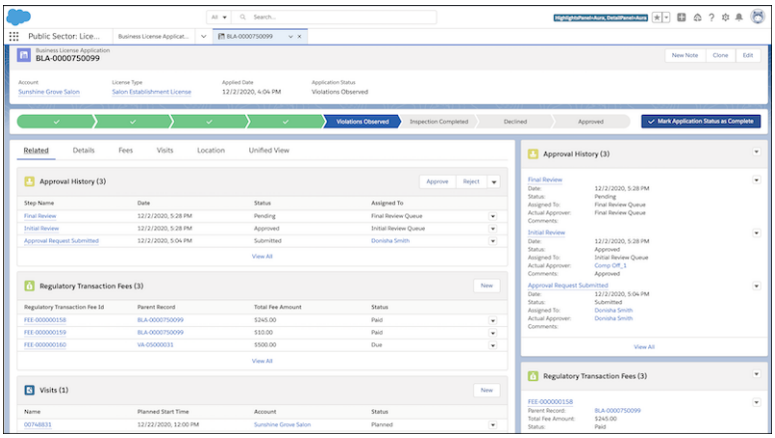
Salesforce Public Sector Solutions には、情報を保存し、情報にアクセスする新しいオブジェクトがあります。

ライセンスまたは許可を申し込むときの規制料金の表示

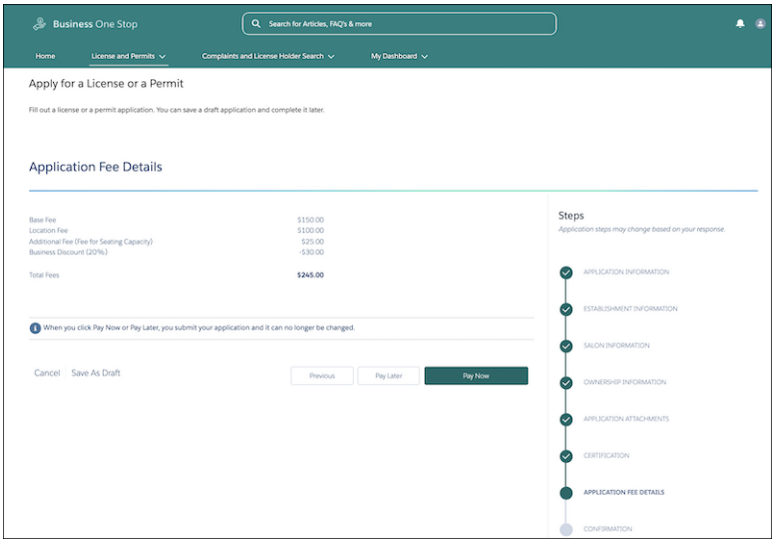
賛助者が申し込む前に [申込料金の詳細] ページで料金情報を確認できるようになりました。賛助者が申し込むときに料金をオンラインで支払うことができるように支払ゲートウェイを統合できます。[料金支払履歴] ページには、申込のライセンス、許可、是正措置に関連付けられている規制トランザクション料金が表示されます。コンプライアンス担当者は、取引先レコードページで同じ規制トランザクション料金を表示でき、必要に応じて料金を変更できます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ビジネスライセンス申込] ページの [関連] タブの [規制トランザクション料金] セクションには、ビジネスライセンス申込に関連付けられているすべての料金が表示されます。個々のライセンス申込の料金を表示することもできます。



賛助者は、[申込料金の詳細] ページで申込料金情報を確認できます。

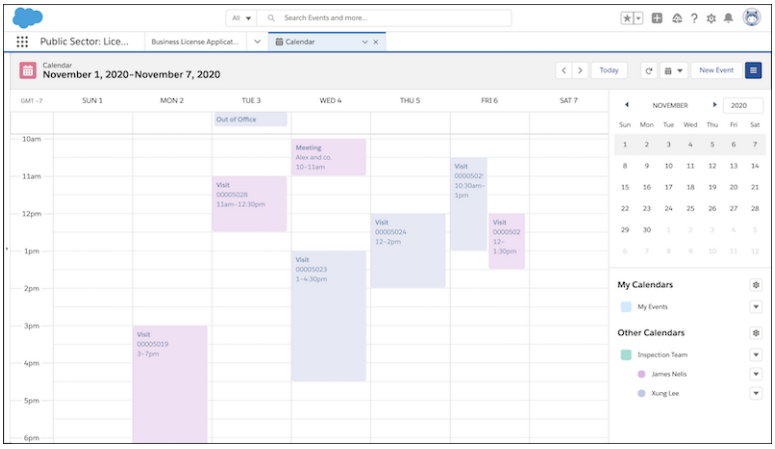


Salesforce カレンダーでのスケジュール済み訪問の表示

ユーザが作成してフィールド検査担当者に割り当てた訪問がフィールド検査担当者の Salesforce **カレンダーに行動として表示されるようになりました。コンプライアンス担当者は、訪問を割り当てるときにフィールド検査担当者の対応可能状況をすばやく確認してスケジュールの競合を回避できます。**

対象: この変更は、 Public Sector Solutions **が有効になっている** Developer Edition、Enterprise Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法: カレンダーに訪問を表示するには、[設定] から [訪問カレンダー設定] に移動して、[訪問を Salesforce カレンダーに追加] を有効化します。



検査管理モバイルアプリケーションによる検査エクスペリエンスの改善

フィールド検査担当者は検査管理モバイルアプリケーションを使用して、サイト訪問を実行しているときの生産性を強化し、代理指定人の取引先に関する情報を常に把握することができます。

対象: この変更は、 Public Sector Solutions **が有効になっている** Developer Edition、Enterprise Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

このセクションの内容:

検査 ToDo の効率的な実行
サイト訪問での ToDo の順序を定義して、フィールド検査担当者の生産性を向上できます。定義済みの順序により、フィールド検査担当者に特定の順序で ToDo を完了するように指示します。

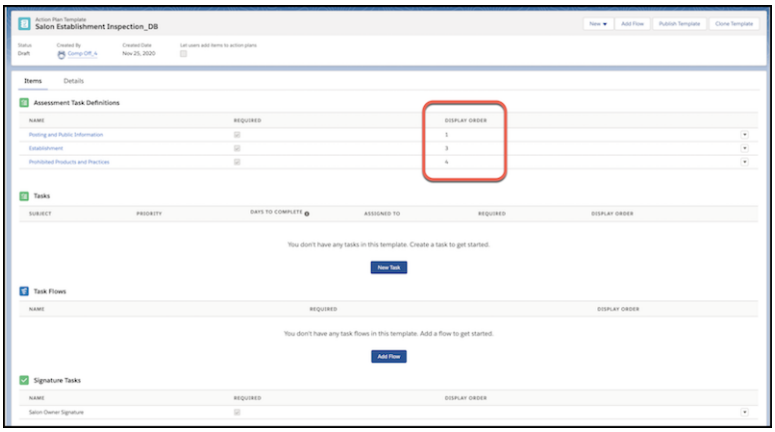
サイト訪問中の最新情報の入手
検査管理モバイルアプリケーションを使用すると、フィールド検査担当者がサイト訪問中にメモした違反をユーザが確認できます。また、[詳細] タブには、代理指定人のアカウントの完全な履歴が表示されます。

検査 ToDo の効率的な実行

サイト訪問での ToDo の順序を定義して、フィールド検査担当者の生産性を向上できます。定義済みの順序により、フィールド検査担当者に特定の順序で ToDo を完了するように指示します。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーから、[アクションプランテンプレート] に移動して ToDo の順序を定義します。

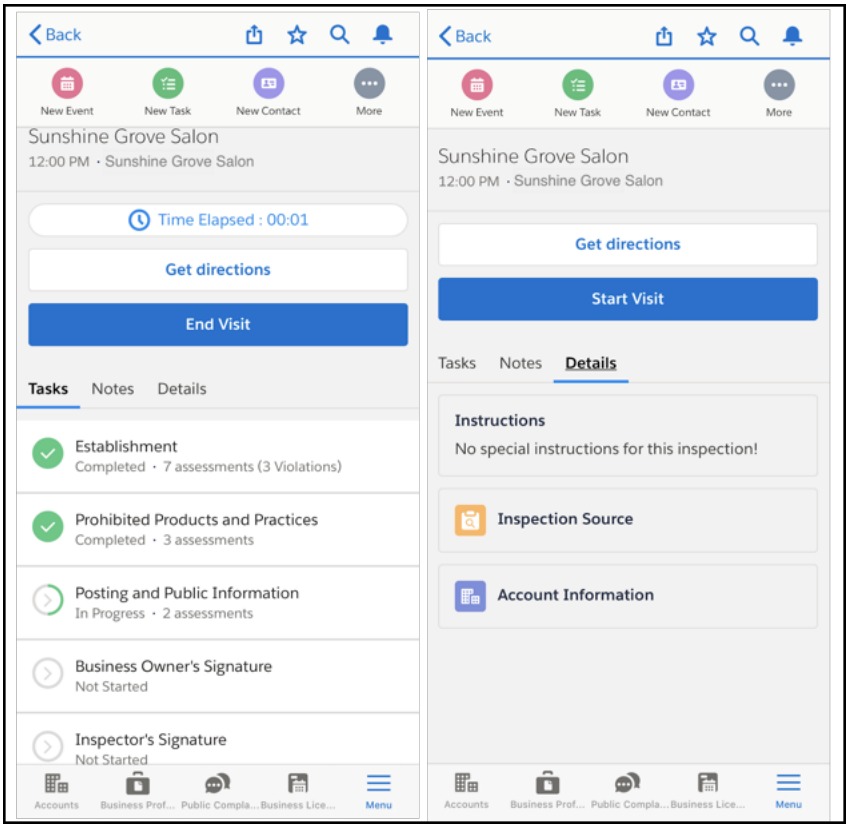


サイト訪問中の最新情報の入手

検査管理モバイルアプリケーションを使用すると、フィールド検査担当者がサイト訪問中にメモした違反をユーザが確認できます。また、[詳細] タブには、代理指定人のアカウントの完全な履歴が表示されます。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ToDo] タブから違反を表示し、[詳細] タブからアカウント情報を表示します。



公共セクタサイトの機能強化による苦情の追跡と管理の改善

公共セクタ代理指定人は、苦情にタイトルを追加して簡単に検索できるようになりました。検査担当者は、苦情が却下された理由を説明するコメントを追加して、代理指定人により明確な情報を提供できます。また、ポータルにアクセスする代理指定人は、リストまたは Kanban ビューで苦情を表示できるようになりました。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 代理指定人は、個人アカウントを使用してポータルにログインし、苦情を作成および表示できます。匿名にするには、[メンバー以外] オプションを使用してログインします。

Public Sector Solutions の新しいオブジェクト

Salesforce Public Sector Solutions には、情報を保存し、情報にアクセスする新しいオブジェクトがあります。

対象: この変更は、Public Sector Solutions が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

規制トランザクション料金をアプリケーション、検査、または違反に関連付ける
新しい `RegulatoryTrxnFee` オブジェクトを使用します。

規制トランザクション料金に関連付けられた特定の料金項目を保存する
新しい `RegulatoryTrxnFeeItem` オブジェクトを使用します。

PublicComplaint オブジェクトの新しい項目

PublicComplaint の件名を表示する

`PublicComplaint` オブジェクトで新しい `Subject` を使用します。

PublicComplaint のコメントを表示する

`PublicComplaint` オブジェクトで新しい `comments` 項目を使用します。

関連トピック:

- *Public Sector Solutions Developer Guide for License and Permit Management, and Inspection Management (ライセンス管理、権限管理、検査管理に関する Public Sector Solutions 開発者ガイド)*: RegulatoryTrxnFee (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Public Sector Solutions Developer Guide for License and Permit Management, and Inspection Management (ライセンス管理、権限管理、検査管理に関する Public Sector Solutions 開発者ガイド)*: RegulatoryTrxnFee (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

緊急時対応管理

フローが更新されたため、緊急時対応管理の環境がよりスムーズなものになります。

このセクションの内容:

- 取引先責任者コレクションフローでの日時の取得
  取引先責任者コレクションフローおよびコミュニティの取引先責任者コレクションフローが更新され、接触の日付と時刻の両方が収集されるようになりました。

取引先責任者コレクションフローでの日時の取得

取引先責任者コレクションフローおよびコミュニティの取引先責任者コレクションフローが更新され、接触の日付と時刻の両方が収集されるようになりました。

方法: これら 2 つのフローからコピーしたフローがある場合、コピーしたフローを廃止して取引先責任者コレクションフローまたはコミュニティの取引先責任者コレクションフローをもう一度コピーする必要があります。

Industries 用のコミュニティユーザライセンスの詳細

Experience Cloud ユーザと共有できるオブジェクトが詳しく説明された新しいヘルプページを作成しました。この新しいリソースを使用して、持っているライセンスに応じて Experience Cloud サイトの実装計画を立てることができます。

理由: Experience Cloud サイト (旧称「コミュニティ」) を使用して、組織外のユーザが一部の機能を使用できるようにします。たとえば、あなたはカイロプラクティックオフィスを運営していて、患者が引っ越すときに連絡が途絶えないように住所を更新できるようにするとします。患者 (つまり、Experience Cloud ユーザ) に取引先責任者オブジェクトに対する更新アクセス権を付与すると、患者は各自の取引先責任者情報を更新することができます。ただし、カイロプラクティックオフィスの住所を変更されては困るので、取引先オブジェクトに対して参照アクセス権のみを付与します。

方法: コミュニティライセンスによって Experience Cloud ユーザがアクセスできる機能のベースラインセットが決まります。プロファイルと、必要に応じて1つ以上の権限セットを使用して、データアクセス用のユーザ権限を割り当てます。各コミュニティライセンスでは、Experience Cloud ユーザに特定のデータオブジェクトに対する「作成」、「参照」、「更新」、または「削除」権限を付与することができます。Industries用のコミュニティユーザライセンスリソースを参照すれば、持っているライセンスでどのオブジェクトのどの権限を割り当てることができるかを一目で確認できます。

	Customer Community	Customer Community Plus	Partner Community	External Apps
Account	**Create**, **Read**, Edit	Create, **Read**, Edit	Create, **Read**, Edit	**Read**, Edit
AccountBrand	Create, Read, Edit, Delete	Create, Read, Edit, Delete	Create, Read, Edit, Delete	Create, Read, Edit, Delete
AccountRelationship		Read	Read	
Accreditation	Create, Read, Edit	Create, Read, Edit, Delete	Create, Read, Edit	Create, Read, Edit
ActionPlan			**Create**, **Read**, **Edit**, **Delete**	**Create**, **Read**, **Edit**, **Delete**

Analytics

改善された Lightning Experience レポートビルダーでビジネス上の重要な意思決定を迅速に行ったり、再利用可能なコンポーネントでダッシュボードを作成および管理する時間を節約したり、再設計された Einstein Discovery インターフェースでインサイトをすばやく見つけたりできます。

このセクションの内容:

レポートとダッシュボード

Lightning Experience レポートビルダーでレポートをすばやく作成し、ダッシュボード検索条件設定をカスタム URL に保存し、レポートを .xlsx 形式でエクスポートします。

Tableau CRM

Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) は、名前が変わっただけでなく、それ以上のメリットをお気に入りの分析プラットフォームにもたらします。データプレップの機能が強化され、ビジネスと Tableau CRM 間でよりシームレスにデータを統合できます。再利用可能なコンポーネント (正式リリース) を使用して、より効率的にダッシュボードを作成および管理できます。Salesforce外で作成されたモデルを使用することで、Einstein Discovery の予測プロセスを改善できます。

レポートとダッシュボード

Lightning Experience レポートビルダーでレポートをすばやく作成し、ダッシュボード検索条件設定をカスタム URL に保存し、レポートを .xlsx 形式でエクスポートします。

このセクションの内容:

複数項目選択によるレポート作成の合理化

レポートの作成に費やす時間を減らし、結果を次のステップに進めることにより多くの時間を費やします。複数選択により、1回のアクションで複数の項目をレポートにドラッグできます。さらに、項目と列を追加または削除して、遅延なしで結果をプレビューできるようになりました。

検索条件 URL パラメータを使用したダッシュボードの結果の保存

Lightning Experience でダッシュボードを表示するたびに、同じ検索条件を設定する必要はありません。検索条件パラメータを含むカスタム URL を作成します。これにより、URL にアクセスしたときに、検索条件がすでに設定された状態でダッシュボードが開きます。たとえば、各取引先に異なる URL を使用して商談フェーズダッシュボードをカスタマイズしたり、取引先所有者またはリードソースのカスタム URL を作成したりできます。

.xlsx 形式でレポートの詳細のメールを受信

レポートのエクスポートを目的の形式で取得します。レポートをエクスポートするときに、形式として .xlsx、.xls、または .csv を選択できます。以前は、.xls と .csv のみがサポートされていました。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '22 に延期されました。最初は Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。

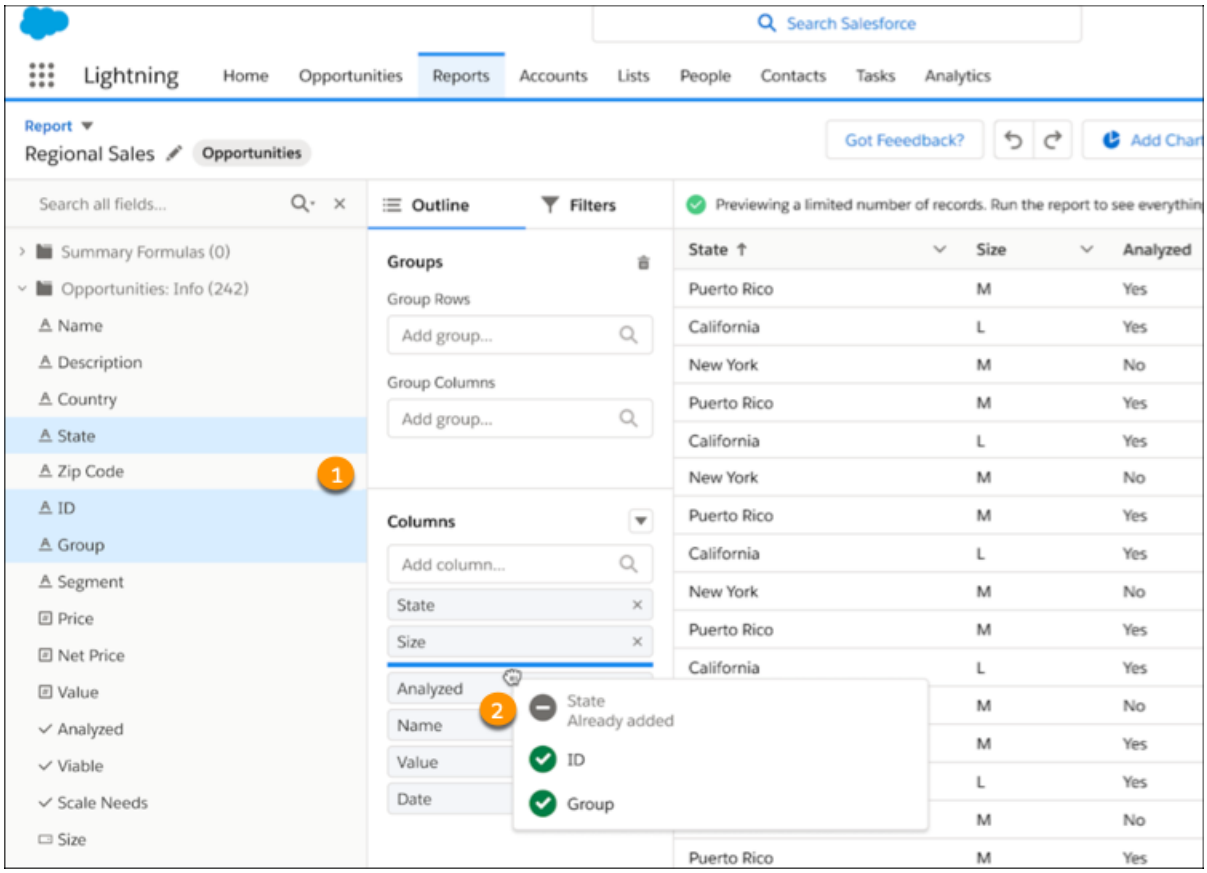
複数項目選択によるレポート作成の合理化

レポートの作成に費やす時間を減らし、結果を次のステップに進めることにより多くの時間を費やします。複数選択により、1 回のアクションで複数の項目をレポートにドラッグできます。さらに、項目と列を追加または削除して、遅延なしで結果をプレビューできるようになりました。

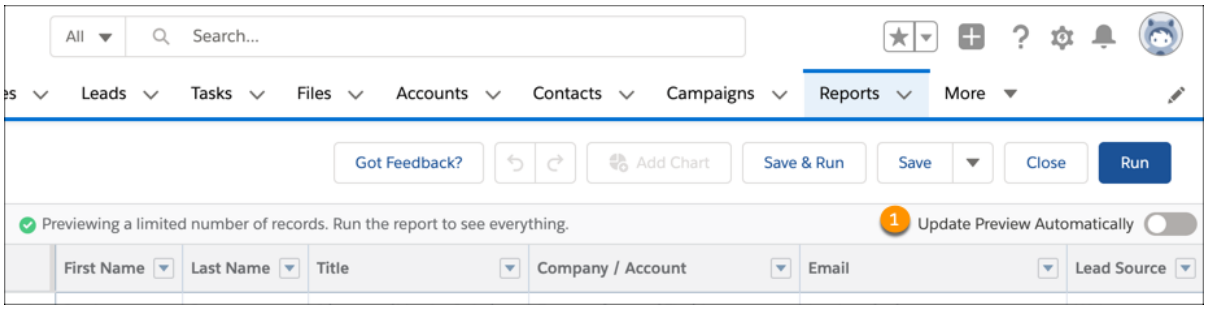
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning レポートビルダーの項目パネルから 1 つ以上の項目を選択し (1)、それらを [アウトライン] パネルの [列] リスト (2) にドラッグするか、レポートプレビューに直接ドラッグします。複数の項目を選択するには、Ctrl (Windows)、Cmd (Mac)、または Shift キーを押しながらクリックします。

メモ: この機能は結合レポートでは使用できません。



レポート作成時のパフォーマンスを最速にするため、自動プレビュー更新を無効にすることをお勧めします (1)。ただし、自動プレビューをオンのままにしても、項目の追加、項目の削除、および列の再配置を行うときのパフォーマンスは向上します。



関連トピック:

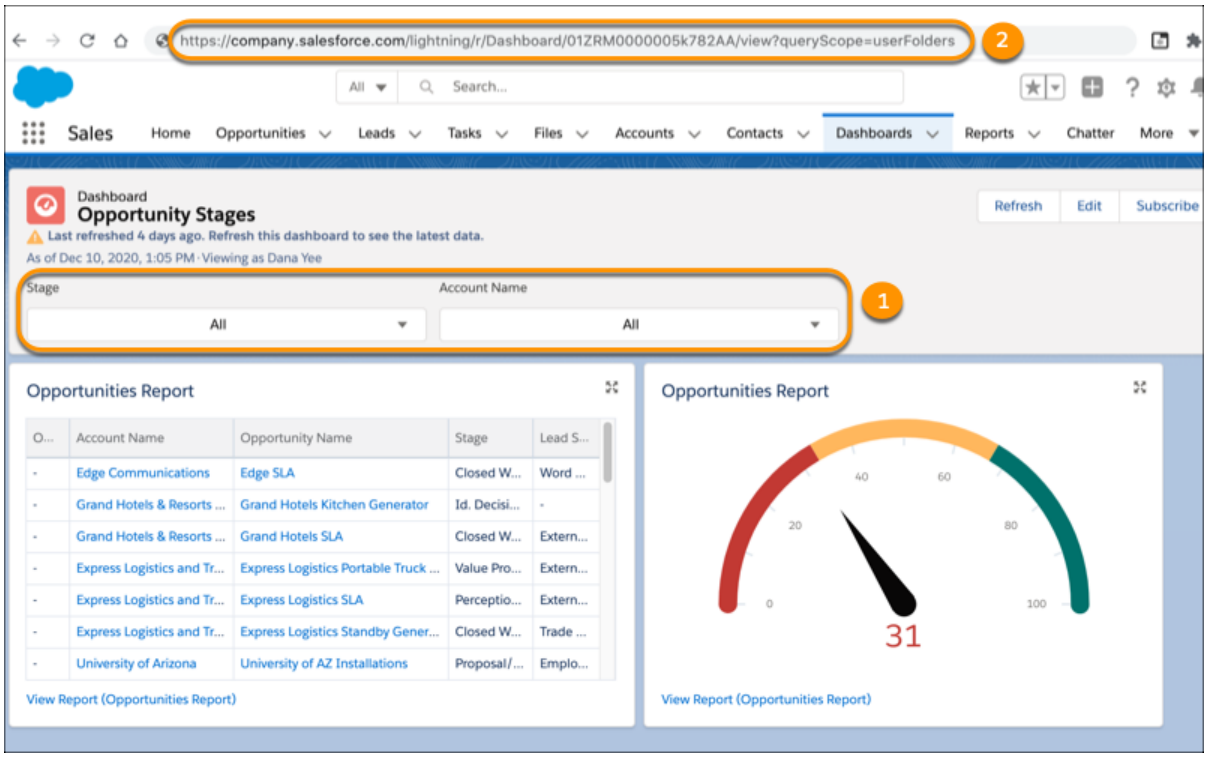
IdeaExchange: Lightning Report Builder Extremely Slow and Buggy (Lightning レポートビルダーのパフォーマンスが極めて低く、不具合が多い)

検索条件 URL パラメータを使用したダッシュボードの結果の保存

Lightning Experience でダッシュボードを表示するたびに、同じ検索条件を設定する必要はありません。検索条件パラメータを含むカスタム URL を作成します。これにより、URL にアクセスしたときに、検索条件がすでに設定された状態でダッシュボードが開きます。たとえば、各取引先に異なる URL を使用して商談フェーズダッシュボードをカスタマイズしたり、取引先所有者またはリードソースのカスタム URL を作成したりできます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ダッシュボードビルダーで、使用するダッシュボード検索条件を設定します (1)。ダッシュボードページの URL を探します (2)。



次に、URL の末尾に検索条件パラメータを追加します。たとえば、この URL はフェーズ (最初の検索条件、または fv0) を「商談成立」に設定し、取引先名 (2 番目の検索条件、または fv1) を「Acme」に設定します。

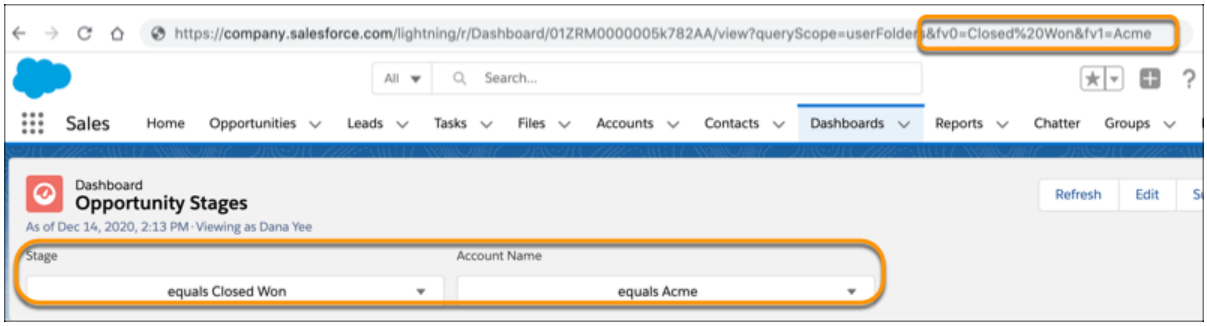
```
https://company.salesforce.com/lightning/r/Dashboard/01ZRM0000005jrv2AA/view?queryScope=userFolders&fv0=Closed%20Won&fv1=Acme
```

検索条件を URL に追加するには、次の構造を使用します。

- *&* — URL 内の新しいパラメータを示します。URL 内に他のパラメータが存在しない場合は、`&` ではなく `?` を使用します。
- *fv0* — *fv* は条件値を表すパラメータの名前です。その後の番号は、ダッシュボードに検索条件が表示される順序を表します。最初の条件は `0`、2 番目の条件は `1`、3 番目の条件は `2` です。

- *=Closed%20Won* — 検索条件値を指定します。パラメータ値は URI エンコードする必要があります。つまり、特定の文字 (スペースなど) を URL が理解できる形式で記述する必要があります。この例では、Closed と Won の間のスペース (「」) を URI エンコードすると `%20` になります。

検索条件を選択してダッシュボードを開くには、作成した URL に移動します。URL は、チームと共有したり、変更して再利用したりすることもできます。



関連トピック:

IdeaExchange: Ability to pass Dashboard filters by URL (URL でダッシュボード検索条件を渡す機能)

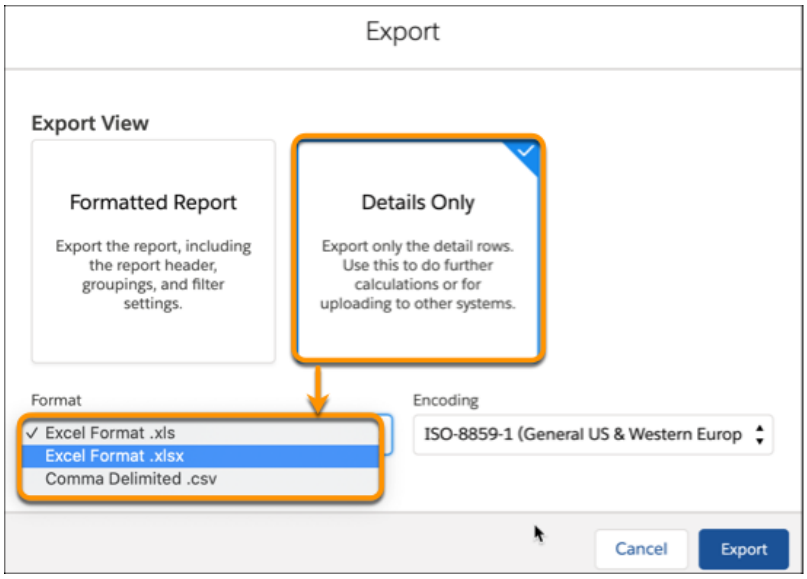
Lightning Experience での URL パラメータによるダッシュボードの絞り込み

.xlsx 形式でレポートの詳細のメールを受信

レポートのエクスポートを目的の形式で取得します。レポートをエクスポートするときに、形式として .xlsx、.xls、または .csv を選択できます。以前は、.xls と .csv のみがサポートされていました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [レポート] ページで、レポートの [エクスポート] 行レベルアクションを選択します。[詳細のみ] をクリックし、[形式] オプションで [.xlsx] を選択します。



セキュリティ上の懸念がある場合は、[レポートおよびダッシュボードの設定] の [Lightning Experience でレポートを XLS 形式でエクスポートするオプションを非表示] を選択することで、.xls オプションを非表示にできます。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '22 に延期されました。最初は Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

時期: Spring '22 での廃止を目標としていますが、変更される可能性があります。具体的な日程については、https://status.salesforce.com/ に移動して該当するインスタンスに関する情報を確認してください。

理由: 拡張フォルダ共有を有効にすると、以前にエディタアクセス権が付与されていた場合でも、レポートおよびダッシュボードフォルダ (非表示フォルダは除く) への参照アクセス権が Salesforce ユーザに付与されます。非表示フォルダは誰とも共有されませんが、ユーザ権限「公開フォルダのレポートを参照」、「公開フォルダのレポートを管理」、およびダッシュボードでの同等の権限を持つユーザは非表示フォルダを参照または管理できます。ユーザのエディタアクセス権を復元するには、新しいユーザ権限をユーザに割り当てて、フォルダレベルのアクセス権を付与することが必要になる場合があります。

拡張フォルダ共有には、使い慣れたフォルダベースの共有モデルを介したさらにカスタマイズ可能なレポートおよびダッシュボード共有が備わっています。次のようなメリットがあります。

- ユーザ、ロール、グループで一貫した共有の概念
- 個々のユーザとのレポートおよびダッシュボードの共有
- 各フォルダの 3 つのアクセスレベル (参照、編集、管理)
- レポートとダッシュボードの対称的なユーザ権限セット

たとえば、従来のフォルダ共有で、Sally と Tim は「参照・更新」アクセス権を使用して公開フォルダに保存されるダッシュボードを作成しています。Sallyはユーザ権限「ダッシュボードの管理」および「すべてのデータの参照」を持っていますが、Tim は「すべてのデータの参照」しか持っていません。拡張フォルダ共有を有効にすると、Sally には自動的にユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを管理」および「ダッシュボードフォルダを作成」が付与されますが、Tim にはユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを参照」しか付与されません。Tim にフォルダに対する編集アクセス権を付与できるようにするには、システム管理者が Tim にユーザ権限「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」を割り当てる必要があります。その後、Sally は Tim にダッシュボードフォルダへの編集アクセス権を付与できるため、2 人はダッシュボードで引き続きコラボレーションを行うことができます。

方法: 新しいユーザ権限とフォルダアクセスレベルに慣れるには、まず、Sandbox 組織または Developer Edition 組織で拡張フォルダ共有を有効にすることをお勧めします。拡張フォルダ共有を有効にすると、従来のフォルダ共有に戻せなくなります。

Tableau CRM

Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) は、名前が変わっただけでなく、それ以上のメリットをお気に入りの分析プラットフォームにもたらします。データプレップの機能が強化され、ビジネスと Tableau CRM 間でよりシームレスにデータを統合できます。再利用可能なコンポーネント (正式リリース) を使用して、より効率的にダッシュボードを作成および管理できます。Salesforce 外で作成されたモデルを使用することで、Einstein Discovery の予測プロセスを改善できます。

このセクションの内容:

Einstein Analytics から Tableau CRM への名称変更

Einstein Analytics には新しい名前があります。Tableau CRM の登場です。すべての機能はそのままで、洗練された名前に変更されただけです。Tableau が Salesforce ファミリに加わったときに、これまでにない深度と能力を持つ分析機能が統合されました。Tableau CRM は、Salesforce CRM 製品内のネイティブ分析に最適なエクスペリエンスを提供します。Tableau CRM は引き続き AI と BI が結合され、Einstein Discovery は引き続きプラットフォームと緊密に統合されています。更新がすべて完了するまで、いくつかの場所では古い名前が表示されます。

Tableau CRM のデータインテグレーションとデータプレップ

時系列売上予測 (パイロット) を使用して明日の売上予測に基づいて今日の意思決定を行い、Snowflake Sync Out (正式リリース) と .csv データプレップ出力ノードを使用して Tableau CRM データを業務に転送します。

Analytics 事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション

業種に固有の Tableau CRM テンプレートを使用して、アプリケーション、ダッシュボード、ストーリーの作成を合理化します。Revenue Operations ダッシュボードでチームの活動に関するより多くのインサイトを取得したり、Einstein Discovery モデリングでトップドライバを探索したり、branch management ダッシュボードを使用して支店の小売銀行のパフォーマンスを改善したり、新しい Analytics for Loyalty および Rebate Analytics アプリケーションを使用して顧客維持を促進したりします。

Analytics アプリケーションの構築

再利用可能なコンポーネント (正式リリース) によってダッシュボードの作成が合理化され、設定可能なアクションと一括アクションでデータの実効性が向上しています。また、ダッシュボードが乱雑になることなくカスタム詳細を数値ウィジェットに追加することもできます。

Einstein Discovery

Einstein Discovery の新しいストーリーインターフェースでインサイトにシームレスに移動したり、データプレップレシピを使用してデータセットの予測を取得したり、Salesforce にアップロードおよびリリースする外部作成のモデルを使用して結果を予測したりできます。

すべてのユーザのための Tableau CRM

Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) をカスタマイズする方法が増え、お客様とそのユーザは、関連する分析環境へのアクセスとその設定を簡単に行うことができるようになりました。[分析] タブユーザによる Analytics Studio へのアクセス方法を制御したり、アプリケーション内のアセット表示を管理したり (ベータ)、組み込みダッシュボード内の通知や登録を提供したり、登録の更新を各自の方法で並び替えたりできます。

Einstein Analytics から Tableau CRM への名称変更

Einstein Analytics には新しい名前があります。Tableau CRM の登場です。すべての機能はそのままで、洗練された名前に変更されただけです。Tableau が Salesforce ファミリに加わったときに、これまでにない深度と能力を持つ分析機能が統合されました。Tableau CRM は、Salesforce CRM 製品内のネイティブ分析に最適なエクスペリエンスを提供します。Tableau CRM は引き続き AI と BI が結合され、Einstein Discovery は引き続きプラットフォームと緊密に統合されています。更新がすべて完了するまで、いくつかの場所では古い名前が表示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce モバイルアプリケーションでの Tableau CRM に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: この名称変更の一環で、ツール名の変更やドキュメントの更新が行われます。たとえば、Einstein Analytics のユーザライセンスと権限セットの名前は Tableau CRM に変更されました。

Tableau CRM のデータインテグレーションとデータプレップ

時系列売上予測 (パイロット) を使用して明日の売上予測に基づいて今日の意思決定を行い、Snowflake Sync Out (正式リリース) と .csv データプレップ出力ノードを使用して Tableau CRM データを業務に転送します。

このセクションの内容:

Sync Out を使用した Snowflake の Salesforce データの最新の状態の維持 (正式リリース)

Sync Out for Snowflake では、サードパーティの ETL ツールを必要とせずに、Snowflake の Salesforce データを最新の状態に保つことができます。処理、分析、ビジネスの自動化、またはストレージに中央 Snowflake データレイクを管理する場合、新しい Salesforce データが不可欠です。たとえば、レコードのシステムである Salesforce の取引先データをデータレイク内の ERP の配送データとマージすることで、配送物流チームに最新のデータを提供します。Sync Out for Snowflake は、Snowflake 用 Tableau CRM コネクタおよびスケジュールされたデータ同期を使用して、Tableau CRM 経由で未加工のローカル Salesforce データを Snowflake にエクスポートします。この機能が正式リリースされました。

データプレップ出力ノードを使用した .csv へのデータセットのエクスポート

データプレップ出力ノードを使用して、Tableau CRM の準備したデータをデータおよびスキーマファイルとして保存します。その後、公開 API を使用してデータを .csv ファイルとしてローカルにダウンロードできます。このデータ転送により、Tableau CRM の拡張、クリーンアップ、改善が行われたデータを外部システムに転送して、分析したり、保管したり、ビジネスプロセスに情報を提供したりできます。たとえば、Tableau CRM のデータセットをエクスポートして、ローカルにダウンロードし、Microsoft Excel で探索できます。

Salesforce 出力コネクタを使用した Salesforce への準備した Tableau CRM データのマージ (ベータ)

Tableau CRM Salesforce 出力コネクタおよびデータプレップを使用して、Tableau CRM から準備した Account データセット、Opportunity データセット、およびカスタムオブジェクトデータを Salesforce 組織に転送します。Salesforce の準備したデータを使用して、外部データを統合したり、Salesforce 自動化ツールのスイートを適用してデータへのアクションを実行したり、非 Tableau CRM ユーザがレポートおよびダッシュボードを介してデータにアクセスできるようにしたりできます。

追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (ベータ)

Tableau Online 出力コネクタおよびデータプレップレシピを使用して、Tableau CRM の準備したデータを Tableau Online に転送します。変換、マージ、クリーンアップされたデータは、さらに分析するために .hyper ファイルとして Tableau Online に転送されます。たとえば、Tableau CRM で苦戦している商品の商談履歴データを準備し、Tableau Online のツールを使用して、商談を最適化するのに役立つトレンドを識別します。

接続されたデータソースのセキュリティ暗号化要件の厳格化

Tableau CRM は、データの安全性を確保できるように尽力しています。そのため、すべての接続に TLS プロトコルバージョン 1.2 が適用されるようになりました。この TLS プロトコルバージョンはすでにサポートされていましたが、適用されるようになりました。TLS v1.1 以下を使用するソースシステムは、再設定するまで接続できません。

改善された共有継承の対象範囲の評価による簡素化された行レベルの共有のより多くの候補の識別

改善された共有継承の対象範囲の評価で共有継承に適したオブジェクトおよびユーザの候補を簡単に特定できます。共有継承を使用すると、Salesforce でオブジェクトに対して使用している共有設定と同じ共有設定を Tableau CRM でデータセットに対して適用できます。[共有継承の対象範囲の評価] ツールで、Salesforce 組織の共有記述子制限と、制限を超えている上位のレコードまたはユーザが共有継承の対象範囲の評価数と共に表示されるようになりました。

ウィンドウ関数を使用した行全体の計算の実行

データソースの行ごとに、関連する行の選択内容 (ウィンドウ) に関する計算を実行します。行をグループ化する集計とは異なり、ウィンドウ関数は各行の結果を返します。たとえば、各商談のフェーズ全体の商談金額の変化を計算して、販売目標を達成できるかどうかを確認できます。ウィンドウ関数は、データプレップレシピのカスタム数式変換で使用できます。

スマート変換パイロットプログラムによる優位性の確保

スマート変換パイロットプログラムに参加して、データプレップレシピのすべてのパイロット機能をお試しください。プログラムに時系列売上予測変換、クラスタ変換、集計ノードのピボット機能が含まれるようになりました。パイロット機能は、既存の機能が正式リリースまたは廃止されたときや、新しいパイロット機能がプログラムに追加されたときに各リリースで変更される可能性があります。

時系列売上予測を使用した将来の予測 (パイロット)

時系列売上予測を使用すると、明日に関する売上予測に基づいて今日の意思決定を行うことができます。データプレップレシピの時系列売上予測変換を使用して、履歴データに基づいて売上予測を実行します。たとえば、四半期別の売上を評価します。

クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (パイロット)

共通する特性に基づいてデータの行を個別のクラスタに分割するには、データプレップレシピのクラスタ変換を使用します。たとえば、取引先の業種、評価、従業員数、年間売上に基づいて取引先をクラスタ化できます。クラスタを使用して、同じクラスタ内の他の取引先に基づいて、各取引先にアップセルする商品やサービスを識別できます。

ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (パイロット)

ピボットを使用して、重要な総計値を列のディメンションでグループ化します。たとえば、各国の総収益を取引先種別でグループ化し、国と取引先種別のそれぞれの組み合わせの収益を分析します。ディメンションを列としてピボットするには、データプレップレシピの集計ノードを使用します。

列値の形式の標準化によるデータクリーンアップ

データプレップレシピを使用してデータを統合する場合、列値が整合性のない形式または不適な形式になる可能性があります。基準列の精度とスケール、ディメンション列の文字数、および [属性を編集]、[ディメンションから基準]、[基準からディメンション]、[数式] 変換の日付列の日付形式を設定できるようになりました。

ディスジョイントスデータソースからの行の追加

レシピにない列が含まれるデータを追加できるようになりました。追加ノードを使用して異なるソースの行を積み上げる場合、あるソースの列が他のソースの列に存在しないことがあります。データプレップレシピの追加ノードで、左側に存在しない右側のデータソースの列がサポートされるようになりました。

データプレップのその他の機能強化

データを結合するときに API 参照名が競合しないようにしたり、入力ノードのプレビューの変更ですべての情報を確認したりできます。

優先スケジューリングを使用したレシピとデータフローのスマートな実行

長い実行が終了するまで小さいデータフローまたはレシピの実行が待機していることはありませんか? レシピとデータフローの優先スケジューリングでは、実行キューが自動的に管理されます。小さくて高速な実行を優先しながら、大きくて長い実行を予定どおりに確実に完了します。優先度は、実行時間の履歴、データセットの入力サイズ、CSV ファイルサイズなど、各種要素に基づいて自動的に計算されます。

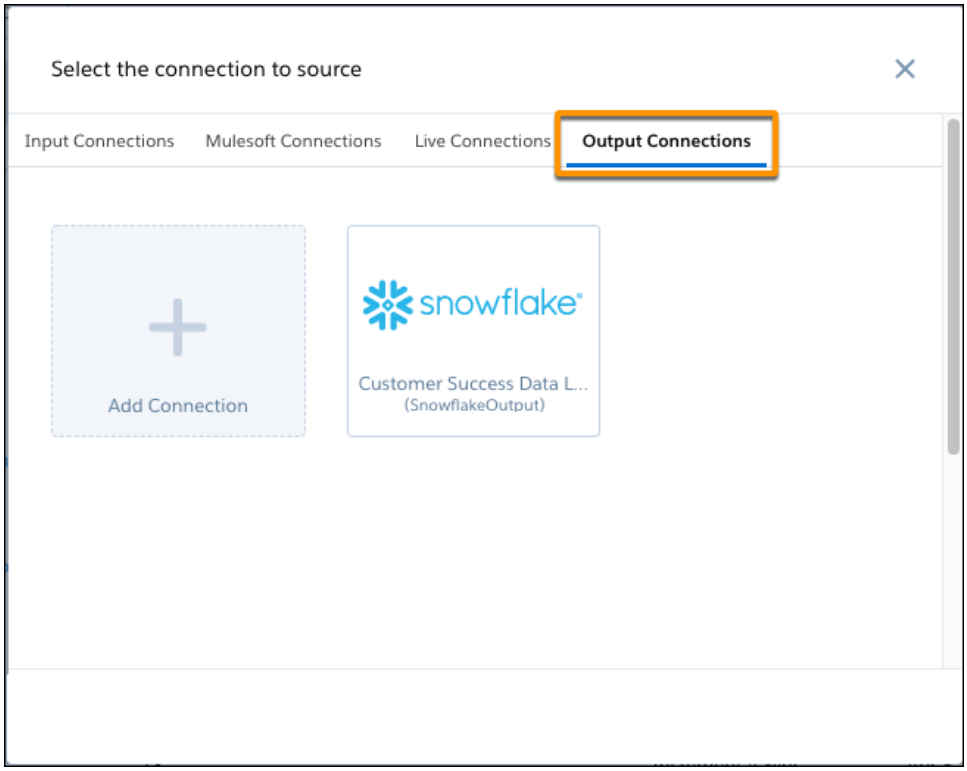
Sync Out を使用した Snowflake の Salesforce データの最新の状態の維持 (正式リリース)

Sync Out for Snowflake では、サードパーティの ETL ツールを必要とせずに、Snowflake の Salesforce データを最新の状態に保つことができます。処理、分析、ビジネスの自動化、またはストレージに中央 Snowflake データレイクを管理する場合、新しい Salesforce データが不可欠です。たとえば、レコードのシステムである Salesforce の取引先データをデータレイク内の ERP の配送データとマージすることで、配送物流チームに最新のデータを提供します。Sync Out for Snowflake は、Snowflake 用 Tableau CRM コネクタおよびスケジュールされたデータ同期を使用して、Tableau CRM 経由で未加工のローカル Salesforce データを Snowflake にエクスポートします。この機能が正式リリースされました。

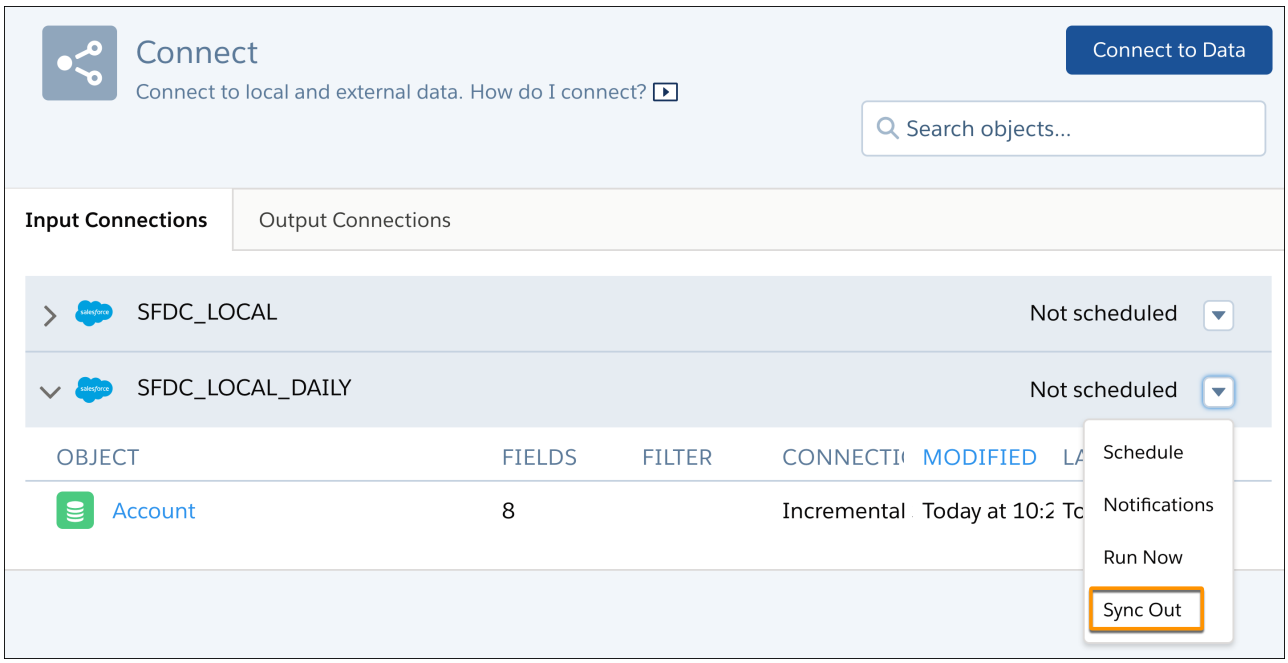
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: データプレップレシピの出力ノードを使用してデータを Snowflake に転送できますが、この拡張により処理のレイヤが追加されます。Sync Out for Snowflake では、拡張のために処理時間を追加することなく、Tableau CRM が Salesforce から受信したときと同じ条件でデータを転送できます。

方法: [設定] の [Analytics 設定] で Sync Out for Snowflake を有効にします。データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。[出力接続] タブで接続を追加し、Snowflake アカウント情報を使用して設定します。



[接続] タブに戻り、Snowflake にエクスポートするデータを含むローカル Salesforce 接続を見つけます。この例では、SFDC_LOCAL_DAILY 接続に取引先オブジェクトが含まれます。接続の横にあるメニュー( )を選択し、**[Sync Out]** をクリックします。



Sync Out は、各ローカルオブジェクトのデータ同期が完了すると実行されます。この例では、データ同期で取引先オブジェクトから Tableau CRM にデータが取り込まれたら、Sync Out が同じ取引先データを Snowflake に転送します。

関連トピック:

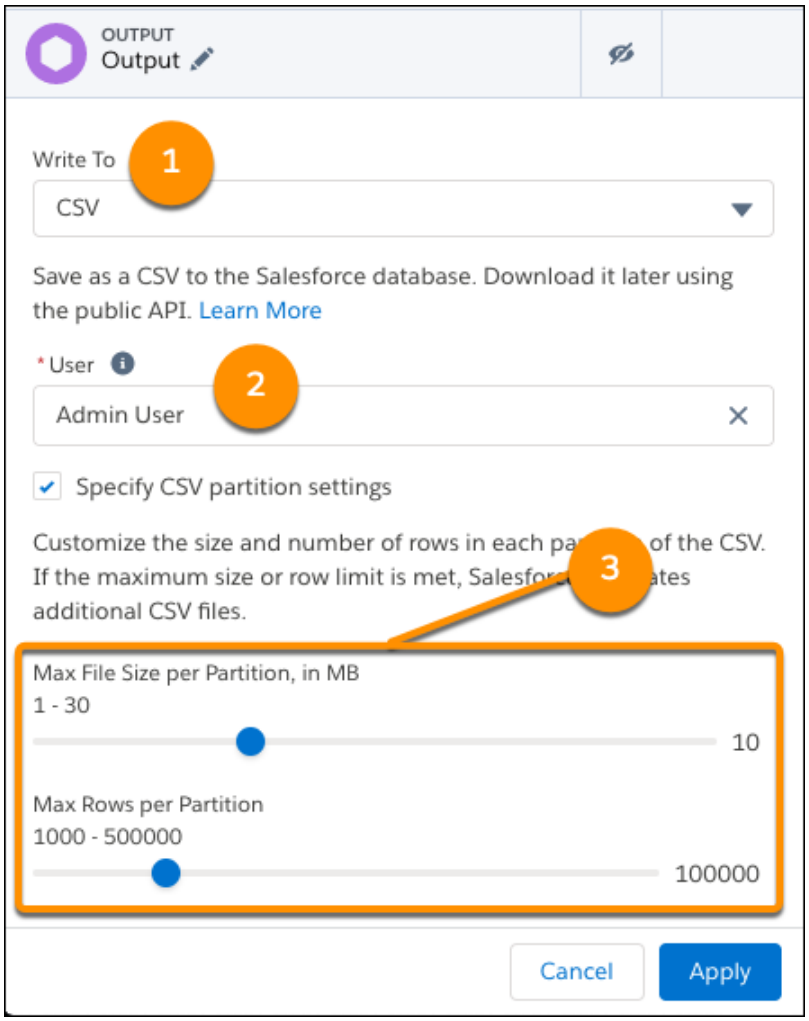
Salesforce ヘルプ: Sync Out for Snowflake

データプレップ出力ノードを使用した .csv へのデータセットのエクスポート

データプレップ出力ノードを使用して、Tableau CRM の準備したデータをデータおよびスキーマファイルとして保存します。その後、公開 API を使用してデータを .csv ファイルとしてローカルにダウンロードできます。このデータ転送により、Tableau CRM の拡張、クリーンアップ、改善が行われたデータを外部システムに転送して、分析したり、保管したり、ビジネスプロセスに情報を提供したりできます。たとえば、Tableau CRM のデータセットをエクスポートして、ローカルにダウンロードし、Microsoft Excel で探索できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データプレップを使用してレシピを作成します。出力ノードで、CSV への書き込み (1) を選択します。ファイルをダウンロードするユーザの名前 (2) を入力します。必要に応じて、CSV ファイルのパーティションあたりの最大ファイルサイズと最大行数 (3) を指定します。



レシピを保存します。レシピが実行されると、Tableau CRM は出力を Salesforce データベースに書き込みます。Salesforce からデータを取得するには、データセット ID を見つけるワークベンチやファイルをダウンロードする Salesforce CLI などのツールを使用します。これらのツールの使用については、Salesforce システム開発者にお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce ブロガー: Export Your Einstein Analytics Datasets (Einstein Analytics データセットのエクスポート)

Salesforce 出力コネクタを使用した Salesforce への準備した Tableau CRM データのマージ (ベータ)

Tableau CRM Salesforce 出力コネクタおよびデータプレップを使用して、Tableau CRM から準備した Account データセット、Opportunity データセット、およびカスタムオブジェクトデータを Salesforce 組織に転送します。Salesforce の準備したデータを使用して、外部データを統合したり、Salesforce 自動化ツールのスイートを適用してデータへのアクションを実行したり、非 Tableau CRM ユーザがレポートおよびダッシュボードを介してデータにアクセスできるようにしたりできます。

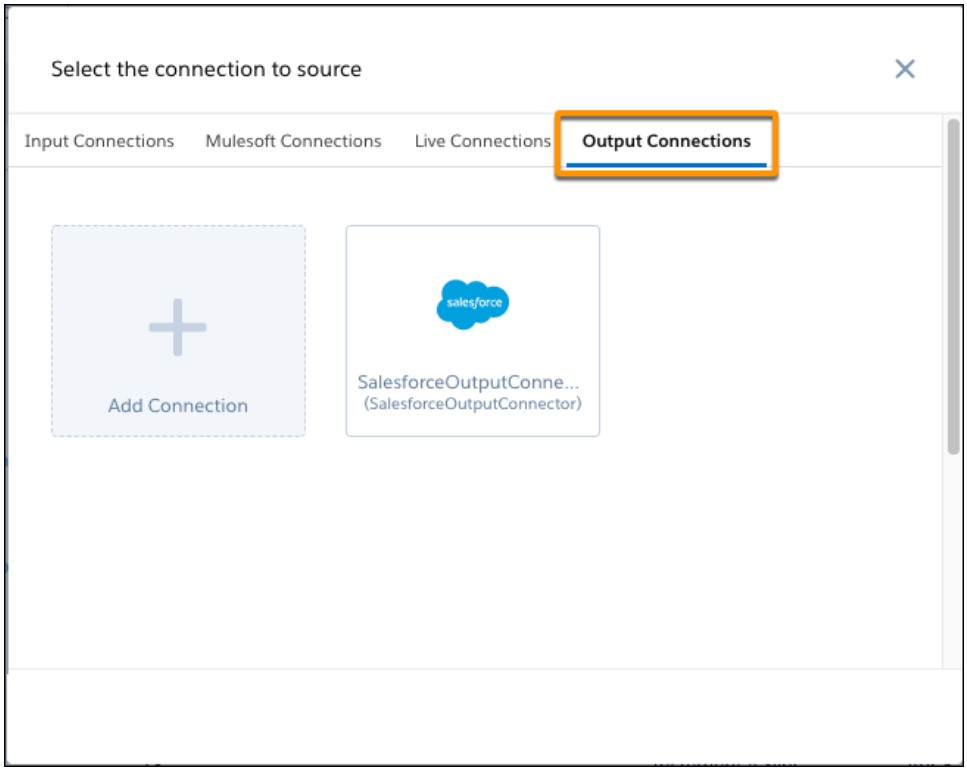
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Salesforce 出力コネクタはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Salesforce 出力コネクタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Tableau CRM Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

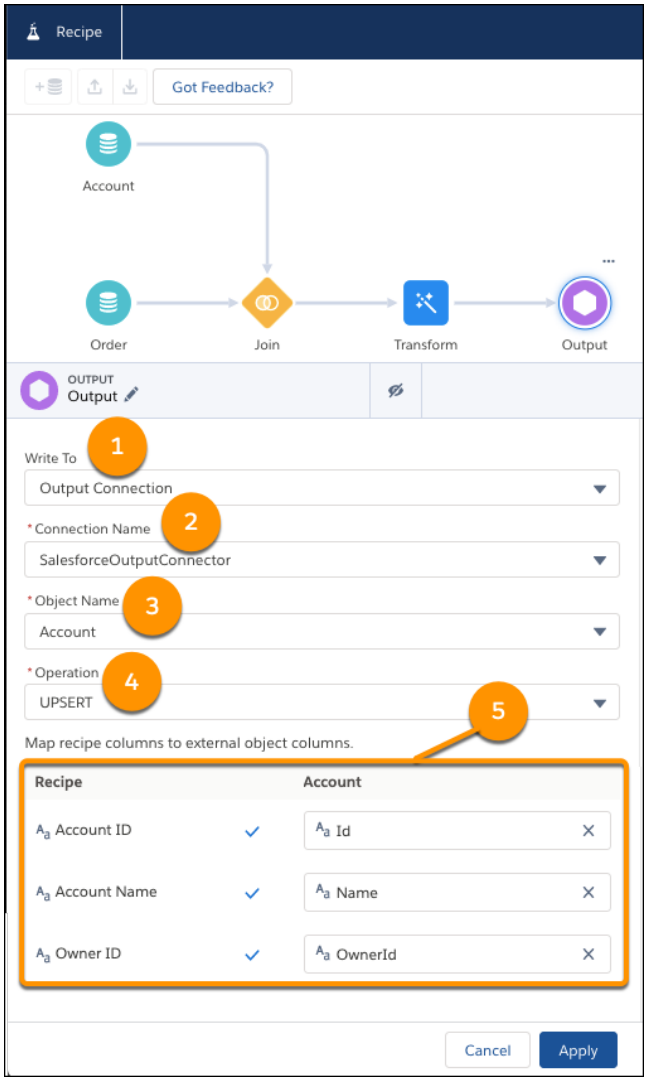
理由: Tableau CRM を使用すると、リモートデータを Salesforce レコードとマージして、分析および視覚化を改善するための変換 (欠損値の予測、センチメント分析、クラスタ化など) を行うことが容易になります。Salesforce 出力コネクタでデータプレップ出力ノードを使用して、拡張されたデータを任意の接続された Salesforce 組織に挿入したり、更新したり、更新/挿入したりできます。

たとえば、取引先データを検索して外部注文で更新し、そのデータを Salesforce に転送します。データ同期を使用して Salesforce の取引先レコードデータを Tableau CRM に取り込み、Tableau CRM Snowflake コネクタを使用して Snowflake の注文データを取り込みます。次に、データプレップ結合ノードを使用して、注文データを取引先レコードと出力ノードに関連付け、変換されたデータを Salesforce に転送します。Salesforce で、プロセスビルダーを使用して、注文トレンドが下落しているときに取引先所有者にアラートを通知します。

方法: データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。[出力接続] タブで接続を追加し、Salesforce 組織の情報を使用して設定します。使用する組織のログイン情報によって、コネクタのアクセスレベルが決まります。



データプレップを使用してレシピを作成します。この例では、Salesforce取引先データを検索して外部注文データで更新します。出力ノードで、出力接続への書き込みを選択します (1)。データの転送先となる Salesforce 出力接続 (2) と書き込み先となるオブジェクト (3) を選択します。転送でのデータに対する操作 (更新、挿入、更新/挿入) を選択します (4)。レシピ列を対応する外部オブジェクト列に対応付けます (5)。



レシピを保存します。レシピが実行されると、Tableau CRM は出力を Salesforce 組織に書き込みます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce 出力接続

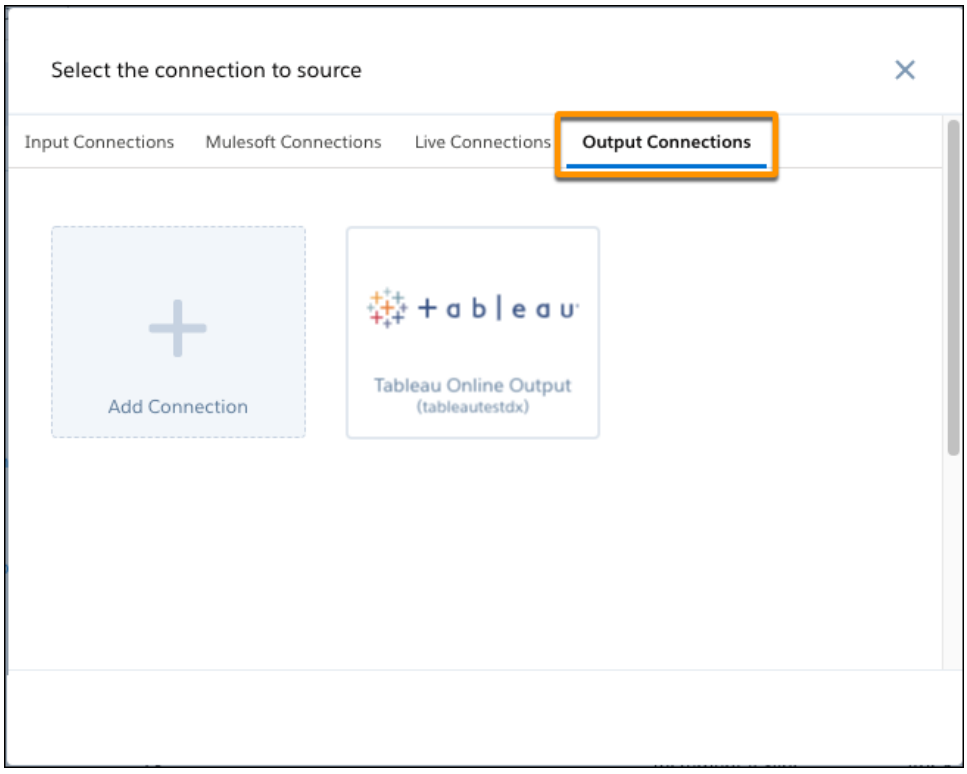
追加の分析のための Tableau Online への Tableau CRM データのエクスポート (ベータ)

Tableau Online 出力コネクタおよびデータプレップレシピを使用して、Tableau CRM の準備したデータを Tableau Online に転送します。変換、マージ、クリーンアップされたデータは、さらに分析するために .hyper ファイルとして Tableau Online に転送されます。たとえば、Tableau CRM で苦戦している商品の商談履歴データを準備し、Tableau Online のツールを使用して、商談を最適化するのに役立つトレンドを識別します。

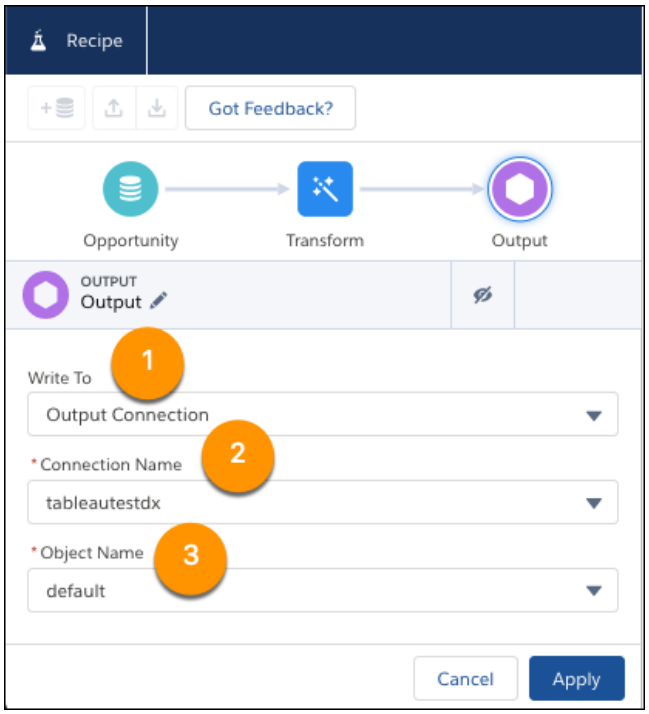
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Tableau Online 出力コネクタは、ベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Tableau Online 出力コネクタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Tableau CRM Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

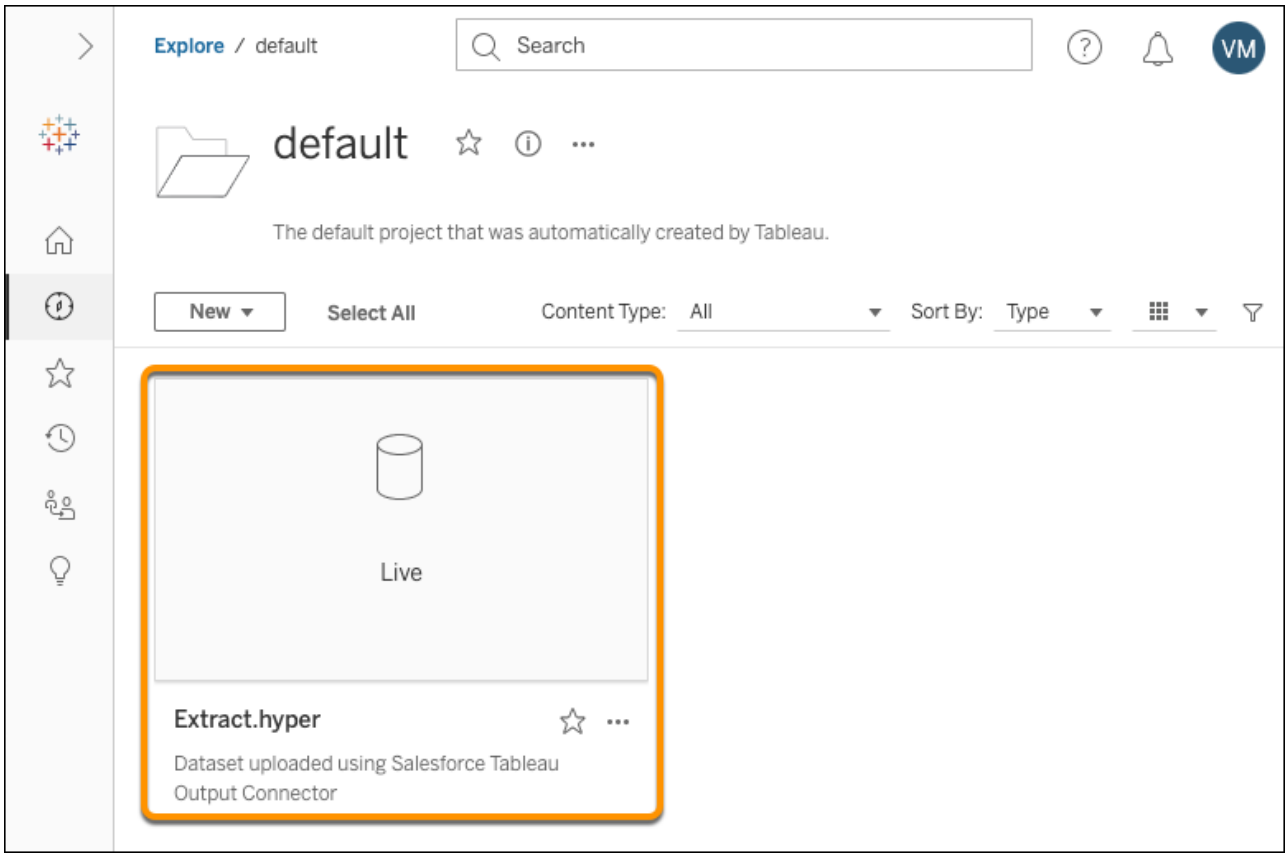
方法: データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。[出力接続] タブで接続を追加し、Tableau Online アカウント情報を使用して設定します。



データプレップを使用してレシピを作成します。出力ノードで、出力接続への書き込みを選択します (1)。データの転送先となる Tableau Online 接続 (2) を選択します。[オブジェクト名] (3) として書き込み先となる Tableau Online プロジェクトを選択します。



レシピを保存します。レシピが実行されるたびに、Tableau CRM は指定された Tableau Online プロジェクト内に Extract.hyper ファイルとして出力を書き込みます。ここから、追加の分析を実行したり、Tableau CRM データを Tableau Online ダッシュボードに追加したりできます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Tableau Hyper 出力接続

接続されたデータソースのセキュリティ暗号化要件の厳格化

Tableau CRM は、データの安全性を確保できるように尽力しています。そのため、すべての接続に TLS プロトコルバージョン 1.2 が適用されるようになりました。この TLS プロトコルバージョンはすでにサポートされていましたが、適用されるようになりました。TLS v1.1 以下を使用するソースシステムは、再設定するまで接続できません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

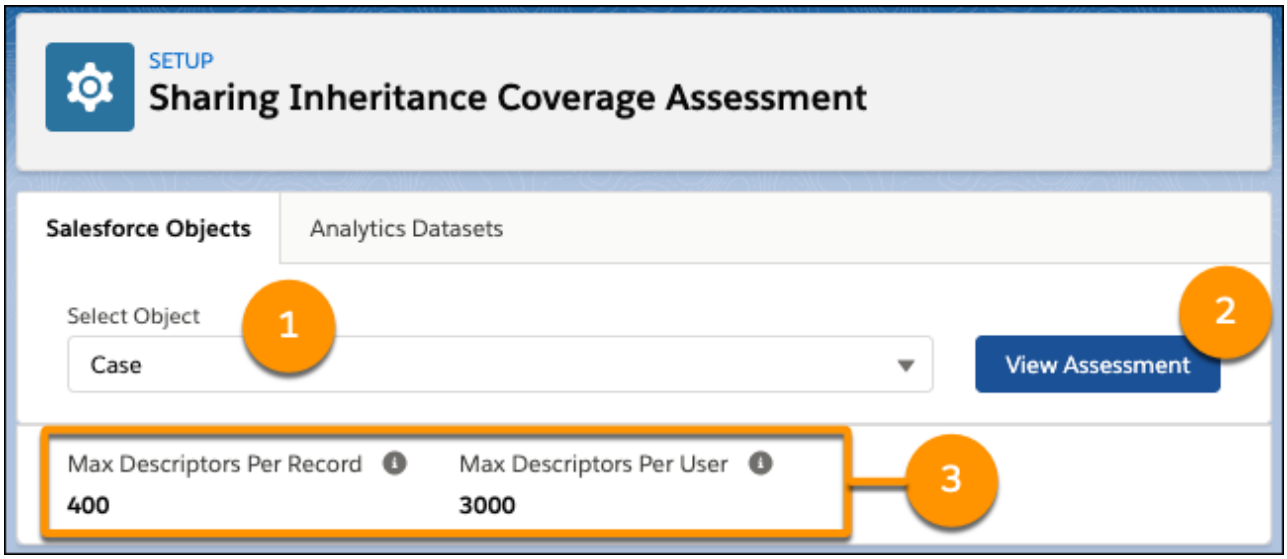
方法: ソースシステムの暗号化を確認したり、TLS v1.2 以上になるようにソースシステムの暗号化を再設定したりするには、接続されているシステムの暗号化ドキュメントおよび設定を参照してください。この標準を満たすように既存の接続を再設定してください (まだの場合)。

改善された共有継承の対象範囲の評価による簡素化された行レベルの共有のより多くの候補の識別

改善された共有継承の対象範囲の評価で共有継承に適したオブジェクトおよびユーザの候補を簡単に特定できます。共有継承を使用すると、Salesforce でオブジェクトに対して使用している共有設定と同じ共有設定を Tableau CRM でデータセットに対して適用できます。[共有継承の対象範囲の評価] ツールで、Salesforce 組織の共有記述子制限と、制限を超えている上位のレコードまたはユーザが共有継承の対象範囲の評価数と共に表示されるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Analytics`」と入力し、[共有継承の対象範囲の評価] を選択します。[Salesforce オブジェクト] タブ (1) で、共有継承でアクセスするオブジェクトを選択し、[評価を表示] (2) をクリックします。組織の最大共有記述子を超えている最大レコード数 (3) が表示されます。



共有記述子は、レコードへのアクセス権を持つユーザまたはグループの ID です。オブジェクトレコードおよびユーザの記述子が組織の最大記述子数よりも少ない場合は共有継承を適用します。レコードが制限を超えている場合は、組織の共有戦略の柔軟性に応じて、レコードあたりの記述子数を減らすか、制限を緩和できるかどうかを評価するように Salesforce サポートに依頼してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 共有ルールの継承による行レベルセキュリティの追加

ウィンドウ関数を使用した行全体の計算の実行

データソースの行ごとに、関連する行の選択内容(ウィンドウ)に関する計算を実行します。行をグループ化する集計とは異なり、ウィンドウ関数は各行の結果を返します。たとえば、各商談のフェーズ全体の商談金額の変化を計算して、販売目標を達成できるかどうかを確認できます。ウィンドウ関数は、データプレップレシピのカスタム数式変換で使用できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

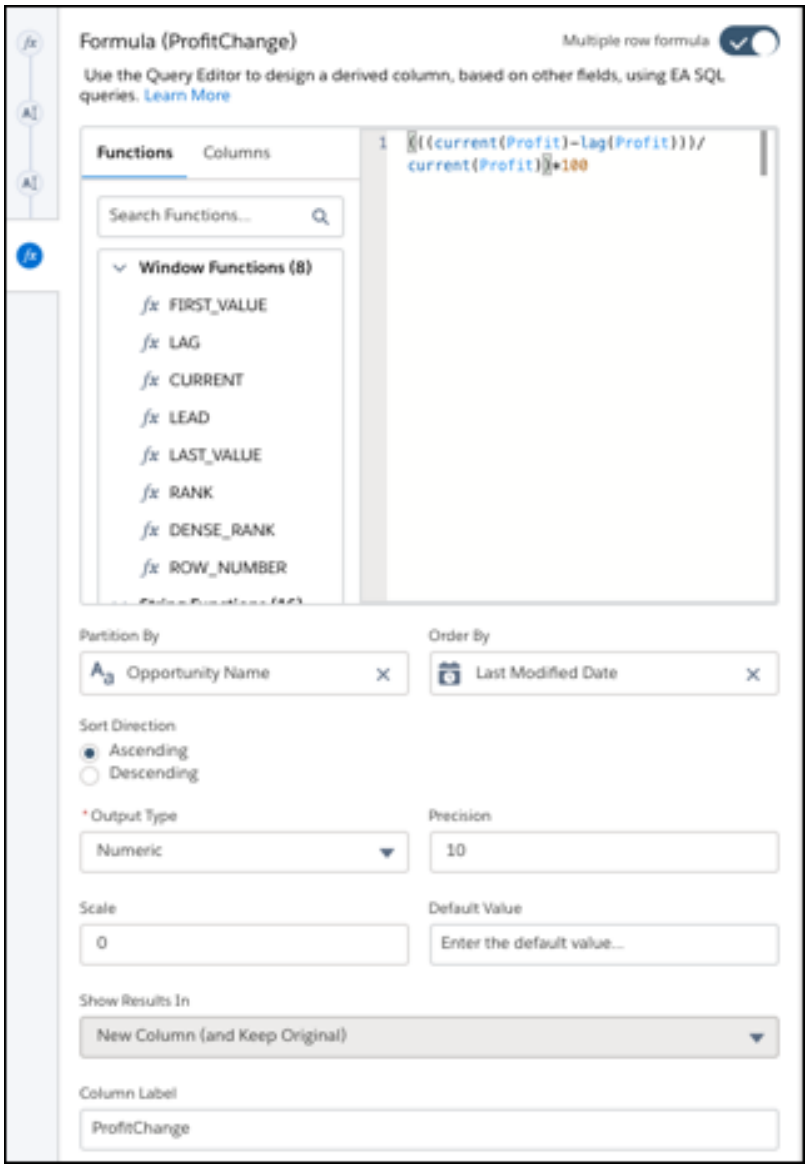
方法: カスタム数式でウィンドウ関数を使用して、行全体の計算を実行します。たとえば、商談レコードが更新されるたびに、ウィンドウ関数を使用して収益の変化率を計算できます。商談履歴オブジェクトは、商談の経時的な変化を追跡します。レコードが日付で昇順に並び替えられていると、各商談の変化の履歴を確認できます。

Opportunity ↑	Date ↑	Profit	Volume	Stage	Account	Case	Owner	Product
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/10/17	$19,681	68	Qualification	Carroll-Rosenbaum	14	Andy Peterson	Basic Internet
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/12/17	$28,999	65	Proposal	Jaskolski-Simonis	12	John Smith	Basic Internet
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/13/17	$36,804	64	Perception Analysis	Lang, Russel and Abernathy	12	Wes Hardin	Basic Internet
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/13/19	$77,481	284	Won	Skiles Inc	13	Vanessa Central	Basic Internet
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/15/19	$58,674	288	Qualification	Smitham Inc	10	Anne Frost	Basic Internet
Abbott Inc [1276] - Jan 10	1/16/16	$5,547	43	Qualification	Weber-Howell	10	Andy Peterson	Basic Internet

ウィンドウ関数を使用してカスタム数式を作成するには、カスタム数式変換をデータプレップレシピの変換ノードに追加します。数式でウィンドウ関数を使用するには、[行数式の数式]を有効にします。たとえば、次のカスタム数式を入力して、収益の変化率を計算します。

```
(((current(Profit)-lag(Profit)))/current(Profit))*100
```

次に、ウィンドウのプロパティを定義します。たとえば、[パーティションの基準] を [商談名]、[並び替えの基準] を [最終更新日]、[並び替えの方向] を [昇順] に設定します。変換は、これらの設定に従い、同じ商談名に基づいて、すべてのレコードをパーティション(バケット)に結合します。次に、最終更新日に基づいて昇順で各パーティションのレコードを並び替えます。以前の商談レコードの更新以降の収益の変化を確認するには、レコードを並び替える必要があります。



レシピを実行すると、最初の行にlag関数が定義されておらず、デフォルト値が指定されていないため、各パーティションの最初の計算はnullになります。パーティションの後続のすべての値は、収益の変化率を示しています。

Opportunity Name ↓	Last Modified Date ↑	Profit	ProfitChange	Stage
Opportunity for Abbott [3772]	2016-01-18T00:00:00.000Z	3,639	-	Qualification
Opportunity for Abbott [3772]	2016-01-26T00:00:00.000Z	7,596	52	Negotiation
Opportunity for Abbott [3772]	2016-02-03T00:00:00.000Z	12,801	41	Proposal
Opportunity for Abbott [3772]	2016-02-04T00:00:00.000Z	15,278	16	Value Proposition
Opportunity for Abbott [3772]	2016-02-06T00:00:00.000Z	4,105	-272	Negotiation
Opportunity for Abbott [3772]	2016-02-09T00:00:00.000Z	15,100	73	Decision Makers

数式では、次のウィンドウ関数を使用できます。

ウィンドウ関数	説明
current	パーティションの現在のレコードの値を返します。
dense_rank	順序に基づいてパーティションの各レコードのランクを返します。ランクは連続しており、値が一致してもそのランクが繰り返されることはありません。
first_value	パーティションの最初のレコードの値を返します。
lag	パーティションの以前のレコードの値を返します。
last_value	パーティションの最後のレコードの値を返します。
lead	パーティションの次のレコードの値を返します。
rank	順序に基づいてパーティションの各レコードのランクを返します。値が同じ場合は同じ順位を繰り返し、次の一致しない値で繰り返した数だけ順位をスキップします。
row_number	パーティションの行番号を返します。パーティションの行ごとに 1 つずつ増加します。

スマート変換パイロットプログラムによる優位性の確保

スマート変換パイロットプログラムに参加して、データプレップレシピのすべてのパイロット機能をお試しください。プログラムに時系列売上予測変換、クラスタ変換、集計ノードのピボット機能が含まれるようになりました。パイロット機能は、既存の機能が正式リリースまたは廃止されたときや、新しいパイロット機能がプログラムに追加されたときに各リリースで変更される可能性があります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

スマート変換パイロットプログラムは、特定の契約条件に同意した一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能

性があり、参加は保証されません。各データプレップパイロット機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。スマート変換パイロットプログラムに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

対象ユーザ: スマート変換パイロットプログラム機能を使用するには、「データプレップパイロット機能を有効化」ユーザ権限が割り当てられていて、所属する組織がスマート変換パイロットプログラムに参加している必要があります。

関連トピック:

- 時系列売上予測を使用した将来の予測 (パイロット)
- クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (パイロット)
- ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (パイロット)

時系列売上予測を使用した将来の予測 (パイロット)

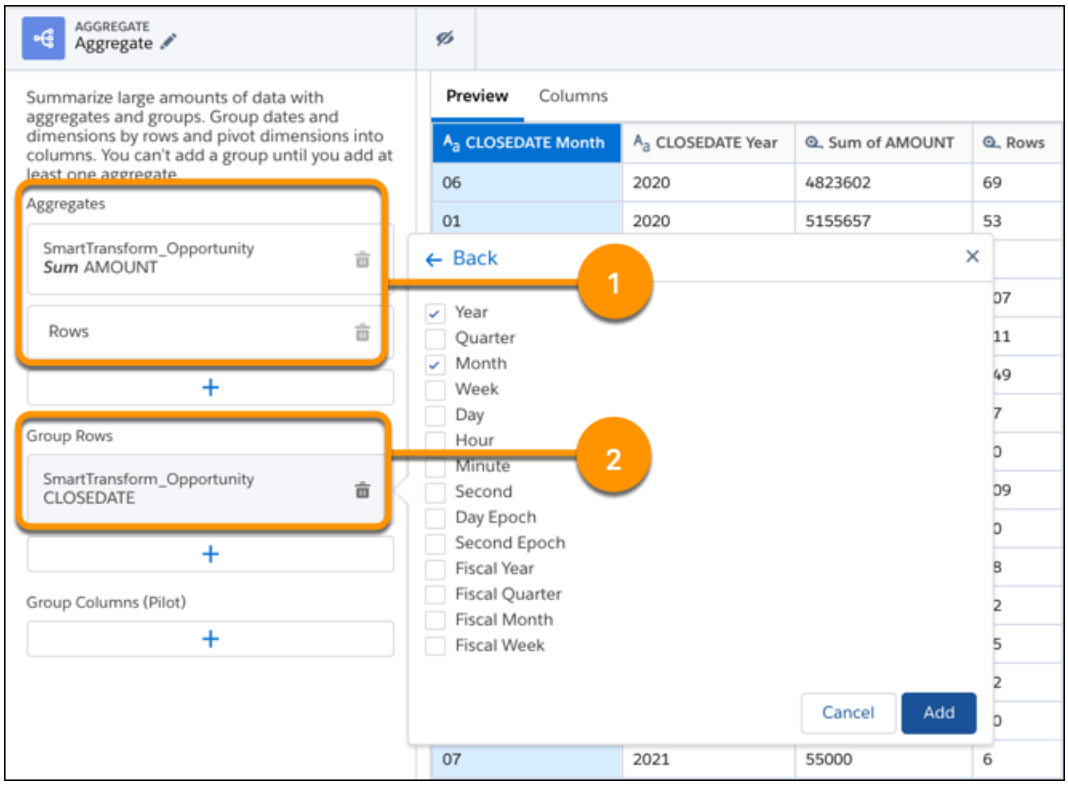
時系列売上予測を使用すると、明日に関する売上予測に基づいて今日の意思決定を行うことができます。データプレップレシピの時系列売上予測変換を使用して、履歴データに基づいて売上予測を実行します。たとえば、四半期別の売上を評価します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

スマート変換パイロットプログラムは、特定の契約条件に同意した一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。各データプレップパイロット機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。スマート変換パイロットプログラムに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

対象ユーザ: 時系列売上予測変換を使用するには、「データプレップパイロット機能を有効化」ユーザ権限が割り当てられていて、所属する組織がスマート変換パイロットプログラムに参加している必要があります。

方法: 時系列売上予測変換を作成する前に、集計ノードを追加して、売上予測の期間の基準を結合します。たとえば、次の 6 か月の商談の総額と数を予測するには、集計ノードで両方の基準を集計として追加し (1)、[完了予定日] 列の年と月で行をグループ化 (2) します。



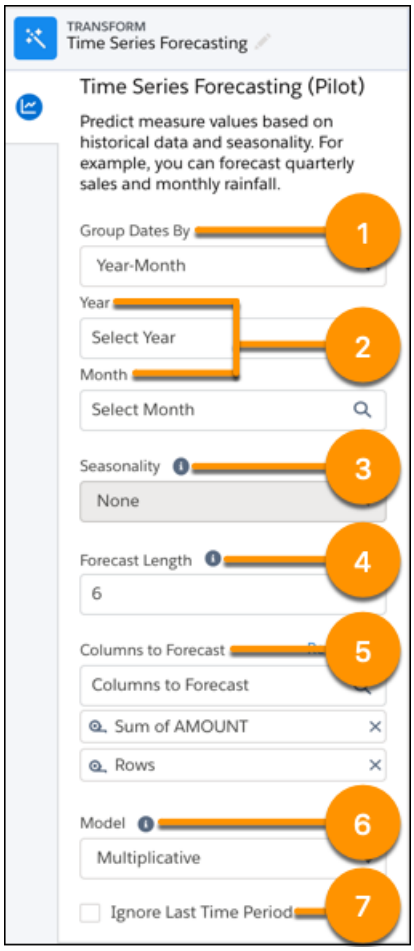
時系列売上予測変換を変換ノードに追加するには、変換ツールバーで [時系列売上予測] ボタン ( ) をクリックします。[集計期間単位] 項目 (1) で時系列データの期間 (週または月) を選択します。次に、関連する期間を識別するディメンション列を選択します。たとえば、年-月で日付をグループ化する場合、年と月の列 (2) を選択します。これらの列は、以前に作成した集計ノードによって作成されています。[季節性] 項目 (3) は無視できます。この機能はまだ使用できません。

[売上予測の長さ] 項目 (4) で、売上予測の期間数を指定します。たとえば、年-月で日付をグループ化して売上予測の長さを 12 に設定すると、次の 12 か月の予測を得られます。[売上予測する列] (5) で、売上予測する基準列を選択します。最大 5 個の列を売上予測できます。

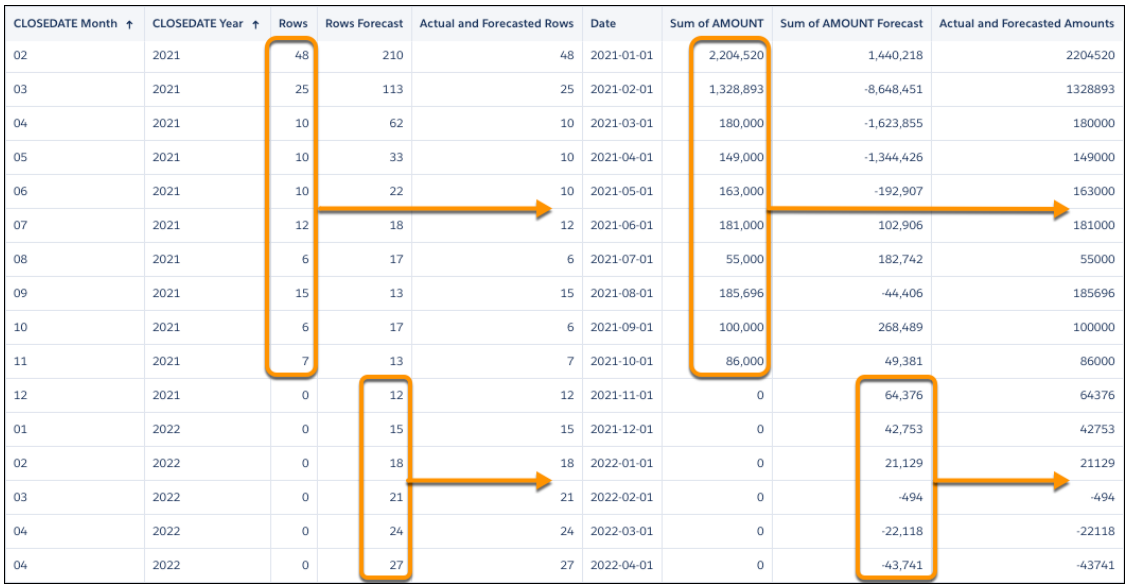
次に、[モデル] 項目 (6) で売上予測モデルを選択します。

- [加法] では、ホルトウィンターズ加法が使用されます。この方法は、時系列全体で季節変動がほぼ一定であるときに使用します。
- [乗法] では、ホルトウィンターズ乗法が使用されます。この方法は、季節変動が平均値 (時系列のレベル) に比例して変化する場合に使用します。

最後の期間のデータが不完全な場合 (期間がまだ終了していない場合)、[最後の期間を無視] (7) を選択します。不完全なデータを使用すると、誤解を招く売上予測になる可能性があります。



レシピを実行して、売上予測を確認します。各売上予測列には、それぞれの期間の結果が表示されます。この例では、[Rows (行)] と [Sum of Amount (合計金額)] 売上予測列に売上予測が表示されています。必要に応じて、次のように coalesce 関数を使用して、将来の期間の売上予測と実際の基準を 1 つの列に結合します。



CLOSEDATE Month	CLOSEDATE Year	Rows	Rows Forecast	Actual and Forecasted Rows	Date	Sum of AMOUNT	Sum of AMOUNT Forecast	Actual and Forecasted Amounts
02	2021	48	210	48	2021-01-01	2,204,520	1,440,218	2204520
03	2021	25	113	25	2021-02-01	1,328,893	-8,648,451	1328893
04	2021	10	62	10	2021-03-01	180,000	-1,623,855	180000
05	2021	10	33	10	2021-04-01	149,000	-1,344,426	149000
06	2021	10	22	10	2021-05-01	163,000	-192,907	163000
07	2021	12	18	12	2021-06-01	181,000	102,906	181000
08	2021	6	17	6	2021-07-01	55,000	182,742	55000
09	2021	15	13	15	2021-08-01	185,696	-44,406	185696
10	2021	6	17	6	2021-09-01	100,000	268,489	100000
11	2021	7	13	7	2021-10-01	86,000	49,381	86000
12	2021	0	12	12	2021-11-01	0	64,376	64376
01	2022	0	15	15	2021-12-01	0	42,753	42753
02	2022	0	18	18	2022-01-01	0	21,129	21129
03	2022	0	21	21	2022-02-01	0	-494	-494
04	2022	0	24	24	2022-03-01	0	-22,118	-22118
04	2022	0	27	27	2022-04-01	0	-43,741	-43741

メモ: レシピを実行すると、各期間の売上予測を生成するために、変換によってバックグラウンドで、売上予測された列に 0、他の列に null が入力されて、欠落している期間の行が入力されます。

クラスタ化を使用した新しいデータ分割方法の発見 (パイロット)

共通する特性に基づいてデータの行を個別のクラスタに分割するには、データプレップレシピのクラスタ変換を使用します。たとえば、取引先の業種、評価、従業員数、年間売上に基づいて取引先をクラスタ化できます。クラスタを使用して、同じクラスタ内の他の取引先に基づいて、各取引先にアップセルする商品やサービスを識別できます。

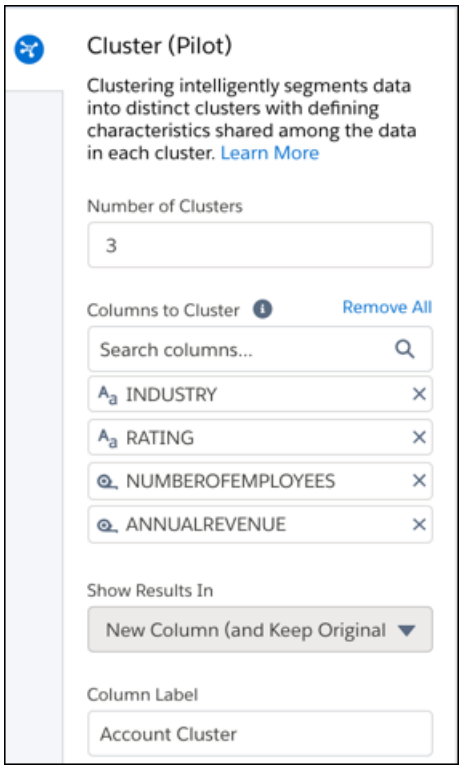
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

スマート変換パイロットプログラムは、特定の契約条件に同意した一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。各データプレップパイロット機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。スマート変換パイロットプログラムに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

対象ユーザ: クラスタ変換を使用するには、「データプレップパイロット機能を有効化」ユーザ権限が割り当てられていて、所属する組織がスマート変換パイロットプログラムに参加している必要があります。

方法: クラスタ変換をデータプレップレシピの変換ノードに追加するには、[クラスタ] ボタン ( ) をクリックします。変換を設定するには、クラスタ数と、クラスタを決定するための使用される列 (基準またはディメンション) を入力します。

たとえば、取引先を分割するために、取引先の業種、評価、従業員数、年間売上に基づいて 3 つのクラスタを作成できます。

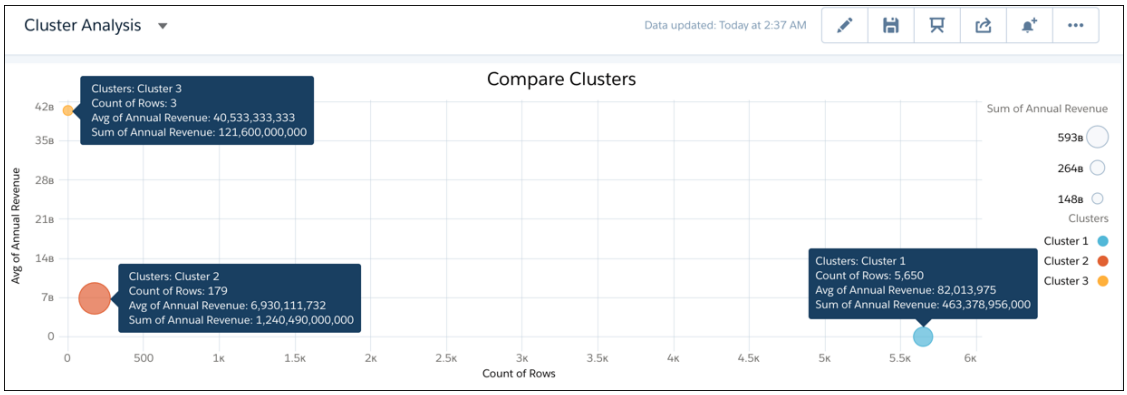


レシピを実行すると、各取引先がクラスタに割り当てられます。

Account Cluster	Account Name	Number of Employees	Annual Revenue	Industry ↓	Rating
Cluster 1	US Wirefree	112,327	1,350,000,000	Utilities	Hot
Cluster 1	Tru Vue	71,721	1,110,000,000	Utilities	Cool
Cluster 1	Softura	100,997	1,500,000,000	Utilities	Hot
Cluster 1	Bbk Holding Company	103,478	1,440,000,000	Utilities	Warm
Cluster 2	Internap	38	5,150,000,000	Utilities	Warm
Cluster 2	Vertical Venture DOT Co	153	5,030,000,000	Utilities	Hot
Cluster 2	Digicon Imaging	61	6,530,000,000	Utilities	Warm
Cluster 2	Springer-Miller Systems	8,986	8,630,000,000	Utilities	Cool

クラスタ化アルゴリズムでは、選択した列の値の共有セットに基づいてクラスタが決まります。たとえば、業種と評価が同じ取引先でも、従業員数と年間売上が同じ範囲(アルゴリズムにって決まる)に含まれていなければ、別のクラスタに配置される可能性があります。

その後、ダッシュボードを作成して、各クラスタの取引先に関するインサイトを取得できます。たとえば、クラスタ 3 は最も高い平均年間売上 (約 400 億) になりますが、そのクラスタに含まれるのは 3 つの取引先のみです。クラスタに基づいてインサイトを取得できない場合、別のクラスタセットを作成して、他の主要な特性 (購入商品や商談種別など) を確認できます。



ピボットを使用した多角的な集計データの分析 (パイロット)

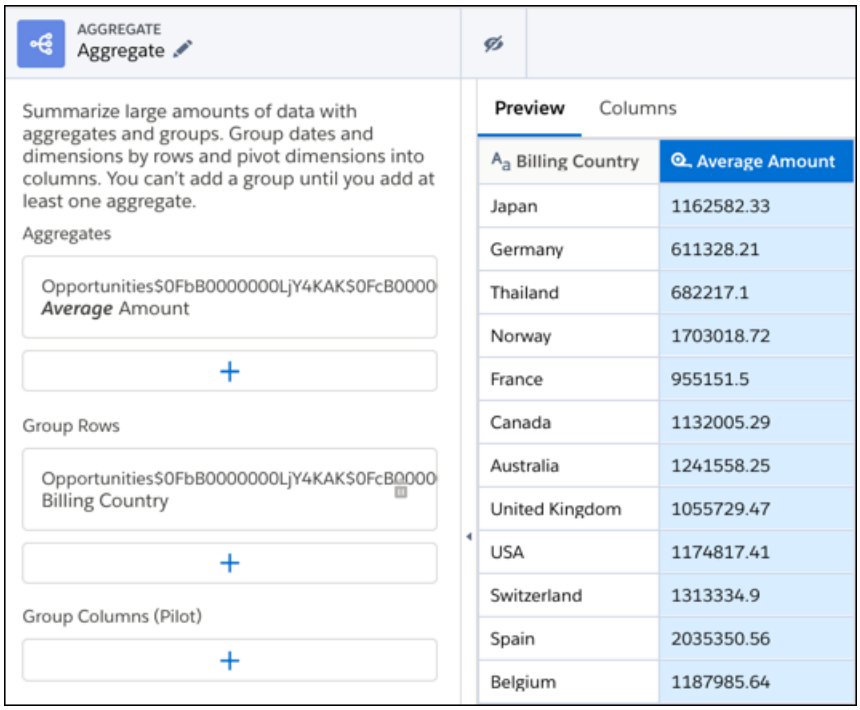
ピボットを使用して、重要な総計値を列のディメンションでグループ化します。たとえば、各国の総収益を取引先種別でグループ化し、国と取引先種別のそれぞれの組み合わせの収益を分析します。ディメンションを列としてピボットするには、データプレップレシピの集計ノードを使用します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

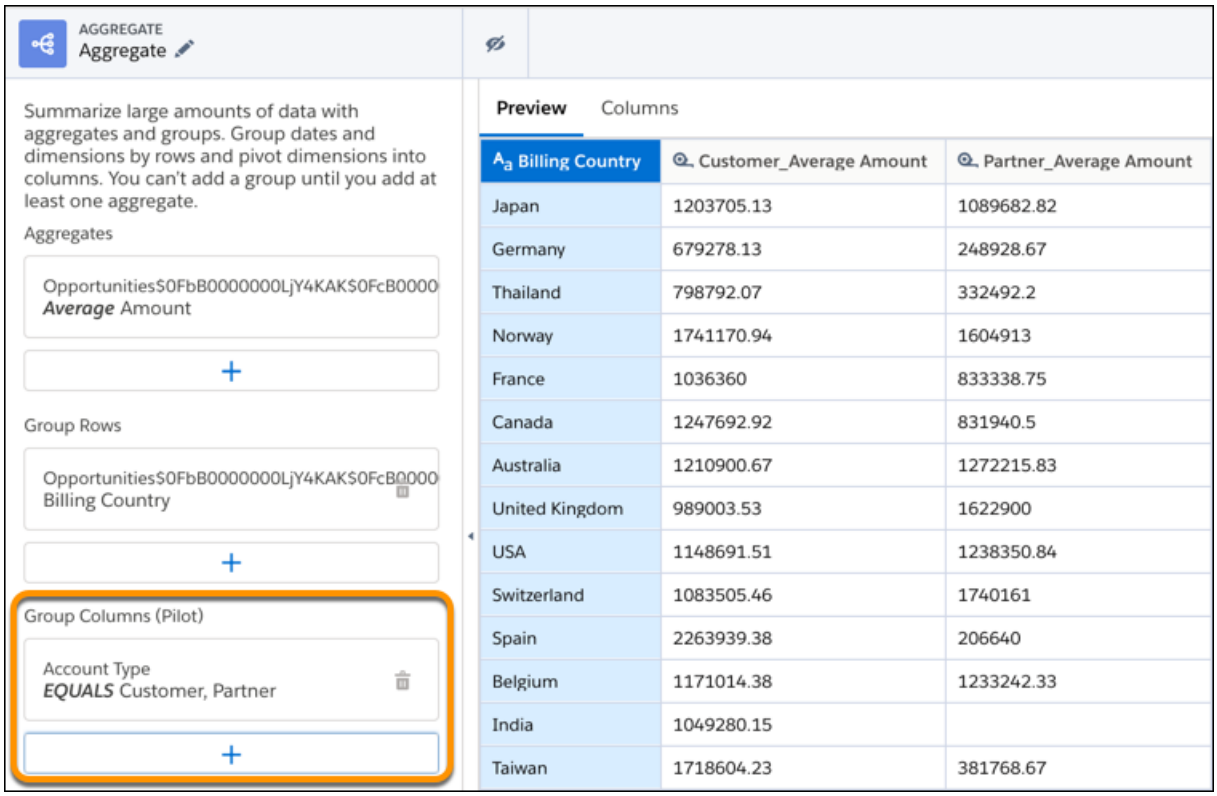
スマート変換パイロットプログラムは、特定の契約条件に同意した一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。各データプレップパイロット機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。スマート変換パイロットプログラムに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

対象ユーザ: 集計ノードのピボット機能を使用するには、「データプレップパイロット機能を有効化」ユーザ権限が割り当てられていて、所属する組織がスマート変換パイロットプログラムに参加している必要があります。

方法: ピボットを使用して、より多くのディメンションで集計行を分割します。たとえば、国ごとに平均商談金額を集計し、取引先種別を追加するとします。



平均金額を取引先種別で分割するには、集計ノードの [列をグループ化 (パイロット)] 項目に [取引先 種別] を追加します。ディメンションの各値が個別の列として表示されます。



データプレップは、集計に基づいてピボット列に名前を付け、列値をグループします (この例では、Customer_Average Amount と Partner_Average Amount)。ピボットテーブルを使用して、各国の顧客およびパートナーの総計値をすばやく比較できます。各基準で並び替えて、顧客およびパートナーの平均金額が最も高い国を確認することもできます。

集計ノードのピボット機能を使用する場合、次のルールを考慮してください。

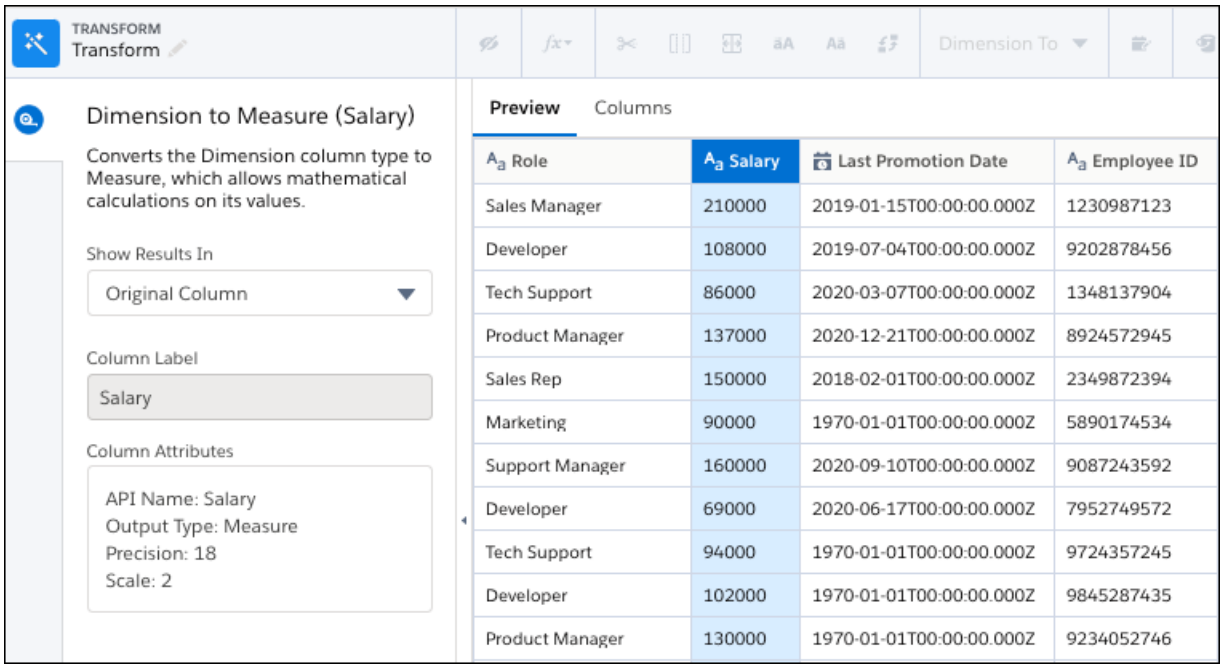
- グルーピングを追加するには、事前に 1 つ以上の集計を追加しておく必要があります。
- [列をグループ化 (パイロット)] 項目には 2 列まで追加できます。
- ピボットでは列数が増えるため、集計ノードで作成できる列数は 5,000 個までであることに注意してください。ノードが最大数を超えた場合、集計や、行および列のグルーピングを変更して、列数を減らすことができます。

列値の形式の標準化によるデータクリーンアップ

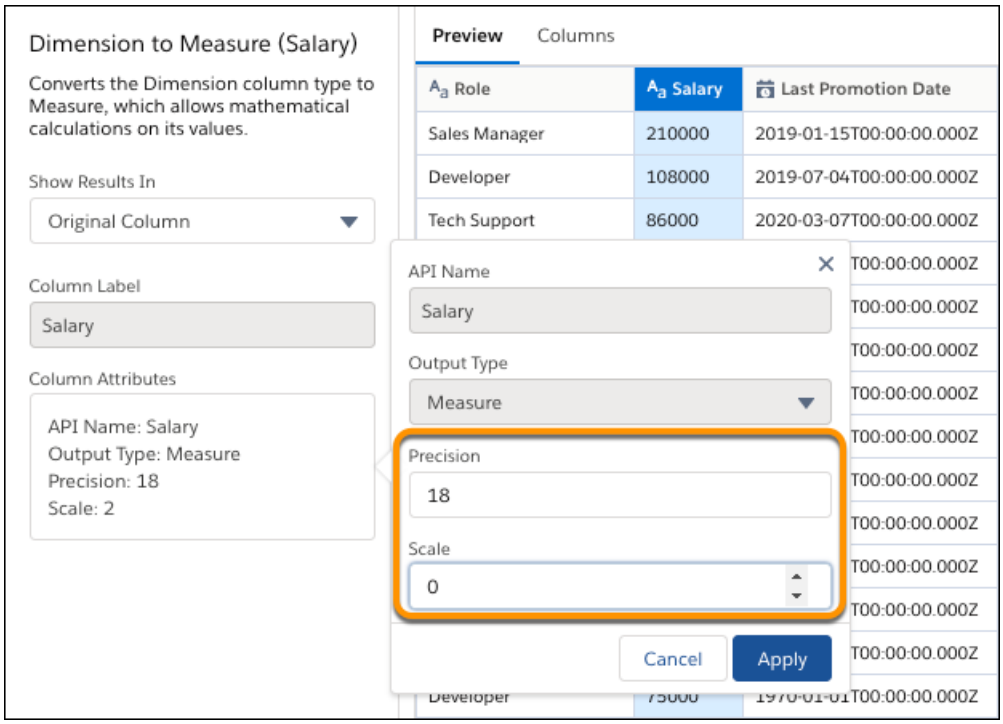
データプレップレシピを使用してデータを統合する場合、列値が整合性のない形式または不適な形式になる可能性があります。基準列の精度とスケール、ディメンション列の文字数、および [属性を編集]、[ディメンションから基準]、[基準からディメンション]、[数式] 変換の日付列の日付形式を設定できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: たとえば、データプレップレシピを作成して、従業員データをクリーンアップします。[給与] 列の型をディメンションから基準に変換するには、[ディメンションから基準] 変換を追加します。



小数点以下の桁数を設定するには、[列属性] ボックスをクリックし、[スケール] を 0 に設定します。



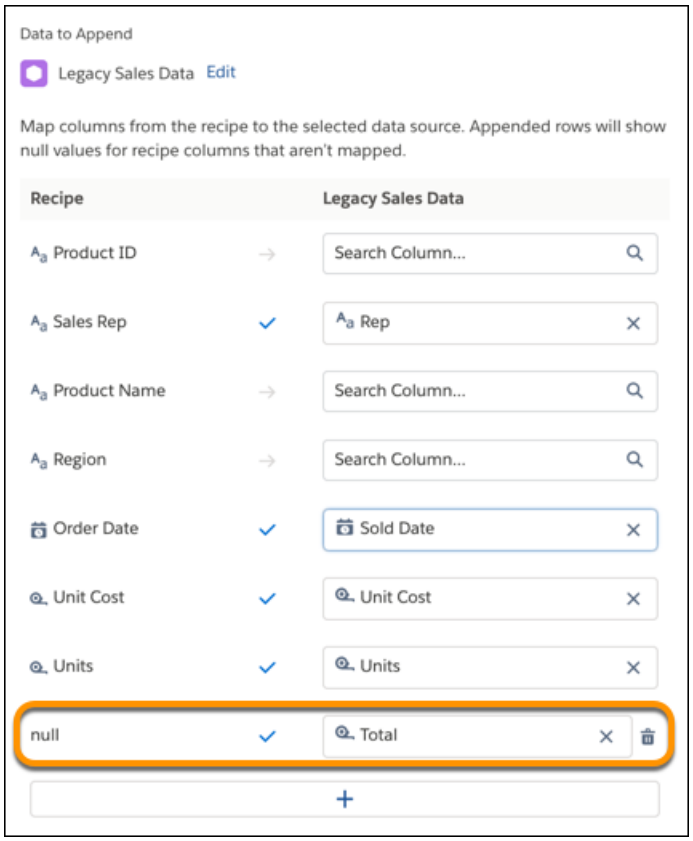
ディスジョイントスデータソースからの行の追加

レシピにない列が含まれるデータを追加できるようになりました。追加ノードを使用して異なるソースの行を積み上げる場合、あるソースの列が他のソースの列に存在しないことがあります。データプレップレシピの追加ノードで、左側に存在しない右側のデータソースの列がサポートされるようになりました。

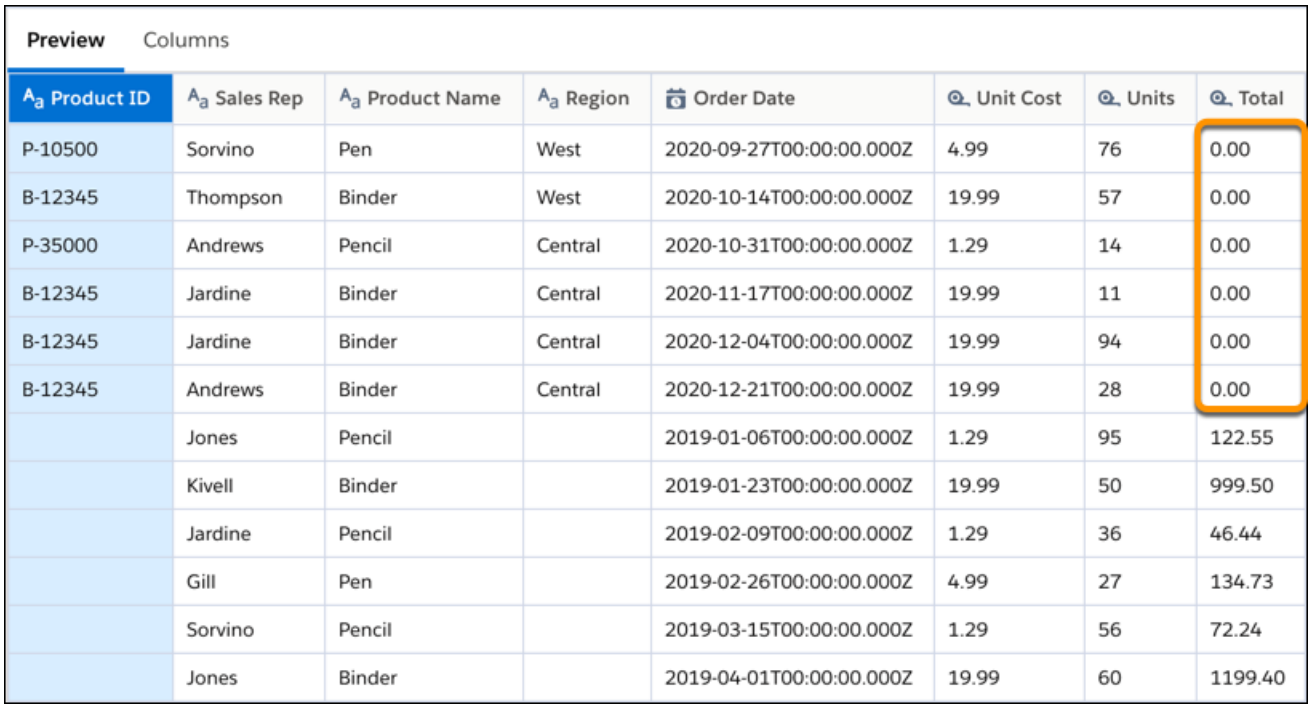
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 追加ノードを設定するときに、右側のソースの列を左側に対応付けます。左側に存在しない右側の列を含めるには、[+](対応付けられている各列の下にある)をクリックし、列の対応付けを追加して右側の列を追加します。左側の列は空白のままにします。

この例では、[合計] 列のある従来のセールスデータを、[合計] 列のない現在のセールスデータに追加します。



対応付けられていない列については、追加ノードにより、null 基準の処理が有効になっているかどうかに応じて、左側のソースのすべての行に null または 0 が挿入されます。このプレビューでは、左側の行に 0 が挿入されています。



Preview Columns

Product ID	Sales Rep	Product Name	Region	Order Date	Unit Cost	Units	Total
P-10500	Sorvino	Pen	West	2020-09-27T00:00:00.000Z	4.99	76	0.00
B-12345	Thompson	Binder	West	2020-10-14T00:00:00.000Z	19.99	57	0.00
P-35000	Andrews	Pencil	Central	2020-10-31T00:00:00.000Z	1.29	14	0.00
B-12345	Jardine	Binder	Central	2020-11-17T00:00:00.000Z	19.99	11	0.00
B-12345	Jardine	Binder	Central	2020-12-04T00:00:00.000Z	19.99	94	0.00
B-12345	Andrews	Binder	Central	2020-12-21T00:00:00.000Z	19.99	28	0.00
	Jones	Pencil		2019-01-06T00:00:00.000Z	1.29	95	122.55
	Kivell	Binder		2019-01-23T00:00:00.000Z	19.99	50	999.50
	Jardine	Pencil		2019-02-09T00:00:00.000Z	1.29	36	46.44
	Gill	Pen		2019-02-26T00:00:00.000Z	4.99	27	134.73
	Sorvino	Pencil		2019-03-15T00:00:00.000Z	1.29	56	72.24
	Jones	Binder		2019-04-01T00:00:00.000Z	19.99	60	1199.40

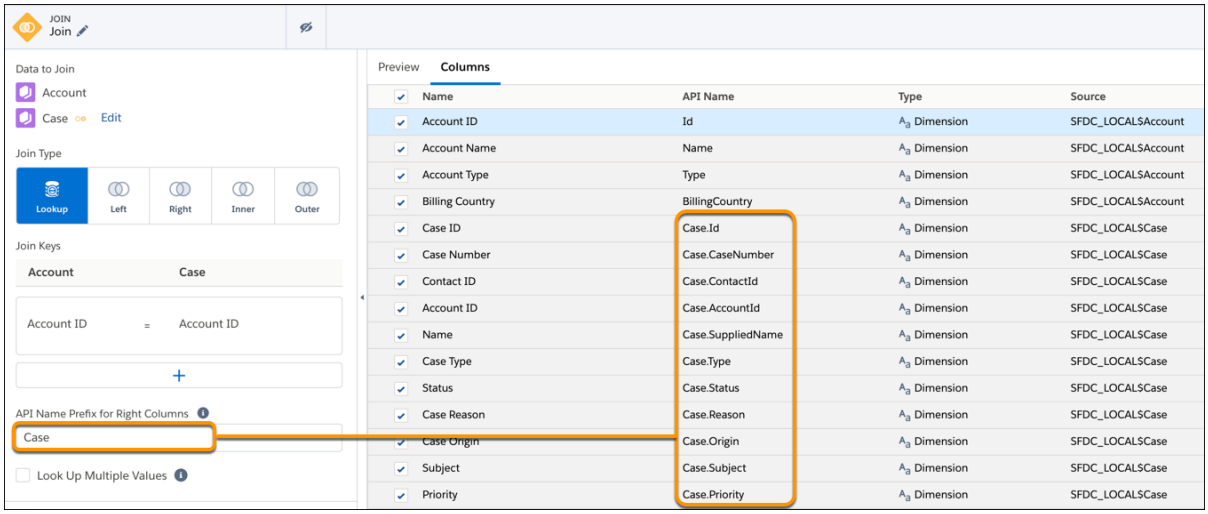
データプレップのその他の機能強化

データを結合するときに API 参照名が競合しないようにしたり、入力ノードのプレビューの変更ですべての情報を確認したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 次の機能の更新を確認してください。

- 結合ノードの左側のデータソースの列と右側のデータソースの列間で API 参照名が競合しないように、プレフィックスを入力します。結合ノードは、右側のデータソースの列にプレフィックスを適用します。



- デフォルトでは、入力ノードをデータプレップレシピに追加するときに、最初の 100 個以外のすべての列はプレビューに表示されません。必要に応じて、これらの列を再表示してプレビューできます。

優先スケジューリングを使用したレシピとデータフローのスマートな実行

長い実行が終了するまで小さいデータフローまたはレシピの実行が待機していることはありませんか? レシピとデータフローの優先スケジューリングでは、実行キューが自動的に管理されます。小さくて高速な実行を優先しながら、大きくて長い実行を予定どおりに確実に完了します。優先度は、実行時間の履歴、データセットの入力サイズ、CSV ファイルサイズなど、各種要素に基づいて自動的に計算されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 優先スケジューリングは、時折発生するキュー時間のスパイクを滑らかにするのに最も役立ちます。長いキュー時間が一切発生しない場合や、頻繁に発生する場合は、優先スケジューリングはそれほど役立ちません。キューがすでに過負荷状態になっていて問題が発生しているときではなく、事前にこの機能を有効化してキューを管理してください。この機能では最大同時実行数は増加しません。

たとえば、3 個のレシピを同時に実行するようにスケジュールしたとします。1 つは大きなレシピで多くの行を含み、実行には 30 分かかります。他の 2 つは小さなレシピで行は少なく、実行にかかる時間は 3 分です。大きなレシピの実行要求が、短い要求の 1 ミリ秒前に到着します。優先スケジューリングを使用しない場合、要求された実行は先入れ先出しでキューに登録されるため、小さな実行は大きな実行が終了するまで 30 分待機します。優先スケジューリングを使用する場合、最初に小さなレシピが実行され (実行時間が短いため)、その後に大きな実行が続きます。キュー内の長い実行の前に高優先度の実行が継続的に登録されると、キューは、スケジュールされた要求の 1 時間後に一時的に先入れ先出しに切り替えられます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Analytics*」と入力し、[設定]、[データフローの優先スケジューリング] の順に選択します。いつでもこの機能を無効にして先入れ先出しキューに戻ることができます。

Analytics 事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション

業種に固有の Tableau CRM テンプレートを使用して、アプリケーション、ダッシュボード、ストーリーの作成を合理化します。Revenue Operations ダッシュボードでチームの活動に関するより多くのインサイトを取得したり、Einstein Discovery モデリングでトップドライバを探索したり、branch management ダッシュボードを使用して支店の小売銀行のパフォーマンスを改善したり、新しい Analytics for Loyalty および Rebate Analytics アプリケーションを使用して顧客維持を促進したりします。

このセクションの内容:

成立率向上をサポートするためのチーム活動の確認

Revenue Operations Analytics アプリケーションの新しい Activity Intelligence ダッシュボードには、チームの活動、パイプライン、完了商談が表示されます。このダッシュボードには、遅れを取っていて、コーチングが必要なチームメンバーが表示されます。個々のパフォーマンスやパイプラインの商談の状況に関する詳細をサイズごとに並び替えられた状態で確認できます。その後、改善して最大限の成立率を確保するチームメンバーの活動に対象を絞ることができます。

Einstein Discovery モデリングによる取引先の成立率の向上

Revenue Operations Analytics アプリケーションで、営業チームの成立率を最大化する方法を推奨する Einstein Discovery モデルが生成されるようになりました。このモデルには、収益のトップドライバ (売上予測に肯定的および否定的な影響を与える上位の要素) に関するインサイトが含まれます。成立率に寄与する活動をより深く理解するためにモデルを変更できます。

収益売上予測のトップドライバを理解することによる営業活動の絞り込み

営業活動の対象を絞るために、売上予測に影響する上位の肯定的および否定的なドライバを Revenue Operations Analytics アプリケーションの新しいグラフに表示できます。売上予測に影響する要素を理解すれば、収益を生み出す可能性のある活動を適切に予測できます。たとえば、肯定的な売上予測が企業取引先に密接に相関していて、否定的な売上予測が新規取引先に密接に相関している場合、企業取引先に活動を絞り込む必要があることがわかります。

関連トピック:

Analytics for Healthcare アプリケーションでの取引先種別の選択

Analytics for Retail Banking アプリケーションでのブランチ操作の改善

リード履歴を含むまたは含まないアプリケーションの作成

世帯の分析およびクロスセル商談の発見

より迅速な予測の設定

ライフイベントインサイトを使用したクライアントエンゲージメントの促進

Einstein Discovery for Loyalty でメンバーエンゲージメントの向上

顧客ロイヤルティを分析してビジネスを成長させる

Analytics for Consumer Goods を使用した店舗価格コンプライアンスの監視

リベートプログラムの分析および Rebate Analytics によるビジネスの促進

エンゲージメントチャネルのパフォーマンスの監視およびカスタマーエクスペリエンスの改善

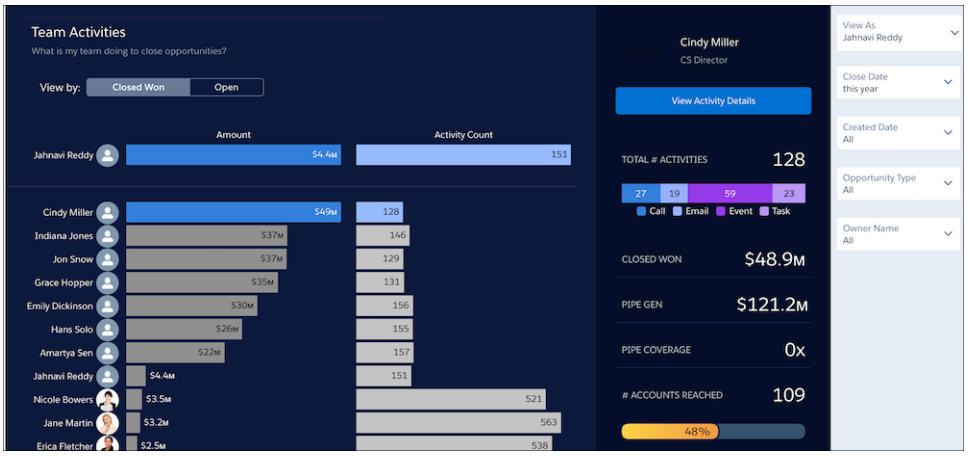
成立率向上をサポートするためのチーム活動の確認

Revenue Operations Analytics アプリケーションの新しい Activity Intelligence ダッシュボードには、チームの活動、パイプライン、完了商談が表示されます。このダッシュボードには、遅れを取っていて、コーチングが必要なチームメンバーが表示されます。個々のパフォーマンスやパイプラインの商談の状況に関する詳細をサイズごとに並び替えられた状態で確認できます。その後、改善して最大限の成立率を確保するチームメンバーの活動に対象を絞ることができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Revenue Operations Analytics]** を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。Revenue Operations Analytics アプリケーションが作成されたら、新しい **Activity Intelligence** ダッシュボードを開き、成立率に関連する営業チームの取引先活動のグラフとデータを表示します。活動には、通話、メール、行動 (スケジュール済みミーティングなど)、ToDo (アラームなど) が含まれます。

既存の Revenue Operations Analytics アプリケーションがある場合、アップグレードして新しい機能を表示できます。アプリケーションをアップグレードするには、Tableau CRM ホームページから [新しいバージョンをご利用いただけます]をクリックし、ウィザードの指示に従います。アプリケーションをアップグレードすると、行ったカスタマイズは削除されます。



Einstein Discovery モデリングによる取引先の成立率の向上

Revenue Operations Analytics アプリケーションで、営業チームの成立率を最大化する方法を推奨する Einstein Discovery モデルが生成されるようになりました。このモデルには、収益のトップドライバ (売上予測に肯定的および否定的な影響を与える上位の要素) に関するインサイトが含まれます。成立率に寄与する活動をより深く理解するためにモデルを変更できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau CRM Analytics Studio で [作成] をクリックして [アプリケーション] を選択します。**[Revenue Operations Analytics]** を見つけて選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。アプリケーションの作成には、成立率を最大化する方法をモデル化する [成立する可能性] Einstein Discovery ストーリーの生成が含

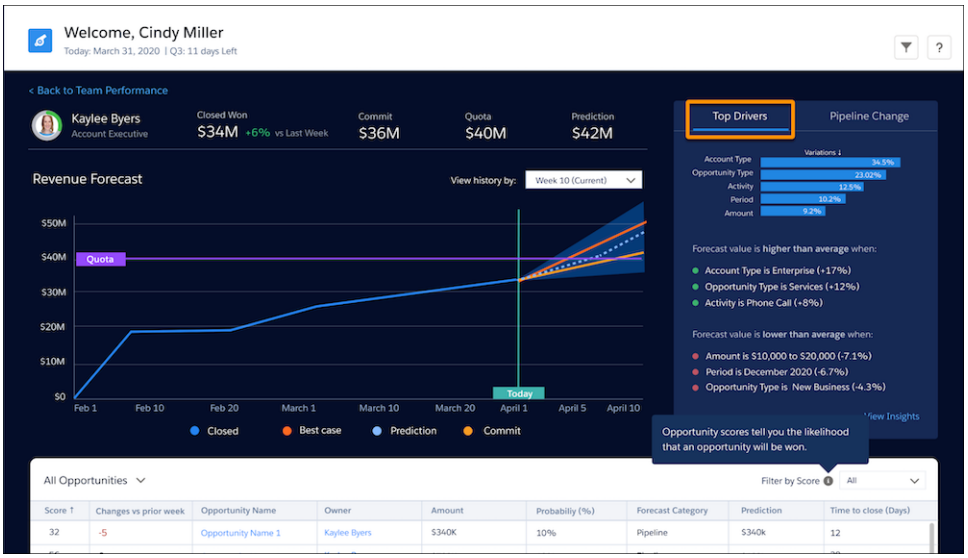
まれます。既存のアプリケーションがある場合でも、新しい Revenue Operations Analytics アプリケーションを作成することをお勧めします。

収益売上予測のトップドライバを理解することによる営業活動の絞り込み

営業活動の対象を絞るために、売上予測に影響する上位の肯定的および否定的なドライバを Revenue Operations Analytics アプリケーションの新しいグラフに表示できます。売上予測に影響する要素を理解すれば、収益を生み出す可能性のある活動を適切に予測できます。たとえば、肯定的な売上予測が企業取引先に密接に相関していて、否定的な売上予測が新規取引先に密接に相関している場合、企業取引先に活動を絞り込む必要があることがわかります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 新しい [成立する可能性] Einstein Discovery モデルにより、**Revenue Operations** ダッシュボードには、営業チームメンバーの売上予測インサイトが表示されます。新しい **[Top Drivers (トップドライバ)]** ウィジェットを表示するには、[売上予測を表示] をクリックして個々の総計値を表示します。このウィジェットには、チームメンバーの肯定的および否定的な売上予測に影響する上位 3 つのドライバが表示されます。



Analytics アプリケーションの構築

再利用可能なコンポーネント (正式リリース) によってダッシュボードの作成が合理化され、設定可能なアクションと一括アクションでデータの実効性が向上しています。また、ダッシュボードが乱雑になることなくカスタム詳細を数値ウィジェットに追加することもできます。

このセクションの内容:

再利用可能なコンポーネントを使用したダッシュボードの作成 (正式リリース)

ダッシュボードコンポーネントは、他のウィジェットやページを含めることができるタイプのウィジェットです。ダッシュボードコンポーネントを使用すると、複数のダッシュボードのグラフ、テーブル、検索条件、テキストなどのグループを簡単に再利用および管理できます。この機能が正式リリースされました。

数値ウィジェットのツールチップへのカスタムテキストと視覚化の追加

ダッシュボードを整理された状態に保ちながら KPI に関する追加情報を表示したいですか? 数値ウィジェットのツールチップに動的テキストと視覚化を含めることができるようになりました。これにより、ダッシュボードで重要なビジネス総計値にマウスポインタを置いたときに詳細が表示されます。たとえば、総収益を表示する数値ウィジェットで、業種ごとに収益が分類されたグラフやパフォーマンスが上位の業種を強調表示する動的テキストをツールチップに追加します。

どこからでも一度に最大 100 件のレコードの任意にデータに対してアクションを実行可能

対話型データテーブルを作成する場合、ユーザがさまざまな列でクイックアクションを実行する (レコードを開いたり、活動を記録したりする) ことを想定します。以前は、テーブルのデータソース所有者やクエリ所有者を特定して、カスタムアクションを設定するように依頼していましたが、データへの参照アクセス権しかなくてもアクションを自分で設定できるようになりました。任意の場所からのアクションの設定と 1 クリックアクション機能を組み合わることで、データに対して即座にアクションを実行できます。また、ユーザが一度に最大 100 件のレコードに対して一括アクションを実行できるようにすることも可能です。たとえば、チーム商談のリストを確認している営業マネージャが、完了予定日を経過したすべてのレコードに関するアラートをクリックして受信できるようにすることができます。

Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (ベータ)

Snowflake データに関する分析を拡張して、より多くのインサイトを発見するために、ライブデータセットに対して SQL クエリを実行できるようになりました。SQL クエリを記述して、一般的なビジネスケース (コストと収益の比率など) を計算したり、高度な並び替えをデータに適用したり、ウィンドウ関数の数式を操作したりします。

エクスプローラの最大 6 個の項目によるデータのグループ化

大量のデータセットの分析では、より多くのデータグループが必要になることがあります。エクスプローラのグラフおよびテーブルの最大 6 個のディメンションまたは日付項目でデータをグループ化できるようになりました。以前は、4 個を超えるデータグルーピングを含めるために SAQL クエリをまたは JSON ファイルを編集していました。

SAQL の新機能

Structured Query Language (SQL) に精通している場合、Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) の独自のバージョンの SQL for Tableau CRM (ベータ) も簡単に扱うことができます。SAQL で、新しい `like` 演算子を使用して文字列の任意の場所にある 1 文字およびパターンを照合したり、`sample` キーワードを使用してデータセットのランダムなサブセットを選択したりできます。

再利用可能なコンポーネントを使用したダッシュボードの作成 (正式リリース)

ダッシュボードコンポーネントは、他のウィジェットやページを含めることができるタイプのウィジェットです。ダッシュボードコンポーネントを使用すると、複数のダッシュボードのグラフ、テーブル、検索条件、テキストなどのグループを簡単に再利用および管理できます。この機能が正式リリースされました。

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM **(以前の** Einstein Analytics**) に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

関連トピック:

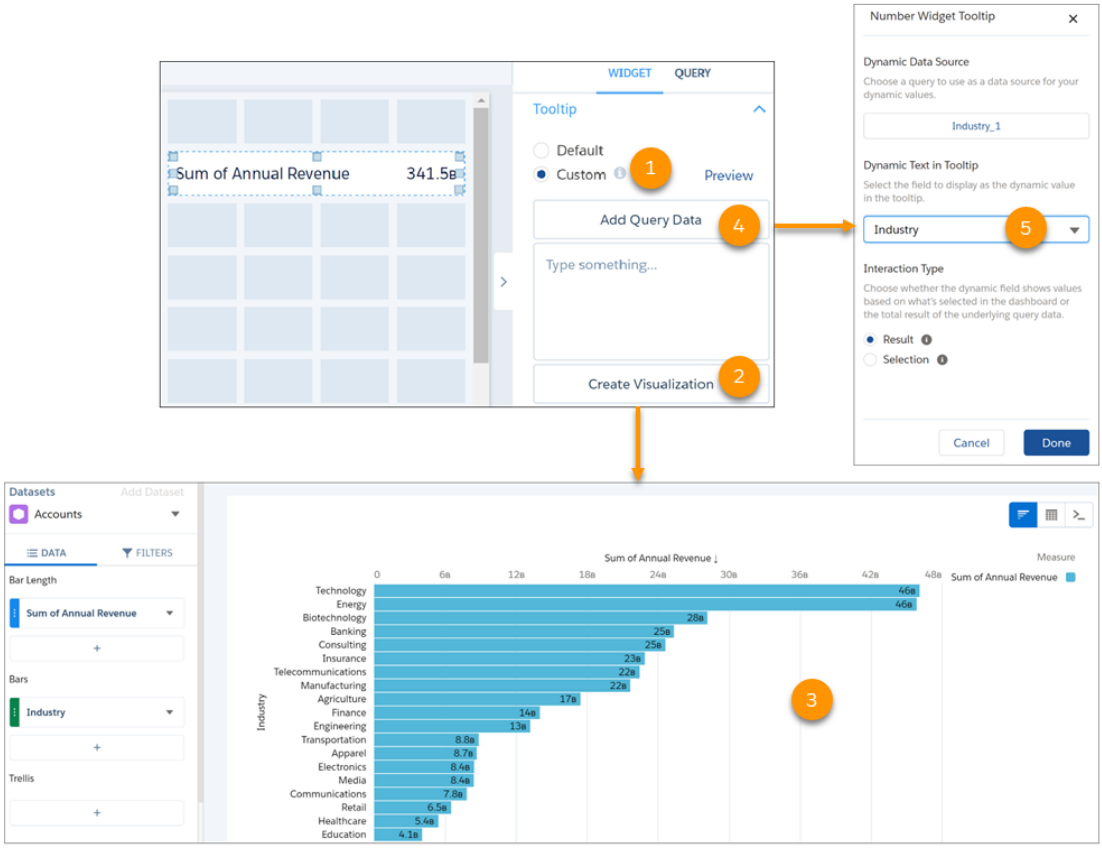
Salesforce **ヘルプ**: Create and Manage Dashboards with Reusable Dashboard Components (**再利用可能なダッシュボードコンポーネントを使用したダッシュボードの作成および管理**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

数値ウィジェットのツールチップへのカスタムテキストと視覚化の追加

ダッシュボードを整理された状態に保ちながら KPI **に関する追加情報を表示したいですか?数値ウィジェットのツールチップに動的テキストと視覚化を含めることができるようになりました。これにより、ダッシュボードで重要なビジネス総計値にマウスポインタを置いたときに詳細が表示されます。たとえば、総収益を表示する数値ウィジェットで、業種ごとに収益が分類されたグラフやパフォーマンスが上位の業種を強調表示する動的テキストをツールチップに追加します。**

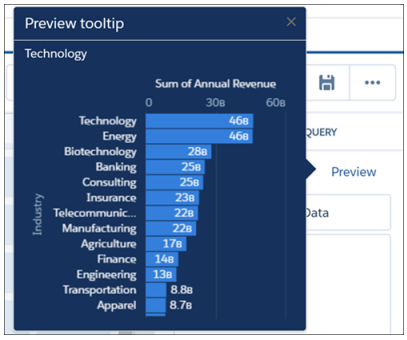
対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM **(以前の** Einstein Analytics**) に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法: この例では、ダッシュボードで選択された総収益の数値ウィジェットで、ウィジェットプロパティパネルの [ツールチップ] **セクションの [カスタム]** (1) **を選択します。グラフを含めるには、[視覚化を作成]** (2) **をクリックします。**Account **データセットを選択したら、**[Sum of Revenue by Industry (**業種ごとの総収益**)] **を降順で表示する横棒グラフ** (3) **を作成します。最も収益の高い業種をツールチップに表示するには、[クエリデータを追加]** (4) **をクリックします。データソースとして業種クエリを選択したら、ツールチップのカスタムテキストで参照する項目として [業種]** (5) **を設定します。**



メモ: デフォルトで、ツールチップの視覚化に関する初期選択内容と検索条件は、関連付けられた数値ウィジェットのものと一致します。

[プレビュー] をクリックして、ツールチップが正しく表示されていることを確認し、変更を保存します。

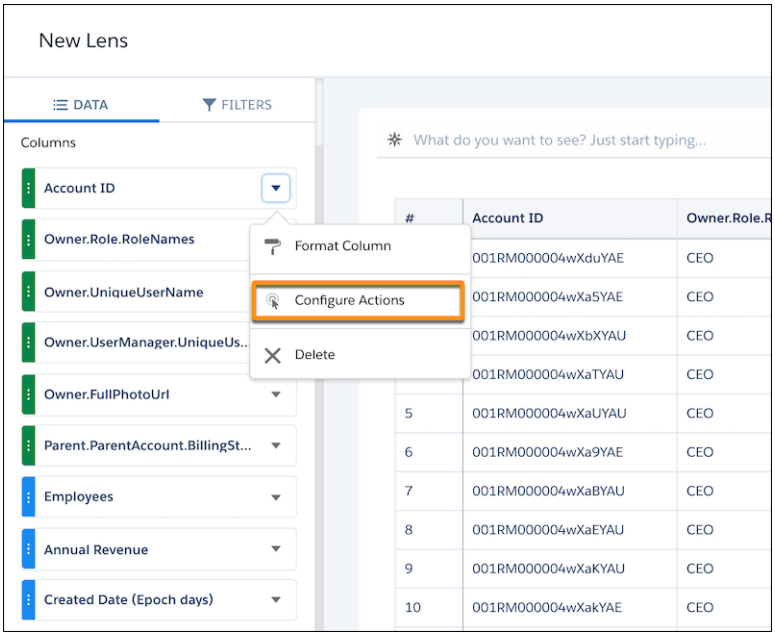


どこからでも一度に最大 100 件のレコードの任意にデータに対してアクションを実行可能

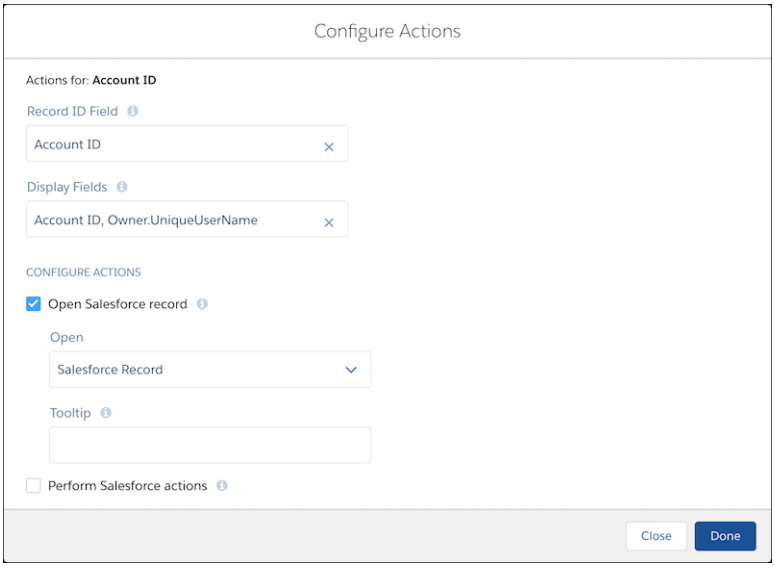
対話型データテーブルを作成する場合、ユーザがさまざまな列でクイックアクションを実行する (レコードを開いたり、活動を記録したりする) ことを想定します。以前は、テーブルのデータソース所有者やクエリ所有者を特定して、カスタムアクションを設定するように依頼していましたが、データへの参照アクセス権しかなくてもアクションを自分で設定できるようになりました。任意の場所からのアクションの設定と 1 クリックアクション機能を組み合わることで、データに対して即座にアクションを実行できます。また、ユーザが一度に最大 100 件のレコードに対して一括アクションを実行できるようにすることも可能です。たとえば、チーム商談のリストを確認している営業マネージャが、完了予定日を経過したすべてのレコードに関するアラートをクリックして受信できるようにすることができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

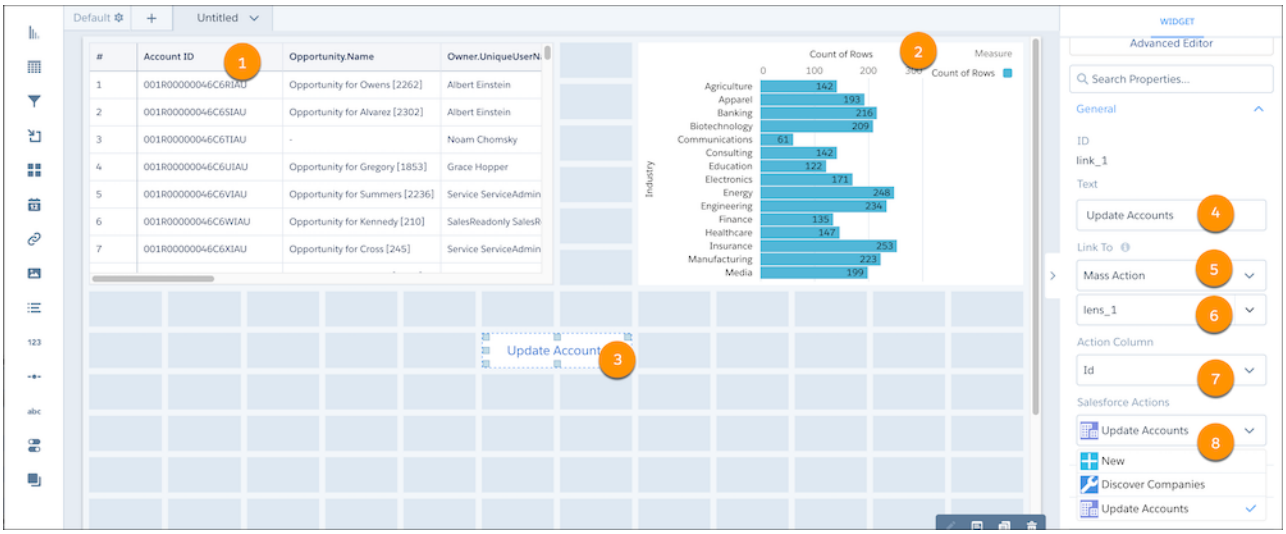
方法: エクスプローラでカスタムアクションメニューをディメンション列に追加するには、ディメンションの列アクションメニューをクリックし、[アクションを設定] を選択します。



ID、表示項目、アクションを選択して、ディメンションのアクションを設定し、[完了] をクリックしてレンズを保存します。



次に、一括クイックアクションを追加して、ダッシュボードユーザが設定された列で一度に最大 100 件のレコードに対してクイックアクションを実行できるようにします。アクション可能なデータが含まれる値テーブル (1)、ファセットされたグラフまたは検索条件 (2)、リンクウィジェット (3) をダッシュボードに追加します。リンクウィジェットのウィジェットプロパティパネルで、クイックアクションに一致するテキスト (4) を使用してリンクに名前を付けます。[リンク先] リスト (5) で [一括アクション] を選択します。このステップのリスト (6) でテーブルクエリの名前を選択します。[アクション列] リスト (7) で、一括クイックアクションを適用する列名を選択します。次に、[Salesforce アクション] リスト (8) で、実行する一括クイックアクションを選択します。



この例の一括クイックアクションは、取引先を更新することを目的としています。ユーザがファセットされたグラフで取引先種別を選択して [取引先を更新] リンクをクリックすると、テーブルクエリの取引先 ID を使用して、その種別のすべての取引先 (最大 100 件のレコード) を更新できます。

Tableau CRM Direct Data での SQL の使用 (ベータ)

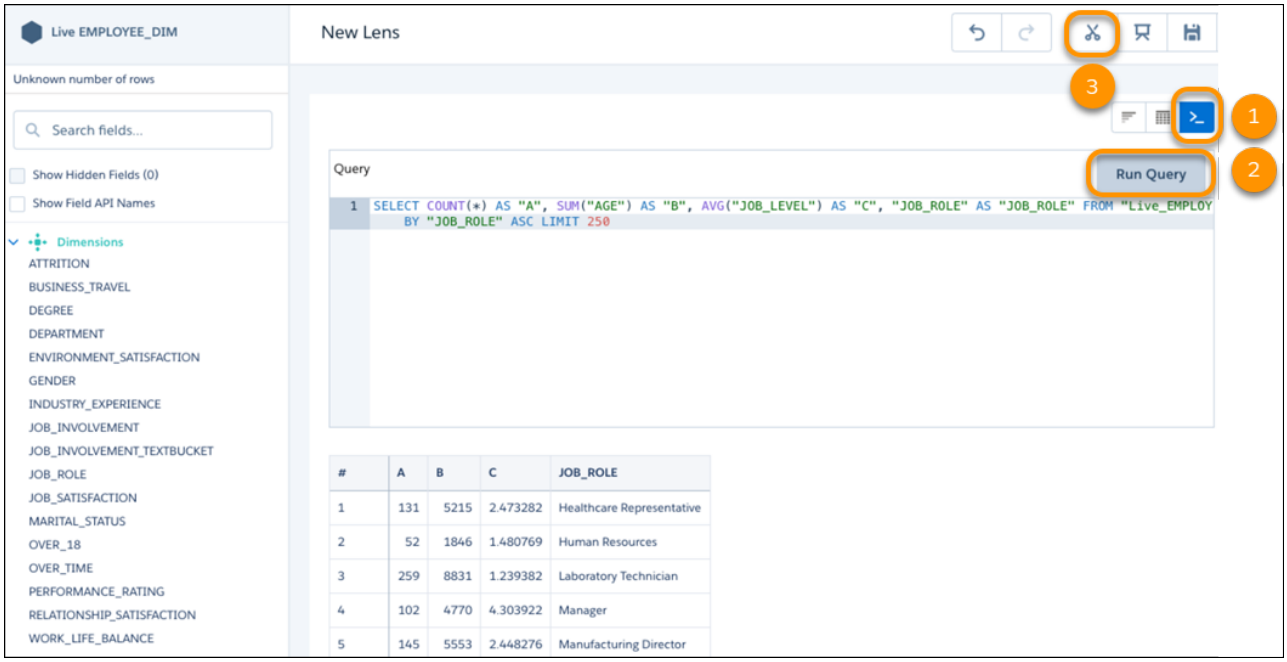
Snowflakeデータに関する分析を拡張して、より多くのインサイトを発見するために、ライブデータセットに対してSQLクエリを実行できるようになりました。SQLクエリを記述して、一般的なビジネスケース(コストと収益の比率など)を計算したり、高度な並び替えをデータに適用したり、ウィンドウ関数の数式を操作したりします。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: SQL for Tableau CRM Direct Data はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: SQL for Tableau CRM Direct Data を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Analytics`」と入力し、[設定] を選択します。[ライブデータセットの SQL を有効化(ベータ)] を選択し、[保存] をクリックします。

ライブデータセットの SQL クエリを作成するには、Tableau CRM Analytics Studio で、データセットを開き、[クエリモード] をクリックします (1)。SQL クエリを編集し、[クエリを実行] をクリックして検証します (2)。ダッシュボードにクエリを追加するには、ダッシュボードにクエリレンズをクリップします (3)。



関連トピック:

SQL for Tableau CRM Developer Guide: Introducing SQL for Tableau CRM (Beta) (SQL for Tableau CRM 開発者ガイド: SQL for Tableau CRM の概要(ベータ))(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エクスプローラの最大 6 個の項目によるデータのグループ化

大量のデータセットの分析では、より多くのデータグループが必要になることがあります。エクスプローラのグラフおよびテーブルの最大6個のディメンションまたは日付項目でデータをグループ化できるようになりました。以前は、4 個を超えるデータグルーピングを含めるために SAQL クエリをまたは JSON ファイルを編集していました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

IdeaExchange: Allow Compare Tables to Have More Than Four Groupings (比較テーブルに 4 個以上のグループ化を含める)

SAQL の新機能

Structured Query Language (SQL) に精通している場合、Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) の独自のバージョンの SQL for Tableau CRM (ベータ) も簡単に扱うことができます。SAQL で、新しい `like` 演算子を使用して文字列の任意の場所にある 1 文字およびパターンを照合したり、`sample` キーワードを使用してデータセットのランダムなサブセットを選択したりできます。

このセクションの内容:

SQL for Tableau CRM を使用したクエリの迅速な向上 (ベータ)

Tableau CRM に合わせて調整された Structured Query Language (SQL) を使用して、データセットに対してクエリを実行します。通常、SQL はリレーショナルデータベースに保存されているデータを操作するために使用されます。MySQL や PostGreSQL などのバリエーションに精通しているユーザもいるでしょう。Salesforce バージョンは、Tableau CRM データセットで実行され、共有継承やカスタム会計年度カレンダーなどの Salesforce 機能をネイティブにサポートしています。

SAQL のランダムサンプリングを使用したトレーニングデータの簡単な作成

データセット全体に対してクエリを実行しないようにする場合、代わりに、全体の分布の代用としてデータセットのランダムなサブセットを選択できます。Salesforce Analytics Query Language's (SAQL) の新しいランダムサンプリング機能 `sample` キーワードを使用すると、クエリにデータセットの代表的なサンプルを反映できます。ランダムサンプリングの使用事例の 1 つとして、機械学習モデルのトレーニングサンプルの作成が挙げられます。たとえば、少量のデータサンプルでも、最初の 100 行よりも正確にデータセット全体をプレビューできます。

SAQL の like 演算子を使用したパターンマッチングの調整

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) の `like` 比較演算子を使用すると、文字列の任意の場所にある 1 文字やパターンを照合できます。

SQL for Tableau CRM を使用したクエリの迅速な向上 (ベータ)

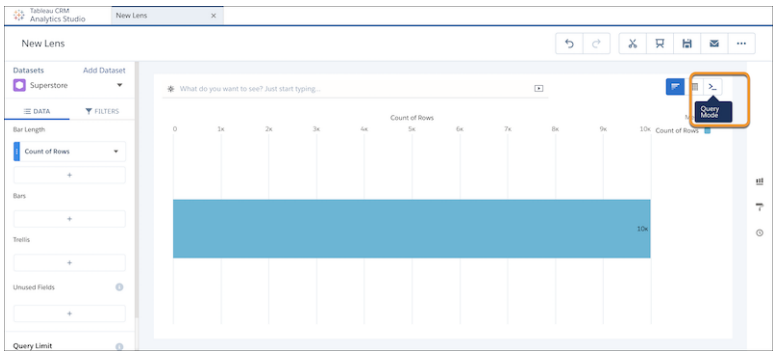
Tableau CRM に合わせて調整された Structured Query Language (SQL) を使用して、データセットに対してクエリを実行します。通常、SQL はリレーショナルデータベースに保存されているデータを操作するために使用されます。MySQL や PostGreSQL などのバリエーションに精通しているユーザもいるでしょう。Salesforce バージョンは、Tableau CRM データセットで実行され、共有継承やカスタム会計年度カレンダーなどの Salesforce 機能をネイティブにサポートしています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

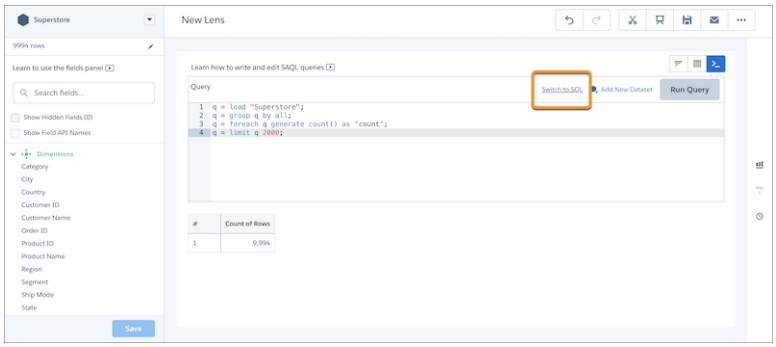
メモ: SQL for Tableau CRM はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、TrailblazerCommunity に投稿してください。

理由: SQL は、データを操作するための最も一般的な業界標準です。構文に精通していれば、SQL for Tableau CRM を問題なく使用できます。大部分の機能は同じですが、サポートされていない機能がクエリで必要になった場合は、Salesforce 独自のクエリ言語である SAQL を使用します。

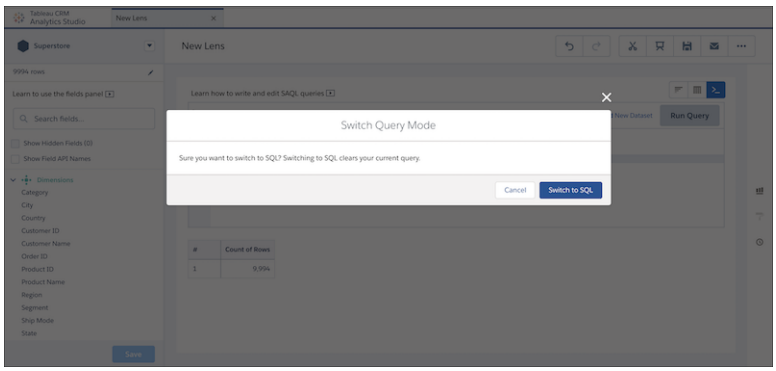
方法: SQL for Tableau CRM を有効にするには、サポート担当者にお問い合わせください。Analytics Studio で SQL for Tableau CRM を使用するには、データセットでレンズを開き、[クエリモード] ボタンをクリックします。



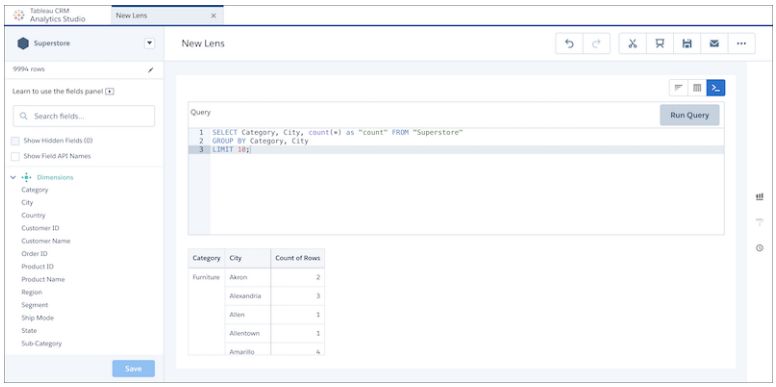
SAQL は、デフォルトのクエリ言語です。SQL に切り替えるには、[SQL に切り替え] をクリックします。



SQL に切り替えようとすると、切り替えによってクエリがクリアされることが警告されます。SAQL クエリが失われないようにするには、SAQL クエリをコピーします。次に、**[SQL に切り替え]** をクリックします。



SQL のデフォルトクエリは、データセットの行数です。各都市のカテゴリの発生回数を数えるクエリを更新してみましょう。結果は 10 行に制限されているため、結果には家具カテゴリの最初の 10 都市が表示されます。




```
SELECT Category, City, count(*) as "Count"
FROM "Superstore"
GROUP BY Category, City
LIMIT 10;
```

カテゴリ	都市	回数
家具卸売業	Akron	2
	Alexandria	3
	Allen	1
	Allentown	1
	Amarillo	4
	Anaheim	8
	Andover	1
	Apopka	1
	Apple Valley	2
	Arlington	13

関連トピック:

SQL for Tableau CRM Developer Guide: Introducing SQL for Tableau CRM (Beta) (SQL for Tableau CRM 開発者ガイド: SQL for Tableau CRM の概要(ベータ))(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SAQL のランダムサンプリングを使用したトレーニングデータの簡単な作成

データセット全体に対してクエリを実行しないようにする場合、代わりに、全体の分布の代用としてデータセットのランダムなサブセットを選択できます。Salesforce Analytics Query Language's (SAQL) の新しいランダムサンプリング機能 `sample` キーワードを使用すると、クエリにデータセットの代表的なサンプルを反映できます。ランダムサンプリングの使用事例の1つとして、機械学習モデルのトレーニングサンプルの作成が挙げられます。たとえば、少量のデータサンプルでも、最初の100行よりも正確にデータセット全体をプレビューできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: `sample` は次の構文に従います。

```
sample(percentage-size-of-dataset) repeatable(seed)
```

クエリの `load` ステートメントの後に `sample` キーワードを含めます。クエリの `load` ステートメントの後に実行される操作は、データのランダムサンプルにのみ影響します。シードを指定するには、`sample` の後に省略可能な `repeatable` キーワードを追加します。`repeatable` にシード値を渡すと (`repeatable` に同じシード値を渡すたびに)、データの同じサブセットが返されます。シード値は任意の正の整数にすることができます。

例を見てみましょう。

```
q = load "Opportunity" sample(10) repeatable(1);
q = group q by all;
```

```
q = foreach q generate count() as 'Count';
q = limit q 2000;
```

行数
453

クエリでサンプルの行数 (453) が返されます。これはデータセットの 4,600 行の約 10% になります。

`sample` では、ベルヌーイアルゴリズムが使用されるため、各行は同じ確度で選択されます。各行は個別に考慮されるため、特定のサンプルで返される行数はクエリを実行するたびに多少変動する可能性があります。`repeatable` キーワードでは、クエリで常に同じ結果が返されます。データセットを変更してデータを追加した場合、`repeatable` で同じ結果は返されません。

関連トピック:

Tableau CRM SAQL リファレンス: `sample` (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SAQL の `like` 演算子を使用したパターンマッチングの調整

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) の `like` 比較演算子を使用すると、文字列の任意の場所にある 1 文字やパターンを照合できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 文字列の 1 文字を照合するには、アンダースコア (_) を含めます。たとえば、`_b_` は、任意の 1 文字、「b」、別の任意の 1 文字がこの順番で含まれる文字列と一致します。`_lb` は、任意の 1 文字、「lb」がこの順番で含まれる文字列と一致します。0 文字以上のシーケンスを照合するには、パーセント記号 (%) を使用します。文字列の任意の場所にあるシーケンスを照合するには、パターンの先頭と末尾をパーセント記号にする必要があります。

パターンのアンダースコアまたはパーセントのリテラル文字を照合するには、パターン文字列をバックスラッシュ (\) でエスケープする必要があります。

いくつかの例を見てみましょう。

この例では、顧客名にパターン「ni」が含まれているかどうかを確認します。文字列にこのパターンが含まれている場合、like は True に評価され、クエリでその名前が返されます。

```
q = load "Superstore";
q = filter q by Customer_Name like "%ni%";
q = group q by Customer_Name;
q = foreach q generate Customer_Name as 'name';
q = limit q 5;
```

名前
Annie Thurman

名前
Annie Zypern
Benjamin Venier
Berenike Kampe
Chad Cunningham

次のクエリでは、任意の 1 文字、パターン「lb」、0 文字以上がこの順番で含まれる都市名が返されます。

```
q = load "Superstore";
q = filter q by City like "_lb%";
q = group q by City;
q = foreach q generate City as 'city';
```

city
Albuquerque

1 つのアンダースコアが使用されているため、クエリでは Albuquerque が返されます。パターンの前に 2 つのアンダースコアがある場合、クエリではパターン「lb」の前に 2 文字がある結果が返されます。

```
q = load "Superstore";
q = filter q by City like "__lb%";
q = group q by City;
q = foreach q generate City as 'city';
```

city
Gilbert
Melbourne

関連トピック:

Tableau CRM SAQL リファレンス:比較演算子 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein Discovery

Einstein Discovery の新しいストーリーインターフェースでインサイトにシームレスに移動したり、データプレップレシピを使用してデータセットの予測を取得したり、Salesforce にアップロードおよびリリースする外部作成のモデルを使用して結果を予測したりできます。

このセクションの内容:

新しい概念の直感的なインターフェースを使用したより多くのインサイトの検出

Einstein Discovery と Einstein データインサイトの新しいインターフェースにより、インサイトおよびモデル評価指標のナビゲーションがさらに簡単になりました。ご利用の既知の機能はすべてそのままで、より簡単に検索および使用できるようになりました。ストーリーインサイトを開くと、AI を駆使したインサイトが目の前に表示されます。合理化されたストーリーインターフェースでは、ストーリーバージョンを一目で比較したり、見落とす可能性があるインサイトを明らかにしたりできるため、以前よりもインサイトを見つけやすくなっています。

データプレップ中のデータセットへの予測の組み込み (正式リリース)

データプレップレシピの [Discovery 予測] 変換を使用して、予測インテリジェンスおよび指示的インテリジェンスでデータセットを入力します。Discovery 予測ノードでレシピを実行する場合、Einstein は行ごとに予測結果を計算して保存します。上位の予測因子や改善の説明を保存することもできます。たとえば、データプレップレシピでは、予測成立率、上位の要素、成立率を改善するための方法をデータセットに保存して、ダッシュボードに直接表示できます。Discovery 予測ノードを使用すると、大量のデータセットの予測をすばやく評価したり、本番にリリースする前に複数のモデルを評価したり、ダッシュボードでこの情報を集計したりできます。

Salesforce 組織での外部モデルの実装 (パイロット)

本番環境ですばやく使用を開始できる外部で構築されたモデルで予測機能を強化します。Einstein Discovery によってストーリーから作成される強力なモデルに加えて、Salesforce の外部で作成された TensorFlow または Python モデルをアップロードおよびリリースできるようになりました。データサイエンティストは、お気に入りのモデリングツールを使用して、慎重に作成されたモデルを設計、構築、テスト、調整できます。その後、これらのモデルを Salesforce 組織にアップロードおよびリリースします。ユーザは、迅速に稼働を開始し、モデルの予測を使用して優れた結果を達成できます。

拡張された Einstein データインサイトを使用したレポートデータに関するより適切インサイトの取得

Einstein データインサイトが改善され、従来よりも簡単に AI の機能やレポートデータの包括的な統計分析を活用できます。分析前に Einstein でレポートが事前検証され、有意義な分析を実施するために最低限必要な列数および行数が含まれることが確認されるようになりました。まったく新しい合理化されたインターフェースでは、目標に最も相関しているレポート列に焦点を当てることで、探索の焦点を絞ることができます。列または検索条件を選択して、調査する Einstein Discovery ベースのインサイトをすばやくトラバースできます。また、レポートデータが更新されたときに、オンデマンドで分析を更新できます。

予測のパッケージ化、昇格、配布

Einstein Discovery でパッケージ化がサポートされるようになり、モデルの移植や共有を以前よりも容易に行うことができます。Sandbox 環境でモデルを作成およびテストし、本番の準備が整ったときに変更セットを使用して本番環境に昇格できるようになりました。独自のデータを使用してモデルを作成およびトレーニングし、管理パッケージや未管理パッケージを使用して社内外の他のユーザに配布することもできます。これにより、ユーザはモデルをトレーニングするデータを自分で用意することなく、モデルの予測および改善のメリットを活用できます。Einstein Discovery では、第一世代パッケージ化 (1GP) と第二世代パッケージ化 (2GP) の両方がサポートされています。

ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (正式リリース)

ランダムフォレストと呼ばれるモデリングアルゴリズムに基づく 4 番目のモデル種別が Einstein Discovery に追加されます。Einstein Discovery では、この教師ありアルゴリズムを使用して、複数のディシジョンツリー、ランダマイゼーション、および他の最適化技法で非常に正確なモデルを作成します。ランダムフォレストモデルでストーリーを作成し、その総計値を他のモデル種別と比較して、このアルゴリズムの方がストーリーの精度が高いかどうかを判断できます。

パフォーマンス通知を使用したモデルの精度の維持

最適に設計されたモデルでも、時間が経つにつれてパフォーマンスが低下する可能性があります。実際のデータの特性がモデルの作成に使用されたトレーニングデータと大きく異なる場合、モデルがドリフトします。その結果、予測精度が低下し、それらの予測に連動するビジネス上の意思決定に悪影響を与える可能性があります。予測通知により、現在の状況が反映されたより新しいデータでモデルを再トレーニングすべきタイミングが警告されます。その後、是正措置を実行して、ドリフトしているモデルを正しい方向に戻すことができます。

モデルカードによる予測の透過性の向上 (パイロット)

Einstein Discovery には、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、他のユーザに伝えたりするためのモデルカードが導入されています。モデルカードには、モデルのトレーニングに使用されるデータに関連付けられた統計が表示されます。また、予測の使用目的、設計の前提条件、対象利用者、機能と制限事項、その他の関連情報に関する省略可能な説明を表示することもできます。これらの詳細を開示することで、ユーザは予測を理解し、複数の予測を区別しやすくなります。これにより、予測が各自の使用事例に適しているかどうかについて、情報に基づいて倫理的な意思決定を行うことができます。

モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (パイロット)

不明なデータや問題のあるデータによる欠損値が多すぎると、モデルの品質が低下する可能性があります。Einstein Discovery で、データセットの数値の欠損値を代入できるようになりました。数値変数の統計的代入を有効にすると、Einstein Discovery は欠損値をデータの別のサブセットから派生する値に自動的に置き換えます。

スペルのあいまい一致を使用した予測の改善 (パイロット)

Einstein Discovery には、スペルのバリエーションに対処するあいまい一致が導入され、スマートな分類と適切な予測を実現できます。カテゴリデータのスペルのバリエーションにより、実際には同じカテゴリに属している場合でも観測が別のカテゴリに分類されることがあります。大文字小文字の違い、複数形、略語、バリエーション (behavior と behaviour など) により、データをグループ化する方法についてあいまいさが生じます。項目のあいまい一致を有効にすると、Einstein は大文字小文字を無視するため、flavor、Flavor、flavour、flavors などのバリエーションがすべて同じカテゴリに属します。Einstein Discovery は予測時にデータを変換するため、データプレップ中の文字列の整理をスキップできます。

テンプレートアプリケーションを使用したモデルのリリースとデータセットのスコアリングの自動化

最新の Einstein Discovery テンプレートアプリケーションを試したことがない場合、数回クリックするだけ一般的な使用事例の準備、読み込み、分析を最短で行う方法を見逃しています。最新の更新では、代わりにストーリーのカスタマイズに焦点を絞ることができるエンドツーエンドのワークフローが提供されています。テンプレートの機能強化により、モデルのリリースを手動で行う複雑なプロセスが置き換えられます。また、テンプレートを使用することで、結果目標を満たす行を識別するためのデータセット予測項目の計算と作成が自動化されます。

ライセンスを有効にするときの自動有効化による設定時間の節約

機能の自動有効化と統合された利用状況ダッシュボードにより、Einstein Discovery の設定および管理がさらに簡単になりました。Einstein Discovery と Einstein データインサイトは、Tableau CRM に含まれるようになったため、Tableau CRM が有効になると自動的に有効化されます。自動的に有効化されることで、権限セットを作成するときに必要な機能を検索して有効にする時間を節約できます。Einstein Discovery と Einstein データインサイトが同じ画面に表示されるため、より正確なライセンスの利用状況の制限と総計値を取得できます。

Tableau でのカスタムテーブルの計算を使用した Einstein 予測の取得

Tableau ユーザに朗報です。Tableau バージョン 21.1 から、Salesforce にリリースされた Einstein Discovery モデルを使用して Tableau データの予測を取得できます。たとえば、未処理の注文が含まれる Tableau ワークシートがあり、個々の注文が時間どおりに出荷される確度を予測する Salesforce のモデルを使用するとします。そのモデルにリンクするには、Salesforce に接続して、モデルマネージャでモデルのカスタムスクリプトを生成し、Tableau で計算項目を作成します。次に、その項目の計算エディタにスクリプトを貼り付けます。その後、スクリプトが実行されると、必要な注文データと共に予測要求が Salesforce に送信されます。Einstein Discovery モデルにより、予測が計算されて Tableau に返され、ワークシートに即座に表示されます。非常に簡単で強力です。

バージョン履歴を使用したモデルバージョンの管理

ビジネスの変化、新しいデータやより適切なデータ、ストーリーまたはモデルの設定の改善によるモデルの更新を追跡します。モデルマネージャにモデルのバージョン履歴が表示されるようになりました。これにより、いつ誰が更新したのか、今後の更新ジョブでスケジュールされているかどうかを正確に把握できます。期待どおりのパフォーマンスを得られないモデルの場合、パフォーマンスの高い以前のバージョンに戻すことができます。特定のモデルバージョンに関連付けられている基盤となる設定を調べるために、ベースとなっているストーリーバージョンを簡単に取得して確認できます。

ストーリーバージョンの詳細の迅速な保存

バージョンの説明の自動表示により、すぐにストーリーの詳細を追加できます。以前のリリースで便利なバージョンの説明が導入されましたが、テキストを追加するのにバージョンの場所に移動する必要がありました。今回のリリースでは、新しいストーリーバージョンを保存するときに [バージョンの説明] 項目が自動的に表示されます。

Einstein Discovery ストーリーのパフォーマンスの改善

Einstein Discovery でのストーリーの作成が改善されてます。新しいストーリーを開始するときの応答時間が短縮されています。大きなデータセットを使用する場合でも同様です。分析する各データセットを手動で調整する必要がなくなり、ストーリーの結果に焦点を絞ることができるようになりました。Einstein Discovery では、クエリ最適化エンジンからのフィードバックに基づいてデータセットがバックグラウンドで自動的に調整されます。たとえば、高カーディナリティ項目の絞り込みおよび除外を行うことで最適な説明変数セットを実現できます。

関連トピック:

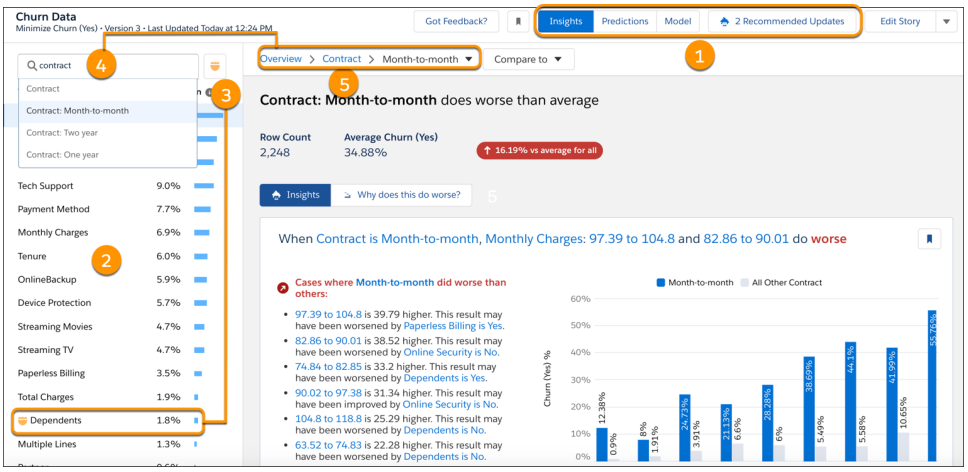
Salesforce Einstein

新しい概念の直感的なインターフェースを使用したより多くのインサイトの検出

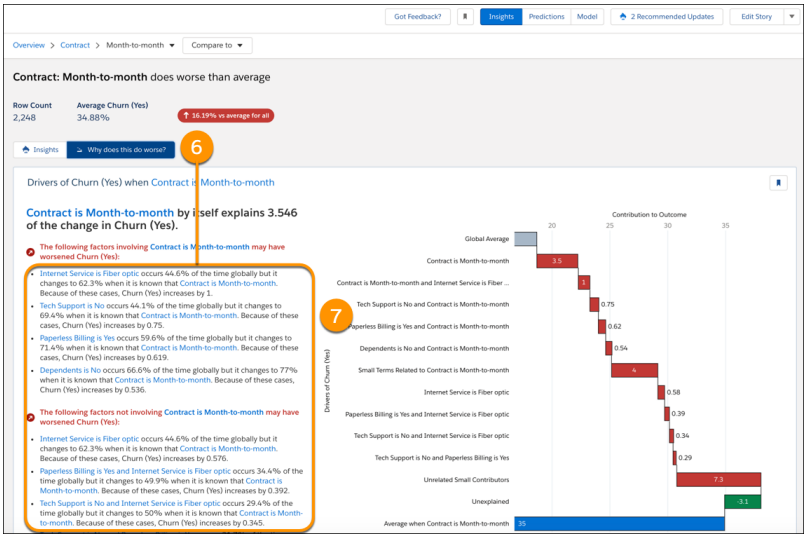
Einstein Discovery と Einstein データインサイトの新しいインターフェースにより、インサイトおよびモデル評価指標のナビゲーションがさらに簡単になりました。ご利用の既知の機能はすべてそのままで、より簡単に検索および使用できるようになりました。ストーリーインサイトを開くと、AI を駆使したインサイトが目の前に表示されます。合理化されたストーリーインターフェースでは、ストーリーバージョンを一目で比較したり、見落とす可能性があるインサイトを明らかにしたりできるため、以前よりもインサイトを見つけやすくなっています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 統合されたストーリーヘッダー (1) により、最も関連性の高い詳細を見つけることができます。変数は、使いやすいように相関関係で並び替えられ (2)、ストーリーの主要な要因が視覚的に表示されます。盾アイコン (3) をクリックすると、ストーリーのバイアスを簡単に表示できます。ドロップダウンメニュー (4) を使用して、変数または値ごとにインサイトを表示します。これにより、自動的に他のインサイトが明らかになります。これらのインサイトはブレッドクラム (5) を使用して開くことができます。



インサイトは見つけやすくなり、コンテキストに応じて動作するようになりました (6)。インサイトカード内にあるいずれかの対話型リンク (7) をクリックして、目的の項目に簡単に移動できます。



関連トピック:

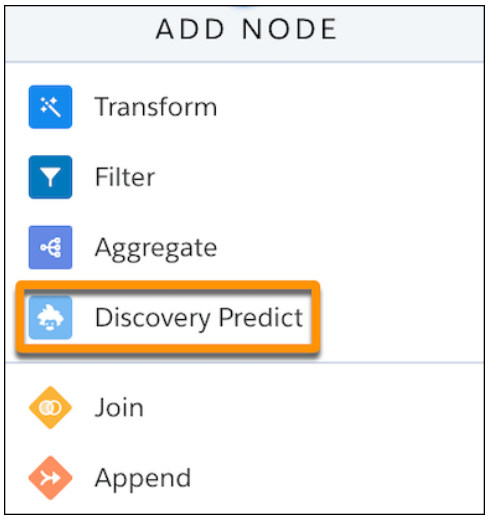
- Einstein Discovery

データプレップ中のデータセットへの予測の組み込み (正式リリース)

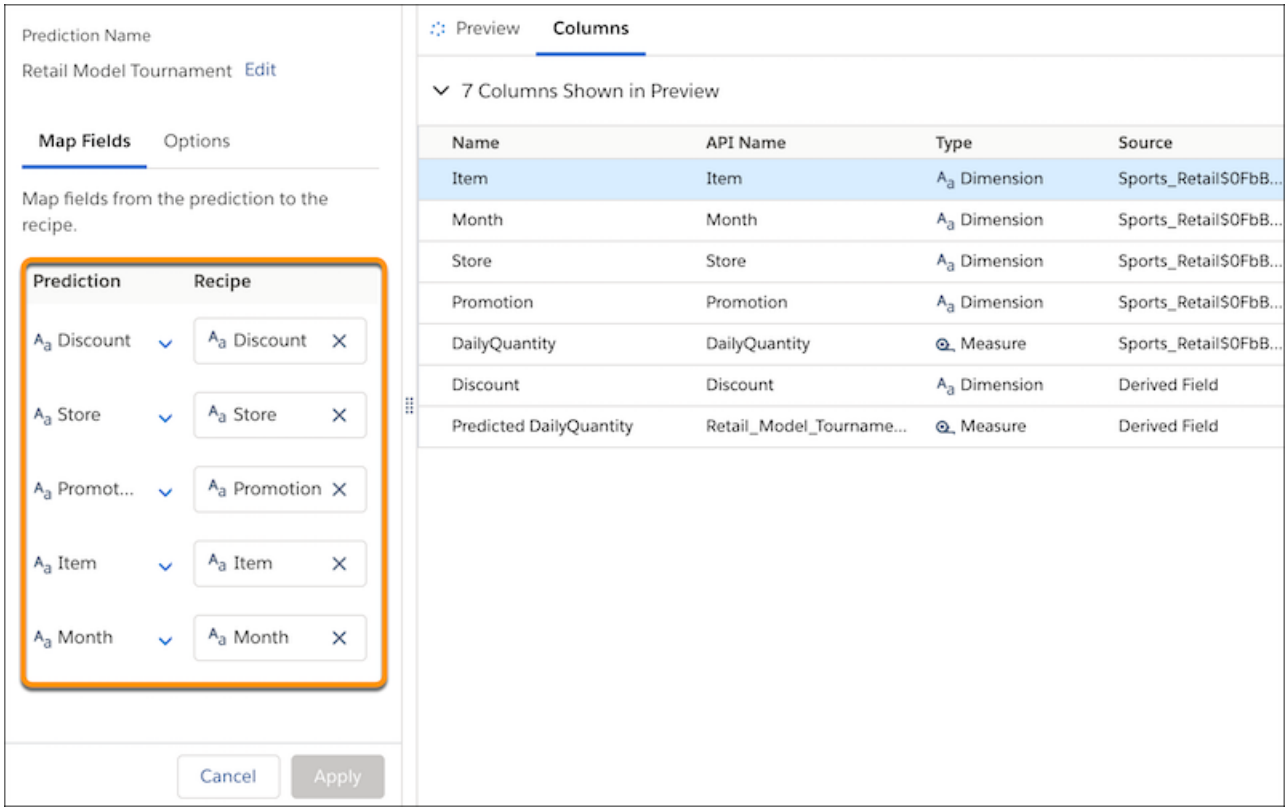
データプレップレシピの [Discovery 予測] 変換を使用して、予測インテリジェンスおよび指示的インテリジェンスでデータセットを入力します。Discovery 予測ノードでレシピを実行する場合、Einstein は行ごとに予測結果を計算して保存します。上位の予測因子や改善の説明を保存することもできます。たとえば、データプレップレシピでは、予測成立率、上位の要素、成立率を改善するための方法をデータセットに保存して、ダッシュボードに直接表示できます。Discovery 予測ノードを使用すると、大量のデータセットの予測をすばやく評価したり、本番にリリースする前に複数のモデルを評価したり、ダッシュボードでこの情報を集計したりできます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

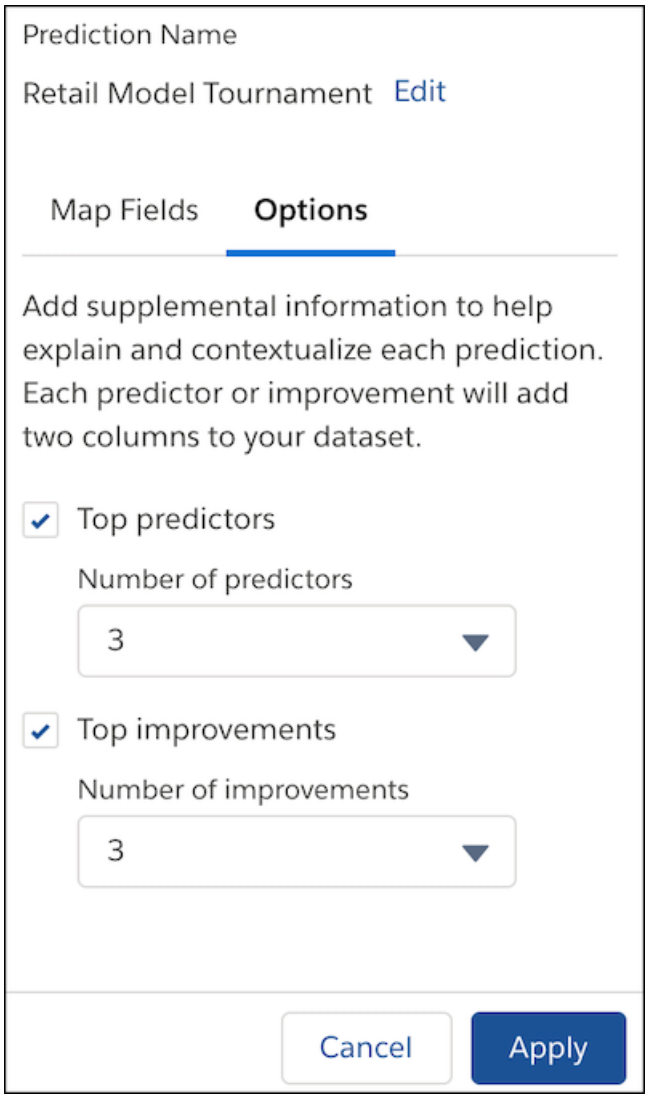
方法: [データプレップ] で、1 つ以上の入力ノードが含まれるレシピを作成するか開きます。2 つのノードの間またはレシピの最後にある [+] ([ノードを追加]) ボタンを選択し、**[Discovery 予測]** をクリックします。



組織にリリースされた Einstein Discovery 予測を選択し、すべての予測項目をレシピに対応付けます。



必要に応じて、ノードの[オプション]タブで、ダッシュボードにすばやく簡単に表示できるように上位の予測因子や改善をデータセットに保存できます。



関連トピック:

Einstein Discovery

Salesforce 組織での外部モデルの実装 (パイロット)

本番環境ですばやく使用を開始できる外部で構築されたモデルで予測機能を強化します。Einstein Discovery によってストーリーから作成される強力なモデルに加えて、Salesforce の外部で作成された TensorFlow または Python モデルをアップロードおよびリリースできるようになりました。データサイエンティストは、お気に入りのモデリングツールを使用して、慎重に作成されたモデルを設計、構築、テスト、調整できます。その後、これらのモデルを Salesforce 組織にアップロードおよびリリースします。ユーザは、迅速に稼働を開始し、モデルの予測を使用して優れた結果を達成できます。

メモ: 外部モデルインポート機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い

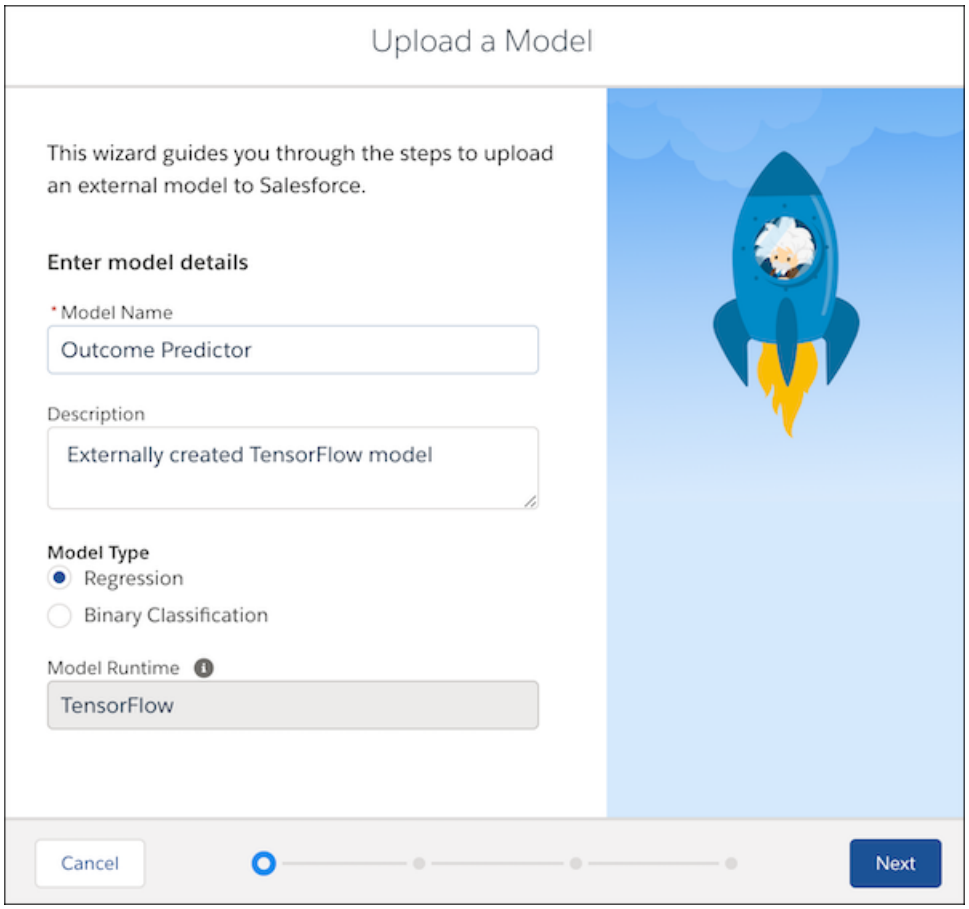
合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。外部モデルインポートは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。外部モデルインポートに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Communityの該当するIdeaExchangeグループに投稿してください。

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

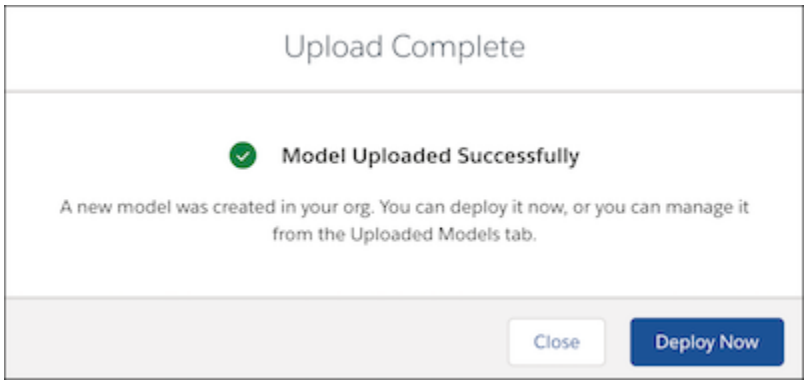
方法:パイロットプログラムへの参加については、Salesforce **のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。**

TensorFlow **または** Python **モデルに関連付けられているすべてのファイルを** .zip **ファイルにバンドルします。**

モデルマネージャを開き、[アップロード]をクリックし、[モデルをアップロード]ウィザードを起動します。



モデルに関する詳細を指定します。次に、[次へ]をクリックして、すべてのモデル変数を指定し、モデルで予測する結果を選択します。モデルファイルが含まれる .zip **ファイルを選択し、[完了]をクリックします。このモデルを今すぐ** Salesforce **環境にリリースすることも、[閉じる]をクリックして[アップロードされたファイル]タブに追加し、後でリリースすることもできます。**



関連トピック:

Einstein Discovery

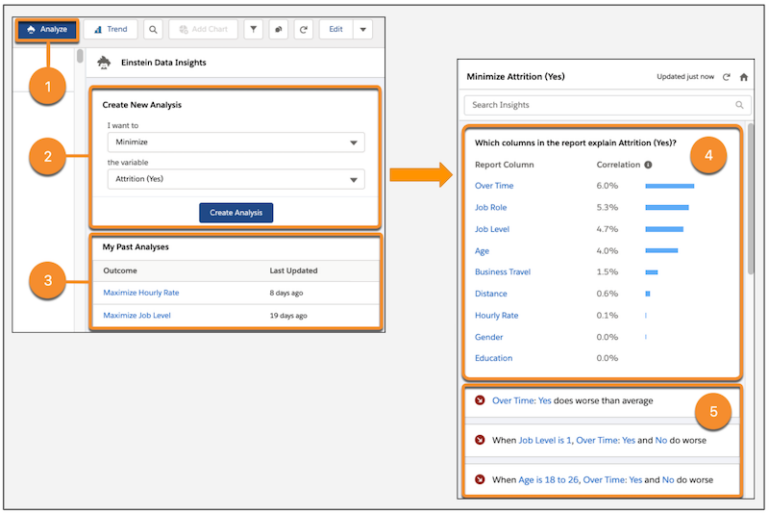
拡張された Einstein データインサイトを使用したレポートデータに関するより適切インサイトの取得

Einstein データインサイトが改善され、従来よりも簡単に AI の機能やレポートデータの包括的な統計分析を活用できます。分析前に Einstein でレポートが事前検証され、有意義な分析を実施するために最低限必要な列数および行数が含まれることが確認されるようになりました。まったく新しい合理化されたインターフェースでは、目標に最も相関しているレポート列に焦点を当てることで、探索の焦点を絞ることができます。列または検索条件を選択して、調査する Einstein Discovery ベースのインサイトをすばやくトラバースできます。また、レポートデータが更新されたときに、オンデマンドで分析を更新できます。

対象: この変更は Lightning Experience のレポートに適用されます。Einstein データインサイトは、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 少なくとも 2 個の列と 50 個のデータ行がある表形式レポートまたはサマリーレポートを開き、[分析] (1) (以前の [インサイト] ボタン) をクリックします。

- レポートに既存の分析がない場合、Einstein データインサイトは計数分析を実行し、項目値の統計的に有意な出現数を調べます。
- 1 つ以上の分析がすでに存在する場合、新しい分析を作成するか (2)、既存の分析を起動する (3) ように Einstein から求められます。

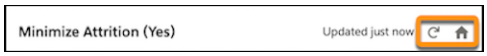


データの分析 (計数分析を除く) が完了すると、Einstein に各レポート列と目標の相関関係 (4) が相関関係レベルの降順で表示されます。また、関連付けられているインサイトのリスト (5) も表示されます。

特定のレポート列に焦点を絞るには、相関関係の概要でそのレポート列をクリックし、目標に対する影響度で並び替えられた列ベースのインサイトを表示します。リストを絞り込むには、[インサイトを検索]で、検索条件 (6) を選択して、関連するインサイト (7) に焦点を絞ります。



レポートデータが更新されたときに分析をすばやく更新するには、ツールバーの更新アイコンをクリックします。新しい分析を作成するには、ホームアイコンをクリックします。



関連トピック:

Einstein Discovery

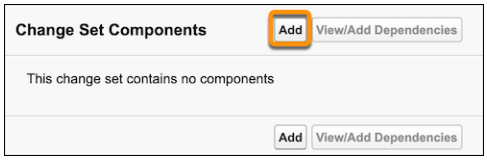
予測のパッケージ化、昇格、配布

Einstein Discovery でパッケージ化がサポートされるようになり、モデルの移植や共有を以前よりも容易に行うことができます。Sandbox 環境でモデルを作成およびテストし、本番の準備が整ったときに変更セットを使用して本番環境に昇格できるようになりました。独自のデータを使用してモデルを作成およびトレーニングし、管理パッケージや未管理パッケージを使用して社内外の他のユーザに配布することもできます。これにより、ユーザはモデルをトレーニングするデータを自分で用意することなく、モデルの予測および改善のメリットを活用できます。Einstein Discovery では、第一世代パッケージ化 (1GP) と第二世代パッケージ化 (2GP) の両方がサポートされています。

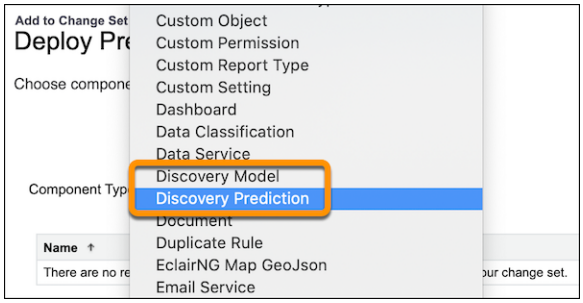
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Sandbox 環境から本番環境に予測を昇格する準備ができたら、変更セットを使用します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*変更セット*」と入力し、[送信変更セット] を選択します。送信変更セットを作成するには、[新規] をクリックして名前と説明を入力し、[保存] をクリックします。

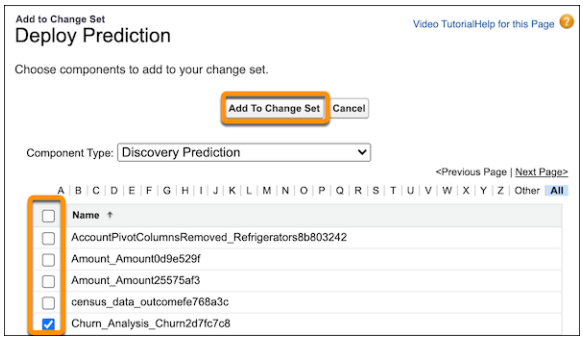
予測を変更セットに追加するには、[追加] をクリックします。



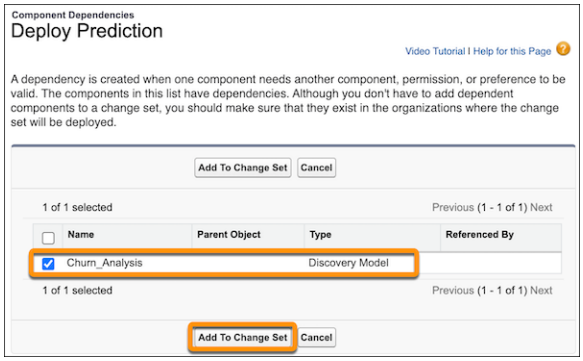
リリースするコンポーネントの種類 ([Discovery 予測] (1 つ以上のモデルが含まれる予測) または [Discovery モデル] (個々のモデル)) を選択します。



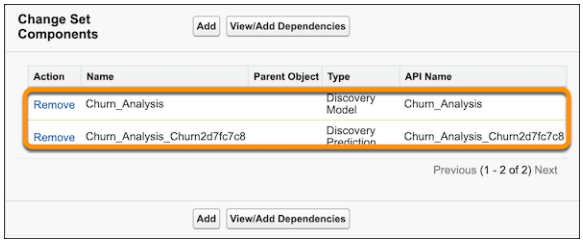
リストから 1 つ以上のリリースされた予測またはモデルを選択し、[変更セットに追加] をクリックします。



予測に連動するモデルを追加するには、[連動関係を参照/追加]をクリックして、任意の使用可能なモデルを選択し、[変更セットに追加] をクリックします。



予測と、関連付けられているモデルがコンポーネントのリストに表示されます。



メモ: 変更セットには、モデルは含まれますが、モデルの作成に使用されるストーリーは含まれません。モデルの元のストーリーバージョンは変更セットでアップロードされません。

変更リストを対象の本番環境にアップロードします。次に、その環境に移動して、[受信変更セット]に移動して、アップロードした変更セットを見つけ、他の変更セットと同じようにリリースします。詳細は、Salesforce ヘルプの「変更セット」を参照してください。

関連トピック:

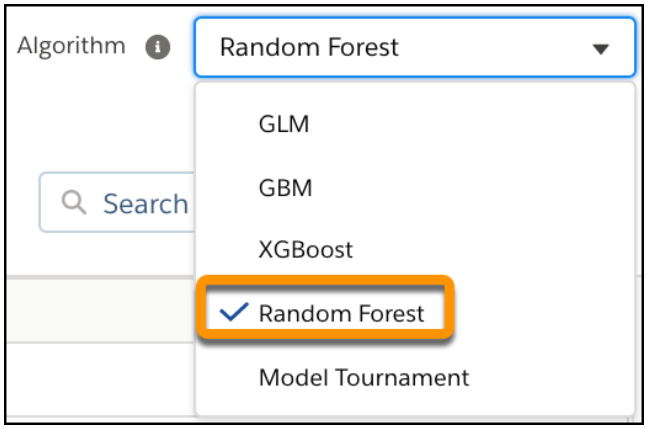
Einstein Discovery

ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (正式リリース)

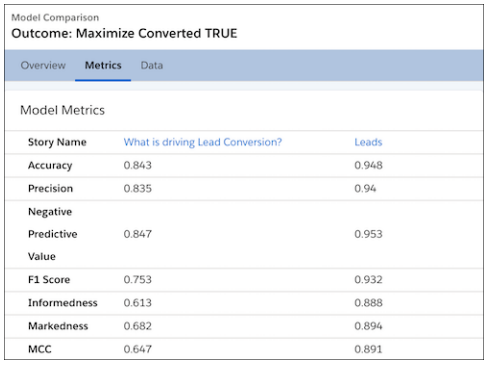
ランダムフォレストと呼ばれるモデリングアルゴリズムに基づく 4 番目のモデル種別が Einstein Discovery に追加されます。Einstein Discovery では、この教師ありアルゴリズムを使用して、複数のディシジョンツリー、ランダマイゼーション、および他の最適化技法で非常に正確なモデルを作成します。ランダムフォレストモデルでストーリーを作成し、その総計値を他のモデル種別と比較して、このアルゴリズムの方がストーリーの精度が高いかどうかを判断できます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリー設定で、[アルゴリズム] リストをクリックして [ランダムフォレスト] を選択します。



ストーリーを作成したら、[モデル評価指標] に移動し、このモデルの精度と他のアルゴリズムを使用して作成されたモデルの精度を比較します。



関連トピック:

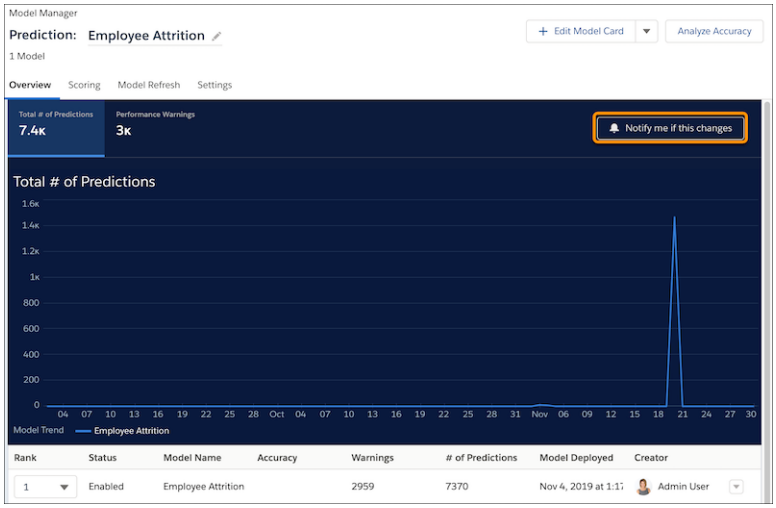
Einstein Discovery

パフォーマンス通知を使用したモデルの精度の維持

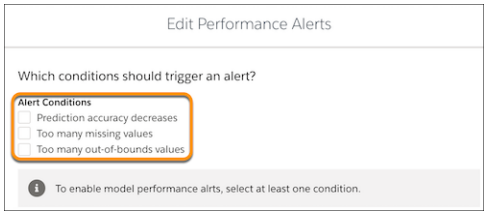
最適に設計されたモデルでも、時間が経つにつれてパフォーマンスが低下する可能性があります。実際のデータの特性がモデルの作成に使用されたトレーニングデータと大きく異なる場合、モデルがドリフトします。その結果、予測精度が低下し、それらの予測に連動するビジネス上の意思決定に悪影響を与える可能性があります。予測通知により、現在の状況が反映されたより新しいデータでモデルを再トレーニングすべきタイミングが警告されます。その後、是正措置を実行して、ドリフトしているモデルを正しい方向に戻すことができます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

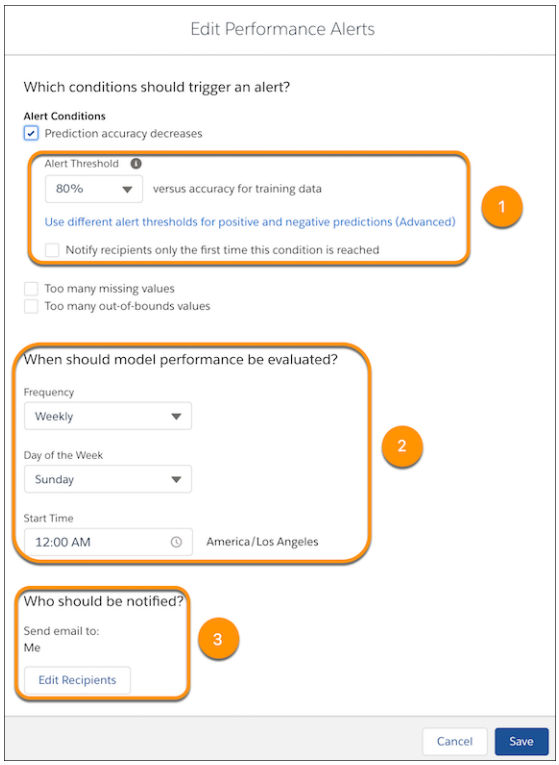
方法:モデルマネージャで、自動予測項目を使用するモデルを表示し、[これが変更された場合に通知]をクリックします。



通知をトリガする条件。([予測精度が低下]、[欠損値が多すぎます]、[範囲外の値が多すぎます])を選択します。



しきい値や他のアラート設定を定義して (1)、モデルを評価するタイミングをスケジュールし (2)、登録者を通知に追加して (3)、保存します。



メモ: [予測精度が低下] を選択するには、モデルの最終状態を設定して精度の監視を有効にする必要があります。詳細は、「モデルパフォーマンス監視の設定」を参照してください。

関連トピック:

Einstein Discovery

モデルカードによる予測の透過性の向上 (パイロット)

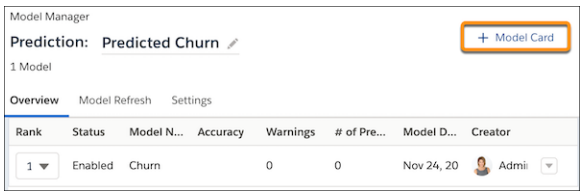
Einstein Discovery には、予測に関する重要な利用状況情報を文書化したり、他のユーザに伝えたりするためのモデルカードが導入されています。モデルカードには、モデルのトレーニングに使用されるデータに関連付けられた統計が表示されます。また、予測の使用目的、設計の前提条件、対象利用者、機能と制限事項、その他の関連情報に関する省略可能な説明を表示することもできます。これらの詳細を開示することで、ユーザは予測を理解し、複数の予測を区別しやすくなります。これにより、予測が各自の使用事例に適しているかどうかについて、情報に基づいて倫理的な意思決定を行うことができます。

メモ: モデルカード機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。モデルカード機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。モデルカードに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

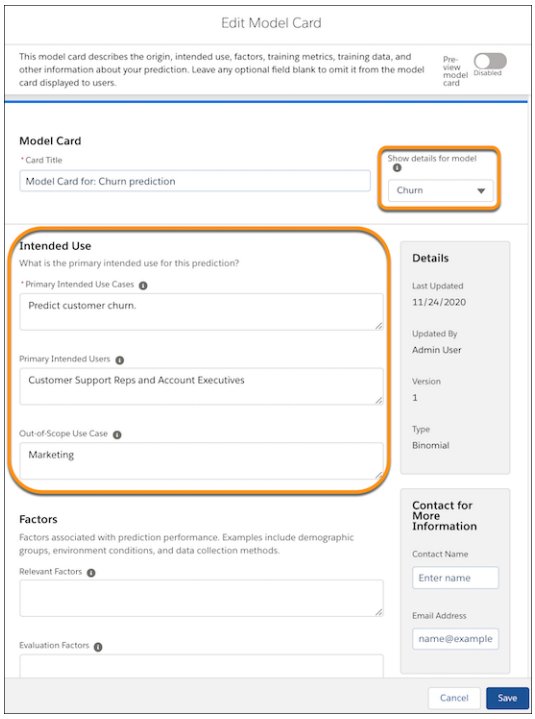
対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法:パイロットプログラムへの参加については、Salesforce **のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。**

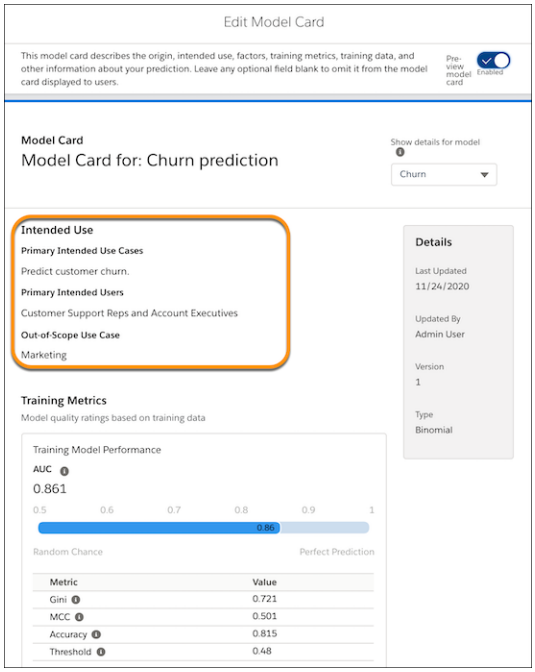
モデルマネージャで、予測を表示し、[+ モデルカード] をクリックします。



テンプレートで、ユーザに表示する項目 ([主な使用目的] やその他の使用目的情報など) を選択し、作業を保存します。予測に複数のモデルがある場合は、詳細を表示するモデルをリストから選択します。



設定をプレビューするには、[モデルカードをプレビュー] を有効にします。入力された項目のみが表示され、空の項目は除外されます。カードには、モデルのトレーニングに使用されますデータに関連付けられたモデル総計 (モデルの品質評価、トレーニングデータセットの結果値の分布、変数と結果の相関関係など) も表示されます。



メモ: パイロットの場合、モデルカードはモデルマネージャにのみ表示されます。

関連トピック:

Einstein Discovery

モデルパフォーマンスを改善するための欠損値の代入 (パイロット)

不明なデータや問題のあるデータによる欠損値が多すぎると、モデルの品質が低下する可能性があります。Einstein Discovery で、データセットの数値の欠損値を代入できるようになりました。数値変数の統計的代入を有効にすると、Einstein Discovery は欠損値をデータの別のサブセットから派生する値に自動的に置き換えます。

メモ: データ代入機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。データ代入機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。データ代入に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

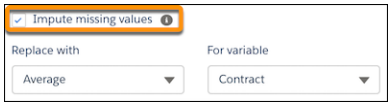
対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由:代入が有効になっていない場合、Einstein Discovery は空の値または NULL 値のある観測を適切に処理します。欠損値が結果変数の場合、分析中に Einstein Discovery でその観測が省略されると、平均に組み込まれず、インサイトから除外されます。欠損値が、モデルで使用される説明変数の場合、Einstein Discovery で予測ではなく警告が生成されます。

代入が有効になっている場合、分析中に欠損値のある観測が問題なくカウントされます。たとえば、小売店のデータセットの利益列に多くの値が欠落しているとします。代入を使用すると、それらの欠損値を他のデータから派生する値(平方フィートまたは都市ごとの店舗あたりの平均利益など)に置き換えることができます。その結果、予測でより多くの観測を得ることができます。

方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

ストーリー設定で、値を代入する数値変数を選択し、[設定] サブタブをクリックして、[欠損値の代入] を選択します。代入値を派生する変数と、値の計算に使用する平均、中央値、最頻値の集計を選択します。



関連トピック:

Einstein Discovery

スペルのあいまい一致を使用した予測の改善 (パイロット)

Einstein Discovery には、スペルのバリエーションに対処するあいまい一致が導入され、スマートな分類と適切な予測を実現できます。カテゴリデータのスペルのバリエーションにより、実際には同じカテゴリに属している場合でも観測が別のカテゴリに分類されることがあります。大文字小文字の違い、複数形、略語、バリエーション (behavior と behaviour など) により、データをグループ化する方法についてあいまいさが生じます。項目のあいまい一致を有効にすると、Einstein は大文字小文字を無視するため、flavor、Flavor、flavour、flavors などのバリエーションがすべて同じカテゴリに属します。Einstein Discovery は予測時にデータを変換するため、データプレップ中の文字列の整理をスキップできます。

メモ: あいまい一致機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。あいまい一致変換機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。あいまい一致変換に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

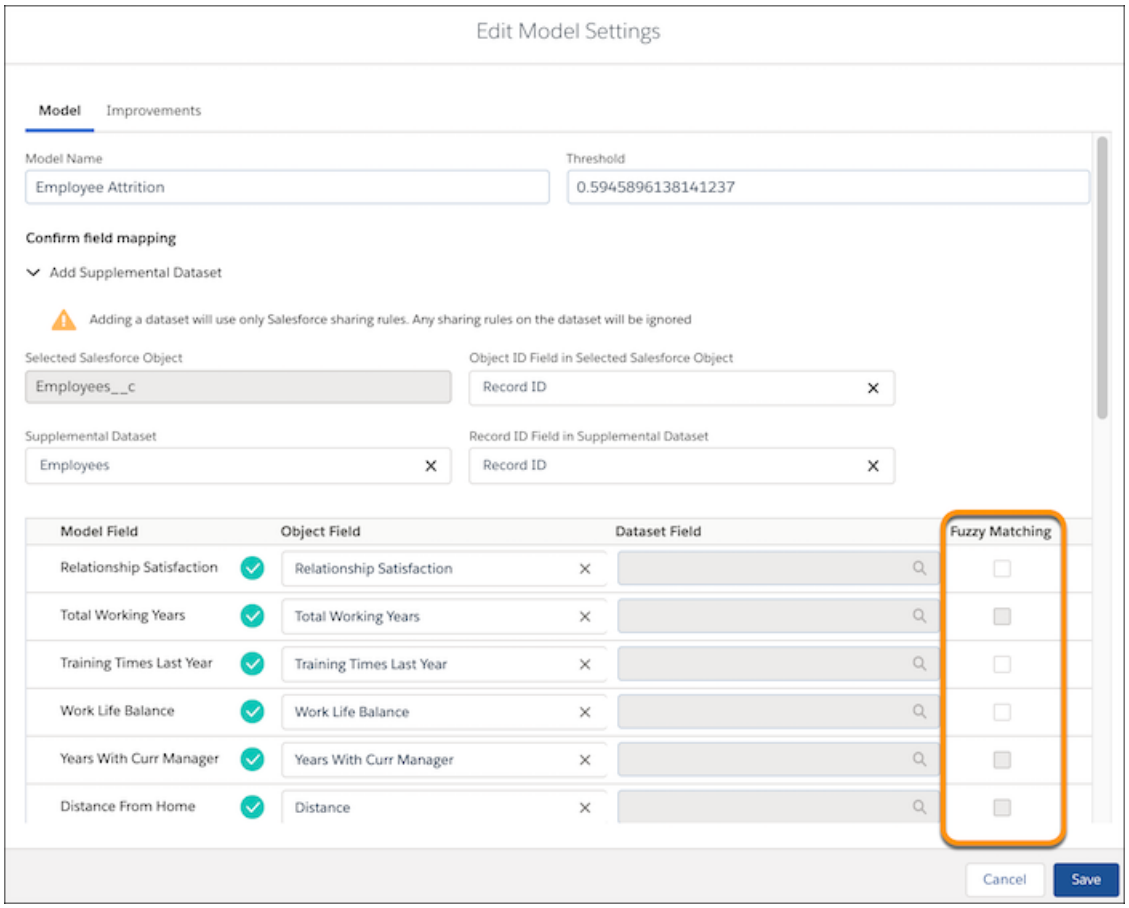
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: これまでは、Einstein Discovery で完全一致のみが使用されていました。つまり、同じスペルの文字列値のみが同じカテゴリにグループ化されていました。Einstein は、大文字小文字などのわずかなスペルのバリエーションでも異なる文字列 (auto、Auto、autos など) を別のカテゴリとして処理し、そのバリエーションがトレーニングデータに見つからなければ範囲外の警告を生成します。

メモ: Einstein は、あいまい一致にレーベンシュタインアリゴリズムを使用します。パイロットの場合、編集距離が 1 に設定されます。これは、カテゴリ一致で 1 文字の編集が許可されることを意味します。flavors の例では、編集距離が 2 であるため、バリエーション flavored は別のカテゴリに属します。

方法: パイロットプログラムへの参加については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

モデルマネージャで、予測を開き、モデルメニューから [設定を編集] を選択します。



[あいまい一致] 列の任意のテキスト項目のあいまい一致を有効にして、変更を保存します。

関連トピック:

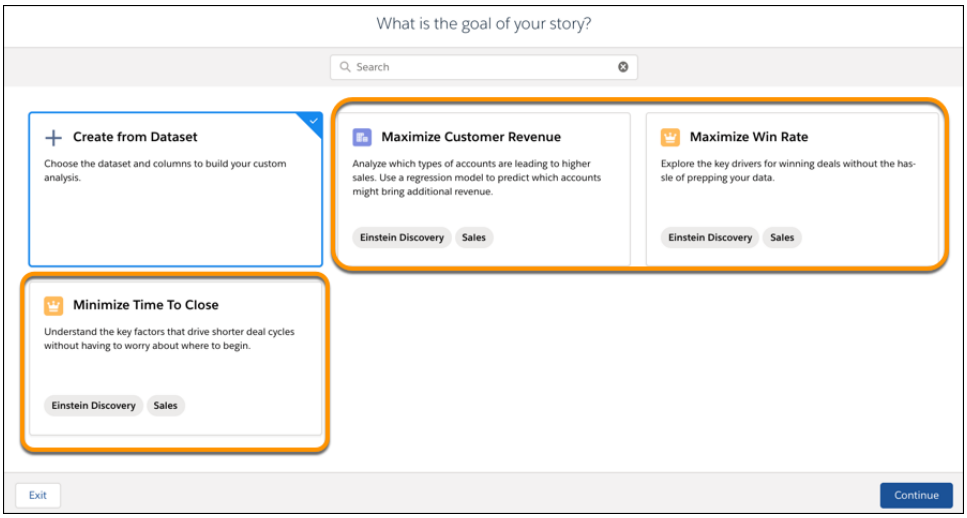
Einstein Discovery

テンプレートアプリケーションを使用したモデルのリリースとデータセットのスコアリングの自動化

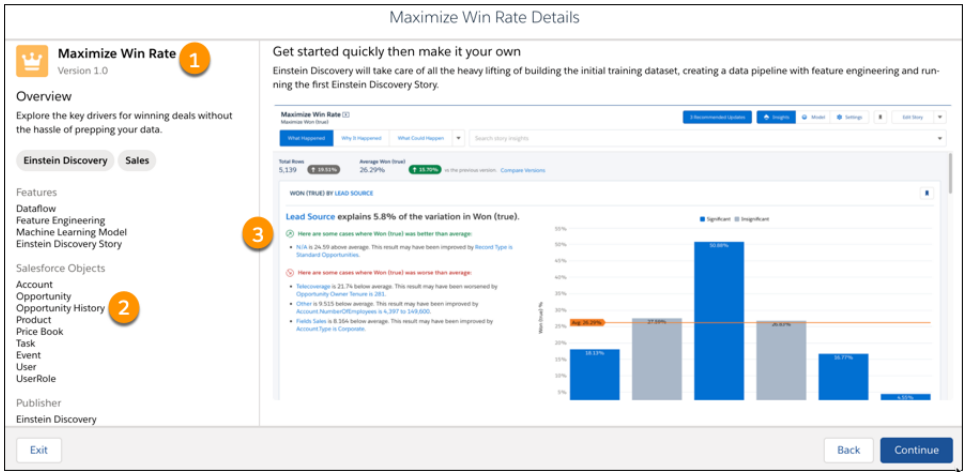
最新のEinstein Discoveryテンプレートアプリケーションを試したことがない場合、数回クリックするだけ一般的な使用事例の準備、読み込み、分析を最短で行う方法を見逃しています。最新の更新では、代わりにストーリーのカスタマイズに焦点を絞ることができるエンドツーエンドのワークフローが提供されています。テンプレートの機能強化により、モデルのリリースを手動で行う複雑なプロセスが置き換えられます。また、テンプレートを使用することで、結果目標を満たす行を識別するためのデータセット予測項目の計算と作成が自動化されます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Analytics Studio で、[作成] をクリックして [ストーリー] を選択します。テンプレートを選択して [次へ] をクリックします。



テンプレートの概要には、説明 (1)、サポートされているオブジェクトのリスト (2)、サンプルインサイト (3) が含まれます。[次へ] をクリックし、Einstein Discovery でインサイトを作成できるようにします。



関連トピック:

Einstein Discovery

ライセンスを有効にするときの自動有効化による設定時間の節約

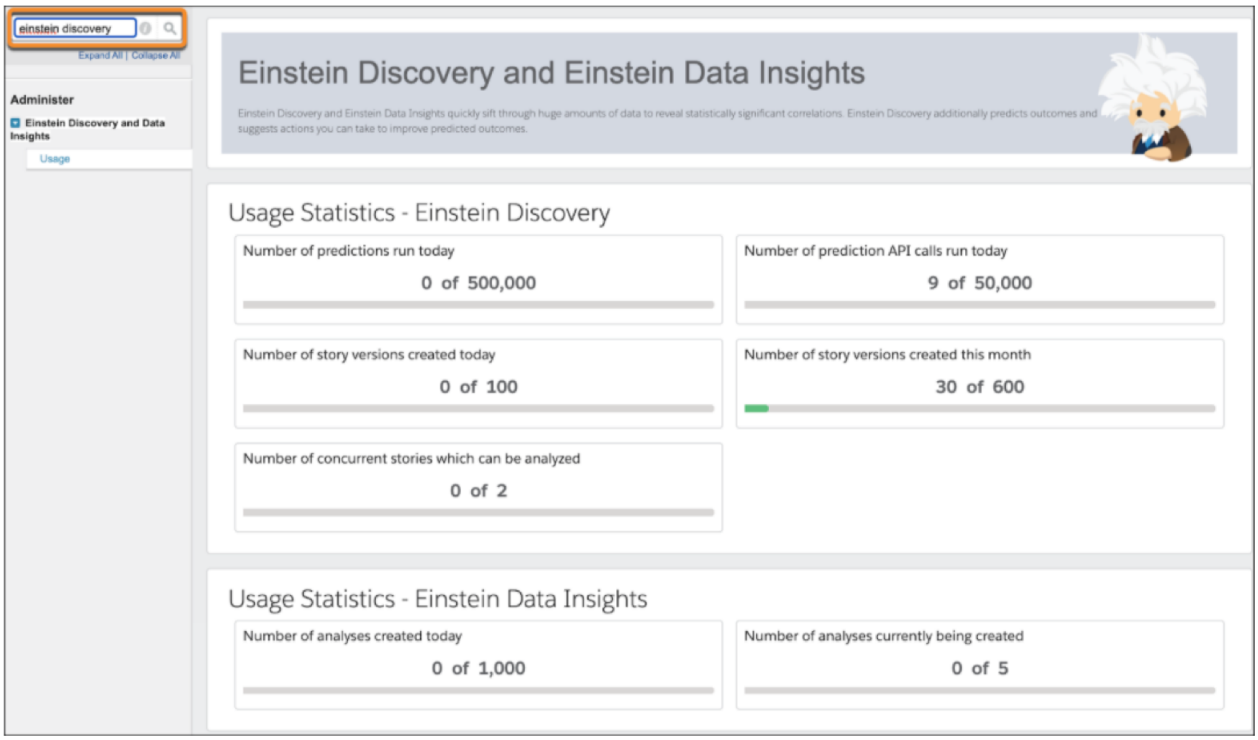
機能の自動有効化と統合された利用状況ダッシュボードにより、Einstein Discoveryの設定および管理がさらに簡単になりました。Einstein Discovery と Einstein データインサイトは、Tableau CRM に含まれるようになったため、Tableau CRMが有効になると自動的に有効化されます。自動的に有効化されることで、権限セットを作成するときに必要な機能を検索して有効にする時間を節約できます。Einstein Discovery と Einstein データインサイトが同じ画面に表示されるため、より正確なライセンスの利用状況の制限と総計値を取得できます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Einstein Discovery と Einstein データインサイトを手動で有効にする必要はなくなりましたが、ユーザ権限は引き続き基本権限セットまたはカスタム権限セットで割り当てる必要があります。

Einstein Discovery と Einstein データインサイトの統計は、[設定] で使用できます。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Einstein Discovery`」と入力し、[利用状況] を選択します。



関連トピック:

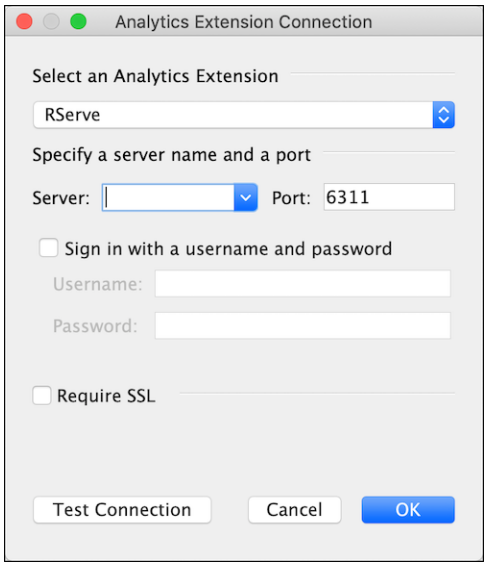
Einstein Discovery

Tableau でのカスタムテーブルの計算を使用した Einstein 予測の取得

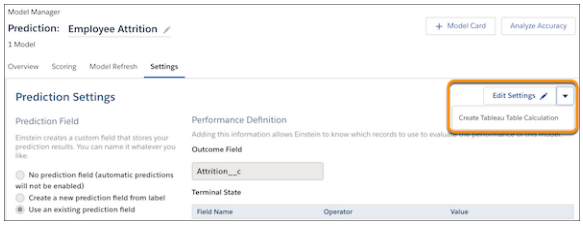
Tableau ユーザに朗報です。Tableau バージョン 21.1 から、Salesforce にリリースされた Einstein Discovery モデルを使用して Tableau データの予測を取得できます。たとえば、未処理の注文が含まれる Tableau ワークシートがあり、個々の注文が時間どおりに出荷される確度を予測する Salesforce のモデルを使用するとします。そのモデルにリンクするには、Salesforce に接続して、モデルマネージャでモデルのカスタムスクリプトを生成し、Tableau で計算項目を作成します。次に、その項目の計算エディタにスクリプトを貼り付けます。その後、スクリプトが実行されると、必要な注文データと共に予測要求が Salesforce に送信されます。Einstein Discovery モデルにより、予測が計算されて Tableau に返され、ワークシートに即座に表示されます。非常に簡単で強力です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau Desktop で、[ヘルプ] > [設定とパフォーマンス] > **[Manage Analytics Extension Connection (分析拡張機能接続の管理)]** を選択し、Einstein Discovery への新しい Analytics 拡張接続を作成します。



モデルマネージャで、予測を選択し、メニューから **[Tableau テーブルの計算を作成]** を選択します。



モデルマネージャにより、使用するモデルまたは予測の ID、モデルで使用される列 (変数)、Tableau の対応するコピー元の列 (編集可能) が含まれるスクリプトが生成されます。**[クリップボードにコピー]** をクリックします。

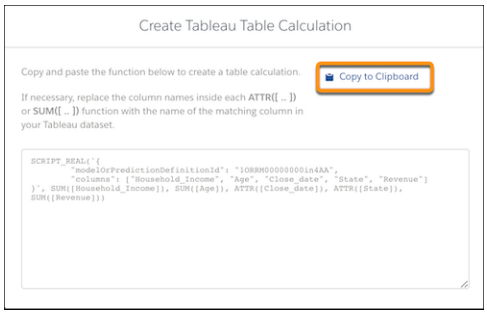
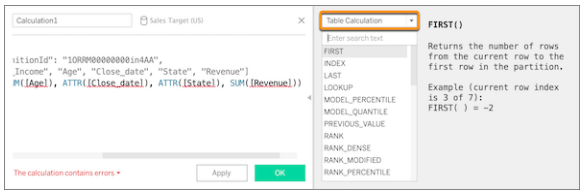


Tableau ワークシートで、計算項目を作成し、モデルマネージャから生成されたスクリプトを計算エディタに貼り付けます。



必要に応じて、各ATTRまたはSUM関数内の列名をTableauデータの一致する列の名前に置き換え、**[OK]**をクリックします。

詳細は、Salesforceヘルプの「Tableauの計算項目の予測スクリプトの作成」を参照してください。

関連トピック:

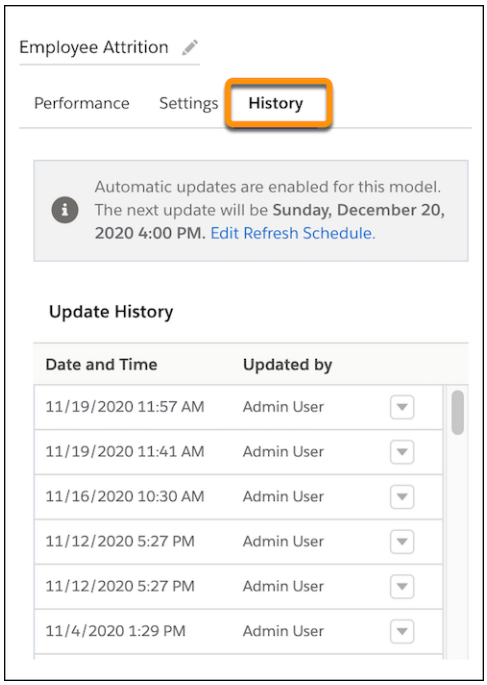
Einstein Discovery

バージョン履歴を使用したモデルバージョンの管理

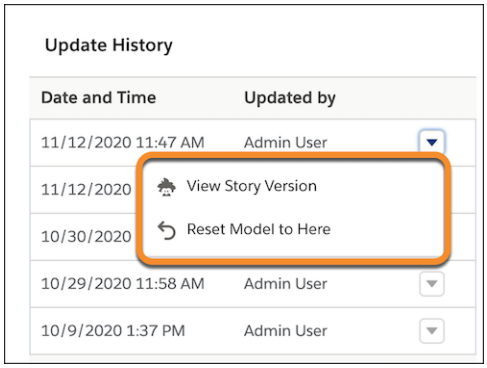
ビジネスの変化、新しいデータやより適切なデータ、ストーリーまたはモデルの設定の改善によるモデルの更新を追跡します。モデルマネージャにモデルのバージョン履歴が表示されるようになりました。これにより、いつ誰が更新したのか、今後の更新ジョブでスケジュールされているかどうかを正確に把握できます。期待どおりのパフォーマンスを得られないモデルの場合、パフォーマンスの高い以前のバージョンに戻すことができます。特定のモデルバージョンに関連付けられている基盤となる設定を調べるために、ベースとなっているストーリーバージョンを簡単に取得して確認できます。

対象:この変更は、Lightning ExperienceとSalesforce ClassicでのTableau CRM(以前のEinstein Analytics)に適用されます。Tableau CRMは、Developer Editionで使用できるほか、有料オプションでEnterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited Editionで使用できます。

方法:モデルマネージャで、予測を表示し、モデルを表示します。サイドパネルで、**[履歴]**タブをクリックします。



[履歴を更新]リストで、管理するモデルバージョンの横にあるメニューをクリックします。モデルを別のバージョンにリセットしたり、このモデルバージョンに関連付けられているストーリーバージョンを表示したりできます。



関連トピック:

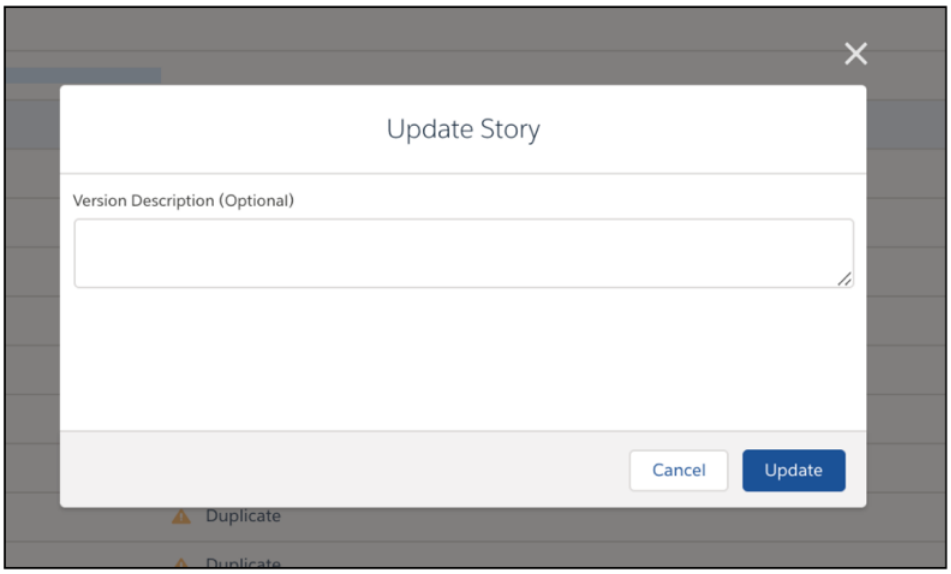
Einstein Discovery

ストーリーバージョンの詳細の迅速な保存

バージョンの説明の自動表示により、すぐにストーリーの詳細を追加できます。以前のリリースで便利なバージョンの説明が導入されましたが、テキストを追加するのにバージョンの場所に移動する必要がありました。今回のリリースでは、新しいストーリーバージョンを保存するときに[バージョンの説明]項目が自動的に表示されます。

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM **(以前の** Einstein Analytics**) に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法:バージョンの説明を追加するには、[ストーリーを編集]をクリックします。既存のストーリーを変更し、[ストーリーを更新]をクリックします。[バージョンの説明(省略可能)]ウィンドウでバージョンメモを追加し、[更新] をクリックして保存します。



関連トピック:

Einstein Discovery

Einstein Discovery ストーリーのパフォーマンスの改善

Einstein Discovery **でのストーリーの作成が改善されてます。新しいストーリーを開始するときの応答時間が短縮されています。大きなデータセットを使用する場合でも同様です。分析する各データセットを手動で調整する必要がなくなり、ストーリーの結果に焦点を絞ることができるようになりました。**Einstein Discovery **では、クエリ最適化エンジンからのフィードバックに基づいてデータセットがバックグラウンドで自動的に調整されます。たとえば、高カーディナリティ項目の絞り込みおよび除外を行うことで最適な説明変数セットを実現できます。**

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM **(以前の** Einstein Analytics**) に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

関連トピック:

Einstein Discovery

すべてのユーザのための Tableau CRM

Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) をカスタマイズする方法が増え、お客様とそのユーザは、関連する分析環境へのアクセスとその設定を簡単に行うことができるようになりました。[分析] タブユーザによる Analytics Studio へのアクセス方法を制御したり、アプリケーション内のアセット表示を管理したり (ベータ)、組み込みダッシュボード内の通知や登録を提供したり、登録の更新を各自の方法で並び替えたりできます。

このセクションの内容:

Analytics Studio にアクセスできる [分析] タブユーザの制御

プロファイルごとに Analytics Studio が [分析] タブユーザに表示されないように設定して、アプリケーションを作成できるユーザや、データセットとダッシュボードを編集および削除できるユーザを指定できます。Analytics Studio の表示をプロファイルから削除すると、そのプロファイルを持つ [分析] タブユーザのアプリケーションランチャーに Analytics Studio が表示されなくなります。また、アセットのメニューとダッシュボードヘッダーに [Analytics Studio で開く] アクションも表示されなくなります。

アセット表示によるアプリケーションで誰が何を表示できるかの制御 (ベータ)

アプリケーションマネージャおよびエディタは、アセット表示機能を使用して、選択したアセットを非表示にできるようになりました。アセット表示により、他のアプリケーションメンバーが機密性の高いアセット (開発集のダッシュボードや未加工のデータセットなど) を管理できます。

組み込みダッシュボードの通知と登録の有効化

Einstein Analytics ダッシュボードコンポーネントの 2 つの新しい属性を使用すると、分析環境をパーソナライズするオプションを組み込みダッシュボードユーザに提供できます。[通知を有効化] 属性を使用すると、ユーザはダッシュボードウィジェットの更新に関する通知方法を調整できます。[登録を有効化] 属性を使用すると、ユーザはダッシュボードウィジェットの定期的なメール更新を受信するように選択できます。また、ダッシュボードのヘッダーを表示するように設定すると、組み込みダッシュボード内で通知および登録の管理パネルを開くアイコンがヘッダーに含まれます。

各自の方法での登録メールの並び替え

登録メールをカスタマイズして、最も重要な更新を最初に表示できます。[登録のプレビュー] の新しいコントロールを使用すると、メール内の登録の順序を並び替えることができます。

学習センターの変更に関する注意事項

バックエンドの変更により、Tableau CRM 学習センターから Trailhead バナーを削除しなければならなくなりました。バナーには、学習センターの [Analytics 体験の開始] セクションでの学習ジャーニーの完了を示すアプリケーション内バッジを含め、獲得した Trailhead バッジが表示されていました。バナーは表示されなくなりますが、[Analytics 体験の開始] セクションは残るため、このアプリケーション内バッジは引き続き獲得できます。このアプリケーション内バッジとすべてのバッジを確認するには、Trailhead に移動してください。

Tableau CRM for iOS のテーブルの有効活用

データの視覚化については、テーブルが最も適しています。ただし、場合によっては、小さなモバイルデバイスで画面を延々とスクロールすることでコンテキストを見失い、行き詰まる可能性があります。スクロール操作とグループ化が改善され、外出中に表形式データに容易にアクセスできるようになりました。

Tableau CRM for iOS の最新バージョンの取得

最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for iOS のバージョン 12.1 にアップグレードします。

Tableau CRM for Android の最新バージョンの取得

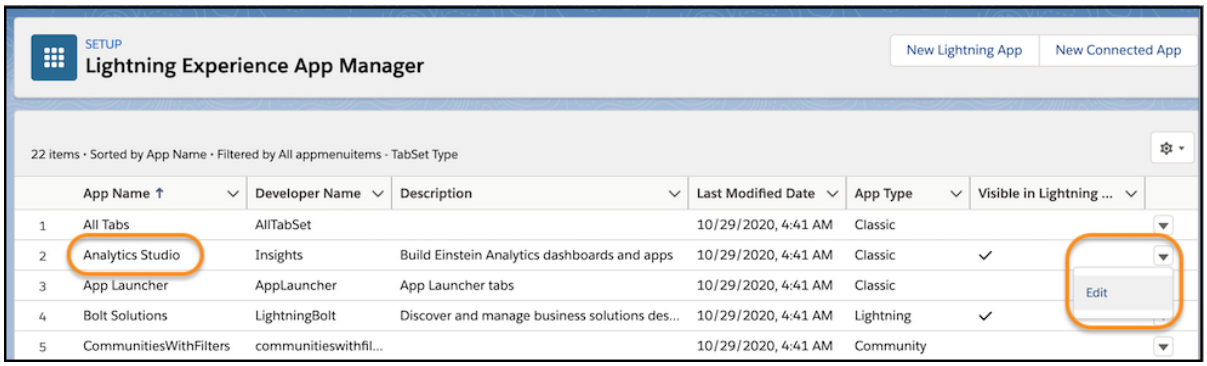
最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for Android のバージョン 12.1 にアップグレードします。

Analytics Studio にアクセスできる [分析] タブユーザの制御

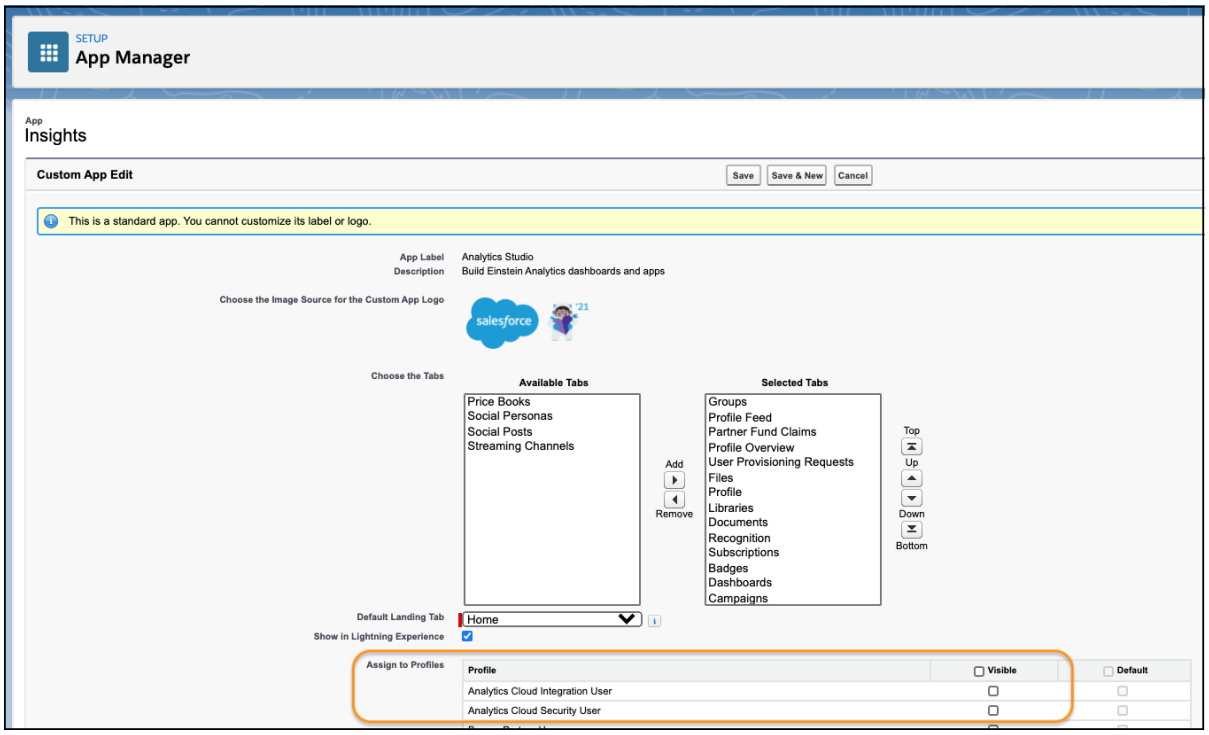
プロファイルごとに Analytics Studio が [分析] タブユーザに表示されないように設定して、アプリケーションを作成できるユーザや、データセットとダッシュボードを編集および削除できるユーザを指定できます。Analytics Studio の表示をプロファイルから削除すると、そのプロファイルを持つ [分析] タブユーザのアプリケーションランチャーに Analytics Studio が表示されなくなります。また、アセットのメニューとダッシュボードヘッダーに [Analytics Studio で開く] アクションも表示されなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力します。アプリケーションマネージャで、Analytics Studio メニューを開き、[編集] を選択します。



特定のプロファイルの Analytics Studio へのアクセスを制限するには、[プロファイルへの割り当て] セクションの [参照可能] 列のチェックをオフにします。



重要: 表示を無効にすると、[分析] タブ内の Analytics Studio への UI リンクは削除されますが、アセットの Studio バージョンの URL を使用すれば、いつでも Studio で開くことができます。Studio バージョンの URL は、[共有] ダイアログにありますが、通知メールや登録メールにも記載されています。ただし、組み込みダッシュボードや [分析] タブで作成された新しい通知の場合は、通知メールのリンクで [分析] タブに移動します。

メモ: この変更は [分析] タブにのみ適用されます。組み込みダッシュボードから Analytics Studio のアクセスは変更されず、引き続きコンポーネントの属性で制御されます。

アセット表示によるアプリケーションで誰が何を表示できるかの制御 (ベータ)

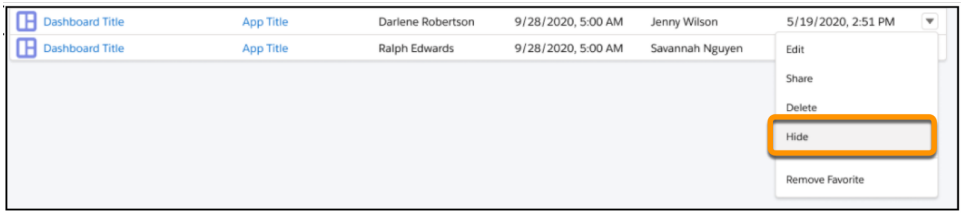
アプリケーションマネージャおよびエディタは、アセット表示機能を使用して、選択したアセットを非表示にできるようになりました。アセット表示により、他のアプリケーションメンバーが機密性の高いアセット (開発集のダッシュボードや未加工のデータセットなど) を管理できます。

メモ: アセット表示はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における Tableau CRM には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、Tableau CRM に関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。アセット表示に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象:この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: 組織でアセット表示を有効にするには、Salesforce **アカウント担当者にお問い合わせください。**

方法: アプリケーションマネージャは、アセットの行レベルアクションのドロップダウンメニューをクリックして [非表示] をクリックし、アセットの状況を切り替えて表示を制御できます。



アセットの変更は、「閲覧者」共有アクセス権が割り当てられているアプリケーションメンバーに影響します。「マネージャ」または「エディタ」共有アクセス権を持つアプリケーションユーザには、アセットの状況に関係なく、引き続きアセットが表示されます。「マネージャ」または「エディタ」共有アクセス権を持つユーザは、アセット表示を制御できます。

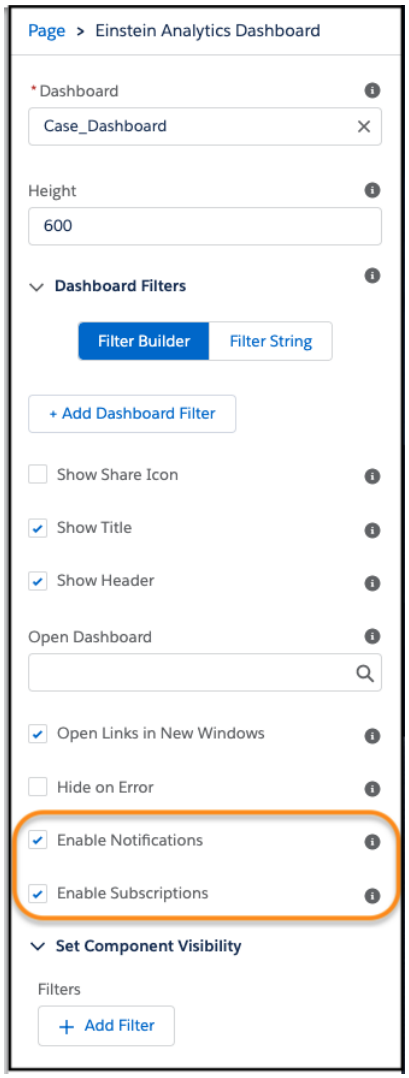
組み込みダッシュボードの通知と登録の有効化

Einstein Analytics **ダッシュボードコンポーネントの** 2 **つの新しい属性を使用すると、分析環境をパーソナライズするオプションを組み込みダッシュボードユーザに提供できます。[通知を有効化] 属性を使用すると、ユーザはダッシュボードウィジェットの更新に関する通知方法を調整できます。[登録を有効化] 属性を使用すると、ユーザはダッシュボードウィジェットの定期的なメール更新を受信するように選択できます。また、ダッシュボードのヘッダーを表示するように設定すると、組み込みダッシュボード内で通知および登録の管理パネルを開くアイコンがヘッダーに含まれます。**

対象: この変更は、Lightning Experience **と** Salesforce Classic **での** Tableau CRM (**以前の** Einstein Analytics) **に適用されます。** Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

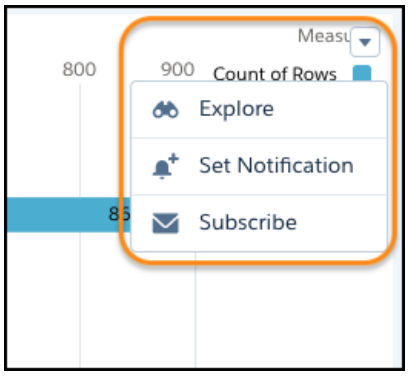
対象ユーザ: 他の受信者に通知をメールで送信するには、「通知メール: 受信者を追加」ユーザ権限が必要です。登録にアクセスするには、「登録メールを使用」ユーザ権限が必要です。ユーザがテーブルを登録して、登録メールでダウンロード済みのテーブルデータ (.csv 添付ファイル) を受信できるようにするには、「Analytics **データのダウンロード」ユーザ権限も必要です。**

方法: Lightning **アプリケーションビルダーの** Einstein Analytics **ダッシュボードコンポーネントの設定パネルで [通知を有効化] および [登録を有効化] を選択します。**



Visualforce ダッシュボードコンポーネントでは、*enableNotifications="true"* および *enableSubscriptions="true"* を使用して、これらの属性を設定します。

これらの属性が有効になっていると、組み込みダッシュボードのウィジェットメニューに[通知を設定]および[登録]オプションが表示されます。これらのアクションを使用すると、ユーザは通知と登録を設定して保存できます。



ダッシュボードヘッダーが表示されるように[ヘッダーを表示]属性も有効にすると、管理パネルを開くためのアイコンが含まれます。ユーザは管理パネルで各自の通知や登録を編集および削除できます。



[ヘッダーを表示] が無効になっている場合、ユーザは [分析] タブや Analytics Studio で通知や登録を編集および削除できます。

ヒント: [ヘッダーを表示] を有効にする場合、管理パネルが収まるようにダッシュボードの幅を 400 ピクセル以上にすることをお勧めします。

関連トピック:

IdeaExchange: Notifications and Subscriptions in Embedded Dashboards (組み込みダッシュボードの通知と登録)

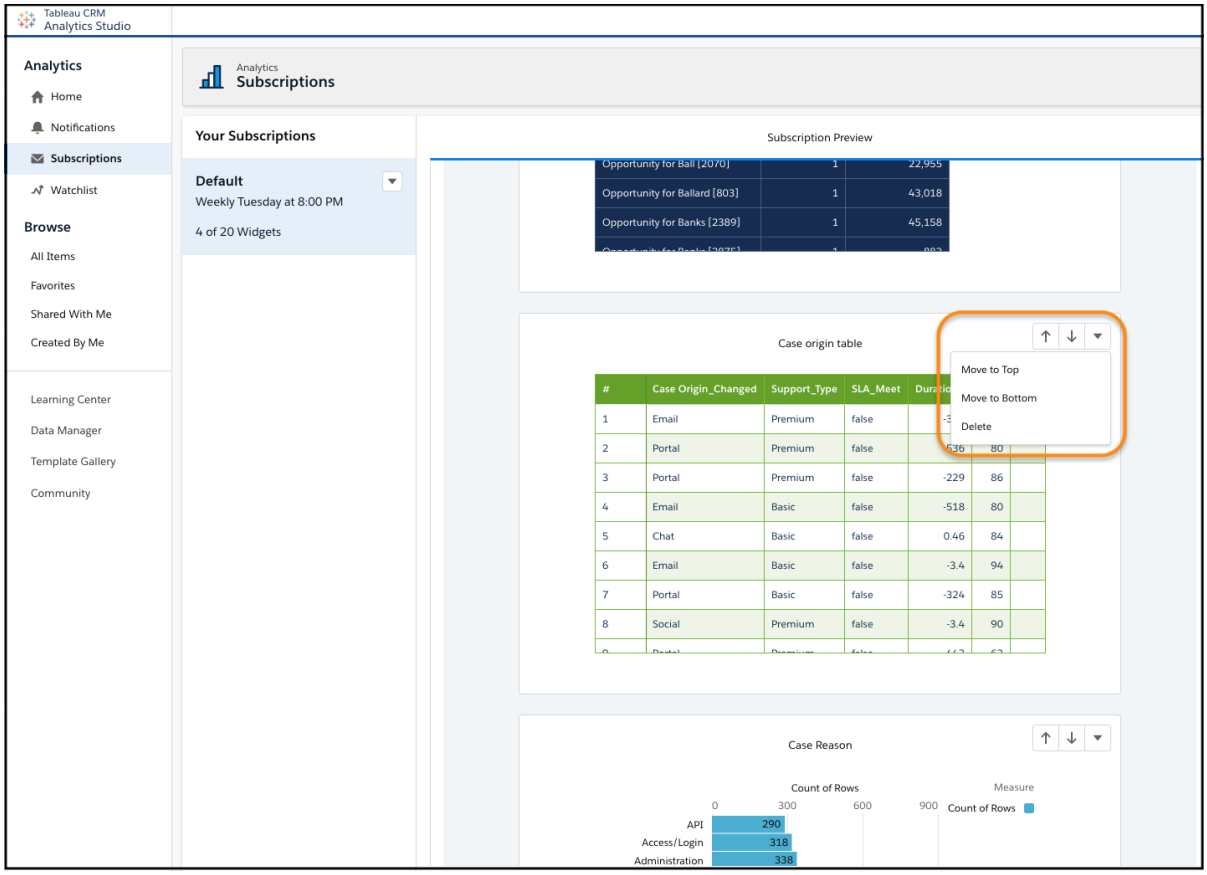
各自の方法での登録メールの並び替え

登録メールをカスタマイズして、最も重要な更新を最初に表示できます。[登録のプレビュー]の新しいコントロールを使用すると、メール内の登録の順序を並び替えることができます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: 登録にアクセスするには、「登録メールを使用」ユーザ権限が必要です。ユーザがテーブルを登録して、登録メールでダウンロード済みのテーブルデータ (.csv 添付ファイル) を受信できるようにするには、「Analytics データのダウンロード」ユーザ権限も必要です。

方法: Tableau CRM ホームページで [登録] をクリックします。デフォルトでは、[登録のプレビュー]の末尾に新しく登録されたウィジェットとレンズが追加されます。登録を並び替えるには、矢印ボタンやメニューアクションを使用します。



新しい順序は[登録]パネルにすぐに表示されます。登録メールの場合は、次に受信箱に届いたときに表示されます。

学習センターの変更に関する注意事項

バックエンドの変更により、Tableau CRM 学習センターから Trailhead バナーを削除しなければならなくなりました。バナーには、学習センターの[Analytics 体験の開始]セクションでの学習ジャーニーの完了を示すアプリケーション内バッジを含め、獲得した Trailhead バッジが表示されていました。バナーは表示されなくなりますが、[Analytics 体験の開始] セクションは残るため、このアプリケーション内バッジは引き続き獲得できます。このアプリケーション内バッジとすべてのバッジを確認するには、Trailhead に移動してください。

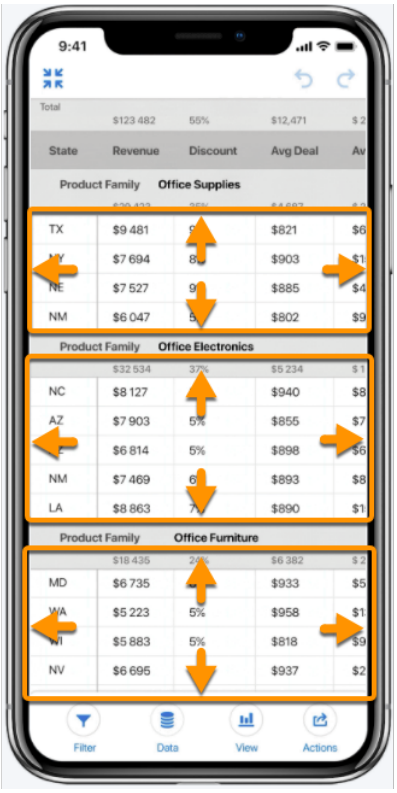
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Tableau CRM (以前の Einstein Analytics) に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Tableau CRM for iOS のテーブルの有効活用

データの視覚化については、テーブルが最も適しています。ただし、場合によっては、小さなモバイルデバイスで画面を延々とスクロールすることでコンテキストを見失い、行き詰まる可能性があります。スクロール操作とグループ化が改善され、外出中に表形式データに容易にアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、Tableau CRM for iOS に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データのスクロール中にグループ化が保持されるため、何を表示しているかを常に把握することができます。



比較テーブル内を効率的にグループ化することで、関連性の最も高いデータを容易に確認できます。

- データの 1 つのグループ化 (1) を行として表示します。
- データの複数のグループ化 (2) を全体幅のセクションとして表示します。
- データの複数のグループ化の合計 (3) と小計 (4) をグループ化セクション内に表示します。

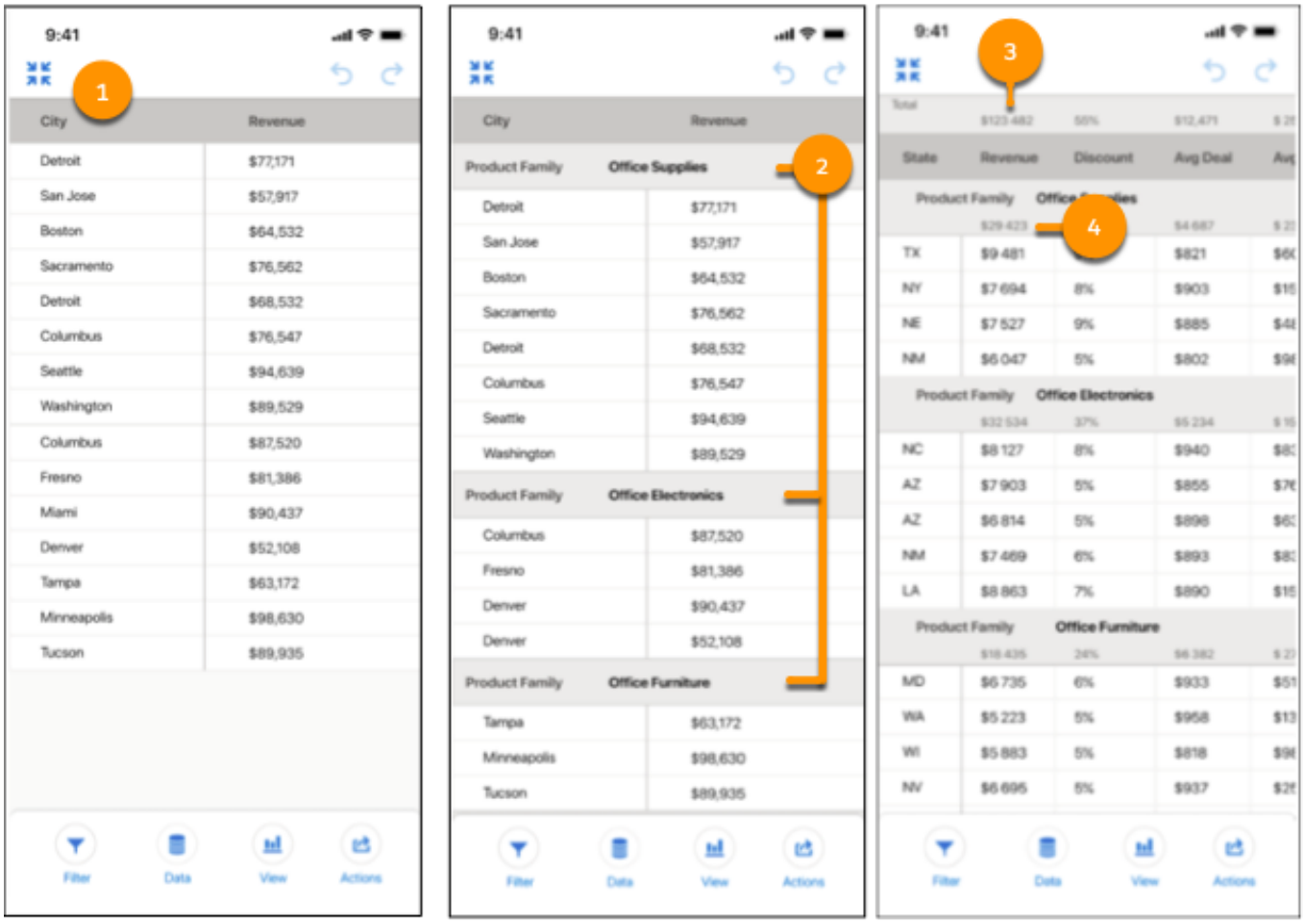


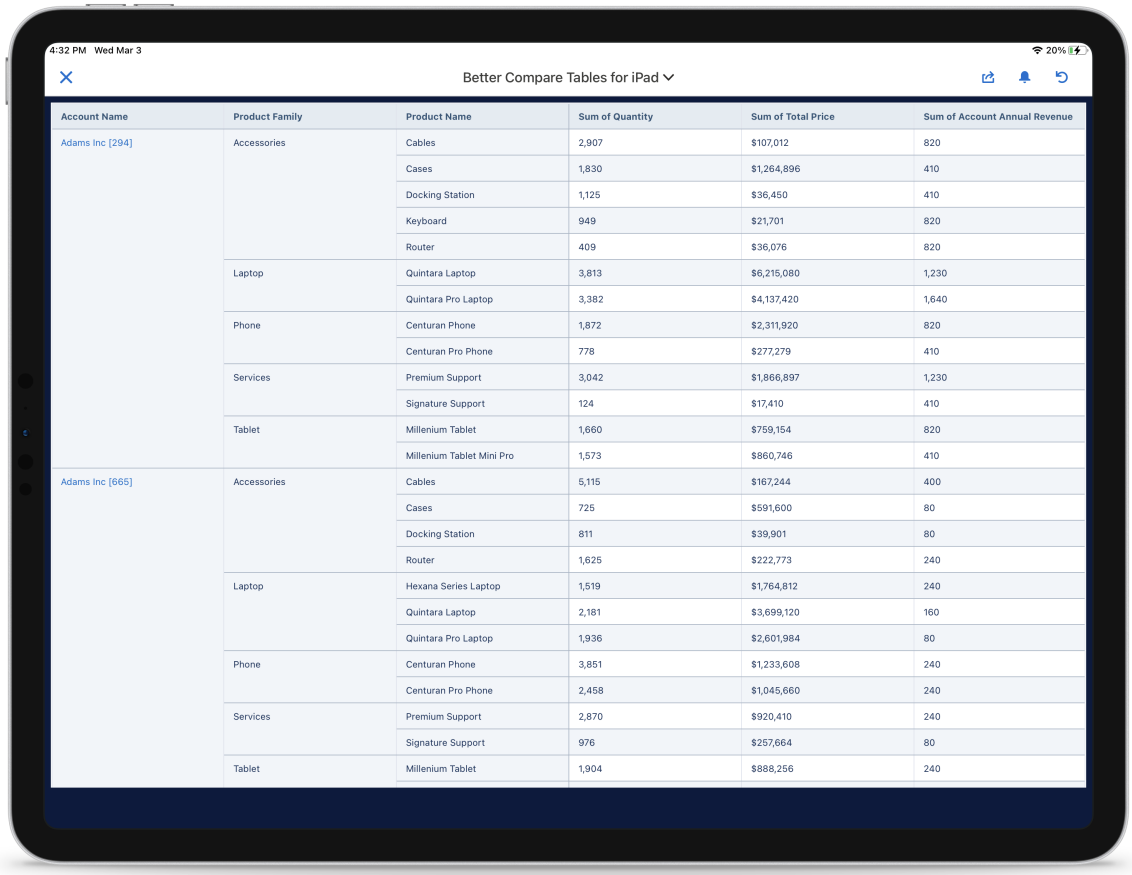
Tableau CRM for iOS の最新バージョンの取得

最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for iOS **のバージョン** 12.1 **にアップグレードします。**

対象: この変更は、Tableau CRM for iOS **に適用されます。**Tableau CRM **は、**Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および** Unlimited Edition **で使用できます。**

方法: Tableau CRM for iOS **の新機能を確認してください。**

- iPad **向けに改良された比較テーブルで、表形式データを簡単に参照して分析できます。**
- **再利用可能なダッシュボードコンポーネントへのアクセス。**
- **バグ修正。**



Account Name	Product Family	Product Name	Sum of Quantity	Sum of Total Price	Sum of Account Annual Revenue
Adams Inc [294]	Accessories	Cables	2,907	$107,012	820
		Cases	1,830	$1,264,896	410
		Docking Station	1,125	$36,450	410
		Keyboard	949	$21,701	820
		Router	409	$36,076	820
	Laptop	Quintara Laptop	3,813	$6,215,080	1,230
		Quintara Pro Laptop	3,382	$4,137,420	1,640
	Phone	Centuran Phone	1,872	$2,311,920	820
		Centuran Pro Phone	778	$277,279	410
	Services	Premium Support	3,042	$1,866,897	1,230
		Signature Support	124	$17,410	410
	Tablet	Millenium Tablet	1,660	$759,154	820
		Millenium Tablet Mini Pro	1,573	$860,746	410
Adams Inc [665]	Accessories	Cables	5,115	$167,244	400
		Cases	725	$591,600	80
		Docking Station	811	$39,901	80
		Router	1,625	$222,773	240
	Laptop	Hexana Series Laptop	1,519	$1,764,812	240
		Quintara Laptop	2,181	$3,699,120	160
		Quintara Pro Laptop	1,936	$2,601,984	80
	Phone	Centuran Phone	3,851	$1,233,608	240
		Centuran Pro Phone	2,458	$1,045,660	240
	Services	Premium Support	2,870	$920,410	240
		Signature Support	976	$257,664	80
	Tablet	Millenium Tablet	1,904	$888,256	240

最新の機能強化を取得するには、App Store から Tableau CRM をダウンロードします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 再利用可能なコンポーネントを使用したダッシュボードの作成と管理

Salesforce ヘルプ: 使用する Analytics モバイル環境の選択

Tableau CRM for Android の最新バージョンの取得

最新の機能強化を活用し、バグ修正を適用するには、Tableau CRM for Android のバージョン 12.1 にアップグレードします。

対象: この変更は、Tableau CRM for Android に適用されます。Tableau CRM は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Tableau CRM for Android の新機能を確認してください。

- 再利用可能なダッシュボードコンポーネントへのアクセス。
- バグ修正。

機能強化された最新のものを取得するには、Google Play から Tableau CRM をダウンロードします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 再利用可能なコンポーネントを使用したダッシュボードの作成と管理

Salesforce ヘルプ: 使用する Analytics モバイル環境の選択

Salesforce Einstein

Einstein レコメンデーションビルダーが正式リリースされ、作成時にデータがチェックされるようになりました。Einstein 記事レコメンデーションには、データを最大限に活用しておすすめを改善するためのスコアカードが用意されています。Einstein Discovery のストーリーインターフェースにより、より簡単にインサイトを操作できます。

Salesforce Einstein をよりスマートに活用できる方法についての詳細をご確認ください。

サービス

Einstein for Service

エラーハンドラシステムダイアログと Salesforce レコードからデータを表示する機能を使用して、Einstein ボットへの信頼を深めます。Einstein 記事レコメンデーションのスコアカードを使用して、予測モデルでデータの改善が可能な場所を識別します。より少ない完了したチャットトランスクリプトに基づいて Einstein がおすすめのチャット返信を提供できるようにします。ボット入力およびその他の Einstein for Service 機能での複数言語のサポートにより、対応するユーザの範囲を広げます。

セールス

Sales Cloud Einstein

Einstein 商談スコアリングでは、十分な商談データがない場合はグローバルモデルが使用されます。Einstein リードスコアリングでは項目がより直感的に保存されます。

Analytics

Einstein Discovery

Einstein Discovery の新しいストーリーインターフェースでインサイトにシームレスに移動したり、データプレップレシピを使用してデータセットの予測を取得したり、Salesforce にアップロードおよびリリースする外部作成のモデルを使用して結果を予測したりできます。

カスタマイズ

Einstein ビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーが正式リリースされ、作業時にデータがチェックされるようになりました。Einstein 予測ビルダーを使用して管理パッケージの予測を構築します。

開発

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

コマース

新しいオムニチャネル在庫サービスを使用すると、B2C Commerce と Salesforce Order Management でリアルタイム在庫状況の機能を使用できるようになります。B2B Commerce では、Commerce データの操作と商品の管理、チェックアウトとインテグレーションの設定を容易にする機能強化が提供されます。Salesforce Order Management では、新しいフローコアアクションと B2C Commerce カスタムデータの拡張サポートが導入されます。

このセクションの内容:

オムニチャネル在庫

オムニチャネル在庫では、すべての履行チャネルのロケーションレベルのリアルタイム在庫状況を提供する拡張可能な在庫ソリューションが提供されます。

B2B Commerce for Lightning

バリエーションと属性を使用して、商品の複数のオプションをシームレスに提供します。認証されていないユーザにストアへのアクセスを許可して販売を促進します。購入者が関心のある商品のリストを作成および管理できるようにします。サンプルデータを使用して新しいストアの設定をすばやく開始します。同期インテグレーションを使用して適応性のあるチェックアウトを作成し、インテグレーションタブを使用してそれらを管理します。

チェックアウトとインテグレーション

顧客のニーズに合わせて動的に調整される同期チェックアウト環境を構築します。新しいインテグレーションタブで、インテグレーションの管理やインテグレーションリソースの検索を行います。最新の検証トリガで配送方法コンポーネントを更新します。

Salesforce Order Management

Salesforce Order Management の機能強化には、新しいフローコアアクションと B2C Commerce カスタムデータの拡張されたインテグレーションが含まれます。

オムニチャネル在庫

オムニチャネル在庫では、すべての履行チャネルのロケーションレベルのリアルタイム在庫状況を提供する拡張可能な在庫ソリューションが提供されます。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: オムニチャネル在庫では、ヘッドレス API の機能と Salesforce Platform の柔軟性が結合され、システム管理者とユーザが現在の在庫状況情報に常にアクセスできます。

オムニチャネル在庫ソリューションは次のリソースで構成されます。

- オムニチャネル在庫サービス - ヘッドレス API で構成されるマルチテナントシステム。すべての履行チャネルの在庫状況の取得と予約の管理ができます。
- Connect REST API - Salesforce API。B2C Commerce と Salesforce Order Management でオムニチャネル在庫 API をコールできます。
- オムニチャネル在庫アプリケーション - コンソールアプリケーション。ロケーション全体の在庫状況の表示と、ロケーションとロケーショングループの管理ができます。
- フローのコアアクション - フローでオムニチャネル在庫機能を実行するアクション。

オムニチャネル在庫では、次の機能を使用できます。

- 詳細なロケーションの表示 - 新しい API を使用して、ロケーションレベルの在庫状況を管理します。
- 強力なグループ化 - ロケーショングループを使用して特定のストアフロントの在庫をセグメント化します。
- 柔軟性 - 有効な在庫ストアフロントカウントのロケーションを容易に追加および削除します。
- 一元管理された在庫表示 - すべての履行チャネルの在庫状況を表示します。
- 大規模での精度 - リアルタイムの信頼性に基づいて、期間限定セールや休日時のコストのかかる安売りや過剰販売を回避します。
- オムニチャネルエクスペリエンス - Buy Online, Pick up In Store (BOPIS) や店舗からの出荷を利用できるようになります。

方法: システム管理者が組織でオムニチャネル在庫を有効にする必要があります。

このセクションの内容:

ヘッドレス API を使用した在庫状況の取得および予約の管理
オムニチャネル在庫では、ヘッドレス API を使用してリアルタイム在庫状況の提供、合理化された予約処理、ロケーションベースの注文履行が実行されます。

オムニチャネル在庫コンソールを使用した在庫状況の表示およびロケーションの管理
オムニチャネル在庫コンソールでは、在庫状況を参照したり、ロケーション、ロケーショングループ、ロケーショングループの割り当てを管理したりできます。

B2C Commerce および Salesforce Order Management との統合によるショッピングおよび注文環境の機能強化
オムニチャネル在庫を B2C Commerce および Order Management (注文管理) と容易に統合できます。統合された在庫ソリューションを使用すると、小売店と配送センターのネットワークを使用して、各ロケーションからの履行を最適化できます。

フローでのオムニチャネル在庫機能の使用
オムニチャネル在庫には、フローで使用するフローのコアアクションが用意されています。

ヘッドレス API を使用した在庫状況の取得および予約の管理

オムニチャネル在庫では、ヘッドレス API を使用してリアルタイム在庫状況の提供、合理化された予約処理、ロケーションベースの注文履行が実行されます。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: オムニチャネル在庫のヘッドレス API を使用すると、外部システムとのインテグレーションで次のアクションを実行できます。

- 在庫のインポート
- 在庫のアップロード
- インポート状況の取得
- 在庫の取得
- 予約の移行
- 予約のリリース
- 予約の履行

オムニチャネル在庫 API を使用して、次の操作を実行できます。

- バックオフィスシステム (WMS、ERP、POS) から在庫の更新情報を取得する。
- リアルタイム在庫状況を E コマースストアフロントの買い物客に提供する。
- 買い物客が商品をオンラインショッピングカートに追加して注文を送信したときに、在庫を予約する。
- 注文履行のロケーションおよびロケーショングループ別に在庫状況を共有する。

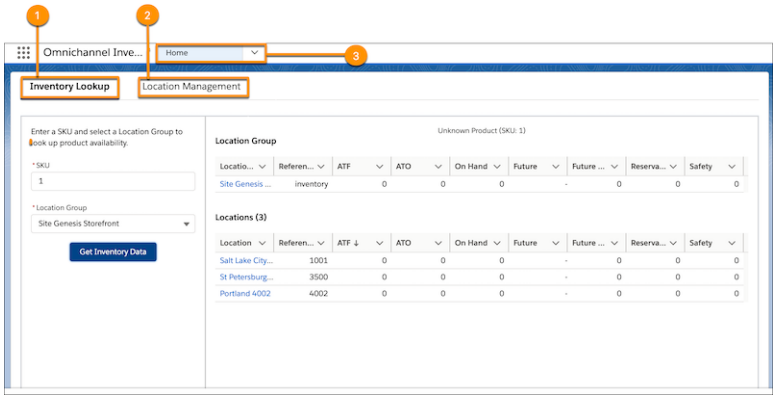
オムニチャネル在庫コンソールを使用した在庫状況の表示およびロケーションの管理

オムニチャネル在庫コンソールでは、在庫状況を参照したり、ロケーション、ロケーショングループ、ロケーショングループの割り当てを管理したりできます。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: オムニチャネル在庫を開くと、まずオムニチャネル在庫コンソールが表示されます。



- [在庫ルックアップ] タブでは、SKU とロケーショングループで在庫状況を検索できます。(1)
- [ロケーション管理] タブでは、オムニチャネル在庫コンソールで変更した内容をオムニチャネル在庫で維持されているデータと同期できます。(2)
- ナビゲーションバードロップダウンでは、ロケーションとロケーショングループのリストビューを開くことができます。リストビューページからレコードを開いて、ロケーションとロケーショングループに関する詳細情報を表示します。ロケーションとロケーショングループの追加、編集、削除を行います。(3)

B2C Commerce および Salesforce Order Management との統合によるショッピングおよび注文環境の機能強化

オムニチャネル在庫を B2C Commerce および Order Management (注文管理) と容易に統合できます。統合された在庫ソリューションを使用すると、小売店と配送センターのネットワークを使用して、各ロケーションからの履行を最適化できます。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: オムニチャネル在庫を B2C Commerce および注文管理の両方と統合し、シームレスなエンドツーエンドのショッピング体験を顧客に提供します。

システム管理者と顧客がすべてのチャネルとロケーションの現在の在庫状況情報に常にアクセスできるようにすることで、オムニチャネル在庫は在庫ハブとしての機能を果たし、ショッピング環境と履行環境のギャップが埋められます。

B2C Commerce

B2C Commerce がオムニチャネル在庫とネイティブに統合することで、次の操作を容易に行うことができます。

- すべてのデジタルチャネルのリアルタイム在庫状況を取得する。
- ロケーショングループを使用して特定のストアフロントの在庫をセグメント化する。
- 複数のロケーション、店舗、および配送センターの在庫共有、店舗からの出荷、Buy Online, Pick up In Store (BOPIS) を有効にする。

Salesforce Order Management

注文管理インテグレーションでは、API プロキシを使用して次のことを行うことができます。

- SKU、ロケーション、およびロケーショングループの在庫を取得する。
- グループからロケーションにまたは 1 つのロケーションから別のロケーションに予約を移行する。
- キャンセル中に予約をリリースする。
- 履行注文が完了したときに予約を履行する。

注文管理インテグレーションにより、分散注文管理をサポートするツールを使用できるようになります。

- 履行プロセスでは、リアルタイム在庫状況を使用して各ロケーションからの履行を最適化できます。
- 事前作成済みルーティングロジックでは、次の操作が可能です。
  - 最小の分割出荷で注文を履行できるロケーションからの履行を優先する。
  - 顧客の配送先住所に最も近いロケーションからの履行を優先する。
- 手動注文ルーティングでは、自動的にルーティングされない注文の履行注文を手動で作成できます。
- 再ルーティングデータモデルでは、再ルーティングロジックの実装、注文概要でのルーティングの試行の追跡、将来のルーティングの試行のスケジュール設定ができます。

フローでのオムニチャネル在庫機能の使用

オムニチャネル在庫には、フローで使用するフローのコアアクションが用意されています。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能で、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、オムニチャネル在庫ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をフローにドラッグします。[オムニチャネル在庫サービス] カテゴリを選択して、[アクション] リストからアクションを選択します。

オムニチャネル在庫には、次のアクションがあります。

オムニチャネル在庫サービス 予約の作成
: ロケーションまたはロケーショングループで 1 つ以上の在庫予約を作成します。

オムニチャネル在庫サービス 予約の履行
: ロケーションで 1 つ以上の在庫予約を履行します。

オムニチャネル在庫サービス 在庫の取得
: 1 つ以上の在庫ロケーションまたはロケーショングループで 1 つ以上の商品の在庫状況データを取得します。

オムニチャネル在庫サービス 予約のリリース
: ロケーションで 1 つ以上の在庫予約をリリースします。

オムニチャネル在庫サービス 予約の移行
: ロケーションまたはロケーショングループ間で 1 つ以上の在庫予約を移行します。

B2B Commerce for Lightning

バリエーションと属性を使用して、商品の複数のオプションをシームレスに提供します。認証されていないユーザにストアへのアクセスを許可して販売を促進します。購入者が関心のある商品のリストを作成および管理できるようにします。サンプルデータを使用して新しいストアの設定をすばやく開始します。同期インテグレーションを使用して適応性のあるチェックアウトを作成し、インテグレーションタブを使用してそれらを管理します。

このセクションの内容:

Commerce アプリケーション
サンプルデータを追加することで、新しいストアのCommerceデータの対応付けとサンプルを取得します。ゲストがストアを閲覧できるようにして、ブランドの露出度を高めます。参照コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントの開発を促進します。商品および価格設定ワークスペースを設定します。ページから離れても設定は保持されます。購入者が関心のある商品をリストに保存できるようにします。ストアデータを Google アナリティクスと統合して、より有益なレポートを作成します。

B2B Commerce テンプレート
参照コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントを作成したり、購入者が商品のリストを作成および管理できるようにしたり、バリエーションの詳細や属性セットを追跡したりします。

商品のバリエーションと属性
チェックアウト時に顧客により多くのオプションを提供できるように商品のバリエーションを作成します。バリエーション属性セットを割り当てて、商品全体で標準化されたオプションを提供します。商品ワークスペースからどの商品がバリエーション商品なのかを確認します。バリエーションと属性セットを作成および設定するためのステップバイステップ方式のガイダンスを入手します。

Commerce アプリケーション

サンプルデータを追加することで、新しいストアの Commerce データの対応付けとサンプルを取得します。ゲストがストアを閲覧できるようにして、ブランドの露出度を高めます。参照コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントの開発を促進します。商品および価格設定ワークスペースを設定します。ページから離れても設定は保持されます。購入者が関心のある商品をリストに保存できるようにします。ストアデータをGoogle アナリティクスと統合して、より有益なレポートを作成します。

このセクションの内容:

ストアへのサンプルデータの追加
サンプルデータをストアに追加し、商品、カテゴリ、カタログ、メディアファイル、購入者グループ、購入者取引先、価格表、価格表エントリ、エンタイトルメントを自動的に取得します。すべてのデータが対応付けられ、完全に機能するストアが作成されます。ストアに合わせてデータをカスタマイズすれば準備完了です。

ストアインタラクションデータを使用したインサイトフルなレポートの作成
購入者がインタラクトしている商品のインサイトを取得するには、Salesforce で提供される検索およびカテゴリデータを使用して Google アナリティクスでカスタムレポートを作成します。

ゲスト閲覧による露出度の増加

認証されていないユーザまたはゲストユーザにストアカタログおよびストア商品へのアクセスを許可して、これらの露出度を飛躍的に高めます。購入者グループを使用して、ゲストユーザに付与する商品およびカタログのエンタイトルメントを割り当てます。

サイトマップ増分更新での新商品の選択

ゲストユーザが Web 検索で新商品を見つけやすくします。サイトマップの増分更新を実行すると、サードパーティ検索インデックスクローラが新しく追加された公開商品を見つけることができます。サイトマップの増分更新では、新商品が手動で選択されてスケジュールされます。

ワークスペースリスト設定の保持

商品および価格設定ワークスペースのハイブリッドリストが永続的な設定になりました。レイアウトと検索条件の設定が保持された状態で Commerce アプリケーションからログアウトできるようになりました。

B2B Commerce データをゲストと共有するための Product2 共有ルールの作成

セキュリティを強化するため、ゲストユーザの Product2 組織の共有設定が [非公開] に変更されました。現在 Product2 データをゲストユーザと共有している場合、引き続き共有するには、共有ルールを作成する必要があります。

ストアへのサンプルデータの追加

サンプルデータをストアに追加し、商品、カテゴリ、カタログ、メディアファイル、購入者グループ、購入者取引先、価格表、価格表エントリ、エンタイトルメントを自動的に取得します。すべてのデータが対応付けられ、完全に機能するストアが作成されます。ストアに合わせてデータをカスタマイズすれば準備完了です。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されます。

方法: ストアの設定時に [サンプルデータを追加] を選択します。

ストアインタラクションデータを使用したインサイトフルなレポートの作成

購入者がインタラクトしている商品のインサイトを取得するには、Salesforce で提供される検索およびカテゴリデータを使用して Google アナリティクスでカスタムレポートを作成します。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のエクスペリエンスビルダーサイトで使用できます。

方法: データを使用して、ストアの商品との購入者のインタラクションを分析します。次のような内容が検出されます。

- 購入者は最も検索している商品
- 購入者が検索しているが見つからない商品
- 購入者が探している商品種別
- 購入者が探している特定の商品

Google アナリティクスについての詳細は、Google アナリティクスのマニュアルを参照してください。

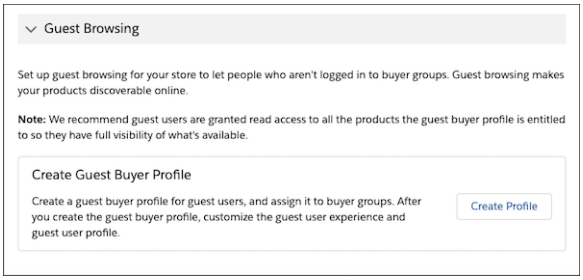
ゲスト閲覧による露出度の増加

認証されていないユーザまたはゲストユーザにストアカタログおよびストア商品へのアクセスを許可して、これらの露出度を飛躍的に高めます。購入者グループを使用して、ゲストユーザに付与する商品およびカタログのエンタイトルメントを割り当てます。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: ストアの [管理] セクションで、[バイヤーアクセス] をクリックします。[ゲスト閲覧] セクションまでスクロールして、[プロファイルを作成] をクリックします。ゲスト閲覧を稼働するためのすべてのステップと共にアクション可能なチェックリストが表示されます。



メモ: このリリースでは、ゲスト閲覧が大幅に変更されています。パイロットプログラム中に作成されたゲスト閲覧設定は機能しません。

サイトマップ増分更新での新商品の選択

ゲストユーザがWeb検索で新商品を見つけやすくします。サイトマップの増分更新を実行すると、サードパーティ検索インデックスクローラが新しく追加された公開商品を見つけることができます。サイトマップの増分更新では、新商品が手動で選択されてスケジュールされます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: ストアサイトマップを手動で更新するには、[エクスペリエンスビルダー] > [設定] > [全般] で、ストアを公開し、[公開ユーザがサイトにアクセスできます] を選択します。次に、[SEO] タブを開き、[サイトマップを生成] をクリックします。

メモ: サイトマップの増分更新は、ストアでサポートされているすべての言語とロケールでサポートされます。

ワークスペースリスト設定の保持

商品および価格設定ワークスペースのハイブリッドリストが永続的な設定になりました。レイアウトと検索条件の設定が保持された状態で Commerce アプリケーションからログアウトできるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

B2B Commerce データをゲストと共有するための Product2 共有ルールの作成

セキュリティを強化するため、ゲストユーザの Product2 組織の共有設定が [非公開] に変更されました。現在 Product2 データをゲストユーザと共有している場合、引き続き共有するには、共有ルールを作成する必要があります。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

B2B Commerce テンプレート

参照コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントを作成したり、購入者が商品のリストを作成および管理できるようにしたり、バリエーションの詳細や属性セットを追跡したりします。

このセクションの内容:

参照コンポーネントを使用したカスタムコンポーネント開発の促進

b2b-commerce-on-lightning-quickstart GitHub リポジトリの参照 Lightning Web コンポーネント (LWC) を使用すると、基盤となるコードを確認および再利用できます。このリポジトリは、独自のカスタムコンポーネントを作成するための開始点として使用できる Salesforce Developer Experience (SFDX) プロジェクトです。サンプルコンポーネントの構造や動作を使用して、B2B コンポーネントの独自の開発を促進したり、既存のプラットフォーム機能および API を適用したりします。

リストの正式リリース

B2B Commerce for Lightning ストアで、リスト機能が正式リリースされました。購入者は、最大 10 個のリストの作成、管理、並び替えを行い、リストごとに関心のある商品を最大 500 個追跡できます。私のリストコンポーネントのプロパティエディタを使用して、最大 3 個の項目をリスト品目に追加できるため、購入者は各品目の詳細を確認できます。

[リストに追加] ボタンの非表示

B2B Commerce for Lightning が正式リリースされ、一部のコンポーネントにリスト機能を制御する新しい設定が追加されました。カートおよび商品の詳細カードコンポーネントに、リスト関連のボタンを非表示にするコントロールが追加されました。ストアでリスト機能を提供しない場合にリスト機能を簡単に削除できます。

商品ページでのバリエーションの親商品の詳細の表示

新しいバリエーションの親商品の詳細 Lightning ページコンポーネントを使用して、商品ページでバリエーションの親商品の商品情報を表示します。

商品ページでのバリエーション属性の表示

バリエーション属性 Lightning ページコンポーネントを使用して、商品ページでバリエーションの親商品の属性情報を表示します。

参照コンポーネントを使用したカスタムコンポーネント開発の促進

b2b-commerce-on-lightning-quickstart GitHub リポジトリの参照 Lightning Web コンポーネント (LWC) を使用すると、基盤となるコードを確認および再利用できます。このリポジトリは、独自のカスタムコンポーネントを作成するための開始点として使用できる Salesforce Developer Experience (SFDX) プロジェクトです。サンプルコンポーネントの構造や動作を使用して、B2B コンポーネントの独自の開発を促進したり、既存のプラットフォーム機能および API を適用したりします。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: リポジトリには、使用を開始するための Readme ファイルがあります。これらのコンポーネントを GitHub から取得してストアに追加する手順についての詳細は、b2b-commerce-on-lightning-quickstart/examples/lwc/ を参照してください。

リストの正式リリース

B2B Commerce for Lightning ストアで、リスト機能が正式リリースされました。購入者は、最大 10 個のリストの作成、管理、並び替えを行い、リストごとに関心のある商品を最大 500 個追跡できます。私のリストコンポーネントのプロパティエディタを使用して、最大3個の項目をリスト品目に追加できるため、購入者は各品目の詳細を確認できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のエクスペリエンスビルダーサイトで使用できます。

[リストに追加] ボタンの非表示

B2B Commerce for Lightning が正式リリースされ、一部のコンポーネントにリスト機能を制御する新しい設定が追加されました。カートおよび商品の詳細カードコンポーネントに、リスト関連のボタンを非表示にするコントロールが追加されました。ストアでリスト機能を提供しない場合にリスト機能を簡単に削除できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のエクスペリエンスビルダーサイトで使用できます。

方法: リストボタンを非表示にするには、商品の詳細カードおよびカートコンポーネントのプロパティを編集します。[私のリスト] をストアナビゲーションから削除するには、[私のリスト] ページへのリンクをストアのナビゲーションコンポーネントから削除します。

商品ページでのバリエーションの親商品の詳細の表示

新しいバリエーションの親商品の詳細 Lightning ページコンポーネントを使用して、商品ページでバリエーションの親商品の商品情報を表示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

商品ページでのバリエーション属性の表示

バリエーション属性 Lightning ページコンポーネントを使用して、商品ページでバリエーションの親商品の属性情報を表示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

商品のバリエーションと属性

チェックアウト時に顧客により多くのオプションを提供できるように商品のバリエーションを作成します。バリエーション属性セットを割り当てて、商品全体で標準化されたオプションを提供します。商品ワークスペースからどの商品がバリエーション商品なのかを確認します。バリエーションと属性セットを作成および設定するためのステップバイステップ方式のガイダンスを入手します。

このセクションの内容:

バリエーションと属性を使用した購入者へのより多くの商品オプションの提供
バリエーションと属性を使用して、顧客に提供できる商品の範囲を拡張します。たとえば、セーターにサイズや色のオプションを追加したり、カウチの生地の選択肢を表示したりします。

商品ワークスペースからの親クラスの表示
商品クラスとバリエーションの概要を取得します。シンプル商品、バリエーションの親商品、バリエーション商品を追跡するために使用できる新しい [商品クラス] 列が商品ワークスペースに追加されました。商品レコードの [バリエーション] タブをクリックして、バリエーションの親に関連付けられているすべてのバリエーションの表示、絞り込み、アクションの実行を行うことができます。

バリエーションと属性を設定するためのガイダンスの取得
検証のガイド付き設定では、属性セットを設定してバリエーション商品に関連付けるためのステップバイステップの手順が提供されます。設定ステップに従って、属性セットを検索できるようにしたり、複数の言語で属性セットを作成したりします。

バリエーションと属性を使用した購入者へのより多くの商品オプションの提供

バリエーションと属性を使用して、顧客に提供できる商品の範囲を拡張します。たとえば、セーターにサイズや色のオプションを追加したり、カウチの生地の選択肢を表示したりします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されます。

理由: バリエーションは、商品データが正しく対応付けられるようにバリエーションの親商品から作成されます。ただし、各バリエーションには購入を追跡するための一意の SKU があります。属性セットは、サイズ (S、M、L) や色 (赤、青、黄色) などの商品に関連付けることができる選択リスト値が含まれるオプションのグループです。バリエーション属性セットは、関連付けられているストアに関係なく、Salesforce 組織の複数の商品に割り当てることができます。

方法: Salesforce システム管理者は、Commerce アプリケーションからバリエーションの親商品やバリエーションを作成できます。

商品ワークスペースからの親クラスの表示

商品クラスとバリエーションの概要を取得します。シンプル商品、バリエーションの親商品、バリエーション商品を追跡するために使用できる新しい[商品クラス]列が商品ワークスペースに追加されました。商品レコードの[バリエーション]タブをクリックして、バリエーションの親に関連付けられているすべてのバリエーションの表示、絞り込み、アクションの実行を行うことができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されます。

バリエーションと属性を設定するためのガイダンスの取得

検証のガイド付き設定では、属性セットを設定してバリエーション商品に関連付けるためのステップバイステップの手順が提供されます。設定ステップに従って、属性セットを検索できるようにしたり、複数の言語で属性セットを作成したりします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザに適用されます。

方法: システム管理者は、[コマース設定] > [バリエーション商品] からガイド付き設定にアクセスできます。

チェックアウトとインテグレーション

顧客のニーズに合わせて動的に調整される同期チェックアウト環境を構築します。新しいインテグレーションタブで、インテグレーションの管理やインテグレーションリソースの検索を行います。最新の検証トリガで配送方法コンポーネントを更新します。

このセクションの内容:

同期インテグレーションを使用した適応性のあるチェックアウトの作成

多くの B2B Commerce for Lightning Experience チェックアウトには、非同期チェックアウト環境と同期チェックアウト環境の使用事例があります。2つの処理方法を切り替えることができる適応性のあるチェックアウトを使用して、双方の長所を活用できるようになりました。

インテグレーションタブを使用したインテグレーションの管理

B2B Commerce for Lightning Experience インテグレーションダッシュボードが改修されました。特定のリソースやヘルプを提供できるようにインテグレーションごとに一意のタブが割り当てられるようになりました。以前は、[ストアインテグレーション]という表示ラベルの1つのタブにすべてのインテグレーションがありました。

配送方法コンポーネントの更新

B2B Commerce for Lightning Experience の配送方法コンポーネントはアップグレードされます。購入者が購入するときの購入者ユーザプロファイルで配送方法が更新される方法が変更されました。以前に配送方法チェックアウトサブフローをコピーしている場合、最新バージョンに置き換えます。配送方法を最新バージョンに更新しないと、購入者がチェックアウトを完了しようとしたときにエラーまたは空白画面が表示されます。

同期インテグレーションを使用した適応性のあるチェックアウトの作成

多くの B2B Commerce for Lightning Experience チェックアウトには、非同期チェックアウト環境と同期チェックアウト環境の使用事例があります。2 つの処理方法を切り替えることができる適応性のあるチェックアウトを使用して、双方の長所を活用できるようになりました。

対象: この変更は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: チェックアウト機能にアクセスするには、B2B Commerce ライセンスが必要です。

理由: 顧客が小さな注文をして、実行する処理があまりない場合は、時間のかからない同期実行が適しています。カートが小さく、実行するインテグレーションが少ない場合は、同期実行を使用します。この変更により、顧客の時間を節約でき、チェックアウトをできる限り効率的に実行できます。[カート-to-注文] および [注文の有効化] サブフローを非同期に実行するには、チェックアウトフロー内から [非同期に実行] パラメータを変更します。

インテグレーションタブを使用したインテグレーションの管理

B2B Commerce for Lightning Experience インテグレーションダッシュボードが改修されました。特定のリソースやヘルプを提供できるようにインテグレーションごとに一意のタブが割り当てられるようになりました。以前は、[ストアインテグレーション] という表示ラベルの 1 つのタブにすべてのインテグレーションがありました。

対象: この変更は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: インテグレーションにアクセスするには、B2B Commerce ライセンスが必要です。

理由: ストア管理ページにアクセスして、既存のインテグレーションの実装にアクセスします。

方法: インテグレーションタブにアクセスするには、ストアのランディングページに移動します。[管理] を選択して、インテグレーション種別を選択します。

配送方法コンポーネントの更新

B2B Commerce for Lightning Experience の配送方法コンポーネントはアップグレードされます。購入者が購入するときの購入者ユーザプロファイルで配送方法が更新される方法が変更されました。以前に配送方法チェックアウトサブフローをコピーしている場合、最新バージョンに置き換えます。配送方法を最新バージョンに更新しないと、購入者がチェックアウトを完了しようとしたときにエラーまたは空白画面が表示されます。

対象: この変更は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: インテグレーションにアクセスするには、B2B Commerce ライセンスが必要です。

理由: 購入者が変更を行い、決定ノードでそれらの変更が検証されたら、チェックアウトの配送方法が更新されます。配送方法サブフローをコピーしていない場合や、配送方法画面コンポーネントを使用する場合は準備完了です。変更は必要ありません。配送方法サブフローをコピーしている場合や、SFDX を使用して Salesforce 組織を作成している場合は、サブフローを更新する必要があります。

方法: サブフローを更新するには、Flow Builder でチェックアウトフローを見つけ、配送方法サブフローを開きます。サブフローに渡す値をメモし、同じ値を使用して新しい配送方法サブフローを作成します。元のサブフローを削除します。フローを保存して有効化します。

Salesforce Order Management

Salesforce Order Management の機能強化には、新しいフローコアアクションと B2C Commerce カスタムデータの拡張されたインテグレーションが含まれます。

このセクションの内容:

フローでの新しい Order Management (注文管理ル) ーティング機能の使用
Salesforce Order Management には、フローで使用する新しいフローコアアクションが用意されています。

B2C Commerce のカスタム出荷データの統合
(2021 年 3 月 17 日から利用可能) B2C Commerce インテグレーションで、B2C Commerce の出荷オブジェクトのカスタム属性が Salesforce の注文配送グループオブジェクトと注文配送グループ概要オブジェクトの一致するカスタム項目にコピーされるようになりました。

B2C Commerce のカスタム配送品目データの統合
(2021 年 4 月 7 日から利用可能) B2C Commerce インテグレーションで、B2C Commerce の配送品目オブジェクトのカスタム属性が Salesforce の注文商品オブジェクトと注文商品概要オブジェクトの一致するカスタム項目にコピーされるようになりました。

フローでの新しい Order Management (注文管理ル) ーティング機能の使用

Salesforce Order Management には、フローで使用する新しいフローコアアクションが用意されています。

対象: この機能は Lightning Experience にあり、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Order Management ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: Flow Builder で、[アクション] 要素をフローにドラッグします。[注文管理] カテゴリを選択して、[アクション] リストからアクションを選択します。

注文管理に、次の新しいアクションが追加されます。

履行注文を作成
複数の注文配送グループ概要に対して履行注文と履行注文商品を作成し、概要ごとに受取人と配送方法を定義します。

分割が最も少ないルートを検索
注文された商品数量を在庫と比較し、注文を履行できる最小限のロケーションの組み合わせを決定します。

平均距離による注文ルーティングランク
在庫ロケーションのセットから注文受取人までの平均距離を計算し、その平均距離順に並び替えたセットを返します。

B2C Commerce のカスタム出荷データの統合

(2021 年 3 月 17 日から利用可能) B2C Commerce インテグレーションで、B2C Commerce の出荷オブジェクトのカスタム属性が Salesforce の注文配送グループオブジェクトと注文配送グループ概要オブジェクトの一致するカスタム項目にコピーされるようになりました。

対象: この機能は Lightning Experience **にあり、**Enterprise Edition**、**Unlimited Edition**、および** Developer Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Order Management **を** Salesforce B2C Commerce **と統合する組織で使用できます。**

B2C Commerce のカスタム配送品目データの統合

(2021 **年** 4 **月** 7 **日から利用可能**) B2C Commerce **インテグレーションで、**B2C Commerce **の配送品目オブジェクトのカスタム属性が** Salesforce **の注文商品オブジェクトと注文商品概要オブジェクトの一致するカスタム項目にコピーされるようになりました。**

対象: この機能は Lightning Experience **にあり、**Enterprise Edition**、**Unlimited Edition**、および** Developer Edition **で使用できます。**

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Order Management **を** Salesforce B2C Commerce **と統合する組織で使用できます。**

Experience Cloud

Spring '21 **では、**Community Cloud **がまったく新しい名前** (Experience Cloud) **で生まれ変わります。この更新の一環で、サイトを作成するために使用するツールが更新され、いくつかの用語とドキュメントが変更されました。**Build Your Own (LWR) **テンプレートが正式リリースされ、**Salesforce CMS **コンテンツのサポートが追加されています。また、いくつかの** Lightning **コンポーネントが機能強化されました。**

エディション

使用可能なエディション: Enterprise Edition**、Performance** Edition**、Unlimited** Edition**、および Developer** Edition

このセクションの内容:

- Community Cloud **から** Experience Cloud **への名称変更**
- **エクスペリエンスビルダーでの** Lightning **コンポーネント**
- **開発者の生産性**
- **ゲストユーザセキュリティポリシーの適用**
- **セキュリティと共有**

Community Cloud から Experience Cloud への名称変更

作成可能なさまざまな種類の接続デジタル環境(ポータル、Web**サイト、ヘルプセンター、フォーラム、モバイルアプリケーションなど)がより適切に反映されるように、**Community Cloud **は** Experience Cloud **という名前に変更されました。**

エクスペリエンスビルダーでの Lightning コンポーネント

タイルメニューコンポーネントのタイル画像での影付きを制御し、改良された [関連リスト - 1 つ] Lightning コンポーネントを最大限に活用します。

開発者の生産性

正式リリースされた Build Your Own (LWR) **テンプレートを使用してサイトをより効率的に開発し、**CMS **コンテンツをカスタム** Lightning Web **コンポーネントに追加します。**Lightning **メッセージサービスを使用して、エクスペリエンスビルダーサイトページで** Aura **コンポーネントと** Lightning Web **コンポーネント間の通信を行います。**

ゲストユーザセキュリティポリシーの適用

Salesforce **は、ゲストユーザのオブジェクト権限の削減を含め、さまざまなゲストユーザセキュリティポリシーを適用しています。**

セキュリティと共有

標準外部プロファイル、およびエクスペリエンスビルダーサイト向けの新しい Cookie **設定によるユーザのセキュリティ強化について確認してください。**

その他の変更

Experience Cloud のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

Community Cloud から Experience Cloud への名称変更

作成可能なさまざまな種類の接続デジタル環境 (ポータル、Web サイト、ヘルプセンター、フォーラム、モバイルアプリケーションなど) がより適切に反映されるように、Community Cloud は Experience Cloud という名前に変更されました。

対象: この変更は Community Cloud を使用するすべての Salesforce 組織に適用されます。

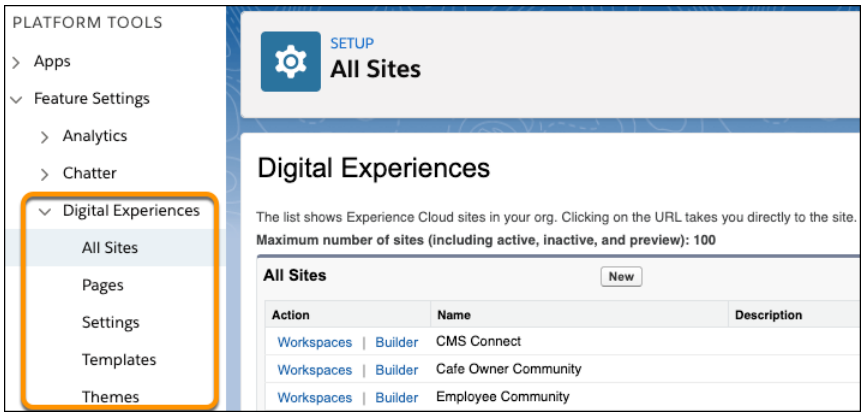
理由: この名称変更の一環で、サイトを作成するために使用するツールが変更され、用語やドキュメントが更新されている場合があります。詳しく見てみましょう。

まずは用語です。フォーラム、ポータルなど、どの種類のデジタル環境を作成しているとしても、最も基本的なレベルでは、オンラインサイトを作成していることになります。そのため、主に人々が相互にやり取りするフォーラムを示唆するコミュニティという用語の代わりに、ほとんどのユーザインターフェースおよびドキュメントではサイトという用語を使用することになりました。

主な用語変更をまとめたものを次に示します。

以前の用語	現在の用語	意味
コミュニティ	サイトまたは Experience Cloud サイト	エクスペリエンスビルダーまたは Visualforce を使用して Experience Cloud で作成するサイト。
Lightning コミュニティ	エクスペリエンスビルダーサイト	エクスペリエンスビルダーを使用して作成するサイト。
Salesforce タブ + Visualforce コミュニティ	Salesforce タブ + Visualforce サイト	Visualforce を使用して作成するサイト。
Lightning コミュニティテンプレート	エクスペリエンスビルダーテンプレート	カスタマーサービステンプレートや Build Your Own テンプレートなど、エクスペリエンスビルダーでサイトを作成するために使用するテンプレート。
Lightning コミュニティテーマ	エクスペリエンスビルダーのテーマ	エクスペリエンスビルダーでサイトをスタイル設定するために使用するテーマ。
Lightning コミュニティページ	エクスペリエンスビルダーページ	エクスペリエンスビルダーでサイトを構成するページ。

次に、メインのユーザインターフェースの変更を見てみましょう。サイトにアクセスするには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「デジタルエクスペリエンス」と入力し、[すべてのサイト] を選択します。



ヒント: [クイック検索] ボックスに誤って「コミュニティ」と入力した場合、自動的に名称変更されたデジタル環境メニューが代わりに表示されます。長年の習慣はなかなか抜けないものです。

デジタル環境メニューの他の項目も簡素化されていますが、この領域に含まれるすべての設定および項目は同じままです。さらに、エクスペリエンスワークスペース、エクスペリエンスビルダー、その他の組織の領域では、必要に応じてコミュニティがサイトまたは *Experience Cloud サイト*に置き換えられています。

最後に、同様の更新および用語変更はヘルプトピック、開発者ガイド、Trailhead コンテンツなどのドキュメントでも行われています。

エクスペリエンスビルダーでの Lightning コンポーネント

タイルメニューコンポーネントのタイル画像での影付きを制御し、改良された [関連リスト - 1 つ] Lightning コンポーネントを最大限に活用します。

このセクションの内容:

タイルメニューコンポーネントでの影付きの追加または削除
新しい [影を表示] 設定を使用して、タイルメニューコンポーネントのタイル画像に影を表示するかどうかを選択します。以前は、影付きはデフォルトで常に有効になっていました。

改良されたコンポーネントを使用したモバイルサイトでの [関連リスト - 1 つ] へのアクセス
[関連リスト - 1 つ] コンポーネントには、1 つの特定のオブジェクトに基づいて関連レコードのリストが表示されます。新たに改良されたコンポーネントはモバイル反応型になっています。[関連リスト - 1 つ] コンポーネントの新しいバージョンは、Winter'21 リリースのエクスペリエンスビルダーで使用できます。旧バージョンのコンポーネントを使用していて、コンポーネントのプロパティに非推奨と表示されていても、コンポーネントは引き続き機能します。非推奨のコンポーネントを削除した場合は、新しいバージョンを使用する必要があります。

タイルメニューコンポーネントでの影付きの追加または削除

新しい [影を表示] 設定を使用して、タイルメニューコンポーネントのタイル画像に影を表示するかどうかを選択します。以前は、影付きはデフォルトで常に有効になっていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

改良されたコンポーネントを使用したモバイルサイトでの [関連リスト - 1 つ] へのアクセス

[関連リスト - 1 つ] コンポーネントには、1 つの特定のオブジェクトに基づいて関連レコードのリストが表示されます。新たに改良されたコンポーネントはモバイル反応型になっています。[関連リスト - 1 つ] コンポーネントの新しいバージョンは、Winter '21 リリースのエクスペリエンスビルダーで使用できます。旧バージョンのコンポーネントを使用していて、コンポーネントのプロパティに非推奨と表示されていても、コンポーネントは引き続き機能します。非推奨のコンポーネントを削除した場合は、新しいバージョンを使用する必要があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

開発者の生産性

正式リリースされた Build Your Own (LWR) テンプレートを使用してサイトをより効率的に開発し、CMS コンテンツをカスタム Lightning Web コンポーネントに追加します。Lightning メッセージサービスを使用して、エクスペリエンスビルダーサイトページで Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネント間の通信を行います。

このセクションの内容:

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)

カスタム Lightning Web コンポーネントへの Salesforce CMS コンテンツの追加

Experience Cloud での Lightning Message Service のサポート (ベータ)

Aura サイトの lightning:navigation でより多くの actionName を持つ generateUrl をサポート

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)

以前はパイロットプログラムとして使用できた Build Your Own (LWR) テンプレートが正式リリースされました。Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルを使用して、Web サイト、マイクロサイト、ポータルなど、非常に高速なデジタル環境を開発します。新しい Lightning Web Runtime (LWR) により提供されるこのカスタマイズ可能なテンプレートでは、比類のないページパフォーマンスが実現され、開発者の生産性が向上します。

カスタム Lightning Web コンポーネントへの Salesforce CMS コンテンツの追加

カスタム Lightning Web コンポーネントを使用して Salesforce CMS コンテンツをエクスペリエンスビルダーに容易に追加できます。CMS ワークスペースにコンテンツを公開したら、コンテンツリポジトリを使用して任意のカスタムコンポーネントをボタンのクリックで拡張できます。

Experience Cloud での Lightning Message Service のサポート (ベータ)

Lightning Message Service を使用して、エクスペリエンスビルダーサイトページ内でドキュメントオブジェクトモデル (DOM) 全体の通信を行います。エクスペリエンスビルダーサイトページで Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネント間の通信を行います。

Aura サイトの lightning:navigation でより多くの actionName を持つ generateUrl をサポート

`lightning:navigation` コンポーネントで、New、Edit、および Clone actionName を持つ pageReference を使用する generateURL がサポートされるようになりました。以前は、View actionName のみがサポートされていました。編集およびコピーアクションを含む標準レコードページと新規アクションを含む標準オブジェクトページで、pageReference で指定されたアクションへの移動に使用できる URL が返されるようになりました。`lightning:navigation` を使用するナビゲーション通話の動作に変更はありません。

PageReference を使用した CMS コンテンツページへの移動

Lightning コンポーネントで、ナビゲーションサービスの新しい `standard__managedContentPage` pageReference 型を使用してエクスペリエンスビルダーサイトの CMS コンテンツページに移動できます。

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)

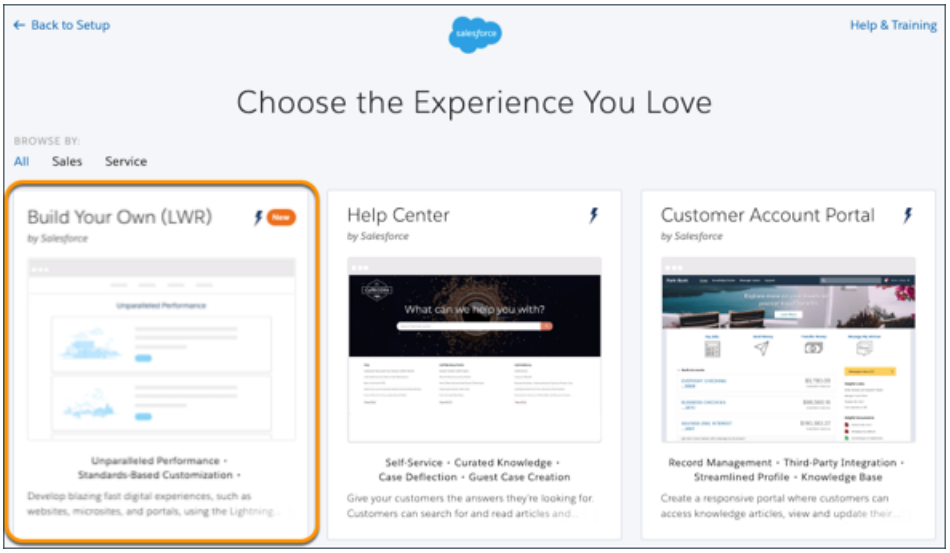
以前はパイロットプログラムとして使用できた Build Your Own (LWR) テンプレートが正式リリースされました。Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルを使用して、Web サイト、マイクロサイト、ポータルなど、非常に高速なデジタル環境を開発します。新しい Lightning Web Runtime (LWR) により提供されるこのカスタマイズ可能なテンプレートでは、比類のないページパフォーマンスが実現され、開発者の生産性が向上します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

理由: Experience Cloud にある既存の Build Your Own テンプレートでは、Aura および Lightning Web コンポーネントがサポートされます。ただし、最新のテンプレートは Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルのみに基づいています。このテンプレートには、卓越したパフォーマンスを実現するだけでなく、次のような特長があります。

- 未認証サイトのカスタム URL パスを提供します。つまり、サイトの URL が `/s` であふれることはありません。たとえば、`https://mycustomdomain.com/mypage` のようになります。
- 再利用可能な Lightning Web コンポーネントおよび最新の Web 標準に従ったテーマの開発をサポートします。
- Apex およびユーザインターフェース API のサポートが含まれます。そのため、Salesforce レコード、SOSL などにアクセスし、顧客にデータが豊富な環境を提供できます。

ヒント: Build Your Own (LWR) は、いくつかのコンポーネントおよび最も重要なページのみを提供する最小限のテンプレートです。このテンプレートは Lightning Web コンポーネントの開発と Salesforce DX、ユーザインターフェース API、Apex の操作に慣れている開発者に最適です。



また、以前のパイロットリリース以降に行われた機能強化により、次のことができるようになりました。

- CMS コンテンツページを作成して CMS コンテンツの各部分を表示する。
- リッチコンテンツエディタコンポーネントを使用して Salesforce CMS 画像をページに追加する。
- カスタム Lightning Web コンポーネントで Salesforce CMS コンテンツを使用する。
- 新しいブランドシステム (開発者プレビュー) を使用して基本およびカスタム Lightning Web コンポーネントで一貫したデザインを作成する。
- ページタイトルや説明など、ページレベルの SEO 設定を含める。
- Google Analytics を使用する。

このセクションの内容:

Build Your Own (LWR) サイトでデフォルトで有効化されている ExperienceBundle

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して作成されたサイトでは、ExperienceBundle メタデータ API 種別が自動的に有効化されるようになりました。以前は、すべてのエクスペリエンスビルダーサイトでこの種別を有効化するために、[設定] で [ExperienceBundle メタデータ API を有効化] チェックボックスをオンにしていました。

カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用した継続性の維持 (パイロット)

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用している場合、サイトがダウンした場合でも顧客とのつながりを維持し、ケースを作成することもできます。エクスペリエンスビルダーを使用して、ブランドに適合するようにページを設定します。[サービスは利用できません] ページからの直接的なメール-to-ケースを含め、カスタムブランド設定およびメッセージングを追加します。

コンテンツ配信ネットワークでの単一証明書ドメインの使用 (パイロット)

共有証明書から単一ブランド証明書に切り替えてブランドを保護します。証明書はコンテンツ配信ネットワーク (CDN) によって管理されるため、設定すればあとはお任せです。

関連トピック:

開発者ガイド: *LWR Sites for Experience Cloud (Experience Cloud の LWR サイト)*

Build Your Own (LWR) サイトでデフォルトで有効化されている ExperienceBundle

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用して作成されたサイトでは、ExperienceBundle メタデータ API 種別が自動的に有効化されるようになりました。以前は、すべてのエクスペリエンスビルダーサイトでこの種別を有効化するために、[設定] で [ExperienceBundle メタデータ API を有効化] チェックボックスをオンにしていました。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Build Your Own (LWR) テンプレートを使用したサイトに適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

理由: Aura サイトでは、引き続き SiteDotCom ではなく ExperienceBundle を使用するためにこのチェックボックスをオンにする必要があります。ただし、Aura サイトと LWR サイトの両方をリリースまたは取得する場合に問題が発生するのを回避するため、この設定を何度も変更するのは避けることをお勧めします。たとえば、Salesforce CLI のソースコマンドを使用しているときに、ソースをスクラッチ組織から取得する場合は、プロジェクトから転送するときにこの設定が同じままになっていることを確認してください。

カスタマイズ可能な [サービスは利用できません] ページを使用した継続性の維持 (パイロット)

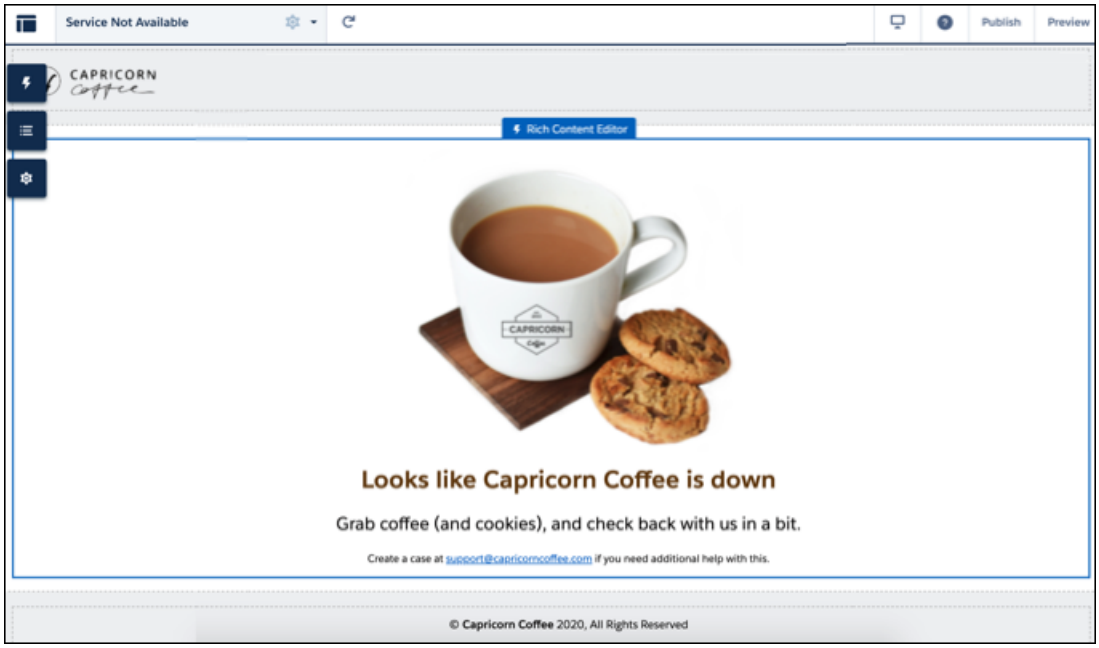
Build Your Own (LWR) テンプレートを使用している場合、サイトがダウンした場合でも顧客とのつながりを維持し、ケースを作成することもできます。エクスペリエンスビルダーを使用して、ブランドに適合するようにページを設定します。[サービスは利用できません] ページからの直接的なメール-to-ケースを含め、カスタムブランド設定およびメッセージングを追加します。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Build Your Own (LWR) テンプレートを使用したサイトに適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

メモ: [サイトは利用できません] ページ機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。カスタマイズ可能な [サイトは利用できません] ページは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Experience Cloud」グループに投稿してください。

対象: この機能は、標準のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) システムの Akamai が有効な場合に Build Your Own (LWR) テンプレートを使用するサイトで使用できます。

方法: [サイトは利用できません] ページには、必要に応じてカスタマイズできる HTML エディタコンポーネントが含まれています。または、リッチコンテンツエディタコンポーネントをページに追加して独自のテキストおよび画像を追加することもできます。カスタム Lightning Web コンポーネントはサポートされていません。AppExchange にある Email to ISV パッケージを使用してケース以外のオブジェクトを作成することもできます。



メモ: このパイロット機能には、[管理] > [ページ] の静的な [サービスは利用できません] ページとは互換性はありません。

コンテンツ配信ネットワークでの単一証明書ドメインの使用 (パイロット)

共有証明書から単一ブランド証明書に切り替えてブランドを保護します。証明書はコンテンツ配信ネットワーク (CDN) によって管理されるため、設定すればあとはお任せです。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

メモ: 単一証明書ドメイン機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様向けにサポートされています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。単一証明書ドメインは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Experience Cloud」グループに投稿してください。

方法: サイトのドメインを設定するときに、単一証明書ドメインオプションを選択します。ユーザが証明書を調べた場合、証明書にあなたのブランドのみが表示されます。

カスタム Lightning Web コンポーネントへの Salesforce CMS コンテンツの追加

カスタム Lightning Web コンポーネントを使用して Salesforce CMS コンテンツをエクスペリエンスビルダーに容易に追加できます。CMS ワークスペースにコンテンツを公開したら、コンテンツリポジトリを使用して任意のカスタムコンポーネントをボタンのクリックで拡張できます。

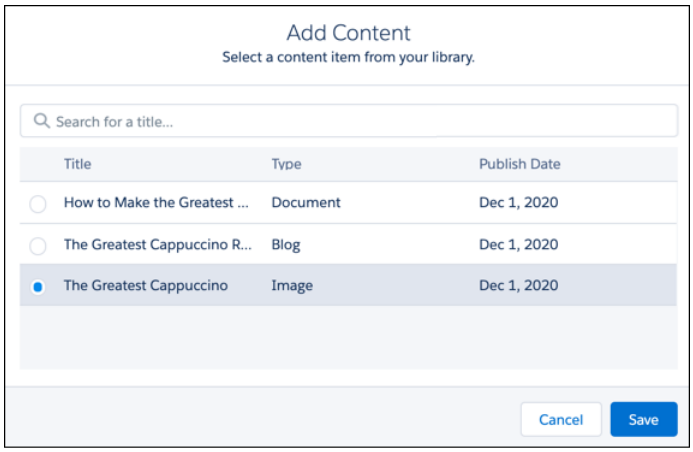
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Salesforce CMS を使用するエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

方法: .js-meta.xml ファイルでコンポーネントプロパティ種別に `type="ContentReference"` を指定して、カスタム Lightning Web コンポーネントの CMS コンテンツを設定します。特定のコンテンツタイプで絞り込むようにコンポーネントを設定することもできます。たとえば、CMS ワークスペースから公開済みの画像のみを表示するには、次のように `filter="cms_image"` を指定します。

```
<property type="ContentReference" name="contentId" label="Content ID" filter="cms_image"/>
```

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LightningComponentBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata" fqn="contentRef">
    <apiVersion>45.0</apiVersion>
    <isExposed>true</isExposed>
    <targets>
        <target>lightningCommunity__Page</target>
        <target>lightningCommunity__Default</target>
    </targets>
    <targetConfigs>
        <targetConfig targets="lightningCommunity__Default">
            <property type="String" name="title" label="Title" default="Nameless" />
            <property type="ContentReference" name="contentId" label="Content ID" filter="cms_image"/>
            <property type="Color" name="bgColor" label="Background Color" default="rgba(0, 255, 255, 1)" />
        </targetConfig>
    </targetConfigs>
    <masterLabel>Content Reference Component</masterLabel>
</LightningComponentBundle>
```

エクスペリエンスビルダーでコンポーネントをページに追加し、コンポーネントのプロパティで [コンテンツを追加] をクリックします。CMS ワークスペースからサイトに画像、ドキュメント、ニュース記事などを直接追加します。



関連トピック:

- カスタム Lightning Web コンポーネントでの Salesforce CMS コンテンツの使用

Experience Cloud での Lightning Message Service のサポート (ベータ)

Lightning Message Service を使用して、エクスペリエンスビルダーサイトページ内でドキュメントオブジェクトモデル (DOM) 全体の通信を行います。エクスペリエンスビルダーサイトページで Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネント間の通信を行います。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

メモ: Experience Cloud の Lightning Message Service はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、い

かなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。フィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Experience Cloud」グループに投稿してください。

Aura サイトの `lightning:navigation` でより多くの actionName を持つ generateUrl をサポート

`lightning:navigation` コンポーネントで、New、Edit、および Clone actionName を持つ pageReference を使用する generateURL がサポートされるようになりました。以前は、View actionName のみがサポートされていました。編集およびコピーアクションを含む標準レコードページと新規アクションを含む標準オブジェクトページで、pageReference で指定されたアクションへの移動に使用できる URL が返されるようになりました。`lightning:navigation` を使用するナビゲーション通話の動作に変更はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

PageReference を使用した CMS コンテンツページへの移動

Lightning コンポーネントで、ナビゲーションサービスの新しい `standard__managedContentPage` pageReference 型を使用してエクスペリエンスビルダーサイトの CMS コンテンツページに移動できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: PageReference の型

ゲストユーザセキュリティポリシーの適用

Salesforce は、ゲストユーザのオブジェクト権限の削減を含め、さまざまなゲストユーザセキュリティポリシーを適用しています。

このセクションの内容:

ゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、および「削除」オブジェクト権限の削除
Salesforce は、新規および既存の組織のすべてのオブジェクトでゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限を削除しています。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトでこれらの権限が削除されます。ゲストユーザは [参照] および [作成] オブジェクト権限のみを持つことができます。

ゲストユーザプロファイルからの無効な権限の削除
アプリケーションロジックに関連付けられていない無効な権限がゲストユーザプロファイルから削除されました。

ゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、および「削除」オブジェクト権限の削除

Salesforce は、新規および既存の組織のすべてのオブジェクトでゲストユーザの「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限を削除しています。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトでこれらの権限が削除されます。ゲストユーザは [参照] および [作成] オブジェクト権限のみを持つことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のゲストユーザを含むすべての Salesforce 組織に適用されます。

方法: 「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、および「削除」オブジェクト権限は完全に削除されます。プロファイルまたは権限セットでゲストユーザに対してこれらの権限を有効にすることはできません。

「すべて表示」、「すべて変更」、「編集」、「削除」オブジェクト権限が権限セットまたは権限グループに含まれ、ゲストユーザに割り当てられている場合、ゲストユーザはその権限セットまたは権限セットグループから削除されます。ゲストユーザはこの権限セットと権限セットグループに含まれている他の権限へのアクセス権も失います。

「すべて変更」、「すべて表示」、「編集」、または「削除」オブジェクト権限があるためにゲストユーザが権限セットまたは権限セットグループから削除されて他の機能を失う場合は、許可された権限を含む権限セットをコピーして、新しい権限セットをゲストユーザに割り当てます。

ゲストユーザプロファイルからの無効な権限の削除

アプリケーションロジックに関連付けられていない無効な権限がゲストユーザプロファイルから削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のゲストユーザを含むすべての Salesforce 組織に適用されます。

方法: すべての組織のすべてのゲストユーザプロファイルから次の権限が削除されます。

- UI 階層アーキテクチャを有効化
- ダイレクトメッセージから人を削除
- トピックの表示
- 営業以外のメールを送信
- 内部のナレッジ記事を外部と共有
- [表示先] リストを非表示
- RecordVisibility API を有効化
- トピックの割り当て
- Chatter の質問への回答の確認
- 会話スレッドを閉じる
- トピックの編集
- トピックの作成
- トピックの削除
- トピックのマージ

- ユーザにプライバシーデータへのアクセスを許可
- データ分類を変更
- 任意の API クライアントを使用
- フィード投稿とコメントの承認

セキュリティと共有

標準外部プロファイル、およびエクスペリエンスビルダーサイト向けの新しい Cookie 設定によるユーザのセキュリティ強化について確認してください。

このセクションの内容:

標準外部プロファイルを持つユーザは Experience Cloud サイトにログインできなくなる
標準外部プロファイルを持つユーザは、コミュニティやポータルなどの Experience Cloud サイトにログインできなくなります。

エクスペリエンスビルダーサイトの許可される Cookie の設定の定義
エクスペリエンスビルダーの新しい設定により、どの種類の Cookie がデフォルトでサイトで許可されるかを決定できます。

SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示
ニックネームが有効になっているサイトからユーザが API コールを実行した場合に、SOAP API 内で Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目を非表示にできるようになりました。

標準外部プロファイルを持つユーザは Experience Cloud サイトにログインできなくなる

標準外部プロファイルを持つユーザは、コミュニティやポータルなどの Experience Cloud サイトにログインできなくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべての Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、次の標準外部プロファイルを使用しているすべての Salesforce 組織に適用されます。

- Customer Community Plus
- Customer Community Plus Login
- Customer Portal Manager
- Customer Portal Manager Custom
- Customer Portal Manager Standard
- Ideas Only Portal
- Limited Customer Portal Manager Custom
- Limited Customer Portal Manager Standard
- Overage Customer Portal Manager Custom
- Overage Customer Portal Manager Standard
- Bronze Partner

- External Apps Plus Login
- External Apps Plus Member
- Gold Partner
- Partner
- Partner Community
- Partner Community Login
- Silver Partner
- Authenticated Website
- CSP Lite Portal
- Customer Community
- Customer Community Login
- External Apps Login
- External Apps Member
- High Volume Customer Portal
- High Volume Portal
- Overage Authenticated Website
- Overage High Volume Customer Portal
- Platform Portal

方法: 上記の外部標準プロファイルに割り当てられた組織のユーザは、コミュニティやポータルなどの Experience Cloud サイトにログインできなくなります。Experience Cloud ユーザにアクセス権を付与するには、そのユーザに割り当てられている標準外部プロファイルをコピーして、ビジネスニーズに合わせてオブジェクト権限を変更します。次に、コピーしたプロファイルを、サイトにアクセスするユーザに割り当てます。

引き続き標準プロファイルを使用してログインを許可するには、[設定] > [デジタル環境] > [設定] で [セルフ登録およびユーザ作成で標準外部プロファイルの使用を許可] 設定を有効にします。この権限を有効にすることは、Salesforce のセキュリティベストプラクティスではありません。

エクスペリエンスビルダーサイトの許可される Cookie の設定の定義

エクスペリエンスビルダーの新しい設定により、どの種類の Cookie がデフォルトでサイトで許可されるかを決定できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

メモ: この機能は Lightning サイトでのみ使用できます。

方法: エクスペリエンスビルダーの [Security & Privacy (セキュリティとプライバシー)] ページにアクセスします。[Allowed Cookies (許可される Cookie)] セクションで、サイトで必須の Cookie のみを受け入れる場合は **[Allow only required cookies for this site (このサイトで必須の Cookie のみを許可)]** 設定を有効にします。この設定を有効にしない場合、サイトでは必須の Cookie や機能的な Cookie を含め、すべての Cookie が許可されます。

SOAP API での Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目の非表示

ニックネームが有効になっているサイトからユーザが API コールを実行した場合に、SOAP API 内で Experience Cloud サイトユーザの名および姓項目を非表示にできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべての Experience Cloud サイトに適用されます。

方法: [設定] > [デジタルエクスペリエンス] > [設定] で [ニックネームが有効になっているサイト内から API コールが実行された場合に、SOAP API 内でサイトユーザの名および姓項目を非表示にする] を有効にします。2021 年 2 月 18 日以降に作成された組織ではこの設定はデフォルトでオンになっています。

メモ: この設定は、サイトごとに設定される [ニックネームを表示] 設定と連携します。名前項目を非表示にする各サイトで、[ニックネームを表示] を有効にします。各サイトでエクスペリエンスワークスペースにアクセスします ([設定][デジタルエクスペリエンス][すべてのサイト](各サイトの) ワークスペース)。[管理] ワークスペースで [ニックネームを表示] を有効にして保存します。

その他の変更

Experience Cloud のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

Lightning Knowledge 検索結果での項目の非表示
モバイルの Experience Cloud サイトのレコードへの複数ファイルの追加
制限の適用によるメンバーの処理の円滑化
顧客が有効になっている個人取引先のマージ
質問の応答時間に基づくレポートの作成

Lightning Knowledge 検索結果での項目の非表示

新しいサイト設定を使用すると、Lightning Knowledge 検索結果でグリッドレイアウトを使用できます。グリッドレイアウトを有効にすると、選択したナレッジプロファイルの Knowledge 検索レイアウトを編集して、グリッド項目を表示または非表示にすることができます。

モバイルの Experience Cloud サイトのレコードへの複数ファイルの追加

外出中に複数のファイルをレコードにすばやく追加できます。モバイルの Experience Cloud サイトの各レコードの [ファイル] 関連リストに [ファイルを追加] ボタンが含まれるようになりました。

制限の適用によるメンバーの処理の円滑化

権限セットまたはプロファイルに追加または削除するメンバーの数は処理時間に影響します。プロファイルまたは権限セットごとに一度に処理できるメンバーの数が 1,000 万件に制限されるようになりました。

顧客が有効になっている個人取引先のマージ

顧客が有効になっている取引先のレコードが重複しないようにすることで、より多くの顧客にアクセスし、顧客とのより良好な関係を維持できます。システム管理者はマージウィザードを使用して、顧客が有効になっているコミュニティから個人取引先をマージできるようになりました。

質問の応答時間に基づくレポートの作成

ピアツーピアフォーラムで尋ねられた各質問について、質問に答えるレポートを作成できるようになりました。質問に最初のコメントがつくまでの所要時間は? 質問に最善の回答がつくまでの所要時間は? 特定の一連のトピックまたは Chatter グループについて、最初のコメントがつくまでの平均時間と経時的に最善の回答が得られるまでの時間を計算することもできます。

Lightning Knowledge 検索結果での項目の非表示

新しいサイト設定を使用すると、Lightning Knowledge検索結果でグリッドレイアウトを使用できます。グリッドレイアウトを有効にすると、選択したナレッジプロファイルの Knowledge 検索レイアウトを編集して、グリッド項目を表示または非表示にすることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

方法: この機能を使用するには、まず Salesforce 組織でナレッジを有効にします。次に、サイトの [管理] ワークスペースで [設定] > [全般] に移動して、[**Lightning Knowledge** 検索結果にプロファイルベースのレイアウトを使用] チェックボックスをオンにします。変更内容を保存します。オブジェクトマネージャに移動して、ナレッジオブジェクトをクリックし、[検索レイアウト]をクリックします。選択したレイアウトを編集して各項目を表示または非表示にします。

メモ: 標準のグリッドレイアウトを有効にすると、結果で検索語の強調表示を使用できなくなります。

モバイルの Experience Cloud サイトのレコードへの複数ファイルの追加

外出中に複数のファイルをレコードにすばやく追加できます。モバイルの Experience Cloud サイトの各レコードの [ファイル] 関連リストに [ファイルを追加] ボタンが含まれるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Mobile Publisher アプリケーションでアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

方法: モバイル環境でレコードを開きます。次に、[関連] > [ファイル] > [ファイルを追加] をクリックします。ファイルを選択して、組織からファイルをアップロードまたは追加します。

制限の適用によるメンバーの処理の円滑化

権限セットまたはプロファイルに追加または削除するメンバーの数は処理時間に影響します。プロファイルまたは権限セットごとに一度に処理できるメンバーの数が 1,000 万件に制限されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、「環境の作成および設定」権限を持つユーザが使用できます。

方法: この制限を超えないようにするには、複数の権限セットまたはプロファイルを使用して、小さなバッチでメンバーを追加します。この制限を緩和するには、サポートにお問い合わせください。

顧客が有効になっている個人取引先のマージ

顧客が有効になっている取引先のレコードが重複しないようにすることで、より多くの顧客にアクセスし、顧客とのより良好な関係を維持できます。システム管理者はマージウィザードを使用して、顧客が有効になっているコミュニティから個人取引先をマージできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Experience Cloud サイトに適用されます。

対象: この機能は、「外部ユーザの管理」権限を持つユーザに適用されます。ユーザには、取引先を削除する権限、および商談や取引先責任者などの関連レコードを編集する権限も必要です。

質問の応答時間に基づくレポートの作成

ピアツーピアフォーラムで尋ねられた各質問について、質問に答えるレポートを作成できるようになりました。質問に最初のコメントがつくまでの所要時間は? 質問に最善の回答がつくまでの所要時間は? 特定の一連のトピックまたはChatterグループについて、最初のコメントがつくまでの平均時間と経時的に最善の回答が得られるまでの時間を計算することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceでアクセスするエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

対象ユーザ: レポートを作成できるコミュニティマネージャ。

理由: 最初のコメントがつくまでの時間と解決までの時間は、サービス業界でサービスレベルを高めるタイミングを測定するために使用される標準的な総計値です。

方法: これらのレポートの作成を開始するには、[設定] で [クイック検索] ボックスに「*レポートタイプ*」と入力します。[レポートタイプ]をクリックして、[新規カスタムレポートタイプ]をクリックします。[レポートタイプフォーカス] セクションで主オブジェクトとして [ネットワークフィード応答総計値] を選択し、他のレポートを作成する場合と同じように続行します。



メモ:

- これらの総計値は質問についてのみ計算でき、他のタイプのChatter投稿については計算できません。
- これらの総計値は、組織でSpring '21リリースが利用可能になった後に作成された質問についてのみ計算できます。

Salesforce CMS

Salesforce CMSコンテンツがこれまで以上に機能強化されました。コンテンツキーを使用して一貫したコンテンツをリリースし、エクスペリエンスビルダーサイトの新しいBuild Your Own (LWR) テンプレートにコンテンツを追加し、他の組織やワークスペースにコンテンツをエクスポートします。

このセクションの内容:

コンテンツキーを使用した一貫性の維持

Salesforce CMSコンテンツにコンテンツキーが含まれるようになりました。この一意の識別子は、バージョンに関係なく、Salesforce組織、サイト、およびコンポーネントを超えてコンテンツに固定されます。コンテンツキーを使用して、.zipアーカイブにエクスポートおよびインポートJSONファイルを含めて、Sandboxから本番など、組織間でコンテンツをリリースします。

インポート用のメディアを参照するためのコンテンツキーの使用

JSON コンテンツの詳細にコンテンツキーを含めて、コンテンツインポート用のメディアへの参照を作成します。`ref` 項目またはリッチテキストエディタ (RTE) ノードで参照を関連付けます。エディタでは、RTE ノードで画像の管理ユーザコンテンツレコードが作成されるようになりました。

インポート後のコンテンツの一括公開

以前は、JSON を使用してローカルファイルをインポートするには、各コンテンツに `status` 項目が必要でした。`status` 項目は Salesforce CMS のコンテンツに使用されなくなりました。Salesforce CMS アプリケーションでインポートに含まれるすべてのコンテンツを一度に公開できるようになりました。メディアのインポートにこの機能を使用して、他のコンテンツによって参照されるすべての画像を公開し、すべての参照を保持します。

Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツのエクスポート

アップロードして、画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなどのコンテンツを Salesforce CMS のワークスペースから JSON ファイルの .zip アーカイブおよびメディアファイルにエクスポートします。エクスポートした .zip アーカイブをインポートして、コンテンツを別の Salesforce 組織に移行します。

Sandbox から本番組織への CMS コンテンツおよびコンポーネントのリリース

コンテンツキーを使用して Sandbox 組織からコンテンツをエクスポートして本番組織にインポートできるようになりました。その後、エクスペリエンスバンドルを含む単一項目コンポーネントを Sandbox 組織から本番組織にリリースします。以前は、CMS コンポーネントを Sandbox 組織から本番組織に移動したときにコンテンツを再作成していました。

Google Chrome での混在コンテンツのダウンロードのブロック

Google は、Chrome での混在コンテンツのダウンロードをブロックすることにより、安全ではないダウンロードからユーザを保護しようとしています。混在コンテンツのダウンロードの例として、HTTPS ページに HTTP サイトへのリンクが配置されていることがあります。この変更は、Salesforce CMS および CMS Connect の安全でない画像およびリンクに影響します。Google の段階的なロールアウト計画は、ブラウザの警告から始まり、混在コンテンツのダウンロードのブロックへと進みます。

Experience Cloud の Build Your Own (LWR) テンプレートの利用

Experience Cloud の新しい Build Your Own (LWR) テンプレートを使用すると、読み込み時間が短く拡張性の高いサイトを開発して CMS コンテンツを配信できます。この軽量テンプレートは、Lightning Web コンポーネント (LWC) に基づいて優れたパフォーマンスを提供するプログラミングモデルであり、カスタムソリューションを全面的にサポートします。

カスタム Lightning Web コンポーネントでの Salesforce CMS コンテンツの使用

公開されたコンテンツを Salesforce CMS ワークスペースからカスタム Lightning Web コンポーネントに追加し、エクスペリエンスビルダーサイトで使用できるようになりました。

Build Your Own (LWR) テンプレートでのリッチコンテンツエディタを使用した CMS 画像の追加

Experience Cloud の新しい Build Your Own (LWR) テンプレートを使用すると、リッチコンテンツエディタコンポーネントを介して CMS 画像をサイトに直接追加できます。

コンテンツキーを使用した一貫性の維持

Salesforce CMS コンテンツにコンテンツキーが含まれるようになりました。この一意の識別子は、バージョンに関係なく、Salesforce 組織、サイト、およびコンポーネントを超えてコンテンツに固定されます。コンテンツキーを使用して、.zip アーカイブにエクスポートおよびインポート JSON ファイルを含めて、Sandbox から本番など、組織間でコンテンツをリリースします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: コンテンツを作成および編集するには、その CMS ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、Salesforce システム管理者である必要があります。

方法: 新しいコンテンツを Salesforce CMS ワークスペースに追加すると、コンテンツキーが自動的に割り当てられます。コンテンツが更新されてバージョンが変わっても、コンテンツキーはそのコンテンツに固定されます。

インポート用のメディアを参照するためのコンテンツキーの使用

JSON コンテンツの詳細にコンテンツキーを含めて、コンテンツインポート用のメディアへの参照を作成します。`ref` 項目またはリッチテキストエディタ (RTE) ノードで参照を関連付けます。エディタでは、RTE ノードで画像の管理ユーザコンテンツレコードが作成されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: コンテンツをインポートするには、その CMS ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、Salesforce システム管理者である必要があります。

方法: コンテンツの詳細を JSON ファイルで指定するときに、`ref` 項目にメディアコンテンツのコンテンツキーを入力し、インポート用の参照を作成します。`ref` の代わりに、ニュース項目の本文と同じようにリッチテキストエディタ (RTE) ノードにメディアコンテンツのコンテンツキーを入力することもできます。この方法では、画像の管理コンテンツレコードが作成され、コンテンツ詳細ページの [利用者] カードに情報が表示されます。

画像のコンテンツキーを使用して画像を参照するニュース項目をインポートする `JSON` 構造の例を次に示します。

```
{
"content":[
    {
    "contentKey": "MC4NFMB52LHFFWPNFNKHQJHLFBQM",
    "type":"news",
    "urlName":"content1",
    "body":{
        "title":"My News Item",
       "body":"<p>This is the body of my news item, which includes a reference to an image
 in Salesforce CMS.</p>,
        "bannerImage": {
            "ref":"MCFQ2WJD3O6NGCXOI3DIOF4RJQOI"
            },
        "excerpt":"This is a summary of my news item."
        }
```

```
    }]
}
```

リッチテキストエディタで画像を参照するニュース項目の JSON **構造の例を次に示します。**

```
{
"content":[
    {
    "contentKey": "MC4NFMB52LHFFWPNFNKHQKJLMNFR",
    "type":"news",
    "urlName":"content2",
    "body":{
        "title":"Another News Item",
        "body":"<img src=' ` data-contentKey=' 'MCFQ2WJD3O6NGCXOI3DIOF4RJQOI'>,
        "excerpt":"This is a summary of my news item."
        }
    }]
}
```

インポート後のコンテンツの一括公開

以前は、JSON **を使用してローカルファイルをインポートするには、各コンテンツに** status **項目が必要でした。** status **項目は** Salesforce CMS **のコンテンツに使用されなくなりました。**Salesforce CMS **アプリケーションでインポートに含まれるすべてのコンテンツを一度に公開できるようになりました。メディアのインポートにこの機能を使用して、他のコンテンツによって参照されるすべての画像を公開し、すべての参照を保持します。**

対象: この変更は、Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: コンテンツをインポートするには、その CMS **ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、**Salesforce **システム管理者である必要があります。**

方法: Salesforce CMS **ワークスペースでコンテンツをインポートし、[インポート後にコンテンツを公開] を選択してインポートに含まれるすべてのコンテンツの状況を公開済みに変更します。コンテンツがすでに** CMS **ワークスペースにある場合、最後に公開されたバージョンが置換されます。公開済みのコンテンツはすべてのチャネルで直ちに使用できるようになり、ライブサイトおよびすべてのコンテンツ参照で更新されます。**

インポート後にこの機能を使用して、他のコンテンツによって参照される画像を公開することをお勧めします。このオプションを選択しなかった場合、コンテンツはドラフト状況でインポートされ、Salesforce CMS **からコンテンツを個別に公開できます。**

Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツのエクスポート

アップロードして、画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなどのコンテンツを Salesforce CMS **のワークスペースから** JSON **ファイルの** .zip **アーカイブおよびメディアファイルにエクスポートします。エクスポートした** .zip **アーカイブをインポートして、コンテンツを別の** Salesforce **組織に移行します。**

対象: この変更は、Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: コンテンツをエクスポートするには、その CMS **ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、**Salesforce **システム管理者である必要があります。**

方法: Salesforce CMS でワークスペースを開き、エクスポートするコンテンツおよびフォルダを選択して、メニュードロップダウンをクリックして[エクスポート内容]を選択します。必要に応じて、エクスポートに含まれる画像が更新されたかインポート先の CMS ワークスペースのバージョンと異なっている場合は、参照される画像を含めます。

エクスポート中に、各コンテンツ項目のコンテンツの詳細が .zip アーカイブの個別の JSON ファイルにエクスポートされます。すべてのメディアコンテンツは個別の .zip アーカイブにエクスポートされ、その他のすべてのコンテンツは別のアーカイブにエクスポートされます。たとえば、ニュースコンテンツがバナー画像を参照する場合、バナー画像およびニュースコンテンツは 1-media-content-[jobId].zip や 2-content-[jobId].zip などの .zip アーカイブにエクスポートされます。.zip アーカイブを Salesforce CMS ワークスペースにインポートする場合、最初にメディアの .zip アーカイブをインポートしてから、対応するコンテンツエクスポートの .zip アーカイブをインポートします。

関連トピック:

- Sandbox から本番組織への CMS コンテンツおよびコンポーネントのリリース

Sandbox から本番組織への CMS コンテンツおよびコンポーネントのリリース

コンテンツキーを使用して Sandbox 組織からコンテンツをエクスポートして本番組織にインポートできるようになりました。その後、エクスペリエンスバンドルを含む単一項目コンポーネントを Sandbox 組織から本番組織にリリースします。以前は、CMS コンポーネントを Sandbox 組織から本番組織に移動したときにコンテンツを再作成していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: コンテンツをインポートまたはエクスポートするには、その CMS ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、Salesforce システム管理者である必要があります。

方法: コンテンツを移動するには、最初に Salesforce CMS ワークスペースからコンテンツをエクスポートしてから、そのコンテンツを Salesforce CMS にインポートします。

メモ: Salesforce CMS でインポートまたはエクスポートを行う場合、CMS コレクションコンポーネントは含まれません。CMS 移動先組織で CMS コレクションを再作成してください。コレクションに同じ名前を使用する場合、再作成した後にもう一度コンポーネントに追加する必要はありません。コレクションに同じ名前を使用する場合、CMS コレクションコンポーネントではコンテンツ参照が保持されます。

関連トピック:

- コンテンツキーを使用した一貫性の維持
- Salesforce CMS ワークスペースからのコンテンツのエクスポート
- *Lightning コミュニティ開発者ガイド*: Sandbox から本番組織へのコミュニティのリリース
- *Lightning コミュニティ開発者ガイド*: Lightning コミュニティ用 ExperienceBundle

Google Chrome での混在コンテンツのダウンロードのブロック

Google は、Chrome での混在コンテンツのダウンロードをブロックすることにより、安全ではないダウンロードからユーザを保護しようとしています。混在コンテンツのダウンロードの例として、HTTPS ページに HTTP サイトへのリンクが配置されていることがあります。この変更は、Salesforce CMS および CMS Connect の安全でない画像およびリンクに影響します。Google の段階的なロールアウト計画は、ブラウザの警告から始まり、混在コンテンツのダウンロードのブロックへと進みます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: Google の取り組みは 2020 年 9 月に開始され、今後のいくつかの Chrome リリースを介して継続されます。

理由: 詳細は、ナレッジ記事「Chrome Blocking Mixed Content in Salesforce CMS and CMS Connect (Salesforce CMS および CMS Connect で Chrome が混在コンテンツをブロック)」を参照してください。

Experience Cloud の Build Your Own (LWR) テンプレートの利用

Experience Cloud の新しい Build Your Own (LWR) テンプレートを使用すると、読み込み時間が短く拡張性の高いサイトを開発して CMS コンテンツを配信できます。この軽量テンプレートは、Lightning Web コンポーネント (LWC) に基づいて優れたパフォーマンスを提供するプログラミングモデルであり、カスタムソリューションを全面的にサポートします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

- Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)

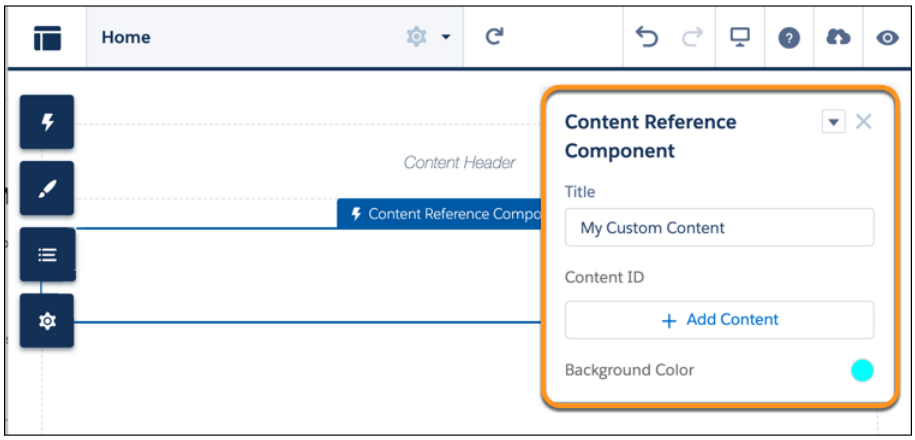
カスタム Lightning Web コンポーネントでの Salesforce CMS コンテンツの使用

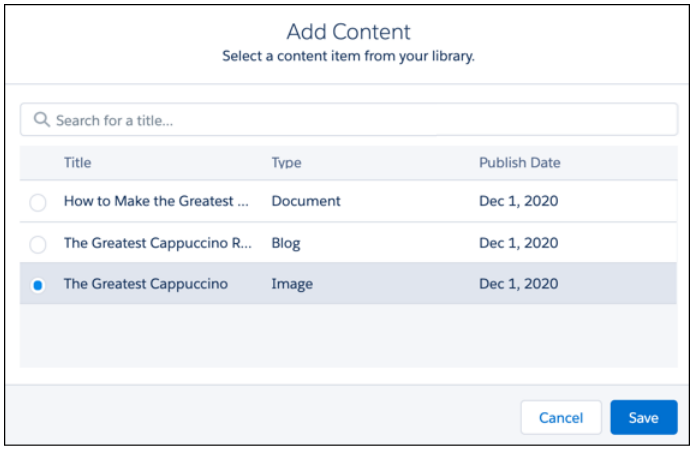
公開されたコンテンツを Salesforce CMS ワークスペースからカスタム Lightning Web コンポーネントに追加し、エクスペリエンスビルダーサイトで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Salesforce CMS を使用するエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。

方法: Salesforce CMS アプリケーションでコンテンツを作成して Salesforce CMS ワークスペースに公開します。ワークスペースがエクスペリエンスビルダーサイトに接続されていることを確認します。

エクスペリエンスビルダーでカスタムコンポーネントから CMS コンテンツにアクセスするには、`ContentReference` プロパティ種別を含めるようにカスタムコンポーネントを設定します。次に、エクスペリエンスビルダーでコンポーネントをページに追加し、コンポーネントのプロパティで[コンテンツを追加]をクリックします。これで、サイトに画像、ドキュメント、ニュース記事などを CMS ワークスペースから直接入力できるようになりました。





関連トピック:

- Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)
- カスタム Lightning Web コンポーネントへの Salesforce CMS コンテンツの追加

Build Your Own (LWR) テンプレートでのリッチコンテンツエディタを使用した CMS 画像の追加

Experience Cloud の新しい Build Your Own (LWR) テンプレートを使用すると、リッチコンテンツエディタコンポーネントを介して CMS 画像をサイトに直接追加できます。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Salesforce CMS を使用する Build Your Own (LWR) テンプレートを使用したエクスペリエンスビルダーサイトに適用されます。このテンプレートは Developer Edition で使用でき、Salesforce CMS を購入した場合には Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition で使用できます。

方法: CMS ワークスペースが Build Your Own (LWR) サイトに接続されていることを確認して、使用する画像を公開します。

エクスペリエンスビルダーで Build Your Own (LWR) サイトを開きます。[コンポーネント] メニューに移動して、リッチコンテンツエディタコンポーネントを選択します。コンポーネントをドラッグしてサイトに追加します。[リッチコンテンツエディタ] コンポーネントウィンドウから、[コンテンツの編集] をクリックします。次に、 を選択して CMS コンテンツにアクセスし、画像を追加します。

関連トピック:

Build Your Own (LWR) テンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (正式リリース)

モバイル

iOS 向けモバイルホームやモバイルでの自然言語検索などの新しい機能を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションでより多くの作業を実行できます。コミュニティ向け Mobile Publisher は Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更され、iPad がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

Salesforce モバイルアプリケーション

新しいモバイルホームページでカードをカスタマイズし、モバイルで自然言語検索を使用してレコードを絞り込み、Salesforce クイックナビゲーションウィジェットを使用して最も重要な項目に iOS デバイスのホーム画面からアクセスします。

Mobile Publisher

コミュニティ向け Mobile Publisher は Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更されました。タブレットでの作業を希望するユーザ向けに iPad が正式にサポートされています。

Salesforce モバイルアプリケーション

新しいモバイルホームページでカードをカスタマイズし、モバイルで自然言語検索を使用してレコードを絞り込み、Salesforce クイックナビゲーションウィジェットを使用して最も重要な項目に iOS デバイスのホーム画面からアクセスします。

このセクションの内容:

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能には、iOS 用の新しい Salesforce ホーム画面、Android 用の活動タイムラインなどが含まれます。

App Store および Google Play の更新

メジャーリリースで Salesforce モバイルアプリケーションに大幅な変更が加えられますが、Salesforce では常日頃からモバイル環境の改善に取り組んでいます。小さいながらも重要な変更を行うことがあり、メジャーリリースまで待てないものは、App Store® および Google Play™ の更新でリリースしています。最新リリースについての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能には、iOS 用の新しい Salesforce ホーム画面、Android 用の活動タイムラインなどが含まれます。

対象: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

時期: Android の場合、ほとんどの機能は、2021 年 2 月 15 日の週に Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになります。iOS については、ほとんどの機能が 2021 年 3 月に延期されました。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
ブラウザとオペレーティングシステム			
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更 (ページ 473)	✔	✔	
データのアクセスおよび表示			
モバイルホームの操作 (ベータ) (ページ 474)		✔	✔
ナビゲーションおよびアクション			
クイックナビゲーションウィジェットを使用してホーム画面から Salesforce にアクセス (ページ 477)		✔	
改善されたスクロール (ページ 477)	✔	✔	
生産性機能			
Android での活動タイムラインを使用した活動の追跡 (ページ 477)	✔		
モバイルでのカスタムオブジェクトの動的アクションの使用 (ページ 478)	✔	✔	✔
アクセスおよびセキュリティ			
Apple のプライバシーポリシーの変更への準備 (ページ 478)		✔	
新しい拡張モバイルセキュリティの設定 UI (ベータ) (ページ 479)			✔
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護 (ページ 480)	✔	✔	✔
設定			
モバイルでの Lightning ページのパフォーマンスの向上 (ページ 481)	✔	✔	✔
その他の機能強化			

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
新しいSalesforceモバイルアプリケーションのタブレット操作環境の有効化 (ページ 481)	✔	✔	✔

関連トピック:

外出先での売上予測の調整

Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更

Salesforce は、Android および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。Spring '21 のデバイスリストを次に示します。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	• Google Pixel 4 XL • Google Pixel 3 • Samsung Galaxy S10 / S10+ / S10e • Samsung Galaxy S9 / S9+ • Samsung Galaxy S8 / S8+ • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy Note 10+ • Samsung Galaxy Note 9 • Samsung Galaxy Note 8	
iOS	• iPhone 12 Pro / Pro Max / mini • iPhone 12 • iPhone 11 Pro / Pro Max • iPhone 11 • iPhone XR • iPhone XS / XS Max • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone SE • iPhone 6S	• iPad Pro 10.5″ • iPad Air 2 • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

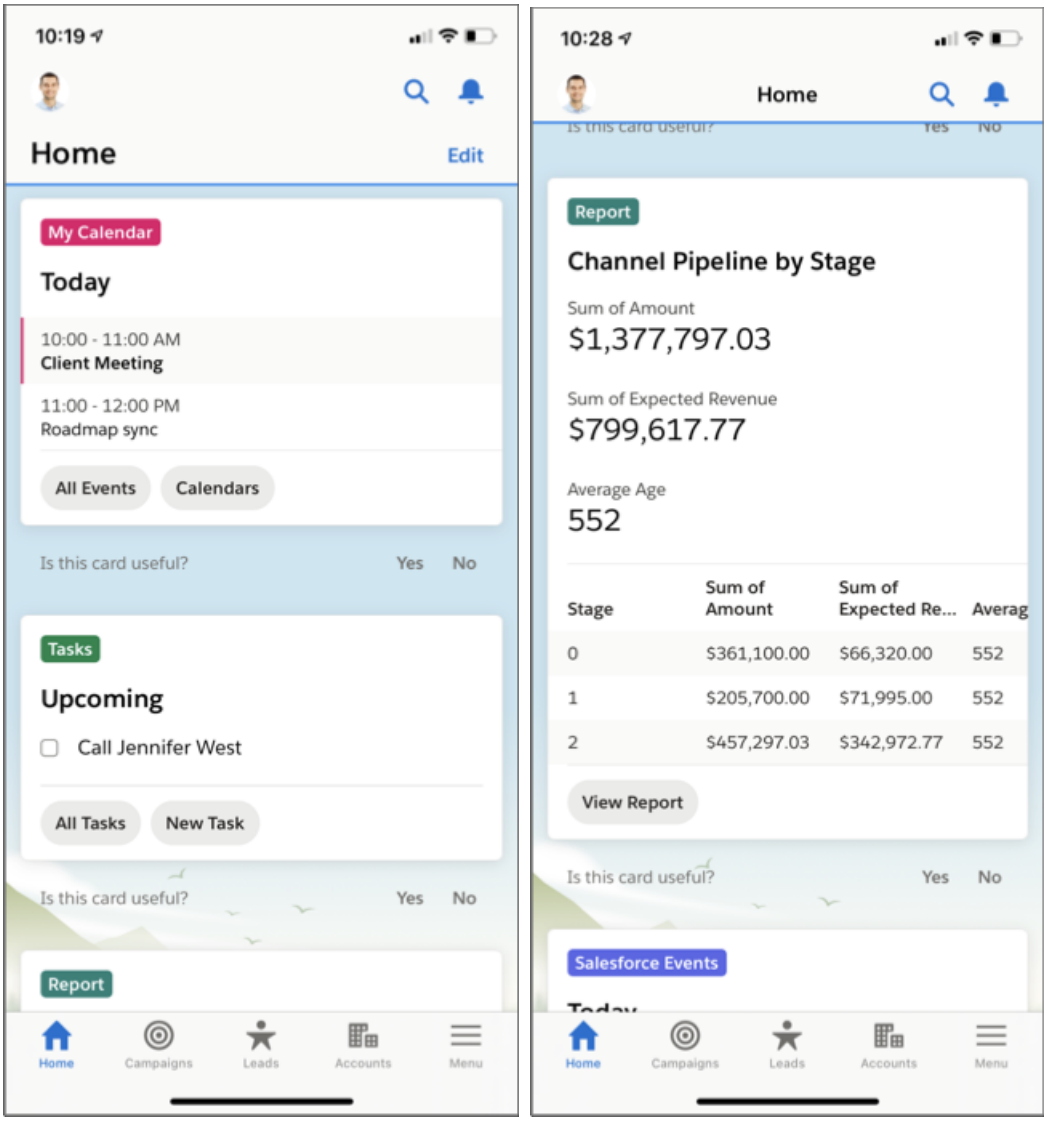
急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

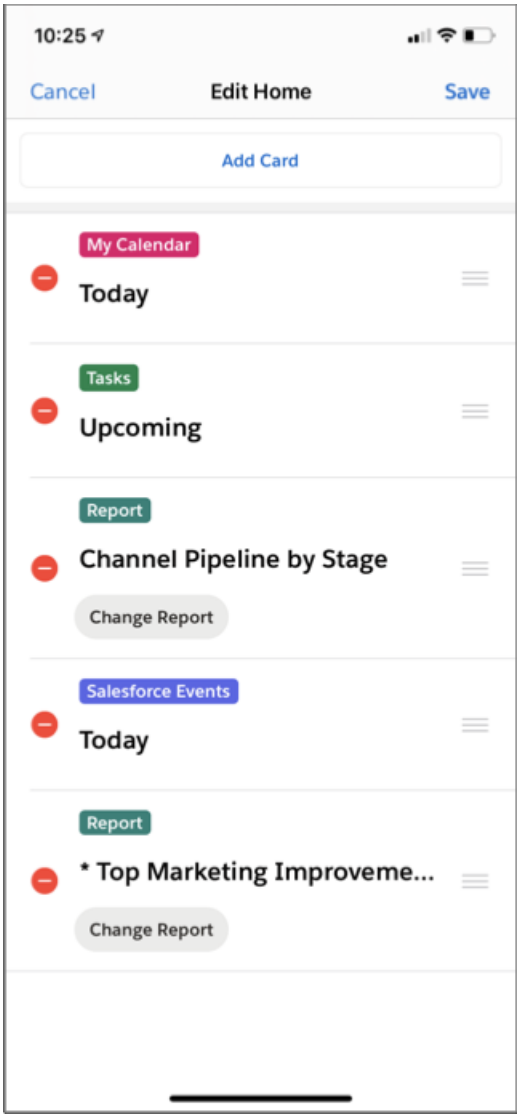
モバイルホームの操作 (ベータ)

新しいホームへようこそ! モバイルホームを使用すると、カスタマイズ可能で動的なカードにパーソナライズされた情報が表示されます。レポート、今後の行動、最近のレコードなどを表示できます。カードにはユーザがどのようにアプリケーションを使用するかに基づいて情報が表示され、アプリケーション内で簡単にカードを再配置、追加、削除できます。モバイルホームが有効になると、モバイルホームがすべての iOS ユーザのランディングページと最初のタブになります。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: ユーザに対してモバイルホームを有効にするには、接続アプリケーションの属性を追加します。[設定] で [クイック検索] ボックスに「*接続アプリケーション*」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択してから、変更する接続アプリケーションの名前をクリックします。Mobile Publisher を使用しない場合、これは Salesforce for iOS 接続アプリケーションです。接続アプリケーションページの [カスタム属性] セクションで [新規] をクリックします。属性キーに「`ENABLE_MOBILE_HOME`」と入力し、属性値に「`"true"`」と入力します。


10:19
Home
Edit
My Calendar
Today
10:00 - 11:00 AM
Client Meeting
11:00 - 12:00 PM
Roadmap sync
All Events
Calendars
Is this card useful?
Yes
No
Tasks
Upcoming
Call Jennifer West
All Tasks
New Task
Is this card useful?
Yes
No
Report
Home
Campaigns
Leads
Accounts
Menu
10:28
Home
Report
Channel Pipeline by Stage
Sum of Amount
$1,377,797.03
Sum of Expected Revenue
$799,617.77
Average Age
552
Stage
Sum of Amount
Sum of Expected Re...
Averag
0
$361,100.00
$66,320.00
552
1
$205,700.00
$71,995.00
552
2
$457,297.03
$342,972.77
552
View Report
Is this card useful?
Yes
No
Salesforce Events
Home
Campaigns
Leads
Accounts
Menu



メモ: モバイルホームはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。モバイルホームについてのフィードバックと提案は、Lightning on Mobile Trailblazer Community または Salesforce for iOS/Android Trailblazer Community からお寄せください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: iOS 向けモバイルホームの有効化 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

クイックナビゲーションウィジェットを使用してホーム画面から Salesforce にアクセス

Salesforce クイックナビゲーションウィジェットを使用して、最も重要な項目に iOS デバイスのホーム画面から直接アクセスします。ウィジェットには、Mobile Only を含め、Salesforce モバイルアプリケーションで最近アクセスした Lightning アプリケーションのナビゲーションバーの最初の 4 つのナビゲーション項目が表示されます。また、Lightning アプリケーションのナビゲーション項目をパーソナライズした場合、ウィジェットはそれに合わせて更新されます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、iOS 14 以上を実行しているユーザが使用できます。

方法: Salesforce クイックナビゲーションウィジェットを取得するには、ホーム画面の任意の場所を押したままにします。[+] アイコンをタップして、*「Salesforce ナビゲーション」* を検索します。[Salesforce クイックナビゲーション] ウィジェットを選択してホーム画面に追加します。

改善されたスクロール

更新を行わずに Salesforce アプリケーション内を移動します。改善されたスクロールによって、ページのスクロール操作とアプリケーションの更新操作がスムーズになります。また、コピーと貼り付けをアプリケーション内で直接行うこともできます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 改善されたスクロールは、特にスクリーンリーダーなどの支援技術を有効化しているユーザーにとってはさらにすばらしいものになります。以前に iOS デバイスで VoiceOver が実行されていた場合に有効になっていた画面スクロールボタンは、この改善により削除されます。

Android での活動タイムラインを使用した活動の追跡

iOS で人気のある機能が Android でも使用できるようになりました。リード、商談、取引先、取引先責任者の活動タイムラインを Salesforce モバイルアプリケーションで使用できます。これらのレコードタイプでは、ユーザは 1 つの便利なフィードで、レコードに関連付けられたすべての ToDo、行動、記録された活動、メールを参照できます。以前は、モバイルアプリケーションで活動を追跡するには、システム管理者が活動履歴ビューを含む関連リストを作成していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 活動予定タイムラインを使用すると、中断した場所から再開することができ、次のステップに集中できるため、エンドユーザにとって便利です。レコードページの下部にあるナビゲーションバーの上に表示されているため、活動履歴関連リストよりも容易にアクセスできます。また、すべての活動が時系列で表示されるため、活動をより容易にたどることもできます。

メモ: 絞り込みと検索はモバイル活動タイムラインではサポートされていません。

方法: サポート対象のレコードタイプでは、モバイル活動タイムラインはデフォルトで有効になっていますが、接続アプリケーションのカスタム属性を追加することで、すべてのユーザに対して無効にするように選択できます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに、*[接続アプリケーション]* と入力します。[接続アプリケーショ

ンを管理する]を選択し、変更する接続アプリケーションの名前をクリックします。接続アプリケーションページの[カスタム属性]セクションで[新規]をクリックします。属性キーに「`DISABLE_ACVITITY_TIMELINE`」と入力し、属性値に「`"true"`」と入力します。

モバイルでのカスタムオブジェクトの動的アクションの使用

カスタムオブジェクトの動的アクションは、モバイルデバイスで正式リリースになりました。ページレイアウトではなく、Lightningアプリケーションビルダーでアクションを割り当て、ユーザに対してアクションを表示するタイミングと場所を制御するためのフィルターを適用します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience デスクトップおよび Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

動的アクションの追加サポート

Apple のプライバシーポリシーの変更への準備

iOS の最新バージョンでは、Apple はサードパーティアプリケーションに追跡に関する追加制限を課しました。これは、2021 年 2 月 15 日に稼働を開始する Salesforce モバイルアプリケーションの Spring 2021 バージョンに影響します。これらの新しい制限により、iPhone と iPad の Salesforce モバイルアプリケーションでカスタム Web コンテンツが表示されなくなる可能性があります。ユーザに公開される前に Salesforce アプリケーションの Spring 2021 ベータバージョンをテストしてください。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 次の設定が影響を受ける可能性があります。

- Visualforce ページ
- Canvas を介して、または <iframe> を使用したカスタム Lightning コンポーネントを介して表示されるサードパーティコンテンツ
- Cookie、sessionStorage、または localStorage を使用するサードパーティアプリケーション

理由: Apple は、iOS 14 ではサードパーティコンテンツに追加制限が課せられることを発表しました。ユーザのプライバシーを保護するために、WKWebView のデフォルトでは外部アプリケーションで Cookie やその他のストレージを使用できません。Salesforce モバイルアプリケーション (とその他のすべての iOS アプリケーション) では Web コンテンツを表示するために WKWebView が使用されています。詳細は、WKWebView での Intelligent Tracking Prevention に関する WebKit のドキュメントを参照してください。Salesforce モバイルアプリケーションは Spring 2021 で最新の Apple 標準に更新され、WKWebView に対するこれらの制限が有効になります。

方法: mobilebeta.salesforce.com で Salesforce モバイルベータプログラムにサインアップします。

Cookie に依存しない方法を使用するようにサードパーティインテグレーションを更新することをお勧めします。ベストプラクティスについての詳細は、このブログ投稿を参照してください。これらの設定変更には時間がかかることがあります。それまでは、ユーザがデバイス設定を更新することによって Salesforce アプリケーションでサードパーティコンテンツの表示を許可することができます。

拡張ドメインは Apple ITP と連携するように設計されています。

Salesforceアプリケーションのみに対してサードパーティコンテンツのブロックを解除するには、iOS 14+を実行しているiOSデバイスで **[設定]** > **[Salesforce]** に移動し、[Allow Cross-Website Tracking (サイト越えトラッキングを許可)]を有効にします。この手順を実行することによって、他のアプリケーションでプライバシーが侵害されることはありません。

新しい拡張モバイルセキュリティの設定 UI (ベータ)

モバイルセキュリティポリシーの有効化と設定は、スイッチを切り替えるのと同じくらい簡単です。

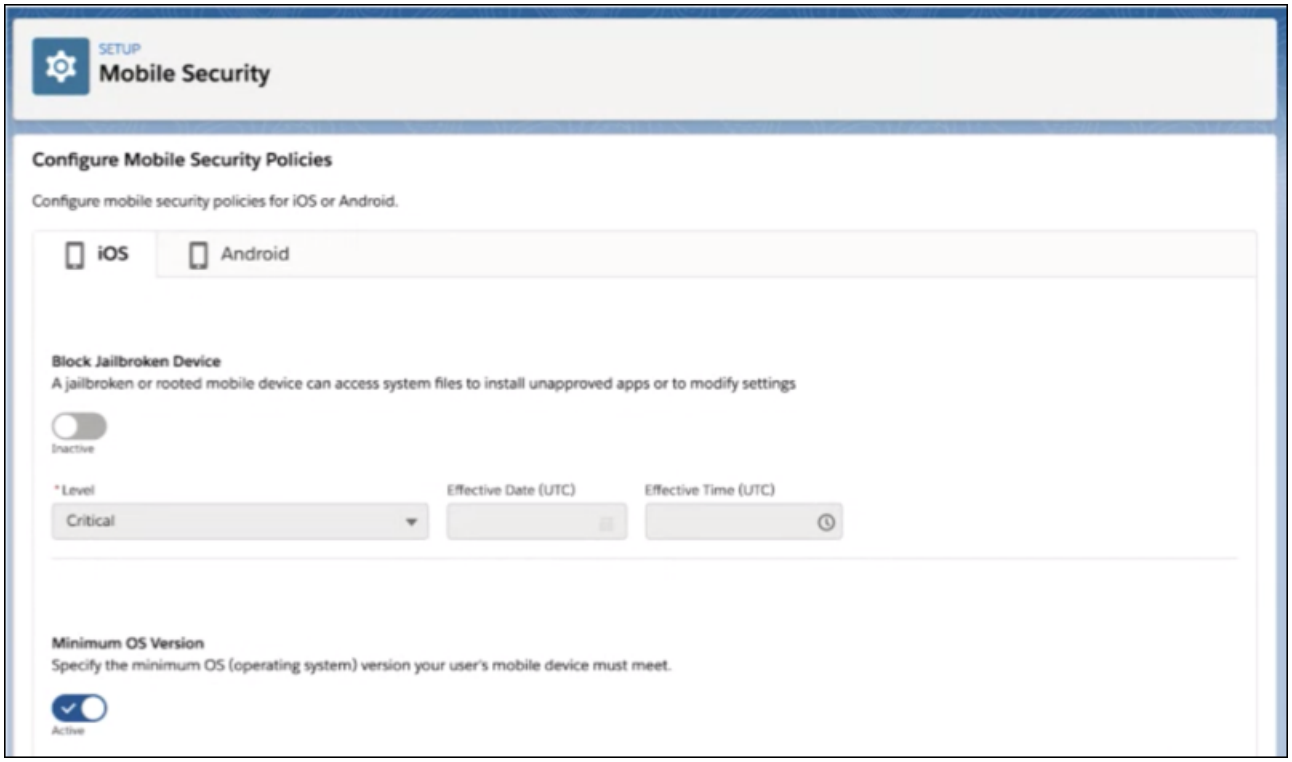
対象: Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの Salesforce モバイルアプリケーションで有料で使用できます。

> **メモ:** 新しいモバイルセキュリティの設定UIは、ベータプログラムを介してお客様に提供されます。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのベータ機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式にリリースされている機能のみに基づいて購入をご決定ください。

対象ユーザ: 「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: Spring '21 リリースより前は、有効にするモバイルセキュリティポリシーごとに接続アプリケーション属性を設定する必要がありました。新しいモバイルセキュリティの設定 UI では、スイッチを切り替えるのと同じくらい簡単に組織のモバイルセキュリティポリシーを有効化できます。

方法: [設定] で「*モバイルセキュリティ*」を検索し、**[モバイルセキュリティ]** を選択します。[iOS] または [Android] タブを選択し、組織のモバイルセキュリティポリシーを有効にして設定します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:拡張モバイルアプリケーションセキュリティを備えたモバイルアプリケーション管理 (MAM)

拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護

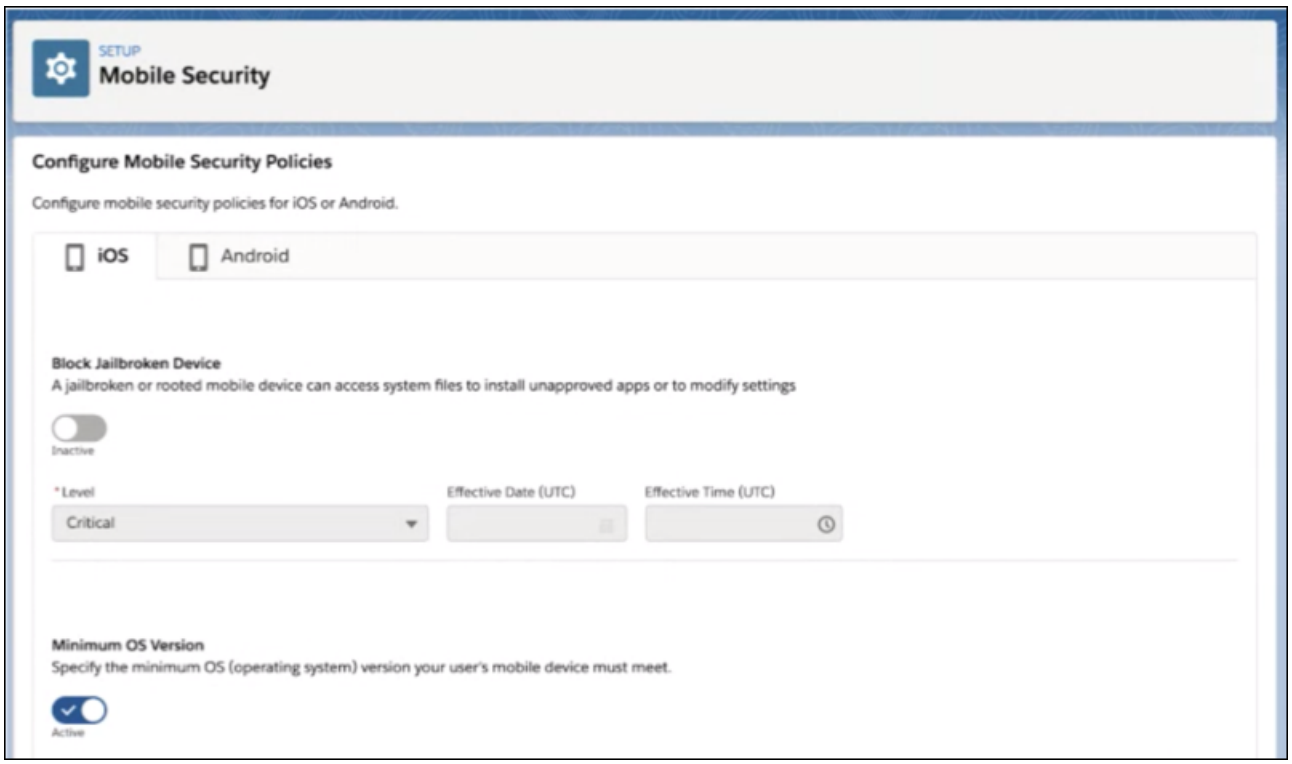
Salesforce モバイルアプリケーションの拡張モバイルセキュリティに、より強力な保護が組み込まれました。ユーザがアプリケーションを開くたびに生体認証ログイン情報を確認するなど、新しいポリシーを適用できるようになりました。これらの新しいポリシーで、Salesforce アプリケーションデータとユーザの個人データをさらに保護できます。

対象: Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの Salesforce モバイルアプリケーションで有料で使用できます。

対象ユーザ: 「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: 拡張モバイルセキュリティの更新には、ユーザがアプリケーションを開くたびに生体認証 ID ログインの認証を強制することが含まれます。ユーザのデバイスでのカレンダーと連絡先へのアクセスをブロックすることもできます。最後に、ユーザが電話をかけるための通話アプリケーションを指定できます。

方法: [設定] で「*モバイルセキュリティ*」を検索し、[モバイルセキュリティ] を選択します。[iOS] または [Android] タブを選択し、組織のモバイルセキュリティポリシーを有効にして設定します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:拡張モバイルアプリケーションセキュリティを備えたモバイルアプリケーション管理 (MAM)

モバイルでの Lightning ページのパフォーマンスの向上

Lightning レコードページを設計するときに、アプリケーションビルダーのガイダンスに携帯電話での Lightning ページに特化したヒントが表示されます。[ページ分析] ドッキングプロンプトの新しいタブに携帯電話でのページのパフォーマンスに関するインサイトが表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

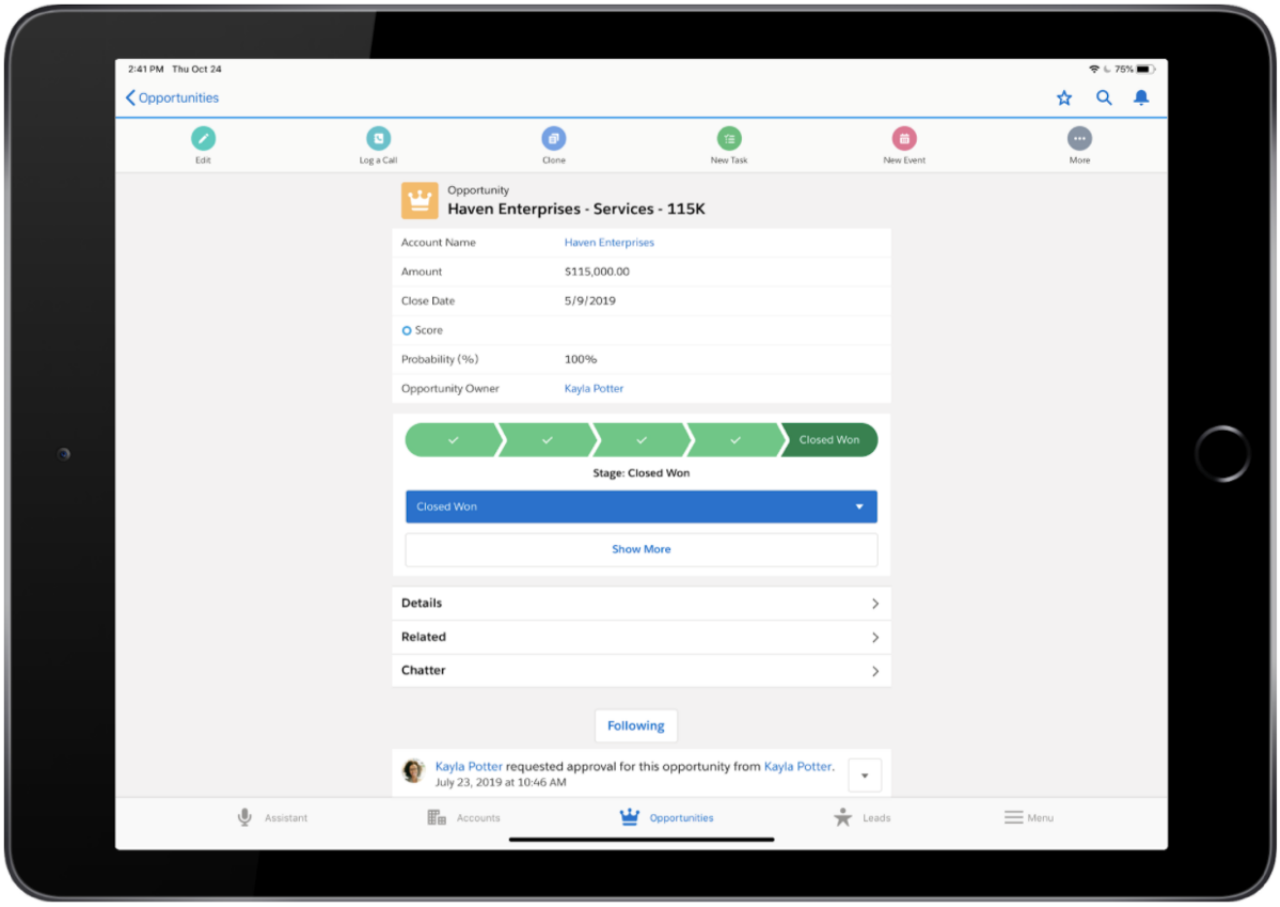
アプリケーションビルダーのガイダンスで電話対応の Lightning ページに関するヒントを取得
電話に表示される Lightning ページのパフォーマンスの分析

新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境の有効化

タブレットユーザに新しい操作環境を表示するか以前のタブレット操作環境を表示するかを選択します。1 列のレイアウトはユーザにデスクトップと携帯電話で表示される内容と一致します。このレイアウトは Lightning アプリケーション、Lightning ナビゲーション、Lightning レコードページをサポートしています。以前は、パイロットに参加しているかケースを登録した場合のみアクセスできました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Android および iOS 用タブレットの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 新しい Salesforce モバイルアプリケーションのタブレット操作環境を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「クイックスタート」と入力し、[新しい **Salesforce** モバイルアプリケーションクイックスタート] を選択します。[タブレット用の新しい Salesforce モバイルアプリケーション] セクションで有効にできます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: iPad ユーザ向けの Salesforce モバイルアプリケーションに関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

App Store および Google Play の更新

メジャーリリースで Salesforce モバイルアプリケーションに大幅な変更が加えられますが、Salesforce では常日頃からモバイル環境の改善に取り組んでいます。小さいながらも重要な変更を行うことがあり、メジャーリリースまで待てないものは、App Store® および Google Play™ の更新でリリースしています。最新リリースについての詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

230.010

このバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションは、2021 年 3 月 1 日の週に利用可能になります。

230.020

このバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションは、2021 年 3 月 15 日の週に利用可能になります。

Mobile Publisher

コミュニティ向け Mobile Publisher は Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更されました。タブレットでの作業を希望するユーザ向けに iPad が正式にサポートされています。

このセクションの内容:

コミュニティ向け Mobile Publisher を Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更
独自の Salesforce Lightning コミュニティのブランド設定に役立つ強力なツールの名前は、Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更されました。すべての優れた機能は引き続き使用できますが、すべての製品とドキュメントでの参照名には「コミュニティ向け Mobile Publisher」の代わりに「Experience Cloud 向け Mobile Publisher」が使用されています。

Experience Cloud 向け Mobile Publisher の iPad サポート (正式リリース)
ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションをタブレットで使用することを希望していたユーザに朗報です。iPad がサポートされるようになりました。

Android での管理公開配信のサポート終了
Mobile Publisher では、顧客がブランド設定した Android 用のアプリケーションの管理公開配信がサポートされなくなりました。

コミュニティ向け Mobile Publisher を Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更

独自の Salesforce Lightning コミュニティのブランド設定に役立つ強力なツールの名前は、Experience Cloud 向け Mobile Publisher に変更されました。すべての優れた機能は引き続き使用できますが、すべての製品とドキュメントでの参照名には「コミュニティ向け Mobile Publisher」の代わりに「Experience Cloud 向け Mobile Publisher」が使用されています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Mobile Publisher および Experience Cloud サイトに適用されます。

理由: ポータル、Web サイト、ヘルプセンター、フォーラム、モバイルアプリケーションなど、作成可能な多くの種類のコネクテッドデジタルエクスペリエンスをより適切に反映するため、「コミュニティ」の名称が「Experience Cloud」に変更されました。

関連トピック:

Community Cloud から Experience Cloud への名称変更

Experience Cloud 向け Mobile Publisher の iPad サポート (正式リリース)

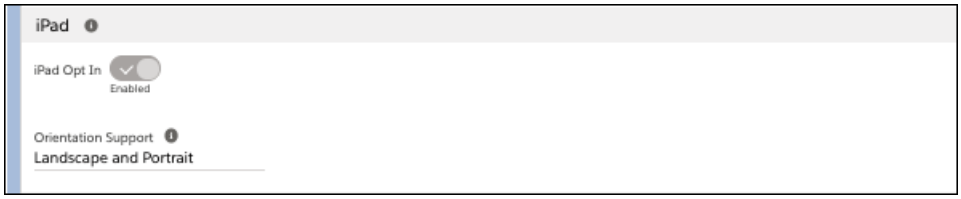
ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションをタブレットで使用することを希望していたユーザに朗報です。iPad がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Mobile Publisher および Experience Cloud サイトに適用されます。

対象ユーザ: Experience Cloud サイトにアクセスでき、モバイルデバイスの要件を満たすユーザが使用できます。

理由: 好みに応じて、ユーザはより多くのデバイスでブランド設定された Experience Cloud アプリケーションを使用できるようになります。

方法: Mobile Publisher で、ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションでの iPad へのオプトインを選択できます。



iPad サポートへのオプトインを決定したら、次の 3 つの方向モードのサポートを選択できます。

- 縦のみ
- 横のみ
- 横/縦

特定の方向モードで機能するコンポーネントは、別の方向モードでは機能しない場合があることに注意してください。たとえば、コンポーネントが縦モードで機能する場合、横モードでは期待どおりに機能しない可能性があります。Publisher Playground アプリケーションを使用して、希望する方向モードでコンポーネントが機能することをテストおよび確認します。

メモ: iPad サポートへのオプトインを決定した場合、ブランド設定された Experience Cloud アプリケーションの現在のバージョンまたは将来のバージョンで iPad デバイスのサポートを停止することはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Publisher Playground アプリケーションを使用したモバイル Experience Cloud サイトのプレビュー (ベータ)

Android での管理公開配信のサポート終了

Mobile Publisher では、顧客がブランド設定した Android 用のアプリケーションの管理公開配信がサポートされなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Mobile Publisher に適用されます。

対象ユーザ: Mobile Publisher の新規ユーザには、ブランド設定されたアプリケーションで管理公開配信を選択するオプションがありません。

メモ: 管理公開配信を介してブランド設定されたアプリケーションをすでに配布している既存の Mobile Publisher ユーザは、この変更の影響を受けません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 配信

Salesforce Sustainability Cloud

データギャップの穴埋めを使用してカーボンフットプリントレコードデータの問題を解決します。個別のロック制御を使用してエネルギー使用量レコードを個別にロックまたはロック解除します。

最新情報については、*Trailblazer Community*: Sustainability Cloud またはパートナーコミュニティ: Sustainability Cloud の 1 か月ごとのリリースノートを参照してください。

このセクションの内容:

データギャップの穴埋めを使用したカーボンフットプリントレコードの問題の解決
システムの推定を使用して、年間のカーボンフットプリント計算時の商業用建物とデータセンターのエネルギー使用データのギャップを埋めることができるようになりました。または、手動でデータを入力できます。

個別のロック制御を使用したエネルギー使用量レコードの管理
個別のロック管理は、関連するカーボンフットプリントレコードの変更後にエネルギー使用量レコードを再計算するかどうかを決定するのに役立ちます。

データギャップの穴埋めを使用したカーボンフットプリントレコードの問題の解決

システムの推定を使用して、年間のカーボンフットプリント計算時の商業用建物とデータセンターのエネルギー使用データのギャップを埋めることができるようになりました。または、手動でデータを入力できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: データギャップの穴埋めは、Sustainability Cloud の「データギャップの穴埋めを許可」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: データギャップ、つまりカーボンフットプリントレコードの不完全な情報が生まれる理由はいくつも考えられます。データギャップの例は、次のとおりです。

- エネルギー使用レコードで組織資産およびレポート期間をカーボンフットプリントレコードと共有するが、カーボンフットプリントレコードにリンクされていない。
- 2 つ以上の個別のエネルギー使用レコードで同じレポート期間をカバーしている。
- 月間の電気使用量データが欠落している。

方法: [データギャップを補完] ボタンは、アップグレード後に商業用建物およびデータセンターページレイアウトに追加する Lightning アクションです。このボタンを使用するには、ページレイアウトエディタで [モバイルおよび Lightning のアクション] を選択し、[データギャップを補完] ボタンを [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] ページセクションにドラッグします。

個別のロック制御を使用したエネルギー使用量レコードの管理

個別のロック管理は、関連するカーボンフットプリントレコードの変更後にエネルギー使用量レコードを再計算するかどうかを決定するのに役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 個別のレコードロックは、Sustainability Cloud の「レコードのロックを許可」権限を持つユーザが使用できます。

理由: デフォルトでは、関連するカーボンフットプリントレコードがロックされるとエネルギー使用量レコードはロックされます。このデフォルトにより、カーボンフットプリントレコードのデータが同期されなくなるのを防ぎます。[個別のロック制御] チェックボックスをオンにすると、個別のエネルギー使用量レコードのデータをロック解除して変更できます。関連するカーボンフットプリントレコードがロックされている場合でもデータを変更できます。影響を受けるエネルギー使用量レコードでは、[カーボンフットプリントレコード項目]の下にオンになって参照しかできない[レコードがロックされました]チェックボックスが表示されます。

カスタマイズ

Salesforceフローを使用して、以前のレコード値にアクセスし、自動化の時間を短縮してメンテナンス費用を削減します。Einstein レコメンデーションビルダーと Einstein 予測ビルダーに対する機能強化により、自信をもって簡単におすすめと予測を作成します。Lightningアプリケーションビルダーでより柔軟性とパフォーマンスの高い Lightning ページを設定します。

このセクションの内容:

Salesforce フロー

Lightning フローの名称が Salesforce フローに変更されました。レコードトリガフローはトリガレコードの以前の値にアクセスできるようになり、トリガイベント後にスケジュール済みパスを実行できます。デバッグツールの機能強化により、フローのテストとトラブルシューティングをより簡単に行うことができます。使いやすさが向上し、より目に優しい環境でフローの作成と実行を行うことができます。

Einstein ビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーが正式リリースされ、作業時にデータがチェックされるようになりました。Einstein 予測ビルダーを使用して管理パッケージの予測を構築します。

Lightning アプリケーションビルダー

App Builder のローカライズサポートを使用して、Lightning ページのタブ、属性、およびコンポーネントのローカライズされた表示ラベルを作成します。デスクトップの一部の標準オブジェクトとモバイルのカスタムオブジェクトに対して正式リリースされた動的アクションを使用して、レコードページのアクションに柔軟性と制御を加えます。パフォーマンス分析ツールでは、デスクトップと電話の両方のLightningレコードページのパフォーマンスに関するより詳細な情報が提供されるようになりました。

グローバリゼーション

中国人民元 (オフショア) とアムハラ語を使用できるようになりました。ユーザはより多くのクラウドで右から左へ記述されるヘブライ語を表示でき、システム管理者はリリース更新を介して新しいロケール形式を有効化できます。

外部サービス

外部サービスを使用して、選択したサービスに接続したり、外部取得元に基づくメソッドをフローによって起動したり、サービスから Salesforce にデータをインポートしたりできます。

Salesforce Connect

スクラッチ組織に Salesforce Connect ライセンスをさらに追加します。セキュリティを強化するために、既存の指定ログイン情報または外部データソースに対して一定の変更を行ったときは再認証する必要があります。

項目

選択リスト値の新しい制限を使用してパフォーマンスを改善します。項目レベルのヘルプテキストでより多くの文字を使用します。カスタム項目の表示ラベルのHTMLタグをプレーンテキストとして表示できるようにします。

プロファイルと権限

参照のみプロファイルに変更を加えました。ユーザはこの変更について把握しておく必要があります。また、インテグレーション権限セットも追加しました。

共有

Lightning Experienceで手動共有を使用してレコードへのアクセス権を付与し、Salesforce組織でより多くのロールを作成します。

カスタムメタデータ型

[システムの概要] ページを使用して、Salesforce 組織のカスタムメタデータ型の合計数を表示します。静的 Apex メソッドを使用してレコードにアクセスします。Apex 動的トリガをプレビューします。

一般設定

リリース更新の代わりに新しい設定を使用して、参照項目のレコード名を表示できるユーザを制御します。

Salesforce フロー

Lightning フローの名称が Salesforce フローに変更されました。レコードトリガフローはトリガレコードの以前の値にアクセスできるようになり、トリガイベント後にスケジュール済みパスを実行できます。デバッグツールの機能強化により、フローのテストとトラブルシューティングをより簡単に行うことができます。使いやすさが向上し、より目に優しい環境でフローの作成と実行を行うことができます。

このセクションの内容:

Lightning フローから Salesforce フローへの名称変更

Lightning フローの機能スイートは Salesforce フローと呼ばれるようになりました。これにはすべてのプロセスとフローが引き続き含まれます。Lightning Flow Builder および Lightning プロセスビルダーは Flow Builder およびプロセスビルダーと呼ばれるようになりました。

Flow Builder

レコードの前の値にアクセスし、スケジュール済みパスをレコードトリガフローに追加します。[メールを送信]アクションでリッチテキスト形式がサポートされ、実行時に無効なメールアドレスと送信者タイプが検出されるようになりました。セクションと列を使用してフロー画面を最適化します (ベータ)。コールアウトを含む Apex アクションを画面フローに追加します。同一トランザクション内の以前に実行された要素により発生した実行時エラーを心配する必要はありません。

フローのデバッグ

デバッグツールの機能強化により、フローのテストとトラブルシューティングが容易になりました。エラーメールの多くに Flow Builder が開くリンクが含まれるようになりました。Flow Builder では、キャンバスでのインタビューのパスとエラーの詳細を確認できます。スケジュールトリガフロー、およびトリガのない自動起動フローをキャンバスで直接デバッグします (正式リリース)。

フロー管理

第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを、パッケージをアンインストールせずに削除できるようになりました。

フロー拡張

呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティエディタが正式リリースされました。カスタムプロパティエディタでは、フローの自動的に保存された変数にコンポーネント入力としてアクセスすることもできます。

フローおよびプロセスのリリース更新

フローおよびプロセスによる CPU 時間消費が正確に測定され、適用されるようになりました。一時停止中のインタビューを、一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開します。プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子が考慮されます。

API バージョン 51.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

この更新は、API バージョン 51.0 以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。バージョン管理された更新では、都合に合わせてフローおよびプロセスごとに実行時の動作の変更をテストおよび採用できます。フローの実行時 API バージョンを変更するには、Flow Builder でフローを開いて、フローバージョンのプロパティを編集します。プロセスの実行時 API バージョンを変更するには、プロセスビルダーでプロセスを開いて、そのプロパティを編集します。

Lightning フローから Salesforce フローへの名称変更

Lightning フローの機能スイートは Salesforce フローと呼ばれるようになりました。これにはすべてのプロセスとフローが引き続き含まれます。Lightning Flow Builder および Lightning プロセスビルダーは Flow Builder およびプロセスビルダーと呼ばれるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Flow Builder

レコードの前の値にアクセスし、スケジュール済みパスをレコードトリガフローに追加します。[メールを送信] アクションでリッチテキスト形式がサポートされ、実行時に無効なメールアドレスと送信者タイプが検出されるようになりました。セクションと列を使用してフロー画面を最適化します (ベータ)。コールアウトを含む Apex アクションを画面フローに追加します。同一トランザクション内の以前に実行された要素により発生した実行時エラーを心配する必要はありません。

このセクションの内容:

フローをトリガしたレコードの前の値の参照

レコードが更新されたときに、そのレコードの前の値に Salesforce Flow でアクセスできるようになりました。`$Record__Prior` グローバル変数には、フローの実行直前のレコードの値が含まれます。この前の値を使用して、フロー内で変化があったかどうかを確認し、差を計算します。

トリガイベントの後にレコードトリガフローの一部を実行

トリガイベントの発生後、動的にスケジュールされた時間にフローの一部を実行する場合は、スケジュール済みパスをレコードトリガフローに追加します。スケジュール時間は、レコードの作成時や更新時、またはレコード内の項目値に基づくことができます。スケジュール済みパスはシステムコンテキストで実行されるため、すべてのデータにアクセスして変更する権限を持ちます。ただし、フローのアクションに関連付けられている実行ユーザは、フローの実行をトリガしたユーザになります。

[メールを送信] アクションを使用したフローからのリッチテキストメールの送信

[メールを送信] アクションを使用してリッチテキスト形式でメールを送信します。以前は、[メールを送信] アクションではプレーンテキストのみを使用でき、リッチテキストメールを送信するにはメールアラートを使用していました。

フローでの再アクセス画面コンポーネントの値の制御

再アクセス画面コンポーネントの値を 1 つの画一的な方法で処理することはできません。このため、値の更新を選択できるようになりました。ユーザが前の画面に移動した後、すでにアクセスした画面に進むと、フローで画面コンポーネントの値を更新できます。フローの他の場所での変更が、更新された値に取り込まれます。以前は、画面コンポーネントは、ユーザが入力した値と同じ値を常に使用していました。再アクセス画面コンポーネントの値に関するこのオプションは Lightning コンポーネントでのみ使用できます。

画面フローでのコールアウトエラーの自動回避

外部 API コールとも呼ばれるコールアウトを実行するフローを作成する場合、おそらく「`System.CalloutException: You have uncommitted work pending` (コミットされていない待機中の作業があります)」というエラーがあることはご存知でしょう。このコールアウトエラーを自動的に回避するように画面フローを設定できるようになりました。以前は、コールアウトとデータ操作の間にローカルアクションまたは画面要素を追加することをお勧めしましたが、その必要はなくなりました。

フロー画面コンポーネントのスタイル設定の改善

テキスト、メール、電話、住所、または選択リストコンポーネントにかかわらず、フロー画面では一貫したデザインが提供されます。Salesforce 提供のすべてのコンポーネントが、標準画面か複数列画面かにかかわらずコンテナの全体幅を使用するようになりました。コンポーネントの配置と間隔は、同等のパディングと余白により一貫しています。

画面フロー内で繰り返される Lightning ランタイム警告の回避

Lightning ランタイムですべての URL ベースのフローを表示するように Salesforce 組織が設定されている場合、Flow Builder には、Lightning ランタイムを必要とする各画面の警告が表示されなくなります。

Flow Builder での {!Complex.Syntax} の表示を減らす

Flow Builder のより多くの場所で、ピルを使用してレコード、項目、変数、および他のフローリソースへの参照が表されるようになりました。ピルには関連するアイコンと表示ラベルが表示されます。これらをいつでもクリックして基盤となる `{!Syntax}` を表示できます。ピルを [レコードを作成]、[レコードを更新]、[レコードを取得]、[レコードを削除] 要素のより多くの項目で使用できるようになりました。

デバッグまたはフローランタイムからのフローの表示ラベルをブラウザタイトルに表示

フローを実行すると、その表示ラベルがブラウザタブのタイトルに表示されるようになりました。これで、フローを容易に特定できます。以前は、ブラウザタブには判読不能なフロー URL が表示されました。スクリーンリーダーを使用する場合、ブラウザタブのタイトルからフローの表示ラベルが取得されます。

ループからの複雑な差し込み項目へのアクセス

Apex で定義された変数、カスタムアクションや画面コンポーネントからの出力など、複雑なオブジェクトの差し込み項目を使用してコレクションをループできるようになりました。以前は、複雑なオブジェクトの差し込み項目にはアクセスできませんでした。

[メールを送信] アクションに関する以前の問題の検出

Spring '21 より前は、[メールを送信] アクションに受信者が指定されていない場合や、指定されたメールアドレスまたは送信者タイプが無効な場合、このアクションで送信できませんでした。Spring '21 以降、上記のいずれかのエラーがある場合は依然として送信できませんが、関連するエラー処理が改善されています。

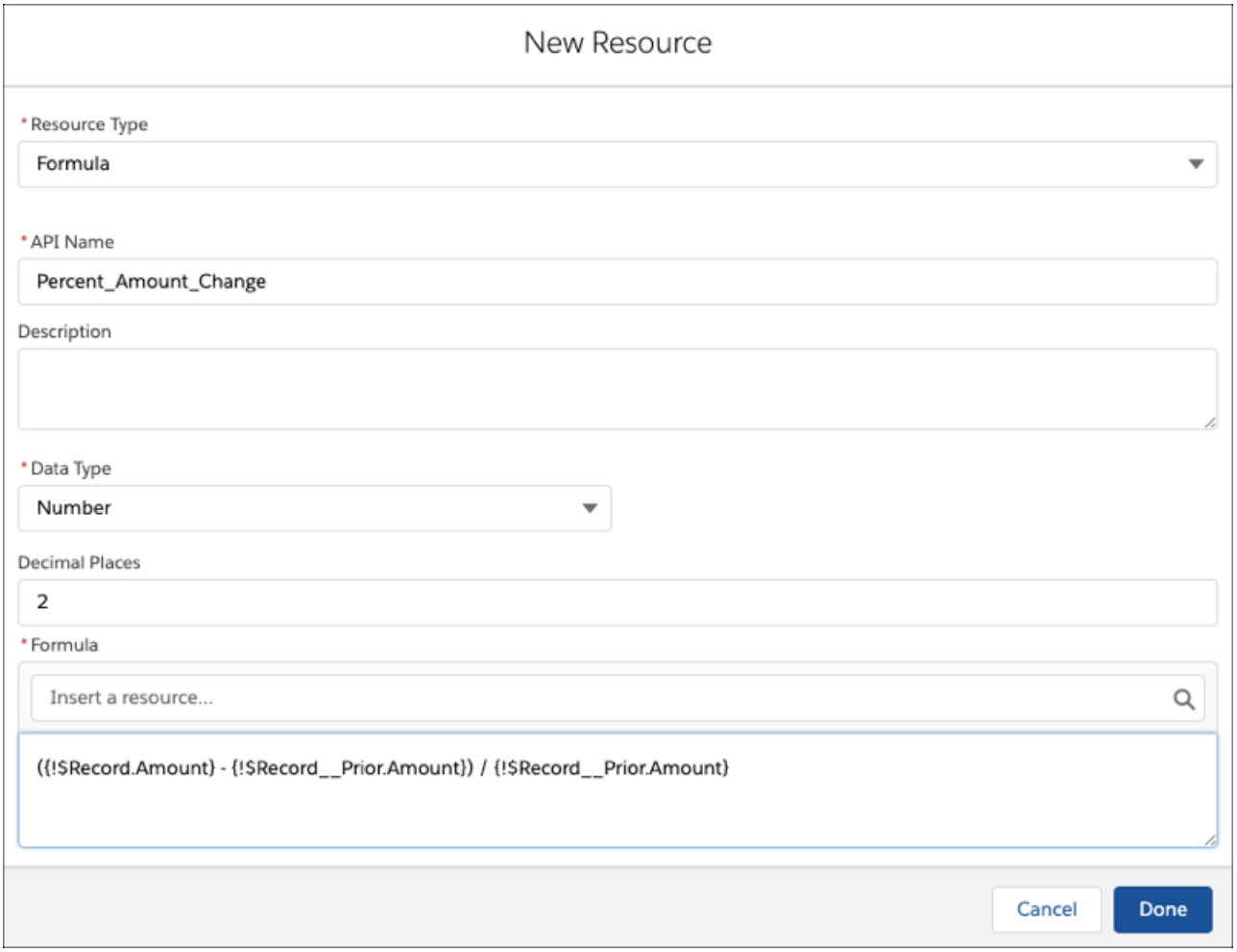
フローをトリガしたレコードの前の値の参照

レコードが更新されたときに、そのレコードの前の値に Salesforce Flow でアクセスできるようになりました。`$Record__Prior` グローバル変数には、フローの実行直前のレコードの値が含まれます。この前の値を使用して、フロー内で変化があったかどうかを確認し、差を計算します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: レコードトリガフローを有効化するには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

理由: たとえば、商談の金額が 30% 以上変化した場合に商談チームに通知するには、`$Record.Amount` を `$Record__Prior.Amount` と比較します。変化の割合を確認するには、`({$!Record.Amount} - {!$Record__Prior.Amount}) / {!Record__Prior.Amount}` などの数式を作成できます。決定要素を使用して数式の結果を確認し、[メールを送信] または [Chatter に投稿] アクションを使用して通知を実行します。



方法:レコードの更新時またはレコードの作成時にトリガするように設定されているレコードトリガフローで、`$Record__Prior` グローバル変数を使用できます。`$Record__Prior` は、グローバル変数を読み取る次のような特定の Flow Builder の場所で使用できます。

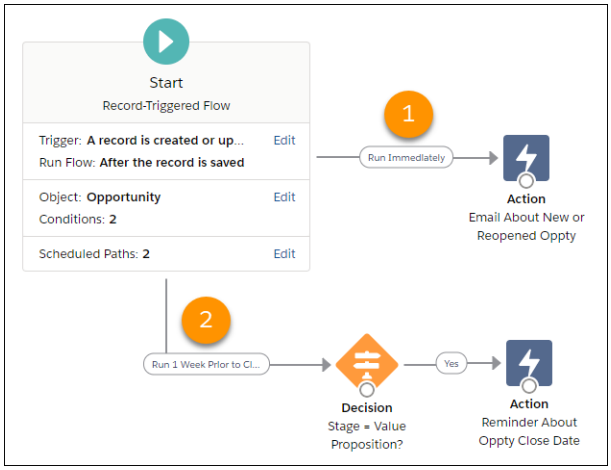
- 数式
- アクションの入力値
- 割り当て値
- 決定結果
- レコードを作成、更新、取得、または削除するときの検索条件値または個々の項目値

トリガイベントの後にレコードトリガフローの一部を実行

トリガイベントの発生後、動的にスケジュールされた時間にフローの一部を実行する場合は、スケジュール済みパスをレコードトリガフローに追加します。スケジュール時間は、レコードの作成時や更新時、またはレコード内の項目値に基づくことができます。スケジュール済みパスはシステムコンテキストで実行されるため、すべてのデータにアクセスして変更する権限を持ちます。ただし、フローのアクションに関連付けられている実行ユーザは、フローの実行をトリガしたユーザになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

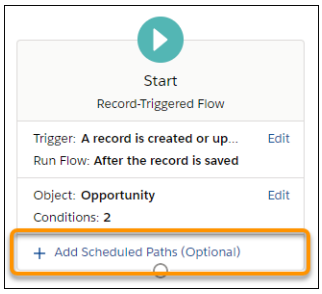
理由: プロセスビルダーのスケジュール済みアクションやワークフロールールの時間ベースのアクションに精通している場合は、レコードトリガフローのスケジュール済みパスで同じ目標やその他のことを達成できることを知ってください。



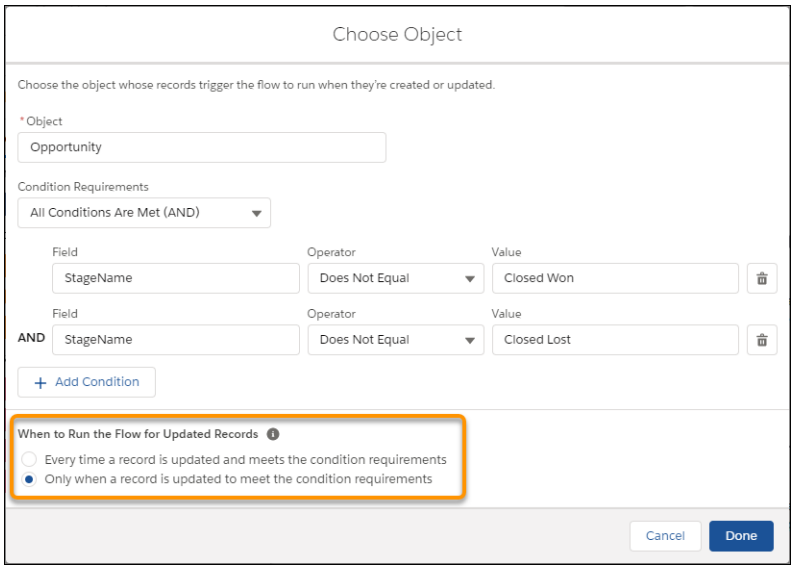
このレコードトリガフローには2つのパスがあります。商談が作成または更新されると、フローは次の別々のインタビューを異なる時間に実行します。

- 商談が作成または更新された直後(1)に、フローは商談所有者に新しい商談または再開された商談について通知します。
- 完了予定日の 1 週間前 (2) に商談がまだ価値提案フェーズにある場合、フローはリマインダーのメールを商談所有者に送信します。

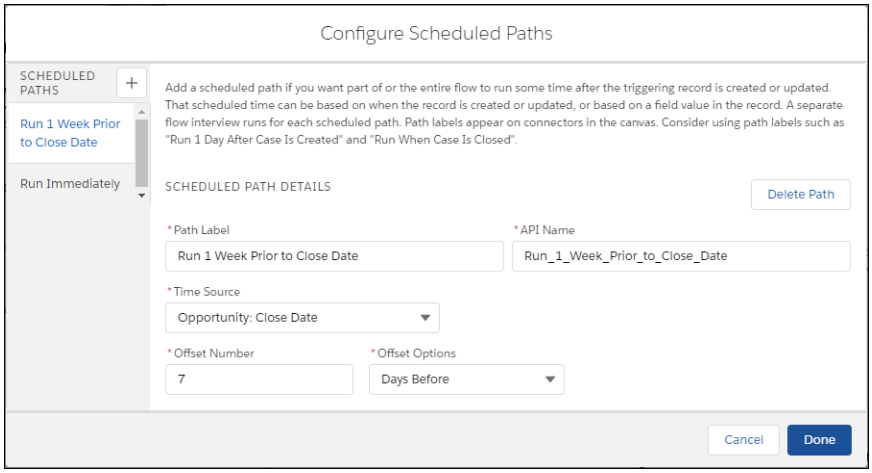
方法: スケジュール済みパスは、レコードの保存後に実行されるレコードトリガフローで使用できます。フローを開くと、スケジュール済みパスを追加するオプションが開始要素に表示されます。



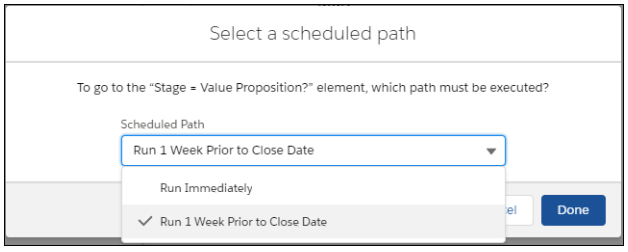
スケジュール済みパスを追加するオプションが表示されない場合は、レコードの更新時にフローの実行をトリガできるかどうかを確認してください。できる場合は、レコードが条件の要件を満たすように更新された場合のみ、更新されたレコードでフローを実行するように設定します。



スケジュール済みパスを開始要素に追加します。

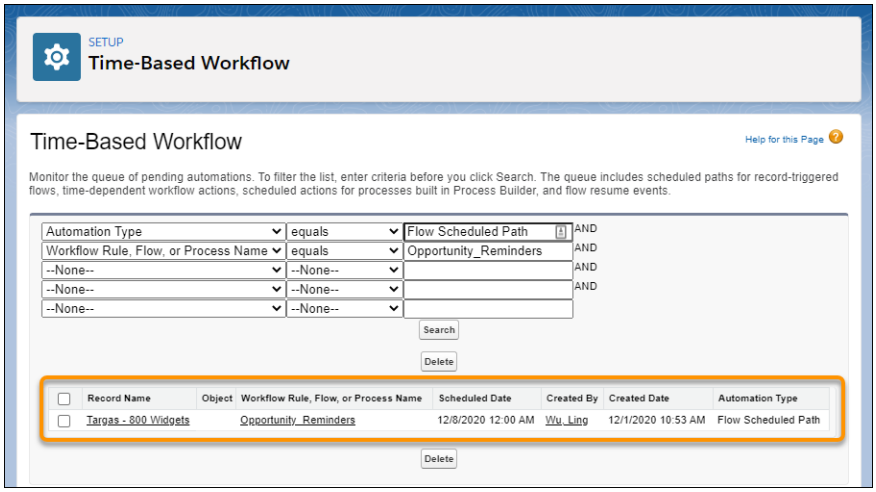


スケジュールした時間に実行するフローパスを作成します。開始要素を別の要素に接続するときに、スケジュール済みパスから選択します。



メモ: 24時間あたりのスケジュール済みパスインタビューの最大数は、250,000または組織のユーザライセンス数の200倍の大きい方です。レコードトリガフローで実行されたスケジュール済みパスごとに1つのインタビューが作成されます。すぐに実行されるパスはこの制限にカウントされません。

新規レコードまたは更新されたレコードによりフローの実行がトリガされると、スケジュール済みパスは、スケジュールされた実行時間までキューに配置されます。これらの自動化や他の待機中の自動化は、[設定]の[時間ベースのワークフロー]ページで監視できます。



メモ: 以前は、[時間ベースのワークフロー]ページには時間ベースのワークフローアクションのみが表示されていました。キューで待機している次の種別の自動化もページに表示されるようになりました。

- レコードトリガフローのスケジュール済みパス
- プロセスビルダーで作成されたプロセスのスケジュール済みアクション
- 一時停止中のフローインタビューの時間ベースの再開イベント

[オブジェクト]列には、ワークフローアクションに関連付けられたオブジェクトのみが表示されます。

スケジュール済みパスは次のデバッグログイベントで使用できます。

- FLOW_SCHEDULED_PATH_QUEUED — レコードが作成または更新された後、スケジュール済みパスがキューに追加されると、イベントが記録されます。

```
10:53:01:196 FLOW_SCHEDULED_PATH_QUEUED Run_1_Week_Prior_to_Close_Date|Targas - 800 Widgets|006RM000003FWT3|-7|Days|Tue Dec 08 08:00:00 GMT 2020
```

- FLOW_VALUE_ASSIGNMENT — スケジュール済みパスが実行されると、イベントが記録されます。

```
12:01:16:214 FLOW_VALUE_ASSIGNMENT 165c6cb998920ba685bab7c1e1761f92a07e-7fce|start__scheduledPath|Run_1_Week_Prior_to_Close_Date
```

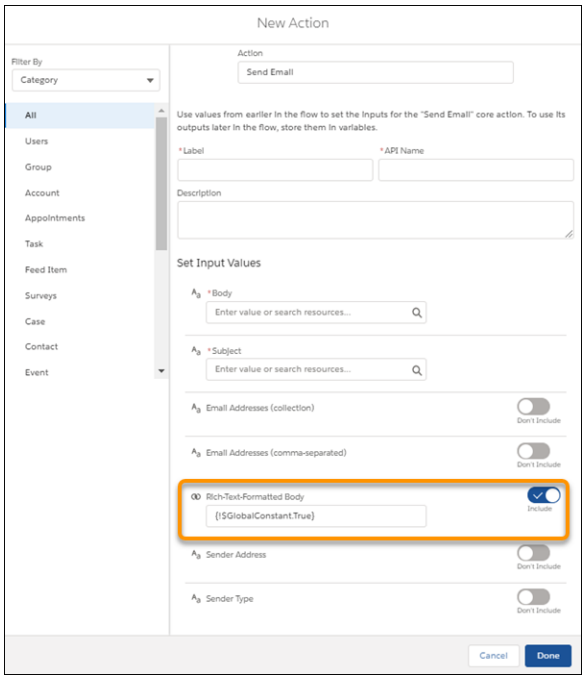
[メールを送信] アクションを使用したフローからのリッチテキストメールの送信

[メールを送信] アクションを使用してリッチテキスト形式でメールを送信します。以前は、[メールを送信] アクションではプレーンテキストのみを使用でき、リッチテキストメールを送信するにはメールアラートを使用していました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: リッチテキスト形式を使用すると、フローからメールを送信するときにより多くのオプションを使用できます。箇条書き、太字や斜体のテキスト、埋め込み画像を含めることができるようになりました。リッチテキストテンプレートや表示テキストコンポーネントで適用できるあらゆる書式をメール本文にも適用できます。

方法: [アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。[アクション] 項目に、「メール」と入力し、[メールを送信] を選択します。デフォルトでは、フローメールはプレーンテキストで送信されます。本文をリッチテキストで送信するには、[リッチテキスト形式の本文] を含めて、true に設定します。



ヒント: テキストテンプレートでメール本文を記述して [メールを送信] アクションで参照することをお勧めします。これにより、書式設定ツールにアクセスでき、複数行を記述するスペースを使用できます。テーブルや他の高度なマークアップをメールに追加するには、テキストテンプレートを作成します。リッチテキストモードでテーブルを貼り付けます。または、プレーンテキストモードでテーブルの HTML を記述し、リッチテキストモードに切り替えて適切に表示します。

フローでの再アクセス画面コンポーネントの値の制御

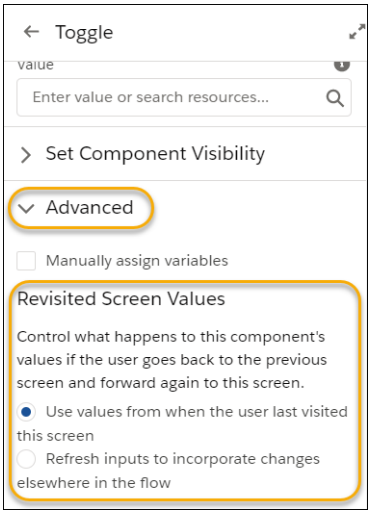
再アクセス画面コンポーネントの値を1つの画一的な方法で処理することはできません。このため、値の更新を選択できるようになりました。ユーザが前の画面に移動した後、すでにアクセスした画面に進むと、フローで画面コンポーネントの値を更新できます。フローの他の場所での変更が、更新された値に取り込まれます。以前は、画面コンポーネントは、ユーザが入力した値と同じ値を常に使用していました。再アクセス画面コンポーネントの値に関するこのオプションは Lightning コンポーネントでのみ使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: フローの他の場所で変更された値を取り込むには、画面コンポーネントの入力値を更新するオプションを選択できます。たとえば、ユーザが最初の画面で郵便番号を入力したとします。次の画面に移動すると、この郵便番号に基づいて項目値が自動的に入力されます。ユーザは最初の画面に戻って郵便番号を変更します。次の画面に再アクセスすると、項目は新しい郵便番号に基づいて更新されます。

ユーザが画面コンポーネントで入力した値を保持するには、その画面へのユーザの最後の訪問での値を使用するオプションを選択できます。たとえば、ユーザが 2 番目の画面で取引先責任者情報を入力したとします。ユーザは最初の画面に戻って概要情報を確認します。2 番目の画面に再アクセスすると、取引先責任者情報はそのままになっています。画面コンポーネントを含む既存のフローはデフォルトでこのオプションに設定されます。

方法: 切り替え画面コンポーネント、スライダ画面コンポーネント、カスタム画面コンポーネントなど、Lightning コンポーネントを画面にドラッグします。コンポーネントのプロパティペインで [詳細] を選択し、[再アクセス画面の値] のオプションを選択します。



関連トピック:

- メタデータ API

画面フローでのコールアウトエラーの自動回避

外部 API コールとも呼ばれるコールアウトを実行するフローを作成する場合、おそらく「`System.CalloutException: You have uncommitted work pending`（コミットされていない待機中の作業があります）」というエラーがあることはご存知でしょう。このコールアウトエラーを自動的に回避するように画面フローを設定できるようになりました。以前は、コールアウトとデータ操作の間にローカルアクションまたは画面要素を追加することをお勧めしましたが、その必要はなくなりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 現在のトランザクションにコミットされていない待機中の作業がある場合、フローはコールアウトを実行できません。通常、コミットされていない作業には、メールやデータ操作（作成されたレコードなど）があります。以前は、別のトランザクションでコールアウトを実行するためにデータ操作とコールアウトの間にローカルアクションまたは画面を追加していました。

方法: アクションを正常に実行するのに新しいトランザクションが必要かどうかを実行時にフローが自動的に決定できるようにアクションを設定します。

アクションを設定したリリース	デフォルトアクションの動作
Spring '21 以降	フローの決定に任せる (推奨)
Winter '21 以前	常に現在のトランザクションで続行

ヒント: 画面フローの場合は、トランザクションの最良の制御方法をフローで決定することをお勧めします。Winter '21 以前に設定されたアクションでは、トランザクションの制御を [フローの決定に任せる (推奨)] に変更してください。

アクションのトランザクションの制御オプションは、すべてのカスタムアクションの詳細設定で使用できます。また、コールアウトを実行する場合のみ、標準アクションの詳細設定で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: トランザクションのフロー

API バージョン 51.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

フロー画面コンポーネントのスタイル設定の改善

テキスト、メール、電話、住所、または選択リストコンポーネントにかかわらず、フロー画面では一貫したデザインが提供されます。Salesforce 提供のすべてのコンポーネントが、標準画面か複数列画面かにかかわらずコンテナの全体幅を使用するようになりました。コンポーネントの配置と間隔は、同等のパディングと余白により一貫しています。

対象: この変更 (スタイル設定の機能強化) は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning ランタイムとすべてのバージョンのモバイルアプリケーションのみに適用されます。

方法: この改善は、複数列画面を含め Lightning ランタイムのすべてのフロー画面に適用されます。この変更はカスタム画面コンポーネントのスタイル設定には影響しませんが、開発者にカスタムコンポーネントのスタイル設定の調整を依頼することができます。

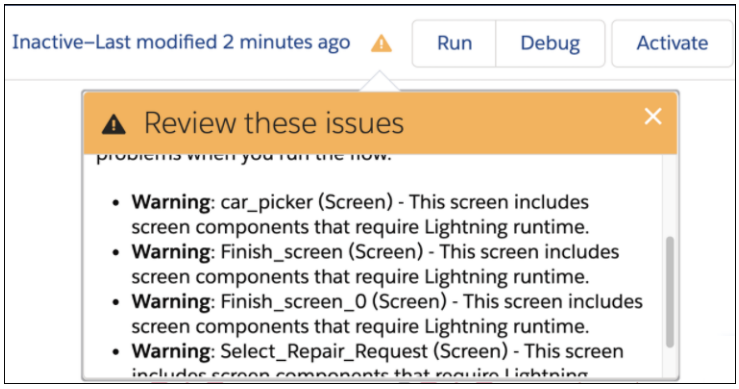
Salesforce提供のコンポーネントを使用してカスタムコンポーネントのスタイル設定の一貫性を維持するには、極小の下余白 (`slds-m-bottom_x-small`) をコンポーネントの外部レイヤに適用します。

画面フロー内で繰り返される Lightning ランタイム警告の回避

Lightning ランタイムですべての URL ベースのフローを表示するように Salesforce 組織が設定されている場合、Flow Builder には、Lightning ランタイムを必要とする各画面の警告が表示されなくなります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: フロー管理者は、警告が役に立つというよりも乱雑であると感じていました。



Lightning ランタイムですべての URL ベースのフローを表示するように組織が設定されていない場合、Flow Builder にはこれらの警告が引き続き表示されます。この場合、URL または [設定] から起動されたフローでは Classic ランタイム環境が使用されますが、Classic ランタイム環境では次がサポートされません。

- 条件付き表示
- 複数列画面のセクションコンポーネント
- カスタム画面コンポーネント
- Lightning ランタイムを必要とする、提供される画面コンポーネント (住所、連動選択リスト、名前、スライダなど)。

URL ベースのフローのランタイム環境は、組織のプロセスの自動化設定で設定できます。

画面フローの作成時に Lightning ランタイム警告が表示されるかどうかに関係なく、このガイドラインは変わっていません。Lightning ランタイムを必要とする画面がフローに含まれる場合、Lightning ランタイムでのみ実行されるようにフローを配布してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: URL ベースのフロー用のランタイム環境の設定

Salesforce ヘルプ: Lightning Runtime vs. Classic Runtime for Flows (フローの Lightning ランタイムと Classic ランタイムの比較) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 条件付き表示によるフロー画面の動的化

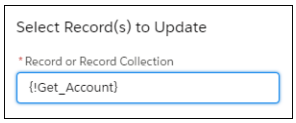
Salesforce ヘルプ: カスタム画面コンポーネントを使用したリッチな画面の作成

Flow Builder での {!Complex.Syntax} の表示を減らす

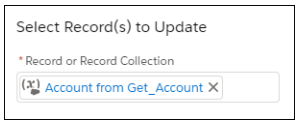
Flow Builder のより多くの場所で、ピルを使用してレコード、項目、変数、および他のフローリソースへの参照が表されるようになりました。ピルには関連するアイコンと表示ラベルが表示されます。これらをいつでもクリックして基盤となる {!Syntax} を表示できます。ピルを [レコードを作成]、[レコードを更新]、[レコードを取得]、[レコードを削除] 要素のより多くの項目で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: レコード変数またはレコードコレクション変数を選択すると、参照の構文が表示されます。この例では、[レコードを取得] 要素から自動的に保存された出力が [レコードを更新] 要素で選択されています。



この項目から離れると、ピルにより構文が置き換えられます。



デバッグまたはフローランタイムからのフローの表示ラベルをブラウザタイトルに表示

フローを実行すると、その表示ラベルがブラウザタブのタイトルに表示されるようになりました。これで、フローを容易に特定できます。以前は、ブラウザタブには判読不能なフロー URL が表示されました。スクリーンリーダーを使用する場合、ブラウザタブのタイトルからフローの表示ラベルが取得されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 以下を使用してフローを実行すると、ブラウザタブのタイトルにフローの表示ラベルが表示されます。

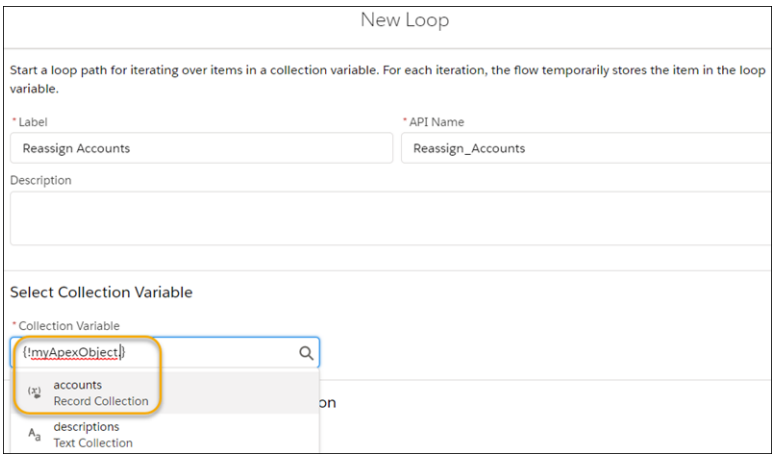
- カスタムボタンまたはカスタムリンク
- 直接 URL
- [設定] 内の [実行] ボタンまたはリンク
- [設定] 内の [デバッグ] ボタン

ループからの複雑な差し込み項目へのアクセス

Apex で定義された変数、カスタムアクションや画面コンポーネントからの出力など、複雑なオブジェクトの差し込み項目を使用してコレクションをループできるようになりました。以前は、複雑なオブジェクトの差し込み項目にはアクセスできませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ループ要素から、オブジェクトのコレクションを選択します。



[メールを送信] アクションに関する以前の問題の検出

Spring '21 より前は、[メールを送信] アクションに受信者が指定されていない場合や、指定されたメールアドレスまたは送信者タイプが無効な場合、このアクションで送信できませんでした。Spring '21 以降、上記のいずれかのエラーがある場合は依然として送信できませんが、関連するエラー処理が改善されています。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: [メールを送信] 設定にメール受信者が 1 人も設定されていない場合、警告メッセージによって新規または既存のフローを有効化できなくなりました。さらに、[メールを送信] 設定に指定されているメールアドレスまたは送信者タイプが無効な場合は、実行時に失敗する可能性があることが検証メッセージで通知されます。

保存および有効化されているフローについては、実行時の改善によって上記の 3 つのエラーが検知されるようになりました。

メモ: [メールを送信] アクションの 2 つの受信者パラメータは省略可能として処理されますが、そのうちの少なくとも 1 つに値を指定する必要があります。

フローのデバッグ

デバッグツールの機能強化により、フローのテストとトラブルシューティングが容易になりました。エラーメールの多くに Flow Builder が開くリンクが含まれるようになりました。Flow Builder では、キャンバスでのインタビューのパスとエラーの詳細を確認できます。スケジュールトリガフロー、およびトリガのない自動起動フローをキャンバスで直接デバッグします (正式リリース)。

このセクションの内容:

失敗したフローのより容易なデバッグ

実行中の問題を見つけ出すために長いフローエラーメールをスクロールする必要はもうありません。エラーメール内のリンクをクリックするだけで、Flow Builder を開き、キャンバスで失敗したフローインタビューのパスを確認できるようになりました。詳細なエラー情報がキャンバスの横に表示されます。

スケジュールトリガフローでの一貫した用語および直接デバッグによるフローの容易なデバッグ

トリガによらない自動起動フローに加えて、キャンバスでの直接デバッグでスケジュールトリガフローがサポートされるようになりました。また、Flow Builder の要素名に合わせてフローデバッグの詳細およびエラーメールのテキストが更新されました: Create Records、Update Records、Get Records、Delete Records。

デバッグログでの正確なフロー情報の確認

デバッグログの FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE ログ行に、特定のフローまたはプロセスによって使用された合計 CPU 時間が記録されるようになりました。また、FLOW_INTERVIEW_LIMIT_USAGE ログ行に、API バージョン 51.0 以降で実行するように設定されたフローおよびプロセスによって使用された CPU 時間が正確に記録されるようになりました。

失敗したフローのより容易なデバッグ

実行中の問題を見つけ出すために長いフローエラーメールをスクロールする必要はもうありません。エラーメール内のリンクをクリックするだけで、Flow Builder を開き、キャンバスで失敗したフローインタビューのパスを確認できるようになりました。詳細なエラー情報がキャンバスの横に表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 失敗したフローインタビューを Flow Builder で開くには、「フローの管理」権限が必要です。

理由: 以前は、フローエラーメールからフローをデバッグすることは手間のかかる作業でした。この改善によりフローのデバッグが大幅に簡単かつ効率的になります。

Flow Builder で自由形式のレイアウトを使用して作成された次のフロー種別のフローインタビューが失敗すると、そのフローインタビューは保存され、Flow Builder で開くことができます。

- 画面フロー
- レコードトリガフロー
- スケジュールトリガフロー
- トリガされていない自動起動フロー

次の場合、失敗したフローインタビューは保存されません。

- フローが管理パッケージの一部としてインストールされており、テンプレートではない。
- フローインタビューが一時停止されてから少なくとも 1 回再開された後、失敗が発生した。
- エラーが発生した要素が障害コネクタに接続されているために、エラーが処理された。
- Apex テストメソッド中に失敗が発生した。
- フローが標準フローである。
- フローのメタデータ項目 `status` の値が `Draft` または `InvalidDraft` である。

失敗したフローインタビューは、データ、ファイル、または一時停止中のフローインタビューのストレージ制限にカウントされません。失敗したフローインタビューが保存されると、保存されたフローインタビューは最大 14 日間使用でき、その後、データベースから自動的に削除されます。

失敗したフローインタビューが保存されるときに、次の制限が適用されます。

- 特定のフローについては、24 時間で 100 件を超える失敗したフローインタビューは保存されません。

- 同じトランザクション内の最大200件の失敗したフローインタビューのバッチに対して、1つのインタビューが保存されます。
- 組織のすべてのフローについては、24時間で3,000件を超える失敗したフローインタビューは保存されません。
- 1 MB を超える失敗したフローインタビューは保存されません。
- データベースに 1 GB を超える失敗したフローインタビューがすでに保存されている場合、失敗したフローインタビューは保存されません。

フローエラーメール内のフロー要素の名前と、Flow Builder のデバッグの詳細も更新されました。

- [高速検索] が [レコードを取得] になりました
- [高速更新] が [レコードを更新] になりました
- [高速削除] が [レコードを削除] になりました

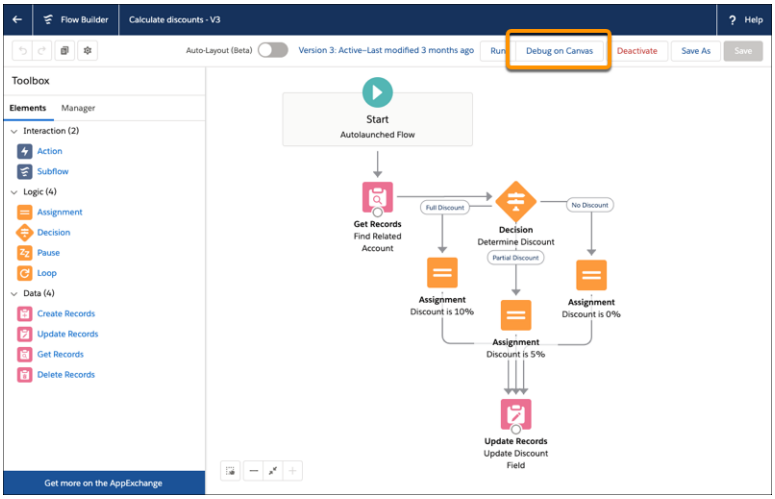
方法: フローエラーメールで [フローエラー: **Flow Builder** でエラーをデバッグするには、こちらをクリックしてください] をクリックします。

スケジュールトリガフローでの一貫した用語および直接デバッグによるフローの容易なデバッグ

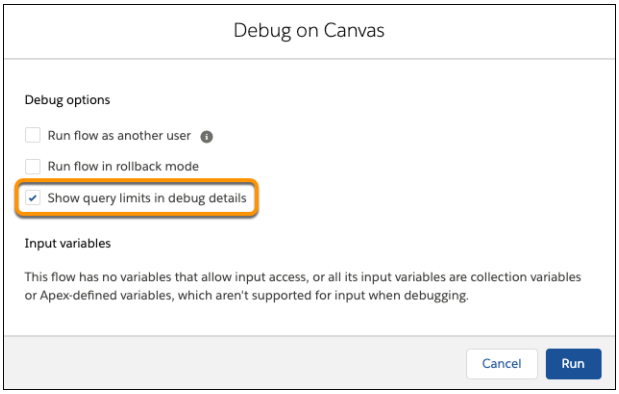
トリガによらない自動起動フローに加えて、キャンバスでの直接デバッグでスケジュールトリガフローがサポートされるようになりました。また、Flow Builder の要素名に合わせてフローデバッグの詳細およびエラーメールのテキストが更新されました: Create Records、Update Records、Get Records、Delete Records。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

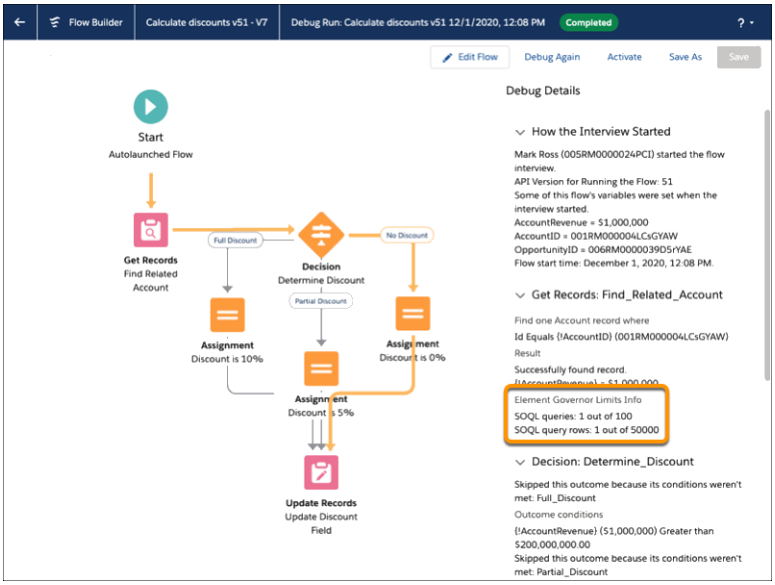
方法: スケジュールトリガフローおよびトリガによらない自動起動フローをキャンバスで直接デバッグするには、[キャンバスでデバッグ] をクリックします。



必要に応じて、[デバッグの詳細にクエリ制限を表示] を有効にし、各データ要素の消費の制限および DML および SOQL クエリアクティビティをデバッグの詳細に表示します。データ要素には、[レコードを作成]、[レコードを更新]、[レコードを取得]、[レコードを削除] が含まれます。



キャンバスにデバッグの実行のパスを表示するには、[実行]をクリックします。デバッグの詳細には、有効にした情報が表示されます。



デバッグログでの正確なフロー情報の確認

デバッグログの FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE ログ行に、特定のフローまたはプロセスによって使用された合計 CPU 時間が記録されるようになりました。また、FLOW_INTERVIEW_LIMIT_USAGE ログ行に、API バージョン 51.0 以降で実行するように設定されたフローおよびプロセスによって使用された CPU 時間が正確に記録されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 特定のフローインタビューによって使用された合計 CPU 時間を確認するには、**FINER** レベルで `Workflow` カテゴリを追跡するようにデバッグログレベルを設定します。次の例は、24 ミリ秒の CPU 時間を使用したフローインタビューを示しています。

```
17:55:23.4
(54913106)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED|3320cb8f84e00adccd6746d958a117644c8b540-65aa|2MyFlow
17:55:23.4 (54975319)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOQL queries: 0 out of 100
17:55:23.4 (54989097)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOQL query rows: 0 out of 50000
```

```
17:55:23.4 (54997299)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOSL queries: 0 out of 20
17:55:23.4 (55008221)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|DML statements: 0 out of 150
17:55:23.4 (55021122)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|DML rows: 0 out of 10000
17:55:23.4 (55029753)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|CPU time in ms: 24 out of 15000
17:55:23.4 (55069484)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Heap size in bytes: 1040 out of
 6000000
17:55:23.4 (55078169)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Callouts: 0 out of 100
17:55:23.4 (55089761)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Email invocations: 0 out of 10
17:55:23.4 (55097357)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Future calls: 0 out of 50
17:55:23.4 (55104650)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Jobs in queue: 0 out of 50
```

関連トピック:

See Accurate CPU Time Usage of Flows and Processes (フローおよびプロセスの正確な CPU 使用時間の確認)

フロー管理

第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを、パッケージをアンインストールせずに削除できるようになりました。

このセクションの内容:

パッケージのアンインストールなしでパッケージからインストールされたフローバージョンを削除
登録者組織で、第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを削除できるようになりました。以前は、第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを削除するには、パッケージをアンインストールする必要がありました。

パッケージのアンインストールなしでパッケージからインストールされたフローバージョンを削除

登録者組織で、第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを削除できるようになりました。以前は、第一世代管理パッケージからインストールされたフローバージョンを削除するには、パッケージをアンインストールする必要がありました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 次のようなフローバージョンを削除できるようになりました。

- 無効化されている。
- 組織にインストールされているフローの最新バージョンではない。
- 一時停止中のフローインタビューに関連付けられていない。フローバージョンに一時停止中のインタビューがある場合は、これらのインタビューが終了または削除されるまで削除できません。

方法: [設定] から、[フロー] リストビューで、第一世代管理パッケージからインストールされたフローの行にある下矢印をクリックします。[詳細とバージョンの表示] を選択します。フローの詳細ページで、必要に応じてフローバージョンを無効化し、[削除] をクリックします。

フロー拡張

呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティエディタが正式リリースされました。カスタムプロパティエディタでは、フローの自動的に保存された変数にコンポーネント入力としてアクセスすることもできます。

このセクションの内容:

カスタムプロパティエディタを使用した Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定 (正式リリース)
開発者は、Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、単なる Lightning Web コンポーネントです。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。パッケージと変更セットが、呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタを含むフローでサポートされるようになりました。

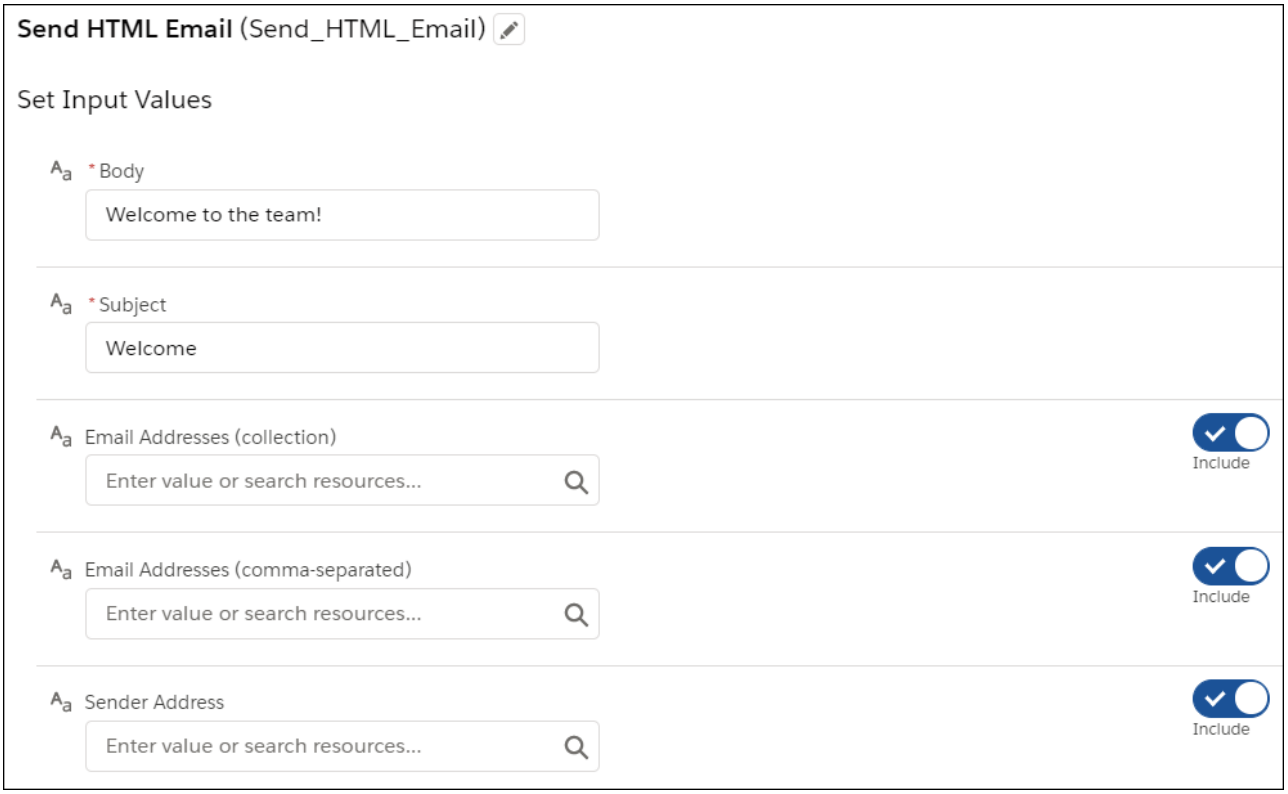
Flow Builder のカスタムプロパティエディタからアクセスできる出力値の増加
自動的に保存された値を使用して、カスタムプロパティエディタで入力および出力を設定できるようになりました。以前は、手動でフロー変数に割り当てられた値の使用に制限されていました。

カスタムプロパティエディタを使用した Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定 (正式リリース)

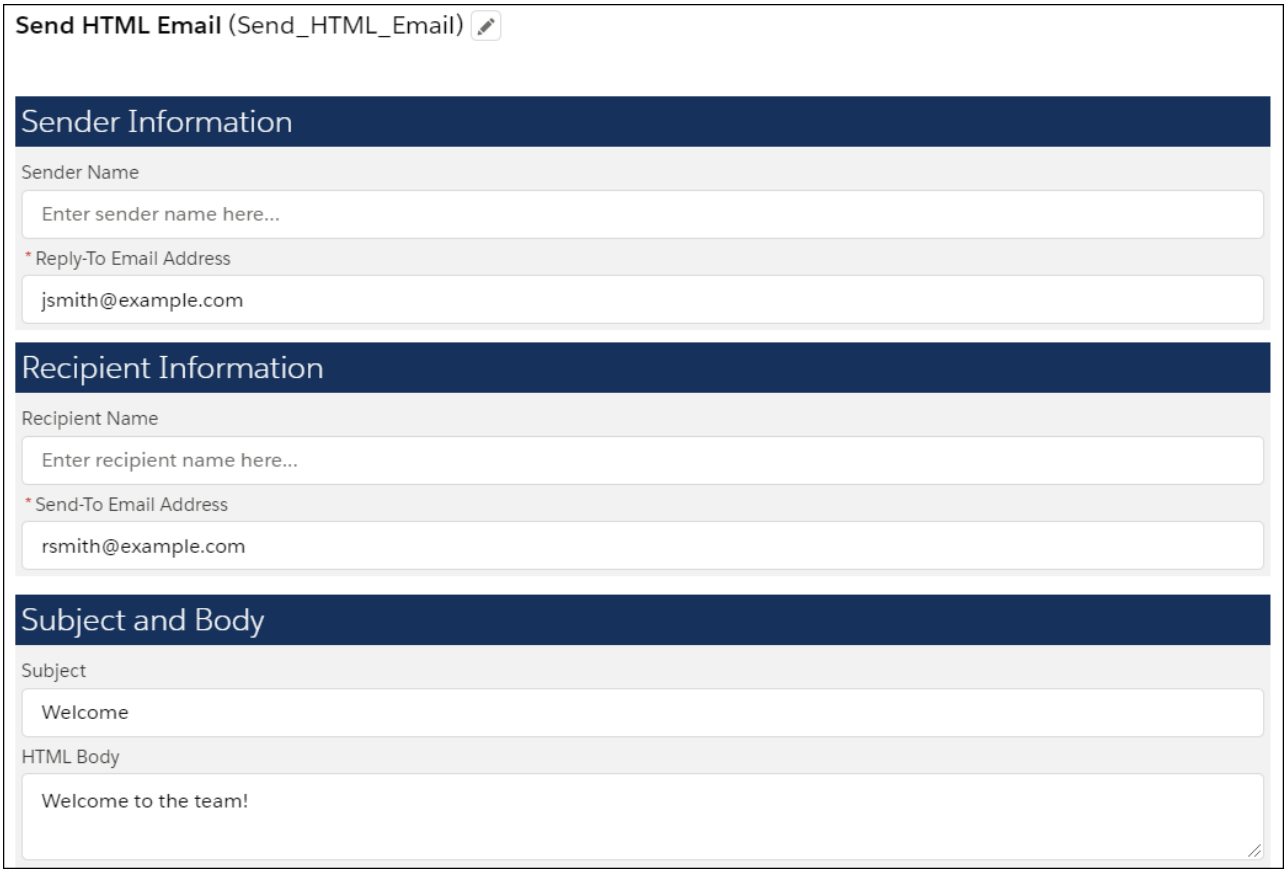
開発者は、Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、単なる Lightning Web コンポーネントです。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。パッケージと変更セットが、呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタを含むフローでサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、カスタムアクションを設定するときの UI がテキストボックスとコンボボックスで構成されていました。アクションを作成する開発者は、プロパティエディタの UI を制御できませんでした。



今回のリリースでは、開発者は設定するときに簡潔でシンプルな環境を提供するカスタムアクションを作成できるようになりました。



関連トピック:

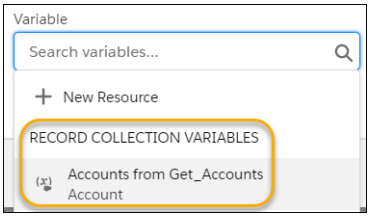
呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタの作成 (正式リリース)

Flow Builder のカスタムプロパティエディタからアクセスできる出力値の増加

自動的に保存された値を使用して、カスタムプロパティエディタで入力および出力を設定できるようになりました。以前は、手動でフロー変数に割り当てられた値の使用に制限されていました。

対象: この変更は、Lightning Experience の Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: コンボボックスや選択リストなどの入力または出力を設定するときに、自動的に保存された値がオプションとして表示されます。たとえば、Get Records 要素から自動的に保存された値はカスタムアクションのカスタムプロパティエディタでこの入力のオプションとして表示されます。



関連トピック:

自動出力にアクセスする Flow Builder のカスタムプロパティエディタの作成

フローおよびプロセスのリリース更新

フローおよびプロセスによるCPU時間消費が正確に測定され、適用されるようになりました。一時停止中のインタビューを、一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開します。プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子が考慮されます。

このセクションの内容:

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、適用)

このリリース更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部REST APIコールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。この更新は、Winter '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。この更新は再び延期され、Spring '21 で適用されます。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

この更新により、Flow Builderが差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新がSummer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、適用)

このリリース更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、延期されて Spring '21 で適用されます。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化(Apex トリガなど)に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

画面フローの利用状況の分析 (更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、適用)

このリリース更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。この更新は、Winter '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。この更新は再び延期され、Spring '21 で適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: このリリース更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能なアクションがエラーになると、同じトランザクションの他の呼び出し可能なアクションがロールバックされます。このリリース更新を適用すると、Salesforce は正常に実行された呼び出し可能なアクションの実行を3回試行し、実行に失敗した呼び出し可能なアクションのみをロールバックします。この機能は「部分的保存」と呼ばれます。

REST API で呼び出されるほとんどの呼び出し可能なアクション種別は、この部分的保存機能に対応しています。ただし、このリリース更新を適用しても、以下のアクション種別は部分的保存機能をサポートしません。

- 履行注文をキャンセル
- 解約注文
- 資金を捕捉

- コンテンツワークスペース
- 履行注文を作成
- 履行注文から請求書を作成
- サービスレポートを作成
- 外部サービス
- 作業指示を生成
- 呼び出し可能な Apex
- スキルベースのルーティング
- デジタルフォームの回答を登録

部分的保存により、外部コールアウトが複数回発生して、それらの外部コールアウトがロールバックできなくなる場合があります。外部コールアウトが繰り返されるのは、フローがプロセスから開始されるか、または REST API から呼び出され、そのフローが外部コールアウトを伴うアクションを複数回実行しようとしている場合のみです。

部分的保存により、アクションの実行が複数回試行されるため、トランザクションに予想より時間がかかることがあります。これにより、組織が予想より早く制限に達してしまう場合があります。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。適用前に、または本番組織でこのリリース更新を有効化する前に、Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストを実行し、お使いの呼び出し可能なアクションが正しく機能することを確認しておくことをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新] を選択します。[呼び出し可能なアクションの部分的な保存の有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

呼び出し可能なアクションを使用する API インテグレーションが部分的な保存の動作に適切に対応していることを確認します。

関連トピック:

リリース更新

フローおよびプロセスのリリース更新

Winter '21 リリースノート: 呼び出し可能なアクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

この更新により、Flow Builder が差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Summer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Summer'21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新を有効にすると、関連レコードにアクセスするフロー差し込み項目は、実行ユーザのオブジェクト権限、項目レベルのアクセス権、およびレコードレベルのアクセス権 (共有ルールなど) に従います。

たとえば、取引先責任者の所有者が他のユーザと取引先責任者を明示的に共有しない限り取引先責任者が非公開になる組織について考えてみます。

この更新が有効になっていない場合、取引先責任者の所有者ではないユーザが、差し込み項目を使用して取引先責任者レコードの項目にケースの Contact ID 項目経由でアクセスするフローを実行すると、フローインタビューはレコードレベルのセキュリティを無視して項目にアクセスします。

```
{!caseRecord.Contact.LastName}
```

この更新を有効にすると、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権が適用されるため、フローインタビューは項目にアクセスできません。

方法: この更新は、事前に Sandbox 組織でテストしてから本番組織で有効化することをお勧めします。差し込み項目を使用してオブジェクトレベルのセキュリティ、項目レベルのセキュリティ、またはレコードレベルのセキュリティを持つ関連レコードの項目にアクセスするすべてのフローパスをテストします。たとえば、フローを実行するユーザとは共有されていない関連レコードの項目に差し込み項目を使用してアクセスするフローをテストします。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。[フローの差し込み項目でデータアクセス権を適用] で、テストと有効化の手順を実行します。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新
- *Winter '21* リリースノート: フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、適用)

このリリース更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、延期されて Spring '21 で適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この更新では、従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子がフローで考慮されないという問題が解決されます。この問題は、管理パッケージからインストールされた Apex クラスを参照する従来の Apex アクションにのみ影響します。

従来の Apex アクションは Apex プラグインと呼ばれていました。組織に `Process.Plugin` インターフェースを実装する Apex クラスを定義すると、Flow Builder で従来の Apex アクションとして使用できます。

メモ: 新しい Apex インテグレーションでは、`Process.Plugin` インターフェースではなく `InvocableMethod` アノテーションを使用することをお勧めします。この更新は呼び出し可能な Apex メソッドには影響しません。

この更新を有効にした場合、次のようになります。

- フローは従来の Apex 公開アクションを実行したときに失敗します。
- 従来の Apex 公開アクションは Flow Builder では使用できません。
- `describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できません。

この更新が有効になっていない場合、従来の Apex 公開アクションは、サポートされていなくてもフローに追加できます。また、`describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できます。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を Sandbox または開発者組織でテストしてから、本番で有効にすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。従来の Apex アクション要素を含むすべてのパスをテストして、フローが適切に機能することを確認します。ビジネスプロセスにとって重要な従来の Apex アクションがこの更新でサポートされない場合は、パッケージ開発者にお問い合わせください。開春者は、従来の Apex アクションをグローバルにするか、新しい Apex クラスで機能を再作成することを考慮することができます。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新] を選択します。[フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮] で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

リリース更新

フローおよびプロセスのリリース更新

Winter '21 リリースノート: フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プロセスおよびフローで、数式はレコード変数や参照関係項目を介してレコードの項目を参照できます。実行時に、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で null が返されることがあります。それ以外の場合は、未対応の例外が返されます。この更新により、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で常に null 値が返されるようになります。この更新は差し込み項目には影響しません。

たとえば、取引先を更新すると、プロセスが開始され、アクションを実行する前に条件がチェックされます。条件には、取引先の [親取引先] 項目を介して親取引先の名前を参照する数式が含まれています。[親取引先] 項目は参照関係項目です (`[Account].Parent.Name`)。

参照関係項目の値が null の場合、数式で null が返されます。この更新を行わないと、数式で null ではなく未対応の例外が返されることがあります。

時期: この更新は、Spring '22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。参照関係項目やレコード変数項目を参照するすべてのプロセスおよびフローの数式をテストします。プロセスの場合、条件やアクションに数式があります。フローの場合、リソースや入力コンポーネントの入力規則に数式があります。この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」の場合、テストおよび有効化ステップを実行します。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新
- *Winter '21* リリースノート: プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: 自動起動フローが時間ベースの再開イベント後に再開すると、フローは共有なしのシステムコンテキストで実行されます。フローは、一時停止前のコンテキストやユーザアクセス権には関係なく、常にこの方法で再開されます。この更新を有効化すると、常に一時停止前と同じコンテキストと同じ権限でフローが再開されます。

たとえば、レコード A を編集する権限を持っていないユーザがカスタムボタンをクリックして自動起動フローを実行したとします。まず、自動起動フローはユーザコンテキストで実行されます。フローを一時停止して再

開すると、フローはシステムコンテキストで実行され、レコードAを編集できるようになります。この更新を有効化することで、実行ユーザが編集権を持たないレコードをフローが編集してしまうことを防止できます。

この更新は、特定の時間に再開するように設定された一時停止要素のある自動起動フローにのみ影響します。

この更新により、ユーザがアクセス権を持たないレコードを意図せずに作成または編集してしまうことを防止できるため、Salesforce 組織のセキュリティが強化されます。

方法: 自動起動フローインタビューを一時停止して、時間ベースの再開イベント後に再開すると、エラーとなることがあります。フローインタビューのエラーを回避するには、各一時停止要素後のすべてのフロー要素を実行するのに必要な権限が実行ユーザに割り当てられていることを確認してください。または、常にシステムコンテキストで実行されるように自動起動フローを設定することもできます。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。「同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する」のテストと有効化の手順に従ってください。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化 (Apex トリガなど) に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Summer'22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。「フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定」リリース更新を取得するには、テストおよび有効化の手順を実行します。

フローまたはプロセスによりトランザクションが CPU 時間の制限を超えた場合、それらは失敗します。複雑なフローやプロセスでは、この制限を超える可能性が高くなります。フローまたはプロセスの CPU 使用時間を減

らすには、要素、数式、およびクロスオブジェクト参照の数を減らします。各要素、条件ノード、アクションで使用されている CPU 時間はデバッグログで確認できます。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新
- *Salesforce ヘルプ*: トランザクション単位のフローの制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

画面フローの利用状況の分析 (更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新により、画面フローの実行時の詳細がフローインタビューログレコードとフローインタビューログエントリレコードに保存されます。[サンプルフローレポート:画面フロー] レポートを実行して、そのデータの分析をすぐに開始できます。

また、[画面フロー] カスタムレポートタイプを使用してカスタムレポートを作成することもできます。または、フローインタビューログオブジェクトおよびフローインタビューログエントリオブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成できます。次に、ユーザはこのカスタムレポートタイプを使用してカスタムレポートを作成できます。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。「画面フローの利用状況の分析」リリース更新を取得するには、テストと有効化の手順を実行します。

ユーザが画面フローの実行や操作を行うと、利用状況データが収集され、[サンプルフローレポート: 画面フロー] レポートで使用できるようになります。レポートを実行し、画面フローからのデータが含まれていることを確認します。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新
- *Summer '20 リリースノート*: 画面フローの利用状況の分析

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の*元*の値を評価します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Winter '22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新] を選択します。[プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価] で、テストと有効化の手順を実行します。

[レコードに指定の変更が行われた場合にのみアクションを実行しますか?] オプションが選択されているプロセスがある場合、または条件で `ISCHANGED()` 関数を使用している場合、この更新によってプロセスが異なって動作する可能性があります。

関連トピック:

- リリース更新
- フローおよびプロセスのリリース更新
- *Winter '21* リリースノート: プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: 元々 Spring '20 でリリースされたこの更新が 2 度の延期を経て、Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ: この更新を適用できるのは、更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」を有効にしている Salesforce 組織のみです。

更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」を有効にしている場合は、更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」によって組織が元の望ましい状態に戻ります。この状態では、Apex を呼び出すために Flow Builder で構築したフローやプロセスビルダーで構築したプロセスで、Apex クラスへのユーザアクセス権が不要になります。ユーザがフローまたはプロセスを実行できる場合は、その Apex アクションに暗黙的にアクセスできます。

メモ:

- いずれのリリース更新も、ユーザアクセスが制限されることのない、フローの従来の Apex アクション (Apex プラグイン) には影響ありません。
- Spring '21 で Apex を呼び出したときにフローまたはプロセスが失敗するようになったときは、早目にこの更新を有効にすることをお勧めします。この更新を有効にすると、通常「このフローで未対応の障害が発生しました」というメッセージを表示するこれらのエラーが修正されます。詳細は、既知の問題「Restricted Access Causing Flows to Fail in Spring '21 (Spring '21 の制限されたアクセスに起因するフローの失敗)」を参照してください。

方法: Apex を呼び出すフローまたはプロセスがある場合は、次の準備手順を実行することを強くお勧めします。

- プロファイルまたは権限セットを使用して Apex クラスへのアクセス権をユーザに付与した場合は、そのアクセス権を取り消して、最小権限の原則を適用することをお勧めします。ただし、最初に、ユーザがフローやプロセスの実行以外の理由でこれらの Apex クラスにアクセスする必要がないことを確認します。
- フローに対するデフォルトのユーザアクセス権を上書きすることを検討します。デフォルトでは、ユーザにフローユーザ機能ライセンス、「フローを実行」権限、「フローの管理」権限があればフローを実行できます。フローごとに、デフォルトの動作を上書きして、有効化されたプロファイルまたは権限セットにアクセスを制限することをお勧めします。

  たとえば、Experience Cloud サイトで認証されていないゲストユーザがフローを実行できないようにするには、フローのユーザアクセスを、有効になっているプロファイルまたは権限セットに制限します。次に、特定のプロファイルまたは権限セットを有効にして、適切なユーザにアクセス権を付与します。

メモ: 準備手順についての詳細は、リリース更新「「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」の準備」ナレッジ記事を参照してください。

この準備手順は、セキュリティのベストプラクティスとして推奨されます。ただし、必須ではありません。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」を有効にしても、既存の実装には影響ありません。たとえば、ユーザの権限セットとプロファイルで引き続き Apex クラスへの明示的なアクセス権を付与できます。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。[Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化] で、テストと有効化の手順に従います。

関連トピック:

リリース更新

フローおよびプロセスのリリース更新

Summer '20 リリースノート: フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)

Winter '21 リリースノート: Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

Salesforce ヘルプ: フローセキュリティの仕組み

API バージョン 51.0 でのフローおよびプロセス実行時の改善

この更新は、API バージョン 51.0 以降で実行されるように設定されているフローとプロセスにのみ影響します。バージョン管理された更新では、都合に合わせてフローおよびプロセスごとに実行時の動作の変更をテストおよび採用できます。フローの実行時 API バージョンを変更するには、Flow Builder でフローを開いて、フローバージョンのプロパティを編集します。プロセスの実行時 API バージョンを変更するには、プロセスビルダーでプロセスを開いて、そのプロパティを編集します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

無効な条件および条件ロジックを false 値ではなくエラーとして処理

無効な参照が条件に含まれていたり、条件ロジックが無効であったりすると、実行時の結果がエラーとなるようになりました。API 51.0 よりも前のバージョンで実行されるフローおよびプロセスでは、無効な条件および条件ロジックは false に評価されました。

たとえば、フローの決定要素に、フローに存在しない変数を参照している `{!VariableNotInFlow} LESS THAN 100` という条件が含まれているとします。API バージョン 51.0 以降で実行されるフローでは、決定要素が実行されるとエラーが発生します。API 51.0 よりも前のバージョンで実行されるフローでは、条件は false に評価されます。つまり、VariableNotInFlow は 100 未満として考慮されません。

プロセスの各アクショングループの条件に条件と条件ロジックが含まれます。開始、決定、一時停止、および Salesforce レコードにアクセスする要素を含め、多くのフロー要素に条件が含まれている可能性があります。

一括処理されるフロー要素での予期しない障害パスの実行を回避

[レコードを作成]、[レコードを更新]、または[レコードを削除]要素の一括実行時は、失敗したインタビューのみが障害パスを辿ります。API 51.0 よりも前のバージョンで実行されるフローでは、1 つのインタビューのみが障害パスを辿る場合でも、バッチ内のすべてのインタビューが障害パスを辿ります。

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定

このバージョン管理された更新では、API バージョン 51.0 で実行されるフローに対して「フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定」リリース更新が有効化されます。リリース更新の自動有効化後、更新は、フローの実行時 API バージョンにかかわらずすべてのフローに適用されます。

フローでコールアウトエラーのないアクションを実行

フローでコールアウトが実行された後、同じトランザクション内で実行された後続のコールアウトによりフローが失敗すると、影響を受けたコールアウトでエラーが発生します。

このエラーに対処するには、次の操作を実行します。

- アクションのトランザクション制御を変更せずにフローの API バージョンを v51.0 に設定します。
- トランザクションの制御方法をフローで決定するように各アクションを更新します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローの条件の定義

Salesforce ヘルプ: Lightning プロセスビルダー

Salesforce ヘルプ: トランザクションでのフローの一括処理

Salesforce ヘルプ: フローが失敗した場合の処理のカスタマイズ

See Accurate CPU Time Usage of Flows and Processes (フローおよびプロセスの正確な CPU 使用時間の確認)

画面フローでのコールアウトエラーの自動回避

Einstein ビルダー

Einstein レコメンデーションビルダーが正式リリースされ、作業時にデータがチェックされるようになりました。Einstein 予測ビルダーを使用して管理パッケージの予測を構築します。

このセクションの内容:

データチェッカーを使用したおすすめの検証 (正式リリース)
自信をもって AI おすすめを構築します。データチェッカーでは、構築時にデータが検証され、十分なデータがない場合にアラートが表示されるため、設定を調整してエラーを回避できます。

おすすめへのアクセスの簡易化 (正式リリース)
Einstein レコメンデーションビルダーにより、[設定] のタイルを使用してより簡単におすすめを構築してアクセスできます。

管理パッケージの予測の構築
Einstein 予測ビルダーで構築された予測を管理パッケージに含めることができるようになりました。

失敗した予測の構築の再試行
失敗した予測によって 1 日を台無しにする前に、Einstein 予測ビルダーの再試行アクションを使用してもう一度構築をやり直します。

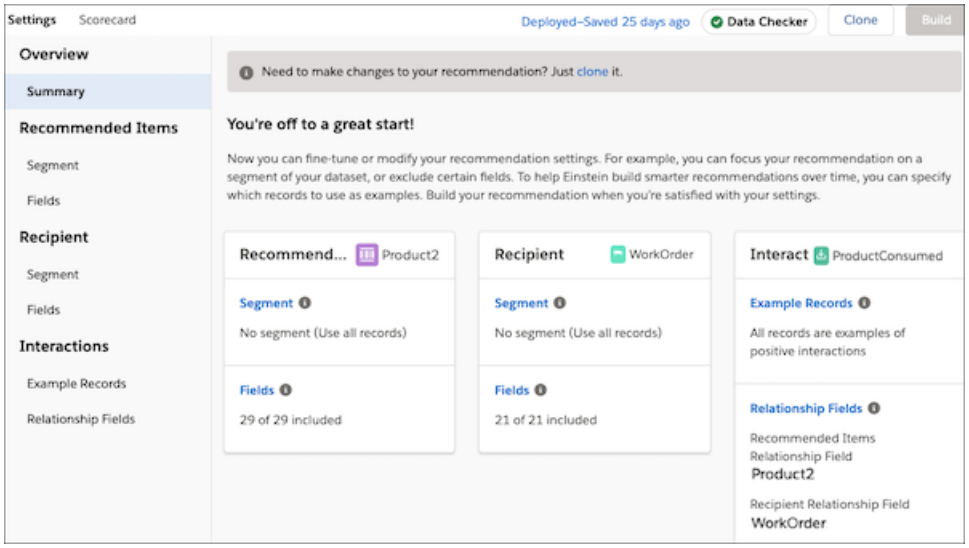
データチェッカーを使用したおすすめの検証 (正式リリース)

自信をもって AI おすすめを構築します。データチェッカーでは、構築時にデータが検証され、十分なデータがない場合にアラートが表示されるため、設定を調整してエラーを回避できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Service Cloud Einstein および Lightning Platform Plus ライセンスで使用できます。

理由: おすすめの構築時に、[設定] ページの上部にあるデータチェッカーでおすすめを構築するのに十分なレコードがあることを確認します。

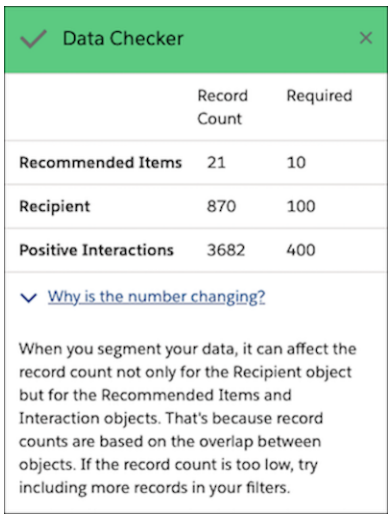


データチェッカーにより、おすすめを構築するときにデータに関するフィードバックが得られます。おすすめ項目オブジェクトである予備部品を受信者オブジェクトである作業指示に対して推奨するとします。Einsteinが新しい作業指示で関連した部品を推奨できるように、インタラクションオブジェクトである使用された製品を

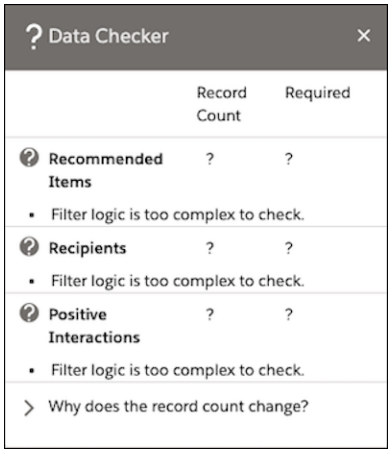
使用して、過去に類似の作業指示で使用された部品を指定します。作業指示の種別または推奨する部品に焦点を絞る区分を定義します。データチェッカーは構築時に動作し、3つのオブジェクトすべてのデータを確認して、おすすめを構築するのに十分なレコードがない場合にアラートを表示します。

構築時に、データチェッカーによっておすすめデータに関するフィードバックが得られます。

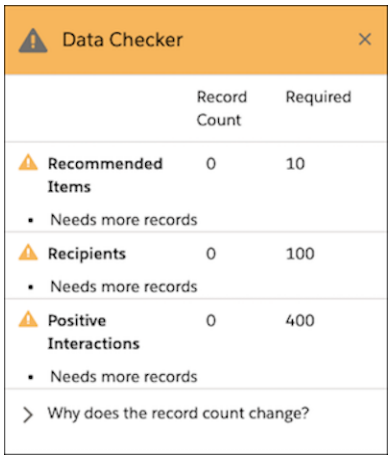
チェックマークは、おすすめに正常に構築を行うのに十分なデータがあることを示します。



疑問符は、データチェッカーがすべてのオブジェクトで正確なレコード数を取得できなかったことを意味しますが、おすすめを構築することはできます。



警告記号は、現在の設定でおすすめを構築するのに十分なレコードがない場合に表示されます。または、プラスのインタラクションとマイナスのインタラクションで同じレコードが使用されている場合です。



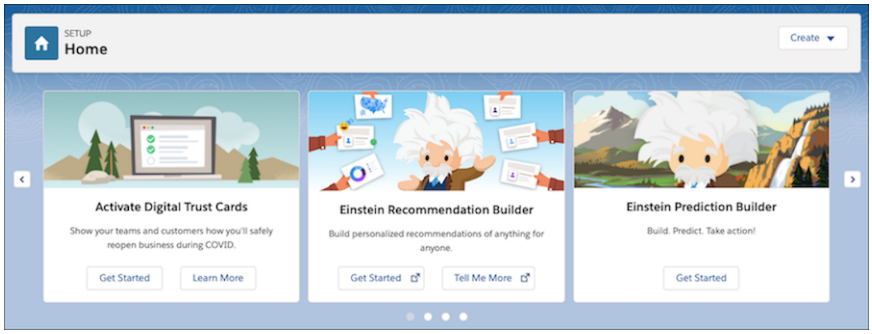
おすすめへのアクセスの簡易化 (正式リリース)

Einstein レコメンデーションビルダーにより、[設定] のタイルを使用してより簡単におすすめを構築してアクセスできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Service Cloud Einstein および Lightning Platform Plus ライセンスで使用できます。

方法: [設定] からページ上部のタイトルにある Einstein レコメンデーションビルダーにアクセスします。



管理パッケージの予測の構築

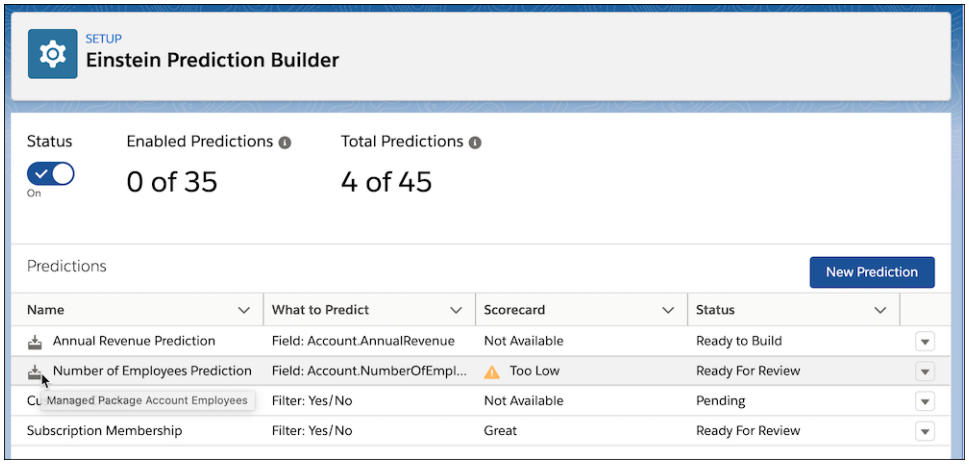
Einstein 予測ビルダーで構築された予測を管理パッケージに含めることができるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、EinsteinBuilderFree、または Platform Plus ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: 管理パッケージのインストール後に、[設定] の [Einstein 予測ビルダー] の予測のリストに移動します。管理パッケージの予測は特別なアイコンで識別されます。アイコンの上にカーソルを置くと、パッケージ名が表

示されます。構築するまで状況は[ビルド準備完了]です。アクションメニューから構築します。準備ができたら、スコアカードを確認して予測を有効にすることもできます。



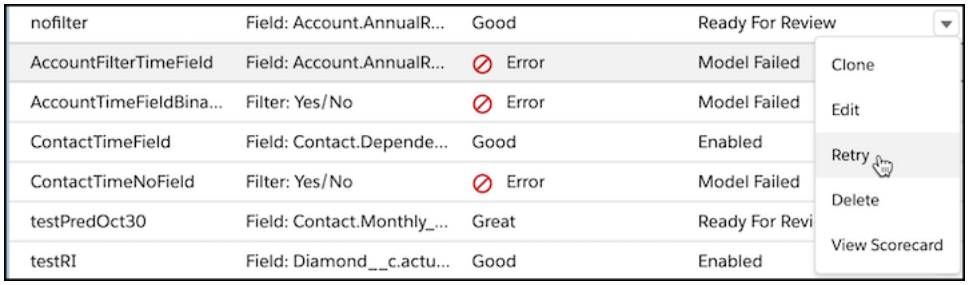
失敗した予測の構築の再試行

失敗した予測によって1日を台無しにする前に、Einstein 予測ビルダーの再試行アクションを使用してもう一度構築をやり直します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、EinsteinBuilderFree、または Platform Plus ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: Einstein 予測ビルダーの設定ページの [予測] リストビューで、状況が [モデルが失敗しました] の予測に対してアクションメニューで[再試行]を使用します。24時間以内に、成功したかどうかに関する通知を受け取ります。



Lightning アプリケーションビルダー

App Builder のローカライズサポートを使用して、Lightning ページのタブ、属性、およびコンポーネントのローカライズされた表示ラベルを作成します。デスクトップの一部の標準オブジェクトとモバイルのカスタムオブジェクトに対して正式リリースされた動的アクションを使用して、レコードページのアクションに柔軟性と制御を加えます。パフォーマンス分析ツールでは、デスクトップと電話の両方の Lightning レコードページのパフォーマンスに関するより詳細な情報が提供されるようになりました。

このセクションの内容:

カスタム表示ラベルを使用した Lightning ページでのコンポーネントのローカライズされた表示ラベルおよび属性値の定義

アプリケーションビルダーのローカライズサポートを使用すると、Lightning アプリケーションビルダーでカスタム表示ラベルを指定するときに `{!$Label.customLabelName}` を使用して、表示ラベルの値を定義できます。

動的アクションの追加サポート

動的アクションでレコードページのアクションに柔軟性と制御を追加できます。カスタムオブジェクトの動的アクションはモバイルで正式リリースとなり、デスクトップでは Winter '21 から正式リリースとなっています。取引先、ケース、取引先責任者、リード、および商談の動的アクションがデスクトップで正式リリースとなりました。その他すべての標準オブジェクトの動的アクションは、デスクトップではベータです。ページレイアウトではなく、Lightning アプリケーションビルダーでアクションを割り当て、ユーザに対してアクションを表示するタイミングと場所を制御するためのフィルターを適用します。

電話に表示される Lightning ページのパフォーマンスの分析

アプリケーションビルダーのパフォーマンス分析で電話フォーム要素のレコードページパフォーマンスが評価されるようになりました。ページ分析ウィンドウの新しいタブには、デスクトップで読み込まれたときと電話で読み込まれたときの Lightning レコードページの結果が別々に表示されるため、両方で最適なパフォーマンスが得られるようにページを設計できます。

デスクトップでの Lightning ページパフォーマンスに関する詳細情報の取得

ページの読み込み時間やページの動作予測に関するより詳細な情報を一目で確認できます。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページ分析ツールへの更新により、Lightning ページのより正確なパフォーマンス予測が提供されます。

アプリケーションビルダーのガイダンスで電話対応の Lightning ページに関するヒントを取得

アプリケーションビルダーのガイダンスが改善されました。Lightning レコードページを設計するときに電話フォーム要素専用のヒントが表示されるようになりました。これは、電話から Lightning ページを表示するときのユーザの環境を最適化するのに役立ちます。

動的フォーム対応ページでの項目セクションの折りたたみおよび展開

動的フォーム対応ページの設計と表示の効率を高めるため、Lightning アプリケーションビルダーで項目セクションの展開と折りたたみができるようになりました。また、実行時にページを表示するときにも項目セクションの展開と折りたたみができるようになりました。

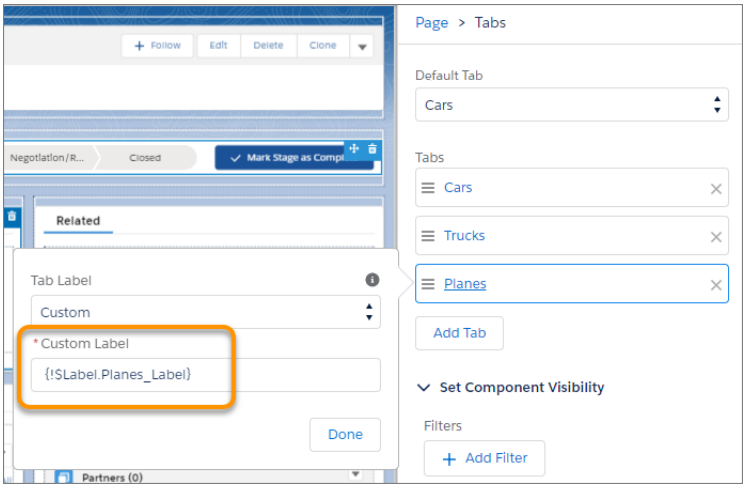
カスタム表示ラベルを使用した Lightning ページでのコンポーネントのローカライズされた表示ラベルおよび属性値の定義

アプリケーションビルダーのローカライズサポートを使用すると、Lightningアプリケーションビルダーでカスタム表示ラベルを指定するときに {!$Label.***customLabelName***} を使用して、表示ラベルの値を定義できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Lightningページでは、カスタムタブコンポーネントと他のコンポーネントの属性値は、それらがLightningアプリケーションビルダーでプレーンテキストとして入力されているとローカライズされません。たとえば、組織のデフォルト言語が英語であり、Lightning ページに、[Cars]、[Trucks]、[Planes] という名前の 3 個のカスタムタブを含むタブコンポーネントがあるとします。この場合、組織の非英語ユーザがページを表示すると、このプレーンテキストのタブの表示ラベル値は [Cars]、[Trucks]、[Planes] として表示されます。このタブの表示ラベル値はユーザの言語に翻訳されません。

ただし、Lightning アプリケーションビルダーで {!$Label.***customLabelName***} 式を使用してカスタム表示ラベル値を設定すると、ユーザは選択した言語で表示ラベルを表示できます (そのユーザの言語で該当の表示ラベルの翻訳を作成している場合)。



{!$Label.***customLabelName***} 式は、[設定] でカスタム表示ラベル機能を使用して作成するすべてのカスタム表示ラベルで機能します。カスタム表示ラベルの [値] 項目で定義したテキストは、Lightning ページでコンポーネントが表示されたときに表示ラベル値として表示されます。また、表示ラベルの翻訳値を作成している場合、組織でその言語を使用するユーザには翻訳値が表示されます。

{!$Label.***customLabelName***} 式は、コンポーネントまたはタブの表示ラベルでの使用に限定されません。これを使用して、文字列またはリッチテキスト型の任意のコンポーネント属性の翻訳値も提供できます。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: カスタム表示ラベルを使用した Lightning ページでのコンポーネントのローカライズされた表示ラベルおよび属性値の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

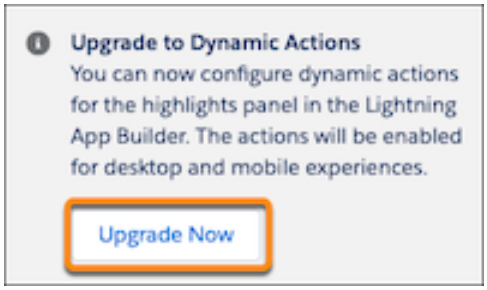
動的アクションの追加サポート

動的アクションでレコードページのアクションに柔軟性と制御を追加できます。カスタムオブジェクトの動的アクションはモバイルで正式リリースとなり、デスクトップではWinter'21から正式リリースとなっています。取引先、ケース、取引先責任者、リード、および商談の動的アクションがデスクトップで正式リリースとなりました。その他すべての標準オブジェクトの動的アクションは、デスクトップではベータです。ページレイアウトではなく、Lightningアプリケーションビルダーでアクションを割り当て、ユーザに対してアクションを表示するタイミングと場所を制御するためのフィルターを適用します。

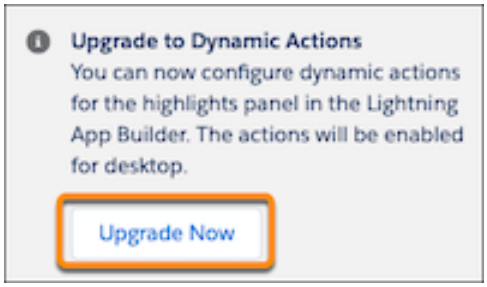
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience デスクトップおよび Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

メモ: デスクトップの標準オブジェクトの動的アクションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。動的アクションに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Communityの「Dynamic Forms & Actions」グループに投稿してください。

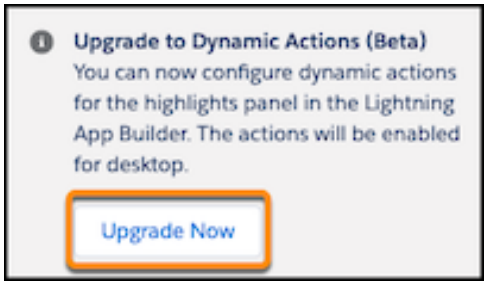
方法: デスクトップとモバイルでカスタムオブジェクトの動的アクションを有効化するには、オブジェクトのレコードページで強調表示パネルコンポーネントを追加または選択します。強調表示パネルのプロパティペインで[今すぐアップグレード]をクリックし、移行アシスタントの手順に従ってアクションを移行するか、または新しいアクションを作成します。



取引先、ケース、取引先責任者、リード、商談の動的アクションをデスクトップで有効化するには、オブジェクトのレコードページで強調表示パネルコンポーネントを追加または選択します。強調表示パネルのプロパティペインで[今すぐアップグレード]をクリックし、移行アシスタントの手順に従ってアクションを移行するか、または新しいアクションを作成します。



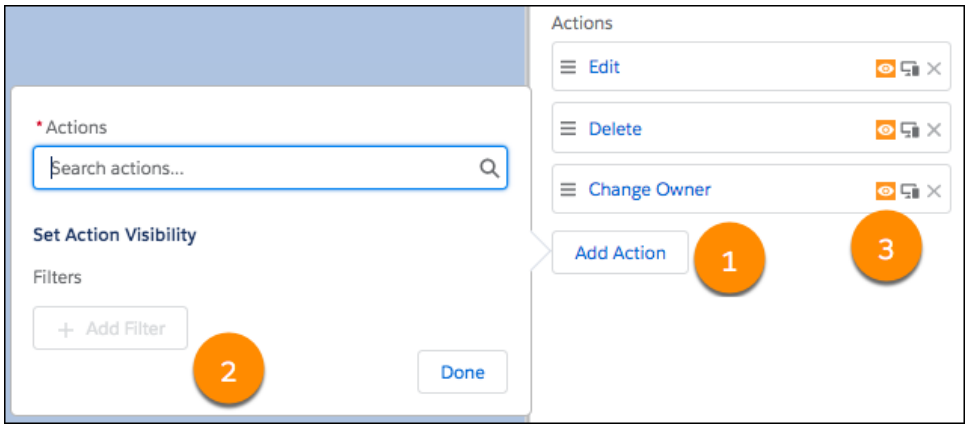
デスクトップのその他の標準オブジェクトの動的アクション (ベータ) を有効化するには、オブジェクトのレコードページで強調表示パネルコンポーネントを追加または選択します。強調表示パネルのプロパティペインで[今すぐアップグレード]をクリックし、移行アシスタントの手順に従ってアクションを移行するか、または新しいアクションを作成します。



モバイルのカスタムオブジェクトでデスクトップとは異なる動的アクションセットを使用する場合、またはモバイル専用の Lightning ページがある場合、レコードページの [ページのプロパティ] でモバイル用の動的アクションを有効化することができます。Lightningアプリケーションビルダーで、カスタムオブジェクトのレコードページを作成するか、開きます。[ページのプロパティ] ペインで、**[Salesforce** モバイルアプリケーションでページレベル動的アクションを有効化**]** を選択します。



上記の各動的アクションシナリオでアクションを追加するには、プロパティペインで **[**アクションを追加**]** (1) をクリックします。[アクション] モーダルでアクションを選択し、**[**フィルターの追加**]** (2) をクリックして、レコード綱目、デバイス種別、およびその他のフィルターに基づいて表示ルールを割り当てます。アクション名の横にある眼のアイコン (3) は、表示ルールが適用されていることを示します。ページレイアウトからアクションを移行した場合は、[アクション] モーダルで編集できます。

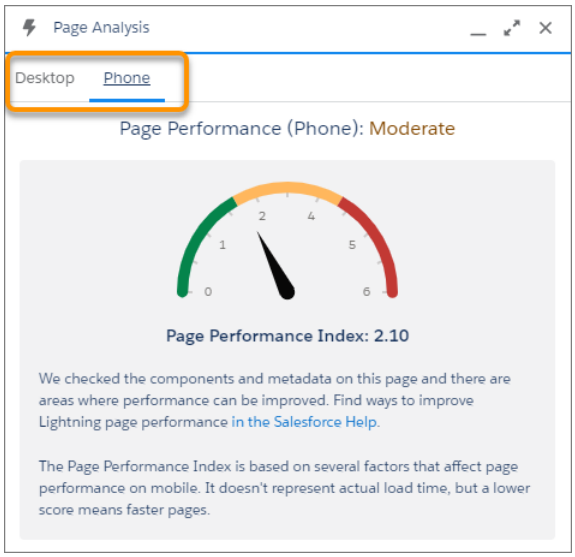


電話に表示される Lightning ページのパフォーマンスの分析

アプリケーションビルダーのパフォーマンス分析で電話フォーム要素のレコードページパフォーマンスが評価されるようになりました。ページ分析ウィンドウの新しいタブには、デスクトップで読み込まれたときと電話で読み込まれたときの Lightning レコードページの結果が別々に表示されるため、両方で最適なパフォーマンスが得られるようにページを設計できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: レコードページのパフォーマンスの評価を表示するには、Lightning アプリケーションビルダーツールバーから [分析] をクリックします。



電話でのページパフォーマンスの分析は、電話フォーム要素をサポートするテンプレートを使用しているページでのみ利用できます。

関連トピック:

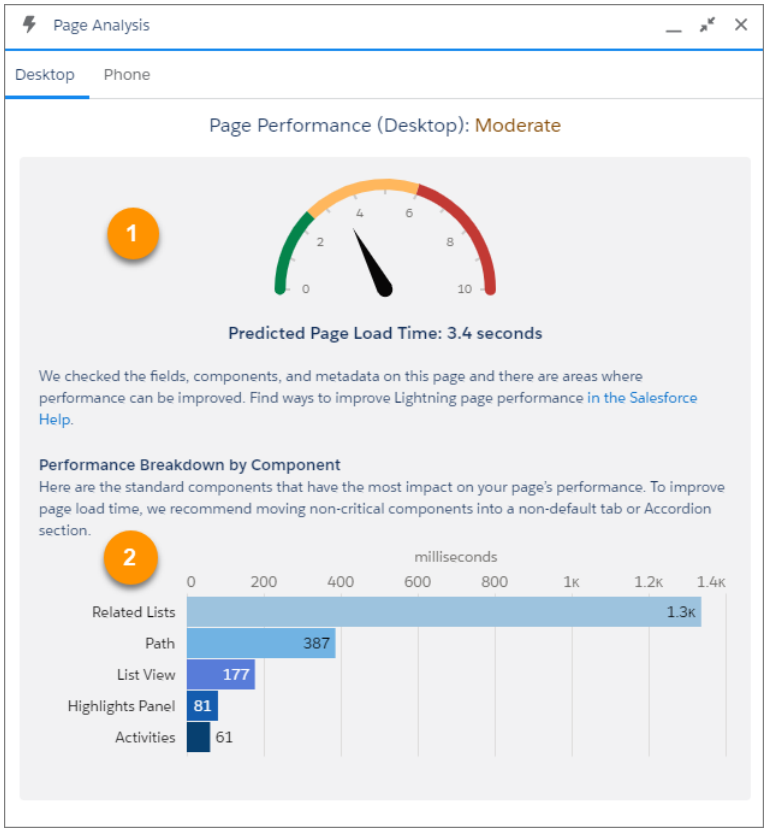
Salesforce ヘルプ: Lightning Page Performance (Lightning ページのパフォーマンス) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デスクトップでの Lightning ページパフォーマンスに関する詳細情報の取得

ページの読み込み時間やページの動作予測に関するより詳細な情報を一目で確認できます。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページ分析ツールへの更新により、Lightning ページのより正確なパフォーマンス予測が提供されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: メインのデスクトップパフォーマンス分析カード内の新しい速度計スタイルのグラフには、ページの予測体験ページ時間 (EPT) (ページの読み込み時間) が表示されます (1)。コンポーネントによっては他のコンポーネントよりも大きな影響をページパフォーマンスに及ぼすものもあるため、追加されたコンポーネントパフォーマンス内訳カードには、予測 EPT に最も大きな影響を及ぼすページ上の標準コンポーネントが示されます (2)。



分析モデルの範囲も改善され、拡張されました。ページを評価するアルゴリズムがよりスマートになり、以前の 10 倍以上のパフォーマンス要素が分析されるようになりました。

レコードページのパフォーマンスの評価を表示するには、Lightningアプリケーションビルダーツールバーから[分析]をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Page Performance (Lightning ページのパフォーマンス) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーションビルダーのガイダンスで電話対応の Lightning ページに関するヒントを取得

アプリケーションビルダーのガイダンスが改善されました。Lightning レコードページを設計するときに電話フォーム要素専用のヒントが表示されるようになりました。これは、電話からLightningページを表示するときのユーザの環境を最適化するのに役立ちます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 電話フォーム要素関連のヒントは、電話フォーム要素をサポートするテンプレートを使用しているLightningレコードページで利用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: アプリケーションビルダーのガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

動的フォーム対応ページでの項目セクションの折りたたみおよび展開

動的フォーム対応ページの設計と表示の効率を高めるため、Lightning アプリケーションビルダーで項目セクションの展開と折りたたみができるようになりました。また、実行時にページを表示するときにも項目セクションの展開と折りたたみができるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ページの設計時に項目セクションを展開するか折りたたんでも、実行時にユーザのセクションが展開されるかまたは折りたたまれるかどうかには影響しません。ユーザは参照モードまたはインライン編集モードの間のみ項目セクションの展開または折りたたみができます。全画面の編集、作成、またはコピーウィンドウではできません。

グローバリゼーション

中国人民元(オフショア)とアムハラ語を使用できるようになりました。ユーザはより多くのクラウドで右から左へ記述されるヘブライ語を表示でき、システム管理者はリリース更新を介して新しいロケール形式を有効化できます。

このセクションの内容:

人民元 (オンショア) と人民元 (オフショア) の区別
中国人民元 (オフショア) (CNH) を Salesforce で使用できるようになりました。これにより、オンショアとオフショアの中国の通貨を区別できます。中国本土 (オンショア) では、CNY と呼ばれる中国人民元で商取引が実行されます。中国本土以外 (オフショア) では、CNH と呼ばれる中国人民元で商取引が実行されます。この 2 つの通貨機能とレートは異なります。

より多くのクラウドでの右から左へ記述されるヘブライ語の表示
ヘブライ語を使用するユーザが快適に作業できるように、さらに 3 つのクラウド (Financial Services Cloud (以前はベータ)、Consumer Goods Cloud、Health Services Cloud) でヘブライ語の右から左へ記述される (RTL) レイアウトを使用できるようになりました。Lightning Experience では、個人の言語としてヘブライ語を設定しているユーザには、デフォルトで RTL 言語レイアウトが表示されます。

アムハラ語を使用するユーザとつながる
プラットフォーム専用言語としてアムハラ語を使用できるようになりました。ユーザは新しいアムハラ (エチオピア) ロケールを選択できます。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)
どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

人民元 (オンショア) と人民元 (オフショア) の区別

中国人民元 (オフショア) (CNH) を Salesforce で使用できるようになりました。これにより、オンショアとオフショアの中国の通貨を区別できます。中国本土 (オンショア) では、CNY と呼ばれる中国人民元で商取引が実行されます。中国本土以外 (オフショア) では、CNH と呼ばれる中国人民元で商取引が実行されます。この 2 つの通貨機能とレートは異なります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 単一通貨組織では、組織のデフォルト通貨を [設定] の [組織情報] ページから設定できます。

組織で複数の通貨を有効にしている場合、この通貨を使用するにはこの通貨を有効化する必要があります。[設定] の [通貨の管理] ページから、[CNH - 中国人民元 (オフショア)] を有効な通貨に追加します。これで CNH をマスタ通貨として選択でき、ユーザは CNH を個人設定の通貨として選択できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: マルチ通貨の管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
Salesforce ヘルプ: 個人設定の通貨または組織の通貨の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より多くのクラウドでの右から左へ記述されるヘブライ語の表示

ヘブライ語を使用するユーザが快適に作業できるように、さらに 3 つのクラウド (Financial Services Cloud (以前はベータ)、Consumer Goods Cloud、Health Services Cloud) でヘブライ語の右から左へ記述される (RTL) レイアウトを使用できるようになりました。Lightning Experience では、個人の言語としてヘブライ語を設定しているユーザには、デフォルトで RTL 言語レイアウトが表示されます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 右から左へ記述される (RTL) 言語のサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アムハラ語を使用するユーザとつながる

プラットフォーム専用言語としてアムハラ語を使用できるようになりました。ユーザは新しいアムハラ (エチオピア) ロケールを選択できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: アムハラ (エチオピア) ロケールでは、International Components for Unicode (ICU) および Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) の次の形式が使用されます。

メモ: Salesforce ヘルプの「アムハラ語を使用するユーザとつながる」でこの情報を確認することをお勧めします。PDF では、文字が正しく表示されない場合があります。

形式種別	形式
Default Currency	エチオピアビル: ETB
Date Time: Short	28/01/2008 4:30
Date Time: Medium	28 2008 4:30:05
Date Time: Long	28/01/2008 4:30:05 -8
Date: Short	28/01/2008
Date: Medium	28 2008
Date: Long	28 2008
Time	4:30
Number: Positive	1,234,567.567
Number: Negative	-1,234,567.567
Currency: Positive	1,234,567.57
Currency: Negative	- 1,234,567.57
Accounting Currency: Positive	1,234,567.57

形式種別	形式
Accounting Currency: Negative	(1,234,567.57)
Name	Ms. FName LName
Address	Address Line 1, Address Line 2 ZipCode City State Country

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サポート言語(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:ロケールの概要(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。このリリース更新を有効にすると、ICU 形式を API バージョン 45.0 以降で使用できます。

方法: 本番環境でこの更新を有効化する前に、すべてのインストール済みパッケージに ICU 形式との互換性があることをパッケージプロバイダに確認します。次に、Salesforce 組織に対する新しいロケールの影響を評価します。次の SOQL クエリを使用して、組織で使用されているロケールと各ロケールのユーザ数を検索します。

```
SELECT toLabel(LocaleSidKey) LocaleName, LocaleSidKey, Count(id) UserCount FROM User where
 IsActive=true GROUP BY LocaleSidKey
```

テストの推奨領域や、各ロケールの変更についての詳細は、Salesforce ヘルプの「グローバルに対応する新しい国際ロケール形式」を参照してください。

この更新を有効化するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新] を選択します。[ICU ロケール形式を有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

英語 (カナダ) ロケール (en_CA) では、個別の有効化が必要です。[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。[en_CA ロケールの ICU 形式を有効化] を選択して、変更内容を保存します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバルに対応する新しい国際ロケール形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Winter '20 リリースノート: ICU ロケール形式の有効化 (リリース更新)

リリース更新

外部サービス

外部サービスを使用して、選択したサービスに接続したり、外部取得元に基づくメソッドをフローによって起動したり、サービスから Salesforce にデータをインポートしたりできます。

このセクションの内容:

従来の外部サービスバージョンの廃止

従来の外部サービスは、Summer '21 で廃止される予定です。今すぐ従来の登録をすべて廃止することで、現在そして今後の製品強化や新機能をすべて登録で利用できるようになります。単一バージョンサポートモデルへの移行の一貫として、このリリースでの変更には、従来の登録を通じて作成されたアクションの動作および機能、従来の登録が含まれるパッケージワークフロー、その結果として生じていた問題に対するサポートの終了が含まれます。

外部サービススキーマへのリスト種別の最上位の名前付き配列定義の追加

リスト種別の最上位の名前付き配列定義を含めて、追加の OpenAPI 2.0 スキーマがサポートされるように拡張できます。

従来の外部サービスバージョンの廃止

従来の外部サービスは、Summer '21 で廃止される予定です。今すぐ従来の登録をすべて廃止することで、現在そして今後の製品強化や新機能をすべて登録で利用できるようになります。単一バージョンサポートモデルへの移行の一貫として、このリリースでの変更には、従来の登録を通じて作成されたアクションの動作および機能、従来の登録が含まれるパッケージワークフロー、その結果として生じていた問題に対するサポートの終了が含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で従来の外部サービスバージョンを使用している組織に適用されます。Spring '21 以降、Salesforce では従来の外部サービス登録がサポートされなくなります。

時期:

- Spring '21 以降、Salesforce では既存の従来の外部サービス登録の作成ができなくなり、サポートもされなくなります。従来の外部サービス登録を OpenAPI 形式で編集することはできません。
- Spring '21 以降、Salesforce では従来のスキーマや登録を含め、従来の外部サービスのケースがサポートされなくなります。たとえば、Salesforce では従来のパッケージワークフローや結果として生じていた問題がサ

ポートされなくなりました。まだ登録を現在の外部サービスバージョンに移行していない場合は、できるだけ早く従来のパッケージの使用を終了し、最新の外部サービス管理パッケージに移行してください。Spring '21 の従来の登録から新しいバージョンへの移行期間を過ぎると、外部サービスに対するコールアウトは機能しなくなります。

- Summer'21 以降、従来の外部サービス登録を操作することは一切できなくなります。編集したり、再作成したり、フローで従来の登録を使用したりすることはできなくなります。まだ移行していない場合は、できるだけ早く最新の外部サービスバージョンに移行することをお勧めします。

インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: OpenAPI 2.0 形式の従来の登録: 外部サービスのメインページから、[別名で保存] を使用して、最新の外部サービスバージョンで従来の登録を再作成してください。方法の詳細については、「外部サービスの編集、削除、別名で保存、および表示」を参照してください。Interagent ハイパースキーマ形式の従来の登録: Salesforce では、組織にとって現実的なタイミングで、Interagent ハイパースキーマ形式の従来の登録を OpenAPI 形式に変換して新しい外部サービスとして追加することをお勧めします。従来の外部サービス登録を識別して再作成する手順については、ヘルプドキュメントを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部サービスバージョン: 従来と最新 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 外部サービスの編集、削除、別名で保存、および表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部サービススキーマへのリスト種別の最上位の名前付き配列定義の追加

リスト種別の最上位の名前付き配列定義を含めて、追加の OpenAPI 2.0 スキーマがサポートされるように拡張できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: 最上位の名前付き配列を作成し、その下に名前付き配列および匿名配列をネストできます。この新しいサポートは、スキーマのレスポンスボディ定義およびリクエストボディ定義に影響します。

たとえば、この最上位の配列定義がサポートされるようになりました。以前はサポートされていませんでした。

```
{
    "swagger": "2.0",
    ...
        "schema": {
            "$ref": "#definitions/MyObjectList"
        }
        ...
    "definitions": {
        "MyObjectList": {
```

```
            "type": "array",
            "items": {
                "type": "object",
                "properties": {...}
            }
        }
    }
}
```

Open API 2.0 の有効な外部サービス配列の例については、Salesforce ヘルプドキュメントを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部サービスに関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Connect

スクラッチ組織に Salesforce Connect ライセンスをさらに追加します。セキュリティを強化するために、既存の指定ログイン情報または外部データソースに対して一定の変更を行ったときは再認証する必要があります。

このセクションの内容:

スクラッチ組織での複数の Salesforce Connect ライセンスの設定
更新された `PlatformConnect` スクラッチ組織機能を使用すると、スクラッチ組織で最大 5 個の Salesforce Connect ライセンスを設定できます。以前は 1 個のみ設定していました。

指定ログイン情報または外部データソースの特定の項目を編集した後の再認証
ID種別が指定ユーザである既存の指定ログイン情報または外部データソースの特定の項目を編集した場合、エンドポイントに対する再認証が必要になりました。この変更により、Salesforce Connect環境のセキュリティが強化されます。

スクラッチ組織での複数の Salesforce Connect ライセンスの設定

更新された `PlatformConnect` スクラッチ組織機能を使用すると、スクラッチ組織で最大 5 個の Salesforce Connect ライセンスを設定できます。以前は 1 個のみ設定していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 次のスクラッチ組織定義ファイルスニペットは、3 個のライセンスの設定方法を示しています。

```
"features": ["PlatformConnect:3"],
```

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Connect (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce DX 開発者ガイド: スクラッチ組織の機能

指定ログイン情報または外部データソースの特定の項目を編集した後の再認証

ID種別が指定ユーザである既存の指定ログイン情報または外部データソースの特定の項目を編集した場合、エンドポイントに対する再認証が必要になりました。この変更により、Salesforce Connect環境のセキュリティが強化されます。

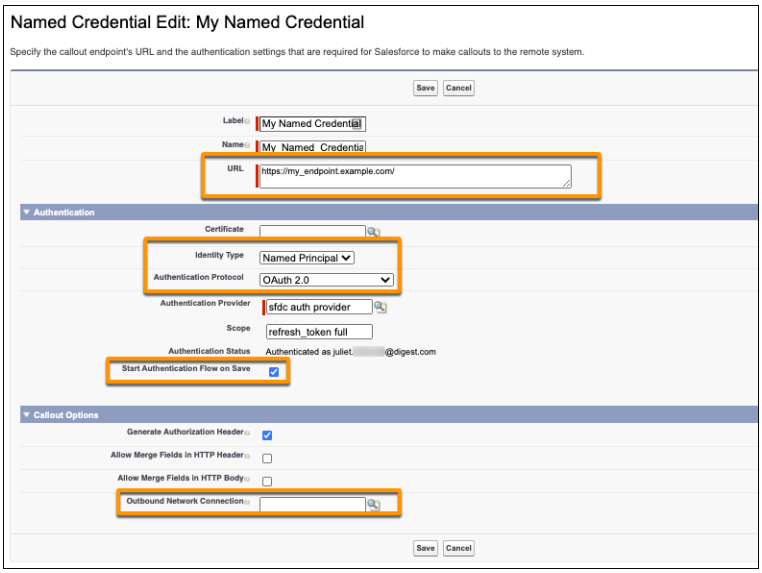
対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 次の項目を編集した場合はエンドポイントに対して再認証する必要があります。

- URL: 指定ログイン情報と外部データソース
- 認証プロバイダ: 指定ログイン情報と外部データソース
- 発信ネットワーク接続: 指定ログイン情報のみ

再認証は、OAuth またはパスワード認証プロトコルを使用する指定ログイン情報または外部データソースでのみ必要です。OAuth認証を使用しているときに再認証が要求されるようにするには、忘れずに[保存時に認証フローを開始] をオンにしてください。

メタデータ API を使用してこれらの項目を編集する場合、[設定] を使用して再認証することをお勧めします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 指定ログイン情報 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Salesforce Connect を使用した外部データへのアクセス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

項目

選択リスト値の新しい制限を使用してパフォーマンスを改善します。項目レベルのヘルプテキストでより多くの文字を使用します。カスタム項目の表示ラベルの HTML タグをプレーンテキストとして表示できるようにします。

このセクションの内容:

無効な選択リスト値の制限を使用したパフォーマンスの改善
非制限選択リストの無効な値に制限を適用することで、パフォーマンスが改善され、Salesforce 組織の全体的な健全性が改善される可能性があります。組織の無効な非制限選択リスト値がチェックされない場合、パフォーマンスが低下します。低下する場所は実装によって異なります。

項目レベルのヘルプテキストの文字数の増加
ユーザは、情報アイコンの上にマウスを置くことで、その項目レベルのヘルプテキストを参照できます。文字制限が 255 から 510 に拡大され、より詳細なヘルプ情報を提供できるようになりました。この増加は、詳細ページと編集ページの標準項目とカスタム項目に適用されます。

カスタム項目の表示ラベルの HTML の表示の無効化 (更新、適用済み)
Salesforce 組織の保護を強化するために、この更新では、カスタム項目の表示ラベルの HTML 書式を許可する従来の動作が削除されます。この更新を有効化した場合、カスタム項目の表示ラベルの HTML タグはプレーンテキストとして表示されます。

無効な選択リスト値の制限を使用したパフォーマンスの改善

非制限選択リストの無効な値に制限を適用することで、パフォーマンスが改善され、Salesforce 組織の全体的な健全性が改善される可能性があります。組織の無効な非制限選択リスト値がチェックされない場合、パフォーマンスが低下します。低下する場所は実装によって異なります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Group Edition、Personal Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: この制限をデフォルトで適用すると、インポートしたテキスト項目データが誤って選択リスト項目に変換されるなど、多数の無効な選択リスト値が意図せずに作成されることが回避されます。データの作成中またはメタデータのリリース中にエラーが発生した場合など、トラブルシューティング目的ではこの制限を無効にすることをお勧めします。

方法: 制限を適用する場合、次のルールが適用されます。

- 非制限選択リストの無効な値の制限は 4,000 です。
- 制限は、新しく作成された非制限選択リストの無効な値に適用されます。
- 組織の現在の非制限選択リストは新しい制限の影響を受けません。
- 標準選択リスト項目は、この変更の影響を受けません。
- システム管理者は無効な値の制限から自分の Salesforce 組織を除外するように選択できます。
- 制限は、制限付き選択リストおよびグローバル選択リスト値セットには適用されません。グローバル選択リスト値セットには、有効と無効を合わせて 1,000 の制限があります。

制限はデフォルトで適用されます。非制限選択リストで無制限の無効な値を許可するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「*選択リスト設定*」と入力し、[非制限選択リストでの無制限の無効な値を有効化]をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 無効な選択リスト値の管理

項目レベルのヘルプテキストの文字数の増加

ユーザは、情報アイコンの上にマウスを置くことで、その項目レベルのヘルプテキストを参照できます。文字制限が255から510に拡大され、より詳細なヘルプ情報を提供できるようになりました。この増加は、詳細ページと編集ページの標準項目とカスタム項目に適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 項目レベルのヘルプの定義

カスタム項目の表示ラベルの HTML の表示の無効化 (更新、適用済み)

Salesforce 組織の保護を強化するために、この更新では、カスタム項目の表示ラベルの HTML 書式を許可する従来の動作が削除されます。この更新を有効化した場合、カスタム項目の表示ラベルの HTML タグはプレーンテキストとして表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '21 で適用します。

対象ユーザ: この更新はすべての組織に適用されるものではありません。これは、カスタム項目の表示ラベルで HTML 書式を使用しているユーザのうち、以前の自動有効化に含まれていなかったユーザのリリース更新リストにのみ表示されます。

方法: 組織がこの更新で影響を受ける場合、Sandbox 組織で有効化してから本番組織で有効化することをお勧めします。カスタム項目の表示ラベルが正しく表示されることをテストして、HTML 書式に依存するすべての表示ラベルを更新します。カスタム項目の名前を変更した場合は、追加の項目の手動更新が必要になります。手動更新が必要かどうかを確認するには、以下を行う必要があります。

- リストビューの名称の確認。リストビューの名称には、手動で変更するまで元のオブジェクト名が表示されます。
- 名称を変更したオブジェクトの標準レポート名と説明の確認。
- 元の項目名を含むメールテンプレートのタイトルと説明の更新。
- 新しいオブジェクト名または項目名でカスタマイズした項目の変更。たとえば、元の項目名が含まれているカスタム項目を確認します。

プロファイルと権限

参照のみプロファイルに変更を加えました。ユーザはこの変更について把握しておく必要があります。また、インテグレーション権限セットも追加しました。

このセクションの内容:

参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新)
この更新は、参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換します。更新が適用されると、ビジネスニーズに応じてこのプロファイルの権限を編集できます。

参照のみプロファイルは新しい Salesforce 組織では使用不可
Spring '21 以降に作成された Salesforce 組織では、参照のみ標準プロファイルがありません。ユーザに参照のみ権限を割り当てる場合は、最小権限プロファイルベースとして最小アクセス標準プロファイルから開始することをお勧めします。これにより、カスタム権限セットを割り当て、ビジネスニーズに必要な参照アクセス権をユーザに付与できます。

インテグレーション権限セットを使用したインテグレーションパートナーとのデータ交換
インテグレーション権限セットでは、Salesforce インテグレーション関連の機能およびサービス別にデータアクセスの範囲を定義します。インテグレーション機能によっては、Salesforce はインテグレーション権限セットを事前定義して Salesforce 組織で編集できないようにしている可能性があります。または、システム管理者が組織を完全に制御できるようにインテグレーション権限セットに初期権限が含まれていない可能性があります。また、組織で変更できる社内権限にインテグレーション権限セットが付属している可能性もあります。

参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新)

この更新は、参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換します。更新が適用されると、ビジネスニーズに応じてこのプロファイルの権限を編集できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '21 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

Spring '21 以降に作成された新規 Salesforce 組織では、参照のみプロファイルがありません。

理由: 参照のみ標準プロファイルが割り当てられたユーザは、Salesforce 組織の設定の参照、レポートの実行とエクスポート、および他のレコードの参照 (編集は不可) が可能です。Salesforce の製品とサービスの拡張に伴い、Salesforce の機能を動作させるために、暗黙的または明示的な編集アクセス権を付与する権限がこのプロファイルに追加されました。

組織のリスク許容度と参照のみの定義に合わせて参照のみプロファイルをカスタマイズできるようにするため、この更新プログラムによって参照のみ標準プロファイルがカスタムプロファイルに変換されます。参照のみカスタムプロファイルを編集し、ビジネスニーズに応じて権限を削除または追加できます。許可する操作や割り当て対象者を反映するように、プロファイルの名前を変更することもできます。

方法: この更新を適用する前に、参照のみプロファイルに含まれる権限を確認します。参照のみプロファイルに割り当てられたユーザに、含まれる権限を引き続き付与するかどうかを評価します。含まれる権限の完全なリストは、ナレッジ記事「参照のみプロファイルからカスタムプロファイルへの変換」を参照してください。

権限を確認したら、ユーザを新しいプロファイルに再割り当てするか、ユーザを再割り当てせずに既存の参照のみプロファイルを使用するかを決定します。既存の参照のみプロファイルを引き続き使用する場合は、参照のみ標準プロファイルを参照する組織のカスタムコードを更新して、参照のみプロファイルが変換されたときに設定とリリースが損なわれないようにします。

この更新を確認するには、[設定]から[クイック検索]ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新]を選択します。[参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換]で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Read Only Profile Conversion to Custom Profile (カスタムプロファイルへの参照のみプロファイルの変換)
- リリース更新
- *Salesforce* ヘルプ: プロファイル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 参照のみプロファイルは新しい Salesforce 組織では使用不可

参照のみプロファイルは新しい Salesforce 組織では使用不可

Spring '21 以降に作成された Salesforce 組織では、参照のみ標準プロファイルがありません。ユーザに参照のみ権限を割り当てる場合は、最小権限プロファイルベースとして最小アクセス標準プロファイルから開始することをお勧めします。これにより、カスタム権限セットを割り当て、ビジネスニーズに必要な参照アクセス権をユーザに付与できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

- *Summer '20 リリースノート*: 新しい最小アクセスユーザプロファイルの使用
- *Salesforce* ヘルプ: プロファイル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新)

インテグレーション権限セットを使用したインテグレーションパートナーとのデータ交換

インテグレーション権限セットでは、Salesforce インテグレーション関連の機能およびサービス別にデータアクセスの範囲を定義します。インテグレーション機能によっては、Salesforce はインテグレーション権限セットを事前定義して Salesforce 組織で編集できないようにしている可能性があります。または、システム管理者が組織を完全に制御できるようにインテグレーション権限セットに初期権限が含まれていない可能性があります。また、組織で変更できる社内権限にインテグレーション権限セットが付属している可能性もあります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: インテグレーション関連機能のユーザ。ユーザにはクラウドインテグレーションユーザライセンスも必要です。

方法: 使用しているインテグレーション機能の手順に従います。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Customer 360 Data Manager リリースノート

共有

Lightning Experience で手動共有を使用してレコードへのアクセス権を付与し、Salesforce 組織でより多くのロールを作成します。

このセクションの内容:

手動共有を使用したレコードの共有
Lightning Experience の手動共有を使用すると、新しい合理化されたインターフェースでレコードの共有とレコード共有の管理ができるようになりました。以前は、Salesforce Classic に切り替えて、レコードへのアクセス権を特定のユーザやユーザグループに付与していました。

より多くのロールの作成
Spring '21 以降に作成された Salesforce 組織では、最大 5,000 個のロールを作成できます。既存の組織では、デフォルトの制限は変更されていません。最大 500 個のロールを作成できます。この制限を増やすには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。パフォーマンスを改善する最良の方法は、データアクセスに基づいてロールを設定し、不要なロールをすべて除外することです。

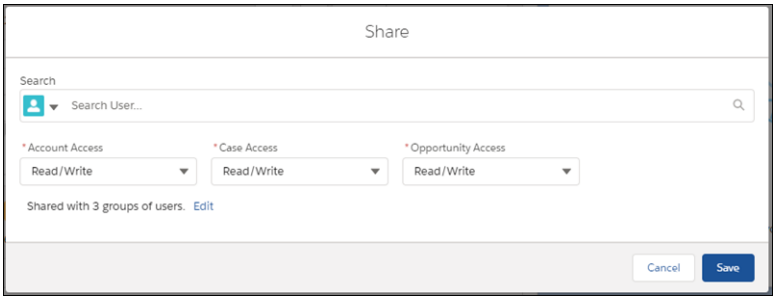
手動共有を使用したレコードの共有

Lightning Experience の手動共有を使用すると、新しい合理化されたインターフェースでレコードの共有とレコード共有の管理ができるようになりました。以前は、Salesforce Classic に切り替えて、レコードへのアクセス権を特定のユーザやユーザグループに付与していました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この機能は、Spring '21 リリースからローリング方式でリリースされ、2021 年 2 月 27 日までにすべてのユーザが利用できるようになります。

理由: 共有するレコードの [共有] をクリックします。[共有] ウィンドウでは、レコードを誰と共有するかを管理し、関連付けられたレコードを共有できます。手動共有は、取引先、商談、ケース、取引先責任者、リード、カスタムオブジェクトでのみ使用できます。



メモ:

- Experience Cloud サイトと Salesforce モバイルアプリケーションでは、Lightning の手動共有はサポートされません。
- Apex で管理されている共有は編集できません。
- システム管理者はレコード所有者の共有アクセスを変更できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Grant Access to Records with Manual Sharing in Lightning Experience (Lightning Experience での手動共有を使用したレコードへのアクセス権の付与) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より多くのロールの作成

Spring '21 以降に作成された Salesforce 組織では、最大 5,000 個のロールを作成できます。既存の組織では、デフォルトの制限は変更されていません。最大 500 個のロールを作成できます。この制限を増やすには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。パフォーマンスを改善する最良の方法は、データアクセスに基づいてロールを設定し、不要なロールをすべて除外することです。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ロールを使いこなすためのガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムメタデータ型

[システムの概要] ページを使用して、Salesforce 組織のカスタムメタデータ型の合計数を表示します。静的 Apex メソッドを使用してレコードにアクセスします。Apex 動的トリガをプレビューします。

このセクションの内容:

[システムの概要] ページでのカスタムメタデータ型の制限の表示

カスタムメタデータ型を監視できるように、[システムの概要] ページにパッケージからの公開型と保護型および Salesforce 登録者組織に含まれる型がリストされるようになりました。

静的メソッドを使用したカスタムメタデータ型レコードへのアクセス

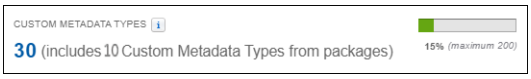
Apex の `getAll()` メソッド、`getInstance(recordId)` メソッド、`getInstance(qualifiedApiName)` メソッド、`getInstance(developerName)` メソッドを使用して、カスタムメタデータ型レコードから情報をすばやく取得します。これらのメソッドは SOQL エンジンに依存せず、sObject の詳細をコールから直接返します。

[システムの概要] ページでのカスタムメタデータ型の制限の表示

カスタムメタデータ型を監視できるように、[システムの概要]ページにパッケージからの公開型と保護型および Salesforce 登録者組織に含まれる型がリストされるようになりました。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: カスタムメタデータ型の表示は、型を公開または保護に設定することで制御されます。たとえば、保護型は Salesforce 登録者組織の [カスタムメタデータ型] ページに表示されません。表示設定にかかわらず、[システムの概要] ページを使用して、Salesforce 組織のカスタムメタデータ型の合計数を追跡できるようになりました。



メモ: トライアルパッケージに含まれるカスタムメタデータ型はこの制限の影響を受けず、[システムの概要] ページから除外されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Custom Metadata Relationships (カスタムメタデータリレーション)

静的メソッドを使用したカスタムメタデータ型レコードへのアクセス

Apex の `getAll()` メソッド、`getInstance(recordId)` メソッド、`getInstance(qualifiedApiName)` メソッド、`getInstance(developerName)` メソッドを使用して、カスタムメタデータ型レコードから情報をすばやく取得します。これらのメソッドは SOQL エンジンに依存せず、sObject の詳細をコールから直接返します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

理由: 次の例では、`getAll()` メソッドを使用します。`Games` という名前のカスタムメタデータ型には `GameType` という項目があります。この例では、最初のレコードのこの項目値が文字列 `PC` かどうかを判定します。

```
List<Games__mdt> mcs = Games__mdt.getall().values();
boolean textField = null;
if (mcs[0].GameType__c == 'PC') {
   textField = true;
}
system.assertEquals(textField, true);
```

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Custom Metadata Relationships (カスタムメタデータリレーション)

一般設定

リリース更新の代わりに新しい設定を使用して、参照項目のレコード名を表示できるユーザを制御します。

このセクションの内容:

「すべての参照レコード名の表示」権限の必須化
Salesforce 組織のデータの保護を強化するには、[作成者] や [最終更新者] など、参照項目およびシステム項でレコード名を表示できるユーザを制限できます。[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] 設定を有効にした場合、ユーザはレコードのデータを参照するにはそのレコードへの「参照」アクセス権または「すべての参照レコード名の参照」権限が必要になります。以前はこの動作はリリース更新で適用されるように設定されていましたが、代わりにこの機能はオプトイン設定になりました。このため、組織に最も適したタイミングでこの機能を有効化できます。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、廃止)
この更新は廃止されました。Salesforce はすべての Salesforce 組織でこの更新を有効化しません。代わりに、システム管理者は [共有設定] ページのオプトイン設定を使用して、参照項目にレコード名を表示できるユーザをいつ制限するかを選択できます。

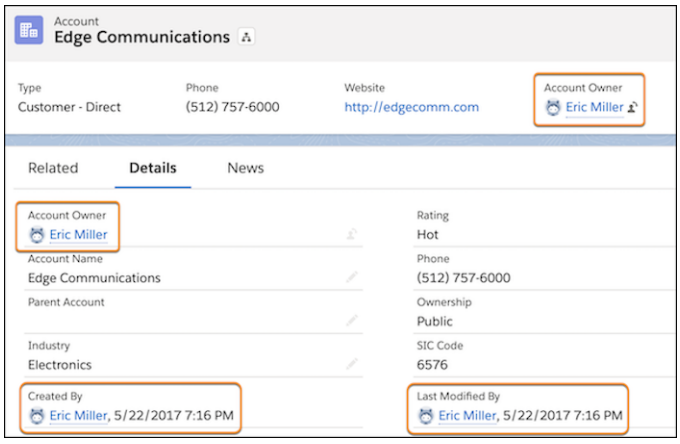
非外部ハイパーリンクのより予測可能な対象の動作
Salesforce アプリケーションでは、非外部ハイパーリンクの対象の値がより予測可能な方法で処理されます。ハイパーリンクの対象を「_top」に設定した場合、リンクは Lightning Experience 内で開きます。ハイパーリンクの対象を「_blank」に設定すると、Lightning Experience の外部で新しいウィンドウで開きます。

「すべての参照レコード名の表示」権限の必須化

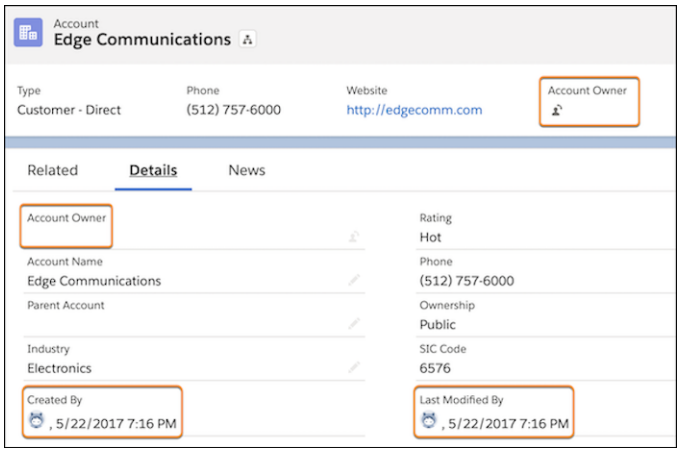
Salesforce 組織のデータの保護を強化するには、[作成者] や [最終更新者] など、参照項目およびシステム項でレコード名を表示できるユーザを制限できます。[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] 設定を有効にした場合、ユーザはレコードのデータを参照するにはそのレコードへの「参照」アクセス権または「すべての参照レコード名の参照」権限が必要になります。以前はこの動作はリリース更新で適用されるように設定されていましたが、代わりにこの機能はオプトイン設定になりました。このため、組織に最も適したタイミングでこの機能を有効化できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

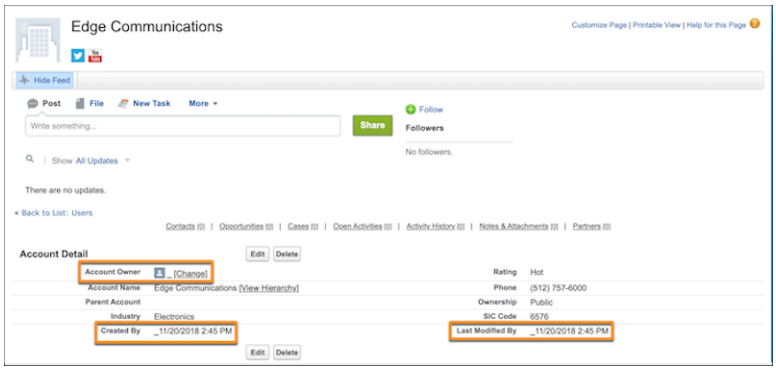
理由: システム管理者は、レコードでユーザが表示できる情報をより詳細に制御できるようになります。[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] 設定を有効にしていない場合、ユーザは参照項目にレコード名を、そのレコードへの「参照」アクセス権がなくても表示できます。



[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] 設定を有効にすると、Lightning Experience では、「参照」アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限を持たないユーザには、参照項目の表示ラベルは表示されますが、参照項目のデータは表示されません。



Salesforce Classic では、ユーザが参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限を持たない場合、システムユーザの参照項目にはアンダースコアが表示されます。また、カスタムユーザの参照項目と非ユーザの参照項目にはレコード ID が表示されます。



方法: この設定を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。次に、[組織の共有設定] 領域で [編集] をクリックして、[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] を選択します。

システム管理者はカスタムプロファイルまたは権限セットで「すべての参照レコード名の表示」権限を有効にすることができます。共有設定に関係なく、すべての参照項目およびシステム項目でレコード名を表示する必

要があるユーザに対してのみ、この権限を有効にします。この権限は、リストビューとレコード詳細ページの参照レコード名のみに適用されます。

関連トピック:

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、廃止)

Salesforce ヘルプ:参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:「すべて表示」および「すべて変更」権限の概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、廃止)

この更新は廃止されました。Salesforce はすべての Salesforce 組織でこの更新を有効化しません。代わりに、システム管理者は [共有設定] ページのオプトイン設定を使用して、参照項目にレコード名を表示できるユーザをいつ制限するかを選択できます。

時期: この更新は廃止されたため、[設定] の [リリース更新] ページに表示されなくなります。

方法:オプトイン設定を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。次に、[組織の共有設定] 領域で [編集] をクリックして、[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] を選択します。

関連トピック:

リリース更新

「すべての参照レコード名の表示」権限の必須化

非外部ハイパーリンクのより予測可能な対象の動作

Salesforce アプリケーションでは、非外部ハイパーリンクの対象の値がより予測可能な方法で処理されます。ハイパーリンクの対象を「`_top`」に設定した場合、リンクは Lightning Experience 内で開きます。ハイパーリンクの対象を「`_blank`」に設定すると、Lightning Experience の外部で新しいウィンドウで開きます。

内容: `showHeader=false` プロパティは Lightning ではサポートされないため、非外部ハイパーリンクは常に Lightning ヘッダー内で開きます。

セキュリティと ID

OAuth 2.0 の更新を使用して、Web セッション管理を簡略化します。[私のドメイン] をより簡単に管理し、拡張ドメインを使用して Salesforce URL を標準化します。新しいデータセットは、Event Monitoring Analytics アプリケーションで Salesforce 全体の使用状況を分析するのに役立ちます。また、セキュリティセンターを使用すれば、より実践的にセキュリティデータを表示できます。

このセクションの内容:

ID とアクセス管理
新しい OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローを使用して、ハイブリッドアプリケーションの Web セッション管理を簡略化します。その他の OAuth フローの更新には、更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必須にするオプションや、アクセストークンおよび更新トークンのサイズ制限の引き上げが含まれます。多要素認証アシスタントからより多くのガイダンスとログイン総計値を取得します。サードパーティの ID プロバイダによる [ログイン履歴] ページの OpenID Connect を使用して Salesforce 組織にログインするユーザの認証を監視できるようになりました。また、ID 確認はデバイスの有効化に名称変更されました。

ドメイン
すべての Salesforce URL に Salesforce 組織の [私のドメイン] の名前を含め、強化されたドメインで最新のブラウザ要件に対応します。組織の [私のドメイン] の名前を簡単に変更して管理します。Salesforce Edge Network との接続を強化し、Sandbox でカスタムドメインをテストします。Salesforce サイトと Experience Cloud サイトのドメインで [私のドメイン] をリリースして HTTPS を有効にします。

Salesforce Shield
Event Monitoring Analytics アプリケーションには、Salesforce 全体の使用状況を分析するのに役立つ新しいデータセットが多数用意されています。リアルタイムイベントモニタリングでは、メタデータ API を使用したプログラムによる自動的な設定がサポートされるようになりました。Lightning イベント種別には、クライアントのブラウザ要件を特定するのに役立つ CLIENT_GEO 項目が含まれています。Shield Platform Encryption では、発言の提案オブジェクトで [発言] 項目がサポートされるようになりました。また、より迅速かつ効率的に大量のレコードを暗号化ポリシーと同期することもできます。

セキュリティセンター
セキュリティセンターを使用すれば、より実践的にセキュリティデータを表示できます。詳細ページのグラフが改善され、変更がいつ発生したかを簡単に確認できます。1 日ごとにスケジュールされているアプリケーションの更新を待つことなく、指標データをオンデマンドで更新できるようになりました。また、平均状態チェックスコアの 30 日間のトレンドグラフ、および 6 か月間の履歴状態チェック情報をアプリケーションから直接表示できるようになりました。こうした追加の詳細は、顧客の機密データに関わる変更および設定に積極的に対応するのに役立ちます。

その他のセキュリティの変更
Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を選択できます。また、Summer '21 で、[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が有効になります。その後、この設定は無効にできなくなるため削除されます。

ID とアクセス管理

新しい OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローを使用して、ハイブリッドアプリケーションの Web セッション管理を簡略化します。その他の OAuth フローの更新には、更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必須にするオプションや、アクセストークンおよび更新トークンのサイズ制限の引き上げが含まれます。多要素認証アシスタントからより多くのガイダンスとログイン総計値を取得します。サードパーティの ID プロバイダによる [ログイン履歴] ページの OpenID Connect を使用して Salesforce 組織にログインするユーザの認証を監視できるようになりました。また、ID 確認はデバイスの有効化に名称変更されました。

このセクションの内容:

ハイブリッドアプリケーションでの Web セッションの直接管理の有効化

OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローを使用して、ハイブリッドアプリケーションでの Web セッションの管理の複雑さを回避します。通常のユーザエージェントまたは更新トークンフローでは、ハイブリッドアプリケーションは、要求されたドメインの Cookie を設定してアクセストークンを Web セッションに連結します。ただし、このフローではアクセストークンと Web セッションは接続されません。代わりに、アクセストークンと更新トークンが期限切れになったときと Web セッションが期限切れになったときを追跡し、セッションを手動で再度連結して、サービスの中断を回避する必要があります。OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローではアクセストークンと更新トークンが Web セッションに接続されるため、ハイブリッドアプリケーションで Web セッションの直接管理ができます。

更新トークンフロー中にクライアントの秘密が必要

OAuth 2.0 更新トークンフローおよびハイブリッド更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必要とするように接続アプリケーションを設定できます。クライアントの秘密を保護できる Web サーバベースのアプリケーションでは、クライアントの秘密を必要とするように接続アプリケーションを設定できます。ただし、モバイルアプリケーションやユーザのコンピュータにインストールするアプリケーションなど、クライアントの秘密を保護できないアプリケーションでは、更新トークンフロー中にクライアントの秘密を省略できます。更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必要としないようにしていても、接続アプリケーションが認証要求でクライアントの秘密を送信すると、Salesforce はクライアントの秘密を引き続き検証します。

新しい Frontdoor.jsp パラメータを使用してハイブリッドモバイルアプリケーションのセッションの中断を減らす

組織で frontdoor.jsp を使用してハイブリッドアプリケーションユーザセッションを認証する方法を合理化するには、新しい OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーショントークンフローで `directBridge2` パラメータを使用します。ユーザが認証され、新しいセッションを開始すると、`directBridge2` パラメータで、要求されたドメインのセッション ID Cookie にアクセストークンが直接渡されます。ハイブリッドアプリケーションでは、API コールと UI 要求の両方で同じアクセストークンが使用されるため、このフローでは、更新トークンフローがトリガされたときの中断がなくなります。

多要素認証アシスタントからのより多くのガイダンスの入手

多要素認証 (MFA) の実装を支援するため、多要素認証アシスタントは MFA アクセラレータ Web セミナーへのアクセス、および Lightning 利用状況アプリケーションのログイン総計値へのアクセスを提供するようになりました。アクセラレータ Web セミナーは、以前はアシスタントで使用可能だった「ユーザ認証」Trailhead モジュールに代わるものです。

組織の ID サービスのログイン総計値を監視

ユーザログインのセキュリティはデータ保護の基礎であり、ログイン総計値によりユーザログインアクティビティのインサイトを得ることができます。Lightning 利用状況アプリケーションの新しい [ログイン総計値] タブには、多要素認証 (MFA) やシングルサインオンなどの組織の ID サービスのデータが表示されます。MFA を実装している場合、ログイン総計値を使用して MFA の採用状況を監視できます。また、Salesforce Optimizer アプリケーションの機能として MFA が追加され、MFA を使用してログインしている (またはログインしていない) ユーザを追跡できるようになりました。

ID プロバイダによるユーザの認証状況を認証メソッド参照で監視

OpenID Connect (OIDC) を使用して Salesforce にログインしているユーザをサードパーティ ID プロバイダ (IdP) がどのように認証しているかを詳細に把握します。Salesforce 組織の [ログイン履歴] の [認証メソッド参照] 列で、使用された認証メソッドを確認します。

OpenID Connect でのより大きなアクセストークンと更新トークンの容易な統合

アクセストークンと更新トークンの制限が 10,000 文字に増加しました。つまり、より多くのサードパーティ ID プロバイダから選択して Salesforce 用に設定できるようになりました。以前の制限は、アクセストークンごとに 2,000 文字、更新トークンごとに 1,024 文字でした。

「ID 確認」から「デバイスの有効化」への変更

認識できないブラウザまたはアプリケーション (デバイス) からユーザがログインする場合、ユーザに求める ID 検証種別は「デバイスの有効化」と呼ばれるようになりました。以前は、「ID 確認」と呼ばれることもありました。「デバイスの有効化」は、何が起こるかがより正確に反映されている、業界標準の用語です。

プロファイルの絞り込みによるログインフローへのアクセスの管理

セキュリティの強化の目的で、[プロファイルの絞り込み] をオンにした場合は、ユーザによるログインフローの設定が制限されるようになりました。[プロファイルの絞り込み] が有効になっている場合、ユーザがログインフローを設定するには「すべてのプロファイル参照」権限が必要です。

ハイブリッドアプリケーションでの Web セッションの直接管理の有効化

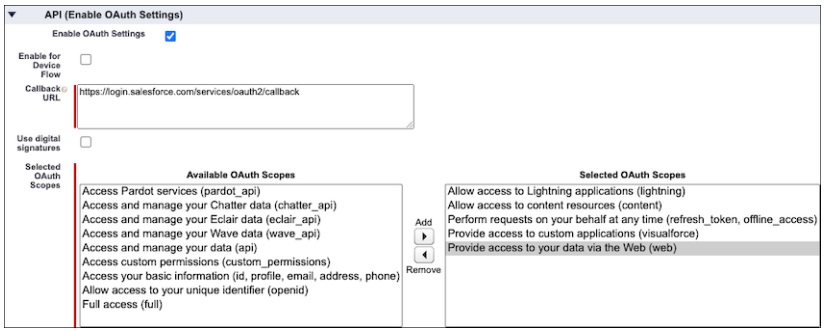
OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローを使用して、ハイブリッドアプリケーションでの Web セッションの管理の複雑さを回避します。通常のユーザエージェントまたは更新トークンフローでは、ハイブリッドアプリケーションは、要求されたドメインの Cookie を設定してアクセストークンを Web セッションに連結します。ただし、このフローではアクセストークンと Web セッションは接続されません。代わりに、アクセストークンと更新トークンが期限切れになったときと Web セッションが期限切れになったときを追跡し、セッションを手動で再度連結して、サービスの中断を回避する必要があります。OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローではアクセストークンと更新トークンが Web セッションに接続されるため、ハイブリッドアプリケーションで Web セッションの直接管理ができます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローは、Mobile SDK 9.1 をサポートするように開発されており、2021 年の前半にリリースされる予定です。

理由: OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーショントークンフロー中に、認証サーバは、その応答内で要求されたドメインのアクセストークンとセッション ID (SID) を付与します。認証後、ハイブリッドアプリケーションは、要求されたドメインの SID をセッション Cookie に直接設定し、frontdoor.jsp を使用してアクセストークンを Web セッションに連結します。ハイブリッド更新トークンフロー中に新しいアクセストークンが付与されると、ハイブリッドアプリケーションは、更新されたドメイン SID を受信します。ハイブリッドアプリケーションはセッション Cookie を直接リセットできるため、中断が回避されます。

方法: ハイブリッドアプリケーションに OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーショントークンフローおよびハイブリッド更新トークンフローを実装するには、ハイブリッドアプリケーションを表す接続アプリケーションを作成します。次に、`lightning`、`content`、`refresh_token`、`visualforce`、および `web` 範囲を接続アプリケーションに割り当てます。接続アプリケーションを設定したら、接続アプリケーションにハイブリッドトークンフローを実装します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: OAuth 2.0 Authorization and Session Management for Hybrid Apps (ハイブリッドアプリケーションの OAuth 2.0 認証およびセッション管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

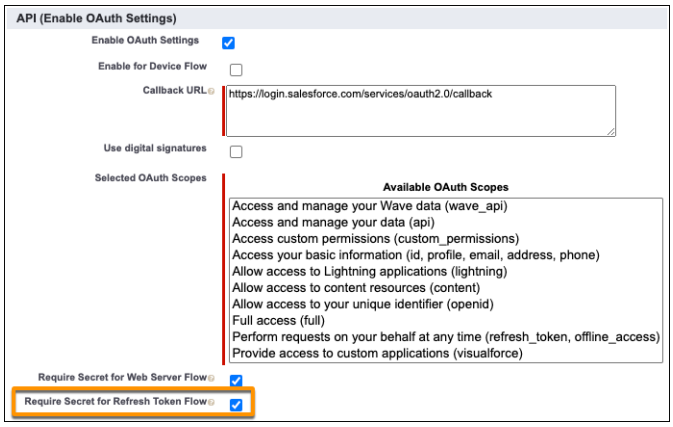
更新トークンフロー中にクライアントの秘密が必要

OAuth 2.0 更新トークンフローおよびハイブリッド更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必要とするように接続アプリケーションを設定できます。クライアントの秘密を保護できる Web サーバベースのアプリケーションでは、クライアントの秘密を必要とするように接続アプリケーションを設定できます。ただし、モバイルアプリケーションやユーザのコンピュータにインストールするアプリケーションなど、クライアントの秘密を保護できないアプリケーションでは、更新トークンフロー中にクライアントの秘密を省略できます。更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必要としないようにしていても、接続アプリケーションが認証要求でクライアントの秘密を送信すると、Salesforce はクライアントの秘密を引き続き検証します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: 新規接続アプリケーションでは、このオプションは自動的に有効になります。Spring '21 リリースより前に作成された接続アプリケーションでは、このオプションは自動的に有効になりません。

方法: 更新トークンフロー中にクライアントの秘密を必要とするように接続アプリケーションを設定するには、[接続アプリケーション] ページで [更新トークンフローの秘密が必要] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: API インテグレーション用の OAuth 設定の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい Frontdoor.jsp パラメータを使用してハイブリッドモバイルアプリケーションのセッションの中断を減らす

組織で frontdoor.jsp を使用してハイブリッドアプリケーションユーザセッションを認証する方法を合理化するには、新しい OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーショントークンフローで `directBridge2` パラメータを使用します。ユーザが認証され、新しいセッションを開始すると、`directBridge2` パラメータで、要求されたドメインのセッション ID Cookie にアクセストークンが直接渡されます。ハイブリッドアプリケーションでは、API コールと UI 要求の両方で同じアクセストークンが使用されるため、このフローでは、更新トークンフローがトリガされたときの中断がなくなります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローは、Mobile SDK 9.1 をサポートするように開発されており、2021 年の前半にリリースされる予定です。

方法: 値 `directBridge2=true` を使用して frontdoor.jsp に対して POST 要求を実行します。セッション ID 値が、Web 範囲のある OAuth 2.0 アクセストークンであり、POST ボディで渡されていることを確認します。モバイルアプリケーションは OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーショントークンフローを使用し、Web ビューでセッション Cookie を管理できる必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Frontdoor.jsp を使用した既存のセッションから Salesforce へのアクセス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

多要素認証アシスタントからのより多くのガイダンスの入手

多要素認証 (MFA) の実装を支援するため、多要素認証アシスタントは MFA アクセラレータ Web セミナーへのアクセス、および Lightning 利用状況アプリケーションのログイン総計値へのアクセスを提供するようになりました。アクセラレータ Web セミナーは、以前はアシスタントで使用可能だった「ユーザ認証」 Trailhead モジュールに代わるものです。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 多要素認証アシスタントの新しいリソースは、すべての Salesforce 組織で 2021 年 1 月 8 日から 2021 年 2 月 13 日までローリング方式で利用できます。新しいリソースの [詳細はこちら] リンクは、2021 年 2 月 13 日まで Sandbox 組織で使用できません。

方法: 多要素認証アシスタントには、Lightning Experience の [設定] からアクセスします。ページの上部で、[多要素認証アシスタント] をクリックします。

MFA アクセラレータ Web セミナーに登録するには、[準備する] フェーズに移動し、[学習] フェーズの [Web セミナーに登録] をクリックします。このアクセラレータ Web セミナーでは、Salesforce のセキュリティエキスパートが MFA を計画、実装、およびロールアウトする方法について説明します。

組織の ID サービスを使用してログインしているユーザ数を監視するには、[管理] フェーズに移動し、[基準] フェーズの [ログイン総計値を監視する] ステップで [アプリケーションを開く] をクリックします。Lightning 利用状況アプリケーションで、過去 7 日間と過去 3 か月にわたって集計された MFA、シングルサインオン (SSO)、および基本認証の利用状況総計値が表示されます。

関連トピック:

組織の ID サービスのログイン総計値を監視

組織の ID サービスのログイン総計値を監視

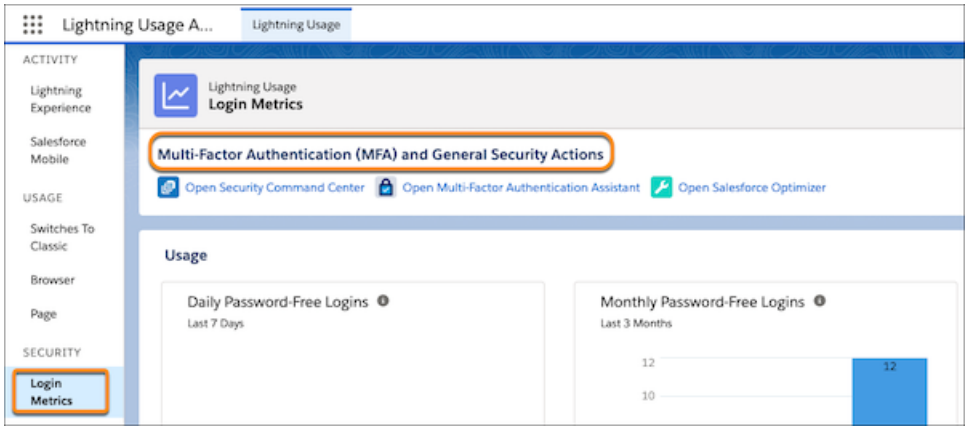
ユーザログインのセキュリティはデータ保護の基礎であり、ログイン総計値によりユーザログインアクティビティのインサイトを得ることができます。Lightning 利用状況アプリケーションの新しい [ログイン総計値] タブには、多要素認証 (MFA) やシングルサインオンなどの組織の ID サービスのデータが表示されます。MFA を実装している場合、ログイン総計値を使用して MFA の採用状況を監視できます。また、Salesforce Optimizer アプリケーションの機能として MFA が追加され、MFA を使用してログインしている (またはログインしていない) ユーザを追跡できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Lightning 利用状況アプリケーションは、Sandbox 組織では使用できません。

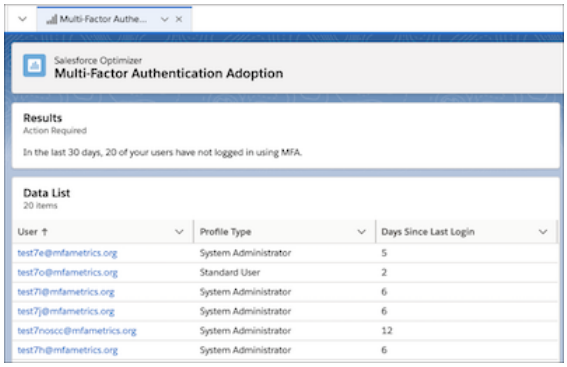
理由: Lightning 利用状況アプリケーションで MFA とシングルサインオン (SSO) の使用数およびその他のログイン総計値を確認してから、Optimizer アプリケーションにアクセスしてユーザレベルでの採用状況を追跡します。

方法: Lightning 利用状況アプリケーションにアクセスするには、 をクリックし、*「Lightning 利用状況」* と入力し、**[Lightning 利用状況]** をクリックします。左ペインの [セキュリティ] の下にある **[ログイン総計値]** をクリックします。[ログイン総計値] ページには、MFA を使用する場合と使用しない場合の過去 7 日間と過去 3 か月間のパスワードなし、シングルサインオン、およびユーザ名とパスワードのログイン方法でのログインデー

タが表示されます。その他の MFA およびセキュリティのリソースについては、[多要素認証 (MFA) および一般的なセキュリティアクション] の下のいずれかのリンクをクリックしてください。



Optimizer アプリケーションにアクセスするには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「オプティマイザ」と入力し、[オプティマイザ] を選択します。レポートの実行後、多要素認証の採用機能を探して、MFA を使用してログインしていないユーザのリスト、および MFA を使用して前回ログインしてからの日数を確認します。



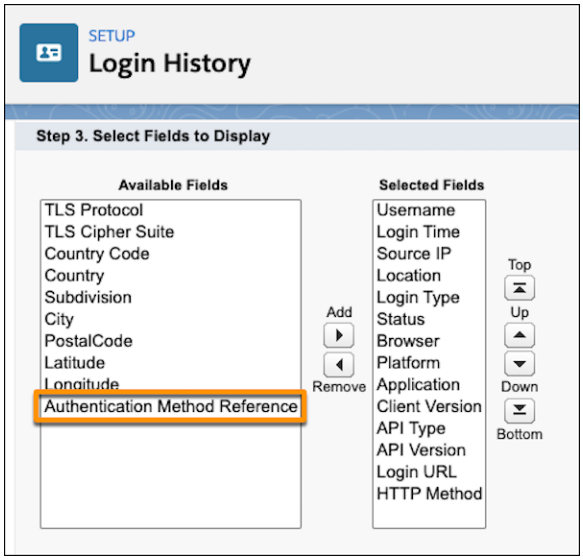
ID プロバイダによるユーザの認証状況を認証メソッド参照で監視

OpenID Connect (OIDC) を使用して Salesforce にログインしているユーザをサードパーティ ID プロバイダ (IdP) がどのように認証しているかを詳細に把握します。Salesforce 組織の [ログイン履歴] の [認証メソッド参照] 列で、使用された認証メソッドを確認します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、認証メソッド情報を返す OIDC ID プロバイダ (AuthO、Okta など) を使用する組織で自動的に使用可能になり、適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「ログイン履歴」* と入力し、[ログイン履歴] をクリックします。[新規ビューの作成] をクリックします。[ステップ 3。表示する項目を選択] の下で [認証メソッド参照] 項目を追加します。[ログイン履歴] ビューの作成を終了して保存します。



新しい [ログイン履歴] ビューには、使用された各認証メソッドの一意の値が含まれる [認証メソッド参照] 列があります。この値は、ID プロバイダによって OIDC ID トークンで返された JSON 文字列から取り込まれます。IdP と連携し、JSON 文字列で使用する値の定義を規定します。

イベントモニタリングを使用して組織のイベントログファイルで認証メソッド値を参照することもできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: OpenID Connect 認証プロバイダの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ログイン履歴の監視 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

OpenID Connect でのより大きなアクセストークンと更新トークンの容易な統合

アクセストークンと更新トークンの制限が 10,000 文字に増加しました。つまり、より多くのサードパーティ ID プロバイダから選択して Salesforce 用に設定できるようになりました。以前の制限は、アクセストークンごとに 2,000 文字、更新トークンごとに 1,024 文字でした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、OpenID Connect をサポートするサードパーティ認証プロバイダを使用する組織に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Developer の制限および割り当てクイックリファレンス: API 要求の制限と割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

「ID 確認」から「デバイスの有効化」への変更

認識できないブラウザまたはアプリケーション(デバイス)からユーザがログインする場合、ユーザに求めるID検証種別は「デバイスの有効化」と呼ばれるようになりました。以前は、「ID確認」と呼ばれることもありました。「デバイスの有効化」は、何が起こるかがより正確に反映されている、業界標準の用語です。

対象: この変更は、すべてのエディションのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: たとえば、Experience Cloudユーザプロファイルの[セッションの設定]で、顧客のID確認の代わりに顧客のデバイスの有効化を有効にします。

プロファイルの絞り込みによるログインフローへのアクセスの管理

セキュリティの強化の目的で、[プロファイルの絞り込み]をオンにした場合は、ユーザによるログインフローの設定が制限されるようになりました。[プロファイルの絞り込み]が有効になっている場合、ユーザがログインフローを設定するには「すべてのプロファイル参照」権限が必要です。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com EditionのLightning ExperienceおよびSalesforce Classic(使用できない組織もあります)に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: プロファイル詳細表示の制限

ドメイン

すべてのSalesforce URLにSalesforce組織の[私のドメイン]の名前を含め、強化されたドメインで最新のブラウザ要件に対応します。組織の[私のドメイン]の名前を簡単に変更して管理します。Salesforce Edge Networkとの接続を強化し、Sandboxでカスタムドメインをテストします。Salesforceサイトと Experience Cloudサイトのドメインで[私のドメイン]をリリースしてHTTPSを有効にします。

このセクションの内容:

簡単な[私のドメイン]の管理

Salesforce組織の[私のドメイン]の名前を簡単に変更して管理します。強化された[設定]ページに現在の[私のドメイン]のログインURLおよび要求された変更が表示されるため、組織の現在の状態をすばやく識別できます。要求された[私のドメイン]の変更やプロビジョニングプロセスをキャンセルできます。複数のドメインサフィックスオプションがある顧客の場合、[私のドメイン]のサフィックスを選択して変更をリリースできます。

強化されたドメインを使用したSalesforce URLの標準化

会社固有の[私のドメイン]の名前をSalesforceサイトやExperience Cloudサイトを含むSalesforce組織のURLに含めます。インスタンス名がない場合、強化されたドメインのURLのほうがユーザにとって覚えやすくなります。また、組織が別のSalesforceインスタンスに移行した場合に安定性を保つことで、中断も回避されます。さらに、強化されたドメインは最新のブラウザ要件に対応しているため、ユーザの期待する柔軟性を実現できます。

Salesforce Edge Network との接続の強化

Salesforce Edge Network を通じた [私のドメイン] のルーティングにより、ダウンロード時間を短縮してユーザ環境を改善します。ビジネスがグローバルになるにつれ、ユーザは世界中から Salesforce データにアクセスするようになっています。Salesforce Edge Network では、ユーザの場所に関係なく一貫したユーザ環境を提供します。

Sandbox でのカスタムドメインのテスト (正式リリース)

カスタムドメインを使用すると、https://www.example.com などのお客様が所有するドメインを使用して、Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトを通じて Salesforce 組織の外部向けのコンテンツをホストできます。本番で使用する準備が整っていることを確認するには、Sandbox でカスタムドメインを使用し、本番環境にリリースする前にカスタムドメインを開発してテストします。

以前の [私のドメイン] の URL からのリダイレクトの停止

ユーザによる Salesforce 組織へのアクセスを管理しやすくするために、以前の [私のドメイン] の URL が現在の [私のドメイン] にリダイレクトされるかどうかを確認できるようになりました。これらの URL からのリダイレクトを防止する場合、以前の [私のドメイン] を削除できます。さらに、以前の [私のドメイン] の名前が現在の [私のドメイン] の名前と異なる場合、別の組織に移動できます。

ドメインでの HTTPS の有効化

データを保護するため、Salesforce では 2021 年 7 月までに HTTP のみのドメインを無効にする予定です。Salesforce サイトと Experience Cloud サイトを今すぐ HTTPS ドメインに移行して、この変更に備えてください。

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。それをリリースするか、会社名に基づいて割り当てます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、廃止)

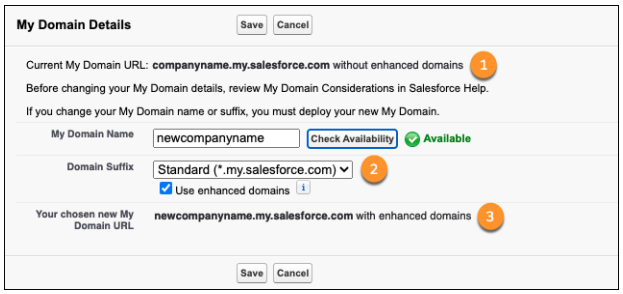
この更新は廃止されました。URL からインスタンス名を削除するには、拡張ドメインを使用します。

簡単な [私のドメイン] の管理

Salesforce 組織の [私のドメイン] の名前を簡単に変更して管理します。強化された [設定] ページに現在の [私のドメイン] のログイン URL および要求された変更が表示されるため、組織の現在の状態をすばやく識別できます。要求された [私のドメイン] の変更やプロビジョニングプロセスをキャンセルできます。複数のドメインサフィックスオプションがある顧客の場合、[私のドメイン] のサフィックスを選択して変更をリリースできます。

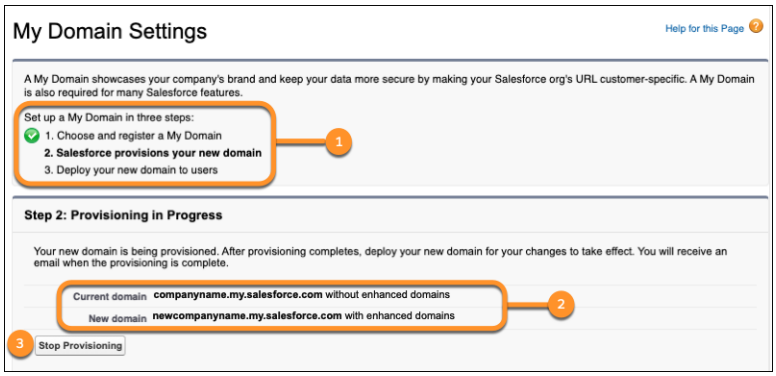
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [私のドメイン] の再リリースを必要とするすべてのオプションは、再編成された [私のドメインの設定] ページの [[私のドメイン] の詳細] でグループ化されました。



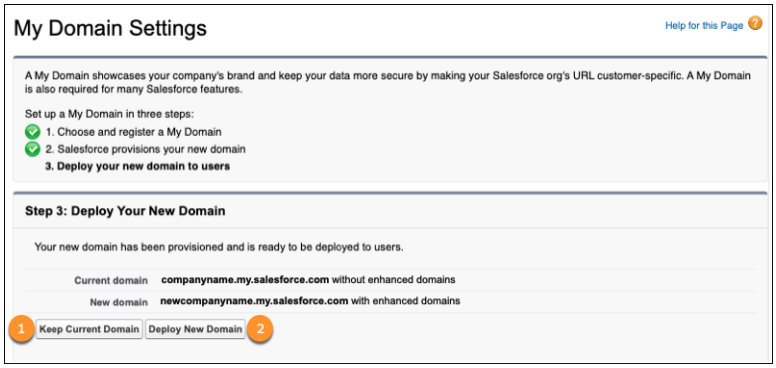
現在の [私のドメイン] の URL (1) およびリリースする [私のドメイン] (3) を確認して、実行しようとしている変更を理解します。顧客が別のドメインサフィックスを選択できるように、[ドメインサフィックス] ドロップダウン (2) が表示されます。たとえば、組織の [私のドメイン] の URL を example.cloudforce.com から example.my.salesforce.com に変更します。

[私のドメイン] の名前またはサフィックスを変更した後で、Salesforce によって新しい [私のドメイン] がプロビジョニングされます。プロビジョニングプロセス中に、簡単なチェックが行われ、新しいドメインへのネットワークアクセスが可能であることが確認されます。



新しい [私のドメイン] の要求または [私のドメイン] の変更が進行中の場合、[私のドメインの設定] ページに進捗状況が表示されます (1)。現在および新規の [私のドメイン] のログイン URL (2) が表示され、プロビジョニングプロセスをキャンセルできます (3)。

プロビジョニングが完了して新しい [私のドメイン] の URL を使用してログインすると、[設定] ページに明確に状況が表示されます。



ここから、新しい [私のドメイン] の要求をキャンセル (1) することも、新しいドメインをリリース (2) して使用を開始することもできます。

方法: [私のドメイン] を設定するか既存の [私のドメイン] を管理するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 私のドメイン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

強化されたドメインを使用した Salesforce URL の標準化

会社固有の [私のドメイン] の名前を Salesforce サイトや Experience Cloud サイトを含む Salesforce 組織の URL に含めます。インスタンス名がない場合、強化されたドメインの URL のほうがユーザにとって覚えやすくなります。また、組織が別の Salesforce インスタンスに移行した場合に安定性を保つことで、中断も回避されます。さらに、強化されたドメインは最新のブラウザ要件に対応しているため、ユーザの期待する柔軟性を実現できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、Spring '21 リリースからローリング方式でリリースされ、2021 年 4 月 30 日までにすべてのユーザが利用できるようになります。

対象ユーザ: Salesforce Edge Network を通じて転送された [私のドメイン] がリリースされている Salesforce 組織。Public Cloud、Salesforce Government Cloud、一部の個別の組織は、Salesforce Edge Network に移行できないため、現在のところ除外されています。

理由: 一貫したドメイン形式により、ユーザ環境が向上され、コードおよび API コールでのエラーが減ります。Salesforce の強化されたドメインは最新のブラウザ要件にも準拠しているため、ユーザはサードパーティ Cookie をブロックするブラウザを使用して Salesforce にアクセスできます。

強化されたドメインを使用して [私のドメイン] をリリースすると、すべてのアプリケーションの URL は先頭が組織の [私のドメイン] の名前になり、インスタンス名が削除されます。一部の URL からはパッケージ名が削除されます。Experience Cloud サイト、Salesforce サイト、コンテンツファイル、Site.com Studio、エクスペリエンスビルダー、Visualforce の URL では、ドメインサフィックス ([私のドメイン] の名前の後の部分) が変更されます。さらに、Sandbox 組織の URL には sandbox という単語が含まれるため、識別しやすくなります。

次に、強化されたドメインを使用して [私のドメイン] をリリースしている組織の URL 形式をいくつか示します。ログイン URL は強化されたドメインなしの場合と同じですが、残りの URL は変更されます。

URL の種類	強化されたドメインの形式
ログイン	***MyDomainName***`.my.salesforce.com`
コンテンツファイル	***MyDomainName***`.file.force.com`
Experience Cloud サイト	***MyDomainName***`.my.site.com`

URL の種類	強化されたドメインの形式
エクスペリエンスビルダー	***MyDomainName***`.builder.salesforce-experience.com`
Salesforce サイト	***MyDomainName***`.my.salesforce-sites.com`
Visualforce ページ	***MyDomainName--PackageName***`.vf.force.com`
Sandbox ログイン	***MyDomainName--SandboxName***`.sandbox.my.salesforce.com`
Sandbox 組織の Experience Cloud サイト	***MyDomainName--SandboxName***`.sandbox.my.site.com`

強化されたドメインを使用して [私のドメイン] をリリースした場合の URL 形式および URL 形式の変更の完全なリストについては、Salesforce ヘルプの「[私のドメイン] の URL の形式」を参照してください。

方法: 本番環境を更新する前に [私のドメイン] のすべての変更を Sandbox 環境でテストすることをお勧めします。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[[私のドメイン] の詳細] で、[編集] をクリックします。[拡張ドメインを使用します] を選択し、変更を保存します。新しい [私のドメイン] がプロビジョニングされたら、[私のドメインの設定] ページからリリースします。

関連トピック:

- Salesforce Edge Network との接続の強化
- *Salesforce* ヘルプ: 拡張ドメイン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: [私のドメイン] の URL の形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Edge Network との接続の強化

Salesforce Edge Network を通じた [私のドメイン] のルーティングにより、ダウンロード時間を短縮してユーザ環境を改善します。ビジネスがグローバルになるにつれ、ユーザは世界中から Salesforce データにアクセスするようになっています。Salesforce Edge Network では、ユーザの場所に関係なく一貫したユーザ環境を提供します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: [私のドメイン] がリリースされている Salesforce 組織。Public Cloud、Salesforce Government Cloud、Customer 360 Data Manager、一部の個別の組織は現在のところ Salesforce Edge Network への移行から除外されています。

理由: ユーザは必要なときにいつでもすばやく情報にアクセスできることを期待しています。Salesforce Edge Network により、Salesforce サービスが信頼性の高い Salesforce インフラストラクチャを使用しているユーザにとってより身近なものになります。

Salesforce Edge Network では、Salesforce Edge Network がリリースされている最も近い Salesforce の場所に要求を転送します。その後、Transport Layer Security (TLS) の終端、静的キャッシュ、Transmission Control Protocol (TCP) の最適化などの幅広いサービスを使用してユーザの環境を改善します。

方法: 本番環境を更新する前に [私のドメイン] のすべての変更を Sandbox 環境でテストすることをお勧めします。

Salesforce Edge Network を有効化する前に組織の準備を整えてください。地域別の Salesforce IP アドレスを許可リストに登録している場合、エンドユーザがいる地域の現在の IP アドレス範囲を含めることをお勧めします。サーバの証明書を検証するように固定されているクライアント側の証明書を使用している場合、リーフ証明書を固定することはお勧めしません。Salesforce Edge Network ではデータセンター固有の証明書を使用するため、操作性を高めるために、代わりに中間証明書を固定することをお勧めします。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*私のドメイン*」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[ルーティング] で [編集] をクリックします。**[Salesforce Edge Network を使用]** を選択し、変更を保存します。

重要: Salesforce Edge ネットワークへの移行を元に戻せるのは Salesforce カスタマーサポートのみです。

有効にすると、組織のほとんどのドメインを転送するために Salesforce Edge Network が使用されます。Salesforce Edge Network を最大限活用するには、強化されたドメインを有効にすることをお勧めします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Edge Network (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

強化されたドメインを使用した Salesforce URL の標準化

Sandbox でのカスタムドメインのテスト (正式リリース)

カスタムドメインを使用すると、https://www.example.com などのお客様が所有するドメインを使用して、Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトを通じて Salesforce 組織の外部向けのコンテンツをホストできます。本番で使用する準備が整っていることを確認するには、Sandbox でカスタムドメインを使用し、本番環境にリリースする前にカスタムドメインを開発してテストします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 現在、Government Cloud、Public Cloud、および Hyperforce 組織は Sandbox ではカスタムドメインから除外されています。

方法: 本番環境の [設定] の [クイック検索] ボックスに「*ドメイン*」と入力し、[ドメイン] を選択します。ドメインを追加するか、既存のドメインを編集します。[ドメイン] ページで、[Salesforce CDN] 以外の HTTPS オプションを選択します。[関連付けられた組織] 項目で Sandbox を選択し、変更内容を保存します。

カスタムドメインの追加を完了するには、ドメインを有効化します。続いて、Sandbox にログインして Sandbox の Salesforce サイトまたは Experience Cloud サイトのドメインを更新します。

カスタムドメインを使用する Sandbox を更新、コピー、または削除するときの考慮事項については、Salesforce ヘルプを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Test Your Custom Domains in a Sandbox (Sandbox でのカスタムドメインのテスト) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Spring '20 リリースノート: Use Custom Domains for Sandboxes (Pilot) (Sandbox 用のカスタムドメインの使用 (パイロット))

IdeaExchange: Custom Domains for Sandbox Sites (Sandbox サイト用のカスタムドメイン)

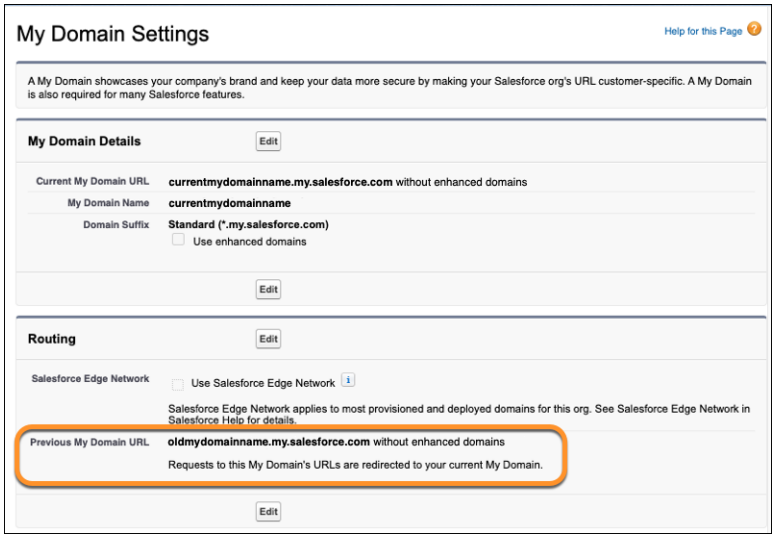
以前の [私のドメイン] の URL からのリダイレクトの停止

ユーザによる Salesforce 組織へのアクセスを管理しやすくするために、以前の [私のドメイン] の URL が現在の [私のドメイン] にリダイレクトされるかどうかを確認できるようになりました。これらの URL からのリダイレクトを防止する場合、以前の [私のドメイン] を削除できます。さらに、以前の [私のドメイン] の名前が現在の [私のドメイン] の名前と異なる場合、別の組織に移動できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 名前を変更した [私のドメイン] がリリースされている Salesforce 組織。

理由: [私の名前] の名前を変更するか、[私のドメイン] のサフィックスを変更した場合、Salesforce によって以前の [私のドメイン] の URL への要求が現在の [私のドメイン] にリダイレクトされます。以前の [私のドメイン] の URL が現在の [私のドメイン] にリダイレクトされる場合、以前の URL は [私のドメインの設定] ページの [ルーティング] の下にリストされます。



以前の [私のドメイン] の URL のリダイレクトは、ブックマークやリンクを更新していないユーザに便利です。ブランド変更により [私のドメイン] を変更する場合、これらの URL へのリダイレクトをいつ停止するかを決定できるようになりました。

また、[私のドメイン] の名前は使用中または別の組織に関連付けられている場合には、他の Salesforce 組織では使用できません。組織の [私のドメイン] の名前を変更する場合、以前の [私のドメイン] を削除すれば別の Salesforce 組織で使用できるようになります。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[ルーティング] で [編集] をクリックし、[以前の [私のドメイン] を削除] をクリックして決定を確定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Remove Your Previous My Domain (以前の [私のドメイン] の削除) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドメインでの HTTPS の有効化

データを保護するため、Salesforce では 2021 年 7 月までに HTTP のみのドメインを無効にする予定です。Salesforce サイトと Experience Cloud サイトを今すぐ HTTPS ドメインに移行して、この変更に備えてください。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: HTTPS には Transport Layer Security (TLS) プロトコルがあり、HTTP と比べてセキュリティが強化されています。TLS はインターネットを通じた通信のデータのセキュリティおよびプライバシーを強化するためのものです。

方法: カスタムドメインを使用すると、https://www.example.com などのお客様が所有するドメインを使用して、Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトを通じて組織の外部向けのコンテンツをホストできます。カスタムドメインで HTTPS を有効にするには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「ドメイン」と入力し、[ドメイン] を選択します。カスタムドメインを編集します。[ドメインの詳細] ページで、[Salesforce が HTTPS アクセスのサポートなしで HTTP を介してドメインを提供する] 以外の HTTPS オプションを選択し、[Strict Transport Security ヘッダーを有効化] を選択します。変更内容を保存します。続いて、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの HSTS] を選択して、[保存] をクリックします。

カスタムドメインに保存されない Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの場合、これらのドメインのすべての要求を HTTPS にアップグレードすることをお勧めします。[設定] の [クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。サイトの表示ラベルをクリックし、[編集] をクリックします。[サイトの詳細] ページで [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] と [すべての要求を HTTPS にアップグレード] を選択します。変更内容を保存します。続いて、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[Salesforce サイトおよび Experience Cloud サイトの HSTS] を選択して、[保存] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ドメインの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Winter '21 リリースノート: セキュア HTTPS 接続の必須化 (更新、適用済み)

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。それをリリースするか、会社名に基づいて割り当てます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ: この更新は、Winter '21 の開始時点で [私のドメイン] がリリースされていない組織に適用されます。Winter '21 以降で作成されたすべての本番組織では、デフォルトで [私のドメイン] を取得します。

理由: [私のドメイン] をリリースすることで、ログイン URL が選択した [私のドメイン] 名でブランド設定されます。また、ログイン URL からインスタンス名が削除され、組織が別の Salesforce インスタンスに移動した場合のユーザのログイン中断を回避することもできます。ユーザの認証方法を決定するカスタムログインポリシーを設定したり、外部ベンダを使用したシングルサインオン (SSO) を設定したり、Customer 360 Data Manager などの新しいサービスを使用したりするためには、[私のドメイン] が必要です。一部の Lightning コンテナコンポーネントや Web セキュリティ保護でも [私のドメイン] が必要です。

方法: [私のドメイン] は、Sandbox でリリースして組織全体の接続をテストしてから、本番でリリースすることをお勧めします。

この更新を実行するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。[[私のドメイン] をリリース] で、テストと有効化の手順を実行します。[私のドメイン] の設定、テスト、リリース方法については、Salesforce ヘルプの「私のドメイン」を参照してください。

Winter '22 の適用日までに [私のドメイン] をリリースしなかった場合、組織の会社名に基づいて Salesforce によって設定されます。別の名前を使用する場合は、設定後に [私のドメイン] を変更できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 私のドメイン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Summer '20 リリースノート: [私のドメイン] のリリース (更新)

リリース更新

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、廃止)

この更新は廃止されました。URL からインスタンス名を削除するには、拡張ドメインを使用します。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は廃止されたため、[設定] の [リリース更新] ページに表示されなくなります。

理由: インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。[私のドメイン] をリリースしている組織では、このリリース更新によりいくつかの URL からインスタンス名が削除されているため、URL が短縮

され、ユーザが覚えやすくなっています。一部のブラウザおよびオペレーティングシステムでは、このリリース更新が最初に利用可能になった後で URL 要件が更新されました。強化されたドメインにより、Salesforce 組織の URL の最新の基準が提供されます。

方法: 組織の URL からインスタンス名を削除して最新のブラウザ要件に対応するには、強化されたドメインを有効にします。

このリリース更新によって以前に制御された URL 変更を有効または無効にするには、新しい [私のドメインの設定] 項目を使用します: Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除。新しい項目にアクセスするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*私のドメイン*」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[[私のドメイン] の詳細] で、[編集] をクリックします。

メモ: URL からインスタンス名が削除されると、ホスト名が変更されます。Salesforce ヘルプの「[私のドメイン] の URL の形式」を参照してください。

関連トピック:

Winter '21 リリースノート: Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保

Salesforce ヘルプ: [私のドメイン] の URL の形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース更新

Salesforce Shield

Event Monitoring Analytics アプリケーションには、Salesforce 全体の使用状況を分析するのに役立つ新しいデータセットが多数用意されています。リアルタイムイベントモニタリングでは、メタデータ API を使用したプログラムによる自動的な設定がサポートされるようになりました。Lightning イベント種別には、クライアントのブラウザ要件を特定するのに役立つ CLIENT_GEO 項目が含まれています。Shield Platform Encryption では、発言の提案オブジェクトで [発言] 項目がサポートされるようになりました。また、より迅速かつ効率的に大量のレコードを暗号化ポリシーと同期することもできます。

このセクションの内容:

Shield Platform Encryption

ボットのトレーニングに使用される機密性の高いデータのセキュリティを一層強化します。発言の提案オブジェクトの [発言] 項目と Salesforce アンケートへの参加者の回答を暗号化できるようになりました。バックグラウンド暗号化サービスは、大量のレコードのより迅速かつ効率的な同期も行います。

イベントモニタリング

Event Monitoring Analytics アプリケーションで使用できる新しいデータセットにより、分析できるデータが増えました。メタデータ API を使用して、リアルタイムイベントモニタリングの設定を自動化できます。新しい CLIENT_GEO 項目を使用して、すべての Lightning イベント種別でユーザを見つけます。ReportEvent クエリの新しい UserId 項目を使用してユーザの活動に焦点を当てます (ベータ)。

Shield Platform Encryption

ボットのトレーニングに使用される機密性の高いデータのセキュリティを一層強化します。発言の提案オブジェクトの[発言]項目とSalesforceアンケートへの参加者の回答を暗号化できるようになりました。バックグラウンド暗号化サービスは、大量のレコードのより迅速かつ効率的な同期も行います。

このセクションの内容:

ボットの発言データの暗号化
顧客が最大限の成果を得られるようにボットを使用している場合、ボットのトレーニングに使用される機密性の高いデータを暗号化できるようになりました。発言の提案オブジェクトで[発言]項目のデータを暗号化すれば、HIPPAのコンプライアンス要件に対応しやすくなります。最大限の推奨結果を得るには、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームを使用します。

バックグラウンド暗号化を使用したより多くのデータの迅速な暗号化
Shield Platform Encryptionでは、より多くのレコードをより効率的に同期するようにバックグラウンド暗号化サービスが最適化されました。[暗号化統計]ページから開始する同期プロセスは、より短時間で完了します。また、大量のデータがあるユーザは、より時間効率の良いSalesforceカスタマーサポートを利用できます。新たに4倍に増えたレコード量の処理とより迅速な同期操作により、すばやく通常業務に戻ることができます。

アンケートで送信された情報の暗号化
Salesforceアンケートの回答で入力された機密情報や個人識別情報を暗号化できるようになりました。Shield Platform Encryptionによって、アンケートの質問への回答オブジェクトの[日付値]、[日時値]、[選択肢の値]、[回答の値]の各項目で確率的暗号化が提供されます。

ボットの発言データの暗号化

顧客が最大限の成果を得られるようにボットを使用している場合、ボットのトレーニングに使用される機密性の高いデータを暗号化できるようになりました。発言の提案オブジェクトで[発言]項目のデータを暗号化すれば、HIPPAのコンプライアンス要件に対応しやすくなります。最大限の推奨結果を得るには、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning ExperienceおよびSalesforce Classicに適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Shield Platform Encryptionとチャットを含むService Cloudの両方が有効になっているエディションに適用されます。

方法: [設定]の[暗号化ポリシー]ページで[項目を暗号化]をクリックします。次に[編集]をクリックして、[発言]項目をクリックします。[発言]項目では、大文字と小文字を区別しない確定的暗号化スキームのみサポートされます。バックグラウンド暗号化サービスを使用して既存の項目データを暗号化できます。通常のキャッシュ管理タスクでは、[発言]項目のデータは平均7日ごとに削除されます。

関連トピック:

Einstein ボット向けのShield Platform Encryptionによるセキュリティの向上

バックグラウンド暗号化を使用したより多くのデータの迅速な暗号化

Shield Platform Encryption では、より多くのレコードをより効率的に同期するようにバックグラウンド暗号化サービスが最適化されました。[暗号化統計] ページから開始する同期プロセスは、より短時間で完了します。また、大量のデータがあるユーザは、より時間効率の良い Salesforce カスタマーサポートを利用できます。新たに 4 倍に増えたレコード量の処理とより迅速な同期操作により、すばやく通常業務に戻ることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

アンケートで送信された情報の暗号化

Salesforce アンケートの回答で入力された機密情報や個人識別情報を暗号化できるようになりました。Shield Platform Encryption によって、アンケートの質問への回答オブジェクトの [日付値]、[日時値]、[選択肢の値]、[回答の値] の各項目で確率的暗号化が提供されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Salesforce Shield および Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションを購入し、Salesforce アンケートを有効にしたお客様が使用できます。

方法: まず、組織で Salesforce アンケートを有効にします。次に、[設定] の [クイック検索] ボックスに *「暗号化ポリシー」* と入力し、[暗号化ポリシー] を選択します。[編集] をクリックして、項目を選択します。

関連トピック:

- アンケートの回答の暗号化

イベントモニタリング

Event Monitoring Analytics アプリケーションで使用できる新しいデータセットにより、分析できるデータが増えました。メタデータ API を使用して、リアルタイムイベントモニタリングの設定を自動化できます。新しい CLIENT_GEO 項目を使用して、すべての Lightning イベント種別でユーザを見つけます。ReportEvent クエリの新しい UserId 項目を使用してユーザの活動に焦点を当てます (ベータ)。

このセクションの内容:

- Event Monitoring Analytics アプリケーションでの分析できるイベントの増加

  イベントデータが追加され、Event Monitoring Analytics アプリケーションが使いやすくなりました。新しいイベントデータセットを使用して、データセットを手動で、または Analytics 外部データ API を使用してアップロードすることなく、Analytics アプリケーションでのより多くの API 使用状況および Apex データを分析できます。

- Analytics アプリケーションの設定ウィザードで変更されたデフォルトの回答

  Analytics Studio のカスタマイズウィザードを使用して Event Monitoring Analytics アプリケーションを作成した場合、アプリケーションに含めるために選択できる各データセットのデフォルトが [いいえ] になりました。以前は、すべてのデータセットのデフォルトが [はい] でした。つまり、各データセットを明示的に [いいえ] に設定しない限りすべてのデータセットが含まれていました。

メタデータ API を使用したリアルタイムイベントモニタリングの設定の自動化

メタデータ API を使用してすべてのリアルタイムイベントのストリーミングおよび保存を有効化または無効化して、リアルタイムイベントモニタリングの設定を自動化できるようになりました。以前は、各イベントのストリーミングおよび保存を有効化および無効化するために UI のみを使用していました。

すべての Lightning イベント種別でのユーザの発見

新しい CLIENT_GEO 項目を使用して、クライアントのブラウザから要求の国および地域を見つけます。CLIENT_GEO 項目は、Lightning エラー、Lightning インタラクション、Lightning ページビュー、Lightning パフォーマンスのすべての Lightning イベント種別で使用できます。システム管理者は、国別に Lightning ページのパフォーマンスを監視して、ユーザの Salesforce 環境を最適化してビジネスワークフローを改善できます。

EventLogFile でのコマースイベントに関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい 1 つのコマース利用状況イベント種別は、コマースインスタンスに関する情報を取得します。このイベントを使用して、サービスの状態を分析し、潜在的な問題を特定します。

ID プロバイダの認証要求を追跡する

`IdentityProviderEventStore` Big Object を使用して、別のアプリケーションプロバイダからの認証要求イベントを監視できるようになりました。また、Salesforce が ID プロバイダとして機能する場合に、発信 SAML 応答を監視することもできます。

EventLogFile での Lightning コンポーネント要求に関する情報の取得

`EventLogFile` オブジェクトの新しい Aura 要求イベント種別では、Aura または Lightning Web コンポーネントから Apex メソッドへの要求に関する情報が取得されます。このイベントを使用して、パフォーマンスを分析し、潜在的な問題を特定します。たとえば、要求時間をベンチマークしたり、失敗した要求の URI を特定したりできます。

Event Monitoring Analytics アプリケーションでの分析できるイベントの増加

イベントデータが追加され、Event Monitoring Analytics アプリケーションが使いやすくなりました。新しいイベントデータセットを使用して、データセットを手動で、または Analytics 外部データ API を使用してアップロードすることなく、Analytics アプリケーションでのより多くの API 使用状況および Apex データを分析できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: たとえば、組織が前日に実行した Apex コールアウト要求数を示す Apex コールアウトデータセットからのデータを使用して、Analytics アプリケーション内でレンズを作成できます。先月の Apex コールアウト要求の平均要求時間を確認することもできます。

方法: Event Monitoring Analytics アプリケーションを作成するか、次の新しいデータセットを活用するように既存のアプリケーションを更新します。

- Apex コールアウト: Apex コード実行中のコールアウト (外部要求) に関する詳細。
- Apex REST API: すべての Apex REST API 要求に関する情報。
- Apex SOAP: Web サービス API コールに関する詳細。
- Apex トリガ: 組織で起動されるトリガに関する詳細。
- Bulk API: Bulk API 要求に関する詳細。

- 実行時間が長い同時 Apex 制限: 組織の同時実行制限に達した後に Salesforce によって終了された、組織内の実行時間が長い同時 Apex 要求に関する情報。
- ナレッジ記事ビュー: 知識ベースでのユーザアクティビティ。
- 検索: ユーザの検索クエリに関する詳細。
- 検索のクリック: ユーザの検索結果とのやりとりに関する詳細。
- Wave ダウンロード: レンズの探索およびダッシュボードウィジェットから実行されたダウンロード。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーションのアップグレード
オブジェクトリファレンス: Apex コールアウトイベント種別
オブジェクトリファレンス: Apex REST API イベント種別
オブジェクトリファレンス: Apex SOAP イベント種別
オブジェクトリファレンス: Apex トリガイベント種別
オブジェクトリファレンス: Bulk API イベント種別
オブジェクトリファレンス: 実行時間が長い同時 Apex 制限イベント種別
オブジェクトリファレンス: ナレッジ記事ビューイベント種別
オブジェクトリファレンス: 検索イベント種別
オブジェクトリファレンス: 検索のクリックイベント種別
オブジェクトリファレンス: Wave ダウンロードイベント種別

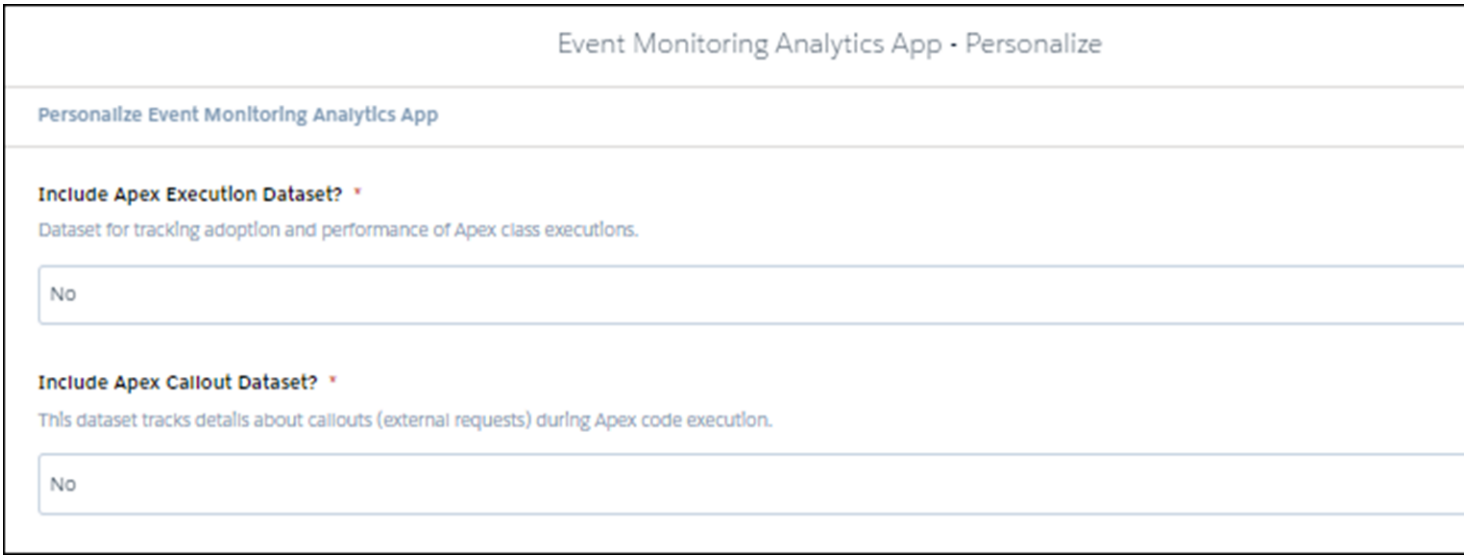
Analytics アプリケーションの設定ウィザードで変更されたデフォルトの回答

Analytics Studio のカスタマイズウィザードを使用して Event Monitoring Analytics アプリケーションを作成した場合、アプリケーションに含めるために選択できる各データセットのデフォルトが [いいえ] になりました。以前は、すべてのデータセットのデフォルトが [はい] でした。つまり、各データセットを明示的に [いいえ] に設定しない限りすべてのデータセットが含まれていました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: データセットのドロップダウンリストから、アプリケーションに含める各データセットで [はい] を選択し、含めるデータの日数を指定します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーションの作成と共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API を使用したリアルタイムイベントモニタリングの設定の自動化

メタデータ API を使用してすべてのリアルタイムイベントのストリーミングおよび保存を有効化または無効化して、リアルタイムイベントモニタリングの設定を自動化できるようになりました。以前は、各イベントのストリーミングおよび保存を有効化および無効化するために UI のみを使用していました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: UI を使用してストリーミングおよび保存の設定を行う場合、一度に 1 つずつイベントを変更します。メタデータ API を使用すれば、プログラムで一度に複数のイベントを変更できます。

方法: `package.xml` マニフェストファイルを使用してすべてのリアルタイムイベントの現在の設定を取得します。`RealtimeEvent.settings` ファイルを使用して、必要な数のリアルタイムイベントの変更を有効化または無効化します。

関連トピック:

メタデータ API 開発者ガイド: package.xml マニフェストファイルのサンプル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API 開発者ガイド: メタデータのリリースと取得 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

すべての Lightning イベント種別でのユーザの発見

新しい CLIENT_GEO 項目を使用して、クライアントのブラウザから要求の国および地域を見つけます。CLIENT_GEO 項目は、Lightning エラー、Lightning インタラクション、Lightning ページビュー、Lightning パフォーマンスのすべての Lightning イベント種別で使用できます。システム管理者は、国別に Lightning ページのパフォーマンスを監視して、ユーザの Salesforce 環境を最適化してビジネスワークフローを改善できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile オブジェクトデータを使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

- *SOAP API 開発者ガイド*: Lightning エラーイベント種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *SOAP API 開発者ガイド*: Lightning インタラクションイベント種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *SOAP API 開発者ガイド*: Lightning ページビューイベント種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *SOAP API 開発者ガイド*: Lightning パフォーマンスイベント種別 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

EventLogFile でのコマースイベントに関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい 1 つのコマース利用状況イベント種別は、コマースインスタンスに関する情報を取得します。このイベントを使用して、サービスの状態を分析し、潜在的な問題を特定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

- *オブジェクトリファレンス*: 1 つのコマース利用状況イベント種別

ID プロバイダの認証要求を追跡する

`IdentityProviderEventStore` Big Object を使用して、別のアプリケーションプロバイダからの認証要求イベントを監視できるようになりました。また、Salesforce が ID プロバイダとして機能する場合に、発信 SAML 応答を監視することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile オブジェクトデータを使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

方法: イベントマネージャでイベントのストレージを有効にします。その後、SOQL クエリを使用してイベントにアクセスします。

関連トピック:

プラットフォームイベント開発者ガイド: リアルタイムイベントモニタリングオブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

EventLogFile での Lightning コンポーネント要求に関する情報の取得

`EventLogFile` オブジェクトの新しい Aura 要求イベント種別では、Aura または Lightning Web コンポーネントから Apex メソッドへの要求に関する情報が取得されます。このイベントを使用して、パフォーマンスを分析し、潜在的な問題を特定します。たとえば、要求時間をベンチマークしたり、失敗した要求の URI を特定したりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客、および EventLogFile を使用してイベントを監視する顧客が使用できます。

関連トピック:

オブジェクトリファレンス: Aura 要求イベント種別

セキュリティセンター

セキュリティセンターを使用すれば、より実践的にセキュリティデータを表示できます。詳細ページのグラフが改善され、変更がいつ発生したかを簡単に確認できます。1 日ごとにスケジュールされているアプリケーションの更新を待つことなく、指標データをオンデマンドで更新できるようになりました。また、平均状態チェックスコアの 30 日間のトレンドグラフ、および 6 か月間の履歴状態チェック情報をアプリケーションから直接表示できるようになりました。こうした追加の詳細は、顧客の機密データに関わる変更および設定に積極的に対応するのに役立ちます。

このセクションの内容:

総計値データのオンデマンド更新

最新の総計値データを表示するために、セキュリティセンターの毎日の更新を待つ必要がなくなりました。必要に応じて、個々の総計値を更新できるようになりました。オンデマンドの総計値更新により最新の情報を得られるため、十分な情報に基づいて決定を下すことができます。また、これは移り変わりの激しい状況を監視するのに役立ちます。

セキュリティセンターでの履歴状態チェックの詳細表示

セキュリティセンターアプリケーションから、より多くのセキュリティ状態チェックデータにアクセスできるようになりました。[セキュリティ状態チェック] 詳細ページには、すべての接続済みテナントの経時的な平均状態チェックスコアを調べるのに役立つ、新しいトレンドグラフがあります。また、セキュリティセンターから直接、過去 6 か月間の状態チェックデータを確認できるため、クリック数と時間を節約できます。

改善された詳細ページのグラフによる変更の特定

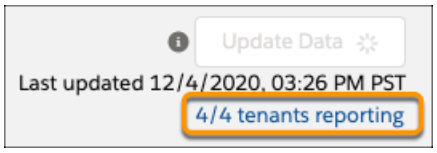
新しい [1 日の変更] グラフオーバーレイでは、毎日の総計値の変化がより明確に表示されます。特定の日のいつ変更が発生したかを簡単に確認できるようになりました。

総計値データのオンデマンド更新

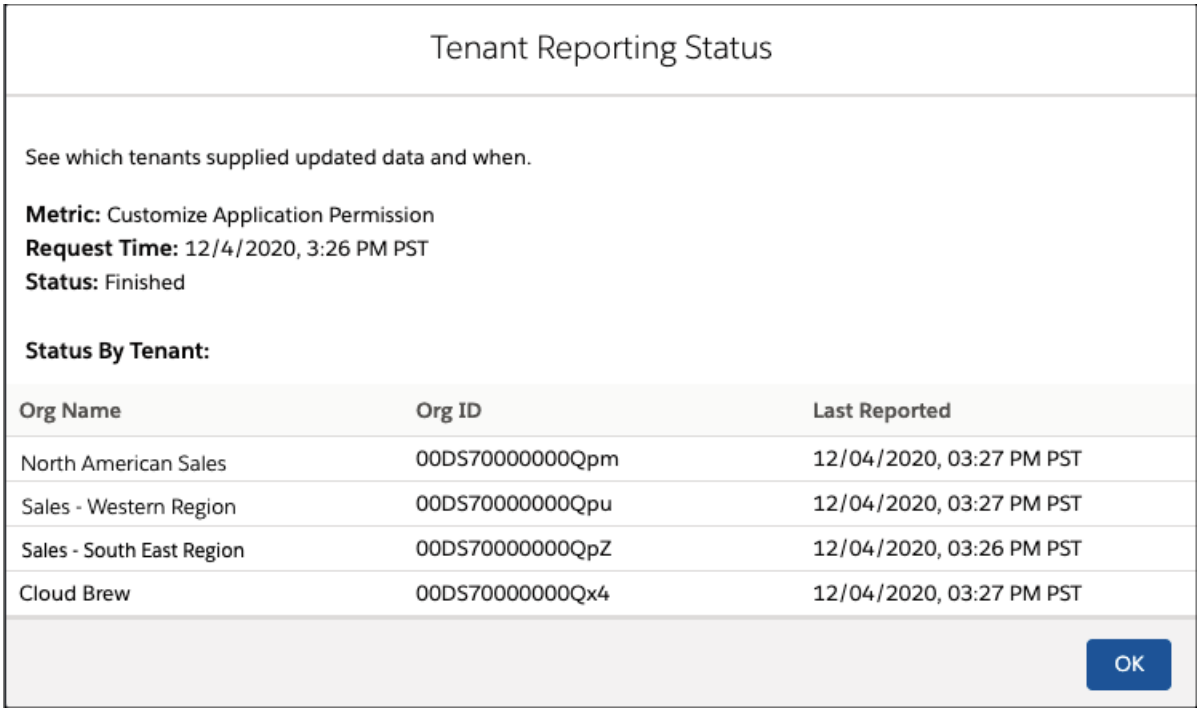
最新の総計値データを表示するために、セキュリティセンターの毎日の更新を待つ必要がなくなりました。必要に応じて、個々の総計値を更新できるようになりました。オンデマンドの総計値更新により最新の情報を得られるため、十分な情報に基づいて決定を下すことができます。また、これは移り変わりの激しい状況を監視するのに役立ちます。

対象: セキュリティセンターは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition でアドオンサブスクリプションとして利用できます。セキュリティセンターは Government Cloud または Government Cloud Plus では使用できません。

方法: 総計値の詳細ページで、[データを更新] をクリックします。状況行には、総計値が最後に更新された日時、および更新されたデータを報告したテナントの数が表示されます。



更新中の任意の時点で、[テナントのレポート]リンクをクリックして、すべての接続済みテナントのリスト、およびそれらが最後にデータを報告した日時を確認できます。



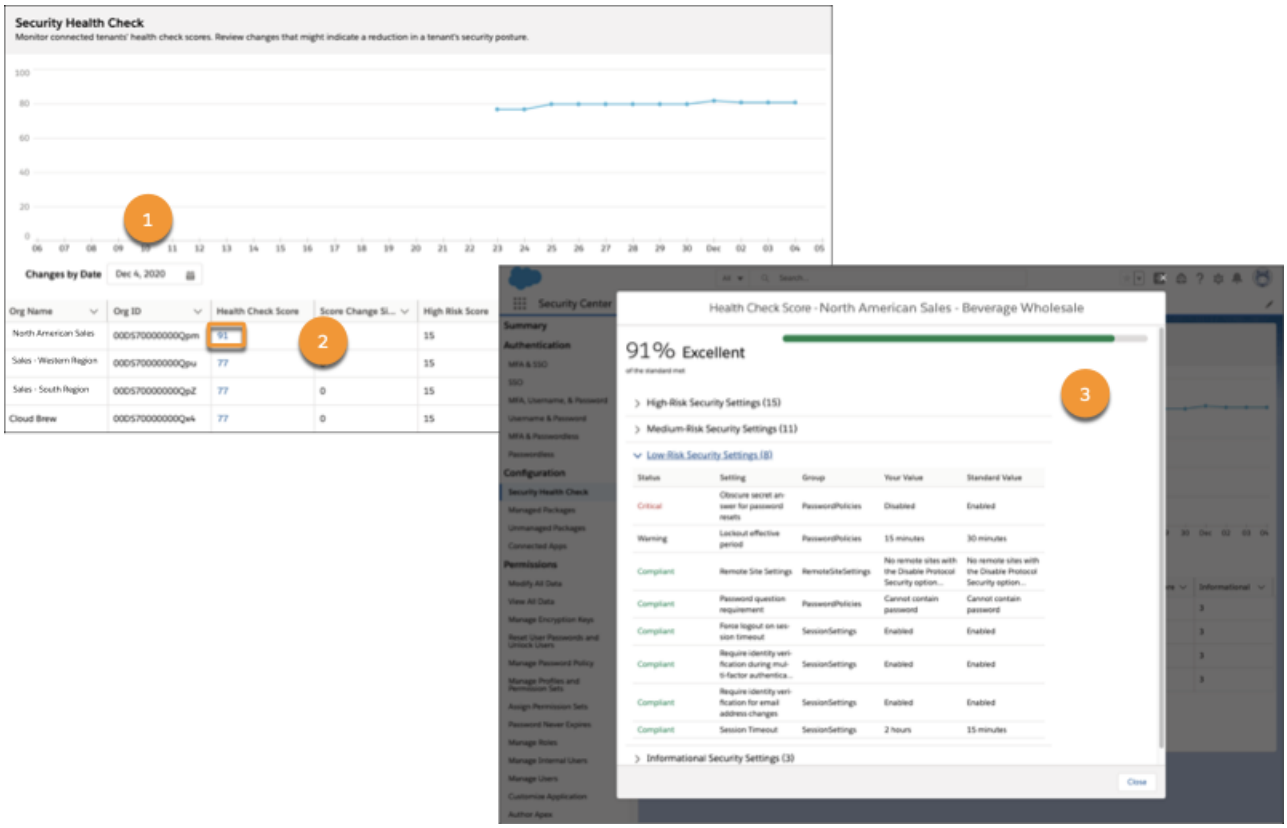
更新の完了後、ページを更新すると詳細ページに更新されたデータが表示されます。オンデマンドの総計値データ更新は、[セキュリティ状態チェック] を除くすべての総計値で使用できます。総計値データは 1 時間に 1 回更新できます。

セキュリティセンターでの履歴状態チェックの詳細表示

セキュリティセンターアプリケーションから、より多くのセキュリティ状態チェックデータにアクセスできるようになりました。[セキュリティ状態チェック]詳細ページには、すべての接続済みテナントの経時的な平均状態チェックスコアを調べるのに役立つ、新しいトレンドグラフがあります。また、セキュリティセンターから直接、過去 6 か月間の状態チェックデータを確認できるため、クリック数と時間を節約できます。

対象: セキュリティセンターは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition でアドオンサブスクリプションとして利用できます。セキュリティセンターは Government Cloud または Government Cloud Plus では使用できません。

方法: セキュリティセンターで[設定]カテゴリを選択し、[セキュリティ状態チェック]をクリックします。ページ上部のトレンドグラフには、すべての接続済みテナントの 1 日あたりの平均状態チェックスコアが表示されます。特定の日付の特定のテナントの状態チェック設定を表示するには、日付ピッカー (1) に日付を入力します。[状態チェックスコア]列で値を選択し (2)、その日付のそのテナントの状態チェック設定を確認します (3)。過去 6 か月間の履歴セキュリティ状態チェック情報を表示できます。



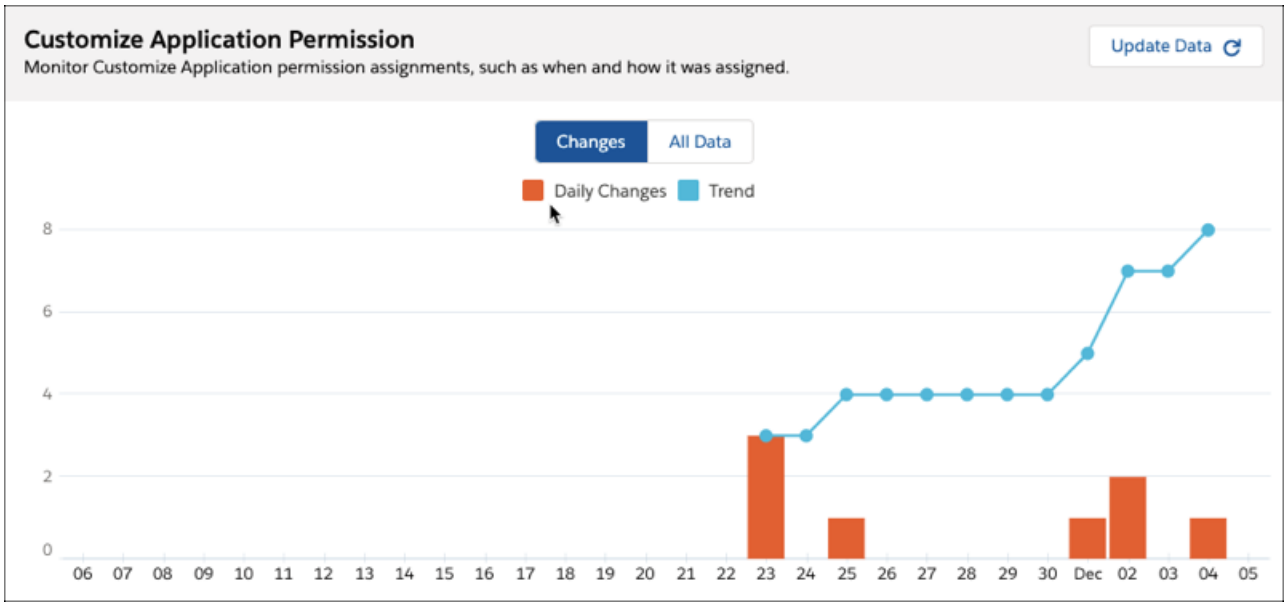
改善された詳細ページのグラフによる変更の特定

新しい [1 日の変更] グラフオーバーレイでは、毎日の総計値の変化がより明確に表示されます。特定の日のいつ変更が発生したかを簡単に確認できるようになりました。

対象: セキュリティセンターは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition でアドオンサブスクリプションとして利用できます。セキュリティセンターは Government Cloud または Government Cloud Plus では使用できません。

理由: [1 日の変更] ビューは、総計値の追加数と削除数が同じで 1 日あたりの合計数が変化していない場合に役立ちます。たとえば、システム管理者が 1 日で 5 個の未管理パッケージをインストールし、他の 5 個の未管理パッケージを削除したとします。未管理パッケージの合計数は前日から変化していません。[1 日の変更] オーバーレイにはこれらのインストールと削除が表示されるため、必要に応じて調査できます。

方法: [1 日の変更] ビューは、[権限] カテゴリのすべての総計値、および [セキュリティ状態チェック] を除くすべての [設定] 総計値で使用できます。[1 日の変更] は自動的に有効化されます。[1 日の変更] ボックスと [トレンド] ボックスをクリックすることで、[1 日の変更] グラフまたは [トレンド] グラフを非表示にしたり再表示したりできます。



その他のセキュリティの変更

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を選択できます。また、Summer '21 で、[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が有効になります。その後、この設定は無効にできなくなるため削除されます。

このセクションの内容:

すべてのサードパーティドメインでセキュアな HTTPS 接続が必要

Summer '21 以降、セキュリティのベストプラクティスとして、サードパーティドメインへの接続に HTTPS 接続が必要になります。セキュアな接続を適用すると、HTTP のみの接続が許可されなくなります。[セッションの設定] ページで [すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定を有効にします。その後、この設定は無効にできないため削除されます。[セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定を以前に有効にしていた場合も、無効にできないため削除されます。

サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトユーザへの割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、未認証のゲストユーザが、自分が作成したレコードを自動的に所有しないようになりました。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、レコードの所有権は組織のデフォルトの有効ユーザに再割り当てされます。システム管理者は、このデフォルトユーザを選択できます。

すべてのサードパーティドメインでセキュアな HTTPS 接続が必要

Summer '21 以降、セキュリティのベストプラクティスとして、サードパーティドメインへの接続に HTTPS 接続が必要になります。セキュアな接続を適用すると、HTTP のみの接続が許可されなくなります。[セッションの設定] ページで [すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定を有効にします。その後、この設定は無効にできないため削除されます。[セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定を以前に有効にしていた場合も、無効にできないため削除されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: HTTPS には Transport Layer Security (TLS) プロトコルがあり、HTTP と比べてセキュリティが強化されています。TLS はインターネットを通じた通信のデータのセキュリティおよびプライバシーを強化するためのものです。

方法: 今後この設定を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セッションの設定*」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] を選択します。

カスタムページに含める HTTP アセット (画像、スタイルシート、JavaScript ファイルなど) がある場合は確認して更新します。この設定の適用後、HTTP アセットは正しく表示されません。

関連トピック:

- ドメインでの HTTPS の有効化
- *Summer '20 リリースノート*: セキュア HTTPS 接続の必須化 (更新、適用済み)

サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトユーザへの割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、未認証のゲストユーザが、自分が作成したレコードを自動的に所有しないようになりました。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、レコードの所有権は組織のデフォルトの有効ユーザに再割り当てされます。システム管理者は、このデフォルトユーザを選択できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Salesforce サイトに適用されます。

理由: 内部ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者にするのが、Salesforce のセキュリティのベストプラクティスです。

方法: ゲストユーザが作成したすべてのレコードのデフォルトの所有者として、Salesforce サイトを作成したユーザが自動的に割り当てられます。サイトのデフォルトの所有者を変更するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[サイト] リストで [編集] をクリックしてから [デフォルトのレコード所有者] として有効なユーザを選択し、変更を保存します。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: Salesforce サイトの作成と編集
- *Salesforce ヘルプ*: ゲストレコードのデフォルト所有者の使用に関するベストプラクティスと考慮事項

一元化された情報源

一元化された情報源の新機能を確認してください。より多くの ID 検証オプションとデータ統合をユーザに提供し、パーソナライズされたインタラクションを可能にします。1 つのアプリケーションを使用して、複数の Salesforce 組織を監視するポリシーを作成します。

このセクションの内容:

Customer 360 Audiences
Customer 360 Audiences は、パーソナライズとエンゲージメントを促進する顧客データ管理、セグメンテーション、および活性化ツールです。一連のソリューションを使用して、世界一の顧客プラットフォームに基づいて単一のアクション可能な顧客のビューを構築できます。
Customer 360 データマネージャ
複数の Salesforce 組織、Commerce Cloud B2C インスタンス、さらには Salesforce 外部のデータソースなど、ビジネス全体のすべての顧客データを接続します。グローバルプロファイルを作成し、クラウド情報モデルを使用してデータソース間でオブジェクトと項目を対応付け、Lightning Web コンポーネントを使用して統合環境を作成します。
Customer 360 Identity
顧客およびパートナー向けの ID が、Customer 360 Identity という新しい名前になりました。また、Experience Cloud ユーザ、パートナー、および顧客がメールアドレスを変更するときに確認が必要になるリリース更新が延期されました。
Customer 360 プライバシーセンター
可搬性ログを使用すると、組織がデータ主体のアクセス要求をどのように完了しているかを追跡できます。Customer 360 プライバシーセンターで可搬性ファイルを自動的に削除することで、顧客のデータを安全に保ちます。また、同意作成 API に対して PATCH 要求を実行して、複数のレコードの同意を同時に更新します。

Customer 360 Audiences

Customer 360 Audiences は、パーソナライズとエンゲージメントを促進する顧客データ管理、セグメンテーション、および活性化ツールです。一連のソリューションを使用して、世界一の顧客プラットフォームに基づいて単一のアクション可能な顧客のビューを構築できます。

このセクションの内容:

Customer 360 Audiences の新機能の確認
Customer 360 Audiences の最新機能と更新を確認してください (Customer 360 Audiences リリースノート)。

Customer 360 Audiences の新機能の確認

Customer 360 Audiences の最新機能と更新を確認してください (Customer 360 Audiences リリースノート)。

Customer 360 データマネージャ

複数の Salesforce 組織、Commerce Cloud B2C インスタンス、さらには Salesforce 外部のデータソースなど、ビジネス全体のすべての顧客データを接続します。グローバルプロファイルを作成し、クラウド情報モデルを使用してデータソース間でオブジェクトと項目を対応付け、Lightning Web コンポーネントを使用して統合環境を作成します。

このセクションの内容:

Customer 360 Data Manager の新機能の確認
Customer 360 Data Manager の最新機能と更新を確認してください (Customer 360 Data Manager リリースノート)。

Customer 360 Data Manager の新機能の確認

Customer 360 Data Manager の最新機能と更新を確認してください (Customer 360 Data Manager リリースノート)。

Customer 360 Identity

顧客およびパートナー向けの ID が、Customer 360 Identity という新しい名前になりました。また、Experience Cloud ユーザ、パートナー、および顧客がメールアドレスを変更するときに確認が必要になるリリース更新が延期されました。

このセクションの内容:

顧客およびパートナー向けの Identity が Customer 360 Identity に名称変更
顧客およびパートナー向けの Identity は、一元化された情報源を提供するという理念を反映して名称変更されました。Customer 360 Identity の機能は使い慣れた機能のまま変更はありません。Salesforce 組織の ID のすべてのニーズに関するドキュメントは、help.salesforce.com の「ユーザの識別およびアクセス権の管理」タイルからアクセスできます。

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、延期)
この更新は Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このセキュリティ更新では、コミュニティのメールアドレスの変更を確認することが外部ユーザに要求されます。

顧客およびパートナー向けの Identity が Customer 360 Identity に名称変更

顧客およびパートナー向けの Identity は、一元化された情報源を提供するという理念を反映して名称変更されました。Customer 360 Identity の機能は使い慣れた機能のまま変更はありません。Salesforce 組織の ID のすべてのニーズに関するドキュメントは、help.salesforce.com の「ユーザの識別およびアクセス権の管理」タイルからアクセスできます。

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このセキュリティ更新では、コミュニティのメールアドレスの変更を確認することが外部ユーザに要求されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Summer '21 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ: このリリース更新は、すべてのエクスペリエンスビルダーサイトが対象となります。

理由: この更新では、すべての組織の [メールアドレスの変更に対してメール確認が必要] 設定が自動的に有効になります。お客様は、この設定を無効にすればオプトアウトできます。

方法: ユーザがメールアドレスを変更すると、確認のために新しいアドレスにメールが送信されます。アドレスの変更は、ユーザがメッセージ内の確認リンクをクリックした後に有効になります。

Customer 360 プライバシーセンター

可搬性ログを使用すると、組織がデータ主体のアクセス要求をどのように完了しているかを追跡できます。Customer 360 プライバシーセンターで可搬性ファイルを自動的に削除することで、顧客のデータを安全に保ちます。また、同意作成 API に対して PATCH 要求を実行して、複数のレコードの同意を同時に更新します。

このセクションの内容:

可搬性ログを使用したデータ主体アクセス要求の履行の監視

Salesforce 組織がデータに関する準拠法に従って個人データにアクセスするためにすべての顧客の要求を履行するようにします。Customer 360 プライバシーセンターの可搬性ログを使用して、組織で実行されたすべての可搬性ポリシーの履歴を確認します。ログをカスタマイズして、ポリシーの実行が完了したときや顧客が可搬性ファイルをダウンロードした場合など、確認する情報を表示します。

Customer 360 プライバシーセンターの動作の変更: 60 日以上が経過した可搬性ファイルを自動的に削除

Salesforce では、生成されてから 60 日以上が経過した可搬性ファイルを自動的に削除することで顧客データのセキュリティを維持します。要求を行ったシステム管理者は 7 日前にファイルが期限切れに設定されることを警告するメールを受信します。

複数のレコード間の同意データの同期

Consent Write 要求の新しい REST API リソースが正式リリースされました。

可搬性ログを使用したデータ主体アクセス要求の履行の監視

Salesforce 組織がデータに関する準拠法に従って個人データにアクセスするためにすべての顧客の要求を履行するようにします。Customer 360 プライバシーセンターの可搬性ログを使用して、組織で実行されたすべての可搬性ポリシーの履歴を確認します。ログをカスタマイズして、ポリシーの実行が完了したときや顧客が可搬性ファイルをダウンロードした場合など、確認する情報を表示します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 プライバシーセンターでこの機能を使用するには、「データ主体アクセスポリシーを実行」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Customer 360 プライバシーセンター`」と入力し、[可搬性ログ] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 可搬性ログの表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Customer 360 プライバシーセンターの動作の変更: 60 日以上が経過した可搬性ファイルを自動的に削除

Salesforce では、生成されてから 60 日以上が経過した可搬性ファイルを自動的に削除することで顧客データのセキュリティを維持します。要求を行ったシステム管理者は7日前にファイルが期限切れに設定されることを警告するメールを受信します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 プライバシーセンターでこの機能を使用するには、「データ主体アクセスポリシーを実行」権限が必要です。

複数のレコード間の同意データの同期

Consent Write 要求の新しい REST API リソースが正式リリースされました。

対象: これは、Professional Edition (API アクセス有効)、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

理由: Consent Write API に対して PATCH 要求を実行し、参照関係のあるレコードやメールアドレスを共有するレコードを同時に更新したり、書き込んだりします。Customer 360 Audiences を使用すると、自動的に個人レコードを作成して、そのレコードに複数の関連レコードを関連付けることができます。この API により、次のオブジェクトの同意レコードを作成および管理する方法が合理化されます。

- Contact
- ContactPointTypeConsent
- DataUsePurpose
- Individual
- Lead
- PersonAccount
- User

方法: 新しい `/consent/action` リソースを使用します。

関連トピック:

Salesforce REST API Developer Guide (Salesforce REST API 開発者ガイド): Consent Write (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース

Ant 移行ツールバージョン 51.0 を使用するには、Java バージョン 11 以降をインストールします。

このセクションの内容:

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント
変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

Ant 移行ツールで Java バージョン 11 が必須
Sping '21 の Ant 移行ツール (バージョン 51.0) 以降には、Java バージョン 11 以降が必要です。以前の Ant 移行ツールバージョンでは、引き続き Java バージョン 7 以降がサポートされます。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

プラットフォームイベント登録者設定
: プラットフォームイベント Apex トリガの実行ユーザとバッチサイズの設定を表します。

Discovery モデル
: リリースされた Einstein Discovery モデルを表します。詳細は、「予測のパッケージ化、昇格、配布」 (ページ 408)を参照してください。

Discovery 予測
: 1 つ以上の Einstein Discovery モデルを含むリリースされた Einstein Discovery 予測定義を表します。詳細は、「予測のパッケージ化、昇格、配布」 (ページ 408)を参照してください。

Ant 移行ツールで Java バージョン 11 が必須

Sping '21 の Ant 移行ツール (バージョン 51.0) 以降には、Java バージョン 11 以降が必要です。以前の Ant 移行ツールバージョンでは、引き続き Java バージョン 7 以降がサポートされます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント
`lightning-map` 基本コンポーネントでマーカーと地図動作をカスタマイズします。

Lightning Web コンポーネントアクションの作成 (パイロット)

Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成して、クイックアクションとして使用します。Lightning Web コンポーネントアクションは、ページ上で Lightning コンポーネントおよび Visualforce アクションと共存します。LWC アクションには、ヘッダーとフッターを簡単にカスタマイズしたり、UI 表現のないアクションを作成したりできるなどの利点があります。

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Salesforce Functions: Function を使用した Salesforce の拡張 (ベータ)

Salesforce Functions を使用すると、開発者は、生産性の高いプログラミング言語とオープンソースコンポーネントで構築された、弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用して Salesforce を拡張できます。Salesforce Functions を使用すると、インフラストラクチャの負担が減るため、任意の言語とツールを使用して Functions-as-a-Service (FaaS) アプリケーションの構築と統合を行うことができます。

Visualforce

継続的なリリース更新では、Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールが禁止されます。新しいリリース更新では、Visualforce Remoting API をコールする場合のセキュリティが強化されています。両方のリリース更新は、Winter '22 で適用されます。

Apex

Transaction Finalizers 機能がベータになり、パッケージ化がサポートされるようになりました。BatchApexErrorEvent トリガを使用して、ISV アプリケーションを監視します。呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタ機能が正式リリースされました。ISV の Developer Edition 組織で無料のプラットフォームキャッシュを使用できます。コールアウトを実行する呼び出し可能なアクションのコールアウトアノテーション属性を使用します。パフォーマンスの改善のためにクエリカーソルが大幅に最適化されました。

API

従来のバージョンのいくつかの API は Summer '21 リリースで廃止されます。

パッケージ化

パッケージのリリースバージョンを指定して、パッケージの今後の機能をテストします。組織のメタデータの分離が難しい場合にロック解除済みパッケージを使用するために役立つ、現在正式リリースされている組織連動パッケージをお試しください。多要素認証を使用して、ライセンス管理組織の登録者サポートコンソールを保護します。新しい API 項目を使用して、パッケージ操作を監視します。

スクラッチ組織

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。継続的に設定可能な新機能のサポートを追加していきます。

Sandbox

より短時間でデータをマスクしたり、マスキング設定をより詳細に制御したり、新しく追加されたデータのみを段階的にマスクしたりできます。ソース追跡を使用して、ローカルプロジェクトと組織間の変更のリストを表示します。

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

Lightning Design System

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。このリリースでは、スタイル設定フックのサポートの拡張に重点を置きました。

AppExchange パートナー

AppExchange の App Analytics を使用して、登録者の Apex カスタムコードの使用状況に関する新しいインサイトを得ます。再設計された AppExchange セキュリティレビューインターフェースを使用して、ソリューションのセキュリティレビューを申請し、進行状況を追跡し、履歴を表示します。

変更データキャプチャ

項目を使用してイベントメッセージを強化し、より多くのオブジェクトの変更通知を受信します。

プラットフォームイベント

プラットフォームイベントトリガを設定して、デフォルトのユーザとバッチサイズを上書きします。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント

`lightning-map` 基本コンポーネントでマーカーと地図動作をカスタマイズします。

メモ: 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか?新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。

このセクションの内容:

lightning-map 基本コンポーネントでのマーカーのカスタマイズおよび地図動作の制御

地図のデザインと動作を自由に設定できます。地図ロケーションをカスタマイズして、標準の Google マップマーカーではなく SVG 画像を使用したり、ロケーションの周囲に影付きの円、長方形、または多角形を定義したりします。ズームとドラッグ動作を変更または無効化したり、地図コントロールをまとめて無効化したりして、静的地図を作成します。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

自動出力にアクセスする Flow Builder のカスタムプロパティエディタの作成

カスタムプロパティエディタでは自動出力にアクセスできるため、アップストリーム変数値をフローの後半の入力項目のオプションとして容易に使用できます。以前は、カスタムプロパティエディタでは、フロー変数にシステム管理者が手動で割り当てた値にのみアクセスできました。

Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドの廃止

Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドが廃止され、コンポーネントライブラリで [プレイグラウンド] タブを使用できなくなりました。代わりに、ローカル開発サーバ (ベータ) を使用して、Lightning Web コンポーネントをローカルで開発します。ローカル開発では、コードを Salesforce 組織にリリースせずに Lightning Web コンポーネントを構築、実行、テストできます。

リリース更新

2 つのリリース更新が適用されます。さらに既存のリリース更新がいくつかあります。

関連トピック:

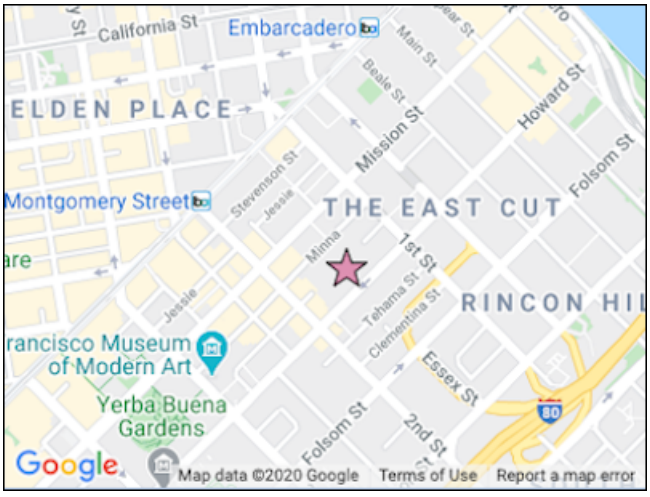
- Lightning Web コンポーネント開発者ガイド
- Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド

`lightning-map` 基本コンポーネントでのマーカーのカスタマイズおよび地図動作の制御

地図のデザインと動作を自由に設定できます。地図ロケーションをカスタマイズして、標準の Google マップマーカーではなく SVG 画像を使用したり、ロケーションの周囲に影付きの円、長方形、または多角形を定義したりします。ズームとドラッグ動作を変更または無効化したり、地図コントロールをまとめて無効化したりして、静的地図を作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience、Lightning エクスペリエンスビルダーサイト、および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: たとえば、会社の場所を顧客に示す簡単なロケータ地図を作成するとします。ズームおよび [地図]|[衛星写真] ボタンを削除し、ドラッグを無効化し、独自の SVG を追加してマーカーとして星を使用することができます。



方法:コンポーネントで、新しい `options` **属性を使用して、ユーザインターフェースコントロールを有効化または無効化するプロパティを指定します。この例では、コンポーネントの** JavaScript **で** `mapOptions` **オブジェクトを使用して、プロパティ値を設定しています。**

```
<template>
    <lightning-map
        map-markers={mapMarkers}
        options={mapOptions}
   ></lightning-map>
</template>
```

`mapOptions` **で** `disableDefaultUI` **プロパティを設定します。これにより、ズームが無効化され、[地図]|[衛星写真] ボタンが削除されます。地図のパン操作を無効化するには、** `draggable` **プロパティを設定します。**

`mapMarkers` **で、** `mapIcon` **プロパティをマーカー定義に追加し、星の** SVG `path` **プロパティを指定します。** `fillColor` **および** `fillOpacity` **プロパティを追加して、画像の塗りつぶしの色と透明度を設定します。** `strokeWeight` **プロパティを追加して、**SVG**画像の周囲に描かれるストロークの線の太さを設定します。必要に応じて、画像のサイズを決定するには、** `scale` **プロパティを設定します。**

```
import { LightningElement } from 'lwc';

export default class LightningExampleMapCustomMarker extends LightningElement {
    mapOptions = {
          'disableDefaultUI': true // when true disables Map|Satellite, +|- zoom buttons
          'draggable': false, // when false prevents panning by dragging on the map
        };

    mapMarkers = [
        {
            location: {
                City: 'San Francisco',
                Country: 'USA',
                PostalCode: '94105',
                State: 'CA',
                Street: '425 Mission St',
            },
            mapIcon : {
                path: 'M 125,5 155,90 245,90 175,145 200,230 125,180 50,230 75,145 5,90
95,90 z',
                fillColor: '#CF3476',
                fillOpacity: .5,
                strokeWeight: 1,
                scale: .10,
            }
       }
    ];
}
```

地図機能は `lightning:map` Aura 基本コンポーネントでも使用できます。

関連トピック:

- lightning-map ドキュメント
- 新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
- 新規追加または変更された Aura コンポーネント

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 特に、Lightning Experience が最新の Web 標準に合わせて進化し続けるにつれて、変更が発生します。Salesforce は、この変更によるこのテストの脆弱性を指摘します。Salesforce は、ユーザが自動 UI テストから得られる価値と、この変更によりユーザにかかるメンテナンスの負荷を理解しています。Salesforce では、HTML、CSS、または DOM の下位互換性は保証されません。

方法: 自動 UI テストでロケータの破損などの問題が発生する可能性があります。問題の解決方法に関する推奨事項については、「Test Automation Trailblazers」コミュニティグループを参照してください。

`ui` 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce では、2021 年 5 月 1 日に `ui` 名前空間で Aura コンポーネントのサポートを終了する予定です。2021 年 5 月 1 日以降もこれらのコンポーネントを引き続き使用することはできますが、その日付以降、これらのサポートケースは受け付けられなくなります。このプランの廃止は最初に Winter '20 で発表されました。

理由: 従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

方法: 廃止されるコンポーネントを `lightning` 名前空間の対応するコンポーネントに置き換えます。これらのコンポーネントのほうが高速で効率的であり、Lightning Design System のスタイル設定を標準で使用できます。

> **メモ:** `lightning` 名前空間のコンポーネントには、Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントの 2 つのバージョンがあります。可能であれば、Lightning Web コンポーネントを使用することをお勧めします。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。詳細は、*『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』* を参照してください。

廃止される Aura コンポーネントとその推奨される代替コンポーネントを次に示します。

ui:actionMenuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:button
lightning:button、lightning:buttonIcon、または lightning:buttonIconStateful を使用します。ボタングループの場合、lightning:buttonGroup を使用します。

ui:checkboxMenuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:inputCheckbox
lightning:input と checkbox、toggle、または checkbox-button 型を使用します。チェックボックスグループの場合、代わりに lightning:checkboxGroup を使用します。

ui:inputCurrency
代わりに、lightning:input と number 型および currency フォーマッタを使用します。

ui:inputDate
代わりに、lightning:input と date 型を使用します。

ui:inputDateTime
代わりに、lightning:input と datetime 型を使用します。

ui:inputDefaultError
代わりに、lightning:input と組み込みの項目検証を使用します。

ui:inputEmail
代わりに、lightning:input と email 型を使用します。

ui:inputNumber
代わりに、lightning:input と number 型を使用します。

ui:inputPhone
代わりに、lightning:input と phone 型を使用します。

ui:inputRadio
代わりに、lightning:input と radio 型を使用します。ラジオグループの場合、代わりに lightning:radioGroup を使用します。

ui:inputRichText
代わりに lightning:inputRichText を使用します。

ui:inputSecret
代わりに、lightning:input と password 型を使用します。

ui:inputSelect
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputSelectOption
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputText
代わりに、lightning:input と text 型を使用します。

ui:inputTextArea
代わりに lightning:textarea を使用します。

ui:inputURL
代わりに、lightning:input と url 型を使用します。

ui:menu
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItemSeparator
代わりに、lightning:menuDivider と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuList
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTrigger
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTriggerLink
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:message
代わりに lightning:notificationsLibrary を使用します。

ui:outputCheckbox
lightning:input と checkbox 型を使用し、readonly を true に設定します。

ui:outputCurrency
lightning:formattedNumber と currency に設定された style を使用します。

ui:outputDate
代わりに lightning:formattedDateTime を使用します。

ui:outputDateTime
代わりに、lightning:formattedDateTime または lightning:formattedTime を使用します。

ui:outputEmail
代わりに lightning:formattedEmail を使用します。

ui:outputNumber
代わりに lightning:formattedNumber を使用します。

ui:outputPhone
代わりに lightning:formattedPhone を使用します。

ui:outputRichText
代わりに lightning:formattedRichText を使用します。

ui:outputText
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputTextArea
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputURL
代わりに lightning:formattedUrl を使用します。

ui:radioMenuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

`ui:spinner`
代わりに `lightning:spinner` を使用します。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: UI 名前空間からのコンポーネントの移行

自動出力にアクセスする Flow Builder のカスタムプロパティエディタの作成

カスタムプロパティエディタでは自動出力にアクセスできるため、アップストリーム変数値をフローの後半の入力項目のオプションとして容易に使用できます。以前は、カスタムプロパティエディタでは、フロー変数にシステム管理者が手動で割り当てた値にのみアクセスできました。

対象: この変更は、Lightning Experience の Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: フローのすべての要素を調べて記述し、アップストリーム変数を選択リストや他の入力項目に含める必要が無くなりました。

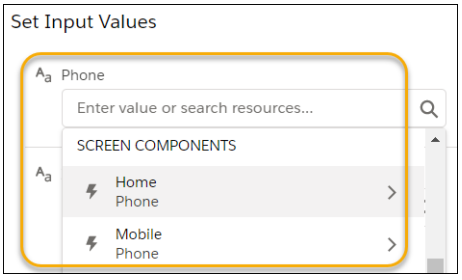
方法: カスタムプロパティエディタで、`automaticOutputVariables` という公開プロパティを公開します。カスタムプロパティエディタが初期化されたり、システム管理者がカスタムプロパティエディタで値を変更したりすると、自動的に保存された値は `automaticOutputVariables` に渡されます。

システム管理者がコンボボックスや選択リストなどの項目の値を設定したときに、自動的に保存された値が入力オプションとして表示されるようにカスタムロジックを記述します。

```
// myCustomPropertyEditor.js
import { LightningElement, api } from 'lwc';
export default class MyCustomPropertyEditor extends LightningElement {
    @api automaticOutputVariables;

    //Insert custom logic.
}
```

たとえば、次のカスタムプロパティエディタでは、`automaticOutputVariables` から差し込み項目のリストを取得して [Phone(電話)] 項目の入力オプションとして表示します。この例では、差し込み項目は自宅およびモバイルの標準の電話コンポーネントです。



automaticOutputVariables を介してカスタムプロパティエディタに渡されるデータ構造で、自動的に保存される値が記述されます。この例では、フローに Home および Mobile の API 参照名を持つ 2 つの標準電話コンポーネントが含まれるため、このデータがカスタムプロパティエディタに渡されます。

```
    "Home":[
        {
            "apiName":"label",
            "dataType":"string",
            "description":"The label that appears above the phone field.",
            "hasDefaultValue":true,
            "isRequired":true,
            "label":"Label",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1,
            "defaultValue":"Home"
        },

        {
            "apiName":"pattern",
            "dataType":"string",
            "description":"To require the value to follow a specific pattern, use the
Inputs tab to set this attribute's value to a regular expression.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Pattern",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"placeholder",
            "dataType":"string",
           "description":"Text that appears in the field when it's empty. Use placeholder
 text to give users a hint about what to enter in the field.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Placeholder text",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"readonly",
            "dataType":"boolean",
          "description":"Prevents the user from modifying the value, but not from copying
 it.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Read Only",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
```

```
        },
        {
            "apiName":"required",
            "dataType":"boolean",
            "description":"Requires the user to enter a value.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Required",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"value",
            "dataType":"string",
            "description":"The value of the phone field. To pre-populate the field, use
the Inputs tab to set this attribute's value. To use the value elsewhere in your flow, use
 the Outputs tab to pass this attribute's value to a variable.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Value",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        }
    ]
    "Mobile":[
        {
            "apiName":"label",
            "dataType":"string",
            "description":"The label that appears above the phone field.",
            "hasDefaultValue":true,
            "isRequired":true,
            "label":"Label",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1,
            "defaultValue":"Mobile"
        },
        {
            "apiName":"pattern",
            "dataType":"string",
            "description":"To require the value to follow a specific pattern, use the
Inputs tab to set this attribute's value to a regular expression.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Pattern",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"placeholder",
            "dataType":"string",
```

```
            "description":"Text that appears in the field when it's empty. Use placeholder
 text to give users a hint about what to enter in the field.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Placeholder text",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"readonly",
            "dataType":"boolean",
           "description":"Prevents the user from modifying the value, but not from copying
 it.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Read Only",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"required",
            "dataType":"boolean",
            "description":"Requires the user to enter a value.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Required",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        },
        {
            "apiName":"value",
            "dataType":"string",
            "description":"The value of the phone field. To pre-populate the field, use
the Inputs tab to set this attribute's value. To use the value elsewhere in your flow, use
 the Outputs tab to pass this attribute's value to a variable.",
            "hasDefaultValue":false,
            "isRequired":false,
            "label":"Value",
            "isInput":true,
            "isOutput":true,
            "maxOccurs":1
        }
    ]
}
```

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Flow Builder のカスタムプロパティエディタの開発

Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドの廃止

Lightning Web コンポーネントのプレイグラウンドが廃止され、コンポーネントライブラリで [プレイグラウンド] タブを使用できなくなりました。代わりに、ローカル開発サーバ (ベータ) を使用して、Lightning Web コンポーネントをローカルで開発します。ローカル開発では、コードを Salesforce 組織にリリースせずに Lightning Web コンポーネントを構築、実行、テストできます。

時期: プレイグラウンドは廃止されました。保存されているすべてのプロジェクトが完全に削除されています。この廃止は Winter '21 で最初に発表されました。

理由: ローカル開発サーバは、すでに Salesforce CLI プラグインとして Salesforce DX 開発者ツールに組み込まれており、VS Code 向け Salesforce 拡張機能と完全に統合されています。

また、Salesforce での実行に依存しない基本コンポーネントをサポートする webcomponents.dev などのサードパーティソリューションで、コンポーネントを編集およびプレビューすることができます。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Lightning Web コンポーネントのローカル開発 (ベータ)

Salesforce 開発者ブログ: Ecosystem Innovation with Lightning Web Components (Lightning Web コンポーネントを使用したエコシステムの刷新)

リリース更新

2 つのリリース更新が適用されます。さらに既存のリリース更新がいくつかあります。

このセクションの内容:

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、適用済み)

この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の更新を有効にしていない限り、この更新は表示されません。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、適用済み)

セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この更新は、Spring '21 で適用されます。

管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新は、お客様への影響を軽減するように実装を変更する間、無期限で延期されました。このリリース更新が現在の形式で適用されることはありません。有効化しないでください。

暗黙的な共有での `@AuraEnabled` Apex コントローラの `with sharing` の使用 (更新、適用済み)

この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の更新を有効にしていない限り、この更新は表示されません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Spring '21 にアップグレードすると、この更新は自動的に有効化されます。一部の Sandbox の適用は、2020 年 11 月 29 日に開始されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `with sharing` または `without sharing` を明示的に設定しない `@AuraEnabled` Apex クラスは、デフォルトまたは暗黙的な値として `with sharing` を使用します。廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の目的は、Aura コンポーネントの Apex コントローラをデフォルトで `without sharing` にすることでした。この動作により Apex コントローラが Aura コンポーネントおよび Visualforce ページで一貫するようになりました。

さらに検討した結果、デフォルトで Lightning コンポーネントのセキュリティを確保することに決まりました。そこで、Aura コンポーネントまたは Lightning Web コンポーネントで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定する新しい更新が作成されました。

Apex クラスは一般にシステムモードで実行されます。したがって、現在のユーザのログイン情報は Apex ロジックの実行に使用されないため、ユーザの権限と項目レベルのセキュリティは自動的に適用されません。

`with sharing` または `without sharing` キーワードを使用することによって、Apex クラスで共有ルールを適用するかどうかを選択できます。`with sharing` キーワードを使用した共有ルールを強制実行しても、ユーザの権限および項目レベルセキュリティは適用されません。CRUD 権限と項目レベルセキュリティは、Apex クラスで手動で別々に適用する必要があります。

方法: この更新に備えるための最良の方法は、すべての `@AuraEnabled` Apex コードで `with sharing` または `without sharing` キーワードを使用して共有動作を明示的に制御することです。すべての `@AuraEnabled` コードで共有動作が明示的に設定されている場合、この更新による影響を受けません。

この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。2020 年 11 月 29 日以降、組織が Spring '21 にアップグレードされたときに更新が自動的に適用されるまで、引き続き [設定] の [リリース更新] から更新を有効化または無効化できます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. 「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `with sharing` を使用」を探して、[詳細を表示] または [使用開始] をクリックします。
3. `with sharing` または `without sharing` キーワードを含まない Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: 共有ルールの適用

Winter '20 リリースノート: 暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 (重要な更新、廃止)

リリース更新

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、適用済み)

セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この更新は、Spring '21 で適用されます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: この更新は Summer '19 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Spring '21 にアップグレードすると適用されます。一部の Sandbox の適用は、2020 年 11 月 29 日に開始されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新が有効化されると、オブジェクトで `$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値としてキー-値ペア `{"exprType": "FUNCTION"}` を使用すると、予期しない動作がトリガされるのではなく、エラーが発生します。

管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: この更新は Summer '17 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると適用されます。2021 年 4 月 4 日、一部の Sandbox で適用が開始されます。インスタンスのメジャーリリー

スアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `global` が付いた Apex コントローラメソッドのみが、管理パッケージに追加されると、その管理パッケージの名前空間外の Aura コンポーネントによってアクセス可能になります。Apex 定義で `public` が付いたメソッドは、パッケージの名前空間に含まれる Aura コンポーネントでのみアクセス可能です。この更新を有効にすると、これらのルールが適用されます。

この更新の前は、パッケージ名前空間外の Aura コンポーネントから `global` 以外のメソッド (`global` アクセス修飾子が付いていない Apex コントローラメソッド) にアクセスできました。

この更新を有効にすると、管理パッケージの `global` 以外の Apex メソッドをコードで誤って使用している場合、そのメソッドをコールするサーバアクションは失敗します。パッケージによって `global` メソッドとして提供されるサポート対象 API メソッドのみを使用するように、コードを更新してください。

メモ: パッケージ外の Aura コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。Aura コンポーネントは、別のパッケージからインストールするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のロック解除済みパッケージは未管理パッケージと同様に扱われます。

方法: この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。2021 年 4 月 4 日以降、組織が Summer '21 にアップグレードされたときに更新が自動的に適用されるまで、引き続き [設定] の [リリース更新] から更新を有効化または無効化できます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. 「管理パッケージの `global` 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化」を探して、[詳細を表示] または [使用開始] をクリックします。
3. カスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

リリース更新

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると、この更新が適用されます。2021 年 4 月 4 日、一部の Sandbox で適用が開始されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `counter` クラスプロパティの private getter を含む Apex クラスの例を見てみましょう。

```
public class EnforcePrivateGetter {
    @AuraEnabled

    public Integer counter { private get; set; }

    @AuraEnabled
    public static EnforcePrivateGetter GetRepro2()
    {
        EnforcePrivateGetter result = new EnforcePrivateGetter();
        result.counter = 2;
        return result;
    }
}
```

この更新が有効になると、この Aura コンポーネントは `{!v.apexObject.counter}` 式を使用して `private` getter にアクセスできなくなります。同じ制限が Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

```
<aura:component controller="EnforcePrivateGetter" access="global">
    <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.doInit}"/>

    <aura:attribute type="EnforcePrivateGetter" name="apexObject" />

    counter = {!v.apexObject.counter} <br></br>
</aura:component>
```

JavaScript コントローラを次に示します。

```
({
    doInit : function(cmp, ev) {
        var action = cmp.get("c.GetRepro2");

        action.setCallback(this, function(response) {
          var state = response.getState();
          if (state === "SUCCESS") {
            cmp.set('v.apexObject', response.getReturnValue());
          }
          else if (state === "ERROR") {
            console.log('Error : ' + JSON.stringify(errors));
          }
        });
        $A.enqueueAction(action);
    }
})
```

この更新が有効になった場合、修正方法は、getterの `private` アクセス修飾子を削除して、クラス変数定義を次のように変更することです。

```
public Integer counter { get; set; }
```

Apex プロパティを Apex クラス外で参照可能にするには、プロパティに `private` または `protected` アクセス修飾子を含めないようにします。

方法: この更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。4 月 4 日以降、組織が Summer '21 にアップグレードされたときに更新が自動的に適用されるまで、引き続き [設定] の [リリース更新] から更新を有効化または無効化できます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力し、[リリース更新] を選択します。
2. 「Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用」を探して、[詳細を表示] または [開始] をクリックします。
3. getter に `private` または `protected` アクセス修飾子を含む Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

リリース更新

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新は、お客様への影響を軽減するように実装を変更する間、無期限で延期されました。このリリース更新が現在の形式で適用されることはありません。有効化しないでください。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、エクスペリエンスビルダーサイト、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: このリリース更新は無期限で延期されました。

理由: セキュリティを向上するため、この更新ではすべての静的リソースが lightning ドメインではなく visualforce ドメインから提供されます。この変更により、静的リソースに含まれるスクリプトは、同じ発生元のセキュリティポリシーのために、lightning ドメイン内のドキュメントにアクセスできなくなります。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: $Resource

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: 静的リソースへのアクセス

リリース更新

Lightning Web コンポーネントアクションの作成 (パイロット)

Lightning Web コンポーネント (LWC) を作成して、クイックアクションとして使用します。Lightning Web コンポーネントアクションは、ページ上で Lightning コンポーネントおよび Visualforce アクションと共存します。LWC アクションには、ヘッダーとフッターを簡単にカスタマイズしたり、UI 表現のないアクションを作成したりできるなどの利点があります。

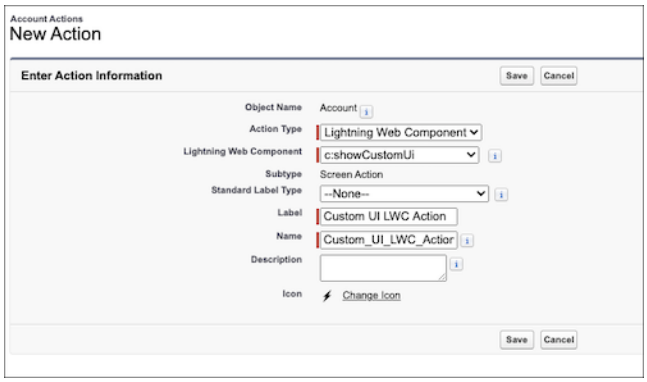
メモ: Lightning Web コンポーネントアクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Lightning Web コンポーネントアクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience デスクトップに適用されます。

時期: このパイロット機能は、Spring '21 リリースで使用できます。

対象ユーザ: このパイロット機能を有効化した組織が使用できます。

方法: Lightning Web コンポーネントを作成してから、Lightning Web コンポーネントを参照するオブジェクト固有のクイックアクションを作成します。



次に、ページレイアウトまたは Lightning アプリケーションビルダーを使用して、オブジェクトのレコードページにアクションを追加します。

関連トピック:

- 動的アクションの追加サポート

Einstein Vision および Language

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Vision API と Einstein Language API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

- Einstein Vision および Einstein Language の HIPAA 準拠

  Einstein Vision および Einstein Language が医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (Health Insurance Portability and Accountability Act: HIPAA) に準拠するようになりました。顧客の保護対象保険情報 (PHI) の処理に関する厳格な HIPAA 標準に Einstein Vision および Einstein Language が適合するようになりました。HIPAA 準拠により、Einstein Vision および Einstein Language サービスは、非常に規制の厳しいヘルスケアセクタで使用できる機能を提供できるようになります。

Einstein Vision

Einstein OCR (光学式文字認識) でグラフィック画像形式に加えて PDF 形式 (ベータ) のドキュメントがサポートされるようになりました。光学式文字認識 (OCR) モデルに送信できる画像または PDF ファイルの最大サイズが 5 MB から 10 MB に増加しました。Einstein OCR は現在、運転免許証、フォーム W-2、フォーム 1040 などの標準フォームをサポートしています。

Einstein Language

Einstein Intent でのブラジルポルトガル語、中国語、オランダ語、日本語、ロシア語のサポートが正式リリースされました。インテントデータセットを作成する場合に推奨される表示ラベルごとの例の数が 50 件以上になりました。以前は 150 件以上の例が推奨されました。

Einstein Vision および Einstein Language の HIPAA 準拠

Einstein Vision および Einstein Language が医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (Health Insurance Portability and Accountability Act: HIPAA) に準拠するようになりました。顧客の保護対象保険情報 (PHI) の処理に関する厳格な HIPAA 標準に Einstein Vision および Einstein Language が適合するようになりました。HIPAA 準拠により、Einstein Vision および Einstein Language サービスは、非常に規制の厳しいヘルスケアセクタで使用できる機能を提供できるようになります。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要)

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)

Einstein Vision

Einstein OCR (光学式文字認識) でグラフィック画像形式に加えて PDF 形式 (ベータ) のドキュメントがサポートされるようになりました。光学式文字認識 (OCR) モデルに送信できる画像または PDF ファイルの最大サイズが 5 MB から 10 MB に増加しました。Einstein OCR は現在、運転免許証、フォーム W-2、フォーム 1040 などの標準フォームをサポートしています。

このセクションの内容:

Einstein OCR を使用したより多くのテキストの検出

より大きなファイルを処理できるようになりました。光学式文字認識 (OCR) モデルに送信できる画像または PDF ファイルの最大サイズが 5 MB から 10 MB に増加しました。

Vision API のトレーニング状況の応答内の新規項目

モデルのトレーニング状況を返す Einstein Vision API コールの応答 JSON に `globalResourceDownloadTime` という新しい項目が含まれます。この項目は、`modelType` が `image-detection` の場合に返されます。

Einstein OCR を使用した一般的なフォームのテキストの検出

Einstein OCR (光学式文字認識) で一般的な各種のフォームからテキストを抽出できるようになりました。このモデルではドキュメントレイアウトおよび単語の関係が推測され、フォームの各項目のエンティティと値が抽出されます。たとえば、運転免許証の場合、Einstein が免許証の発行日 (09/13/2020)、免許証上の発行日の参照方法 (4a ISS)、全種の運転免許証で共通の項目名であるエンティティ種別 (issue_date) を結び付けます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要)

Salesforce Einstein

Einstein OCR を使用したより多くのテキストの検出

より大きなファイルを処理できるようになりました。光学式文字認識 (OCR) モデルに送信できる画像または PDF ファイルの最大サイズが 5 MB から 10 MB に増加しました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 新しい最大画像サイズは、画像内のテキストを検出するコール (POST `/v2/vision/ocr`) に適用されます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: What is Einstein OCR (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Einstein OCR とは何か)

Einstein Platform Services Developer Guide: Detect Text (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: テキストの検出)

Vision API のトレーニング状況の応答内の新規項目

モデルのトレーニング状況を返す Einstein Vision API コールの応答 JSON に `globalResourceDownloadTime` という新しい項目が含まれます。この項目は、`modelType` が `image-detection` の場合に返されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 新しい項目は、次のコールの応答に含まれます: トレーニング状況を取得する — GET `/v2/vision/train/<MODEL_ID>`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)

Einstein OCR を使用した一般的なフォームのテキストの検出

Einstein OCR (光学式文字認識) で一般的な各種のフォームからテキストを抽出できるようになりました。このモデルではドキュメントレイアウトおよび単語の関係が推測され、フォームの各項目のエンティティと値が抽出されます。たとえば、運転免許証の場合、Einstein が免許証の発行日 (09/13/2020)、免許証上の発行日の参照方法 (4a ISS)、全種の運転免許証で共通の項目名であるエンティティ種別 (issue_date) を結び付けます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: Einstein OCR は次のフォームをサポートしています。

- 運転免許証 (ワシントン DC を含む米国のみ)
- フォーム 1040 (2019 年のみ)
- フォーム W-2
- パスポート (オーストラリア、カナダ、英国、米国のみ)
- 給料明細
- 永住者カード (ワシントン DC を含む米国のみ)

API をコールすると、フォームが画像または PDF 形式で送信されます。JSON 応答にフォームの各項目のキー-値ペアが含まれます。OCR エンドポイントへの cURL コールの例を次に示します。

```
curl -X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -F
sampleLocation="https://www.cloudkicks.com/applicant_driver_license" -F task="form" -F
formType="dl" -F modelId="OCRModel" https://api.einstein.ai/v2/vision/ocr
```

応答は、次の JSON のようになります。簡潔にするために一部のオブジェクトが削除されます。

```
{
  "object": "predictresponse",
  "probabilities": [
    {
      "probability": 0.7815201,
      "label": "key-value",
      "boundingBox": {
        "minX": 1543,
        "minY": 420,
        "maxX": 2287,
        "maxY": 481
      },
      "attributes": {
        "blockId": 10006,
        "language": "English",
        "key": {
          "text": "4d DLN",
          "entity": "number",
          "boundingBox": {
            "minX": 1543,
            "minY": 420,
            "maxX": 1755,
            "maxY": 481
          }
```

```
      },
      "value": {
        "text": "A012345678",
        "boundingBox": {
          "minX": 1846,
          "minY": 424,
          "maxX": 2287,
          "maxY": 475
        }
      },
      "pageNumber": "1"
    }
  },
  {
    "probability": 0.80536056,
    "label": "key-value",
    "boundingBox": {
      "minX": 1418,
      "minY": 1087,
      "maxX": 2167,
      "maxY": 1155
    },
    "attributes": {
      "blockId": 10012,
      "language": "English",
      "key": {
        "text": "4a iss",
        "entity": "issue_date",
        "boundingBox": {
          "minX": 1418,
          "minY": 1087,
          "maxX": 1596,
          "maxY": 1155
        }
      },
      "value": {
        "text": "09/13/2020",
        "boundingBox": {
          "minX": 1786,
          "minY": 1090,
          "maxX": 2167,
          "maxY": 1145
        }
      },
      "pageNumber": "1"
    }
  },
  {
    "probability": 0.5779993,
    "label": "key-value",
    "boundingBox": {
      "minX": 183,
      "minY": 181,
      "maxX": 904,
```

```
        "maxY": 348
      },
      "attributes": {
        "blockId": 10001,
        "language": "English",
        "key": {
          "text": "state",
          "entity": "state",
          "boundingBox": {
            "minX": 0,
            "minY": 0,
            "maxX": 0,
            "maxY": 0
          }
        },
        "value": {
          "text": "Arizona",
          "boundingBox": {
            "minX": 183,
            "minY": 181,
            "maxX": 904,
            "maxY": 348
          }
        },
        "pageNumber": "1"
      }
    },
    ...
  ],
  "task": "form"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Detect Text in Standard Forms (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 標準フォームのテキストの検出)

Einstein Platform Services Developer Guide: Detect Text (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: テキストの検出)

Einstein Language

Einstein Intent でのブラジルポルトガル語、中国語、オランダ語、日本語、ロシア語のサポートが正式リリースされました。インテントデータセットを作成する場合に推奨される表示ラベルごとの例の数が 50 件以上になりました。以前は 150 件以上の例が推奨されました。

このセクションの内容:

Einstein Intent でのより多くの言語のサポートが正式リリース

EinsteinIntent でのブラジルポルトガル語、中国語、オランダ語、日本語、ロシア語のサポートが正式リリースされました。インテントデータセットを作成するときに、言語を指定します。データセットをトレーニングすると、モデルはデータセットの言語を継承します。

より少ないデータでの Einstein Intent モデルの作成

データ (多いほど良い) は、成功するモデルを作成するためのキーとなります。ただし、多くのデータがなかったり、正確なモデルを作成するために必要な広範な例がなかったりする場合があります。モデルの作成元であるインテントデータセットを作成する場合に推奨される表示ラベルごとの例の数が 50 件以上になりました。以前は 150 件以上の例が推奨されました。

Language API のトレーニング状況の応答内の新規項目

モデルのトレーニング状況を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `globalResourceDownloadTime` という新しい項目が含まれます。この項目は、`modelType` が `text-intent` または `text-sentiment` の場合に返されます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)

Salesforce Einstein

Einstein Intent でのより多くの言語のサポートが正式リリース

Einstein Intent でのブラジルポルトガル語、中国語、オランダ語、日本語、ロシア語のサポートが正式リリースされました。インテントデータセットを作成するときに、言語を指定します。データセットをトレーニングすると、モデルはデータセットの言語を継承します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: データセットを作成するときに、`language` パラメータで言語を指定します。データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、`algorithm` パラメータで `multilingual-intent` または `multilingual-intent-ood` (ドメイン外の予測を処理するモデルを作成) の値を渡します。これらのコールは `language` パラメータを取ります。

- データセットを非同期的に作成する — POST `/v2/language/datasets/upload`
- データセットを同期的に作成する — POST `/v2/language/datasets/upload/sync`

これらのコールは `algorithm` パラメータを取ります。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`

- **データセットを再トレーニングする** — POST `/v2/language/retrain`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Supported Languages (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: サポート言語)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset from a File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset Synchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットを同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Train a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

より少ないデータでの Einstein Intent モデルの作成

データ(多いほど良い)は、成功するモデルを作成するためのキーとなります。ただし、多くのデータがなかったり、正確なモデルを作成するために必要な広範な例がなかったりする場合があります。モデルの作成元であるインテントデータセットを作成する場合に推奨される表示ラベルごとの例の数が 50 件以上になりました。以前は 150 件以上の例が推奨されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: データセットを作成する場合、データの各カテゴリに表示ラベルがあります。たとえば、表示ラベル名が「Password Help (パスワードヘルプ)」であるとします。データセットに追加する例には表示ラベルがあります。表示ラベル「Password Help (パスワードヘルプ)」の 2 つの例は「I want to reset my password (パスワードをリセットしたい)」と「I forgot my password (パスワードを忘れた)」です。表示ラベルごとに 150 件の例ではなく 50 件の例のみで済むようになりました。この変更は、`text-intent` 種別のデータセットに適用されます。インテントデータセットを作成するには、次のいずれかの API コールを使用します。

- **データセットを非同期的に作成する** — POST `/v2/language/datasets/upload`
- **データセットを同期的に作成する** — POST `/v2/language/datasets/upload/sync`

より少ないデータ(表示ラベルあたり 50 件以上の例)でインテントデータセットを作成する場合は、データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに `multilingual-intent` または `multilingual-intent-ood` アルゴリズムを使用します。

関連トピック:

- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Create a Dataset from a File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ファイルからデータセットを非同期的に作成する)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Create a Dataset Synchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットを同期的に作成する)
- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Train a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Language API のトレーニング状況の応答内の新規項目

モデルのトレーニング状況を返す Einstein Language API コールの応答 JSON に `globalResourceDownloadTime` という新しい項目が含まれます。この項目は、`modelType` が `text-intent` または `text-sentiment` の場合に返されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 新しい項目は、次のコールの応答に含まれます: トレーニング状況を取得する — GET `/v2/language/train/<MODEL_ID>`

関連トピック:

- *Einstein Platform Services Developer Guide*: Get Training Status (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: トレーニング状況の取得)

Salesforce Functions: Function を使用した Salesforce の拡張 (ベータ)

Salesforce Functions を使用すると、開発者は、生産性の高いプログラミング言語とオープンソースコンポーネントで構築された、弾力的に拡張可能なカスタムビジネスロジックを使用して Salesforce を拡張できます。Salesforce Functions を使用すると、インフラストラクチャの負担が減るため、任意の言語とツールを使用して Functions-as-a-Service (FaaS) アプリケーションの構築と統合を行うことができます。

対象:

メモ: Salesforce Functions はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様

のこの機能の使用にも同様に適用されます。Salesforce Functions に関するフィードバックや提案は、「Salesforce Functions」 Trailblazer Community に投稿してください。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce Functions (ベータ) は、Salesforce Spring '21 リリース後に開始される予定です。さらなるお知らせや詳細を developer.salesforce.com や「Salesforce Functions」 Trailblazer Community で確認してください。

理由: Function は、Salesforce Functions の信頼済みコンピュートクラウドでオンデマンドで実行されます。任意の言語とフレームワークを使用して記述された複雑なビジネスロジックコードを実行します。Salesforce Functions は、Salesforce プラットフォームによって完全に管理されます。Salesforce プラットフォームでは、安全なマルチテナント対応の自動拡張環境でコードを呼び出すために必要な他のすべての処理が実行されます。

方法: Salesforce Functions Node SDK を使用して組織と通信する JavaScript または TypeScript コードを記述します。Salesforce CLI を使用して Function を Salesforce Functions コンピュートクラウドにリリースします。次に、Apex を使用して Function を呼び出すと、Salesforce Functions インフラストラクチャが認証され、Function がオンデマンドで実行されます。

Visualforce

継続的なリリース更新では、Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールが禁止されます。新しいリリース更新では、Visualforce Remoting API をコールする場合のセキュリティが強化されています。両方のリリース更新は、Winter '22 で適用されます。

このセクションの内容:

Visualforce Remoting API の安全なコール (更新)
Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)
Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

Visualforce Remoting API の安全なコール (更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Spring '21 から利用可能になり、Winter '22 で本番組織に適用されます。この更新は、Summer '21 で Sandbox 組織に適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Visualforce JavaScript Remoting API のセキュリティを強化するため、この更新で Visualforce `$RemoteAction` グローバル変数に対する CSRF トークンの作成方法を変更します。この検証により、ゲストユーザによる API Remoting コールがさらに保護されます。また、この更新では、Apex メソッドパラメータに対して、Visualforce `$RemoteAction` グローバル変数で使用される `{"apexType": "Object"}` パラメータが検証され、`apexType` パラメータが無効な場合はエラーがスローされます。この検証により、ユーザはアクセスできない Apex オブジェクトや、Apex メソッドパラメータを満たさない Apex オブジェクトを提供できなくなります。

方法: Winter '22 でこのリリース更新が自動有効化される前に、Sandbox 環境で次のテスト手順を実行し、リリース更新の影響を評価して、すべての検証エラーを修正することをお勧めします。

1. すべての Visualforce Remoting API の使用法を見つけるには、アプリケーションコードを検索します。

   Remoting API では、Apex コントローラメソッドが `@RemoteAction` アノテーション付きで呼び出されます。Apex コントローラメソッドでは、次の署名が使用されます。

   ```
   @RemoteAction
   global static String myMethod(String inputArgument) { ... }
   ```

   Visualforce ページでは、次の JavaScript を使用して Apex コントローラメソッドが呼び出されます。

   ```
   Visualforce.remoting.Manager.invokeAction(
     '{!$RemoteAction.MyController.myMethod}',
     myArgument,
     function(result, event){...}
     ...
   ```

2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力し、[リリース更新] を選択します。[Visualforce JavaScript Remoting の適用を有効化] で、テスト手順を実行します。ただし、このリリース更新はまだ有効化しないでください。
3. 検証に失敗した Visualforce Remoting API コールを確認するには、リリース更新のテスト実行を有効にします。Remoting を使用する任意のページを手動でテストして、コンソールログで例外や失敗した検証がないかどうかを監視します。
4. 検証の各失敗を確認し、手順に従ってコード内の Visualforce Remoting API の使用法を修正します。

   エラーメッセージでは、検証の失敗の内容と問題の修正方法が特定されます。たとえば、エラーメッセージで `apexType` 値が Apex メソッドの引数種別を満たさないことが示された場合、`apexType` 値を正しい種別に変更します。

5. より複雑な機能で簡単な解決策がない場合は、アプリケーションの一部を再設計する必要があります。詳細は、「インターフェースパラメータによるリモートメソッドの宣言」を参照してください。

   たとえば、`apexType` 値にアクセスできない場合、無効な `apexType` 値を使用しないように Visualforce Remoting API の使用法を再設計する必要があります。

6. 手動テストが完了したら、リリース更新のテスト実行を無効にして、コードの変更を本番組織に移行します。
7. 本番組織でリリース更新を有効にするか、リリース更新が Winter '22 で自動有効化されるまで待ちます。

メモ: テストの一環として行ったコードの変更は、リリース更新をすぐに有効にするか、自動有効化を待つかに関係なく有効になります。

関連トピック:

リリース更新

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Winter '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Visualforce ページで連続したナビゲーションコールを実行すると、API コールどうしの競合によって不要な動作が発生する場合があります。問題を防止するため、今回のリリース更新では、最初の API ナビゲーションコールのみが受け入れられます。今回のリリース更新により、組織において予測可能で安定した動作が保証されます。

方法: この API ナビゲーションパターンを使用するすべての Visualforce ページに影響が及びます。影響を受けるすべての Visualforce ページを確認してください。Salesforce では、将来のリリースで代わりとなるパターンを提供する予定です。あるいは、Lightning コンポーネントを使用するようにページを編集してください。

関連トピック:

リリース更新

Apex

Transaction Finalizers 機能がベータになり、パッケージ化がサポートされるようになりました。BatchApexErrorEvent トリガを使用して、ISV アプリケーションを監視します。呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタ機能が正式リリースされました。ISV の Developer Edition 組織で無料のプラットフォームキャッシュを使用できます。コールアウトを実行する呼び出し可能なアクションのコールアウトアノテーション属性を使用します。パフォーマンスの改善のためにクエリカーソルが大幅に最適化されました。

これらの機能強化についての詳細は『Apex 開発者ガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (ベータ)
BatchApexErrorEvent トリガを使用した ISV アプリケーションの監視
呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタの作成 (正式リリース)
管理パッケージの無料のプラットフォームキャッシュ (正式リリース)
コールアウトを実行する呼び出し可能な Apex メソッドのフラグ設定
パフォーマンスの改善のために最適化されたクエリカーソル
新しい LeadConvert メソッドを使用したリードから個人取引先と法人取引先への同時変換
匿名ブロックでの指定ログイン情報のコールアウトには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要

Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (ベータ)

Spring '21 では、Transaction Finalizers 機能はベータ版です。未対応の例外が原因で失敗したキュー可能ジョブのみが Transaction Finalizer によって連続して 5 回再度キューに追加できるという新しい制限が確立されました。この制限は、キュー可能ジョブの一連の連続した失敗に適用されます。未対応の例外が発生せずにキュー可能ジョブが完了すると、カウンタはリセットされます。Finalizers は内部クラスとして実装できます。また、同じクラスで Queueable インターフェースと Finalizer インターフェースの両方を実装できます。

BatchApexErrorEvent トリガを使用した ISV アプリケーションの監視

BatchApexErrorEvent トリガを管理パッケージに含め、インストール後の手順なしで、一括処理ジョブの健全性を監視して、必要な是正措置を実行します。

呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタの作成 (正式リリース)

システム管理者が Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できる、カスタムプロパティエディタを作成します。カスタムプロパティエディタは、単に Lightning Web コンポーネントです。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。パッケージと変更セットが、呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタを含むフローでサポートされるようになりました。

管理パッケージの無料のプラットフォームキャッシュ (正式リリース)

AppExchange で認定され、セキュリティレビューに合格した管理パッケージには、3 MB の無料のプラットフォームキャッシュが Salesforce から提供されます。この機能は、プロバイダ無料容量という容量種別で使用でき、Developer Edition 組織で自動的に有効になります。

コールアウトを実行する呼び出し可能な Apex メソッドのフラグ設定

コールアウトを実行する呼び出し可能なアクションで、callout 属性を呼び出し可能な Apex メソッドアノテーションに追加できるようになりました。アクションをコールするフローは、この情報を使用して実行時のトランザクションの管理方法を把握します。

パフォーマンスの改善のために最適化されたクエリカーソル

Apex でクエリカーソルの使用方法が最適化されました。`for` ループを使用する SOQL クエリなどの場合に、Apex でクエリカーソルが内部的に生成または使用されなくなりました。代わりに、レコードがメモリにバッファされます。これにより、パフォーマンスが改善され、クエリカーソルの競合も削減されます。この最適化は、Apex 一括処理クエリには適用されません。

新しい LeadConvert メソッドを使用したリードから個人取引先と法人取引先への同時変換

顧客が個人とグループを含めている場合、営業チームは取引開始済みのリードを個人取引先と法人取引先に同時に関連付けることができます。たとえば、銀行は家族の各メンバーの個人取引先を作成し、その家族を法人取引先にまとめることができます。

匿名ブロックでの指定ログイン情報のコールアウトには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要

指定ログイン情報を使用して Apex 匿名ブロックでコールアウトのエンドポイントを指定する場合は、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

関連トピック:

Apex: 新規および変更された項目

Transaction Finalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (ベータ)

Spring '21 では、Transaction Finalizers 機能はベータ版です。未対応の例外が原因で失敗したキュー可能ジョブのみが Transaction Finalizer によって連続して 5 回再度キューに追加できるという新しい制限が確立されました。この制限は、キュー可能ジョブの一連の連続した失敗に適用されます。未対応の例外が発生せずにキュー可能ジョブが完了すると、カウンタはリセットされます。Finalizers は内部クラスとして実装できます。また、同じクラスで Queueable インターフェースと Finalizer インターフェースの両方を実装できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。このベータ機能を使用するために、スクラッチ組織で「Transaction Finalizers」機能を有効にする必要はありません。Transaction Finalizers 機能は、スクラッチ組織に制限されておらず、本番組織や Sandbox で使用したり、管理パッケージに含めたりできます。

メモ: Transaction Finalizers はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、TrailblazerCommunity の「TransactionFinalizers」グループに投稿してください。

方法: `System.FinalizerContext` インターフェースには 4 つのメソッドがあります。

- `getAsyncApexJobId` メソッド: この Finalizer が定義されているキュー可能ジョブの ID を返します。
- `getRequestId` メソッド: Finalizer の実行と Finalizer が関連付けられているキュー可能ジョブの両方で共有される要求 ID を返します。この共有 ID は、キュー可能ジョブとそれに関連付けられている Finalizer のログを絞り込むのに役立ちます。
- `getResult` メソッド: Finalizer が関連付けられている親非同期 Apex キュー可能ジョブの結果を表す `System.ParentJobResult` 列挙を返します。この列挙の有効な値は、`SUCCESS` と `UNHANDLED_EXCEPTION` です。
- `getException` メソッド: `getResult` が `UNHANDLED_EXCEPTION` の場合はキュー可能ジョブが失敗し、それ以外の場合は null になる例外を返します。

アクションをキュー可能ジョブに関連付けるには、FinalizerContext インターフェースを実装する必要があります。1 つの Finalizer インスタンスのみを任意のキュー可能ジョブに関連付けることができます。`execute` メソッドの Finalizer の実装では、1 つの非同期 Apex ジョブ (キュー可能ジョブ、実行予定ジョブ、一括処理ジョブ) をキューに追加できます。Finalizer の実装ではコールアウトを使用できます。

Transaction Finalizers の実装についての詳細 (例を含む) は、『*Apex 開発者ガイド*』の「Transaction Finalizers (ベータ)」を参照してください。

BatchApexErrorEvent トリガを使用した ISV アプリケーションの監視

BatchApexErrorEvent トリガを管理パッケージに含め、インストール後の手順なしで、一括処理ジョブの健全性を監視して、必要な是正措置を実行します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: BatchApexErrorEvent オブジェクトは、失敗した Apex の一括処理の実行に関連付けられているプラットフォームイベントを表します。このプラットフォームイベントを起動するには、Apex 一括処理クラス宣言で `Database.RaisesPlatformEvents` インターフェースを実装する必要があります。Apex の一括処理ジョブで未対応の例外が発生すると、`BatchApexErrorEvent` プラットフォームイベントが起動します。詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「Apex 一括処理からのプラットフォームイベントの起動」を参照してください。

呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタの作成 (正式リリース)

システム管理者が Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できる、カスタムプロパティエディタを作成します。カスタムプロパティエディタは、単に Lightning Web コンポーネントです。この機能は、ベータリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。パッケージと変更セットが、呼び出し可能なアクションのカスタムプロパティエディタを含むフローでサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』の「*Flow Builder のカスタムプロパティエディタの開発*」を参照してください。

関連トピック:

- カスタムプロパティエディタを使用した Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定 (正式リリース)

管理パッケージの無料のプラットフォームキャッシュ (正式リリース)

AppExchange で認定され、セキュリティレビューに合格した管理パッケージには、3 MB の無料のプラットフォームキャッシュが Salesforce から提供されます。この機能は、プロバイダ無料容量という容量種別で使用でき、Developer Edition 組織で自動的に有効になります。

対象: 3 MB の無料のプラットフォームキャッシュは、Developer Edition で使用できます。

方法: プロバイダ無料容量をプラットフォームキャッシュ区分に割り当て、管理パッケージに追加します。AppExchange で認定され、セキュリティレビューに合格した管理パッケージが登録者組織にインストールされると、プロバイダ無料容量が割り当てられ、インストールされたプラットフォームキャッシュ区分で自動的に使用できるようになります。その後、管理パッケージでプラットフォームキャッシュ区分の使用を開始できます。

プロバイダ無料容量は、第一世代および第二世代パッケージで使用できます。第二世代パッケージの場合、プロバイダ無料容量でスクラッチ組織を作成するには、ProviderFreePlatformCache 機能を確認してください。

メモ: AppExchange で認定され、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでない場合、プロバイダ無料容量はパッケージのインストール時に 0 にリセットされます。

関連トピック:

Salesforce オンラインヘルプ: Set Up a Platform Cache Partition with Provider Free Capacity (プロバイダ無料容量を使用したプラットフォームキャッシュ区分の設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コールアウトを実行する呼び出し可能な Apex メソッドのフラグ設定

コールアウトを実行する呼び出し可能なアクションで、callout 属性を呼び出し可能な Apex メソッドアノテーションに追加できるようになりました。アクションをコールするフローは、この情報を使用して実行時のトランザクションの管理方法を把握します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: `@InvocableMethod` アノテーションが付加された Apex メソッドのコールアウトにフラグを設定するには、`callout` 属性をアノテーションに追加して `true` に設定します。

```
@InvocableMethod(callout=true, label="My Action Label")
```

アクションでコールアウトを実行する場合、`callout` 属性を `true` に設定します。フローでアクションが実行される場合、フローは実行時にアクションを正常に実行する方法(新しいトランザクションで実行するのか、現在実行されているトランザクションで実行するのか) を決定します。

callout 属性が `false` に設定されている場合、トランザクションにコミットされていない作業があるかどうかに関係なく、トランザクションで安全に実行されるようにアクションにフラグが設定されます。

関連トピック:

画面フローでのコールアウトエラーの自動回避

パフォーマンスの改善のために最適化されたクエリカーソル

Apex でクエリカーソルの使用方法が最適化されました。`for` ループを使用する SOQL クエリなどの場合に、Apex でクエリカーソルが内部的に生成または使用されなくなりました。代わりに、レコードがメモリにバッファされます。これにより、パフォーマンスが改善され、クエリカーソルの競合も削減されます。この最適化は、Apex 一括処理クエリには適用されません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

新しい LeadConvert メソッドを使用したリードから個人取引先と法人取引先への同時変換

顧客が個人とグループを含めている場合、営業チームは取引開始済みのリードを個人取引先と法人取引先に同時に関連付けることができます。たとえば、銀行は家族の各メンバーの個人取引先を作成し、その家族を法人取引先にまとめることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Apex リード変換、個人取引先、取引先責任者-to-複数取引先を使用する Salesforce 組織の場合、LeadConvert クラスで新しいメソッドを使用できます。`getRelatedPersonAccountId()`、`setRelatedPersonAccountId()`、`getRelatedPersonAccountRecord()`、`setRelatedPersonAccountRecord()` メソッドを使用すると、リードを取引先責任者ではなく法人取引先と個人取引先に変換できます。

`LeadConvertResult` クラスの新しい `getRelatedPersonAccountId()` メソッドは、新規または既存の関連する個人取引先の ID を返します。

匿名ブロックでの指定ログイン情報のコールアウトには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要

指定ログイン情報を使用して Apex 匿名ブロックでコールアウトのエンドポイントを指定する場合は、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この変更は、指定ログイン情報を処理する Apex 開発者およびシステム管理者のユーザ権限要件に準拠するものです。[設定] で指定ログイン情報を編集するシステム管理者は常に「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。

関連トピック:

- *Apex 開発者ガイド*: 匿名ブロック
- *Apex 開発者ガイド*: コールアウトエンドポイントとしての指定ログイン情報

API

従来のバージョンのいくつかの API は Summer '21 リリースで廃止されます。

このセクションの内容:

Platform API の従来のバージョンの予定されている廃止の事前通知
Summer '21 リリースでは、Salesforce Platform API の従来のバージョンが廃止され、Salesforce でサポートされなくなります。

Platform API の従来のバージョンの予定されている廃止の事前通知

Summer '21 リリースでは、Salesforce Platform API の従来のバージョンが廃止され、Salesforce でサポートされなくなります。

対象: 次の API バージョンは廃止され、Salesforce でサポートされなくなります。

SOAP API

7.0、8.0、9.0、10.0、11.0、11.1、12.0、13.0、14.0、15.0、16.0、17.0、18.0、19.0、20.0

REST API
20.0

Bulk API
16.0、17.0、18.0、19.0、20.0

この変更は、Professional Edition (API **アクセス有効**)、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **に適用されます。**

時期: Summer '21 **がリリースされるまでは、これらの従来の** API **バージョンを引き続き使用できますが、**Summer '21 **がリリースされると、これらの従来のバージョンは使用できなくなります。これらの従来のバージョンが廃止されると、これらの** API **を使用しているアプリケーションは中断されます。要求は失敗し、要求されたエンドポイントが無効化されていることを示すエラーメッセージが表示されます。**

対象ユーザ: API **が有効になっているすべての組織のエディションに影響し、**Salesforce Classic **と** Lightning Experience **の両方に適用されます。**

理由: Salesforce **環境全体を改善するために、開発は最新の** API **バージョンの強化に焦点を絞って行われます。**

方法: Summer '21 **より前のリリースでは、使用可能な最新の** API **バージョンで機能するようにアプリケーションを変更またはアップグレードする必要があります。より新しいバージョンの**API**では、セキュリティとパフォーマンスが改善された高度な機能が提供されます。**

詳細は、ナレッジ記事番号 000351312 **を参照してください。**

パッケージ化

パッケージのリリースバージョンを指定して、パッケージの今後の機能をテストします。組織のメタデータの分離が難しい場合にロック解除済みパッケージを使用するために役立つ、現在正式リリースされている組織連動パッケージをお試しください。多要素認証を使用して、ライセンス管理組織の登録者サポートコンソールを保護します。新しい API **項目を使用して、パッケージ操作を監視します。**

このセクションの内容:

Salesforce **リリースの移行中にパッケージの特定のリリースを対象設定**

Salesforce **メジャーリリースの移行中、パッケージバージョンを作成するときに［プレビュー］または［前］を指定できます。パッケージのリリースバージョンを指定すると、組織がどの** Salesforce **リリースを使用しているかに関係なく、今後追加される機能をテストし、回帰テストを実行し、顧客をサポートできます。以前は、**DevHub **組織で使用する** Salesforce **リリースに一致するパッケージバージョンしか作成できませんでした。**

メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (正式リリース)

ロック解除済みパッケージのバリエーションである組織連動ロック解除済みパッケージでは、インストール組織のパッケージ化されていないメタデータに連動するパッケージを作成できます。本番組織のメタデータを分離することが困難な場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用します。組織連動ロック解除済みパッケージを使用すると、パッケージバージョンの作成中ではなくパッケージインストール中にメタデータ検証が行われます。

新しい API 項目を使用したパッケージ操作の監視

SOAP および Tooling API オブジェクトの 3 つの新しい項目を使用すると、転送アップグレードとパッケージ作成に関する問題を監視およびトラブルシューティングできます。SOAP API の PackagePushRequest オブジェクトと PackagePushJob オブジェクトには、開始時刻、終了時刻、および転送アップグレードの完了までにかかった時間を示す新しい項目があります。Tooling API の Package2Version オブジェクトには、パッケージバージョンの作成にかかった時間を示す新しい項目があります。`package:version:list` または `package:version:report` で `--verbose` を使用して、パッケージバージョンの `BuildDurationInSeconds` を表示することもできます。

登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新)

ライセンス管理組織 (LMO) にログインするときに多要素認証 (MFA) を要求することで、登録者組織へのアクセスを保護します。

パッケージバージョン作成テストでのパッケージ化されていないメタデータの指定 (正式リリース)

パッケージに内には不要でも、パッケージバージョンの作成中に Apex テストを実行するために必要なメタデータがある場合があります。このような場合、`sfdx-project.json` ファイルでパッケージ化されていないメタデータを含むパスを指定できます。パッケージ化されていないメタデータはパッケージに含まれず、登録者組織にインストールされません。

Salesforce リリースの移行中にパッケージの特定のリリースを対象設定

Salesforce メジャーリリースの移行中、パッケージバージョンを作成するときに［プレビュー］または［前］を指定できます。パッケージのリリースバージョンを指定すると、組織がどの Salesforce リリースを使用しているかに関係なく、今後追加される機能をテストし、回帰テストを実行し、顧客をサポートできます。以前は、DevHub 組織で使用する Salesforce リリースに一致するパッケージバージョンしか作成できませんでした。

対象: この変更は、ロック解除済みの第二世代管理パッケージに適用されます。

時期: DevHub 組織が Spring '21 リリースに更新されたら、リリースバージョンを［前］に設定してパッケージを作成できます。

Summer '21 リリースの移行後、リリースバージョンとして［プレビュー］または［前］を指定できます。

方法: 以前の Salesforce リリースバージョンに基づいてパッケージバージョンを作成するには、次の内容を含むスクラッチ定義ファイルを作成します。

```
{
    "release": "previous"
}
```

次に、パッケージバージョンを作成するときに定義ファイルを指定します。

```
sfdx force:package:version:create -f config/project-scratch-def.json
```

メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (正式リリース)

ロック解除済みパッケージのバリエーションである組織連動ロック解除済みパッケージでは、インストール組織のパッケージ化されていないメタデータに連動するパッケージを作成できます。本番組織のメタデータを分離することが困難な場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用します。組織連動ロック解除済みパッケージを使用すると、パッケージバージョンの作成中ではなくパッケージインストール中にメタデータ検証が行われます。

対象: この変更は、Salesforce CLI を使用して作成されたロック解除済みパッケージに適用されます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

理由: 長期にわたる大規模な本番組織では、大量のメタデータが蓄積していることが多く、パッケージベースのアプリケーションライフサイクル管理 (ALM) アプローチを採用するときにモジュール化しにくくなっています。組織連動ロック解除済みパッケージにより、大規模で複雑な組織を持つお客様がすべてのメタデータ連動関係を解決せずにロック解除済みパッケージを使用できるようになりました。

メモ: 組織連動ロック解除済みパッケージは、個別のパッケージ種別ではなく、ロック解除済みパッケージのバリエーションです。ロック解除済みパッケージと同じパッケージ開発ステップに従い同じサポートされるメタデータ型を使用します。

方法: パッケージ化を有効にするには、先に Dev Hub を有効にします。[設定] の [クイック検索] ボックスに「*Dev Hub*」と入力し、**[Dev Hub]** を選択します。次に、**[Dev Hub を有効化]** を選択し、**[ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージを有効化]** を選択します。

`package:create` CLI コマンドで `orgdependent` CLI パラメータを使用します。

組織連動ロック解除済みパッケージを開発するには、Sandbox でソース追跡を使用することを検討してください。

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: 組織連動ロック解除済みパッケージの作成

新しい API 項目を使用したパッケージ操作の監視

SOAP および Tooling API オブジェクトの 3 つの新しい項目を使用すると、転送アップグレードとパッケージ作成に関する問題を監視およびトラブルシューティングできます。SOAP API の PackagePushRequest オブジェクトと PackagePushJob オブジェクトには、開始時刻、終了時刻、および転送アップグレードの完了までにかかった時間を示す新しい項目があります。Tooling API の Package2Version オブジェクトには、パッケージバージョンの作成にかかった時間を示す新しい項目があります。`package:version:list` または `package:version:report` で `--verbose` を使用して、パッケージバージョンの `BuildDurationInSeconds` を表示することもできます。

対象: これらの変更は、ロック解除済みの第二世代管理パッケージに適用されます。転送アップグレードの開始時刻と終了時刻は、第一世代管理パッケージでも使用できます。

登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新)

ライセンス管理組織 (LMO) にログインするときに多要素認証 (MFA) を要求することで、登録者組織へのアクセスを保護します。

対象: この変更は、第一世代および第二世代管理パッケージのサポートに使用されるライセンス管理組織に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '22 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この変更により、管理パッケージの支援が必要な登録者は、組織にアクセスするユーザの ID を検証することでセキュリティをさらに強化できます。また、登録者組織にログインするユーザの制御と説明責任も強化されます。

方法: 多要素認証を使用してライセンス管理組織セッションが確立されていない場合、この更新により、登録者サポートコンソールへのアクセスの試行がブロックされます。

この更新をテストして適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリース更新」* と入力して、[リリース更新] を選択します。[登録者組織へのログインで多要素認証を要求] を探し、テストと有効化の手順に従います。

関連トピック:

ISVforce ガイド: 登録者組織へのログイン
リリース更新

パッケージバージョン作成テストでのパッケージ化されていないメタデータの指定 (正式リリース)

パッケージに内には不要でも、パッケージバージョンの作成中に Apex テストを実行するために必要なメタデータがある場合があります。このような場合、`sfdx-project.json` ファイルでパッケージ化されていないメタデータを含むパスを指定できます。パッケージ化されていないメタデータはパッケージに含まれず、登録者組織にインストールされません。

対象: この変更は、Salesforce CLI を使用して作成された第二世代管理パッケージとロック解除済みパッケージに適用されます。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

方法: `sfdx-project.json` ファイルでパッケージ化されていないメタデータへのパスを指定します。

次の例では、TV_unl パッケージのパッケージバージョンの作成中にテスト実行で `my-unpackaged-directory` 内のメタデータを使用できます。

```
"packageDirectories": [
    {
        "path": "force-app",
        "package": "TV_unl",
        "versionName": "ver 0.1",
        "versionNumber": "0.1.0.NEXT",
        "default": true,
```

```
        "unpackagedMetadata": {
            "path": "my-unpackaged-directory"
        }
    },
    {
        "path": "my-unpackaged-directory",
        "default": false
    }
]
```

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: パッケージバージョン作成テストでのパッケージ化されていないメタデータの指定

スクラッチ組織

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。継続的に設定可能な新機能のサポートを追加していきます。

このセクションの内容:

機能が追加されたスクラッチ組織の作成
スクラッチ組織のこれらの新機能では、スクラッチ組織のシェイプに関するより多くのオプションがあります。

スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce のより容易なインストールおよび使用
スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce 管理パッケージの使用をより迅速に開始します。スクラッチ組織で `B2BCommerce` 機能を有効化すると、B2B Commerce 権限セットライセンスがデフォルトで組織に追加されるようになりました。この権限セットライセンスは、B2B Commerce for Visualforce の [CC 管理] タブにアクセスする必要があるすべてのシステム管理者ユーザに必要です。この変更により、B2B Commerce for Lightning Experience を含む他のスクラッチ組織機能と一緒に B2B Commerce for Visualforce を容易にインストールして、使用を開始できます。

機能が追加されたスクラッチ組織の作成

スクラッチ組織のこれらの新機能では、スクラッチ組織のシェイプに関するより多くのオプションがあります。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

- AddCustomFields:<value>
- AdmissionsConnectUser
- AIReplyRecommendations
- AnalyticsAppEmbedded
- CallCoaching

- CampaignInfluence2
- CoachingManagerGroupAccess
- CustomerAssetLifecycleManagement
- CustomerExperienceAnalytics
- CustomFieldDataTranslation
- DecisionTable
- EinsteinAnalyticsForB2BMarketing
- EinsteinSearch
- EnableSetPasswordInApi
- ERMAnalytics
- FinanceLogging
- GoalManagerGroupAccess
- IndustriesCompliantDataSharing
- ManufacturingAnalytics
- MyTrailhead
- OrderManagement
- OrderSaveBehaviorBoth
- OrderSaveLogicEnabled
- PardotEinstein
- PublicSector
- SalesCadenceFolderSharing
- Walkthroughs
- WorkPerform
- WorkplaceCommandCenterUser

変更されるスクラッチ組織の機能

PlatformConnect には、1 ～ 5 の数量が必要です。

```
PlatformConnect:<value>
```

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: スクラッチ組織の機能

スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce のより容易なインストールおよび使用

スクラッチ組織での B2B Commerce for Visualforce 管理パッケージの使用をより迅速に開始します。スクラッチ組織で `B2BCommerce` 機能を有効化すると、B2B Commerce 権限セットライセンスがデフォルトで組織に追加されるようになりました。この権限セットライセンスは、B2B Commerce for Visualforce の [CC 管理] タブにアクセスする必要があるすべてのシステム管理者ユーザに必要です。この変更により、B2B Commerce for Lightning Experience を含む他のスクラッチ組織機能と一緒に B2B Commerce for Visualforce を容易にインストールして、使用を開始できます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 以前はスクラッチ組織で `B2BCommerce` 機能を有効化すると、B2B Commerce for Lightning Experience で必要なライセンスのみが追加されました。システム管理者は B2B Commerce for Visualforce 管理パッケージをインストールできましたが、[CC 管理] タブにはアクセスできませんでした。

方法: スクラッチ組織の定義ファイルに `B2BCommerce` 機能を追加して、スクラッチ組織が作成されたら、B2B Commerce 権限セットライセンスを有効化して、[CC 管理] タブへのアクセスが必要なシステム管理者ユーザに適用します。

メモ: この権限セットライセンスは、2021 年 3 月 25 日以降に作成されたスクラッチ組織でのみ使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: B2B Commerce for Visualforce のインストール

Salesforce DX 開発者ガイド: スクラッチ組織の機能

Sandbox

より短時間でデータをマスクしたり、マスキング設定をより詳細に制御したり、新しく追加されたデータのみを段階的にマスクしたりできます。ソース追跡を使用して、ローカルプロジェクトと組織間の変更のリストを表示します。

このセクションの内容:

Data Mask を使用したデータセキュリティの調整

より短時間でデータをマスクしたり、マスキング設定をより詳細に制御したり、新しく追加されたデータのみを段階的にマスクしたりできます。強化された Data Mask 機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

ローカルプロジェクトと Sandbox 間の変更の追跡 (正式リリース)

Salesforce DX プラットフォームで開発するときに、ソース追跡を実行して、ローカルプロジェクトと Salesforce Sandbox 間で作成、更新、または削除するコンポーネントのリストを表示します。

Data Mask を使用したデータセキュリティの調整

より短時間でデータをマスクしたり、マスキング設定をより詳細に制御したり、新しく追加されたデータのみを段階的にマスクしたりできます。強化された Data Mask 機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者プロファイルを持つユーザは、Data Mask をインストールまたは更新できます。

理由:

特定の項目にレコード検索条件ルールを設定することで、データレコードをマスクの対象にすることができます。

また、Data Mask で次の 8 個の言語がサポートされるようになりました。

- ブラジル
- ポルトガル語
- オランダ語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- スペイン語 (メキシコ)
- スペイン語 (スペイン)

方法: Data Mask は本番組織にインストールして実行する管理パッケージです。その後、本番組織で作成された任意の Sandbox からマスクプロセスを実行します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Set Filter Criteria (検索条件の設定)

ローカルプロジェクトと Sandbox 間の変更の追跡 (正式リリース)

Salesforce DX プラットフォームで開発するときに、ソース追跡を実行して、ローカルプロジェクトと Salesforce Sandbox 間で作成、更新、または削除するコンポーネントのリストを表示します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 行った変更の一覧表示に加えて、ソース追跡で次の操作が可能になります。

- メタデータコンポーネントへの変更を自動的に追跡し、手動で追跡する手間を省く。
- 他の開発者によって Sandbox にプッシュされた変更を参照する。
- 変更されたソースをプッシュまたはプルする。
- ソースをプッシュまたはプルする前に、ローカルプロジェクトと Sandbox 間の競合を特定して解決する。

方法: 次の例は、Salesforce CLI コマンドを使用します。ターミナルまたはコマンドウィンドウから、変更を確認するプロジェクトディレクトリに移動します。この例では、ディレクトリの名前は MyProject です。

```
cd MyProject
```

ローカルプロジェクトと Sandbox 間の変更を確認するには、force:source:status コマンドを実行します。-u パラメータを含めて、ローカルプロジェクトと比較する Sandbox のユーザ名を指定します。この例では、ユーザ名は DevSandbox です。

```
sfdx force:source:status -u DevSandbox
```

この CLI は、ローカルプロジェクトと Sandbox の違いを表示します。この例では、ローカルプロジェクトに WidgetClass という名前の Apex クラスが含まれています。Sandbox には、ローカルプロジェクトにプルされていない Widget__c という名前のカスタムオブジェクトへの変更が含まれていますが、これはローカルプロジェクトの Widget__c と競合します。この例では、Sandbox で作業しているユーザが Widget__c の All というリストビューも削除し、WidgetPermissions という名前の権限セットを含めています。ソースを Sandbox にプッシュすると、WidgetClass ApexClass が追加されます。Sandbox からソースをプルすると Widget__c が変更され、Widget__c の All リストビューが削除され、ローカルプロジェクトに WidgetPermissions という権限セットが作成されます。

```
=== Source Status
STATE                  FULL NAME      TYPE          PROJECT PATH
─────────────          ──────────     ──────────
─────────────────────────────────────────────────────────────

Local  Add             WidgetClass       ApexClass     /WidgetClass.cls-meta.xml
Local  Add             WidgetClass       ApexClass     /WidgetClass.cls
Remote Changed (Conflict) Widget__c .       CustomObject
force-app/main/default/objects/Widget__c/Widget__c.object-meta.xml
Remote Deleted         Widget__c.all     ListView .
force-app/main/default/objects/Widget__c/listViews/All.listView-meta.xml
Remote Add             WidgetPermissions PermissionSet
```

プラットフォーム開発ツール

Salesforce Developer Experience (DX) を使用してアプリケーションを共同で作成し、継続的に配信します。Salesforce Developer Experience は、Customer 360 Platform での開発を容易にするオープンな統合環境です。

このセクションの内容:

Customer 360 Platform アプリケーションの簡単な開発

Salesforce DX ツールセットには、Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能と Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。毎週、この両方のツールの新しいバージョンがリリースされています。

関連トピック:

Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)

Salesforce CLI コマンドリファレンス

Customer 360 Platform アプリケーションの簡単な開発

Salesforce DX ツールセットには、Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能と Salesforce CLI が含まれます。チームに最も適した、ビジネスニーズを満たすツールを選択してください。毎週、この両方のツールの新しいバージョンがリリースされています。

Salesforce Extensions for Visual Studio Code (Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能)
この拡張機能パックには、軽量で拡張可能な VS Code エディタを使用して Customer 360 Platform 上で開発を行うためのツールが含まれます。最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Salesforce CLI
Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。コア `salesforcedx` プラグインの最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Lightning Design System

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。このリリースでは、スタイル設定フックのサポートの拡張に重点を置きました。

既存のコンポーネントの動作の更新およびバグの修正は頻繁に実施されます。最新の変更については、Lightning Design System のドキュメントの「What's New (新機能)」を参照してください。このページでは、変更を完了した日付を基準に変更がリストされています。これらの変更は、次回の Salesforce メジャーリリースでもまとめられます。Spring '21 の特長をいくつか紹介します。

このセクションの内容:

ダブルダッシュの BEM 表記の廃止
Lightning Design System でのダブルダッシュ (--) の BEM 表記は Summer '21 で廃止され、1 つのアンダースコア表記 (_) に置き換えられます。

Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新
次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントブループリントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

ダブルダッシュの BEM 表記の廃止

Lightning Design System でのダブルダッシュ (--) の BEM 表記は Summer '21 で廃止され、1 つのアンダースコア表記 (_) に置き換えられます。

理由: ダブルダッシュは、コメントを含む XML ファイルではサポートされません。この表記の変更は、最初に 2017 年 5 月 25 日の Salesforce Lightning Design System (SLDS) リリース 2.3.1 で発表され、Winter '21 リリースノートで再度発表されました。

方法: Summer '21 では、ダブルダッシュのすべての BEM 表記が SLDS 2.13.0 以降のバージョンで使用できなくなります。引き続き SLDS 2.13.0 以降のバージョンでスタイルを機能させるには、CSS 内の `--` を `_` に置き換えます。たとえば、`slds-button--brand` を `slds-button_brand` に置き換えます。SLDS 2.12.2 以前のバージョンを

使用している場合、これらのバージョンに対して何も変更が行われていないため、スタイルは引き続き機能します。

VSCode を使用して開発している場合、SLDS Validator 拡張機能を使用してコード内の BEM 表記を修正してください。この拡張機能はスタンドアロンとしてだけでなく、Salesforce Extension Pack の一部としても使用できます。

Lightning Design System コンポーネントブループリントの更新

次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントブループリントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

Lightning Design System スタイル設定フック (ベータ) は、一部のコンポーネントブループリントで Winter '21 に導入されました。このリリースでは、次の追加コンポーネントブループリントにスタイル設定フックが追加されています。

- カード
- チェックボックス
- チェックボックス切り替え
- 入力
- ラジオグループ
- 選択
- スライダ
- テキストエリア

「Blueprint Overview (ブループリントの概要)」に、どのコンポーネントにスタイル設定フックがあるかが示されています。ブループリントと使用可能なスタイル設定フックを表示するには、コンポーネントをクリックします。

SLDS コンポーネントブループリントに対する次の最新の更新により、UI を強化します。

アコーディオン
: ヘッダーボタンは使用可能なすべてのスペースを占有するように更新され、より大きな対象でアコーディオン機能を切り替えることができます。

  アコーディオンのヘッダーの色を設定するスタイル設定フックが追加されました。

アラート
: 警告テキストの色のスタイル設定フック名が更新されました。

  状況の状態のコンポーネントレベルのスタイル設定フックが削除されました。

  テーマユーティリティクラスの有無に関係なく機能するようにマークアップが更新されました。

ボタン
: 影のスタイル設定フックが追加されました。

  スペーシングのバリエーション固有のスタイル設定フックが追加されました。

  スタイル設定フック `--sds-c-button-inverse-color-border-focus` が削除されました。

  無効状態のコンポーネントレベルのスタイル設定フックが削除されました。これは、グローバルレベルで処理されるようになりました。

フォーム要素
フォームラベルとモバイルビューポートの情報ボタンアイコン間のスペースが調整されました。

アイコン
コンポーネントレベルでアイコンの状況の状態を変更するためのフックが削除されました。

モーダル
コンテンツ、ヘッダー、フッターのテキストの色にスタイル設定フックが追加されました。

コンテンツ、ヘッダー、フッター、背景の背景色のスタイル設定フックが追加されました。

ヘッダーの誤ったスタイル設定フックが更新されました。

ピル
フォーカス状態のスタイル設定フック名が更新されました。サフィックスが `-active` から `-focus` に変更されました。

範囲設定されたタブ
範囲設定されたタブのバリエーション固有のスタイル設定フックが削除されました。

スピナー
with-container と fixed-container の例にデモ `background-color` が追加されました。

タブ
タブの親コンテナの表面色を表示するように、`.slds-tabs_default` から白の `background-color` が削除されました。

サイズ調整、スペーシング、行の高さ、テキストの色のスタイル設定フックが追加されました。

トースト
テキストの色のスタイル設定フックが追加されました。

ビジュアルピッカー
チェックマークの縦の位置設定が更新されました。

AppExchange パートナー

AppExchange の App Analytics を使用して、登録者の Apex カスタムコードの使用状況に関する新しいインサイトを得ます。再設計された AppExchange セキュリティレビューインターフェースを使用して、ソリューションのセキュリティレビューを申請し、進行状況を追跡し、履歴を表示します。

このセクションの内容:

AppExchange の App Analytics を使用した Apex カスタムコードの分析
AppExchange の App Analytics のパッケージの利用状況ログとパッケージの利用状況概要を使用して、登録者がソリューションの Apex コードをどのように操作しているかを確認します。顧客重視の戦略の一環として、Apex イベントおよび例外データは、機能開発の決定を促進し、登録者環境を改善するのに役立つ可能性があります。

再設計された AppExchange セキュリティレビューを使用したソリューションの迅速な申請および進行状況の追跡

再設計された AppExchange セキュリティレビューインターフェースには、Salesforce B2C Commerce や Quip アプリケーションなど、より多くのソリューション種別のサポートが追加されています。レビュー進行状況コンポーネントで残りのタスク、レビュー状況、および製品セキュリティの要求を確認します。

AppExchange 支払情報の迅速な更新

AppExchange セキュリティレビューと年間掲載料の支払方法を変更するには、リストで [支払を更新] ボタンをクリックします。この機能を使用すると、AppExchange リストに関する登録済みの支払情報を容易に変更できます。

AppExchange の App Analytics を使用した Apex カスタムコードの分析

AppExchange の App Analytics のパッケージの利用状況ログとパッケージの利用状況概要を使用して、登録者がソリューションの Apex コードをどのように操作しているかを確認します。顧客重視の戦略の一環として、Apex イベントおよび例外データは、機能開発の決定を促進し、登録者環境を改善するのに役立つ可能性があります。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できます。

方法: AppExchange の App Analytics を有効化するには、Salesforce パートナーコミュニティサポートに新規ケースを登録します。パートナーコミュニティにログインして、[サポート]を選択し、[新規ケース]をクリックします。[他の **AppExchange** トピック] | [ケースを作成] を選択します。次に、選択リストから [**App Analytics** を有効化] を選択します。

関連トピック:

AppExchange App Analytics (AppExchange アプリケーションの Analytics)

再設計された AppExchange セキュリティレビューを使用したソリューションの迅速な申請および進行状況の追跡

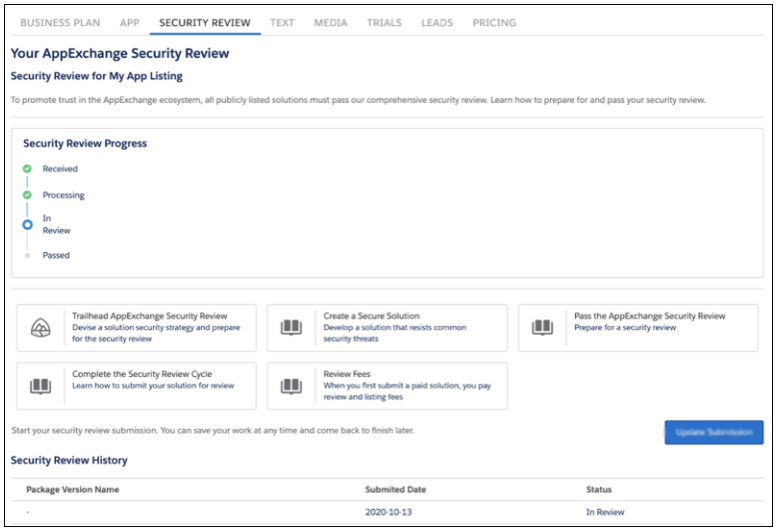
再設計された AppExchange セキュリティレビューインターフェースには、Salesforce B2C Commerce や Quip アプリケーションなど、より多くのソリューション種別のサポートが追加されています。レビュー進行状況コンポーネントで残りのタスク、レビュー状況、および製品セキュリティの要求を確認します。

対象: 再設計されたインターフェースは Salesforce パートナーコミュニティの公開コンソールで使用できます。

対象ユーザ: 「リストの管理」権限を持つ AppExchange パートナーがこの機能を使用できます。

理由: 新しいフローでは、AppExchange パートナーのセキュリティレビュー申請プロセスが合理化されています。Lightning プラットフォーム、API 限定、B2C Commerce と B2B Commerce、Quip アプリケーション種別のサポートにより、技術に対する認識が高まりました。

進行状況コンポーネントでは重要な情報が統合されています。残りの申請タスクの確認、レビューの申請後の状況の追跡、製品セキュリティの要求の確認を 1 か所ですべて行います。



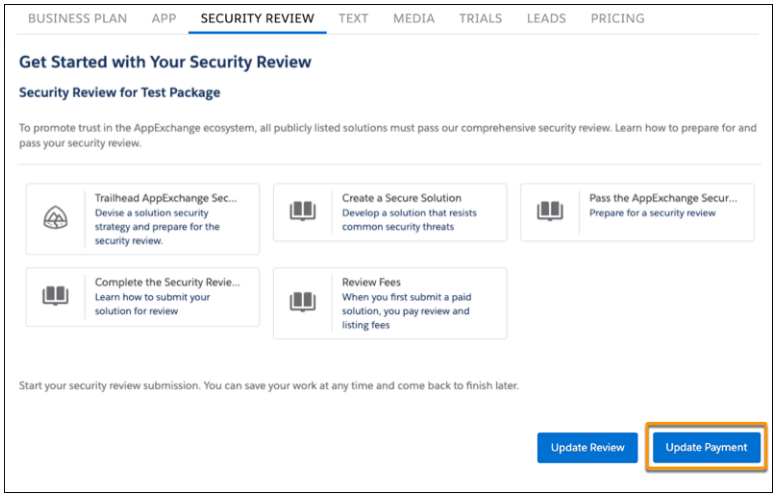
方法: Salesforce パートナーコミュニティにログインして、[公開] をクリックし、AppExchange リストを見つけて開いた後、[セキュリティレビュー] タブに移動します。

AppExchange 支払情報の迅速な更新

AppExchange セキュリティレビューと年間掲載料の支払方法を変更するには、リストで [支払を更新] ボタンをクリックします。この機能を使用すると、AppExchange リストに関する登録済みの支払情報を容易に変更できます。

対象ユーザ: 「リストの管理」権限のある AppExchange パートナーは、有効なサブスクリプションが含まれる AppExchange リストでこの機能にアクセスできます。

方法: Salesforce パートナーコミュニティにログインして、[公開] をクリックします。対象の AppExchange リストを見つけて開きます。次に、[セキュリティレビュー] タブに移動して [支払を更新] をクリックします。



変更データキャプチャ

項目を使用してイベントメッセージを強化し、より多くのオブジェクトの変更通知を受信します。

このセクションの内容:

追加項目による変更イベントメッセージの強化 (正式リリース)
イベント強化により、変更イベントに変更されない項目を含めてデータの処理や複製を容易にできるようになりました。サポートされている種別の項目を選択できます。たとえば、アプリケーションに外部システムのレコードを照合するための外部 ID 項目が必要な場合に強化を使用します。または、変更レコードに関する重要情報を提供する項目を常に含めます。イベント強化は、CometD ベースの登録者のみでサポートされています。イベント強化は以前のリリースではパイロットとして提供されていましたが、正式リリースされました。

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信
変更データキャプチャで、VideoCall オブジェクトと VideoCallRecording オブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

追加項目による変更イベントメッセージの強化 (正式リリース)

イベント強化により、変更イベントに変更されない項目を含めてデータの処理や複製を容易にできるようになりました。サポートされている種別の項目を選択できます。たとえば、アプリケーションに外部システムのレコードを照合するための外部 ID 項目が必要な場合に強化を使用します。または、変更レコードに関する重要情報を提供する項目を常に含めます。イベント強化は、CometD ベースの登録者のみでサポートされています。イベント強化は以前のリリースではパイロットとして提供されていましたが、正式リリースされました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: 変更データキャプチャに選択されたオブジェクトを参照するチャネルやそのチャネルのメンバーで強化項目を定義します。チャネルは、カスタムチャネルまたは ChangeEvents チャネルになります。強化された変更イベントは、強化用に設定されたチャネルでのみ配信されます。強化項目をチャネルメンバーおよびチャネルに追加するには、Tooling API またはメタデータ API で PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用します。

次の例では、`SalesEvents__chn` カスタムチャネルの Tooling API を使用して AccountChangeEvent メンバーを強化します。変更イベントは、カスタム項目 (`External_Account_ID__c`) と標準項目 (`Industry`) の 2 つの項目で強化されます。Tooling API を使用して強化された項目を設定するには、`/services/data/v51.0/tooling/sobjects/PlatformEventChannelMember` に対する POST REST 要求を行います。

リクエストボディ:

```
{
  "FullName": "SalesEvents_AccountChangeEvent",
  "Metadata": {
    "enrichedFields": [
      {
        "name": "External_Account_ID__c"
      },
      {
        "name": "Industry"
      }
```

```
    ],
    "eventChannel": "SalesEvents__chn",
    "selectedEntity": "AccountChangeEvent"
  }
}
```

関連トピック:

変更データキャプチャ開発者ガイド: Enrich Change Events With Extra Fields When Subscribed with CometD (CometD 登録時の追加項目による変更イベントの強化)

追加のオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、VideoCall オブジェクトと VideoCallRecording オブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce 組織で定義されたすべてのカスタムオブジェクト、および標準オブジェクトのサブセットで変更イベントを使用できます。[設定] の [変更データキャプチャ] ページで、通知を取得するオブジェクトを選択するか、カスタムチャネルを作成します。これらは、変更データキャプチャをサポートするようになった新しいオブジェクトです。

- LoyaltyLedger
- TransactionJournal

プラットフォームイベント

プラットフォームイベントトリガを設定して、デフォルトのユーザとバッチサイズを上書きします。

このセクションの内容:

プラットフォームイベントトリガのユーザとバッチサイズの設定

プラットフォームイベント Apex トリガのデフォルトの実行ユーザとバッチサイズを上書きできます。デフォルトでは、トリガはバッチサイズが 2,000 イベントメッセージの自動化プロセスシステムユーザとして実行されます。ユーザとバッチサイズを設定することで、デフォルトの使用で発生する場合があるいくつかの制限を回避できます。たとえば、レコードシステムおよび `OwnerId` 項目には、指定したユーザが入力されます。また、バッチサイズを 2,000 未満に設定すると、Apex ガバナ制限に達することを回避できます。

非同期での標準プラットフォームイベントの公開

以前は、標準量イベントは非同期で公開されました。つまり、SaveResult で成功値の true が返された場合、イベントが正常に公開されたことを意味しました。現在は、成功の結果が返された場合は、イベントの公開がキューに登録されたことを意味します。公開は、大規模プラットフォームイベントと同様に後で試行されます。

プラットフォームイベントトリガのユーザとバッチサイズの設定

プラットフォームイベント Apex トリガのデフォルトの実行ユーザとバッチサイズを上書きできます。デフォルトでは、トリガはバッチサイズが 2,000 イベントメッセージの自動化プロセスシステムユーザとして実行されます。ユーザとバッチサイズを設定することで、デフォルトの使用で発生する場合があるいくつかの制限を回避できます。たとえば、レコードシステムおよび `OwnerId` 項目には、指定したユーザが入力されます。また、バッチサイズを 2,000 未満に設定すると、Apex ガバナ制限に達することを回避できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: メタデータ API または Tooling API の PlatformEventSubscriberConfig を使用して、プラットフォームイベントトリガを設定します。

次の例は、メタデータ API を使用した OrderEventTrigger の設定を示しています。ユーザは `user@example.com` に設定され、バッチサイズは `200` に設定されています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<PlatformEventSubscriberConfig xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
    <platformEventConsumer>OrderEventTrigger</platformEventConsumer>
    <batchSize>200</batchSize>
    <masterLabel>OrderEventTriggerConfig</masterLabel>
    <user>user@example.com</user>
    <isProtected>false</isProtected>
</PlatformEventSubscriberConfig>
```

関連トピック:

- *プラットフォームイベント開発者ガイド*: Configure the User and Batch Size for Your Platform Event Trigger (プラットフォームイベントトリガのユーザおよびバッチサイズの設定)
- *メタデータ API 開発者ガイド*: PlatformEventSubscriberConfig
- *Tooling API 開発者ガイド*: PlatformEventSubscriberConfig

非同期での標準プラットフォームイベントの公開

以前は、標準量イベントは非同期で公開されました。つまり、SaveResult で成功値の true が返された場合、イベントが正常に公開されたことを意味しました。現在は、成功の結果が返された場合は、イベントの公開がキューに登録されたことを意味します。公開は、大規模プラットフォームイベントと同様に後で試行されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

メモ: Spring '19 以降、標準量プラットフォームイベントは定義できなくなりました。以前に定義した標準量プラットフォームイベントは引き続き公開できます。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目
新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

Apex: 新規および変更された項目
次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。Lightning の B2B Commerce の注文とウィッシュリストで、より多くの操作を実行できるようになりました。ゲストユーザは、Lightning の B2B Commerce の一部のメソッドを使用できます。コンテンツキーを使用して CMS 管理コンテンツを取得します。

API: 新規および変更された項目
API バージョン 51.0 では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

このセクションの内容:

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール
モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

次の基本コンポーネントが正式リリースされました。

- lightning-formatted-date-time
- lightning-formatted-number
- lightning-relative-date-time

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning-button

次の属性が新規追加されました。

- `aria-haspopup` — ボタンによってトリガされる、支援技術のポップアップ要素の種別を示します。有効な値は、`true`、`dialog`、`menu`、`listbox`、`tree`、`grid` です。

lightning-button-menu

次のイベントが新規追加されました。

- `close` — ドロップダウンメニューを閉じると起動されるイベント。

lightning-datatable

通貨およびパーセントデータ型の次の `typeAttribute` プロパティが新規追加されました。

- `step` — `0.001` などの正の浮動小数点の数値として指定されるインライン編集時の値の粒度。粒度が重要でない場合は、`any` を使用します。この値のデフォルトは `0.01` です。

lightning-formatted-phone

次の属性が新規追加されました。

- `disabled` — リンクではなくプレーンテキストとして電話番号を表示します。この番号は、クリックしたり、フォーカスしたりできません。

lightning-formatted-url

次の属性が変更されました。

- `target` — Salesforce モバイルアプリケーションで、`_blank` 目標値が `_self` 目標と同じように動作するようになり、可能な場合は Web ブラウザではなくアプリケーション内でリンクが開くようになりました。

lightning-icon

コンポーネントが `icon-name` アイコンで渡される SLDS アイコンを遅延読み込みするようになり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。初期表示中にアイコンのマークアップを照会する場合、この読み込みの遅延がコードに影響する可能性があります。

アイコンにカスタムスタイルを追加するなど、コンポーネントの内部マークアップを操作する場合は、SLDS スタイル設定フックを使用します。たとえば、アイコンに塗りつぶしのカスタム色を追加するには、`--sds-c-icon-color-foreground` または `--sds-c-icon-color-foreground-default` CSS カスタムプロパティを使用します。

lightning-input

次の属性が新規追加されました。

- `selection-start` — 入力要素で選択する最初の文字のインデックスを指定します。この属性は、テキスト型でのみサポートされています。プログラムで文字列を選択するには、`selection-end` を使用します。
- `selection-end` — 入力要素で選択する最後の文字のインデックスを指定します。この属性は、テキスト型でのみサポートされています。プログラムで文字列を選択するには、`selection-start` を使用します。

次の属性が変更されました。

- `label` — 補助デバイスのカスタム表示ラベルの非表示をサポートします。`label` 属性と `variant="label-hidden"` 属性を指定し、`aria-labelledby` を使用して表示ラベルを参照します。このコンポーネントは、HTML `<label>` 要素を表示しません。

lightning-input-rich-text

リンクを挿入すると、ポップアップの[リンクURL]項目は最初は空白です。以前は、この項目は `https://` プロトコルが事前に入力されていました。リンクにプロトコルを含める必要があります。

次の属性が新規追加されました。

- `required` — テキストエディタをユーザ入力必須としてマークします。入力が必須であることを示すためにアスタリスクを表示するには、`label-visible` も指定します。アスタリスクの後にデフォルトの表示ラベルが表示されます。このコンポーネントは必須入力について検証しないため、独自の検証ロジックを結び付けます。

lightning-map

次の属性が新規追加されました。

- `options` — 地図のコントロールを有効または無効にするために設定できるBooleanプロパティを指定します。
  - `draggable` は、ドラッグして地図をパンできるようにします。デフォルトはtrueです。
  - `zoomControl` は、ズームコントロールを有効にします。デフォルトはtrueです。
  - `scrollwheel` は、マウスホイールを使用したズームを有効にします。デフォルトはtrueです。
  - `disableDefaultUI` は、ズームと地図レイヤの選択を無効にします。デフォルトはfalseです。
  - `scrollwheel` は、マウスのダブルクリックを使用したズームを無効にします。デフォルトはfalseです。

`map-markers` 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- `type` — ロケーションをマークするための色付きの形状を定義します。使用可能なShape型は `Circle`、`Rectangle`、`Polygon` です。
- `radius` — `Circle` 型のサイズをメートルで定義します。
- `bounds` — `Rectangle` 型の角を北、南、西、東の座標で定義します。
- `paths` — `Polygon` 型のセグメントを座標のペアで定義します。
- `mapIcon` — マーカーのカスタムSVGアイコンを定義します。
- `path` — `mapIcon` のSVGパスを定義します。
- `scale` — 適切なサイズ変更のための `mapIcon` のスケールを定義します。
- `type` および `mapIcon` のスタイル設定プロパティには、`strokeColor`、`strokeOpacity`、`strokeWeight`、`fillColor`、`fillOpacity` が含まれます。

詳細は、「lightning-map 基本コンポーネントでのマーカーのカスタマイズおよび地図動作の制御」(ページ584)を参照してください。

lightning-tree

`items` 属性の以下のプロパティが変更されています。

- `disabled` — 無効化されたツリー項目は薄いテキストで表示されるようになり、フォーカスできなくなりました。以前は、無効化された項目は通常のテキストで表示され、フォーカスすることができました。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

変更されたモジュール

次のモジュールが変更されました。

`lightning/navigation`

次の pageReference 型が新規追加されました。

- `standard__managedContentPage` — コンポーネントで pageReference を使用して、エクスペリエンスビルダーサイトの特定の CMS コンテンツページに移動できるようにします。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

次の基本コンポーネントが正式リリースされました。

- lightning:formattedDateTime
- lightning:formattedNumber
- lightning:relativeDateTime

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning:datatable

通貨およびパーセントデータ型の次の `typeAttribute` プロパティが新規追加されました。

- `step` — `0.001` などの正の浮動小数点の数値として指定されるインライン編集時の値の粒度。粒度が重要でない場合は、`any` を使用します。この値のデフォルトは `0.01` です。

lightning:formattedPhone

次の属性が新規追加されました。

- `disabled` — リンクではなくプレーンテキストとして電話番号を表示します。この番号は、クリックしたり、フォーカスしたりできません。

lightning:formattedUrl

次の属性が変更されました。

- `target` — Salesforce モバイルアプリケーションで、`_blank` 目標値が `_self` 目標と同じように動作するようになり、可能な場合は Web ブラウザではなくアプリケーション内でリンクが開くようになりました。

lightning:icon

`iconName` 属性で渡す SLDS アイコンがコンポーネントで遅延読み込みされるようになり、このコンポーネントの全体的なパフォーマンスが向上しています。コンポーネントの生成されるマークアップは変更される場合があるため、カスタムスタイル設定および機能フックへの使用は避ける必要があります。初期表示中にアイコンのマークアップを照会する場合、この読み込みの遅延がコードに影響する可能性があります。

lightning:input

次の属性が新規追加されました。

- `selectionStart` — 入力要素で選択する最初の文字のインデックスを指定します。この属性は、テキスト型でのみサポートされています。`selectionEnd` と共に使用して、プログラムで文字列を選択します。
- `selectionEnd` — 入力要素で選択する最後の文字のインデックスを指定します。この属性は、テキスト型でのみサポートされています。`selectionStart` と共に使用して、プログラムで文字列を選択します。

次の属性が変更されました。

- `label` — 補助デバイスのカスタム表示ラベルの非表示をサポートします。`label` 属性と `variant="label-hidden"` 属性を指定し、`aria-Labelledby` を使用して表示ラベルを参照します。このコンポーネントは、HTML `<label>` 要素を表示しません。

lightning:inputRichText

次の属性が新規追加されました。

- `required` — テキストエディタをユーザ入力必須としてマークします。入力が必須であることを示すアスタリスクを表示するには、`labelVisible="true"` も設定します。アスタリスクの後にデフォルトの表示ラベルが表示されます。このコンポーネントは必須入力について検証しないため、独自の検証ロジックを結び付けます。

lightning:map

次の属性が新規追加されました。

- `options` — 地図のコントロールを有効または無効にするために設定できる Boolean プロパティを指定します。
  - `draggable` は、ドラッグして地図をパンできるようにします。デフォルトは true です。
  - `zoomControl` は、ズームコントロールを有効にします。デフォルトは true です。
  - `scrollwheel` は、マウスホイールを使用したズームを有効にします。デフォルトは true です。
  - `disableDefaultUI` は、ズームと地図レイヤの選択を無効にします。デフォルトは false です。
  - `scrollwheel` は、マウスのダブルクリックを使用したズームを無効にします。デフォルトは false です。

`mapMarkers` 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- `type` — ロケーションをマークするための色付きの形状を定義します。使用可能な Shape 型は `Circle`、`Rectangle`、`Polygon` です。
- `radius` — `Circle` 型のサイズをメートルで定義します。
- `bounds` — `Rectangle` 型の角を北、南、西、東の座標で定義します。
- `paths` — `Polygon` 型のセグメントを座標のペアで定義します。

- `mapIcon` — マーカーのカスタム SVG アイコンを定義します。
- `path` — `mapIcon` の SVG パスを定義します。
- `scale` — 適切なサイズ変更のための `mapIcon` のスケールを定義します。
- `type` および `mapIcon` のスタイル設定プロパティには、`strokeColor`、`strokeOpacity`、`strokeWeight`、`fillColor`、`fillOpacity` が含まれます。

詳細は、「lightning-map 基本コンポーネントでのマーカーのカスタマイズおよび地図動作の制御」(ページ 584)を参照してください。

lightning:navigation

次の pageReference 型が新規追加されました。

- `standard__managedContentPage` — コンポーネントで pageReference を使用して、エクスペリエンスビルダーサイトの特定の CMS コンテンツページに移動できるようにします。

lightning:textarea

次の属性が新規追加されました。

- `autocomplete` — Textarea 項目は、今後のブラウザのサポートに基づいて自動入力できます。属性の値はブラウザに渡されます。

lightning:tree

`items` 属性の以下のプロパティが変更されています。

- `disabled` — 無効化されたツリー項目は薄いテキストで表示されるようになり、フォーカスできなくなりました。以前は、無効化された項目は通常のテキストで表示され、フォーカスすることができました。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

詳細は、『Apex 開発者ガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

Database 名前空間

Database 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

Schema 名前空間

Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

Sfdc_Checkout 名前空間

Sfdc_Checkout 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

System 名前空間

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

関連トピック:

Apex: 新機能

Database 名前空間

Database 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

リードを法人取引先と個人取引先に同時に変換する

ConvertLead クラスの新しい `getRelatedPersonAccountId()`、`setRelatedPersonAccountId(relatedPersonAccountId)`、`getRelatedPersonAccountRecord()`、および `setRelatedPersonAccountRecord(Entity relatedPersonAccountRecord)` Apex メソッドを使用して、リードを新規または既存の個人取引先レコードに変換します。

> メモ: 関連する個人取引先を設定するには、`setRelatedPersonAccountId()` を使用して既存の ID を指定するか、`setRelatedPersonAccountRecord()` を使用して新しいレコードを指定します。ただし、両方は指定しないでください。個人取引先は、法人取引先のレコードホームページの [関連取引先責任者] リストに表示されます。

リードを法人取引先と個人取引先に変換するときに新規または既存の個人取引先レコードを指定する

新しい `relatedPersonAccountId` および `relatedPersonAccountRecord` プロパティを使用すると、既存のレコード ID または新しいエンティティレコードを示すことができます。

リードの取引開始 (変換) 後に結果の個人取引先 ID を取得する

LeadConvertResult クラスの `getRelatedPersonAccountId()` メソッドを使用して、新規または既存の関連する個人取引先の ID を返します。

Schema 名前空間

Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

バージョン管理動作の変更: バージョン 51.0 以降、`Schema.DescribeFieldResult` クラスの `getReferenceTo()` メソッドは、コンテキストユーザがアクセスできない参照オブジェクトを返す。

コンテキストユーザが、他のオブジェクトを参照するオブジェクトの項目にアクセスできる場合、`DescribeFieldResult.getReferenceTo()` メソッドは、コンテキストユーザが相互参照されるオブジェクトにアクセスできるかどうかに関係なく参照を返します。バージョン 50.0 以前では、コンテキストユーザが相互参照されるオブジェクトにアクセスできない場合、空のリストを返します。

Sfdc_Checkout 名前空間

Sfdc_Checkout名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

新規クラス

B2B Commerce インテグレーションの同期実行をサポートする。

新しい `IntegrationStatus` クラスのプロパティの主な機能を次に示します。`IntegrationStatus.Status` プロパティは、実行中のインテグレーションの状況を示します。

B2B Commerce チェックアウト内のインテグレーションをサポートする。

新しい `IntegrationInfo` クラスのプロパティの主な機能を次に示します。
`IntegrationInfo.IntegrationId` プロパティは、一意のインテグレーション ID を提供します。
`IntegrationInfo.JobId` プロパティは、インテグレーションジョブの一意の ID を提供します。

B2B Commerce チェックアウト内の配送方法をカスタマイズする。

新しい `B2BCheckoutController` クラスのプロパティの主な機能を次に示します。`getDeliveryMethods` メソッドを使用して、チェックアウトと配送情報を関連付けます。

新しい列挙

B2B Commerce インテグレーションの状況をチェックする。

新しい `IntegrationStatus.Status` 列挙を使用します。

新しいインターフェース

Lightning B2B Commerce に非同期インテグレーションを実装する。

新しい `AsyncCartProcessor` インターフェースを使用します。

System 名前空間

System名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

すべてのカスタムメタデータレコードまたはカスタムメタデータ型の 1 つのレコードの sObject が含まれる対応付け取得する。

新しい Apex `getAll()`、`getInstance(recordId)`、`getInstance(qualifiedApiName)`、`getInstance(developerName)` メソッドを使用して、カスタムメタデータ型レコードを取得します。

例:

次の例では、`m00000000000001` としてレコード ID が指定された `Games_mdt` という名前のカスタムメタデータ型の 1 つのレコードの sObject を返します。

```
Games__mdt mc = Games__mdt.getInstance('m00000000000001');
```

18 文字の ID 値を 15 文字の大文字と小文字を区別する文字列に変換する。

`System.Id` クラスの `to15()` メソッドを使用します。このメソッドは、18 文字の ID 値で大文字と小文字の区別のチェックサムを使用して、崩れてしまった大文字/小文字を修正し、15 文字の大文字と小文字を区別する文字列を返します。

例:

```
String Id_15_char = '0D5B000001DVM9t';
String Id_18_char = '0D5B000001DVM9tkAh';
ID testId = Id_18_char;
System.assertEquals(testId.to15(),Id_15_char);
```

バージョン管理動作の変更: バージョン 51.0 以降、`System.String` クラスの `format()` メソッドは、`stringToFormat` パラメータの単一引用符をサポートする。

`String.format()` メソッドは、`stringToFormat` パラメータの単一引用符をサポートし、`formattingArguments` パラメータを使用して書式設定された文字列を返します。バージョン 50.0 以前では、単一引用符はサポートされていませんでした。

バージョン管理動作の変更: バージョン 51.0 以降、`System.System` クラスの `hashCode()` メソッドは、同じ ID 値で同じ hashCode を返す。

バージョン 50.0 以前では、同じ ID 値でも、異なる hashCode 値が生成されることがありました。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。Lightning の B2B Commerce の注文とウィッシュリストで、より多くの操作を実行できるようになりました。ゲストユーザは、Lightning の B2B Commerce の一部のメソッドを使用できます。コンテンツキーを使用して CMS 管理コンテンツを取得します。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Connect REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は *Connect in Apex* と呼ばれます。

このセクションの内容:

新規および変更された Connect in Apex クラス
次のクラスが新規追加または変更されました。

新規 Connect in Apex 入力クラス
次の入力クラスが新規追加されました。

新規および変更された Connect in Apex 出力クラス
次の出力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

関連トピック:

Connect REST API

Apex 開発者ガイド: ConnectApi 名前空間

Connect REST API 開発者ガイド

新規および変更された Connect in Apex クラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceBuyerExperience` クラスに含まれます。

注文配送グループ概要を取得する

- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, pageSize)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, pageParam)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, fields)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, pageParam, fields)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, fields, pageSize)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, fields, sortParam)`
- `getOrderDeliveryGroupSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, fields, pageSize, sortParam)`

注文品目概要を取得する

- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, pageSize)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, pageSize)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, pageParam)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, fields)`

- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, fields, pageSize)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, fields, pageParam)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, fields, sortParam)`
- `getOrderItemSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, orderSummaryId, orderDeliveryGroupSummaryId, fields, pageSize, sortParam)`

注文概要を取得する

- `getOrderSummaries(webstoreId)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, fields)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken, sortOrder)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken, sortOrder, earliestDate, latestDate)`
- `getOrderSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, fields, pageSize, pageToken, sortOrder, earliestDate, latestDate, ownerScoped)`

新しく追加または変更されたこれらのメソッドは、`ConnectApi.CommerceCatalog` クラスに含まれます。

バリエーションと属性の情報を含めて商品を取得する

- `getProduct(webstoreId, productId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia, excludeEntitlementDetails, excludePrimaryProductCategory, excludeVariationInfo, excludeAttributeSetInfo)`

ゲストユーザは、次のメソッドを使用できるようになりました。

- `getProduct(webstoreId, productId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia, excludeEntitlementDetails, excludePrimaryProductCategory)`
- `getProductCategory(webstoreId, productCategoryId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia)`
- `getProductCategoryPath(webstoreId, productCategoryId)`

これらのメソッドは、`ConnectApi.CommerceStorePricing` クラスに含まれます。

ゲストユーザは、次のメソッドを使用できるようになりました。

- `getProductPrice(webstoreId, productId, effectiveAccountId)`
- `getProductPrices(webstoreId, effectiveAccountId, pricingInput)`

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.CommerceWishlist` クラスに含まれます。

メモ: **価値のある新しいクエリパラメータを追加し、ウィッシュリスト取得メソッドの数を減らすため、Salesforce は前述のすべてのウィッシュリスト取得メソッドをこれらの新しいメソッドに置き換えています。唯一の例外として、バージョン 49.0 で導入された `getWishlistSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, includeDisplayedList)` メソッドがあります。このメソッドは引き続き使用できます。**

商品項目を含み、品目で並び替えられ、指定された数のページあたりの項目を含むウィッシュリストを取得する

- `getWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, productFields, sortItemsBy)`
- `getWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, productFields, pageSize, sortItemsBy)`

商品項目を含み、指定された数のページあたりの項目を含む並び替えられたウィッシュリスト品目を取得する

- `getWishlistItems(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, productFields, pageParam, sortItemsBy)`
- `getWishlistItems(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, productFields, pageParam, pageSize, sortItemsBy)`

商品項目を含み、品目で並び替えられ、指定された数のページあたりの項目を含むウィッシュリスト概要を取得する

- `getWishlistSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, includeDisplayedList, productFields, sortItemsBy)`
- `getWishlistSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, includeDisplayedList, productFields, pageSize, sortItemsBy)`

ウィッシュリストの削除

- `deleteWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId)`

CMS 管理コンテンツ

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.ManagedContent` クラスに含まれます。

コンテンツキーを使用してチャネルの公開された管理コンテンツバージョンを取得する

- `getContentByContentKeys(channelId, contentKeys, pageParam, pageSize, language, managedContentType, includeMetadata, startDate, endDate, showAbsoluteUrl)`

コンテンツキーを使用してコミュニティの公開された管理コンテンツバージョンを取得する

- `getManagedContentByContentKeys(communityId, contentKeys, pageParam, pageSize, language, managedContentType, showAbsoluteUrl)`

コンテンツキーとコンテンツトピック名を使用して、コミュニティの公開された管理コンテンツバージョンを取得する

- `getManagedContentByTopicsAndContentKeys(communityId, contentKeys, topics, pageParam, pageSize, language, managedContentType, showAbsoluteUrl)`

支払

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.Payments` クラスに含まれます。

支払承認を取り消す

`reverseAuthorization(AuthReversalInput, authorizationId)`

支払の承認

`authorize(authorizePayment)`

従業員プロファイル

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.EmployeeProfiles` クラスに含まれます。

従業員のバナー写真または写真を取得する

- `getBannerPhoto(employeeId)`
- `getPhoto(employeeId)`

従業員のバナー写真または写真を設定およびトリミングする

- `setBannerPhoto(employeeId, fileId, versionNumber)`
- `setBannerPhoto(employeeId, fileUpload)`
- `setBannerPhotoWithAttributes(employeeId, bannerPhoto)`
- `setBannerPhotoWithAttributes(employeeId, bannerPhoto, fileUpload)`
- `setPhoto(employeeId, fileId, versionNumber)`
- `setPhoto(employeeId, fileUpload)`
- `setPhotoWithAttributes(employeeId, photo)`
- `setPhotoWithAttributes(employeeId, photo, fileUpload)`

従業員のバナー写真または写真を削除する

- `deleteBannerPhoto(employeeId)`
- `deletePhoto(employeeId)`

フィールドサービス

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.FieldService` クラスに含まれます。

パターンからシフトをプレビューおよび作成する

- `previewShiftsFromPattern(shiftsFromPatternInput, shiftPatternId)`
- `createShiftsFromPattern(shiftsFromPatternInput, shiftPatternId)`

パーソナライズ

この新しいメソッドは、`ConnectApi.Personalization` クラスに含まれます。

ユーザコンテキストに一致し、項目ベースの条件がある割り当て済み利用者を取得する

- `getAudiences(communityId, ipAddress, domain, userId, publishStatus, includeAudienceCriteria, targetTypes, recordId)`

注文管理

この新しいメソッドは、`ConnectApi.FulfillmentOrder` クラスに含まれます。

1 つの要求で複数の FulfillmentOrders を作成します。

- `createMultipleFulfillmentOrder(multipleFulfillmentOrderInput)`

これらのメソッドは、新しい `ConnectApi.Routing` クラスに含まれます。

指定された配送分割制限内で注文を履行できる在庫ロケーションの組み合わせを見つけます。

- `findRoutesWithFewestSplits(findRoutesWithFewestSplitsInputRepresentation)`

注文を履行できるさまざまなロケーションセットの平均配送距離を比較します。

- `rankAverageDistance(rankAverageDistanceInputRepresentation)`

オムニチャネル在庫

これらのメソッドは、新しい `ConnectApi.OmnichannelInventoryService` クラスに含まれます。

オムニチャネル在庫で在庫予約を作成します。

- `createReservation(createReservationInputRepresentation)`

1 つ以上の在庫予約を履行します。

- `fulfillReservation(fulfillReservationInputRepresentation)`

1 つ以上の在庫ロケーションまたはロケーショングループの 1 つ以上の商品の在庫状況データを取得します。

- `getInventoryAvailability(inventoryAvailabilityInputRepresentation)`

在庫状況アップロードジョブの状況を取得します。

- `getInventoryAvailabilityUploadStatus(uploadId)`

ロケーション構造の公開ジョブの状況を取得します。

- `getPublishLocationStructureStatus(uploadId)`

在庫ロケーションとロケーショングループに関する情報をオムニチャネル在庫に非同期に公開します。

- `publishLocationStructure()`

1 つ以上の既存の在庫予約をリリースしてその在庫を解放します。

- `releaseReservation(releaseReservationInputRepresentation)`

在庫状況データファイルをオムニチャネル在庫にアップロードします。

- `submitInventoryAvailabilityUpload(fileUpload)`

ロケーションまたはロケーショングループ間で 1 つ以上の在庫予約を移行します。

- `transferReservation(transferReservationInputRepresentation)`

新規 Connect in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加されました。

フィールドサービス

`ConnectApi.ShiftsFromPatternInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `schedulingEndDate` — YYYY-MM-DD 形式のスケジュールの終了日。
- `schedulingOccurrences`—スケジュールの回数。
- `schedulingStartDate` — YYYY-MM-DD 形式のスケジュールの開始日。
- `serviceResourceId` — シフトを割り当てるサービスリソースの ID。
- `serviceTerritoryId` — シフトを割り当てるサービステリトリーの ID。

支払

ConnectApi.AddressRequest
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- city — 支払方法の市区郡。
- companyName — 支払方法の会社名。
- country — 支払方法の国。
- postalCode — 支払方法の郵便番号。
- state — 支払方法の都道府県。
- street — 支払方法の番地。

ConnectApi.AuthApiPaymentMethodRequest
この新しい入力クラスは ConnectApi.BaseApiPaymentMethodRequest のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- cardPaymentMethod — カード支払方法の情報。

ConnectApi.AuthorizationReversalRequest
この新しい入力クラスは ConnectApi.BaseRequest のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- accountID — 支払承認取消のアカウント。支払承認のアカウントに一致する必要があります。
- amount — 支払承認に適用される調整の金額。
- comments — ユーザがレコードの詳細に関するコメントを追記できます。最大 1,000 文字です。
- effectiveDate — 承認で調整が有効になる日付。

ConnectApi.AuthorizationRequest
この新しい入力クラスは ConnectApi.BaseRequest のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- accountId — 承認されている支払トランザクションが含まれる Salesforce アカウント。
- amount — 承認金額。
- comments — 支払承認の省略可能なコメント。
- currencyIsoCode — 支払グループレコードに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- effectiveDate — 承認がトランザクションに適用される日付。
- paymentGatewayId — 承認を処理する支払ゲートウェイ。
- paymentGroup — 承認の支払グループ。ペイロードは、paymentGroup と paymentGroupId の両方ではなく、いずれかを参照する必要があります。
- paymentMethod — 承認トランザクションの支払ゲートウェイで使用される支払方法。

ConenctApi.BaseApiPaymentMethodRequest
この新しい抽象入力クラスは ConnectApi.AuthApiPaymentMethodRequest のスーパークラスで、次のプロパティがあります。

- address — 支払方法の住所。
- id — 支払方法のレコード ID。支払トランザクションで使用します。
- saveForFuture — 今後の使用のために Salesforce で支払方法を保存するかどうかを示します。

ConnectApi.BasePaymentMethodRequest
この新しい抽象入力クラスは ConnectApi.CardPaymentMethodRequest のスーパークラスで、追加のプロパティはありません。

ConnectApi.CardPaymentMethodRequest
この新しい入力クラスは ConnectApi.BasePaymentMethodRequest のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- accountId — この支払方法がリンクされている Salesforce アカウント。
- cardCategory — カード処理種別。
- cardHolderFirstName — カード所有者の名。
- cardHolderLastName — カード所有者の姓。
- cardHolderName — カード所有者の氏名。
- cardNumber — カード番号。
- cardType— カードネットワーク種別。
- comments — カード支払方法の省略可能なコメント。
- cvv — CVV。
- email — メール。
- expiryMonth — カードの有効期限 (月)。
- expiryYear — カードの有効期限 (年)。
- nickName — カードの省略可能なニックネーム。
- startMonth — カードの開始月。
- startYear — カードの開始年。

ConnectApi.BaseRequest
この新しい抽象入力クラスは ConnectApi.AuditParamsRequest のサブクラスで、ConnectApi.AuthorizationRequest、ConnectApi.CaptureRequest、ConnectApi.RefundRequest のスーパークラスであり、次の追加プロパティがあります。

- additionalData — 支払ゲートウェイに送信する追加のパラメータの省略可能なマップ。
- idempotencyKey — 冪等キー。

注文管理

ConnectApi.FindRoutesWithFewestSplitsInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- locationAvailableInventory — 各リスト要素は、在庫ロケーションの利用可能な商品の数量を表します。
- maximumNumberOfSplits — 配送分割の最大許容可能数。この数を超える分割を伴う転送オプションは返されません。
- orderedQuantities — 各リスト要素は、履行のために転送される商品の数量を表します。

ConnectApi.LocationInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- countryCode — ロケーションの国コード。
- locationIdentifier — ロケーションの識別子。
- postalCode — ロケーションの郵便番号。

ConnectApi.LocationAvailabilityInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- externalReferenceId — 在庫ロケーションの外部参照 ID。
- quantity — 商品の利用可能な数量。
- stockKeepingUnit — 商品の在庫保管単位。

ConnectApi.MultipleFulfillmentOrderInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- fulfillmentOrders — 各要素には、1 件の履行注文を作成するためのデータが含まれます。

ConnectApi.QuantityWithSkuInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- quantity — 商品の数量。
- stockKeepingUnit — 商品の SKU。

ConnectApi.RankAverageDistanceInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- deliveryCountryCode — 注文受信者の国コード。
- deliveryPostalCode — 注文受信者の郵便番号。
- distanceUnit — *mi* または *km* を指定して、それぞれマイル単位またはキロメートル単位の平均距離を返します。
- sortResult — *ASC* または *DESC* を指定して、それぞれ昇順または降順の平均配送距離で結果をランク付けします。
- targetLocations — 各要素は、注文を履行するために組み合わせることができる在庫ロケーションのセットです。

ConnectApi.TargetLocationInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- locations — 国または郵便番号に関する情報があるロケーションのリスト。

オムニチャネル在庫

ConnectApi.OCICreateReservationInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- allowPartialReservations — true にすると、予約全体を作成できない場合に、部分的な予約が作成されます。
- createRecords — 商品の数量およびロケーションまたはロケーショングループのリスト。

- `expirationSeconds` — 秒単位の期間。予約が `reservationTime` の後にこの時間以内に履行されなかった場合、期限切れになります。
- `externalRefId` — 外部参照 ID。
- `reservationTime` — 予約を記録する時間。例: 2020-07-24T21:13:00Z

`ConnectApi.OCICreateReservationSingleInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `locationGroupIdentifier` — 在庫を予約するロケーショングループの識別子。
- `locationIdentifier` — 在庫を予約するロケーションの識別子。
- `quantity` — 予約する商品の数量。
- `stockKeepingUnit` — 予約する商品の SKU。

`ConnectApi.OCIFulfillReservationInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentRecords` — 在庫予約のリスト。

`ConnectApi.OCIFulfillReservationSingleInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `actionRequestId` — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- `externalRefId` — 予約を履行するロケーションの外部参照 ID。
- `locationIdentifier` — 予約を履行するロケーションの識別子。
- `quantity` — 履行される数量。
- `stockKeepingUnit` — 履行される商品の SKU。

`ConnectApi.OCIGetInventoryAvailabilityInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `locationGroupIdentifier` — 在庫状況データを取得するロケーショングループの識別子。この値を指定すると、このグループに属すすべてのロケーションの在庫データが取得されます。
- `locationGroupIdentifiers` — 在庫状況データを取得するロケーショングループの最大 100 個の識別子のリスト。
- `locationIdentifiers` — 在庫状況データを取得するロケーションの最大 100 個の識別子のリスト。
- `stockKeepingUnit` — 在庫状況データを取得する商品の SKU。ロケーションまたはロケーショングループのない SKU を指定すると、ロケーショングループに割り当てられていないすべての在庫ロケーションでその SKU の在庫データが返されます。
- `stockKeepingUnits` — 在庫状況データを取得する商品の最大 100 個の SKU のリスト。
- `useCache` — キャッシュから在庫データを取得するかどうか。デフォルト値は true です。

`ConnectApi.OCIReleaseReservationInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `releaseRecords` — リリースする在庫予約のリスト。

`ConnectApi.OCIReleaseReservationSingleInputRepresentation`
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- externalRefId — 予約があるロケーションまたはロケーショングループの外部参照 ID。
- locationGroupIdentifier — 予約があるロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 予約があるロケーションの識別子。
- quantity — リリースする予約済み在庫の数量。
- stockKeepingUnit — リリースする商品の SKU。

ConnectApi.OCITransferReservationInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- allOrNothingTransferId — 1 つの移行要求の失敗によりコール内の他のすべての要求をキャンセルするかどうかを制御します。
- transferRecords — 在庫予約移行のリスト。

ConnectApi.OCITransferReservationSingleInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- externalRefId — 移行を受信するロケーションの外部参照 ID。
- fromLocationGroupIdentifier — 予約を送信するロケーショングループの識別子。
- fromLocationIdentifier — 予約を送信するロケーションの識別子。
- quantity — 移行される在庫の数量。
- stockKeepingUnit — 移行される商品の SKU。
- toLocationGroupIdentifier — 予約を受信するロケーショングループの識別子。
- toLocationIdentifier — 予約を受信するロケーションの識別子。

新規および変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

ConnectApi.CartProductAttribute (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- label — 属性の表示ラベルまたは表示名。
- sequence — 属性セット内の属性の順序。
- value — 属性の表示値。

ConnectApi.CartProductSummary
この出力クラスには、次の正式リリースされたプロパティがあります。

- variationAttributes — 商品に関連付けられているバリエーション属性。

ConnectApi.OrderDeliveryGroupSummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- fields — 注文配送グループ概要と照会された他の関連オブジェクトの項目の対応付け。

ConnectApi.OrderDeliveryGroupSummaryCollection
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currentPageToken — 注文配送グループ概要の現在のページのトークン。
- currentPageUrl — 注文配送グループ概要の現在のページの URL。
- nextPageToken — 注文配送グループ概要の次のページのトークン。
- nextPageUrl — 注文配送グループ概要の次のページの URL。
- orderDeliveryGroups — 注文配送グループ概要のコレクション。
- previousPageToken — 注文配送グループ概要の前のページのトークン。
- previousPageUrl — 注文配送グループ概要の前のページの URL。

ConnectApi.OrderItemSummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- fields — 注文品目概要と照会された他の関連オブジェクトの項目の対応付け。
- orderItemSummaryId — 注文品目概要の ID。
- orderSummaryId — 注文概要の ID。
- product — 関連付けられた商品品目情報。

ConnectApi.OrderItemSummaryCollection
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currentPageToken — 品目の現在のページのトークン。
- currentPageUrl — 品目の現在のページの URL。
- items — 注文品目概要のコレクション。
- nextPageToken — 品目の次のページのトークン。
- nextPageUrl — 品目の次のページの URL。
- previousPageToken — 品目の前のページのトークン。
- previousPageUrl — 品目の前のページの URL。

ConnectApi.OrderItemSummaryProduct
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- canViewProduct — コンテキストユーザが商品を表示できるか (true)、否か (false) を示します。
- errorCode — エラーのある商品のエラーコード。
- errorMessage — エラーのある商品のエラーメッセージ。
- fields — 照会された商品項目の対応付け。
- media — 関連付けられた商品メディア。
- productAttributes — 商品属性の概要。
- productId — 商品の ID。

ConnectApi.OrderSummaryRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- createdDate — 注文概要の作成日。

- `fields` — 要求された注文概要項目の対応付け。
- `orderNumber` — 注文概要の注文番号。
- `orderSummaryId` — 注文概要の ID。
- `orderedDate` — 注文概要の注文日。
- `ownerId` — 注文概要の所有者の ID。
- `status` — 注文概要の状況。
- `totalAmount` — 注文概要の総額。

`ConnectApi.OrderSummaryCollectionRepresentation`
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `count` — 現在のページで返される注文概要の合計数。
- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- `nextPageToken` — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は `null`。
- `nextPageUrl` — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は `null`。
- `orderSummaries` — 注文概要のコレクション。
- `previousPageToken` — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は `null`。
- `previousPageUrl` — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は `null`。
- `sortOrder` — 注文概要の並び替え順。値は次のとおりです。
  - `CreatedDateAsc` — 最も古い作成日で並び替えます。
  - `CreatedDateDesc` — 最も新しい作成日で並び替えます。
  - `OrderedDateAsc` — 最も古い注文日で並び替えます。
  - `OrderedDateDesc` — 最も新しい注文日で並び替えます。

`ConnectApi.ProductAttributeInfo` (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `allowableValues` — 属性に使用可能な値。
- `apiName` — 属性の API 参照名。
- `availableValues` — 商品に使用可能な属性値。
- `fieldEnumOrId` — カスタム項目の項目 ID または標準項目の列挙値。
- `label` — 属性の表示ラベル。
- `objectName` — 項目を含むオブジェクトの名前。
- `sequence` — 属性セット内の属性の順序。

`ConnectApi.ProductAttributeSelectionInfo` (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `apiName` — 属性の API 参照名。
- `label` — 属性の表示ラベル。
- `sequence` — 属性セット内の属性の順序。

- value — 属性の表示値。

ConnectApi.ProductAttributeSet (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- attributes — 属性セットのメンバーである属性のマップ。
- developerName — 属性セットの名前。
- id — 商品属性セットを表す商品属性レコードの ID。

ConnectApi.ProductAttributeSetInfo (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- attributeInfo — 属性メタデータに対する属性項目の API 参照名のマップ。
- description — 属性セットの説明。
- developerName — 属性セットの API 参照名。
- id — 属性セットの ID。
- masterLabel — 属性セットのマスタ表示ラベル。
- sequence — 商品の属性セットの順序。

ConnectApi.ProductAttributeSetSummary (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- apiName — 属性セットの API 参照名。
- attributes — 属性セット内の属性のリスト。
- label — 属性セットの表示ラベル。

ConnectApi.ProductAttributeSummary (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- apiName — 属性の API 参照名。
- label — 属性の表示ラベル。
- sequence — 属性セット内の属性の順序。
- value — 属性の表示値。

ConnectApi.ProductAttributesToProductEntry (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- canonicalKey — 属性セット内の属性の連番に基づき、アンダースコア (_) を使用して連結された属性 API 値。
- productId — 属性を選択するためのバリエーション商品 ID。
- selectedAttributes — 商品 ID に対応付けるキーを形成するために使用できる属性値とメタデータの順序付きリスト。

ConnectApi.ProductDetail
この出力クラスには、次の正式リリースされたプロパティがあります。

- attributeSetInfo — メタデータに対する属性セット API 参照名の対応付け。
- productClass — 商品のクラス。値は次のとおりです。
  - Simple

  - Variation
  - VariationParent
- variationAttributeSet — 商品のバリエーション属性セット。
- variationInfo — バリエーション属性に使用可能な値、および属性値の組み合わせからバリエーション商品 ID を解決するための対応付け。
- variationParentId — バリエーションの親の ID。

ConnectApi.ProductVariationInfo (正式リリース)
この出力クラスには、次のプロパティがあります。

- attributesToProductMappings — バリエーション商品 ID に対する属性値の組み合わせの対応付け。
- variationAttributeInfo — 商品属性情報に対する項目 API 参照名の対応付け。

Chatter

ConnectApi.CallCollaborationCapability
この新しい出力クラスは ConnectApi.FeedElementCapability のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- commentEndTime — メディアプレーヤーのコメントの終了時刻 (秒)。
- commentStartTime — メディアプレーヤーのコメントの開始時刻 (秒)。

ConnectApi.FeedElementCapabilities
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- callCollaboration — フィード要素にこの機能がある場合、録音コメントがあります。

CMS 管理コンテンツ

ConnectApi.ManagedContentMediaNodeValue
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- contentKey — 管理コンテンツのコンテンツキー。

ConnectApi.ManagedContentVersion
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- contentKey — 管理コンテンツのコンテンツキー。

フィールドサービス

ConnectApi.ShiftsFromPattern
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- count — 作成されたシフトの合計数。
- recordIds — 作成されたシフト ID のコレクション。

支払

ConnectApi.AbstractGatewayResponse
この新しい出力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- gatewayReferenceDetails — ゲートウェイ通信に関する情報を提供します。
- gatewayReferenceNumber — 支払ゲートウェイにより作成された一意のトランザクション ID。

ConnectApi.PaymentAuthAdjustmentResponse
この新しい出力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- accountId — 調整される支払承認が含まれるアカウントの ID。
- amount — 支払承認調整の金額。
- currencyIsoCode — 支払承認調整に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- effectiveDate — 承認調整が有効になる日付。
- id — PaymentAuthAdjustment レコードの ID。
- paymentAuthAdjustmentNumber — システム定義の参照番号。
- requestDate — 承認調整トランザクションの発生日付。
- status — 支払承認調整の状況。

ConnectApi.AuthReversalGatewayResponse
この新しい出力クラスは ConnectApi.AbstractGatewayResponse のサブクラスで、追加プロパティはありません。

ConnectApi.AuthorizationReversalResponse
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- error — 承認取消のエラー応答の表現。
- gatewayResponse — 承認取消のゲートウェイ応答の表現。
- paymentAuthAdjustment — 承認取消の支払承認調整の応答の表現。
- paymentGatewayLogs — 承認取消のゲートウェイログコレクションの表現。

ConnectApi.AuthorizationGatewayResponse
この新しい出力クラスは ConnectApiAbstractGatewayResponse のサブクラスで、次の新しいプロパティがあります。

- gatewayAuthorizationCode — 支払ゲートウェイの認証コード。

ConnectApi.AuthorizationResponse
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- error — 支払承認のエラーの表現。
- gatewayResponse — 支払承認のゲートウェイ応答の表現。
- paymentAuthorization — 支払承認の表現。
- paymentGatewayLogs — 支払承認のゲートウェイログリストの表現。
- paymentGroup — 支払承認の支払グループの表現。
- paymentMethod — 支払承認の支払方法の表現。

ConnectApi.PaymentAuthorizationResponse
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- accountId — 支払承認の Salesforce アカウント。
- amount — ゲートウェイで承認された支払トランザクションの金額。
- currencyIsoCode — 支払グループレコードに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。

- effectiveDate — 承認が有効になる日付。
- expirationDate — 承認が期限切れになる日付。
- id — 支払承認レコードの ID。
- paymentAuthorizationNumber — 支払承認レコードのシステム定義番号。
- requestDate — 承認が発生した日付。
- status — ゲートウェイから返された支払承認の状況。

ConnectApi.PaymentMethodResponse
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- accountId — 支払方法のアカウント。
- id — 支払方法の ID。
- status — 支払方法の状況。

パーソナライズ

ConnectApi.AudienceTargetAssignment
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- formulaScope — 対象の数式範囲。

注文管理

ConnectApi.AvailableLocationOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- locations — 在庫ロケーションのリスト。

ConnectApi.AverageDistanceResultOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- distanceCalculation — 配送距離の計算結果。

ConnectApi.DistanceCalculationOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- averageDistance — ロケーションから注文受信者までの平均距離。
- locations — ロケーションとその注文受信者への距離のリスト。
- rank — 注文受信者への平均距離別のすべての結果間のこの結果のランク。

ConnectApi.FindRoutesWithFewestSplitsOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.BaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- targetLocations — リストの各要素は、転送された注文をまとめて履行できる在庫ロケーションのセットです。

ConnectApi.FulfillmentGroupOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- fulfilledFromLocationId — (作成失敗) 入力の FulfilledFromLocationId。
- fulfillmentOrderId — 正常に作成された FulfillmentOrder の FulfillmentOrderId。

- `fulfillmentType` — (作成失敗) 入力の FulfillmentType。
- `orderDeliveryGroupSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderDeliveryGroupSummaryId。
- `orderItemSummaries` — (作成失敗) OrderItemSummaries の入力リスト。
- `orderSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderSummaryId。
- `referenceId` — FulfillmentGroup 入力表現の referenceId。

`ConnectApi.LocationOutputRepresentation`
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `distance` — ロケーションから注文受信者までの距離。
- `locationIdentifier` — ロケーション識別子。

`ConnectApi.MultipleFulfillmentOrderOutputRepresentation`
この新しい出力クラスは、`ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- `fulfillmentOrders` — 作成された FulfillmentOrders と失敗した FulfillmentOrders の応答データのリスト。

`ConnectApi.OrderItemSummaryOutputRepresentation`
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `errors` — OrderItemSummary に固有のエラーのリスト (ある場合)。
- `orderItemSummaryId` — OrderItemSummary の ID。
- `quantity` — OrderItemSummary の数量。

`ConnectApi.RankAverageDistanceOutputRepresentation`
この新しい出力クラスは、`ConnectApi.BaseOutputRepresentation` のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- `distanceUnit` — 指定された距離単位 (マイルまたはキロメートル)。
- `results` — 配送距離の計算結果。

オムニチャネル在庫

`ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation`
この新しい抽象出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `errors` — 返されたエラー。
- `success` — 要求が成功したかどうかを示します。

`ConnectApi.OCICreateReservationErrorOutputRepresentation`
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `errorCode` — エラーコード。
- `message` — エラーの詳細 (ある場合)。

`ConnectApi.OCICreateReservationOutputRepresentation`
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `details` — 予約内の各商品の詳細。
- `errors` — 予約要求から返されたエラー。
- `expirationTime` — 予約が期限切れになる時間。

- reservationTime — 予約が記録された時間。
- success — 予約が正常に作成されたかどうかを示します。

ConnectApi.OCICreateReservationSingleOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- locationGroupIdentifier — 在庫が予約されたロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 在庫が予約されたロケーションの識別子。
- quantity — 商品の予約数量。
- stockKeepingUnit — 予約された商品の SKU。

ConnectApi.OCIFulfillReservationErrorOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- details — 履行された予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

ConnectApi.OCIFulfillReservationOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errors — 履行要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

ConnectApi.OCIFulfillReservationSingleOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 元の予約履行要求を識別する UUID。
- externalRefId — 予約が履行されたロケーションの外部参照 ID。
- locationIdentifier — 予約が履行されたロケーションの識別子。
- quantity — 履行された数量。
- stockKeepingUnit — 履行された商品の SKU。

ConnectApi.OCIFutureInventoryOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- expectedDate — 将来の在庫が予想される日付。
- quantity — 将来の在庫の数量。

ConnectApi.OCIGetInventoryAvailabilityOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- locationGroups — 個々のロケーショングループの在庫状況データのリスト。
- locations — 個々のロケーションの在庫状況データのリスト。

ConnectApi.OCIInventoryRecordOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- availableToFulfill — 履行可能数量。

- availableToOrder — 注文可能数量。
- effectiveDate — 在庫の発効日。
- futures — 予想される将来の在庫補充のリスト。
- onHand — 在庫数量。
- reserved — 予約数量。
- safetyStockCount — 安全在庫数。
- stockKeepingUnit — 商品の SKU。

ConnectApi.OCILocationAvailabilityOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- inventoryRecords — このロケーションの個々の商品の在庫データのリスト。
- locationIdentifier — ロケーションの識別子。

ConnectApi.OCILocationGroupAvailabilityOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- inventoryRecords — 個々の商品の在庫データのリスト。データは、このロケーショングループに属するすべてのロケーションの数量の合計です。
- locationGroupIdentifier — ロケーショングループの識別子。

ConnectApi.OCIPublishLocationStructureOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- uploadId — 公開ジョブの識別子。この値を使用してジョブの状況を取得します。

ConnectApi.OCIPublishLocationStructureStatusOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- endTimeUTC — ジョブが完了した時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:54:08.012Z」)。
- recordsProcessedCount — ジョブにより処理されたレコード数。
- recordsReadCount — ジョブにより参照されたレコード数。
- recordsSkippedCount — ジョブによりスキップされたレコード数。
- startTimeUTC — ジョブが開始された時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:53:06.788Z」)。
- status — ジョブの状況(例: 「PENDING」、「COMPLETED」など)。
- uploadId — ジョブの識別子。
- validationErrors — ジョブから返された検証エラーのリスト。
- validationStatus — ジョブの検証状況。

ConnectApi.OCIReleaseReservationErrorOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- details — リリースされた予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

ConnectApi.OCIReleaseReservationOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errors — リリース要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

ConnectApi.OCIReleaseReservationSingleOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 元の予約リリース要求を識別する UUID。
- externalRefId — 予約がリリースされたロケーションの外部参照 ID。
- locationGroupIdentifier — 予約がリリースされたロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 予約がリリースされたロケーションの識別子。
- quantity — リリースされた数量。
- stockKeepingUnit — リリースされた商品の SKU。

ConnectApi.OCITransferReservationErrorOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- details — 移行された予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

ConnectApi.OCITransferReservationOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- errors — 移行要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

ConnectApi.OCITransferReservationSingleOutputRepresentation
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 元の予約移行要求を識別する UUID。
- externalRefId — 予約を受信したロケーションの外部参照 ID。
- fromLocationGroupIdentifier — 予約を送信したロケーショングループの識別子。
- fromLocationIdentifier — 予約を送信したロケーションの識別子。
- quantity — 移行された在庫の数量。
- stockKeepingUnit — 移行された商品の SKU。
- toLocationGroupIdentifier — 予約を受信したロケーショングループの識別子。
- toLocationIdentifier — 予約を受信したロケーションの識別子。

ConnectApi.OCIUploadInventoryAvailabilityOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- uploadId — アップロードジョブの識別子。この値を使用してジョブの状況を取得します。

ConnectApi.OCIUploadInventoryAvailabilityStatusOutputRepresentation
この新しい出力クラスは、ConnectApi.OCIBaseOutputRepresentation のサブクラスです。次の追加プロパティがあります。

- `endTimeUTC` — ジョブが完了した時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:54:08.012Z」)。
- `recordsProcessedCount` — ジョブにより処理されたレコード数。
- `recordsReadCount` — ジョブにより参照されたレコード数。
- `recordsSkippedCount` — ジョブによりスキップされたレコード数。
- `startTimeUTC` — ジョブが開始された時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:53:06.788Z」)。
- `status` — ジョブの状況(例: 「PENDING」、「COMPLETED」など)。
- `uploadId` — ジョブの識別子。
- `validationErrors` — ジョブから返された検証エラーのリスト。
- `validationStatus` — ジョブの検証状況。

新規および変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

`ConnectApi.CardCategory`

この新しい Enum には次の値があります。

- `CreditCard` — カードがクレジットカードであることを示します。
- `DebitCard` — カードがデビットカードであることを示します。

`ConnectApi.CardType`

この新しい Enum には次の値があります。

- `AmericanExpress`
- `DinersClub`
- `JCB`
- `Maestro`
- `MasterCard`
- `Visa`

`ConnectApi.FeedElementCapabilityType`

この Enum には次の新しい値があります。

- `CallCollaboration` — このフィード要素には、記録コメントが含まれます。

`ConnectApi.OrderDeliveryGroupSummarySort`

この新しい Enum には次の値があります。

- `IdAsc` — ID が英数字の昇順 (A–Z、0–9) で並び替えられます。
- `IdDesc` — ID が英数字の降順 (Z-A、9-0) で並び替えられます。

`ConnectApi.OrderItemSummarySort`

この新しい Enum には次の値があります。

- `IdAsc` — ID が英数字の昇順 (A–Z、0–9) で並び替えられます。
- `IdDesc` — ID が英数字の降順 (Z-A、9-0) で並び替えられます。

`ConnectApi.OrderSummarySortOrder`

この新しい Enum には次の値があります。

- `CreatedDateAsc` — 最も古い作成日で並び替えます。
- `CreatedDateDesc` — 最も新しい作成日で並び替えます。
- `OrderedDateAsc` — 最も古い注文日で並び替えます。
- `OrderedDateDesc` — 最も新しい注文日で並び替えます。

`ConnectApi.ProductClass` (正式リリース)

この Enum には次の値があります。

- `Simple`
- `Variation`
- `VariationParent`

`ConnectApi.WishlistItemSortOrder`

この新しい Enum には次の値があります。

- `CreatedDateAsc` — 作成日の古い順に並び替えます。
- `CreatedDateDesc` — 作成日の新しい順に並び替えます。

API: 新規および変更された項目

API バージョン 51.0 では、より多くのデータオブジェクトとメタデータ型にアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) で、新しい `FIELDS()` 関数を使用して、クエリステートメント内に定義済みの項目のグルーピングを簡単に含めることができるようになりました。

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたリソースが含まれます。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。B2B Commerce for Lightning の注文、ウィッシュリスト、および正式リリースされている製品バリエーションで、より多くの操作を実行できるようになりました。コンテンツキーを使用して CMS 管理コンテンツを取得します。

Tableau CRM REST API

Tableau CRM REST API を使用して、Analytics の制限に関する情報を取得します。レシピの履歴レコードを取得および復元します。データフロージョブの絞り込みが改善されました。

ユーザインターフェース API

レコードレイアウトの保存オプションを取得します。

Bulk API および Bulk API 2.0

より多くのオブジェクトがカバーされるように拡張され、クエリパフォーマンスが向上しています。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Salesforce CPQ および Salesforce Billing API

Salesforce CPQ および Salesforce Billing API には、Apex、REST、SOAP CPQ および Billing API の新規、変更、廃止された機能が含まれます。

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API では、Lightning コンソールアプリケーションとユーティリティバーをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

Salesforce 全体

アプリケーション内ガイダンスのより多くの位置に画像を追加したり、そこから画像を選択したりする

PromptVersion オブジェクトの新しい `ImageId`、`ImageLocation`、`ImageAltText` 項目を使用します。`DisplayPosition` 項目を使用して、プロンプトのより多くの位置オプションから選択します。Salesforce でプロンプトのページの場所を識別できるように `TargetPageKey1Ref` および `TargetPageKey3` 項目が追加されました。

アプリケーション内ガイダンスを再通知する

エンドユーザは、アプリケーション内ガイダンスを再通知できます。PromptAction オブジェクトで新しい `SnoozeUntil` および `TimesSnoozed` 項目と修正された `LastResult` 項目を使用します。

廃止: **PromptVersion** オブジェクトの **`TargetAppDeveloperName`** および **`TargetAppNamespacePrefix`** 項目を廃止

この項目は API バージョン 51.0 で廃止されます。

Chatter

質問と回答の日時値を保存する

新しい NetworkFeedResponseMetric オブジェクトを使用します。

コマース

CartDeliveryGroup オブジェクトをレイアウトに追加する

CartDeliveryGroup オブジェクト属性 `layoutable` は true に変更されました。

CartTax オブジェクトをページレイアウトに追加する

CartTax オブジェクト属性 `layoutable` は true に変更されました。

ゲストバイヤーがストアを表示できるようにする
新しい GuestBuyerProfile オブジェクトを使用します。

ProductAttribute 選択リスト項目を組織に追加する
新しい `ProductAttribute` オブジェクトを使用します。

商品属性を ProductAttributeSet にグループ化する
新しい `ProductAttributeSet` オブジェクトを使用します。

ProductAttributeSetItem を商品に関連付ける
新しい `ProductAttributeSetItem` オブジェクトを使用します。

SalesStoreCatalog を取得する
SalesStoreCatalog オブジェクトは `retrievable` に変更されました。

ストアのゲストバイヤープロファイルを識別する
既存の WebStore オブジェクトで新しい `GuestBuyerProfileId` 項目を使用します。

ゲストバイヤーがストアで有効になっているかどうかを判別する
既存の WebStore オブジェクトで新しい `OptionsGuestBrowsingEnabled` 項目を使用します。

WishlistItem オブジェクトをレイアウトに追加する
WishlistItem オブジェクト属性 `layoutable` は true に変更されました。

オムニチャネル在庫を使用して在庫のロケーションを管理する
Location オブジェクトで新しい `ShouldSyncWithOci` 項目を使用します。

オムニチャネル在庫のロケーションをグループに整理する
オムニチャネル在庫の新機能で新しい LocationGroup および LocationGroupAssignment オブジェクトを使用します。

オムニチャネル在庫サービスとの外部同期の進行状況および状況情報を追跡する
オムニチャネル在庫の新機能で新しい AsyncOperationLog オブジェクトを使用します。

出荷ごとに注文品目を追跡する
新しい ShipmentItem オブジェクトを使用したり、Shipment オブジェクトで新しい `DeliveryMethodId`、`FulfillmentOrderId`、`OrderSummaryId`、`TotalItemsQuantity` 項目を使用したりします。

取引先や種別を使用せずに履行注文を作成する
FulfillmentOrder オブジェクトの `AccountId`、`Type`、`TypeCategory` 項目を null にできるようになりました。

履行する在庫のロケーションに注文概要を転送する試行をスケジュールおよび記録する
新しい OrderSummaryRoutingSchedule オブジェクトを使用します。

履行する在庫のロケーションに注文概要を転送するために行われた試行回数を追跡する
OrderSummary オブジェクトで新しい `RoutingAttempts` 項目を使用します。

商取引の支払

別の定義済みの支払方法種別 (CardPaymentMethod や DigitalWallet など) で表されない支払方法情報を保存するための支払方法エンティティを作成する
新しい `AlternativePaymentMethod` オブジェクトを使用します。

未決の支払承認に対して行われた変更に関する情報を保存する
新しい `PaymentAuthorizationAdjustment` エンティティを使用します。

動作の変更: `PaymentAuthorization` の TotalAuthReversalAmount の新しい数式

TotalAuthReversalAmount 数式は、支払承認に対するすべての処理済み承認取消の合計になりました。

動作の変更: `PaymentAuthorization` の残高の新しい数式

Balance 数式は、承認金額 – 捕捉された処理済み合計金額 – 処理済み承認取消合計金額になりました。残高は正または負の値になります。

GtwyProvPaymentMethodType を AlternativePaymentMethod に関連付けられることを指定する

`GtwyProvPaymentMethodType` オブジェクトで既存の `PaymentMethodType` 項目の新しい `AlternativePaymentMethod` 値を使用します。

PaymentGatewayLogs で承認取消に関する情報を記録できることを指定する

`PaymentGatewayLog` オブジェクトで既存の `InteractionType` 項目の新しい `AuthorizationReversal` 値を使用します。

カスタマイズ

フローインタビューの状況を取得する

FlowInterview オブジェクトで新しい `InterviewStatus` 項目を使用します。

開発

転送アップグレードに関する監視情報を取得する

PackagePushRequest および PackagePushJob オブジェクトで `DurationSeconds`、`EndTime`、`StartTime` 項目を使用します。これらの項目は API バージョン 51.0 で新規追加されました。

組織の AI アプリケーションに関する情報を取得する

AIApplication、AIApplicationConfig、MLField、および MLPredictionDefinition オブジェクトを使用します。

イベントモニタリング

クライアント要求の地理位置情報を判断する

EventLogFile オブジェクトで Lightning エラー、Lightning インタラクション、Lightning ページビュー、Lightning パフォーマンスの各イベント種別の新しい CLIENT_GEO 項目を使用します。

Commerce インスタンス内の利用状況を監視する

EventLogFile オブジェクトで新しい [1 つのコマース利用状況] イベント種別を使用します。

Experience Cloud

ナレッジ検索結果の項目へのプロファイルアクセスを制御する

Network オブジェクトで新しい `OptionsProfileBasedLayoutsForKnowledgeSearchEnabled` 項目を使用します。

ナレッジ

言語によるナレッジ記事バージョンの照会

API バージョン 47.0 より前は `KnowledgeArticleVersion` オブジェクトと `Knowledge__kav` オブジェクトに対するクエリを絞り込むには `Language` 項目を含める必要があることが『SOAP API 開発者ガイド』に明

記されました。API バージョン 47.0 以降は、`Language` の有無を問わずナレッジ記事バージョンに対するクエリを絞り込むことができます。

Lightning コンポーネント

イベントログファイルで Aura または Lightning Web コンポーネントから Apex メソッドへの要求に関する情報を参照する

`EventLogFile` オブジェクトの Aura 要求イベント種別では、情報を監視して要求時間をベンチマークしたり、失敗した要求の URI を特定したりできます。

モバイル

iOS および Android 用の Salesforce Field Service モバイルアプリケーションでオフラインになったときに表示する特定のユーザのレコードを選択する

新しい BriefcaseDefinition オブジェクトを使用します。

選択したレコードをユーザとユーザグループに割り当てる

新しい BriefcaseAssignment オブジェクトを使用します。

レコードを絞り込むルールを作成する

新しい BriefcaseRule オブジェクトを使用します。

レコードを選択するための検索条件を含める

新しい BriefcaseRuleFilter オブジェクトを使用します。

収益

購入品目数に基づいて階層化された割引を適用する

新しい PriceAdjustmentSchedule オブジェクトを使用します。API バージョン 47.0 で導入されたこのオブジェクトは『*SOAP API 開発者ガイド*』に追加されています。

価格調整スケジュールの割引層を定義する

新しい PriceAdjustmentTier オブジェクトを使用します。API バージョン 47.0 で導入されたこのオブジェクトは『*SOAP API 開発者ガイド*』に追加されています。

段階的価格設定の適用方法を選択する

PriceAdjustmentSchedule オブジェクトで新しい `AdjustmentMethod` 項目を使用して、スラブまたは階層ごとの範囲価格設定を設定します。

価格調整スケジュールに関連付けられている価格表エントリを確認する

PricebookEntryAdjustment オブジェクトを使用します。API バージョン 47.0 で導入されたこのオブジェクトは『*SOAP API 開発者ガイド*』に追加されています。

サービス契約のどの商品にサブスクリプション価格設定があるのかを確認する

ContractLineItem オブジェクトで新しい `SubscriptionPricing` 項目を使用します。

納入商品の収益合計金額を確認する

Asset オブジェクトで新しい `TotalLifecycleAmount` 項目を使用して、納入商品のライフサイクルの各段階の収益を確認します。

セールス

ビデオ通話に関する情報 (参加者や発言内容など) を保存する

新しい VideoCall、VideoCallRecording、VideoCallParticipant オブジェクトを使用します。Einstein 会話インサイトで最も重要な記録を通知できるようにします。

有益な音声通話のグループを作成および共有する

新しい SharingRecordCollection、SharingRecordCollectionItem、SharingRecordCollectionMember オブジェクトを使用して、通話を Einstein 会話インサイトユーザにとって有益なカテゴリに整理します。

共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーを作成および配布する

CalendarView オブジェクトを使用して、ユーザ向けの共有カレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、ユーザリストカレンダーを表示、作成、配布します。以前は、API から作成できるのはオブジェクトカレンダーのみでした。

ユーザが標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトへの参照関係を介して商談商品レコードに関する詳細情報を追跡できるようにする

OpportunityLineItem オブジェクトで、新しい `LastReferencedDate` および `LastViewedDate` 項目を使用します。

注文商品が商品品目なのか請求品目なのかを示す。

`OrderItemType` オブジェクトを使用します。この型は、API バージョン 48.0 で導入され、『SOAP API 開発者ガイド』に追加されました。

注文の共有エンティティを定義する

`OrderShare` オブジェクトを使用します。この型は、API バージョン 48.0 で導入され、『SOAP API 開発者ガイド』に追加されました。

注文の状況を定義する

`OrderStatus` オブジェクトを使用します。この型は、API バージョン 48.0 で導入され、『SOAP API 開発者ガイド』に追加されました。

Salesforce Einstein

返信レコメンデーションで使用された言語を確認する

ReplyText オブジェクトで、新しい `sonicEnabled` 項目を使用します。

インテントトレーニングモデルに追加される顧客の入力を評価する

新しい MlIntentUtteranceSuggestion オブジェクトを使用します。

Salesforce アンケート

アンケートの質問に追加される検証

SurveyQuestion オブジェクトに `ValidationType` 項目が追加されました。

より多くのエンティティ種別を使用できる

SurveySubject オブジェクトの `SubjectEntityType` 項目で選択できる値が増えました。

- LoyaltyProgram
- Promotion
- Asset Campaign
- LoyaltyProgramPartner

- VolunteerProject
- TransactionJournal
- ServiceResource
- RebateProgram

アンケートにメール送信者を追加する
SurveyVersionAddlInfo オブジェクトで `EmailSender` 項目を使用して、組織の共有メールアドレスを定義します。

エンゲージメントコンテキストをアンケートに追加する
SurveyVersionAddlInfo オブジェクトで `EngagementContextMetadata` 項目を使用して、エンゲージメントコンテキストをアンケートに対応付けます。

セキュリティ、プライバシー、ID

認証イベントに関する失敗および成功情報を確認する
新しい IdentityProviderEventStore オブジェクトを使用します。

ID プロバイダが組織にログインするユーザをどのように認証するのかを監視する
既存の LoginHistory オブジェクトで新しい `AuthMethodReference` 項目を使用します。

実行されたデータ主体アクセス要求ポリシーの履歴と完了に関する情報を取得する
Customer 360 Privacy Center の既存の DsarPolicyLog オブジェクトで新しい `CompletionDateTime`、`DataSubjectId`、`DeletedDateTime`、`DownloadedDateTime`、`DsarError`、`RequestDateTime`、`RequestUserId` 項目を使用します。既存の `RequestStatus` 項目で新しい Downloaded および Expired 値を使用することもできます。

サービス

会話エントリでいつイベントが発生したのかについてのより詳しい情報を取得する
ConversationEntry オブジェクトで、新しい項目 `EntryTimeMilliSecs`、`ClientTimestamp`、`ClientDuration`、`ServerReceivedTimestamp` を使用します。

Experience Cloud サイトユーザに表示されなくなる BCC アドレスで受信者のプライバシーを保護する
この更新された動作は、EmailMessage オブジェクトの `BccAddress` および `BccIds` 項目に反映されます。

経費レコードの品目の単価と数量から総コストを計算する
Expense オブジェクトで、新しい `Discount`、`Quantity`、`Subtotal`、`TotalPrice`、`UnitPrice` 項目を使用します。

会話の初期化に使用されるチャネルのレコード ID を照会する
Conversation オブジェクトで新しい `ConversationChannelId` 項目を使用します。

動作の変更: ConversationParticipant オブジェクトの `AppType` を null にできるように変更
`AppType` 項目を null に設定してコンテンツを空にすることができるようになりました。

Voice 設定のテナントベンダーに関するバージョン情報を取得する
VoiceVendorInfo オブジェクトで新しい `TenantConfigVersion` 項目を使用します。

Voice の使用時により多くの通話種別を指定する
VoiceCall オブジェクトで `CallType` 項目の新しい `Callback` 選択リスト値を使用します。また、VoiceCall オブジェクトの `CurrencyCode` 項目に `CNH` 選択リスト値が追加されました。

削除: MessagingChannel オブジェクトの `TargetUserId` 項目を削除
`TargetUserId` 項目は MessagingChannel オブジェクトで使用できなくなりました。

MessagingChannel オブジェクトを検索する
MessagingChannel オブジェクトを検索できるようになりました。

MessagingTemplate オブジェクトを検索する
MessagingTemplate オブジェクトを検索できるようになりました。

動作の変更: MessagingChannel オブジェクトの `ConsentType` 項目が作成時のデフォルトでなくなった
MessagingChannel オブジェクトの `ConsentType` 項目の `defaultedOnCreate` プロパティが false に変更されました。

Field Service シフトのサービス予定検索条件を作成する
新しい RecordsetFilterCriteria および RecordsetFilterCriteriaRule オブジェクトを使用します。

モバイルアプリケーションで Field Service のタイムシートエントリのタイムゾーンを記録する
FieldServiceMobileSettings オブジェクトで新しい `IsTimeZoneEnabled` 項目を使用します。

モバイルアプリケーションで Field Service の作業指示およびサービス予定の状況を変更する
FieldServiceMobileSettings オブジェクトで新しい `QuickStatusChangeFlowName` 項目を使用します。

信頼できる外部ドメインでの組み込みサービスのフレーム化を許可する
IframeWhiteListUrl オブジェクトで `Context` 項目の新しい `EmbeddedService` 値を使用します。

Work.com

ビジネスが従う COVID 安全プロトコルを表示するトラストカードを作成する
新しい LocationTrustMeasure オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 50.0 以降で使用できます。

従業員の写真の URL に関する情報を取得する
Employee オブジェクトで新しい `BannerPhotoUrl`、`FullPhotoUrl`、`MediumPhotoUrl`、および `SmallPhotoUrl` 項目を使用します。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

Salesforce 全体

Salesforce Scheduler でサービス予定が作成、更新、削除されたときに通知されるようにする
新しい AppointmentSchedulingEvent を登録して、Salesforce Scheduler で新規作成、変更、または削除されたサービス予定に関する通知を受信します。このイベントは、Salesforce Scheduler の一部です。

セールス

注文の状況が変更されたときに通知を受信する
新しい OrderStatusChangedEvent を登録して、注文状況変更に関連した通知を受信します。

Salesforce では、ドラフト注文の作成時にイベントは公開されません。

モバイル

リアルタイムイベントモニタリングオブジェクトから削除された項目

MobileEmailEvent、MobileEnforcedPolicyEvent、MobileScreenshotEvent、および MobileTelephonyEvent の `Username` 項目が削除されました。

組織で省略可能な Apex トリガを使用している場合は、`obj.UserName__c = event.UserName;` を Apex トリガから削除して問題を回避してください。

セキュリティと ID: リアルタイムイベントモニタリング

ID プロバイダの認証要求を追跡する

新しい `IdentityProviderEventStore` オブジェクトを使用して、別のアプリケーションプロバイダからの認証要求イベントを監視します。

ユーザが組織に対してどのように認証されるのかを監視する

既存の LoginEvent および LoginEventStream オブジェクトで新しい `AuthMethodReference` 項目を使用して、OpenId Connect シングルサインオンイベント時にサードパーティ ID プロバイダがどのようにユーザを認証するのかを確認します。

開発

BatchApexErrorEvent トリガを使用した ISV アプリケーションの監視

BatchApexErrorEvent を管理パッケージに追加できるようになりました。BatchApexErrorEvent トリガを管理パッケージに含め、インストール後の手順なしで、一括処理ジョブの健全性を監視して、必要な是正措置を実行します。

コマース

Commerce のブラウザ種別、バージョン設定、ストアタイプを監視する

既存の CommerceDiagnosticEvent オブジェクトで新しい `B2BEdition`、`B2BVersion`、`BrowswerDeviceType`、`OsVersion`、`WebStoreType` 項目を使用します。

SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) で、新しい `FIELDS()` 関数を使用して、クエリステートメント内に定義済みの項目のグルーピングを簡単に含めることができるようになりました。

理由:以前のバージョンの SOQL では、取得する全項目のすべての名前を指定しないと項目を取得できませんでした。通常、この作業を行うには、まずオブジェクトを記述して項目のリストを取得するための API コールを実行 (またはオブジェクトマネージャを使用) し、次にそれらのすべての項目を選択するための SOQL クエリを苦労して作成する必要がありました。さらに、そのようなクエリは、多くのデータを取得する大規模で複雑なクエリの文字制限を超える可能性がありました。新しい `FIELDS()` 関数を使用すると、事前に名前を把握していなくてもすべての項目を選択できます。これにより、サーバを往復して SOQL ステートメントを用意する必要がなくなり、調査や多くの入力作業も不要になります。また、クエリステートメントが簡素化され、オブジェクトのシェイプを簡単に探索できるようになります。

方法: `SELECT` ステートメントで `FIELDS(ALL)`、`FIELDS(STANDARD)`、`FIELDS(CUSTOM)` を使用します。詳細は、『*SOQL および SOSL リファレンス*』の「FIELDS()」を参照してください。

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたリソースが含まれます。

フローからをリッチなメールを送信する

標準の呼び出し可能なアクション `emailSimple` の既存のリクエストボディで新しい省略可能な `sendRichBody` プロパティを使用します。リッチテキスト形式でメールを送信するには、true に設定します。デフォルト値は、false です。詳細は、Salesforce リリースノートの「[メールを送信] アクションを使用したフローからのリッチテキストメールの送信」 (ページ 495)を参照してください。

Consent Write API コールを使用して、複数のレコードの同意の更新および書き込みを行う

新規 `/consent/action` リソースに対して PATCH 要求を実行します。詳細は、「複数のレコード間の同意データの同期」 (ページ 580)を参照してください。

呼び出し可能なアクション

呼び出し可能なアクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

呼び出し可能なアクションは、REST API を介して使用できます。次のアクションが追加されました。

ociCreateReservation

Salesforce オムニチャネル在庫に在庫予約を作成します。

ociFulfillReservation

Salesforce オムニチャネル在庫で在庫予約を履行します。

ociGetAvailability

Salesforce オムニチャネル在庫で在庫状況データを取得します。

ociReleaseReservation

Salesforce オムニチャネル在庫で在庫予約をリリースします。

ociTransferReservation

Salesforce オムニチャネル在庫で在庫予約を移行します。

createFulfillmentOrders

Salesforce Order Management で複数の注文配送グループの履行注文を作成します。

orderRoutingFindRoutesWithFewestSplits

注文された商品数量を在庫と比較し、Salesforce Order Management で注文を履行できる最小限のロケーションの組み合わせを決定します。

orderRoutingRankByAverageDistance

在庫ロケーションのセットから注文受取人までの平均距離を計算し、Salesforce Order Management にその平均距離順に並び替えたセットを返します。

呼び出し可能なアクションについての詳細は、『Actions Developer Guide (アクション開発者ガイド)』を参照してください。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。B2B Commerce for Lightning の注文、ウィッシュリスト、および正式リリースされている製品バリエーションで、より多くの操作を実行できるようになりました。コンテンツキーを使用して CMS 管理コンテンツを取得します。

このセクションの内容:

新規および変更された Connect REST API リソース
次のリソースが新規追加または変更されました。
新規および変更された Connect REST API リクエストボディ
新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。
新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ
新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

関連トピック:

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Connect REST API 開発者ガイド
Apex 開発者ガイド: ConnectApi 名前空間

新規および変更された Connect REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

B2B Commerce for Lightning

注文概要を取得する
新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/order-summaries` リソースに対して GET 要求を実行します。

注文配送グループを取得する
新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/delivery-groups` リソースに対して GET 要求を実行します。

注文品目を取得する
新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/items` リソースに対して GET 要求を実行します。

商品を取得するときに属性とバリエーションの情報を除外する (正式リリース)
`excludeAttributeSetInfo` または `excludeVariationInfo` パラメータを指定して、`/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/products/`***`productId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

商品項目が含まれるウィッシュリストを取得する
新しい `productFields` パラメータを指定して、`/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/wishlists/`***`wishlistId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

品目で並び替えられたウィッシュリストを取得する
新しい `sortItemsBy` パラメータを指定して、`/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/wishlists/`***`wishlistId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

ページあたりの品目数を指定してウィッシュリストを取得する
新しい pageSize パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

商品項目が含まれるウィッシュリスト品目を取得する
新しい productFields パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/wishlist-items リソースに対して GET 要求を実行します。

並び替えられたウィッシュリスト品目を取得する
新しい sortItemsBy パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/wishlist-items リソースに対して GET 要求を実行します。

商品項目が含まれるウィッシュリスト概要を取得する
新しい productFields パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists リソースに対して GET 要求を実行します。

品目で並び替えられたウィッシュリスト概要を取得する
新しい sortItemsBy パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists リソースに対して GET 要求を実行します。

ページあたりの品目数を指定してウィッシュリスト概要を取得する
新しい pageSize パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists リソースに対して GET 要求を実行します。

ウィッシュリストの削除
新しい effectiveAccountId パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

Chatter

フィード要素のコールコラボレーション機能にアクセスする
新規 /chatter/feed-elements/***feedElementId***/capabilities/call-collaboration リソースに対して GET 要求を実行します。

CMS 管理コンテンツ

コンテンツキーを使用してコミュニティの公開された管理コンテンツバージョンを取得する
新しい contentKeys パラメータを指定して、/connect/communities/***communityId***/managed-content/delivery リソースに対して GET 要求を実行します。

コンテンツキーを使用してチャネルの公開された管理コンテンツバージョンを取得する
新しい contentKeys パラメータを指定して、/connect/cms/delivery/channels/***channelId***/contents/query リソースに対して GET 要求を実行します。

会話

会話を一括アップロードする

multipart/form-data 要求でバイナリファイルを指定して、新規 `/connect/conversations/upload` リソースに対して POST 要求を実行します。

会話の一括アップロードの状況を取得する

`uploadIds` 要求パラメータを指定して、`/connect/conversations/upload` リソースに対して GET 要求を実行します。

会話エントリを取得する

新規 `/connect/conversation/`***`conversationIdentifier`***`/entries` リソースに対して GET 要求を実行します。

会話エントリを更新する

新しい Conversation Entries Update Input リクエストボディを使用して、新しい `/connect/conversation/`***`conversationIdentifier`***`/entries` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

従業員プロファイル

従業員のバナー写真を取得する

新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/banner-photo` リソースに対して GET 要求を実行します。

従業員のバナー写真を作成およびトリミングする

Banner Photo Input を使用して、新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/banner-photo` リソースに対して POST 要求を実行します。

従業員のバナー写真を削除する

新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/banner-photo` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

従業員の写真を取得する

新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/photo` リソースに対して GET 要求を実行します。

従業員の写真を作成およびトリミングする

Photo Input を使用して、新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/photo` リソースに対して POST 要求を実行します。

従業員の写真を削除する

新規 `/connect/employee-profiles/`***`employeeId`***`/photo` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

フィールドサービス

パターンからシフトをプレビューする

新しい Shift from Pattern Input リクエストボディを使用して、新しい `/connect/field-service/shift-patterns/`***`shiftPatternId`***`/shifts` リソースに対して GET 要求を実行します。

パターンからレコードを作成する
新しい Shift from Pattern Input リクエストボディを使用して、新しい `/connect/field-service/shift-patterns/`***`shiftPatternId`***`/shifts` リソースに対して POST 要求を実行します。

Salesforce Scheduler

予定の時間枠の強化された期間を取得する
`/connect/scheduling/available-territory-slots` リソースで、開始時から 31 日間の空き時間枠が返されるようになりました。

サービス予定を変更する
新しい Service Appointment Input の更新リクエストボディを使用して `/connect/scheduling/service-appointments` リソースに対する PATCH 要求を実行し、既存の予定の予定時間、割り当てられたリソース、サービステリトリー、または作業種別を更新します。

支払

承認済みの支払を取り消す
新しい Authorization Reversal Input リクエストボディを使用して、新しい `/commerce/payments/authorizations/authorizationId/reversals` リソースに対して POST 要求を実行します。

支払方法をトークン化する
新しい Payment Method Tokenization Input リクエストボディを使用して、新しい `/commerce/payments/payment-methods` リソースに対して POST 要求を実行します。

パーソナライズ

ユーザコンテキストに一致し、項目ベースの条件がある割り当て済み利用者を取得する
新しい `recordId` パラメータを指定して、`/connect/communities/`***`communityId`***`/personalization/audiences` リソースに対して GET 要求を実行します。

非公開接続

着信ネットワーク接続をプロビジョニング、同期、または切断したときに応答を取得する
`/network-connection/inbound/connections/`***`developerName`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

バージョン 49.0 ～ 50.0 では、この要求で空の応答が返されます。バージョン 51.0 以降では、この要求で新しい Network Connection レスポンスボディが返されます。

発信ネットワーク接続をプロビジョニング、同期、または切断したときに応答を取得する
`/network-connection/outbound/connections/`***`developerName`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

バージョン 49.0 ～ 50.0 では、この要求で空の応答が返されます。バージョン 51.0 以降では、この要求で新しい Network Connection レスポンスボディが返されます。

注文管理

1 つの要求で複数の FulfillmentOrders を作成します。
新しい Multiple Fulfillment Order Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/fulfillment/actions/create-multiple` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

指定された配送分割制限内で注文を履行できる在庫ロケーションの組み合わせを見つけます。
新しい Find Routes With Fewest Splits Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/order-management/routing/actions/find-routes-with-fewest-splits` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

注文を履行できるさまざまなロケーションセットの平均配送距離を比較します。
新しい Rank Average Distance Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/order-management/routing/actions/rank-byaverage-distance` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

オムニチャネル在庫

オムニチャネル在庫で在庫予約を作成します。
新しい OCI Create Reservation Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/oci/reservation/actions/reservations` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

1 つ以上の在庫予約を履行します。
新しい OCI Fulfill Reservation Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/oci/reservation/actions/fulfillments` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

1 つ以上の在庫ロケーションまたはロケーショングループの 1 つ以上の商品の在庫状況データを取得します。
新しい OCI Get Inventory Availability Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/oci/availability/availability-records/actions/get-availability` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

在庫状況アップロードジョブの状況を取得します。
新規 `/commerce/oci/availability-records/uploads/`***`uploadId`*** **リソースに対して** GET **要求を実行します。**

ロケーション構造の公開ジョブの状況を取得します。
新規 `/commerce/oci/location-graph/uploads/`***`uploadId`*** **リソースに対して** GET **要求を実行します。**

在庫ロケーションとロケーショングループに関する情報をオムニチャネル在庫に非同期に公開します。
リクエストボディを使用せずに、新しい `/commerce/oci/location-graph/uploads` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

1 つ以上の既存の在庫予約をリリースしてその在庫を解放します。
新しい OCI Release Reservation Input **リクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/oci/reservation/actions/releases` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

在庫状況データファイルをオムニチャネル在庫にアップロードします。
JSON **ファイルリクエストボディを使用して、新しい** `/commerce/oci/availability-records/uploads` **リソースに対して** POST **要求を実行します。**

ロケーションまたはロケーショングループ間で 1 つ以上の在庫予約を移行します。
新しい OCI Transfer Reservation Input リクエストボディを使用して、新しい `/commerce/oci/reservation/actions/transfers` リソースに対して POST 要求を実行します。

新規および変更された Connect REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

B2B Commerce for Lightning

Distinct Value Refinement Input

このリクエストボディには、次の正式リリースされているプロパティがあります。

- `attributeType` — 属性型を検索します。値は次のとおりです。
  - `Custom`
  - `ProductAttribute`
  - `Standard`

Facetable Attribute Input

このリクエストボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `type` — このプロパティで `ProductAttribute` 値がサポートされるようになりました(正式リリース)。

Product Search Grouping Input (パイロット)

メモ: グルーピングは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。グルーピングは変更される可能性があり、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `groupingOption` — 検索結果のグルーピングオプション。値は次のとおりです。
  - `NoGrouping` — 検索結果はグループ化されません。
  - `VariationParent` — 検索結果はバリエーションの親でグループ化されます。
- `topProductType` — 検索結果の商品グループごとに返される上位の商品種別。値は `VariationParent` です。

Product Search Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `grouping` (パイロット) — 検索結果の商品をグループ化するかどうかと、グループ化する方法を指定します。

Searchable Attribute Input

このリクエストボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `type` — このプロパティで `ProductAttribute` 値がサポートされるようになりました(正式リリース)。

Conversations

Conversation Entries Update Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationEntriesUpdates` — 会話エントリの更新のリスト。

Conversation Entry Update Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `identifier` — 更新された会話エントリの識別子。
- `messageText` — 更新された会話エントリのメッセージテキスト。

Field Service

Shifts from Pattern Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `schedulingEndDate` — YYYY-MM-DD 形式のスケジュールの終了日。
- `schedulingOccurrences`—スケジュールの回数。
- `schedulingStartDate` — YYYY-MM-DD 形式のスケジュールの開始日。
- `serviceResourceId` — シフトを割り当てるサービスリソースの ID。
- `serviceTerritoryId` — シフトを割り当てるサービステリトリーの ID。

Salesforce Scheduler

Available Territory Slots Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `filterByResources` — サービスリソース ID のカンマ区切りリスト。API では、リストと選択したサービステリトリーの視覚のあるサービスリソースのみが、リソース ID が渡される順序で並び替えられて返されます。

Update Service Appointment Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `assignedResources` — サービス予定に割り当てられたサービスリソース。
- `schedulingPolicyId` — `AppointmentSchedulingPolicy` オブジェクトの ID。
- `serviceAppointment` — 顧客のサービス作業を完了するための予定。
- `serviceAppointmentId` — 更新するサービス予定の ID。

注文管理

Find Routes With Fewest Splits Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `locationAvailableInventory` — 各リスト要素は、在庫ロケーションの利用可能な商品の数量を表します。
- `maximumNumberOfSplits` — 配送分割の最大許容可能数。この数を超える分割を伴う転送オプションは返されません。

- orderedQuantities — 各リスト要素は、履行のために転送される商品の数量を表します。

Location Availability Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- externalReferenceId — 在庫ロケーションの外部参照 ID。
- quantity — 商品の利用可能な数量。
- stockKeepingUnit — 商品の在庫保管単位。

Location Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- countryCode — ロケーションの国コード。
- locationIdentifier — ロケーションの識別子。
- postalCode — ロケーションの郵便番号。

Multiple Fulfillment Order Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- fulfillmentOrders — 各要素には、1 件の履行注文を作成するためのデータが含まれます。

Quantity With Sku Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- quantity — 商品の数量。
- stockKeepingUnit — 商品の SKU。

Rank Average Distance Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- deliveryCountryCode — 注文受信者の国コード。
- deliveryPostalCode — 注文受信者の郵便番号。
- distanceUnit — mi または km を指定して、それぞれマイル単位またはキロメートル単位の平均距離を返します。
- sortResult — ASC または DESC を指定して、それぞれ昇順または降順の平均配送距離で結果をランク付けします。
- targetLocations — 各要素は、注文を履行するために組み合わせることができる在庫ロケーションのセットです。

Target Location Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- locations — 国または郵便番号に関する情報があるロケーションのリスト。

オムニチャネル在庫

OCI Create Reservation Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。

- `allowPartialReservations` — true にすると、予約全体を作成できない場合に、部分的な予約が作成されます。
- `createRecords` — 商品の数量およびロケーションまたはロケーショングループのリスト。
- `expirationSeconds` — 秒単位の期間。予約が reservationTime の後にこの時間以内に履行されなかった場合、期限切れになります。
- `externalRefId` — 外部参照 ID。
- `reservationTime` — 予約を記録する時間。

OCI Create Reservation Single Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `locationGroupIdentifier` — 在庫を予約するロケーショングループの識別子。
- `locationIdentifier` — 在庫を予約するロケーションの識別子。
- `quantity` — 予約する商品の数量。
- `stockKeepingUnit` — 予約する商品の SKU。

OCI Fulfill Reservation Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentRecords` — 在庫予約のリスト。

OCI Fulfill Reservation Single Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `actionRequestId` — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- `externalRefId` — 予約を履行するロケーションの外部参照 ID。
- `locationIdentifier` — 予約を履行するロケーションの識別子。
- `quantity` — 履行される数量。
- `stockKeepingUnit` — 履行される商品の SKU。

OCI Get Inventory Availability Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `locationGroupIdentifier` — 在庫状況データを取得するロケーショングループの識別子。この値を指定すると、このグループに属すすべてのロケーションの在庫データが取得されます。
- `locationGroupIdentifiers` — 在庫状況データを取得するロケーショングループの最大 100 個の識別子のリスト。
- `locationIdentifiers` — 在庫状況データを取得するロケーションの最大 100 個の識別子のリスト。
- `stockKeepingUnit` — 在庫状況データを取得する商品の SKU。ロケーションまたはロケーショングループのない SKU を指定すると、ロケーショングループに割り当てられていないすべての在庫ロケーションでその SKU の在庫データが返されます。
- `stockKeepingUnits` — 在庫状況データを取得する商品の最大 100 個の SKU のリスト。
- `useCache` — キャッシュから在庫データを取得するかどうか。デフォルト値は true です。

OCI Release Reservation Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- releaseRecords — リリースする在庫予約のリスト。

OCI Release Reservation Single Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- externalRefId — 予約があるロケーションまたはロケーショングループの外部参照 ID。
- locationGroupIdentifier — 予約があるロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 予約があるロケーションの識別子。
- quantity — リリースする予約済み在庫の数量。
- stockKeepingUnit — リリースする商品の SKU。

OCI Transfer Reservation Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- allOrNothingTransferId — 1 つの移行要求の失敗によりコール内の他のすべての要求をキャンセルするかどうかを制御します。
- transferRecords — 在庫予約移行のリスト。

OCI Transfer Reservation Single Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 要求を識別する UUID。応答データのアクション要求 ID を使用して、成功または失敗した要求を識別します。
- externalRefId — 移行を受信するロケーションの外部参照 ID。
- fromLocationGroupIdentifier — 予約を送信するロケーショングループの識別子。
- fromLocationIdentifier — 予約を送信するロケーションの識別子。
- quantity — 移行される在庫の数量。
- stockKeepingUnit — 移行される商品の SKU。
- toLocationGroupIdentifier — 予約を受信するロケーショングループの識別子。
- toLocationIdentifier — 予約を受信するロケーションの識別子。

Payments

Authorization Reversal Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — 支払承認取消のアカウント。支払承認のアカウントに一致する必要があります。
- additionalData — 支払要求で必要な場合は、追加のデータを入力できます。additionalData オブジェクトは、エントリから構成されます。各エントリには、キーと値が含まれます。サポートされるキーと値のペアは、最大 5 つです。それぞれのキーと値には、255 文字まで入力できます。
- amount — 支払承認に適用される調整の金額。
- comments — ユーザがレコードの詳細に関するコメントを追記できます。最大 1,000 文字です。
- effectiveDate — 承認で調整が有効になる日付。
- email — 要求を開始したクライアントのメール。

- idempotencyKey — 支払要求で使用される冪等キー。ペイロードまたはヘッダーに指定できますが、その両方に同時に指定することはできません。
- ipAddress — 要求を行ったクライアントの IP アドレス。
- macAddress — 要求を行ったクライアントの MAC アドレス。
- phone — 要求を開始したクライアントの電話番号。

Payment Method Tokenization Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- additionalData — 支払要求で必要な場合は、追加のデータを入力できます。additionalData オブジェクトは、エントリから構成されます。各エントリには、キーと値が含まれます。サポートされるキーと値のペアは、最大 5 つです。それぞれのキーと値には、255 文字まで入力できます。
- address — 支払方法の住所。
- cardPaymentMethod — カード支払方法。
- email — 要求を開始したクライアントのメール。
- idempotencyKey — 支払要求で使用される冪等キー。ペイロードまたはヘッダーに指定できますが、その両方に同時に指定することはできません。
- ipAddress — 要求を行ったクライアントの IP アドレス。
- macAddress — 要求を行ったクライアントの MAC アドレス。
- paymentGatewayId — 支払ゲートウェイの ID。
- phone — 要求を開始したクライアントの電話番号。

新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

B2B Commerce for Lightning

Cart Product Attribute (正式リリース)

このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- label — 属性の表示ラベルまたは表示名。
- sequence — 属性セット内の属性の順序。
- value — 属性の表示値。

Cart Product Summary

このレスポンスボディには、次の正式リリースされているプロパティがあります。

- variationAttributes — 商品に関連付けられているバリエーション属性。

Distinct Value Search Facet

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- attributeType — このプロパティで ProductAttribute 値がサポートされるようになりました (正式リリース)。

Facetable Attribute

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `type` — このプロパティで `ProductAttribute` 値がサポートされるようになりました(正式リリース)。

Order Delivery Group Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fields` — 注文配送グループ概要と照会された他の関連オブジェクトの項目の対応付け。

Order Delivery Group Summary Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageToken` — 注文配送グループ概要の現在のページのトークン。
- `currentPageUrl` — 注文配送グループ概要の現在のページの URL。
- `nextPageToken` — 注文配送グループ概要の次のページのトークン。
- `nextPageUrl` — 注文配送グループ概要の次のページの URL。
- `orderDeliveryGroups` — 注文配送グループ概要のコレクション。
- `previousPageToken` — 注文配送グループ概要の前のページのトークン。
- `previousPageUrl` — 注文配送グループ概要の前のページの URL。

Order Item Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fields` — 注文品目概要と照会された他の関連オブジェクトの項目の対応付け。
- `orderItemSummaryId` — 注文品目概要の ID。
- `orderSummaryId` — 注文概要の ID。
- `product` — 関連付けられた商品品目情報。

Order Item Summary Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageToken` — 品目の現在のページのトークン。
- `currentPageUrl` — 品目の現在のページの URL。
- `items` — 注文品目概要のコレクション。
- `nextPageToken` — 品目の次のページのトークン。
- `nextPageUrl` — 品目の次のページの URL。
- `previousPageToken` — 品目の前のページのトークン。
- `previousPageUrl` — 品目の前のページの URL。

Order Item Summary Product

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `canViewProduct` — コンテキストユーザが商品を表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `errorCode` — エラーのある商品のエラーコード。
- `errorMessage` — エラーのある商品のエラーメッセージ。
- `fields` — 照会された商品項目の対応付け。
- `media` — 関連付けられた商品メディア。
- `productAttributes` — 商品属性の概要。
- `productId` — 商品の ID。

Order Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `createdDate` — 注文概要の作成日。
- `fields` — 要求された注文概要項目の対応付け。
- `orderNumber` — 注文概要の注文番号。
- `orderSummaryId` — 注文概要の ID。
- `orderedDate` — 注文概要の注文日。
- `ownerId` — 注文概要の所有者の ID。
- `status` — 注文概要の状況。
- `totalAmount` — 注文概要の総額。

Order Summary Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `count` — 現在のページで返される注文概要の合計数。
- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- `nextPageToken` — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は `null`。
- `nextPageUrl` — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は `null`。
- `orderSummaries` — 注文概要のコレクション。
- `previousPageToken` — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は `null`。
- `previousPageUrl` — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は `null`。
- `sortOrder` — 注文概要の並び替え順。値は次のとおりです。
  - `CreatedDateAsc` — 最も古い作成日で並び替えます。
  - `CreatedDateDesc` — 最も新しい作成日で並び替えます。
  - `OrderedDateAsc` — 最も古い注文日で並び替えます。
  - `OrderedDateDesc` — 最も新しい注文日で並び替えます。

Product Attribute Info (正式リリース)

このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `allowableValues` — 属性に使用可能な値。
- `apiName` — 属性の API 参照名。
- `availableValues` — 商品に使用可能な属性値。
- `fieldEnumOrId` — カスタム項目の項目 ID または標準項目の列挙値。
- `label` — 属性の表示ラベル。
- `objectName` — 項目を含むオブジェクトの名前。
- `sequence` — 属性セット内の属性の順序。

Product Attribute Selection Info (正式リリース)

このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- apiName — 属性の API 参照名。
- label — 属性の表示ラベル。
- sequence — 属性セット内の属性の順序。
- value — 属性の表示値。

Product Attribute Set (正式リリース)
このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- attributes — 属性セットのメンバーである属性のマップ。
- developerName — 属性セットの名前。
- id — 商品属性セットを表す商品属性レコードの ID。

Product Attribute Set Info (正式リリース)
このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- attributeInfo — 属性メタデータに対する属性項目の API 参照名のマップ。
- description — 属性セットの説明。
- developerName — 属性セットの API 参照名。
- id — 属性セットの ID。
- masterLabel — 属性セットのマスタ表示ラベル。
- sequence — 商品の属性セットの順序。

Product Attribute Set Summary (正式リリース)
このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- apiName — 属性セットの API 参照名。
- attributes — 属性セット内の属性のリスト。
- label — 属性セットの表示ラベル。

Product Attribute Summary (正式リリース)
このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- apiName — 属性の API 参照名。
- label — 属性の表示ラベル。
- sequence — 属性セット内の属性の順序。
- value — 属性の表示値。

Product Attributes to Product Entry (正式リリース)
このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- canonicalKey — 属性セット内の属性の連番に基づき、アンダースコア (_) を使用して連結された属性 API 値。
- productId — 属性を選択するためのバリエーション商品 ID。
- selectedAttributes — 商品 ID に対応付けるキーを形成するために使用できる属性値とメタデータの順序付きリスト。

Product Detail
このレスポンスボディには、次の正式リリースされているプロパティがあります。

- attributeSetInfo — メタデータに対する属性セット API 参照名の対応付け。
- productClass — 商品のクラス。値は次のとおりです。
  - Simple
  - Variation
  - VariationParent
- variationAttributeSet — 商品のバリエーション属性セット。
- variationInfo — バリエーション属性に使用可能な値、および属性値の組み合わせからバリエーション商品 ID を解決するための対応付け。
- variationParentId — バリエーションの親の ID。

Product Summary

このレスポンスボディには、次の正式リリースされているプロパティがあります。

- productClass — 商品のクラス。値は次のとおりです。
  - Simple
  - Variation
  - VariationParent
- variationAttributeSet — 商品に関連付けられているバリエーション属性セット。

Product Variation Info (正式リリース)

このレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- attributesToProductMappings — バリエーション商品 ID に対する属性値の組み合わせの対応付け。
- variationAttributeInfo — 商品属性情報に対する項目 API 参照名の対応付け。

Searchable Attribute

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- type — このプロパティで ProductAttribute 値がサポートされるようになりました (正式リリース)。

Chatter

Call Collaboration Capability

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- commentEndTime — メディアプレーヤーのコメントの終了時刻 (秒)。
- commentStartTime — メディアプレーヤーのコメントの開始時刻 (秒)。

Feed Element Capabilities

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- callCollaboration — フィード要素にこの機能がある場合、録音コメントがあります。

CMS 管理コンテンツ

Managed Content Media Node Value

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- contentKey — 管理コンテンツのコンテンツキー。

Managed Content Version
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `contentKey` — 管理コンテンツのコンテンツキー。

Managed Content Search Result
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `contentKey` — 管理コンテンツのコンテンツキー。

会話

Conversation Bulk Upload
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationIdentifier` — 会話の識別子。
- `errorDetail` — アップロードに失敗した理由。
- `status` — アップロードの試行の状況。
- `uploadId` — 会話のアップロード ID。

Conversation Bulk Uploads
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationBulkUploadsResults` — 会話の一括アップロードの結果のリスト。

Conversation Bulk Upload Status
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationId` — 会話の ID。
- `errorDetail` — 会話のエラーの詳細。
- `failedEntryCount` — 失敗した会話エントリの数。
- `failedEntryIds` — 失敗した会話エントリ ID のリスト。
- `lastUpdatedTimestamp` — 会話の最後の更新のタイムスタンプ (ミリ秒)。
- `status` — 会話のアップロード要求の状況。
- `successEntryCount` — 成功した会話エントリの数。
- `uploadId` — 会話のアップロード ID。

Conversation Bulk Upload Statuses
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationBulkUploadStatuses` — 会話の一括アップロードの状況のリスト。

Conversation Entries
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationEntries` — 会話エントリのリスト。

Conversation Entries Update
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `conversationEntriesUpdateResults` — 会話エントリの更新結果のリスト。

Conversation Entry
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- clientDuration — 会話エントリのクライアント期間 (ミリ秒)。
- clientTimestamp — 会話エントリのクライアントタイムスタンプ (ミリ秒)。
- identifier — 会話エントリの識別子。
- messageText — 会話エントリのメッセージテキスト。このテキストは、テキスト型の静的コンテンツメッセージが含まれるメッセージエントリタイプでのみ返されます。
- sender — 会話エントリの送信者。
- serverReceivedTimestamp — サーバで受信する会話エントリのタイムスタンプ (ミリ秒)。

Conversation Entry Update

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- failureReason — 更新に失敗した理由。
- identifier — 更新された会話エントリの識別子。
- success — 更新の試行の状況が [成功] か (true)、否か (false) を示します。

Conversation Participant

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- appType — 参加者のアプリケーション種別。
- role — 参加者のロール。
- subject — 参加者の件名。

フィールドサービス

Shifts from Pattern

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- count — 作成されたシフトの合計数。
- recordIds — 作成されたシフト ID のコレクション。

Order Management (注文管理) とオムニチャネル在庫

Available Location Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- locations — 在庫ロケーションのリスト。

Average Distance Result Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- distanceCalculation — 配送距離の計算結果。

Distance Calculation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- averageDistance — ロケーションから注文受信者までの平均距離。
- locations — ロケーションとその注文受信者への距離のリスト。
- rank — 注文受信者への平均距離別のすべての結果間のこの結果のランク。

Find Routes With Fewest Splits Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `targetLocations` — リストの各要素は、転送された注文をまとめて履行できる在庫ロケーションのセットです。

Fulfillment Group Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfilledFromLocationId` — (作成失敗) 入力の FulfilledFromLocationId。
- `fulfillmentOrderId` — 正常に作成された FulfillmentOrder の FulfillmentOrderId。
- `fulfillmentType` — (作成失敗) 入力の FulfillmentType。
- `orderDeliveryGroupSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderDeliveryGroupSummaryId。
- `orderItemSummaries` — (作成失敗) OrderItemSummaries の入力リスト。
- `orderSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderSummaryId。
- `referenceId` — FulfillmentGroup 入力表現の referenceId。

Available Location Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `locations` — 在庫ロケーションのリスト。

Average Distance Result Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `distanceCalculation` — 配送距離の計算結果。

Distance Calculation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `averageDistance` — ロケーションから注文受信者までの平均距離。
- `locations` — ロケーションとその注文受信者への距離のリスト。
- `rank` — 注文受信者への平均距離別のすべての結果間のこの結果のランク。

Find Routes With Fewest Splits Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `targetLocations` — リストの各要素は、転送された注文をまとめて履行できる在庫ロケーションのセットです。

Fulfillment Group Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfilledFromLocationId` — (作成失敗) 入力の FulfilledFromLocationId。
- `fulfillmentOrderId` — 正常に作成された FulfillmentOrder の FulfillmentOrderId。
- `fulfillmentType` — (作成失敗) 入力の FulfillmentType。
- `orderDeliveryGroupSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderDeliveryGroupSummaryId。
- `orderItemSummaries` — (作成失敗) OrderItemSummaries の入力リスト。
- `orderSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderSummaryId。
- `referenceId` — FulfillmentGroup 入力表現の referenceId。

支払

Authorization Adjustment Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `accountID` — 調整される支払承認が含まれるアカウントの ID。
- `amount` — 支払承認調整の金額。
- `currencyIsoCode` — 支払承認調整に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `effectiveDate` — 承認調整が有効になる日付。
- `id` — PaymentAuthAdjustment レコードの ID。
- `paymentAuthAdjustmentNumber` — システム定義の参照番号。
- `requestDate` — 承認調整トランザクションの発生日付。
- `status` — 支払承認調整の状況。

Authorization Reversal Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `error` — 承認取消のエラー応答の表現。
- `gatewayResponse` — 承認取消のゲートウェイ応答の表現。
- `paymentAuthAdjustment` — 承認取消の支払承認調整の応答の表現。
- `paymentGatewayLogs` — 承認取消のゲートウェイログコレクションの表現。

Authorization Reversal Gateway Response Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `gatewayAvsCode` — ゲートウェイ AVS コード。
- `gatewayDate` — ゲートウェイ日付。
- `gatewayMessage` — ゲートウェイによって返されるメッセージ。
- `gatewayReferenceDetails` — ゲートウェイ参照の詳細。
- `gatewayReferenceNumber` — ゲートウェイ参照番号。
- `gatewayResultCode` — ゲートウェイ結果コード。
- `gatewayResultCodeDescription` — ゲートウェイ結果コードの説明。
- `salesforceResultCode` — Salesforce 結果コード。

Payment Method Tokenization Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `error` — 支払方法のトークン化要求に失敗した後のエラー応答。
- `gatewayResponse` — 支払方法のトークン化要求に失敗した後のゲートウェイ応答。
- `paymentGatewayLogs` — 支払方法のトークン化要求に失敗した後の支払ゲートウェイログ。
- `paymentMethod` — 支払方法のトークン化要求の支払方法表現。

Payment Method Tokenization Gateway Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `gatewayAvsCode` — ゲートウェイ AVS コード。
- `gatewayDate` — ゲートウェイ日付。

- gatewayMessage — ゲートウェイによって返されるメッセージ。
- gatewayResultCode — ゲートウェイ結果コード。
- gatewayResultCodeDescription — ゲートウェイ結果コードの説明。
- gatewayToken — 支払ゲートウェイからの支払方法トークン。
- salesforceResultCode — Salesforce 結果コード。

パーソナライズ

Audience Target Assignment

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- formulaScope — 対象の数式範囲。

非公開接続

AWS Inbound Network Connection Properties

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- awsVpcEndpointId — AWS 着信ネットワーク接続の VPC エンドポイント ID。
- region — AWS 着信ネットワーク接続のクラウドリージョン。

AWS Outbound Network Connection Properties

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- awsVpcEndpointId — AWS 発信ネットワーク接続の VPC エンドポイント ID。
- awsVpcEndpointServiceName — AWS 発信ネットワーク接続の VPC エンドポイントサービス名。
- region — AWS 発信ネットワーク接続のクラウドリージョン。

Network Connection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- connectionProperties — ネットワーク接続のプロパティ名と値。
- connectionType — ネットワーク接続の種別。値は AwsPrivateLink です。
- description — ネットワーク接続の説明。
- developerName — ネットワーク接続の名前。
- id — ネットワーク接続の ID。
- isActive — ネットワーク接続が有効か (true)、否か (false) を示します。
- masterLabel — ネットワーク接続のマスタ表示ラベル。
- namespacePrefix — ネットワーク接続の名前空間プレフィックス。
- status — ネットワーク接続の状況。値は次のとおりです。
  - Allocating
  - DeletedRemotely
  - PendingAcceptance
  - PendingActivation
  - Ready
  - RejectedRemotely

- `TeardownInProgress`
- `Unprovisioned`

注文管理

Available Location Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `locations` — 在庫ロケーションのリスト。

Average Distance Result Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `distanceCalculation` — 配送距離の計算結果。

Distance Calculation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `averageDistance` — ロケーションから注文受信者までの平均距離。
- `locations` — ロケーションとその注文受信者への距離のリスト。
- `rank` — 注文受信者への平均距離別のすべての結果間のこの結果のランク。

Find Routes With Fewest Splits Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `targetLocations` — リストの各要素は、転送された注文をまとめて履行できる在庫ロケーションのセットです。

Fulfillment Group Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfilledFromLocationId` — (作成失敗) 入力の FulfilledFromLocationId。
- `fulfillmentOrderId` — 正常に作成された FulfillmentOrder の FulfillmentOrderId。
- `fulfillmentType` — (作成失敗) 入力の FulfillmentType。
- `orderDeliveryGroupSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderDeliveryGroupSummaryId。
- `orderItemSummaries` — (作成失敗) OrderItemSummaries の入力リスト。
- `orderSummaryId` — (作成失敗) 入力の OrderSummaryId。
- `referenceId` — FulfillmentGroup 入力表現の referenceId。

Location Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `distance` — ロケーションから注文受信者までの距離。
- `locationIdentifier` — ロケーション識別子。

Multiple Fulfillment Order Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `fulfillmentOrders` — 作成された FulfillmentOrders と失敗した FulfillmentOrders の応答データのリスト。

Order Item Summary Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `errors` — OrderItemSummary に固有のエラーのリスト (ある場合)。

- orderItemSummaryId — OrderItemSummary の ID。
- quantity — OrderItemSummary の数量。

Rank Average Distance Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- distanceUnit — 指定された距離単位 (マイルまたはキロメートル)。
- results — 配送距離の計算結果。

オムニチャネル在庫

OCI Create Reservation Error Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errorCode — エラーコード。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

OCI Create Reservation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- details — 予約内の各商品の詳細。
- errors — 予約要求から返されたエラー。
- expirationTime — 予約が期限切れになる時間。
- reservationTime — 予約が記録された時間。
- success — 予約が正常に作成されたかどうかを示します。

OCI Create Reservation Single Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- locationGroupIdentifier — 在庫が予約されたロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 在庫が予約されたロケーションの識別子。
- quantity — 商品の予約数量。
- stockKeepingUnit — 予約された商品の SKU。

OCI Fulfill Reservation Error Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- details — 履行された予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

OCI Fulfill Reservation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 履行要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

OCI Fulfill Reservation Single Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `actionRequestId` — 元の予約履行要求を識別する UUID。
- `externalRefId` — 予約が履行されたロケーションの外部参照 ID。
- `locationIdentifier` — 予約が履行されたロケーションの識別子。
- `quantity` — 履行された数量。
- `stockKeepingUnit` — 履行された商品の SKU。

OCI Future Inventory Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `expectedDate` — 将来の在庫が予想される日付。
- `quantity` — 将来の在庫の数量。

OCI Get Inventory Availability Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `locationGroups` — 個々のロケーショングループの在庫状況データのリスト。
- `locations` — 個々のロケーションの在庫状況データのリスト。

OCI Inventory Record Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `availableToFulfill` — 履行可能数量。
- `availableToOrder` — 注文可能数量。
- `effectiveDate` — 在庫の発効日。
- `futures` — 予想される将来の在庫補充のリスト。
- `onHand` — 在庫数量。
- `reserved` — 予約数量。
- `safetyStockCount` — 安全在庫数。
- `stockKeepingUnit` — 商品の SKU。

OCI Location Availability Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `inventoryRecords` — このロケーションの個々の商品の在庫データのリスト。
- `locationIdentifier` — ロケーションの識別子。

OCI Location Group Availability Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `inventoryRecords` — 個々の商品の在庫データのリスト。データは、このロケーショングループに属するすべてのロケーションの数量の合計です。
- `locationGroupIdentifier` — ロケーショングループの識別子。

OCI Publish Location Structure Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `uploadId` — 公開ジョブの識別子。この値を使用してジョブの状況を取得します。

OCI Publish Location Structure Status Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `endTimeUTC` — ジョブが完了した時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:54:08.012Z」)。

- recordsProcessedCount — ジョブにより処理されたレコード数。
- recordsReadCount — ジョブにより参照されたレコード数。
- recordsSkippedCount — ジョブによりスキップされたレコード数。
- startTimeUTC — ジョブが開始された時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:53:06.788Z」)。
- status — ジョブの状況(例: 「PENDING」、「COMPLETED」など)。
- uploadId — ジョブの識別子。
- validationErrors — ジョブから返された検証エラーのリスト。
- validationStatus — ジョブの検証状況。

OCI Release Reservation Error Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- details — リリースされた予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

OCI Release Reservation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — リリース要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

OCI Release Reservation Single Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 元の予約リリース要求を識別する UUID。
- externalRefId — 予約がリリースされたロケーションの外部参照 ID。
- locationGroupIdentifier — 予約がリリースされたロケーショングループの識別子。
- locationIdentifier — 予約がリリースされたロケーションの識別子。
- quantity — リリースされた数量。
- stockKeepingUnit — リリースされた商品の SKU。

OCI Transfer Reservation Error Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- details — 移行された予約の詳細 (成功した場合)。
- errorCode — エラーコード (ある場合)。
- message — エラーの詳細 (ある場合)。

OCI Transfer Reservation Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errors — 移行要求内の個々の予約に対する応答。
- success — 要求が成功したかどうかを示します。

OCI Transfer Reservation Single Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- actionRequestId — 元の予約移行要求を識別する UUID。

- externalRefId — 予約を受信したロケーションの外部参照 ID。
- fromLocationGroupIdentifier — 予約を送信したロケーショングループの識別子。
- fromLocationIdentifier — 予約を送信したロケーションの識別子。
- quantity — 移行された在庫の数量。
- stockKeepingUnit — 移行された商品の SKU。
- toLocationGroupIdentifier — 予約を受信したロケーショングループの識別子。
- toLocationIdentifier — 予約を受信したロケーションの識別子。

OCI Upload Inventory Availability Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- uploadId — アップロードジョブの識別子。この値を使用してジョブの状況を取得します。

OCI Upload Inventory Availability Status Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- endTimeUTC — ジョブが完了した時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:54:08.012Z」)。
- recordsProcessedCount — ジョブにより処理されたレコード数。
- recordsReadCount — ジョブにより参照されたレコード数。
- recordsSkippedCount — ジョブによりスキップされたレコード数。
- startTimeUTC — ジョブが開始された時間 (UTC)(例: 「2020-07-06T22:53:06.788Z」)。
- status — ジョブの状況(例: 「PENDING」、「COMPLETED」など)。
- uploadId — ジョブの識別子。
- validationErrors — ジョブから返された検証エラーのリスト。
- validationStatus — ジョブの検証状況。

Tableau CRM REST API

Tableau CRM REST API を使用して、Analytics の制限に関する情報を取得します。レシピの履歴レコードを取得および復元します。データフロージョブの絞り込みが改善されました。

このセクションの内容:

新規および変更された Tableau CRM REST API リソース
次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更された Tableau CRM REST API リクエストボディ
新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Tableau CRM REST API レスポンスボディ
新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Tableau CRM REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

Analytics の制限を取得する
新規 `/wave/limits` リソースに対して GET 要求を実行します。要求パラメータを使用して、結果を絞り込むことができます。

レシピの履歴レコードを取得する
新しい `historyId` 要求パラメータを指定して、`/wave/recipes/recipeId` リソースに対して GET 要求を実行します。

レシピを前の履歴レコードに戻す
`AssetRevertHistoryInputRepresentation` リソースを指定して、`/wave/recipes/recipeId` に対して PUT 要求を実行します。

ライセンスの種類を指定してデータフロージョブを取得する
新しい `licenseType` 要求パラメータを指定して、`/wave/dataflowjobs/` リソースに対して GET 要求を実行します。有効な値は、`EinsteinAnalytics` および `Sonic` です。

状況を指定してデータフロージョブを取得する
新しい `status` 要求パラメータを指定して、`/wave/dataflowjobs/` リソースに対して GET 要求を実行します。

検索語を使用してデータフロージョブを取得する
新しい `q` 要求パラメータを指定して、`/wave/dataflowjobs` リソースに対して GET 要求を実行します。

クエリソースを指定してクエリを取得する
新しい `querySource` 要求パラメータを指定して、`/wave/query` リソースに対して GET 要求を実行します。

新規および変更された Tableau CRM REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Component Saved View Input (ComponentSavedViewInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `pageId` - 保存済みビューのコンポーネントページの ID。
- `state` - 保存済みビューのコンポーネントに適用される選択内容と検索条件。

Component Saved View State Input (ComponentSavedViewStateInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `datasets` - データセット状態へのデータセットの完全修飾名の対応付け。
- `steps` - ステップ状態へのステップ ID の対応付け。

Component Widget Parameters Input (ComponentWidgetParametersInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `shareState` - コンポーネントの状態が親ダッシュボードと共有されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。
- `attributes` - コンポーネントの属性の値のコレクション。
- `step` - コンポーネントのステップ。

Dashboard Input (DashboardInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `visibility` - ダッシュボードが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、`All` および `Limited` です。

Dashboard Saved View Input (DashboardSavedViewInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `visibility` - ダッシュボード保存済みビューが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、`All` および `Limited` です。

Dataset Input (DatasetInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `visibility` - データセットが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、`All` および `Limited` です。

Lens Input (LensInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `visibility` - レンズが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、`All` および `Limited` です。

Number Widget Parameters Input (NumberWidgetParametersInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `tooltip` - このウィジェットのツールチップ。

Recipe Input (RecipeInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `historyLabel` - 保存されるレシピバージョンにタグを付ける省略可能な履歴の表示ラベル。
- `licenseAttributes` - 保存されるレシピにタグを付ける省略可能なライセンス属性。

Recipe Name Label Input (RecipeNameLabelInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `label` - レシピノードの表示ラベル。
- `name` - レシピノードの名前。

Recipe Node Input (RecipeNodeInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `action` - レシピノード種別。有効な値は、`Aggregate`、`Append`、`Append_V2`、`Bucket`、`Clustering`、`ComputeRelative`、`DateFormatConversion`、`DetectSentiment`、`DiscoveryPredict`、`Export`、`Extract`、`Filter`、`Flatten`、`Formula`、`Join`、`Load`、`OutputExternal`、`PredictMissingValues`、`Save`、`Schema`、`Split`、`SqlFilter`、`TimeSeries`、`TypeCast` です。
- `schema` - ノードのスキーマの変更。
- `sources` - 取得元ノード ID のリスト。

各レシピノードアクションには、ベース `RecipeNodeInputRepresentation` を拡張する一意の要求表現があります。これらの表現についての詳細は、完全な開発者ガイドを参照してください。

Recipe Type Name Input (RecipeTypeNameInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `label` - レシピ種別の表示ラベル。
- `name` - レシピ種別の名前。

SQL Step Input (SqlStepInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `broadcastFacet` - ステップがファセットをブロードキャストするか(`true`)、否か(`false`)を示します。
- `connectionName` - 外部データのクエリに使用する接続の名前。

Tooltip Content Input (TooltipContentInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `body` - ツールチップの視覚化コンテンツ。
- `description` - ツールチップのテキストコンテンツ。

Tooltip Input (TooltipInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `content` - ツールチップのコンテンツ。
- `customizeTooltip` - ツールチップがカスタマイズされているか(`true`)、否か(`false`)を示します。

Tooltip Source Input (TooltipSourceInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `name` - ツールチップ参照元の名前。
- `namespace` - ツールチップ参照元の名前空間。
- `type` - ツールチップ参照元の種別。サポートされている値は、`Step` です。

Tooltip Visualization Input (TooltipVisualizationInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `height` - ツールチップ参照元の高さ。
- `source` - 表示されているツールチップの視覚化の参照元。
- `width` - ツールチップ参照元の幅。

新規および変更された Tableau CRM REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Component Saved View (ComponentSavedViewRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `pageId` - 保存済みビューのコンポーネントページの ID。
- `state` - 保存済みビューのコンポーネントに適用される選択内容と検索条件。

Component Saved View State (ComponentSavedViewStateRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- datasets - データセット状態へのデータセットの完全修飾名の対応付け。
- steps - ステップ状態へのステップ ID の対応付け。

Component Widget Parameters (ComponentWidgetParametersRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- shareState - コンポーネントの状態が親ダッシュボードと共有されているか (true)、否か (false) を示します。
- attributes - コンポーネントの属性の値のコレクション。
- step - コンポーネントのステップ。

Dashboard (DashboardRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- visibility - ダッシュボードが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、All および Limited です。

Dashboard Saved View (DashboardSavedViewRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- visibility - ダッシュボード保存済みビューが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、All および Limited です。

Dataflow Job (DataflowJobRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- licenseAttributes - 保存されるレシピにタグを付ける省略可能なライセンス属性。

Dataflow Job Collection (DataflowJobCollectionRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- nextPageUrl - コレクションのジョブの次のページにアクセスする URL。
- totalSize - コレクションのデータフロージョブの合計数 (ページは問わない)。

Dataset (DatasetRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- visibility - データセットが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、All および Limited です。

Lens (LensRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- visibility - レンズが参照アクセス権を持つユーザに対して非表示になるかどうかを示します。有効な値は、All および Limited です。

Link Mass Action Destination (LinkMassActionDestinationRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- actionName - アクションの名前。
- field - アクションの項目名。
- step - アクションを呼び出すステップ。

Number Widget Parameters (NumberWidgetParametersRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `tooltip` - ウィジェットのツールチップ。

Recipe (RecipeRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `historiesUrl` - レシピのバージョン履歴の URL。
- `licenseType` - レシピの Analytics ライセンスの種類。

Recipe Definition (RecipeDefinitionRepresentation)

このレスポンスボディには、次の更新されたプロパティがあります。

- `nodes` - `RecipeNodeRepresentation` オブジェクトのコレクション。

Recipe Name Label (RecipeNameLabelRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `label` - レシピノードの表示ラベル。
- `name` - レシピノードの名前。

Recipe Node (RecipeNodeRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `action` - レシピノード種別。有効な値は、`Aggregate`、`Append`、`Append_V2`、`Bucket`、`Clustering`、`ComputeRelative`、`DateFormatConversion`、`DetectSentiment`、`DiscoveryPredict`、`Export`、`Extract`、`Filter`、`Flatten`、`Formula`、`Join`、`Load`、`OutputExternal`、`PredictMissingValues`、`Save`、`Schema`、`Split`、`SqlFilter`、`TimeSeries`、`TypeCast` です。
- `schema` - ノード出力のスキーマの変更。
- `sources` - 取得元入力ノードのリスト。

各レシピノードアクションには、ベース `RecipeNodeRepresentation` を拡張する一意の応答表現があります。これらの表現についての詳細は、完全な開発者ガイドを参照してください。

SQL Step (SqlStepRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `broadcastFacet` - ステップがファセットをブロードキャストするか(`true`)、否か(`false`)を示します。
- `connectionName` - 外部データのクエリに使用する接続の名前。
- `query` - ステップのクエリ。
- `start` - ステップの開始値。
- `visualizationParameters` - ステップの視覚化パラメータ。

Tooltip Content (TooltipContentRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `body` - ツールチップの視覚化コンテンツ。
- `description` - ツールチップのテキストコンテンツ。

Tooltip (TooltipRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `content` - ツールチップのコンテンツ。
- `customizeTooltip` - ツールチップがカスタマイズされているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

Tooltip Source (TooltipSourceRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `name` - ツールチップ参照元の名前。
- `namespace` - ツールチップ参照元の名前空間。
- `type` - ツールチップ参照元の種別。サポートされている値は、`Step` です。

Tooltip Visualization (TooltipVisualizationRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `height` - ツールチップ参照元の高さ。
- `source` - 表示されているツールチップの視覚化の参照元。
- `width` - ツールチップ参照元の幅。

Unsupported Record (UnsupportedRecordRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `descriptorCount` - レコードの記述子の数。

Wave Features (WaveFeaturesRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `canUseDataPrepPilot` - データプレップパイロット設定が有効化されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

ユーザインターフェース API

レコードレイアウトの保存オプションを取得します。

レコードレイアウトの保存オプションを取得する

Record Layout レスポンスボディの新しい `saveOptions` プロパティは、レコードレイアウトの保存オプションのリストを返します。保存オプションでは、特定のレイアウトを使用してオブジェクトが作成または変更されたときに実行する動作を定義します。

Case や CaseComment が作成または更新されたときにメール通知を送信する

`/ui-api/records` や `/ui-api/records/{recordId}` を介してレコードを作成または更新するときに新しい `triggerOtherEmail` および `triggerUserEmail` 要求パラメータを使用します。

`triggerOtherEmail` を使用して、組織外のユーザにメールを送信するかどうかを指定します。Salesforce ユーザインターフェースで、このメールは、ケースの取引先責任者の作成、編集、削除によってトリガされます。

`triggerUserEmail` を使用して、組織のユーザにメールを送信するかどうかを指定します。Salesforce ユーザインターフェースで、このメールはパスワードのリセット、ユーザの作成、ケースへのコメントの追加によってトリガされます。

Account、Case、または Lead を作成または更新する場合に割り当てルールを指定する

`/ui-api/records` や `/ui-api/records/{recordId}` を介してレコードを作成または更新するときに新しい `useDefaultRule` 要求パラメータを使用します。

Case または Lead の場合、デフォルト (`active`) の割り当てルールを使用するかどうかを指定します。Account の場合、Account の更新時にすべてのテリトリー割り当てルールを適用するかどうかを指定します。

関連リストの項目 API 参照名とオブジェクト API 参照名を取得する

Related List Info レスポンスボディの新しい `fieldApiName` および `objectApiNames` プロパティでは、関連リストに関するより多くの情報が返されます。

サポートされるオブジェクト

これらのオブジェクトは、大部分のユーザインターフェース API リソースでサポートされるようになりました。リストビューリソースと最後に使用した (MRU) リストビューリソースでは、より少ないオブジェクトのセットがサポートされます (下記参照)。

- AiVisitTaskRcmd
- AiVisitTaskRcmdRequest
- AppExtension
- ApplicationCase
- AssessmentTaskDefinition
- AssessmentTaskIndDefinition
- BusinessHours
- CareProviderAdverseAction
- CareSpecialtyTaxonomy
- ClaimCoverage
- ClaimCoveragePaymentDetail
- ClaimCoverageReserveDetail
- ClaimCovPaymentAdjustment
- ClaimCovReserveAdjustment
- ClaimPaymentSummary
- DataStream
- FieldServiceMobileExtension
- FieldServiceMobileSettings
- ForecastingOwnerAdjustment
- Holiday
- InsurancePolicySurcharge
- InsurancePolicyTransaction
- Interaction
- InteractionAttendee
- InteractionSummary
- InteractionSummaryParticipant
- LiveChatTranscript
- MobileSettingsAssignment

- OmniDataTransform
- OmniDataTransformItem
- OmniProcess
- OmniProcessCompilation
- OmniProcessElement
- OmniScriptSavedSession
- OmniUiCard
- OpportunityHistory
- ProducerCommission
- ProductConsumed
- ProductItem
- ProductItemTransaction
- ProductRequest
- ProductRequestLineItem
- ProductRequired
- ProductServiceCampaignItem
- RegulatoryTrxnFee
- RegulatoryTrxnFeeItem
- ShiftPatternEntry
- ShiftTemplate
- SkillLevelDefinition
- Survey
- SwarmRequest
- VehicleUserAssignment
- Voucher
- VoucherDefinition
- WebStore

リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- AiVisitTaskRcmd
- AiVisitTaskRcmdRequest
- ApplicationCase
- AssessmentTaskDefinition
- CareProviderAdverseAction
- CareSpecialtyTaxonomy
- ClaimCoverage
- ClaimCoveragePaymentDetail
- ClaimCoverageReserveDetail
- ClaimCovPaymentAdjustment
- ClaimCovReserveAdjustment
- ClaimPaymentSummary

- InsurancePolicySurcharge
- InsurancePolicyTransaction
- Interaction
- InteractionAttendee
- InteractionSummary
- InteractionSummaryParticipant
- OmniDataTransform
- OmniDataTransformItem
- OmniProcess
- OmniProcessCompilation
- OmniProcessElement
- OmniScriptSavedSession
- OmniUiCard
- ProducerCommission
- ProductConsumed
- ProductItem
- ProductItemTransaction
- ProductRequest
- ProductRequestLineItem
- ProductRequired
- ProductServiceCampaignItem
- RegulatoryTrxnFee
- RegulatoryTrxnFeeItem
- ShiftPatternEntry
- ShiftTemplate
- SkillLevelDefinition
- Survey
- SwarmRequest
- VehicleUserAssignment
- Voucher

最後に使用した (MRU) **リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。**

- AiVisitTaskRcmd
- AiVisitTaskRcmdRequest
- ApplicationCase
- AssessmentTaskDefinition
- CareProviderAdverseAction
- CareSpecialtyTaxonomy
- ClaimCoverage
- ClaimCoveragePaymentDetail
- ClaimCoverageReserveDetail

- ClaimCovPaymentAdjustment
- ClaimCovReserveAdjustment
- ClaimPaymentSummary
- InsurancePolicySurcharge
- InsurancePolicyTransaction
- Interaction
- InteractionAttendee
- InteractionSummary
- InteractionSummaryParticipant
- OmniDataTransform
- OmniDataTransformItem
- OmniProcess
- OmniProcessCompilation
- OmniProcessElement
- OmniScriptSavedSession
- OmniUiCard
- ProducerCommission
- ProductConsumed
- ProductItem
- ProductItemTransaction
- ProductRequest
- ProductRequestLineItem
- ProductServiceCampaignItem
- RegulatoryTrxnFee
- RegulatoryTrxnFeeItem
- ShiftPatternEntry
- ShiftTemplate
- SkillLevelDefinition
- Survey
- SwarmRequest
- VehicleUserAssignment
- Voucher

関連リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- Voucher
- VoucherDefinition

Bulk API および Bulk API 2.0

より多くのオブジェクトがカバーされるように拡張され、クエリパフォーマンスが向上しています。

Bulk API および Bulk API 2.0 で 12 個の新しい PK-Chunking 対応オブジェクトを使用する

次のオブジェクトの Bulk API クエリの PK-Chunking を要求できるようになりました。Bulk 2.0 では、自動的に要求が実行されます。

- B2BMktActivity
- B2BMktProspect
- Claim
- ClaimParticipant
- ContractLineItem
- CustomerProperty
- InsurancePolicy
- InsurancePolicyAsset
- InsurancePolicyParticipant
- ProductConsumed
- ProductRequired
- ServiceContract

PK-Chunking 対応オブジェクトの完全なリストについては、Salesforce 開発者ドキュメントを参照してください。

Salesforce Bulk API 開発者ガイド: PK Chunking Header (PK Chunking ヘッダー)

Salesforce Bulk API 2.0 開発者ガイド: How Requests Are Processed (要求の処理方法)

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

モバイル

iOS および Android 用の Salesforce Field Service モバイルアプリケーションでオフラインになったときに表示する特定のユーザのレコードを選択する

BriefcaseDefinition オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 50.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

Salesforce アンケート

顧客ライフサイクルマップに関する情報を保存する

`BusinessProcessGroup` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 51.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

顧客ライフサイクルマップのフェーズに関する情報を保存する

`BusinessProcessDefinition` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 51.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

顧客ライフサイクルマップの各フェーズに関連付けられているアンケートや質問に関する情報を保存する

`BusinessProcessFeedback` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 51.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

フィードバックの収集に使用されるフィードバック収集方法に関する設定を保存する
`BusProcessFeedbackConfig` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、API バージョン 51.0 で導入され、『Tooling API Developer Guide (Tooling API 開発者ガイド)』に追加されました。

カスタマイズ

外部データ取得元を作成および管理する
新しい ExternalDataSource および CustomHttpHeader オブジェクトを使用して、Salesforce 組織の外部に保存されているデータおよびコンテンツとのインテグレーションに関する接続の詳細を管理します。

セキュリティと ID

指定ログイン情報を作成および管理する
新しい NamedCredential オブジェクトを使用して、コールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを 1 つの定義内に指定します。

Salesforce 組織の以前の [私のドメイン] の名前およびサフィックスに関する情報取得する
新しい MyDomainLog オブジェクトを使用します。

開発

プラットフォームイベント Apex トリガのバッチサイズと実行ユーザを設定する
新しい PlatformEventSubscriberConfig オブジェクトを使用して、プラットフォームイベントトリガを設定します。

パッケージバージョンの作成に使用される Salesforce バージョンに関する情報を取得する
Package2Version オブジェクトで新しい `ReleaseVersion` 項目を使用します。この項目は API バージョン 51.0 で新規追加されました。

パッケージバージョンの作成に要した時間に関する情報を取得する
Package2Version オブジェクトで新しい `BuildDurationInSeconds` 項目を使用します。この項目は API バージョン 51.0 で新規追加されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Salesforce 全体

アプリケーション内ガイダンスへの画像の追加
Prompt メタデータ型の PromptVersion サブタイプで新しい `image`、`imageAltText`、`imageLocation` 項目を使用します。

廃止: Prompt メタデータ型の PromptVersion サブタイプの `targetAppDeveloperName` および `targetAppNamespacePrefix` 項目を廃止
この項目は API バージョン 51.0 で廃止されます。

モバイル

特定のユーザの iOS および Android 用の Salesforce Field Service モバイルアプリケーションで、選択したレコードをオフラインで使用できるようにする

BriefcaseDefinition メタデータ型を使用します。この型は、API バージョン 50.0 で導入され、『メタデータ API 開発者ガイド』に追加されました。

コマース

Salesforce オムニチャネル在庫を有効にして Salesforce B2C Commerce と統合する

新しい InventorySettings メタデータ型を使用します。

フローで複数の注文配送グループの履行注文を作成する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目にある Order Management (注文管理) の新しい *`createFulfillmentOrders`* アクションを使用します。

注文された商品数量を在庫と比較し、フローで注文を履行できる最小限のロケーションの組み合わせを決定する

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目にある注文管理の新しい *`orderRoutingFindRoutesWithFewestSplits`* アクションを使用します。

在庫ロケーションのセットから注文受取人までの平均距離を計算し、フローにその平均距離順に並び替えたセットを返す

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目にある注文管理の新しい *`orderRoutingRankByAverageDistance`* アクションを使用します。

フローでのオムニチャネル在庫機能の使用

Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目にあるオムニチャネル在庫の新しいアクションを使用します。

- *`ociCreateReservation`* を使用して在庫予約を作成 します。
- *`ociFulfillReservation`* を使用して在庫予約を履行します。
- *`ociGetAvailability`.*を使用して在庫状況データを取得します。
- *`ociReleaseReservation`* を使用して在庫予約をリリースします。
- *`ociTransferReservation`* を使用して在庫予約を移行します。

セールス

注文状況変更の OrderStatusChangedEvent 通知を送信できるようにする

OrderSettings メタデータ型で EnableOrderEvents 設定を使用します。

新しい Developer Edition 組織へのリリース時に Salesforce Developer Edition 組織から ContractStatus 項目をエクスポートする。

メタデータ API を使用して、契約エンティティの ContractStatus 項目を参照してリリースします。

サービス

Einstein for Service 機能の設定を定義する

ServiceAISetupDefinition メタデータ型を使用します。

Einstein 記事レコメンデーションのケースまたは記事項目を指定する
ServiceAISetupField メタデータ型を使用します。

派遣作業員の到着時刻および追跡通知を Field Service に追加する
FieldServiceSettings メタデータ型で新しい `apptAssistantExpiration`、`apptAssistantInfoUrl`、`apptAssistantRadiusUnitValue`、`apptAssistantRadiusValue`、および `apptAssistantStatus` 項目を使用します。

Analytics

Analytics の新機能を有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で次の新しい項目を使用して、次の機能を有効にします。

- `enableOrgHasMobileOfflineEnabled` 項目を使用して、モバイルオフライン機能を有効にします。
- `enableReportHideXlsExportPref` 項目を使用して、Lightning Experience レポートの XLS レポート非表示機能を有効にします。
- `enableSalesforceOutputConnector` 項目を使用して、Salesforce 出力コネクタを有効にします。
- `enableSqlLiveDataset` 項目を使用して、SQL ライブデータセットを有効にします。
- `enableTableauHyperOutputConnector` 項目を使用して、Tableau Hyper 出力コネクタを有効にします。
- `sonicEnabled` 項目を使用して、音響機能を有効にします。

削除: API バージョン 51.0 で AnalyticsSettings メタデータ型から次の項目を削除

- `canSubscribeDashboardWidgets`
- `enablePowerInsights`
- `enableWaveTemplate`
- `enableSmartDataDiscovery`

一括管理

データを処理するための一括管理ジョブを定義する
新しい BatchProcessJobDefinition メタデータ型を使用します。

Data Processing Engine

Data Processing Engine 定義を使用してデータを変換する
新しい BatchCalcJobDefinition メタデータ型を使用します。

決定テーブル

レコードを処理するための決定テーブルルールを作成する
新しい DecisionTable メタデータ型を使用します。

決定テーブルの対応付けを定義する
新しい DecisionTableDatasetLink メタデータ型を使用します。

Experience Cloud

新しいナビゲーショントピックと主要トピックの画像を移行する

ContentAsset および ManagedTopics メタデータ型を使用します。API バージョン 49.0 以前でアップロードされた管理トピックの画像の場合、Document および ManagedTopics メタデータ型を使用します。

Build Your Own (LWR) サイトへのゲストユーザアクセスを制御する

ExperienceBundle 型の config フォルダの *site_name*.json ファイルで新しい `authenticationType` を使用します。

削除: SiteSettings 型の `enableWebruntimeBYOTemplate` 項目を削除

`enableWebruntimeBYOTemplate` 項目は API バージョン 51.0 で削除されます。

Salesforce フロー

スケジュール済みパスをレコードトリガフローに追加する

Flow メタデータ型の FlowStart メタデータサブタイプで新しい `scheduledPaths` 項目を使用します。詳細は、Salesforce リリースノートの「トリガイベントの後にレコードトリガフローの一部を実行」 (ページ 491)を参照してください。

フローで再アクセス画面値を制御する

既存の FlowScreenField メタデータ型で新しい `inputsOnNextNavToAssocScrn` 項目を使用します。詳細は、Salesforce リリースノートの「フローでの再アクセス画面コンポーネントの値の制御」を参照してください。

画面フローでアクションのトランザクションコントロールを設定する

Flow メタデータ型の FlowTransactionModel サブタイプで次の新しい値を使用します。

- 新しいトランザクションと現在実行されているトランザクションのどちらでコールアウトアクションを自動的に実行するのかをフローで決定できるようにするには、FlowTransactionModel 項目の新しい `Automatic` 値を使用します。
- アクションで常に新しいトランザクションを開始するには、FlowTransactionModel 項目の新しい `NewTransaction` 値を使用します。
- アクションで常に実行中のトランザクションを継続するには、FlowTransactionModel 項目の新しい `CurrentTransaction` 値を使用します。

詳細は、Salesforce リリースノートの「画面フローでのコールアウトエラーの自動回避」を参照してください。

セキュリティと ID

1つの以上のリアルタイムイベントのストリーミングおよび保存を有効または無効にして、リアルタイムイベントモニタリング設定を自動化する

新しい RealTimeEventSettings メタデータ型を使用します。

更新トークンフローのクライアントの秘密を要求する

ConnectedApp メタデータ型の ConnectedAppOauthConfig メタデータサブタイプで新しい `isSecretRequiredForRefreshToken` 項目を使用します。

ハイブリッドアプリケーションが OAuth 2.0 ハイブリッドアプリケーションフローを介して Lightning およびコンテンツの子セッションを直接取得できるようにする
ConnectedApp メタデータ型の ConnectedAppOauthConfig メタデータサブタイプで `scopes` 項目の新しい `Lightning` および `Content` 範囲を割り当てます。

ログインフローレコードを取得およびリリースする
`Profile` メタデータ型で新しい `loginFlows` 項目を使用します。

削除: SecuritySettings メタデータ型の `enableSetPasswordInApi` 項目を削除
`enableSetPasswordInApi` 項目は API バージョン 51.0 で削除されます。

サードパーティ Cookie がブロックされたときの Visualforce URL のインスタンス名を含める
既存の MyDomainSettings メタデータ型で新しい `useStabilizedMyDomainHostnames` 項目を使用します。

組織の [私のドメイン] の名前およびサフィックスを取得する
既存の MyDomainSettings メタデータ型で新しい `MyDomainName` および `MyDomainSuffix` 項目を照会します。

組織が Salesforce Edge Network 上に存在しているかどうかを判別する
既存の MyDomainSettings メタデータ型で新しい `useEdge` 項目を照会します。

削除: SessionSettings 型の `securityCentralKillSession` 項目を削除
`securityCentralKillSession` 項目は API バージョン 51.0 で削除されます。

削除: SecuritySettings 型の `isTLSv12Required` 項目を削除
`isTLSv12Required` 項目は API バージョン 51.0 で削除されます。

削除: SecuritySettings 型の `isTLSv12RequiredCommunities` 項目を削除
`isTLSv12RequiredCommunities` 項目は API バージョン 51.0 で削除されます。

未認証サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を定義する
CustomSite メタデータ型で新しい `siteGuestRecordDefaultOwner` 項目を使用します。

開発

プラットフォームイベント Apex トリガのバッチサイズと実行ユーザを設定する
新しい PlatformEventSubscriberConfig 型を使用して、プラットフォームイベントトリガを設定します。

Developer Edition 組織の AppExchange で認定され、セキュリティレビューに合格した管理パッケージで無料のプラットフォームキャッシュ容量を使用する
PlatformCachePartition メタデータ型の PlatformCachePartitionType メタデータサブタイプで新しい allocatedPartnerCapacity 項目を使用します。

組織の AI アプリケーションに関する情報を取得する
新しい AIApplication および AIApplicationConfig メタデータ型を使用します。

組織の機械学習予測に関する情報を取得する
新しい MLPredictionDefintion メタデータ型、MLDataDefintion メタデータ型、MLFilter サブタイプ、および MLField サブタイプを使用します。

Salesforce CPQ および Salesforce Billing API

Salesforce CPQ および Salesforce Billing API には、Apex、REST、SOAP CPQ および Billing API の新規、変更、廃止された機能が含まれます。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ API
Salesforce CPQ API には、Apex、REST、SOAP CPQ API の新規、変更、廃止された機能が含まれます。

Salesforce CPQ API

Salesforce CPQ API には、Apex、REST、SOAP CPQ API の新規、変更、廃止された機能が含まれます。

Salesforce CPQ の更新されたサードパーティコンフィグレータを使用して、より多くの画面スペースを利用する

Salesforce CPQ コンフィグレータでは、バンドル商品のオプションを追加または削除できます。Salesforce CPQ サードパーティコンフィグレータを使用すると、見積品目エディタから独自のコンフィグレータを起動できます。フレームの縁のパディングが削除されたため、独自のレイアウトで使用できるスペースが増えました。また、[キャンセル] ボタンも削除されました。これにより、独自の設計を自由に行うことができます。

契約を更新または修正するときに、応答に見積モデルではなく見積 ID が含まれていることを示す

ContractAmender API の新しい `AmendmentContext` クラスと共に ContractRenewer API の新しい `returnOnlyQuoteId` フラグを使用します。

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API では、Lightning コンソールアプリケーションとユーティリティバーをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

対象: これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

用語

説明

Salesforce Anywhere

Quip for Customer 360 の使い慣れたすべての機能が含まれるようになった、拡張された新しい Salesforce Anywhere が導入されました。Salesforce Anywhere Beta 機能の最新の更新を確認してください。

このセクションの内容:

Salesforce Anywhere 機能を使用できるようになるタイミング
いつ Salesforce Anywhere の新機能の使用を開始できるようになり、いつ他の機能が廃止されるのかを確認します。

Quip for Customer 360 から Salesforce Anywhere Advanced への名称変更

Salesforce Anywhere Advanced は、Salesforce データのコンテキストでチームの決定を迅速かつ効率的に行うことができるように設計されています。文書、スプレッドシート、テンプレート、メッセージで Salesforce のライブデータを使用することで、常にデータがチームワークの中心になります。

Salesforce Anywhere 設定を使用した迅速な稼働

Salesforce の [設定] の 1 つのページから Salesforce Anywhere のすべての機能を設定します。既存の Quip for Customer 360 ユーザは、Quip 設定ページではなく、Salesforce Anywhere 設定ページから各自の設定を管理できるようになりました。Salesforce Anywhere Advanced および Salesforce Anywhere Beta のユーザは、Salesforce Anywhere 設定ページから各自の設定を管理できます。

大規模な会社のカスタムテンプレートの共有 (テンプレートライブラリ)

Quip 管理コンソールから会社全体のテンプレートをテンプレートライブラリの会社ギャラリーに公開します。会社ギャラリーによりビジネス全体のプロセスをより簡単に合理化および共有できます。

任意の場所からの文書の作成 (Salesforce での文書の作成)

Lightning Experience の任意の場所から文書を作成し、レコードにリンクできます。[新規文書] グローバルアクションを使用すると、ユーザは Salesforce データのコンテキストで自由形式のメモを取ることができます。

テンプレート化された Salesforce データメンションを使用したテンプレートの動的化

テンプレート化された Salesforce データメンションを使用して、Salesforce レコードに基づいて組み込みテンプレートを自動入力します。手動の差し込み印刷構文とは異なり、動的データメンションは Salesforce でデータが変更されても最新の状態に保たれます。

文書範囲を使用したテンプレートのセクションの定義

テンプレートにヘッダーを追加して、文書範囲を作成し、テンプレートの構造を確認します。テンプレートのセクションを使用して、範囲名に基づいてビジネスプロセスや自動化を簡単に作成できるようになりました。

文書範囲の更新、セクションのロック、Salesforce フローを使用した PDF への文書のエクスポート

Salesforce フローの新しいアクションを使用して、文書とテンプレートワークフローを合理化します。定義された文書範囲に基づいて、新しいコンテンツを文書に自動的に追加します。文書セクションをロックして、誤って編集されないようにします。完了した文書を PDF にエクスポートします。

Quip スライドの廃止

Quip スライドは、2021 年 1 月 31 日に廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはスライドを作成できなくなり、既存のスライドは参照のみになります。

iOS での Salesforce データメンションの追加、[すべてのファイル] ビューからの文書のリンク済み Salesforce レコードの確認、その他の機能強化

Quip の Salesforce Anywhere エクスペリエンスが改善されました。

Lightning Experience でのより簡単なアラートへのアクセス (ベータ)

新しい Salesforce Anywhere アラートアイコン (ベータ) では、Salesforce で変更があったことを把握して、すばやくアクションを実行できます。

アラートの迅速な登録 (ベータ)

登録テンプレートを使用すると、登録パラメータをすばやく定義できます。ユーザはテンプレート条件をカスタマイズして、目的のアラートのみを取得できます。

Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ)

Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ) により、Salesforce Anywhere メッセージと他のコミュニケーションを区別できます。ユーザが Salesforce Anywhere メッセージを受信するとメッセージ音が鳴ります (ベータ)。

リリースされたベータ機能の確認

Salesforce Anywhere Beta 機能には、カスタマイズされたアラート、メッセージング、推奨アクションなどがあります。

Salesforce Anywhere 機能を使用できるようになるタイミング

いつ Salesforce Anywhere の新機能の使用を開始できるようになり、いつ他の機能が廃止されるのかを確認します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

機能	日付
新しい Salesforce Anywhere 設定	組織でリリースを公開するとき
アラート登録テンプレート (ベータ)	Salesforce プレビュー
Lightning Experience のアラートアイコン (ベータ)	Salesforce プレビュー
Lightning Experience の Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ)	組織でリリースを公開するとき
[新規文書] グローバルアクション (Salesforce での文書の作成)	Salesforce プレビュー
Salesforce フローアクション	Salesforce プレビュー
スライドの廃止	2021 年 1 月 31 日
文書範囲	Salesforce プレビュー
動的な Salesforce データメンション	2021 年 2 月末
会社ギャラリー (テンプレートライブラリ)	2021 年 3 月末
iOS の Salesforce データメンション	2021 年 2 月末
iOS での Salesforce データメンションの編集	2021 年 3 月末
Salesforce データメンションスプレッドシートのサポート	2021 年 1 月末
Salesforce データメンションのカスタムレイアウト	2021 年 3 月末
Quip での Salesforce 検索条件	2021 年 3 月
ナビゲーションのリンク済み Salesforce レコード	2021 年 2 月
文書のリンクの機能強化	2021 年 3 月

機能	日付
フォルダリンク共有	2021 年 1 月
Quip カラーパレット	2021 年 1 月

Quip for Customer 360 から Salesforce Anywhere Advanced への名称変更

Salesforce Anywhere Advanced は、Salesforce データのコンテキストでチームの決定を迅速かつ効率的に行うことができるように設計されています。文書、スプレッドシート、テンプレート、メッセージで Salesforce のライブデータを使用することで、常にデータがチームワークの中心になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Quip for Customer 360 は Salesforce Anywhere と統合され、Salesforce Anywhere ブランドの下でさらに多くの機能が提供されます。それほど多くはありませんが、今後 Salesforce の製品やドキュメントで Quip for Customer 360 について言及されている場合は、Salesforce Anywhere Advanced のことを指します。

Salesforce Anywhere 設定を使用した迅速な稼働

Salesforce の [設定] の 1 つのページから Salesforce Anywhere のすべての機能を設定します。既存の Quip for Customer 360 ユーザは、Quip 設定ページではなく、Salesforce Anywhere 設定ページから各自の設定を管理できるようになりました。Salesforce Anywhere Advanced および Salesforce Anywhere Beta のユーザは、Salesforce Anywhere 設定ページから各自の設定を管理できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プラン、Salesforce Anywhere Advanced、または Salesforce Anywhere Beta を使用する Salesforce 組織で使用できます。

方法: [Salesforce の設定] の [クイック検索] ボックスに `「Salesforce Anywhere」` と入力し、**[Salesforce Anywhere (Quip)]** を選択します。ガイド付きステップに従います。

大規模な会社のカスタムテンプレートの共有 (テンプレートライブラリ)

Quip 管理コンソールから会社全体のテンプレートをテンプレートライブラリの会社ギャラリーに公開します。会社ギャラリーによりビジネス全体のプロセスをより簡単に合理化および共有できます。

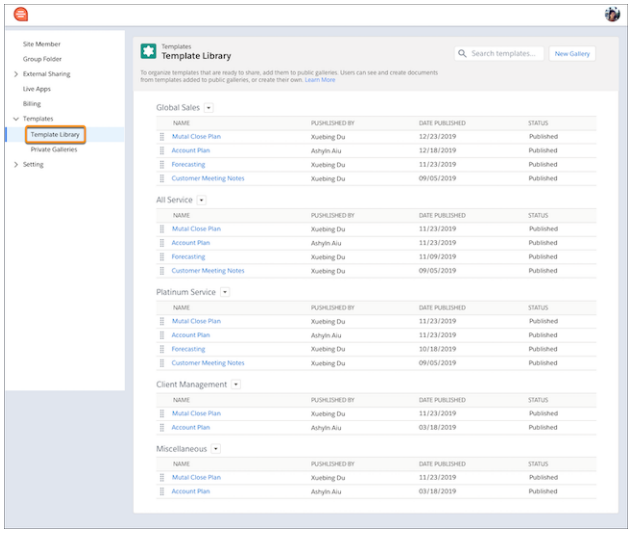
対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プラン、Quip エンタープライズプラン、または Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。Quip 管理者のみがテンプレートを公開ギャラリーに公開できます。

理由: ビジネスニーズに合わせてさまざまな会社ギャラリー (グローバル営業用やクライアント管理用など) を作成し、カスタムテンプレートを公開します。チームで簡単に必要なテンプレートを見つけることができ、テンプレートが管理者に承認されていることもわかります。

Quip管理コンソールのテンプレートライブラリ管理では、すべての非公開テンプレートを確認したり、共有する準備ができたときに会社ギャラリーに公開したりできます。テンプレートは、整理された状態が維持され、簡単に公開および削除できます。非公開ギャラリーテンプレートにアクセスできるユーザを管理することもできます。

方法: Quip 管理コンソールから会社ギャラリーを作成し、テンプレートを公開します。共有テンプレートを会社ギャラリーに公開すると、ユーザの [自分と共有] ギャラリーからテンプレートが削除されます。



任意の場所からの文書の作成 (Salesforce での文書の作成)

Lightning Experience の任意の場所から文書を作成し、レコードにリンクできます。[新規文書] グローバルアクションを使用すると、ユーザは Salesforce データのコンテキストで自由形式のメモを取ることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: [新規文書] グローバルアクションを使用して、Salesforceページから離れることなく文書を作成します。使い慣れたすべての要素 (@メンション、Salesforce データメンション、スプレッドシートなど) を文書に追加します。共有する準備が整ったら、Salesforce レコードにリンクして、チームとコラボレーションします。

方法: [設定] の [パブリッシャーレイアウト] から、[新規文書] グローバルアクションを [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] セクションに追加します。

テンプレート化された Salesforce データメンションを使用したテンプレートの動的化

テンプレート化された Salesforce データメンションを使用して、Salesforce レコードに基づいて組み込みテンプレートを自動入力します。手動の差し込み印刷構文とは異なり、動的データメンションは Salesforce でデータが変更されても最新の状態に保たれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: 不正確な差し込み印刷構文や、レコード項目と合っていない差し込み印刷は過去のことです。動的な Salesforce データメンションにより、組み込みテンプレートに追加されたテンプレート化された項目は、常にオブジェクトの使用可能な項目と一致し、Salesforce と同期されます。

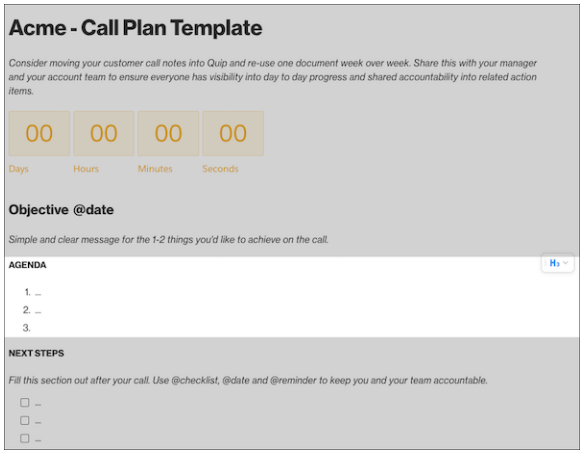
文書範囲を使用したテンプレートのセクションの定義

テンプレートにヘッダーを追加して、文書範囲を作成し、テンプレートの構造を確認します。テンプレートのセクションを使用して、範囲名に基づいてビジネスプロセスや自動化を簡単に作成できるようになりました。

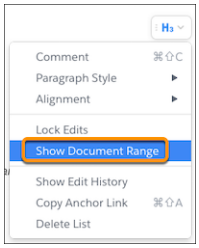
対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: 文書範囲名を使用して、文書範囲に基づいて独自のオートメーション API を作成したり、Salesforce フローを使用してコンテンツをテンプレートに追加したりします。



方法: テンプレートで、ヘッダーメニューをクリックして、[文書範囲を表示]を選択します。Salesforce フローで文書範囲に基づいてコンテンツを更新するには、[文書を編集]または[Live Paste でコンテンツをコピー]アクションを使用して、文書範囲の配置を選択します。



文書範囲の更新、セクションのロック、Salesforce フローを使用した PDF への文書のエクスポート

Salesforce フローの新しいアクションを使用して、文書とテンプレートワークフローを合理化します。定義された文書範囲に基づいて、新しいコンテンツを文書に自動的に追加します。文書セクションをロックして、誤って編集されないようにします。完了した文書を PDF にエクスポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織で使用できます。

方法: Spring '21 以降、Quip および Salesforce Anywhere アクションは、プロセスビルダーおよび Flow Builder の [Salesforce Anywhere] セクションで使用できます。

Quip スライドの廃止

Quip スライドは、2021 年 1 月 31 日に廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはスライドを作成できなくなり、既存のスライドは参照のみになります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織に適用されます。

方法: Quip スライドの廃止は、Lightning Experience の次の機能に影響します。

- Quip 文書コンポーネントまたは Quip 関連文書コンポーネントからスライドを作成できなくなります。
- Salesforce フローの [文書を作成] アクションでスライドを作成できなくなります。
- Salesforce フローの [文書を編集] アクションで新しいスライドを挿入したり、スライドの画像を変更したりできなくなります。
- Salesforce フローの [コンテンツをコピー] アクションで新しいスライドコンテンツをコピーできなくなります。

iOS での Salesforce データメンションの追加、[すべてのファイル] ビューからの文書のリンク済み Salesforce レコードの確認、その他の機能強化

Quip の Salesforce Anywhere エクスペリエンスが改善されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、既存の Quip for Customer 360 プランまたは Salesforce Anywhere Advanced を使用する Salesforce 組織に適用されます。

理由: Salesforce Anywhere (Quip) の機能強化には次の機能が含まれています。

- Quip iOS アプリケーションから Salesforce データメンションを挿入および編集する。
- 文書、チャットルーム、スプレッドシートのタイトルに追加された Salesforce データメンションを検索する。
- ミラー化された Salesforce 権限が有効になっている場合にスプレッドシートで Salesforce データメンションを使用する。
  - Salesforce データメンションを数式に追加します。
  - Salesforce データメンションが含まれるセルを参照します。
- Salesforce データメンションのカスタマイズされたレイアウトを使用して、目的のデータを確認する。
  - Web、デスクトップ、iOS でカスタムレコードレイアウトを作成します。
- Quip の検索結果を Salesforce オブジェクトまたはレコードで絞り込む。
  - 検索で Salesforce オブジェクトまたはレコード検索条件を使用して、レコードにリンクされている文書を見つけます。
  - Salesforce レコードを参照するライブアプリケーションまたはデータメンションを使用して文書を検索します。
  - 文書を Salesforce 取引先オブジェクト種別で絞り込むことで、Quip でアカウントプランをより簡単に検索できるようにします。
- Quip の [すべてのファイル] ビューから文書がリンクされている Salesforce レコードを確認する。
  - 文書のリストをすばやくスキャンし、Salesforce レコードにリンクされている文書を確認します。
- Quip からより簡単に文書をレコードにリンクする。
  - 従来よりも簡単に Salesforce アクションクラウドから文書をレコードにリンクできるようになりました。
  - Quip でリンクされたレコードを表示および管理します。
  - 文書にリンクする Salesforce レコードのスマートなおすすめを取得します。
- フォルダのリンクを共有する。
  - フォルダリンク共有を使用して、Quip でより簡単にフォルダを共有できるようにします。
- Quip サイトのカラーパレットをカスタマイズする。
  - ダークモードまたはライトモードでお気に入りのすべての Quip 機能を使用します。

- 色のコントラストが増えました。

Lightning Experience でのより簡単なアラートへのアクセス (ベータ)

新しい Salesforce Anywhere アラートアイコン (ベータ) では、Salesforce で変更があったことを把握して、すばやくアクションを実行できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

> **メモ:** Salesforce Anywhere Beta は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。

対象ユーザ: Salesforce Anywhere ベータプログラムに登録されている Salesforce 組織で使用できます。Lightning Experience 権限セット (ベータ) で Salesforce Anywhere に割り当てられているユーザは、自動的に Salesforce Anywhere アラートアイコン (ベータ) を使用できます。

理由: より少ないクリック数でアラートにアクセスできます。ユーザは、Salesforce Anywhere メッセージアイコン (ベータ) をクリックして、未読アイコンが示している内容 (メッセージまたはアラート) を確認する必要がなくなりました。

方法: Salesforce Anywhere アラートアイコンからアラートを確認し (ベータ)、必要に応じてアクションを実行します。

アラートの迅速な登録 (ベータ)

登録テンプレートを使用すると、登録パラメータをすばやく定義できます。ユーザはテンプレート条件をカスタマイズして、目的のアラートのみを取得できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

> **メモ:** Salesforce Anywhere Beta は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。

対象ユーザ: Salesforce Anywhere ベータプログラムに登録されている Salesforce 組織で使用できます。

方法: アラート登録を開始し、目的の項目が含まれる登録テンプレートを選択します。

アラートの生成条件をカスタマイズするには、[編集] を選択して、条件を調整します。

Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ)

Salesforce Anywhere メッセージ音 (ベータ) により、Salesforce Anywhere メッセージと他のコミュニケーションを区別できます。ユーザが Salesforce Anywhere メッセージを受信するとメッセージ音が鳴ります (ベータ)。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

メモ: Salesforce Anywhere Beta は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。

対象ユーザ: Salesforce Anywhere ベータプログラムに登録されている Salesforce 組織で使用できます。

リリースされたベータ機能の確認

Salesforce Anywhere Beta 機能には、カスタマイズされたアラート、メッセージング、推奨アクションなどがあります。

対象: これらの変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。機能の説明には、プラットフォームの使用可能状況も含まれます。

メモ: Salesforce Anywhere Beta は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。

時期: これらの機能は、2020 年 7 月から 11 月の間にリリースされました。

理由: 以前にリリースされた Salesforce Anywhere Beta 機能は次のとおりです。

- **11 月 2020 日**
  - 表示項目の選択 (ベータ)

    不要な情報はもう表示されません。ユーザは、特定のレコードタイプを参照するときに表示される項目とその表示順序を選択できるようになりました。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

  - 最もよく使用される項目の表示 (ベータ)

    ユーザは、レコードレイアウトに割り当てていなくても、頻繁に使用する項目を表示できるようになりました。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

  - 再設計されたモバイルアプリケーションによる高い生産性の維持 (ベータ)

    再設計された Salesforce Anywhere アプリケーションでは生産性が考慮されています。タブが並び替えられていて、専用のホームページには最近使用したレコードが表示されます。また、Salesforce での更新を促すために [アクション] タブが強調表示されます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

- **2020 年 10 月**
  - **Salesforce Anywhere に関するフィードバック (ベータ)**

    新しいアプリケーション内アンケートを使用すると、ユーザはアプリケーションを評価して、ユーザエクスペリエンスに関する詳細を提供できます。このフィードバックは製品の改善に役立ちます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。
  - **Salesforce を更新するためのアラームの取得 (ベータ)**

    ユーザは、目的の項目が指定の期間変更されていないときに通知するようにアラートを設定できます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。
  - **チャットメッセージを後で忘れずに閲覧するための設定 (ベータ)**

    ユーザは、チャットを未読としてマークすることで後で戻るチャットを追跡できます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。
  - **モバイルのレコードビューから実行できる操作の増加 (ベータ)**

    Salesforceのタスクを完了するためにデバイスを切り替える必要はもうありません。ユーザはモバイルのレコードビューから Salesforce アクション (新規イベントの記録など) にアクセスできるようになりました。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。
- **2020 年 9 月**
  - **設定の進行状況を一目で確認 (ベータ)**

    高度な設定ページに、設定の進行状況、不適切な設定の警告、モバイルおよび Lightning Experience で Salesforce Anywhere を使用する権限を持つユーザの数が表示されるようになりました。いつでも 1 回のクリックで設定を確認できます。Lightning Experience で使用可能。
  - **アクションおよびページレイアウトでの Salesforce Anywhere の簡単な使用 (ベータ)**

    一部の Salesforce Anywhere 機能 (チャットの開始やアラートの登録など) は、レコードページのアクションから簡単にアクセスできます。一部の標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトではアクションが自動的に表示されますが、ページレイアウトを変更して他のオブジェクトにアクションを追加することもできます。Lightning Experience で使用可能。
  - **Lightning Experience での登録の作成と管理 (ベータ)**

    ユーザは Lightning Experience でレコード、リスト、レポートの登録を作成および管理できるようになりました。ユーザは、アラートを送信するデータの変更の種類を選択でき、それらのパラメータはいつでも変更できます。Lightning Experience で使用可能。
  - **チャットおよびアラートからのレコードの編集による追加ステップの排除 (ベータ)**

    Salesforce データを更新するためにタブを切り替える必要はもうありません。ユーザは Salesforce Anywhere チャットおよびアラート内から Salesforce レコードを編集できるようになりました。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。
- **2020 年 7 月**
  - **Salesforce データへの変更に関するカスタマイズされたアラートの取得 (ベータ)**

ユーザは、アラートするレコード、リストビュー、レポートや、目的の変更の種類を選択できます。チームメイトが最新情報を得られるように、ユーザは個々のアラートをチャットで共有できます。また、ユーザはアラート登録を他のユーザに転送できます。これにより、同じアラートを取得できます。Lightning Experience および Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

- **Salesforce 内でのチームメイトとのチャット (ベータ)**

  商談やサービスケースを議論するためにアプリケーションを往復する必要がなくなりました。Salesforce Anywhere を使用すれば、ユーザはアプリケーションから離れることなくチームメイトとチャットしたり、Salesforce レコードを表示したりできます。Lightning Experience および Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

- **Salesforce データの最新状態の維持 (ベータ)**

  推奨アクションを使用すると、数回タップするだけで最も重要な項目を更新できるおすすめアクションがユーザに表示されます。また、ユーザは活動の記録、ToDo の作成、レコードの更新を簡単に行うこともできます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

- **Salesforce データの検索および表示 (ベータ)**

  コンピュータから離れていても Salesforce 検索を利用できます。ユーザは各自のすべての Salesforce データを検索して、オブジェクト種別ごとに整理された結果から選択し、レコードの詳細をすぐに確認できます。ユーザが複数の Salesforce 組織にアクセスできる場合、組織を切り替えることができます。Salesforce Anywhere iOS モバイルアプリケーションで使用できます。

- **プロセスおよびフローでの Salesforce Anywhere チャットおよびアラートの使用 (ベータ)**

  ユーザは、Salesforce フローの Salesforce Anywhere の呼び出し可能なアクションを使用して、Salesforce で各自の作業を追跡し、関連するチームメイトとコラボレーションできます。アクションを使用してチャットを作成したり、既存のチャットにメンバーを追加したり、メッセージを送信したり、ユーザにアラートを送信したりするロジックを設定します。Lightning Experience で使用可能。

- **Salesforce Anywhere の迅速な設定 (ベータ)**

  短時間でユーザを稼働させるために、設定操作がすばやく簡単になりました。自動的に作成される権限セットでユーザアクセスを簡略化し、組み込みリソースを使用して Lightning Experience およびモバイルでユーザに Salesforce Anywhere を紹介します。Lightning Experience で使用可能。

Pardot

Pardot をより迅速に設定し、ファーストパーティ追跡を使用してエンゲージメントデータストリームを維持し、メールのパーソナライズ、到達性、レポート作成に関する拡張機能を使用します。コピーアクションも改良され、簡単にメールのコンテンツやキャンペーンに関連付けられた新しいアセットタイプをコピーできるようになりました。

このセクションの内容:

キャンペーンとアセット
Spring '21 には、アカウントベースのマーケティング活動をサポートし、一般的な作業を合理化する機能強化が含まれています。

メールマーケティング

Spring '21 でのメールマーケティングの機能強化では、メール保持、パフォーマンス分析、返信先および送信元アドレスに関する柔軟性に重点が置かれています。

分析とレポート

Pardotの指示的分析機能と予測分析機能によって、信頼できる総計値が提供され、柔軟性がこれまで以上に向上しました。

ファーストパーティ追跡を使用したプロスペクトのアクティビティデータの保護 (正式リリース)

Pardotのファーストパーティ追跡が正式リリースされました。ファーストパーティ追跡を使用すると、プロスペクトのアクティビティデータを失うことなく、キャンペーン属性の柔軟性を高めて、ドメイン以外からのトラフィックをブロックできます。消費者のプライバシーを保護するため、Web ブラウザはアセットとドメインでのアクティビティを追跡するサードパーティの Cookie のサポートを終了しつつあります。

新しい Salesforce マーケティング設定アプリケーションからの Pardot 設定アシスタントへのアクセス

Pardotのすべての標準設定作業をマーケティング設定アプリケーションで一元的に行うことができるようになりました。今後のリリースでは、その他の Salesforce マーケティングツールの設定や既存の Pardot 設定アシスタントの機能強化が予定されています。

Pardot の [会社] 項目によって [Pardot アカウントの設定] の [ビジネスユニット名] が決定

混乱を避けるために、[Pardot 設定] の [会社名] 項目が Pardot ビジネスユニットの一元化された情報源として機能するようになりました。Salesforce の設定のビジネスユニット名との間で競合がある場合には Pardot の [会社名] 項目が Salesforce での名前を上書きします。以前は、ビジネスユニットが Salesforce と Pardot で名前が異なる場合がありました。

さまざまなビジネスユニットのリードまたは取引先責任者とのプロスペクトの安全な同期

Salesforce-Pardot コネクタの新しい設定を使用すると、Pardot パッケージの項目が Salesforce のリードレコードや取引先責任者レコードに同期されなくなります。この設定をカスタム設定の一部として使用して、さまざまな Pardot ビジネスユニットから Salesforce の 1 つのリードまたは取引先責任者に安全にプロスペクトを同期します。重複するリードまたは取引先責任者レコードを維持する必要はありません。パートナーと協力して、組織でこれを実装することをお勧めします。

Pardot API V5 の正式リリース

Pardot API の新しく標準化されたバージョンを使用できるようになりました。Pardot API のバージョン 5 には新しいエンドポイントが用意されているため、カスタムリダイレクトを管理し、独自の外部ランディングページテンプレートおよびファイルを Pardot にインポートできます。

Pardot API: 新規および変更された項目

これらの新機能および変更により、Pardot API をより効果的に使用できます。

Pardot ユーザ認証の廃止

Pardot のユーザ認証システムは 2021 年 2 月 15 日に廃止されます。それ以降は、すべてのユーザが Salesforce シングルサインオン (SSO) を使用する必要があります。まだ実行していない場合は、Salesforce 組織を準備する手順を実行し、できるだけ早くすべての Pardot ユーザに対して SSO を有効にしてください。Sales Cloud や Service Cloud のフルライセンスを必要としない Pardot 限定ユーザがいるお客様をサポートするために、Salesforce 組織には 100 個の Identity ライセンスが追加費用なしでバンドルされるようになりました。これらのライセンスを使用して、残っている Pardot 限定ユーザを Salesforce SSO に移行できます。

キャンペーンとアセット

Spring '21 には、アカウントベースのマーケティング活動をサポートし、一般的な作業を合理化する機能強化が含まれています。

このセクションの内容:

関連情報を含むキャンペーンの迅速なコピー
既存のキャンペーンと同じ関連レコードを含むキャンペーンを作成する場合に、より多くのレコードタイプにすばやくアクセスできるようになりました。キャンペーンレコードで強化された [関連情報と共にコピー] ツールを使用できます。このツールには、マーケティングリンク、マーケティングフォーム、ランディングページが含まれています。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)
キャンペーンメンバーとしての取引先を含む接続済みキャンペーンを使用する場合は、取引先ベースのマーケティング活動を強化します。キャンペーンのメンバーとして取引先レコードを追加し、キャンペーンメンバーを含むテーブル、関連リスト、レポートでそれらの取引先に注目できるようにします。

キャンペーンのビジネスユニット別整理
新しい [ビジネスユニット] 項目を使用すると、この重要なデータポイントに基づいてキャンペーンを整理し、並び替え、レポートを作成することができます。現在ログインしているビジネスユニットとは関係なくこの情報を確認できます。この項目は参照のみで、キャンペーンとビジネスユニットの間の 1 対 1 リレーションのみをサポートしています。

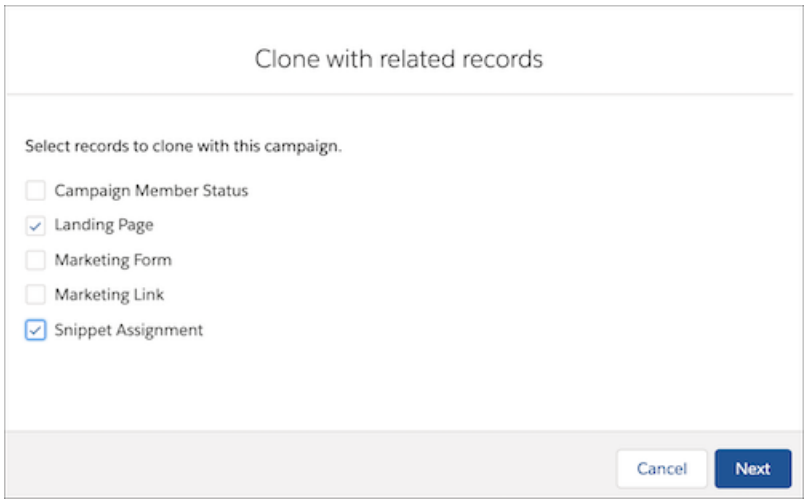
Webex Web セミナーの保護
Pardot は、Webex コネクタに OAuth 認証方法を使用するようになりました。サービスの中断を防ぐには、アプリケーションのアラートバナーを使用して Webex コネクタの再認証と検証を行います。

関連情報を含むキャンペーンの迅速なコピー

既存のキャンペーンと同じ関連レコードを含むキャンペーンを作成する場合に、より多くのレコードタイプにすばやくアクセスできるようになりました。キャンペーンレコードで強化された [関連情報と共にコピー] ツールを使用できます。このツールには、マーケティングリンク、マーケティングフォーム、ランディングページが含まれています。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ユーザはキャンペーンのアクションメニューから [関連情報と共にコピー] を選択し、含める関連レコードタイプを選択できます。[マーケティングリンク] タイプにはカスタムリダイレクトとファイルが含まれています。[マーケティングフォーム] タイプにはフォームとフォームハンドラが含まれています。



この機能には操作とアカウントの制限が適用されるため、開始前にキャンペーンに関連付けられたレコード件数を確認することをお勧めします。

キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)

キャンペーンメンバーとしての取引先を含む接続済みキャンペーンを使用する場合は、取引先ベースのマーケティング活動を強化します。キャンペーンのメンバーとして取引先レコードを追加し、キャンペーンメンバーを含むテーブル、関連リスト、レポートでそれらの取引先に注目できるようにします。

対象: この変更は、任意の Pardot エディションが付属するすべての Salesforce エディションに適用されます。

メモ: キャンペーンメンバーとしての取引先はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。キャンペーンメンバーとしての取引先に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

関連トピック:

- キャンペーンメンバーとしての取引先の追跡 (ベータ)
- お客様のご要望

キャンペーンのビジネスユニット別整理

新しい[ビジネスユニット]項目を使用すると、この重要なデータポイントに基づいてキャンペーンを整理し、並び替え、レポートを作成することができます。現在ログインしているビジネスユニットとは関係なくこの情報を確認できます。この項目は参照のみで、キャンペーンとビジネスユニットの間の 1 対 1 リレーションのみをサポートしています。

対象: この変更は、任意の Pardot Edition が付属する Salesforce の **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition に適用されます。

Webex Web セミナーの保護

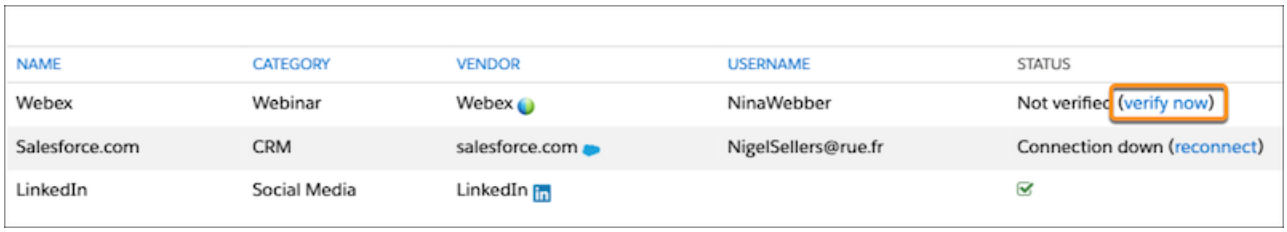
Pardot は、Webex コネクタに OAuth 認証方法を使用するようになりました。サービスの中断を防ぐには、アプリケーションのアラートバナーを使用して Webex コネクタの再認証と検証を行います。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

時期: 新しい認証方法へのアップグレードを促進するために 2021 年 1 月 4 日にバナーが表示されます。2021 年 2 月 15 日には、Pardot によって自動的に更新が転送され、コネクタが再検証されるまで Web セミナーが同期しなくなる可能性があります。

方法: 2 月 15 日より前には、アカウントの Webex バナーをクリックして作業を開始します。画面の指示に従って Webex にログインすることでコネクタを再検証します。

2 月 15 日の自動更新以降は、コネクタを再検証する必要があります。コネクタ設定を開き、Webex コネクタを見つけて [今すぐ確認] をクリックします。



メールマーケティング

Spring'21 でのメールマーケティングの機能強化では、メール保持、パフォーマンス分析、返信先および送信元アドレスに関する柔軟性に重点が置かれています。

このセクションの内容:

2 クリック登録解除によるメールマーケティング維持の向上

2 クリック登録解除を使用すると、メールの受信を希望しないことをプロスペクトが確認する必要があるため、メールセキュリティスキャナが自動的にプロスペクトを登録解除することを防止できます。メール登録者が登録解除リンクをクリックしたときに表示されるメッセージもカスタマイズできます。

カスタムレポートを使用したメールコンテンツパフォーマンスの分析

カスタムレポートタイプの主オブジェクトとしてメールコンテンツを選択できるようになりました。また、リストメールオブジェクトを関連オブジェクトとして選択できます。そうすることで、マーケティング担当者はメールコンテンツのパフォーマンスとエンゲージメントを示すレポートを作成できます。たとえばレポートにメールコンテンツレコード別のエンゲージメント統計を表示することができます。

メールコンテンツレコードのコピーによる時間の節約

マーケティング担当者はメールコンテンツをコピーできるようになりました。メールの整合性を維持できる一方で、引き続きメールコンテンツをリストメールとして送信する前に微調整する柔軟性もあります。メールコンテンツ名、説明、テンプレート、HTML コンテンツがコピーされます。

Pardot メールの完了アクションのリンクの指定

マーケティング担当者は、特定のリンクを設定してメールの完了アクションをトリガできるようになり、メールの送信をより詳細に制御できるようになりました。以前は、メール内で任意のリンクがクリックされたときに定義済みの自動アクションがトリガされていました。

Pardot メールへの代替返信先と代替メール送信者の追加

マーケティング担当者はメール送信者と返信先の代替アドレスを指定することによって、メールのアドレス設定を管理し、合理化できます。従来の Pardot メールと同等の操作環境で、さまざまなプロスペクトに対するメールの表示方法をより詳細に制御できます。たとえば、送信者として [Account Assigned Owner (取引先に割り当てられた所有者)] を選択すると、プロスペクトの取引先所有者がメール送信者として表示されます。

メール送信設定の定義時のメール可能なプロスペクト数の表示

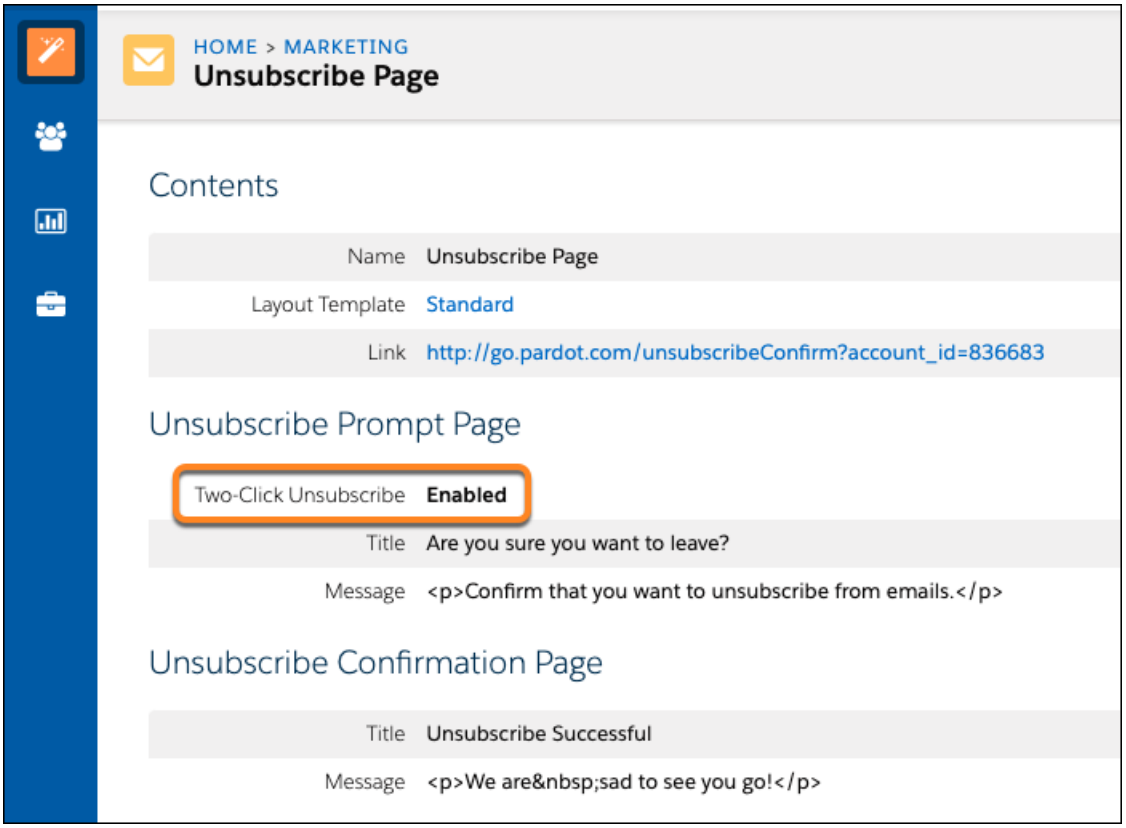
マーケティング担当者は、選択した受信者と除外リストに基づいてメール送信先のプロスペクト数を確認できるようになりました。Pardot メールの送信モーダルに、そのメールのメール可能なプロスペクト数が表示されます。

2 クリック登録解除によるメールマーケティング維持の向上

2 クリック登録解除を使用すると、メールの受信を希望しないことをプロスペクトが確認する必要があるため、メールセキュリティスキャナが自動的にプロスペクトを登録解除することを防止できます。メール登録者が登録解除リンクをクリックしたときに表示されるメッセージもカスタマイズできます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

方法: Pardot の [登録解除ページ] から、2 クリック登録解除を有効にして、プロンプトと確認メッセージをカスタマイズします。

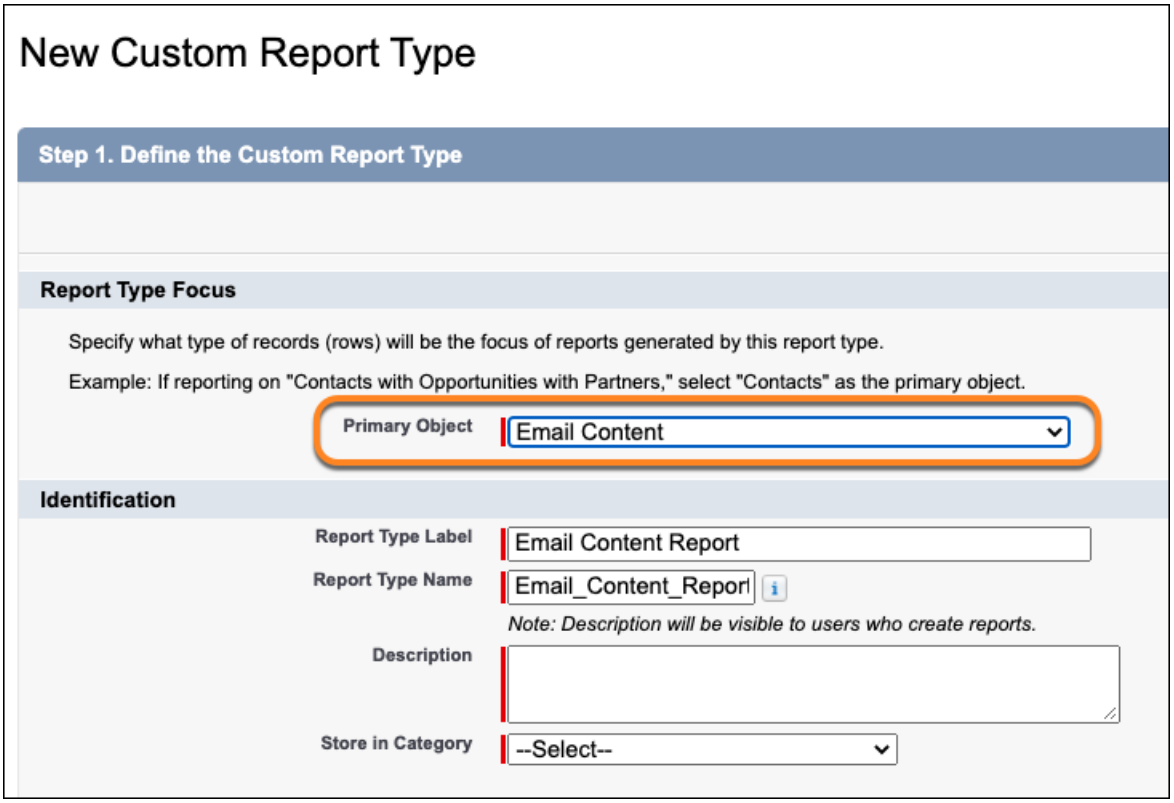


カスタムレポートを使用したメールコンテンツパフォーマンスの分析

カスタムレポートタイプの主オブジェクトとしてメールコンテンツを選択できるようになりました。また、リストメールオブジェクトを関連オブジェクトとして選択できます。そうすることで、マーケティング担当者はメールコンテンツのパフォーマンスとエンゲージメントを示すレポートを作成できます。たとえばレポートにメールコンテンツレコード別のエンゲージメント統計を表示することができます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

方法: [設定] の [レポートタイプ] ページで [メールコンテンツ] を主オブジェクトとして使用してカスタムレポートタイプを作成します。関連オブジェクトとしてリストメールを追加すると、メールコンテンツレコードから送信したメールを含むすべてのリストメールに関するより多くのレポートオプションを使用できます。



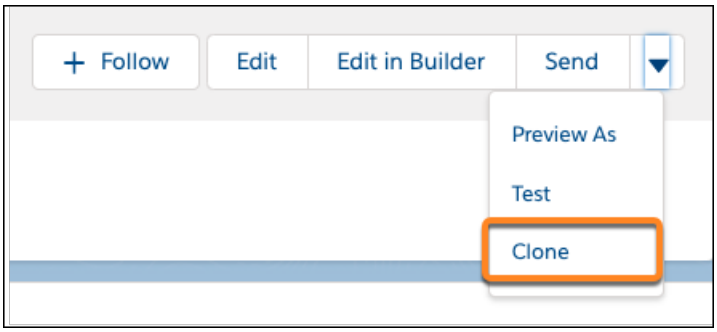
メールコンテンツレコードのコピーによる時間の節約

マーケティング担当者はメールコンテンツをコピーできるようになりました。メールの整合性を維持できる一方で、引き続きメールコンテンツをリストメールとして送信する前に微調整する柔軟性もあります。メールコンテンツ名、説明、テンプレート、HTML コンテンツがコピーされます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition を備えた Lightning Experience のすべての Pardot エディションに適用されます。Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: 「ドラッグアンドドロップコンテンツビルダーへのアクセス」および「メールコンテンツの管理」ユーザ権限を持つ Pardot マーケティング担当者がメールコンテンツレコードをコピーしてメール設計機能にアクセスできます。

方法: メールコンテンツレコードで [コピー] をクリックし、必要に応じてメール名、説明、テンプレートを変更してレコードを作成します。



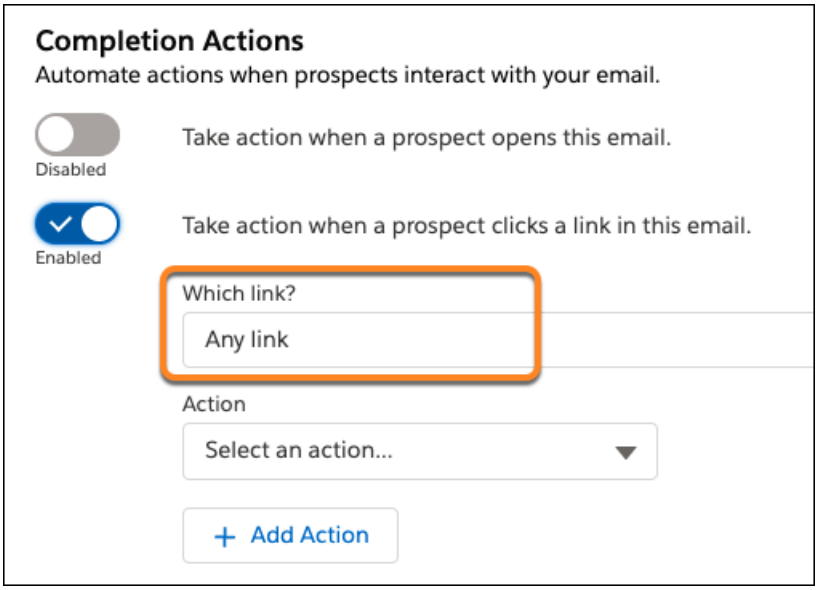
Pardot メールの完了アクションのリンクの指定

マーケティング担当者は、特定のリンクを設定してメールの完了アクションをトリガできるようになり、メールの送信をより詳細に制御できるようになりました。以前は、メール内で任意のリンクがクリックされたときに定義済みの自動アクションがトリガされていました。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition を備えた Lightning Experience のすべての Pardot エディションに適用されます。Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: 「メールコンテンツの管理」ユーザ権限を持つ Pardot ユーザがメールを送信できます。ユーザには「メール送信」、「リストメール送信」、「メール作成」、「キャンペーンの表示」、「セグメンテーションリストの表示」 Pardot 権限も必要です。

方法: リンククリック完了アクションを有効にし、使用するリンクとアクションを選択します。



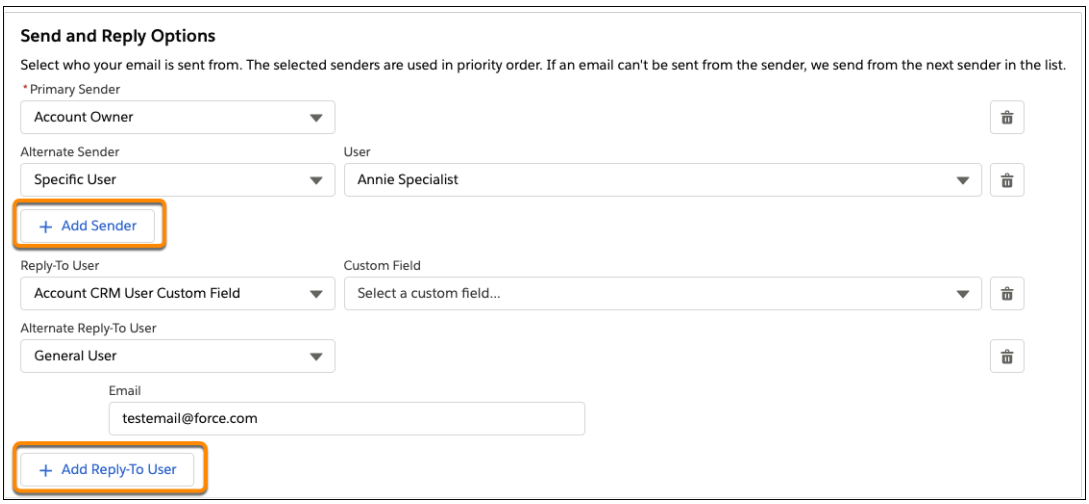
Pardot メールへの代替返信先と代替メール送信者の追加

マーケティング担当者はメール送信者と返信先の代替アドレスを指定することによって、メールのアドレス設定を管理し、合理化できます。従来の Pardot メールと同等の操作環境で、さまざまなプロスペクトに対するメールの表示方法をより詳細に制御できます。たとえば、送信者として [Account Assigned Owner (取引先に割り当てられた所有者)] を選択すると、プロスペクトの取引先所有者がメール送信者として表示されます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition を備えた Lightning Experience のすべての Pardot エディションに適用されます。Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: 「メールコンテンツの管理」ユーザ権限を持つ Pardot ユーザがメールを送信できます。ユーザには「メール送信」、「リストメール送信」、「メール作成」、「キャンペーンの表示」、「セグメンテーションリストの表示」 Pardot 権限も必要です。

方法: 最大 5 件の送信者と返信先ユーザを追加でき、それらは優先度順に使用されます。メールが最初の送信者から送信できなかった場合、リスト内の次の送信者から送信されます。オプションに必ず有効なメールが含まれるように、最後の代替オプションには [一般ユーザー] または [特定のユーザー] を選択します。



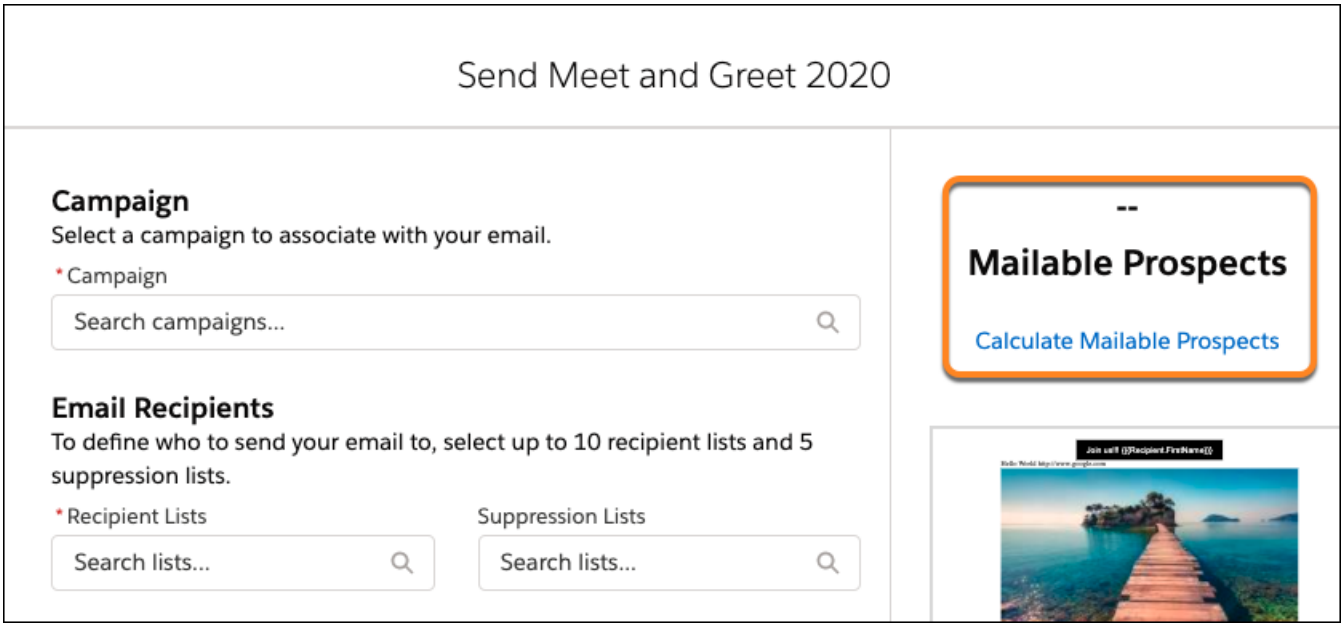
メール送信設定の定義時のメール可能なプロスペクト数の表示

マーケティング担当者は、選択した受信者と除外リストに基づいてメール送信先のプロスペクト数を確認できるようになりました。Pardot メールの送信モーダルに、そのメールのメール可能なプロスペクト数が表示されます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Performance Edition を備えた Lightning Experience のすべての Pardot エディションに適用されます。Pardot Classic またはスタンドアロンの Pardot アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: 「メールコンテンツの管理」ユーザ権限を持つ Pardot ユーザがメールを送信できます。ユーザには「メール送信」、「リストメール送信」、「メール作成」、「キャンペーンの表示」、「セグメンテーションリストの表示」 Pardot 権限も必要です。

方法: ウィンドウ右上の [Calculate Mailable Prospects (メール可能なプロスペクトを計算)] をクリックします。最初の計算の完了後、計算を更新できます。



分析とレポート

Pardot の指示的分析機能と予測分析機能によって、信頼できる総計値が提供され、柔軟性がこれまで以上に向上しました。

このセクションの内容:

Pardot オブジェクトの同期でのカスタム項目の同期 (ベータ)

Pardot オブジェクトの同期は引き続きベータですが、インフラストラクチャが強化されました。標準項目とカスタム項目を 1 つのプロスペクトデータセットとして使用でき、Tableau CRM に取得するカスタム項目を選択できるようになりました。このデータセットでは、いくつかの項目が削除または名前変更され、残りの項目に最新の値が取得されています。

リード ID による属性の信頼

データ駆動型モデルの結果にリード ID 項目が追加され、キャンペーンと商談の関連性が理解しやすくなりました。更新されたインサイトにより、見込み客、リード、および商談データで特定する仮想の商談取引先責任者ロールがより明確になります。[リード ID] 項目は標準レポートとカスタムレポート、および B2B Marketing Analytics 内のデータ駆動型モデルで使用できるようになりました。

データセットからのアーカイブされたプロスペクトの除外

Analytics Studio で使用するデータセットにアーカイブされたプロスペクトを含めるか除外するかを選択できるようになりました。Pardot アカウントレベルの設定は B2B Marketing Analytics と B2B Marketing Analytics Plus のすべてのアプリケーションに適用されます。

Analytics の設定に追加された Einstein 行動スコアリング

Einstein 行動スコアリングと B2B Marketing Analytics を一緒に使用するには、[Einstein 行動スコアリング] 設定ページからリンクをクリックするだけです。それによって Analytics Studio に移動し、そこでアプリケーションを作成して行動スコアリングダッシュボードを有効にすることができます。すでに B2B Marketing Analytics ダッシュボードを使用している場合には、必要に応じてアプリケーションを再設定して Einstein 行動スコアリングダッシュボードを含めることができます。

Pardot オブジェクトの同期でのカスタム項目の同期 (ベータ)

Pardot オブジェクトの同期は引き続きベータですが、インフラストラクチャが強化されました。標準項目とカスタム項目を 1 つのプロスペクトデータセットとして使用でき、Tableau CRM に取得するカスタム項目を選択できるようになりました。このデータセットでは、いくつかの項目が削除または名前変更され、残りの項目に最新の値が取得されています。

対象: この設定は Lightning Experience の B2B Marketing Analytics および B2B Marketing Analytics Plus に適用されます。

- B2B Marketing Analytics Plus は、Pardot Premium Edition が含まれる Salesforce Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。また、B2B Marketing Analytics Plus アドオンを備える Pardot Pro Edition または Advanced Edition でも使用できます。
- B2B Marketing Analytics は、Pardot Plus Edition、Advanced Edition、Premium Edition、および B2B Marketing Analytics アドオンを使用する Pardot Pro Edition および Ultimate Edition で使用できます。

メモ: ベータ機能である Pardot オブジェクト同期はプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Pardot オブジェクト同期についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

方法: Pardot オブジェクト同期 (ベータ) の変更を取得するには、次の 2 つのステップに従います。

- システム管理者が新しいデータセットを有効にし、カスタム項目を選択します。
- ユーザがアプリケーションを再構成し、クエリを修正します。

データセットを有効にするには、Salesforce の [設定] で [Pardot オブジェクトの同期 (ベータ)] を見つけて機能を有効にします。手順に従って [Pardot 設定] を開き、プロスペクトデータセットに含めるカスタム項目を選択します。Salesforce の [設定] に戻ってデータを同期します。

Winter '21 ベータリリースでは、すべてのカスタム項目がデフォルトで含まれていました。Spring '21 でカスタム項目の選択をサポートするため、項目はデフォルトで除外されています。以前のベータを有効にしていた場合、同期の選択ページにアクセスして項目を選択します。

データセットが更新された後に、ユーザに連絡してプロスペクトデータを使用する B2B Marketing Analytics または B2B Marketing Analytics Plus アプリケーションを再構成するように依頼します。デフォルトのダッシュボードは、新しい項目を使用するように自動的に更新されます。削除または名前変更された項目がカスタマイズで使用されている場合は、新しい項目を参照するようにユーザがクエリを編集する必要があります。

プロスペクトデータセット

次の表に、変更された項目の表示ラベル、および更新されたプロスペクトデータセットで新規または実装されていない項目を示します。

古い API 参照名	新しい API 参照名	古い表示ラベル	新しい表示ラベル
account_crm_id	なし	CRM Account ID (CRM 取引先 ID)	なし
account_name	ProspectAccount.AccountName	Account Name (取引先名)	Account Name (取引先名)
address_one	AddressOne	Address One (住所 1)	Address One (住所 1)
address_two	AddressTwo	Address Two (住所 2)	Address Two (住所 2)
annual_revenue	AnnualRevenue	Annual Revenue (年間収益)	Annual Revenue (年間収益)
assigned_date	FirstAssignedAt	Assigned Date (割り当て日)	Assigned Date (割り当て日)
assigned_user_first_name	なし	Assigned User First Name (割り当てられたユーザーの名)	なし
assigned_user_full_name	なし	Assigned User Full Name (割り当てられたユーザーの氏名)	なし
assigned_user_last_name	なし	Assigned User Last Name (割り当てられたユーザーの姓)	なし
campaign_id	CampaignId	Pardot Campaign ID (Pardot キャンペーン ID)	Pardot Campaign ID (Pardot キャンペーン ID)
city	City	City (都市)	City (都市)
comments	Comments (コメント)	Comments (コメント)	Comments (コメント)
company	Company	Company (会社)	Company (会社)
contact_crm_id	LeadOrContactCrmId	CRM Lead/Contact ID (CRM リード/取引先責任者 ID)	CRM Lead/Contact ID (CRM リード/取引先責任者 ID)
country	Country (国)	Country (国)	Country (国)
created_at_date	CreatedDate	Created At Date (作成日)	Created At Date (作成日)
created_by_first_name	なし	Created By First Name (作成者の名)	なし
created_by_full_name	なし	Created By Full Name (作成者の氏名)	なし
created_by_last_name	なし	Created By Last Name (作成者の姓)	なし

古い API 参照名	新しい API 参照名	古い表示ラベル	新しい表示ラベル
crm_contact_fid	ContactId	CRM Contact ID (CRM 取引先責任者 ID)	CRM Contact ID (CRM 取引先責任者 ID)
crm_last_activity_date	LastSync	CRM Last Activity Date (CRM 最終アクティビティ日)	CRM Last Activity Date (CRM 最終アクティビティ日)
crm_lead_fid	LeadId	CRM Lead ID (CRM リード ID)	CRM Lead ID (CRM リード ID)
crm_owner_fid	OwnerId	CRM Owner ID (CRM 所有者 ID)	CRM Owner ID (CRM 所有者 ID)
department	Department (部署)	Department (部署)	Department (部署)
email	Email	Email (メール)	Email (メール)
employees	Employees (従業員数)	Employees (従業員数)	Employees (従業員数)
fax	Fax	Fax	Fax
first_name	FirstName	First Name (名)	First Name (名)
first_visitor_date	Visitor.FirstVisitorDate	First Visit Date (最初の訪問日)	First Visit Date (最初の訪問日)
full_name	FullName	Full Name (氏名)	Full Name (氏名)
grade	Grade (グレード)	Pardot Grade (Pardot グレード)	Pardot Grade (Pardot グレード)
id	Id	id	Prospect ID (プロスペクト ID)
industry	Industry	Industry (業種)	Industry (業種)
is_archived	IsArchived	Is Archived (アーカイブ済み)	Is Archived (アーカイブ済み)
is_assigned	IsAssigned	Is Assigned (割り当て済み)	Is Assigned (割り当て済み)
is_do_not_call	IsDoNotCall	Is Do Not Call (電話送信除外)	Is Do Not Call (電話送信除外)
is_do_not_email	IsDoNotEmail	Is Do Not Email (メール送信除外)	Is Do Not Email (メール送信除外)
job_title	JobTitle	Job Title (役職)	Job Title (役職)
last_activity_date	LastActivityAt	Last Activity Date (最終活動日)	Last Activity Date (最終活動日)
last_name	LastName	Last Name (姓)	Last Name (姓)
most_recent_visitor_date	Visitor.MostRecentVisitorDate	Most Recent Visitor Date (最近のビジター日)	Most Recent Visitor Date (最近のビジター日)
mql_date	MqlDate	MQL Date (MQL 日)	MQL Date (MQL 日)
mql_velocity	MqlVelocity	MQL Velocity (MQL のベロシティ)	MQL Velocity (MQL のベロシティ)

古い API 参照名	新しい API 参照名	古い表示ラベル	新しい表示ラベル
新規項目	ExternalId	**新規項目**	Pardot Prospect ID (Pardot **プロスペクト** ID)
新規項目	IsReviewed	**新規項目**	Is Reviewed (**レビュー済み**)
新規項目	IsStarred	**新規項目**	Is Starred (**スター付き**)
opted_out	IsOptedOut	Opted Out (**オプトアウト済み**)	Opted Out (**オプトアウト済み**)
pardot_account_id	PardotAccountId	Pardot Account ID (Pardot **アカウント** ID)	Pardot Account ID (Pardot **アカウント** ID)
phone	Phone (**電話**)	Phone (**電話**)	Phone (**電話**)
prospect_velocity	ProspectVelocity	Prospect Velocity (**プロスペクトのベロシティ**)	Prospect Velocity (**プロスペクトのベロシティ**)
salutation	Salutation (**敬称**)	Salutation (**敬称**)	Salutation (**敬称**)
score	Score (**スコア**)	Pardot Score (Pardot **スコア**)	Pardot Score (Pardot **スコア**)
source	SourceName	Source (**参照元**)	Source (**参照元**)
source_campaign	SourceCampaign	Source Campaign (**参照元キャンペーン**)	Source Campaign (**参照元キャンペーン**)
stage	LifecycleStage.Stage	Stage (**フェーズ**)	Stage (**フェーズ**)
state	State (**都道府県**)	State (**都道府県**)	State (**都道府県**)
tags	Tags.TagName	Tags (**タグ**)	Tags (**タグ**)
territory	Territory (**テリトリー**)	Territory (**テリトリー**)	Territory (**テリトリー**)
updated_at_date	LastModifiedDate	Updated At Date (**更新日**)	Updated At Date (**更新日**)
updated_by_first_name	**なし**	Updated By First Name (**更新者の名**)	**なし**
updated_by_last_name	**なし**	Updated By Last Name (**更新者の姓**)	**なし**
visitor_id	Visitor.FirstVisitorId	Pardot Visitor ID (Pardot **ビジター** ID)	Pardot Visitor ID (Pardot **ビジター** ID)
website	Website (Web **サイト**)	Website (Web **サイト**)	Website (Web **サイト**)
years_in_business	YearsInBusiness	Years In Business (**操業年数**)	Years In Business (**操業年数**)
zip	Zip (**郵便番号**)	Zip (**郵便番号**)	Zip (**郵便番号**)

Prospect and Activity データセット

次の表は、更新されたプロスペクトとアクティビティデータセット内で変更されたAPI参照名を示しています。表示ラベルは変更されていません。重複していた4個の項目はプロスペクトとアクティビティデータセットから削除されました。

古い API 参照名	新しい API 参照名
ActorExternalID	N/A (**削除済み**)
ProspectIsArchived	N/A (**削除済み**)
ProspectJobTitle	N/A (**削除済み**)
Prospect.account_name	N/A (**削除済み**)
Prospect.address_one	Prospect.AddressOne
Prospect.address_two	Prospect.AddressTwo
Prospect.annual_revenue	Prospect.AnnualRevenue
Prospect.is_archived	Prospect.IsArchived
Prospect.city	Prospect.City
Prospect.comments	Prospect.Comments
Prospect.company	Prospect.Company
Prospect.country	Prospect.Country
Prospect.crm_contact_fid	Prospect.ContactId
Prospect.crm_lead_fid	Prospect.LeadId
Prospect.crm_owner_fid	Prospect.OwnerId
Prospect.department	Prospect.Department
Prospect.email	Prospect.Email
Prospect.employees	Prospect.Employees
Prospect.fax	Prospect.Fax
Prospect.first_name	Prospect.FirstName
Prospect.full_name	Prospect.FullName
Prospect.grade	Prospect.Grade
Prospect.industry	Prospect.Industry
Prospect.is_do_not_call	Prospect.IsDoNotCall
Prospect.is_do_not_email	Prospect.IsDoNotEmail
Prospect.job_title	Prospect.JobTitle

古い API 参照名	新しい API 参照名
Prospect.last_name	Prospect.LastName
Prospect.opted_out	Prospect.IsOptedOut
Prospect.phone	Prospect.Phone
Prospect.assigned_date	Prospect.FirstAssignedAt
Prospect.created_at_date	Prospect.CreatedDate
Prospect.crm_last_activity_date	Prospect.LastSync
Prospect.id	Prospect.ExternalId
Prospect.last_activity_date	Prospect.LastActivityAt
Prospect.updated_at_date	Prospect.LastModifiedDate
Prospect.salutation	Prospect.Salutation
Prospect.score	Prospect.Score
Prospect.source	Prospect.SourceName
Prospect.source_campaign	Prospect.SourceCampaign
Prospect.state	Prospect.State
Prospect.tags	Prospect.Tags.TagName
Prospect.territory	Prospect.Territory
Prospect.website	Prospect.Website
Prospect.years_in_business	Prospect.YearsInBusiness
Prospect.zip	Prospect.Zip

メモ: Winter '21 で B2BMktgProspect オブジェクトの [Score (スコア)] 項目をカスタムクエリに追加していた場合は、それをデータマネージャから削除してデータセットを再同期してください。

リード ID による属性の信頼

データ駆動型モデルの結果にリード ID 項目が追加され、キャンペーンと商談の関連性が理解しやすくなりました。更新されたインサイトにより、見込み客、リード、および商談データで特定する仮想の商談取引先責任者ロールがより明確になります。[リード ID] 項目は標準レポートとカスタムレポート、および B2B Marketing Analytics 内のデータ駆動型モデルで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition に適用されます。

データセットからのアーカイブされたプロスペクトの除外

Analytics Studio で使用するデータセットにアーカイブされたプロスペクトを含めるか除外するかを選択できるようになりました。Pardot アカウントレベルの設定は B2B Marketing Analytics と B2B Marketing Analytics Plus のすべてのアプリケーションに適用されます。

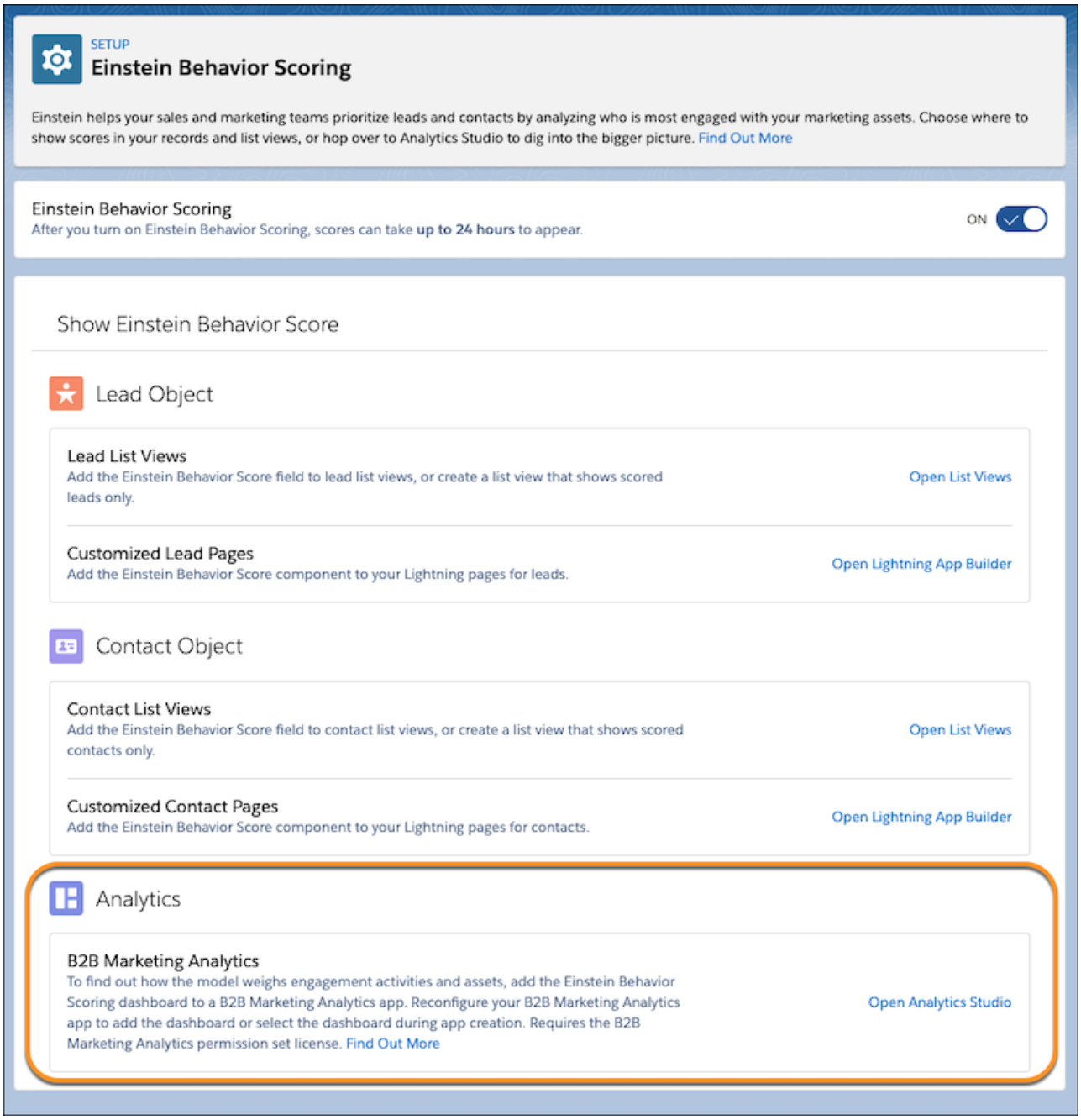
対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition、Pardot Premium Edition に含まれています。変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備える Pardot Pro Edition および Ultimate Edition にも影響します。

方法: デフォルトでは、アーカイブされたプロスペクトはデータセットに含まれます。[Pardot 設定] で設定を選択します。

Analytics の設定に追加された Einstein 行動スコアリング

Einstein 行動スコアリングと B2B Marketing Analytics を一緒に使用するには、[Einstein 行動スコアリング] 設定ページからリンクをクリックするだけです。それによって Analytics Studio に移動し、そこでアプリケーションを作成して行動スコアリングダッシュボードを有効にすることができます。すでに B2B Marketing Analytics ダッシュボードを使用している場合には、必要に応じてアプリケーションを再設定して Einstein 行動スコアリングダッシュボードを含めることができます。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition および Unlimited Edition の Pardot Advanced および Pardot Premium の Lightning Experience に適用されます。



ファーストパーティ追跡を使用したプロスペクトのアクティビティデータの保護 (正式リリース)

Pardot のファーストパーティ追跡が正式リリースされました。ファーストパーティ追跡を使用すると、プロスペクトのアクティビティデータを失うことなく、キャンペーン属性の柔軟性を高めて、ドメイン以外からのトラフィックをブロックできます。消費者のプライバシーを保護するため、Web ブラウザはアセットとドメインでのアクティビティを追跡するサードパーティの Cookie のサポートを終了しつつあります。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

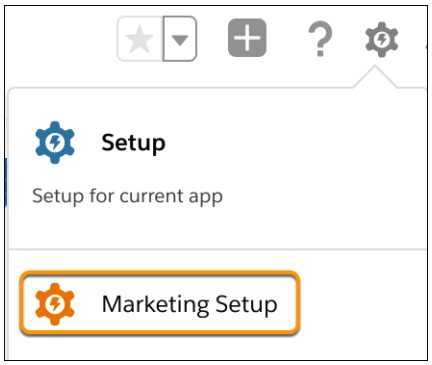
方法: [Pardot 設定] からファーストパーティ Cookie 追跡を有効にして、[ドメイン管理] でトラッカードメインを更新します。

新しい Salesforce マーケティング設定アプリケーションからの Pardot 設定アシスタントへのアクセス

Pardot のすべての標準設定作業をマーケティング設定アプリケーションで一元的に行うことができるようになりました。今後のリリースでは、その他の Salesforce マーケティングツールの設定や既存の Pardot 設定アシスタントの機能強化が予定されています。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: 任意の Salesforce ページから、 ⚙ をクリックして設定オプションを開き、[マーケティング設定] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Pardot 設定実装ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Pardot の [会社] 項目によって [Pardot アカウントの設定] の [ビジネスユニット名] が決定

混乱を避けるために、[Pardot 設定] の [会社名] 項目が Pardot ビジネスユニットの一元化された情報源として機能するようになりました。Salesforce の設定のビジネスユニット名との間で競合がある場合には Pardot の [会社名] 項目が Salesforce での名前を上書きします。以前は、ビジネスユニットが Salesforce と Pardot で名前が異なる場合がありました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

さまざまなビジネスユニットのリードまたは取引先責任者とのプロスペクトの安全な同期

Salesforce-Pardot コネクタの新しい設定を使用すると、Pardot パッケージの項目が Salesforce のリードレコードや取引先責任者レコードに同期されなくなります。この設定をカスタム設定の一部として使用して、さまざまな Pardot ビジネスユニットから Salesforce の 1 つのリードまたは取引先責任者に安全にプロスペクトを同期します。重複するリードまたは取引先責任者レコードを維持する必要はありません。パートナーと協力して、組織でこれを実装することをお勧めします。

対象: この変更は、複数のビジネスユニットを含む Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition に適用されます。

方法: Salesforce-Pardot コネクタの設定で、Pardot パッケージ項目の同期を停止するチェックボックスをオンにします。次に、マーケティングデータ共有ルールを再設定して、リードレコードと取引先責任者レコードが複数のビジネスユニットと同期するようにします。次に、リードまたは取引先責任者のマーケティング情報に使用するカスタムオブジェクトを作成し、Pardot エクスポート API を使用してさまざまなビジネスユニットからのプロスペクト項目の値を同期します。

Pardot API V5 の正式リリース

Pardot API の新しく標準化されたバージョンを使用できるようになりました。Pardot API のバージョン 5 には新しいエンドポイントが用意されているため、カスタムリダイレクトを管理し、独自の外部ランディングページテンプレートおよびファイルを Pardot にインポートできます。

対象: この変更は API にアクセスできる Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: Pardot のアカウント設定から Pardot API v5 エンドポイントへのアクセスを有効にします。

関連トピック:

開発者ドキュメント: Pardot API ドキュメント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Pardot API: 新規および変更された項目

これらの新機能および変更により、Pardot API をより効果的に使用できます。

プロスペクトオブジェクト

プロスペクト一括エクスポート用のいくつかの項目が追加および更新されました。

[オプトイン] 項目と [メール送信除外] 項目が編集可能になりました。

Pardot ユーザ認証の廃止

Pardot のユーザ認証システムは 2021 年 2 月 15 日に廃止されます。それ以降は、すべてのユーザが Salesforce シングルサインオン (SSO) を使用する必要があります。まだ実行していない場合は、Salesforce 組織を準備する手順を実行し、できるだけ早くすべての Pardot ユーザに対して SSO を有効にしてください。Sales Cloud や Service Cloud のフルライセンスを必要としない Pardot 限定ユーザがいるお客様をサポートするために、Salesforce 組織には 100 個の Identity ライセンスが追加費用なしでバンドルされるようになりました。これらのライセンスを使用して、残っている Pardot 限定ユーザを Salesforce SSO に移行できます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: 組織を準備し、すべての Pardot に対して SSO を有効にする手順の詳細は、『Pardot User Migration Admin Guide (Pardot ユーザ移行管理ガイド)』を参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Pardot User Migration Admin Guide (Pardot ユーザ移行管理ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マーケティング

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

関連トピック:

Marketing Cloud の概要

Marketing Cloud: 以前のリリースノート

Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

リリース更新

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリース更新] ノードで、Spring '21 の更新を見つけます。

[リリース更新]ページには、組織に影響する更新のリストがあります。各更新には、実行するステップごとのアクションが記載されています。円滑に移行するために、多くのリリース更新でテスト実行を使用できます。[ステップ完了期日]の日付の前に組織への影響を評価するため、必要に応じて何回でもテスト実行オプションを使用して更新を有効化および無効化できます。

適用済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新が適用されます。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、適用済み)

この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の更新を有効にしていない限り、この更新は表示されません。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、適用済み)

セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。この更新は、Spring '21 で適用されます。

カスタム項目の表示ラベルの HTML の表示の無効化 (更新、適用済み)

Salesforce 組織の保護を強化するために、この更新では、カスタム項目の表示ラベルの HTML 書式を許可する従来の動作が削除されます。この更新を有効化した場合、カスタム項目の表示ラベルの HTML タグはプレーンテキストとして表示されます。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、適用)

このリリース更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。この更新は、Winter '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。この更新は再び延期され、Spring '21 で適用されます。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、適用)

このリリース更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、延期されて Spring '21 で適用されます。

以前にリリース済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新を依然として利用できます。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式を採用します。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

[私のドメイン] のリリース (以前にリリース済みの更新)

最新の機能を使用してブラウザの要件に準拠するには、すべての Salesforce 組織に [私のドメイン] が必要です。それをリリースするか、会社名に基づいて割り当てます。[私のドメイン] はすべてのアプリケーション URL に影響するため、Winter '22 でこの更新が適用される前に、[私のドメイン] をテストしてリリースすることをお勧めします。このリリース更新は Winter '21 で最初に使用可能になりました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリース更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリース更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (以前にリリース済みの更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。このリリース更新は Summer '20 で最初に使用可能になりました。

同じコンテキストと同じユーザアクセス権で一時停止中のフローインタビューを再開する (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効化すると、一時停止中の自動起動フローが常に一時停止前と同じコンテキストと同じユーザアクセス権で再開されます。この更新は、Winter '22 で適用されます。

新たに発表された更新

次のリリース更新は、**Spring '21** で新たに発表されました。

Visualforce Remoting API の安全なコール (更新)

Visualforce Remoting API では、JavaScript を使用して Apex コントローラのメソッドを Visualforce ページから直接コールします。API を適切に保護するために、コールにより厳格な検証が追加されました。この更新は、Winter '22 で適用されます。

参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換 (更新)

この更新は、参照のみ標準プロファイルをカスタムプロファイルに変換します。更新が適用されると、ビジネスニーズに応じてこのプロファイルの権限を編集できます。

登録者組織へのログインで多要素認証を要求 (更新)

ライセンス管理組織 (LMO) にログインするときに多要素認証 (MFA) を要求することで、登録者組織へのアクセスを保護します。

フローおよびプロセスの CPU 時間消費の正確な測定 (更新)

この更新を有効化すると、Salesforce はすべてのフローおよびプロセスにより消費された CPU 時間を正確に測定し、記録し、制限できます。以前は、消費された CPU 時間が誤っていたり、トランザクション内の後で発生する他の自動化 (Apex トリガなど) に誤って結び付けられたりすることがありました。トランザクション単位の最大 CPU 時間消費の制限を超える原因となったパフォーマンスのボトルネックを適切に特定できるようになりました。また、CPU 時間が正確にカウントされるようになったため、要素、条件ノード、またはアクションが実行されてトランザクションが CPU 制限を超えると、フローおよびプロセスが失敗します。この制限を超える可能性が高いすべての複雑なフローとプロセスをテストすることをお勧めします。

画面フローの利用状況の分析 (更新)

この更新により、レポートを使用して画面フローに関する実行時の詳細を調べられるようになります。使用パターンを発見することで、ユーザ向けの画面フローを最適化できます。この更新は、画面フローの実行時総計値をまだ取得していない Salesforce 組織で使用できます。

延期された更新

次の更新が延期されました。

管理パッケージの global 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。このリリース更新は Apex setter の使用に影響しません。

Lightning コンポーネントの安全な静的リソースの有効化 (更新、延期)

このリリース更新は、お客様への影響を軽減するように実装を変更する間、無期限で延期されました。このリリース更新が現在の形式で適用されることはありません。有効化しないでください。

Experience Cloud ユーザ、パートナー、顧客のメールアドレス変更時に確認が必要 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このセキュリティ更新では、コミュニティのメールアドレスの変更を確認することが外部ユーザに要求されます。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

この重要な更新は、Summer '19 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Winter '21 に延期され、さらに Winter '22 に再び延期されました。このリリース更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が Spring '22 で適用されることがスケジュールされました。この更新により、フローまたはプロセスの実行ユーザに、そのフローまたはプロセスによって呼び出される Apex クラスへの明示的なアクセス権が不要になります。

プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認 (更新、延期)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。この更新は、Spring '19 でリリースされ、Spring '21 で適用される予定でしたが、Spring '22 に延期されます。2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織では、この更新は有効化されました。組織がこれに該当し、更新を無効化した場合、更新を Spring '22 で有効化する必要があります。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新が Spring '22 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

メール-to-ケース更新の適用を Winter '22 リリースまで延長

Winter '21 のメール-to-ケース更新の新しい適用期限により、システム管理者は Winter '22 リリースまでリリース更新機能を使用して変更を採用できます。

フロー差し込み項目でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

この更新により、Flow Builderが差し込み項目を使用して関連レコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で適用される予定でしたが、Spring '21 に延期され、さらに Summer '21 に再び延期されました。Spring '21 では、予定されていた適用に関する既知の問題のため、この更新のテスト実行オプションが有効になりました。更新がSummer '21 で適用されるまで、テスト実行を無効にすることができます。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '22 に延期されました。最初は Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。

廃止された更新

以前のリリースで発表された次の更新は廃止されました。これらは [リリース更新] ノードから削除されており、有効化されません。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、廃止)

この更新は廃止されました。URL からインスタンス名を削除するには、拡張ドメインを使用します。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、廃止)

この更新は廃止されました。Salesforce はすべての Salesforce 組織でこの更新を有効化しません。代わりに、システム管理者は [共有設定] ページのオプトイン設定を使用して、参照項目にレコード名を表示できるユーザをいつ制限するかを選択できます。

myTrailhead

会社の商品名を myTrailhead の [商品] リストに追加し、ユーザが探しているコンテンツを見つけやすいようにします。アプリケーション内 Trailhead 学習を利用して、Salesforce アプリケーションから離れることなく myTrailhead モジュールを受講します。

このセクションの内容:

myTrailhead の商品検索条件のカスタマイズ

myTrailhead の商品検索条件のカスタマイズ

商品検索条件は、myTrailheadユーザが最も関連性の高いコンテンツを見つけるのに役立ちます。たとえば、Sales Cloud と Service Cloud の検索条件を使用すると、それらの Salesforce 製品に関するモジュールやトレイルがユーザに表示されます。会社の商品名を使用して [商品] リストをカスタマイズすると、ユーザは必要なコンテンツに焦点を絞ることができます。また、不要になった検索条件は商品カテゴリから削除できます。

アプリケーション内 Trailhead 学習を使用した作業の流れの中での学習 (ベータ)

アプリケーション内Trailhead学習を使用すると、Salesforce組織から離れることなく、必要なスキルを必要なときに学習できます。システム管理者または指定トレーニング担当者は、関連する myTrailhead モジュールを学習パネルに追加することで、ユーザが作業しているコンテキストと学習コンテンツを一致させることができます。Trailblazer は Salesforce アプリケーション内で直接、コンテンツを読み、テストを受け、バッジを獲得できます。

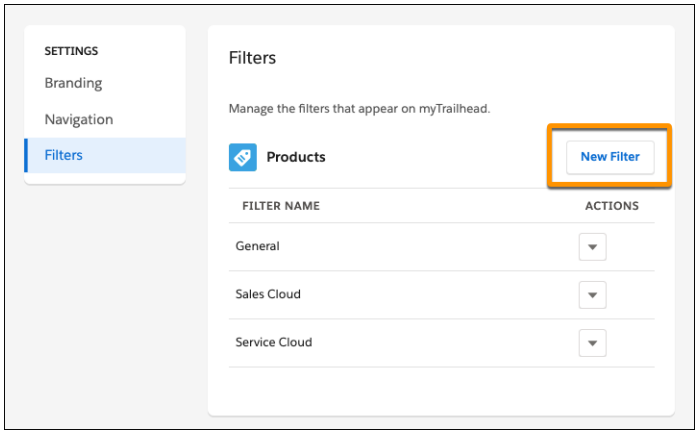
myTrailhead の商品検索条件のカスタマイズ

商品検索条件は、myTrailheadユーザが最も関連性の高いコンテンツを見つけるのに役立ちます。たとえば、Sales Cloud と Service Cloud の検索条件を使用すると、それらの Salesforce 製品に関するモジュールやトレイルがユーザに表示されます。会社の商品名を使用して[商品]リストをカスタマイズすると、ユーザは必要なコンテンツに焦点を絞ることができます。また、不要になった検索条件は商品カテゴリから削除できます。

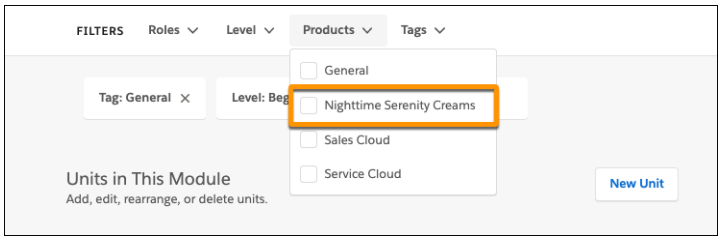
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限を持つすべてユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインできます。「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、Trailmaker 設定にアクセスして商品カテゴリの検索条件をカスタマイズできます。「myTrailhead コンテンツの作成」権限を持つユーザは、モジュールやトレイルに商品検索条件を割り当てたり削除することができます。「myTrailhead リリース管理」権限を持つユーザは、リリースを作成および公開できます。「myTrailhead コンテンツの作成」と「myTrailhead リリース管理」の両方の権限を持つユーザは、Trailmaker Content から Trailmaker Release にモジュールとトレイルをアップロードできます。

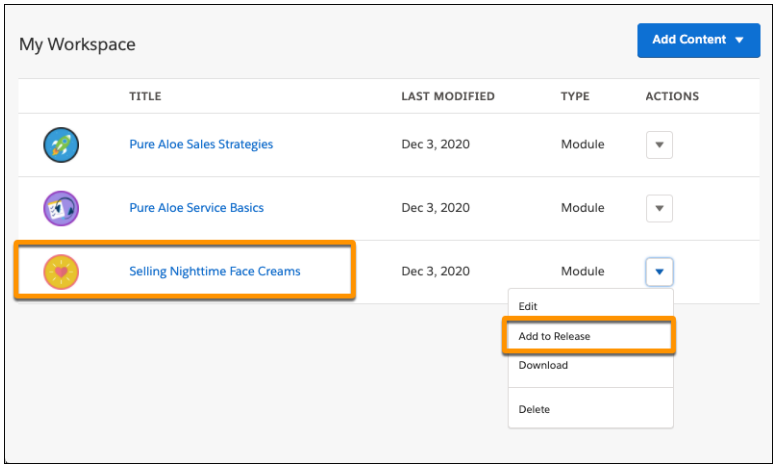
方法: myTrailhead の商品検索条件をカスタマイズするには、システム管理者、ライター、リリースマネージャといった複数のユーザの協力が必要です。新しい検索条件を使用できるようにするには、システム管理者が Trailmaker 設定の [検索条件] ページの [商品] リストに検索条件名を追加します。



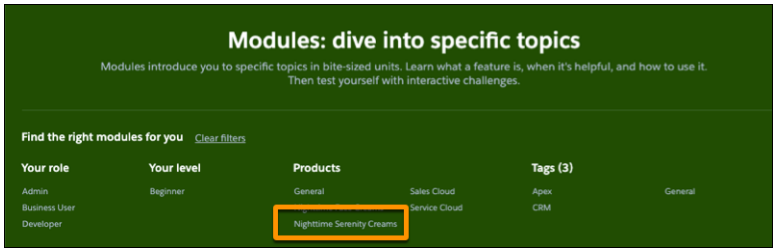
Trailmaker設定で検索条件を追加すると、Trailmaker Contentの[商品]リストにも検索条件が追加されます。次に、ライターが Trailmaker Content を使用して新しい検索条件をモジュールまたはトレイルに割り当てることができます。



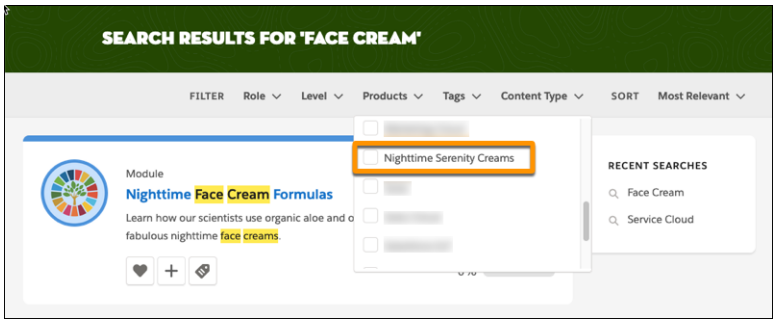
ライターまたはリリースマネージャが Trailmaker Content から Trailmaker Release にコンテンツをアップロードします。



リリースが公開されると、Trailblazer は商品検索条件でコンテンツを並び替えて、検索条件が割り当てられているすべてのモジュールまたはトレイルを見つけることができます。



また、商品検索条件を選択することによって myTrailhead の検索結果を絞り込むこともできます。



myTrailhead から検索条件を削除する場合にも、同様の連携を行います。

- ライターが Trailmaker Content を使用して、その検索条件が割り当てられているすべてのモジュールとトレイルから検索条件を削除します。
- ライターまたはリリースマネージャが Trailmaker Content から Trailmaker Release にモジュールとトレイルをアップロードします。
- リリースマネージャがリリースを公開します。検索条件は myTrailhead から削除され、Trailblazer はその検索条件によってコンテンツを並び替えることができなくなります。
- システム管理者は Trailmaker 設定の [商品] リストから検索条件を削除することができ、それによって Trailmaker Content の [商品] リストからも削除されます。ライターはモジュールやトレイルにその検索条件を割り当てられなくなります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 検索条件を管理する (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーション内 Trailhead 学習を使用した作業の流れの中での学習 (ベータ)

アプリケーション内 Trailhead 学習を使用すると、Salesforce 組織から離れることなく、必要なスキルを必要なときに学習できます。システム管理者または指定トレーニング担当者は、関連する myTrailhead モジュールを学習パネルに追加することで、ユーザが作業しているコンテキストと学習コンテンツを一致させることができます。Trailblazer は Salesforce アプリケーション内で直接、コンテンツを読み、テストを受け、バッジを獲得できます。

メモ: アプリケーション内 Trailhead 学習はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもこの機能を終了できるものとします。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象: この変更は、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: すべてのユーザには、グローバルヘッダーにある新しいアイコンとパネルが表示されます。myTrailhead ユーザには、パネルに myTrailhead コンテンツが表示されます。

「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、学習の目的を通じてユーザに学習を割り当てることができます。トレーニング担当者やセールスリードなどに学習を管理する権限を付与するには、「Manage Learning (学習の管理)」ユーザ権限を使用します。

理由: 会社で myTrailhead の認証プロバイダとして myTrailhead 向けの Salesforce Identity を使用している場合、Salesforce で myTrailhead のバッジを獲得できますが、公開 Trailhead のバッジは獲得できません。会社で Trailblazer.me を使用して myTrailhead にアクセスしている場合は、Salesforce アプリケーション内で myTrailhead のバッジと公開 Trailhead のバッジを獲得できます。

関連トピック:

- アプリケーション内への Trailhead 学習環境の取り込み (ベータ)

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。

コンテンツへのスポットライト

Trailhead モジュール、説明用の動画、新しいリソース (Industries 用のコミュニティユーザライセンス) が追加されました。

このセクションの内容:

- Trailhead で機能を探索

  楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

動画を見る (英語のみ)
ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

Industries 用のコミュニティユーザライセンスの概要
Industries用のコミュニティユーザライセンスという新しいリソースが作成されました。このリソースでは、Industries Cloud システム管理者が Experience Cloud ユーザと共有できるオブジェクトが詳しく説明されています。この情報を使用して、持っているライセンスに応じて Experience Cloud サイトの実装計画を立てることができます。

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新の追加モジュールは次のとおりです。

モジュール

Salesforce Private Connect for AWS (AWS の Salesforce 非公開接続)
AWS インテグレーションのセキュリティを強化する新しい方法を見つけます。

動画を見る (英語のみ)

ユーザがSalesforceの新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

- 新しい「Save Time Creating and Managing Dashboards with Reusable Dashboard Components (再利用可能なダッシュボードコンポーネントを使用したダッシュボードの作成および管理の時間の節約)」動画では、Tableau CRM でのダッシュボードの構築と管理をどのように合理化するかについて説明します。
- 新しい「How Multi-Factor Authentication Works to protect Account Access (多要素認証でアカウントアクセスを保護するしくみ)」動画では、MFA の概要、MFA のしくみ、MFA が Salesforce セキュリティ戦略の重要な要素となっている理由について説明します。
- 新しい「Welcome to Meeting Studio (Meeting Studio へようこそ)」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) では、Salesforce Meetings の一部である Meeting Studio を使用して次回のミーティング中に独自の視覚的環境を提供する方法について説明します。

Industries 用のコミュニティユーザライセンスの概要

Industries 用のコミュニティユーザライセンスという新しいリソースが作成されました。このリソースでは、Industries Cloud システム管理者が Experience Cloud ユーザと共有できるオブジェクトが詳しく説明されています。この情報を使用して、持っているライセンスに応じて Experience Cloud サイトの実装計画を立てることができます。

理由:各コミュニティライセンスでは、Experience Cloud ユーザに特定のデータオブジェクトに対する「作成」、「参照」、「更新」、または「削除」権限を付与することができます。新しいオブジェクトアクセステーブルを参照すれば、持っているライセンスでどのオブジェクトのどの権限を割り当てることができるかを一目で確認できます。「Communities User Licenses for Industries (Industries 用のコミュニティユーザライセンス)」を参照してください。

法的ドキュメント

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の法的ドキュメントが更新されました。

信頼とコンプライアンス

このリリースに関連する信頼とコンプライアンスのドキュメントへの変更の完全なリストについては、『Salesforce Trust & Compliance Documentation (信頼とコンプライアンスに関するドキュメント)』の「Change Log (変更ログ)」を参照してください。